

総 括 編

第1章 概 要

第1節 施設

第1 敷地及び建物

当がんセンターは、名古屋市千種区鹿子殿1番1号にあり、付近は住宅と公園からなる閑静な場所となっている。

敷地面積は49,788.56平方メートル、施設の建物面積は71,935.58平方メートルで、昭和63年度から平成7年度にかけて病院の全面改装工事を実施し、さらに平成9年度から着手した研究所の改装工事が平成14年1月に終了したことにより、一新した病院施設となっている。

1. 病院建物

病院建物は、病棟、特殊放射線・診療棟、国際医学交流センター・外来棟に区分され、この概要は次のとおりである。

病棟は、鉄骨鉄筋コンクリート造り地下1階地上9階建て、地階及び1階はサービス部門及び管理部門、2階及び3階は検査部門及び管理部門、4階から9階までは病室となっている。

特殊放射線・診療棟は、鉄骨鉄筋コンクリート造り地下1階地上5階建て、この建物は放射線診断・治療、手術及び臨床検査を主体とした部門で、地階、2階及び5階は放射線部門、4階は手術部門、3階は臨床検査部門、1階は中央滅菌材料部門となっている。

国際医学交流センター・外来棟は、鉄骨鉄筋コンクリート造り地下1階地上3階建て、1階は400人収容のメインホール、大会議室、視聴覚室の3つの会議室とロビーからなる国際医学交流センターで、地階は薬剤部門及びカルテ・フィルム庫、2

階及び3階は外来部門となっている。

また、これらの建物の接点にアトリウム（吹き抜け空間）を設けて、安らぎの空間及び明るさの取り入れになる等の他にアトリウム内を横断する通路を設け、各部門と有機的な連携を図っている。

2. 研究所建物

研究所は、研究所棟本館、研究所棟北館、生物工学総合実験棟の3棟から構成され、その概要は次のとおりである。

研究所棟本館は、平成14年に地下1階、地上6階の建物として竣工し、疫学・予防部、中央実験室、発がん制御研究部、腫瘍ウイルス学部、腫瘍免疫学部、分子病態学部、腫瘍病理学部、分子腫瘍学部、遺伝子医療研究部の各研究室の他に、実験動物施設、RI実験施設、細胞調製施設、臨床研究室などの共同利用施設が設置されている。

研究所北館は、昭和58年に地下1階、地上3階の旧診療管理棟として竣工し、平成14年に研究所棟北館として改修工事が行われた。所長室、副所長室、疫学・予防部、研究経費管理室、図書室およびセミナー室などが設置されている。

生物工学総合実験棟は、昭和63年に竣工し、地下1階、地上3階の建物で組み換えDNA実験施設、RI実験施設、実験動物施設、中央管理室などが設置されている。

土 地 ・ 建 物 一 覧

(単位：平方メートル)

区 分	摘 要	21年度末	22年度末	23年度末
土 地		49,788.56	49,788.56	49,788.56
建 物		71,935.58	71,935.58	71,935.58
鉄骨鉄筋コンクリート造		55,253.90	55,253.90	55,253.90
病 棟	地下1階、地上9階、塔屋2階 (H4.2.29 竣工)	28,662.79	28,662.79	28,662.79
特殊放射線・診療棟	地下1階、地上5階 (H3.12.20 竣工)	12,274.96	12,274.96	12,274.96
国際医学交流センター・外来棟	地下1階、地上3階 (H5.3.18 竣工)	7,203.43	7,203.43	7,203.43
研究所棟本館	地下1階、地上6階 (H14.1.11 竣工)	7,112.72	7,112.72	7,112.72
鉄筋コンクリート造		16,467.60	16,467.60	16,467.60
研究所棟北館	地下1階、地上3階、塔屋1階 (S58.11.22.竣工・H14年度改修)	3,244.43	3,244.43	3,244.43
生物工学総合実験棟	地下1階、地上3階、塔屋1階 (S63.8.31 竣工)	2,116.03	2,116.03	2,116.03
立体駐車場	2層建 (H7.6.30 竣工)	6,526.47	6,526.47	6,526.47

区 分	摘 要	21年度末	22年度末	23年度末
危 険 物 倉 庫	地上1階	52.20	52.20	52.20
看 護 師 宿 舎	地上4階、塔屋1階、2棟	3,352.33	3,352.33	3,352.33
職 員 公 舎	地上3階、2棟	712.56	712.56	712.56
車 庫 ・ 保 安 公 舎	地上3階	313.92	313.92	313.92
ご み 集 積 場 棟	地上1階	101.99	101.99	101.99
そ の 他 建 物	保管庫	47.67	47.67	47.67
コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク 造	自転車置場（看護師宿舎）	24.00	24.00	24.00
軽 量 鉄 骨 造		190.08	190.08	190.08
作 業 事 務 所	地上2階	129.60	129.60	129.60
そ の 他 建 物	物置（職員公舎）等	60.48	60.48	60.48

第2 医療情報トータルシステム（ACCTIS）

このシステムはACCTIS（Aichi Cancer Center Total Information System）と称し、患者サービスの向上ならびに医療業務の合理化・省力化、医療の質的向上、研究・教育の支援等をめざして導入された。

平成4年の病棟の全面改築にあたり、大型コンピュータによるオーダーリングシステム、医事会計システムを中心とした電算システムの導入が計画され、病棟、外来棟の完成に合わせ順次導入された。

平成14年度の機器更新では、今までの大型コンピュータを核としたホスト/パソコン連携方式から、各部門が独自にシステムを持った分散型コンピュータシステムであるクライアント/サーバ方式に変更し、平成22年2月の機器更新を経て現在まで

稼働している。

クライアント/サーバ方式に変更後は、オーダーリングシステムと医事会計部門等の部門別システム（17システム）から構成されている。

オーダーリングシステムは、診療現場で発生する情報を診療現場で捉え、必要とする部門に伝達する。

また、各部門別システムは、送られてきた情報をそれぞれの部門で蓄積、加工、利用すると同時に要求される情報（検査結果等）を他部門に伝達する。

また、蓄積したデータ（診療情報データベース）は、患者の診療及び臨床研究に利用する。

主 な 機 器 構 成

（平成23年度末現在）

システム名	サーバ機種	台数	クライアント機種	延べ台数
オーダーリングシステム（本系）	RX300	1	D5280	281
〃（中間）	RX300	1	E8280	125
〃（テスト系）	RX100	1		
医事システム（本系）	RX300	1	D5280	43
〃（プリンタサーバー）	RX100	2	E8280	1
物流システム	RX300	1	D5280	281
			E8280	125
検体検査システム（オーダ）	TX300	1	D5280	29
〃（分析器）	RX200	1		
〃（連携）	RX200	1		
放射線システム	RX300	1	D5280	30
〃（連携）	RX300	1	E8280	11
病理システム	TX300	1	E8280	5
院内がん登録システム	TX200 S3	1	D5280	6
			E8280	2
給食システム	RX300	1	D5280	3
看護勤務管理システム	RX300	1	D5280	16
経営支援システム	TX300	1	D5280	3
			E8280	2
診療支援システム（データベース）	RX300	1	D5280	281
〃（WEB系）	RX200	1	E8280	125
手術システム	TX200	1	D5280	7
			E8280	9
人事給与/服薬指導システム	RX300	1	D5280	5
病歴管理システム	RX300	1	D5280	64
			E8280	16
病診連携システム	RX300	1	D5280	1
表示システム（本系）	RX100	1	D5280	45
〃（テスト系）	RX100	1	E8280	7
EFSシステム	TX200	1		
POSレジシステム	TX150	1		
			再来受付機	3
			POSレジ	2
			自動精算機	2
			オートエンボッサ	1
	合 計	27	合計 延べ台数 （実台数）	1016 (406)

第3 病床数

病床数500のうち、一般病床は、1床室33、2床室2、4床室86、合計381床で、各病床はそれぞれカーテンで区切ることができる。

また、4、5、6、7、8、9階に特別病床（個室）92床を設け、この利用者からは室料差額を徴収している。このほかに特殊病床27床がある。

科 別 病 床

(平成23年度末現在)

西 病 棟				階	東 病 棟			
特別病床（混合）	25床	1床室	25室	9 階	特別病床（混合）	25床	1床室	25室
A室	5				A室	5		
B室	2				B室	2		
C室	18				C室	18		
一般病床	47床	1床室	6室	8 階	特別病床（混合）	30床	1床室	30室
泌尿器科		4床室	11室		B室	2		
放射線診断科					C室	28		
放射線治療科								
特別病床	3床							
D室	3							
一般病床	49床	1床室	6室	7 階	一般病床	49床	1床室	6室
消化器内科		4床室	11室		消化器内科		4床室	11室
消化器外科					消化器外科			
特別病床	1床				特別病床	1床		
D室	1			D室	1			
一般病床	48床	1床室	5室	6 階	一般病床	48床	1床室	6室
血液・細胞療法科		4床室	11室		呼吸器内科		4床室	11室
薬物療法科					整形外科			
特殊病床	1床				特殊病床	1床		
バイオクリン	1			感染	1			
				D室	1			
一般病床	48床	1床室	6室	5 階	一般病床	45床	1床室	10室
婦人科		4床室	11室		頭頸部外科		2床室	2室
乳腺科					放射線治療科		4床室	9室
放射線治療科					特殊病床	4床		
特別病床	2床			小線源	4			
D室	2			特別病床	1床			
				D室	1			
一般病床	47床	1床室	6室	4 階	特殊病床	21床	1床室	17室
呼吸器外科		4床室	11室		ICU	4	4床室	1室
呼吸器内科					HCU	15		
薬物療法科					人工透析	1		
特別病床	3床			セミクリーン	1			
D室	3							
合 計		特別病床	92床					
		一般病床	381床					
		特殊病床	27床					
		計	500床					
		1床室	148室					
		2床室	2室					
		4床室	87室					
		計	237室					

第4 備品・設備

平成23年度末における備品総額は、9,253,478,155円で、その主なものは次表のとおりである。

なお、平成23年度には、医療用リニアック、放射線治療情報システム、自動化学分析装置などを整備した。

主な備品・設備一覧 (1,000万円以上)

(平成23年度末現在)

品名	型式	数量	備考	
(病院関係)				
遠隔操作式腔内治療装置	ニュークレトン	マイクロセレクトロンHDRシステム	1	放射線治療
核磁気共鳴断層撮影装置	GEメディカルシステム	Signa HDxt 3.0T	1	放射線治療
放射線治療管理装置	日本電気	ACCROS	1	放射線治療
小線源ニードルクリーンユニット	千代田テクノ	TH - 1400TM - 2	1	放射線治療
線源確認写真撮影装置	島津製作所	CH - 50(特)	1	放射線治療
医療用リニアック	エレクタ	synergy	1	放射線治療
放射線治療情報システム	エレクタ	MOSAIQ 01S	1	放射線治療
医療用リニアック	バリアンメディカルシステムズ	CLINAC - 21EX	1	放射線治療
前立腺がん密封小線源治療支援システム	バリアンメディカルシステムズ	VariSeed	1	放射線治療
医療用リニアックセラレータ	トモセラピー	H i - ARTシステム	1	放射線治療
放射線治療位置決め装置	東芝メディカルシステムズ	LX - 40A	1	放射線治療
小線源確認写真撮影装置	島津製作所	C vision PLUS	1	放射線治療
診断用X線装置	東芝メディカルシステムズ	KXO85	1	放射線診断
乳房X線撮影装置	GEメディカルシステム	セノグラフ2000D	1	放射線診断
超音波診断装置	日立メディコ	EUB - 8500(e - com)	1	放射線診断
X線TV装置	東芝メディカルシステムズ	DBW - 220Aガタ	1	放射線診断
FPD搭載CアームX線テレビシステム	東芝メディカルシステム	ULTIMAX-I	1	放射線診断
全身用X線コンピューター断層撮影装置	東芝メディカルシステムズ	Aquilion Multi	1	放射線診断
乳房X線撮影装置	GEメディカルシステム	セノグラフDMR	1	放射線診断
フィルム保管棚	文祥堂	BSDエレコンパック	1	放射線診断
デジタル画像処理装置	東芝メディカルシステムズ	DFP-2000A/AS	1	放射線診断
IVRアンギオシステム	東芝メディカルシステムズ	CAS-8000V	1	放射線診断
ガンマカメラ	GE横河メディカル	MillenniumVG	1	放射線診断
デジタル超音波診断装置	東芝メディカル	APLI0	1	放射線診断
全身用X線コンピューター断層撮影装置	東芝メディカルシステムズ	Aquilion32	1	放射線診断
血管造影検査治療システム	東芝メディカルシステムズ	AquilionLB/INFX-8000C	1	放射線診断
乳房組織診断装置	日立メディコ	マルチケアブラチナ	1	放射線診断
放射線モニタリングシステム	アロカ	MSR-500	1	放射線診断
多方向X線撮影装置	島津製作所	VS-20	1	放射線診断
超高速再構成演算装置	東芝メディカルシステム	CT透視モード	1	放射線診断
モニター読影入力システム	富士フィルムメディカル(株)	放射線読影レポートシステム F-Report	1	放射線診断
据置型デジタル式汎用X線撮影装置	富士フィルムメディカル(株)	FUJIFILM DR BENE0	1	放射線診断
据置型デジタル式汎用X線透視診断装置	(株)日立メディコ	CUREVISTA	1	放射線診断
診断用X線撮影装置	富士メディカルシステムズ	KXO-80F	1	放射線診断
自動化学分析装置	日立ハイテクノロジーズ	Labospect008	1	臨床検査
プレパラート保存用移動棚	イトーキ	EMAガタイドウダナ	1	臨床検査
臓器保存用移動棚	イトーキ	RPGガタイドウダナ	1	臨床検査
自動細菌検査装置	日本ビオメリュー	ATBソシステム	1	臨床検査
自動細胞解析分離装置	日本ベクトン・ディッキンソン	FACS Calibur	1	臨床検査
マイクロダイセクションシステム	カールツァイス	PALM	1	臨床検査
遺伝子解析装置	アプライドバイオシステムズジャパン	7900HT- II	1	臨床検査
血液成分分離装置	フレゼニウス	AS. TEC204	1	臨床検査
バーチャル顕微鏡システム	日本Aperio	バーチャルスコープシステム	1	臨床検査

品名	型	式	数量	備考
超音波メス	バリーラブ	CUSA Excel	1	手術
内視鏡下外科手術セット	スミス・アンド・ネフュー	特型	1	手術
集中患者監視システム	日本コーリン	CBM-3000CN特型	1	手術
手術用顕微鏡	カールツァイス	OPMI-NEURO	1	手術
手術用顕微鏡	カールツァイスメディック	OPMI Pentero	1	手術
プラズマ滅菌器	ジョンソンアンドジョンソン	ステラッド100 シングルドア	1	手術
消化器及び呼吸器用X線TV	東芝メディカルシステムズ	DBW - 220A, PDS-5	1	診療
アルゴンダイレーザー光凝固装置	エースクラップメディテック	MDS10	1	診療
酸化エチレンガス滅菌装置	サクラ精機	Σ II ER-B09W	1	診療
酸化エチレンガス滅菌装置	サクラ精機	Σ II ER-009W	1	診療
プラズマ滅菌器	ジョンソン・エンド・ジョンソン	ステラッド200X	1	診療
純水製造装置	サクラ精機	SM-6RO	1	診療
高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機	Σ II R-G12W	2	診療
高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機	Σ III R-G12W	3	診療
高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機	Σ III R-B09W	1	診療
自動カート洗浄装置	サクラ精機	CWR-2500W	1	診療
全自動ホルマリン殺菌装置	ドレーゲル	アゼプター8800ダイ1ドア	1	診療
ビデオシステム	ソニー	特型	1	診療
クラス100滅菌病室設備	東洋熱工業	LI-30	1	診療
クラス100滅菌病室設備システム	東洋熱工業	MIU-201	1	診療
オートスパイロメーター	ミナト医科学	システム9特型	1	診療
心電図自動解析装置	フクダ電子	FCP-800	1	診療
生体情報モニタリングシステム	フィリップスエレクトロニクスジャパン	MP50	1	診療
全自動錠剤分包機	トーショー	M-TOPRA-168-PC	1	診療
ラックンMGSシステム	三田理化学工業	RDPA50F200-B100H	1	診療
薬剤保管引出用自動棚	セントラルユニ	VF-AAD	1	診療
レーザーメス装置	エスエルティジャパン	CL-50	1	診療
薬袋印字システム	トーショー	TYS-4BX2特型	1	診療
超音波内視鏡ビデオシステム	オリンパス光学工業	EU-M30	1	診療
超音波洗浄装置	フーメッド	ハイブリッド・ダブルドア	1	診療
純水製造装置	日本ウォーターシステム	MC-4000C	1	診療
内視鏡ビデオシステム	オリンパス光学工業	EVIS-240	1	診療
自動輸血検査システム	ダイアグノスティック	Auto Vue System	1	診療
医局システム机	イトーキ	特型	1	診療
内視鏡業務支援システム	オリンパス	Solemio ENDO Ver.3	1	診療
超音波診断装置(乳腺科)	ジーイー横河メディカルシステム	Voluson 730 Expert	1	診療
超音波内視鏡ビデオシステム	アロカ	SSD-ALPHA10	1	診療
コンピュータ型ナースコールシステム	(株)ケアコム	NICSS	1	診療
カルテ保管庫	日本ファイリング	カルテ管理システム	1	管理
エコラインシステム	ホバート	F5-1244UC	1	管理
エレコンバック電動式移動棚	文祥堂	A4-5特型	1	管理
電話交換機	日立製作所	CX-90000-M1	1	管理
放射線管理総合システム	アロカ	MSR - 3000	1	管理
(研究所関係)				
大会議室映像・光学・同時通訳システム	日本電気	特型	1	
視聴覚室・光学システム	日本電気	特型	1	
がん診療ネットワークシステム	インテック	特型	1	
超遠心機	日立工機	70P-72	2	
DNAシーケンサ	アプライドバイオシステムズジャパン	PRISM3100	1	
イメージングアナライザ	富士写真フィルム	BAS-2500Mac	1	
フローサイトメーター	日本ベクトン・ディッキンソン	FACS Calibur HG	1	
次世代シーケンサー	イルミナ	Miseq AG-WS-j-00	1	

品名	型式	数量	備考
蛍光顕微鏡イメージングシステム	ライカマイクロシステムズ AF7000	1	
レーザー蛍光顕微鏡	オリンパス光学工業 GB200X-SP	1	
高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機 FLC-009W	1	
高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機 FRC-Y15A	1	
動物排水処理システム	壽化工機 SB10500	1	
中央実験台等	イトーキ 特型	1	
動物飼育設備	ダイダン 特型	1	
蛍光イメージアナライザ	アマシヤム・ファルマシア Fluorimager595	1	
細胞調整システム	日本エアテック プレハブ式特型	1	
X線照射調整システム	日立メディコ MBR-1520R3	1	
フローサイトメーター	日本ベクトン・ディッキンソン FACS Calibur HG 4カラー	1	
生体分子間相互作用解析装置	ピアコア Biacore X システム	1	
共焦点レーザー顕微鏡	カールツァイス LSM510MATE-ACC	1	
X線照射装置	日立メディコ 日立メディコ・MBR-1520R3	1	
高速遺伝子多型解析装置	アプライドバイオシステムズジャパン 3130X1-230 ジェネティックアナライザ	1	
質量分析システム	(株)エービー・サイエックス 4800 Plus MALDI TOF/TOF Analyzer	1	
In Vivoイメージング装置	Xenogen社 IVIS Lumina II	1	

主 な 附 属 設 備

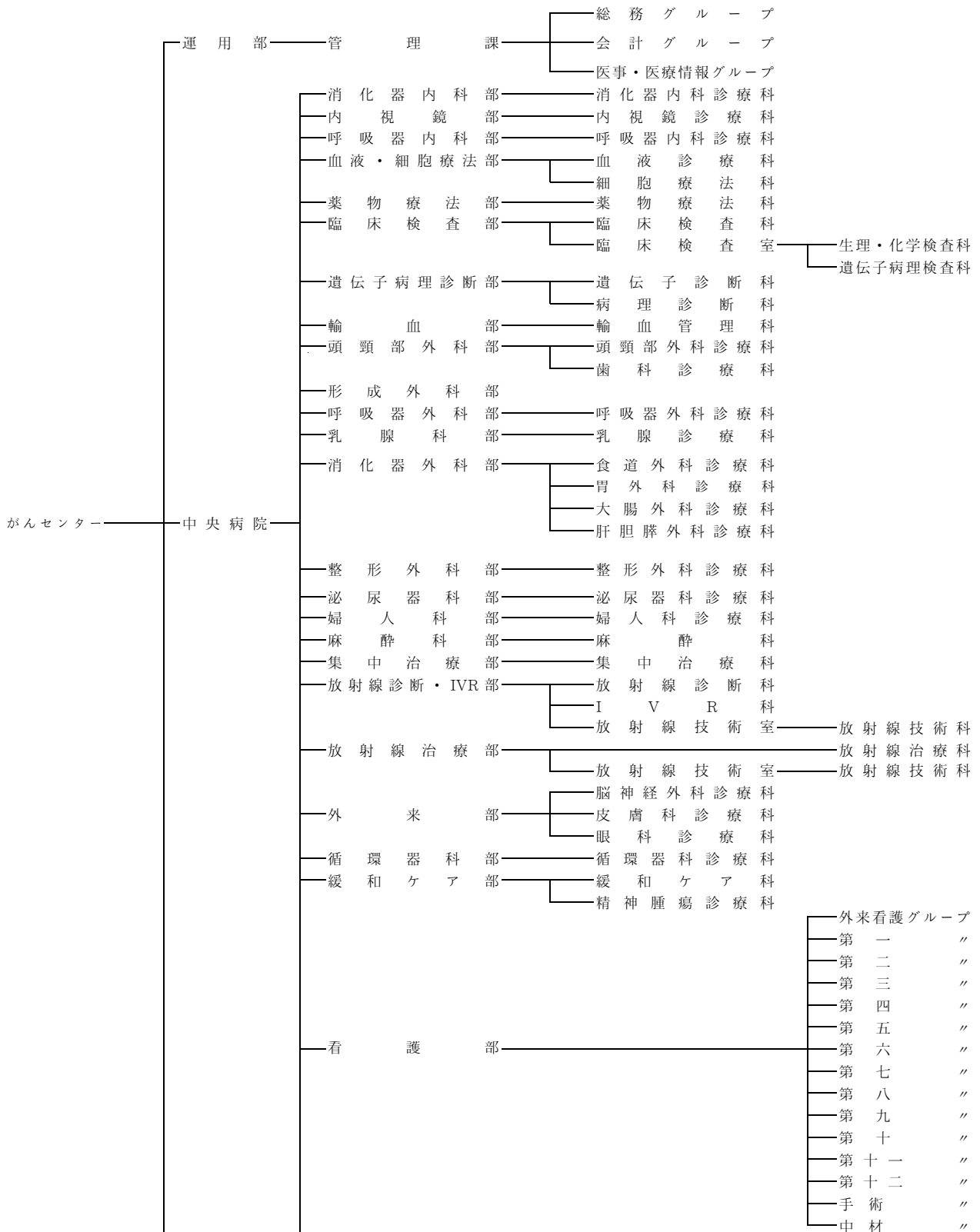
(平成23年度末現在)

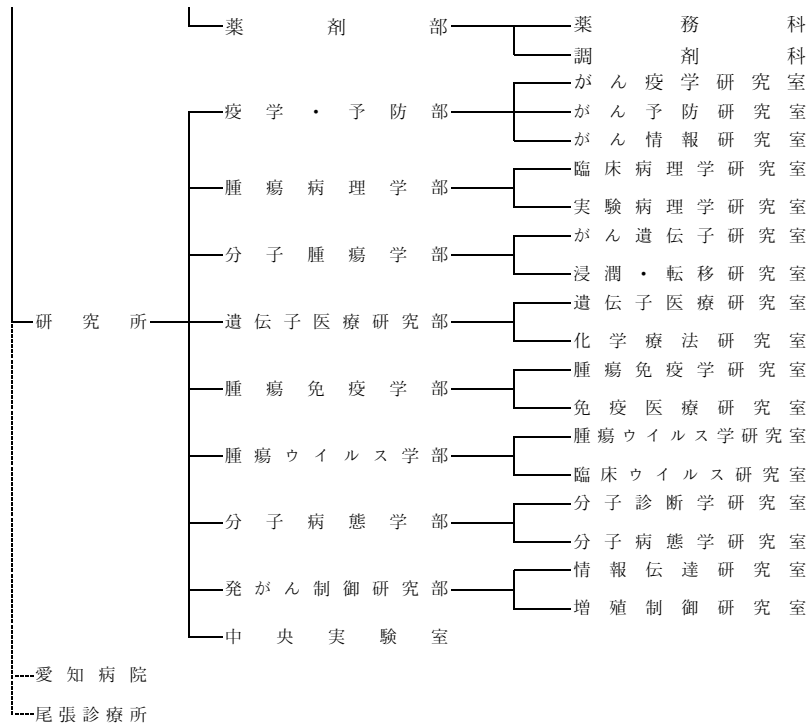
設備名	設備機械	数量	備考
空 気 換 気 設 備	タ ー ボ 冷 凍 機	2	450冷凍トン
	〃	1	高効率450冷凍トン
	二 重 効 用 吸 収 式 冷 凍 機	1	450冷凍トン
	ヒ ー ト ポ ン プ チ ラ ー	4	355冷凍トン
	パ ッ ケ ー ジ	16	
	ガ ス 焚 吸 収 式 冷 温 水 発 生 機	2	60冷凍トン
	直 焚 式 冷 温 水 発 生 機	3	200冷凍トン
	冷 却 塔	10	
	炉 筒 煙 管 ボ イ ラ ー	2	6,000kg/h
	小 型 貫 流 ボ イ ラ ー	3	2,000kg/h
	空 気 調 和 機	115	
	給 排 風 機	203	
	医 療 ガ ス 設 備	液 体 酸 素 貯 蔵 タ ン ク	1
真 空 ポ ン プ (吸 引 用)		4	3.7KW
液 体 窒 素 貯 蔵 タ ン ク		1	
純 生 空 気 用 混 合 器		1	
電 気 設 備	特 高 変 電 室	1	受電用変圧器 2台
	変 電 室	6	変圧器 47台
	発 電 機	1	ガスタービン 6.6KV 2000KVA
	〃	1	コージェネレーションガスエンジン 6.6KV 610KW
	〃	1	ディーゼル 220V 305KVA
	〃	1	ガスタービン 220V 500KVA
	発 電 シ ス テ ム 装 置	1	小水力 9KW
	電 話 交 換 機	1	内線 2,000回線
	昇 降 機	20	エレベーター18台、 エスカレーター2台
井 戸 設 備	地 下 水 膜 ろ 過 装 置	1	348トン/日

第2節 組織

第1 組織

運用部、病院及び研究所の3部門からなり、平成23年度における組織は次のとおりである。





第2 人事

平成23年度における主な役職名は次のとおりである。

主な役職者一覽

(平成24年3月31日現在)

役職名	氏名	備考	役職名	氏名	備考
総長	二村 雄次	(事務取扱)病院事業庁長	整形外科部長	杉浦 英志	麻酔科部長(兼)
(運用部)			泌尿器科部長	林 宣男	
運用部長	近藤 則和		婦人科部長	中西 透	
管理課長	石黒 孝康		麻酔科部長	細田 蓮子	
(病院)			集中治療部長	波戸岡 俊三	
院長	篠田 雅幸		放射線診断・IVR部長	稲葉 吉隆	
副院長	光富 徹哉		放射線治療部長	古平 毅	
〃	丹羽 康正		外来部長	堀尾 芳嗣	
消化器内科部長	山雄 健次		循環器科部長	波多野 潔	
内視鏡部長	丹羽 康正	副院長(兼)	緩和ケア部長	細田 蓮子	
呼吸器内科部長	樋田 豊明		看護部長	高木 仁美	
血液・細胞療法部長	木下 朝博		薬劑部長	加藤 恵一	
薬物療法部長	室 圭		(研究所)		
臨床検査部長	谷田部 恭	遺伝子病理診断部長(兼)	研究所長	田島 和雄	
遺伝子病理診断部長	谷田部 恭		副所長	瀬戸 加大	
輸血部長	木下 朝博	血液・細胞療法部長(兼)	疫学・予防部長	田中英夫	
頭頸部外科部長	長谷川 泰久		腫瘍病理学部長	近藤 英作	
呼吸器外科部長	光富 徹哉	副院長(兼)	分子腫瘍学部長	関戸 好孝	
乳腺科部長	岩田 広治		遺伝子医療研究部長	瀬戸 加大	
消化器外科部長	清水 泰博		腫瘍免疫学部長	葛島 清隆	
			腫瘍ウイルス学部長	鶴見 達也	
			分子病態学部長	青木 正博	
			発がん制御研究部長	稲垣 昌樹	

職員の年度別定員数及び現員数の変遷は次のとおりである。

職 種 別 職 員 定 員 数

職種	部門 年度	総数				運用部				病院				研究所			
		21	22		23	21	22		23	21	22		23	21	22		23
			4月	10月			4月	10月			4月	10月			4月	10月	
総 数		643	645	661	666	50	48	51	51	542	546	559	564	51	51	51	51
事 務		26	26	26	26	26	26	26	26	—	—	—	—	—	—	—	—
M S W		1	1	1	1	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
医 師		100	100	111	113	1	1	1	1	69	69	80	82	30	30	30	30
研 究 員		12	12	12	12	—	—	—	—	—	—	—	—	12	12	12	12
診 療 放 射 線 技 師		22	22	23	23	—	—	—	—	22	22	23	23	—	—	—	—
薬 剤 師		14	17	17	20	—	—	—	—	14	17	17	20	—	—	—	—
検 査 技 師		29	29	29	29	—	—	—	—	29	29	29	29	—	—	—	—
臨 床 工 学 技 士		—	1	1	1	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—
理 学 療 法 士		2	2	2	2	—	—	—	—	2	2	2	2	—	—	—	—
看 護 師		397	399	400	400	—	—	—	—	397	399	400	400	—	—	—	—
看 護 助 手		9	7	7	7	—	—	—	—	9	7	7	7	—	—	—	—
給 食 関 係 職 員		19	19	22	22	19	19	22	22	—	—	—	—	—	—	—	—
病 歴 士		1	1	1	1	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
保 安 関 係 職 員		2	0	0	0	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
研 究 助 手		9	9	9	9	—	—	—	—	—	—	—	—	9	9	9	9

※平成22年度については、9月30日付循環器呼吸器病センター廃止に伴い10月1日付定数増員があったもの

職 員 現 員 数

(各年度3月31日現在)

区 分	21 年 度	22 年 度	23 年 度
総 数	610	641	644
指 定 職	0	0	0
行 政 職 (一)	52	56	57
医 療 職 (一)	74	76	80
医 療 職 (二)	69	77	79
医 療 職 (三)	371	388	387
研 究 職	44	44	41

第2章 管理業務

第1節 会計業務

第1 決算の概況

平成23年度の事業収益は164億2,989万円で、前年度（161億8,406万円）に比べ2億4,583万円（1.5%）増加し、事業費用は154億2,022万円で、前年度（151億1,435万円）に比べ、3億587万円（2.0%）増加となっている。

平成23年度は、10億966万円の利益が発生したが、前年度の

純利益（10億6,970万円）に比べ、6,004万円（5.6%）の減少となっている。

平成23年度末現在の累積欠損金は76億9,847万円で、前年度末（87億813万円）に比べ、11.6%の減少となっている。

損益計算書

科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
	金 額	金 額	金 額	前年度比	対前年度増減額
	円	円	円	%	円
事業収益	14,899,594,521	16,184,062,188	16,429,887,319	101.5	245,825,131
医業収益	13,422,350,973	14,062,271,332	14,251,277,724	101.3	189,006,392
うち一般会計負担金	1,230,942,000	1,255,359,000	1,301,742,000	103.7	46,383,000
医業外収益	1,477,243,548	1,926,914,046	2,087,641,543	108.3	160,727,497
うち一般会計負担金	1,291,682,000	1,445,707,000	1,459,522,000	101.0	13,815,000
一般会計補助金	0	0	0	—	0
特別利益	0	194,876,810	90,968,052	46.7	△ 103,908,758
事業費用	14,348,314,461	15,114,356,725	15,420,224,449	102.0	305,867,724
医業費用	13,767,121,694	14,512,371,828	14,961,424,903	103.1	449,053,075
医業外費用	581,192,767	471,640,417	458,799,546	97.3	△ 12,840,871
特別損失	0	130,344,480	0	0	△ 130,344,480
当年度純利益(△純損失)	551,280,060	1,069,705,463	1,009,662,870	—	△ 60,042,593

貸借対照表

科 目	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末		
	金 額	金 額	金 額	前年度比	対前年度増減額
	円	円	円	%	円
資産の部					
固定資産	16,098,600,005	15,844,034,487	15,852,748,671	100.1	8,714,184
流動資産	2,975,099,337	3,363,462,289	3,473,888,040	103.3	110,425,751
繰延勘定	216,813,273	204,818,435	213,616,821	104.3	8,798,386
資産合計	19,290,512,615	19,412,315,211	19,540,253,532	100.7	127,938,321
負債の部					
固定負債	0	0	0	—	0
流動負債	1,226,237,093	1,372,738,645	1,976,859,250	144.0	604,120,605
負債合計	1,226,237,093	1,372,738,645	1,976,859,250	144.0	604,120,605
資本の部					
資本金	30,350,729,106	29,953,371,404	29,988,450,982	100.1	35,079,578
剰余金	7,841,384,809	8,294,338,092	8,623,413,360	104.0	329,075,268
欠損金	△ 9,777,838,393	△ 8,708,132,930	△ 7,698,470,060	88.4	1,009,662,870
病院間調整勘定	△ 10,350,000,000	△ 11,500,000,000	△ 13,350,000,000	116.1	△ 1,850,000,000
資本合計	18,064,275,522	18,039,576,566	17,563,394,282	97.4	△ 476,182,284
負債資本合計	19,290,512,615	19,412,315,211	19,540,253,532	100.7	127,938,321

第2 資本的収入・支出の概況

平成23年度の資本的収入は12億2万円であり、前年度（7億8,628万円）に比較して4億1,374万円の増加となっている。

また、資本的支出は16億1,531万円であり、前年度（11億8,296万円）に比較して4億3,235万円の増加となっている。

資本的収入及び支出

科 目	平成21年度		平成22年度		平成23年度		
	金 額	比率	金 額	比率	金 額	比率	対前年度増減額
	円	%	円	%	円	%	円
資 本 的 収 入	3,376,795,144	100.0	786,278,264	100.0	1,200,018,000	100.0	413,739,736
企 業 債	3,174,410,000	94.0	342,000,000	43.5	764,000,000	63.7	422,000,000
他 会 計 負 担 金	197,915,000	5.9	440,864,000	56.1	435,988,000	36.3	△ 4,876,000
国 庫 支 出 金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
雑 収 入	4,470,144	0.1	3,414,264	0.4	30,000	0.0	△ 3,384,264
資 本 的 支 出	3,793,220,095	100.0	1,182,955,674	100.0	1,615,307,800	100.0	432,352,126
建 設 改 良 費	6,300,000	0.2	88,908,644	7.5	101,792,623	6.3	12,883,979
資 産 購 入 費	390,654,243	10.3	354,689,328	30.0	784,594,755	48.6	429,905,427
企 業 債 償 還 金	3,396,265,852	89.5	739,357,702	62.5	728,920,422	45.1	△ 10,437,280

第3 事業収益の概況

事業収益は、医業収益と医業外収益に分けられる。
医業収益の推移は、平成21年度を100とした場合、

平成22年度104.8、平成23年度106.2となっている。
医業外収益のほとんどは一般会計負担金である。

医 業 収 益

科 目	平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	金 額	割合	指数	金 額	割合	指数	金 額	割合	指数
	円	%		円	%		円	%	
医 業 収 益	13,422,350,973	100.0	100.0	14,062,271,332	100.0	104.8	14,251,277,724	100.0	106.2
入 院 収 益	7,138,036,494	53.2	100.0	7,805,576,518	55.5	109.4	7,700,006,742	54.0	107.9
外 来 収 益	4,205,726,461	31.3	100.0	4,130,728,855	29.4	98.2	4,427,625,995	31.1	105.3
一 般 会 計 負 担 金	1,230,942,000	9.2	100.0	1,255,359,000	8.9	102.0	1,301,742,000	9.1	105.8
そ の 他 医 業 収 益	847,646,018	6.3	100.0	870,606,959	6.2	102.7	821,902,987	5.8	97.0

(注)「割合」当該年度の医業収益に対する割合
「指数」収益ごとに平成21年度の金額を100とした割合の値

診療報酬額診療行為別割合

区 分	外 来 患 者			入 院 患 者		
	21年度	22年度	23年度	21年度	22年度	23年度
	%	%	%	%	%	%
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
基 本 診 療 料	4.5	3.2	3.2	20.8	20.9	20.2
投 薬 料	7.5	6.7	6.6	3.3	3.7	3.7
注 射 料	40.4	45.2	45.8	15.1	13.8	15.0
検 査 料	17.1	15.2	15.2	3.4	3.6	3.4
画 像 診 断 料	22.5	20.7	20.3	9.6	9.7	9.7
処置及び手術麻酔料	0.7	1.1	1.2	40.3	40.7	40.7
理 学 療 法 料	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そ の 他	7.3	8.1	7.8	1.2	1.2	1.2
食 事 療 法 費				6.3	6.4	6.3

(注) 輸血料は注射料に含む。

第4 事業費用の概況

事業費用は、医薬費用と医薬外費用に分けられる。

及び材料費である。医薬費用の推移は、平成21年を100とした

事業費用のほとんどは医薬費用であり、その大部分は給与費

場合、平成22年度105.4%、平成23年度108.7%となっている。

医 業 費 用

科 目	平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	金 額	割合	指数	金 額	割合	指数	金 額	割合	指数
	円	%		円	%		円	%	
医 業 費 用	13,767,121,694	100.0	100.0	14,512,371,828	100.0	105.4	14,961,424,903	100.0	108.7
給 与 費	6,570,233,576	47.7	100.0	7,131,720,338	49.2	108.5	7,434,894,294	49.7	113.2
材 料 費	4,537,446,616	33.0	100.0	4,576,232,333	31.5	100.4	4,660,576,169	31.2	102.7
経 費	1,525,902,564	11.1	100.0	1,670,324,270	11.5	109.5	1,743,775,012	11.7	114.3
減 価 償 却 費	802,613,043	5.8	100.0	744,192,617	5.1	92.7	722,766,030	4.8	90.1
資 産 減 耗 費	6,616,711	0	100.0	39,308,189	0.3	594.1	95,673,444	0.6	1445.9
研 究 研 修 費	324,309,184	2.4	100.0	350,594,081	2.4	108.1	303,739,954	2.0	93.7

(注) 「割合」当該年度の医薬収益に対する割合

「指数」収益ごとに平成21年度の金額を100とした割合の値

第5 経営分析

総収支比率は106.6%で、前年度（107.1%）に比べ0.5ポイント低くなっている。

また、医業収支比率は95.3%で前年度（96.9%）に比べ1.6ポイント低くなっている。

財務分析表

区 分		計 算 式	21年度	22年度	23年度
資産及び資本構成比率	固定資産構成比率(%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	83.5	81.6	81.3
	固定負債構成比率(%)	$\frac{\text{固定負債} + \text{借入資本金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	31.4	29.2	29.2
	自己資本構成比率(%)	$\frac{\text{自己資本} (= \text{自己資本金} + \text{剰余金} - \text{欠損金})}{\text{総資本} (= \text{負債} + \text{資本})} \times 100$	115.8	123.0	129.0
	固定資産対長期資本比率(%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本合計} + \text{固定負債}} \times 100$	89.1	87.8	90.3
	固定比率(%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$	72.0	66.4	62.9
	流動比率(%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	242.6	245.0	175.7
回 転 率	自己資本回転率(回)	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本}) \times 1/2}$	0.61	0.61	0.58
	固定資産回転率(回)	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \times 1/2}$	0.82	0.88	0.90
	減価償却率(%)	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{有形固定資産} + \text{無形固定資産} - \text{土地} - \text{建設仮勘定} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	4.84	4.60	4.49
	流動資産回転率(回)	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \times 1/2}$	4.17	4.44	4.17
	未収金回転率(回)	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首未収金} + \text{期末未収金}) \times 1/2}$	7.70	7.20	6.83
損益関係比率	総収支比率(%)	$\frac{\text{総収益} (= \text{医業収益} + \text{医業外収益} + \text{特別利益})}{\text{総費用} (= \text{医業費用} + \text{医業外費用} + \text{特別損失})} \times 100$	103.8	107.1	106.6
	経常収支比率(%)	$\frac{\text{経常収益} (= \text{医業収益} + \text{医業外収益})}{\text{経常費用} (= \text{医業費用} + \text{医業外費用})} \times 100$	103.8	106.7	106.0
	医業収支比率(%)	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	97.5	96.9	95.3

第2節 図書室等の業務

第1 図書室の業務

図書室は、毎年専門雑誌、専門図書等の整備を図っている。 に関する調査研究をしようとする者)の利用にも供しており、
 なお、図書室は管理規程に基づき、職員以外の者(悪性新生物 蔵書状況は次表のとおりである。

図 書 蔵 書 状 況 (受入数-除籍累計=総数)

年度	種類	総 数	単 行 本		専 門 雑 誌	
			洋	和	洋	和
40～20年度受入れ		65,028	11,376	15,083	28,242	10,327
21年度	〃	878	117	662	0	99
22年度	〃	1,306	151	976	26	153
23年度	〃	1,311	88	741	34	448
除 籍 累 計		12,561	3,141	3,520	4,734	1,166
総 数		55,962	8,591	13,942	23,568	9,861

第2 レジデント業務

当センターにおける診療業務を通じ、がん専門医を養成する (レジデント) 制度」を昭和61年から発足させた。
 ため、修得期間を2年とする「がんセンター病院診療嘱託員

レ ジ デ ン ト 履 修 状 況

区 分	総 数	消化器内 科コース	呼吸器内 科コース	腫瘍内科 ・血液内 科コース	頭頸部外 科コース	胸部外科 ・乳腺科 コース	消化器外 科コース	泌尿器・ 婦人科・ 整形外科 ・形成外 科コース	放射線診 断コース	放射線治 療コース	麻 酔 科 コ ー ス	遺伝子病 理 診 断 コ ー ス
61～18年度	513	64	49	18	64	85	91	36	66	30	2	8
19年度	17	2	—	—	3	4	2	1	2	2	—	1
20年度	39	5	1	5	4	7	5	3	2	4	—	3
21年度	44	4	—	5	6	9	6	2	4	4	—	4
22年度	38	4	—	5	4	9	6	2	4	3	—	1
23年度	38	6	1	4	4	8	6	2	3	2	—	2
総 数	689	85	51	37	85	122	116	46	81	45	2	19

第3 リサーチレジデント業務

当センターにおける研究業務を通じ、がん専門職員を養成す 員(リサーチレジデント) 制度」を平成13年度から発足させた。
 るため、修得期間を2年とする「がんセンター研究所研究嘱託

レ ジ デ ン ト 履 修 状 況

区 分	総 数	疫学・予防学 コ ー ス	腫瘍病理学 コ ー ス	分子腫瘍学 コ ー ス	遺伝子医療 研究コース	腫瘍免疫学 コ ー ス	分子病態学 コ ー ス	腫瘍ウイル ス学コース	発がん制御 研究コース	臨床研究 基 礎 コ ー ス
13～18年度	38	2	3	2	3	5	4	8	5	6
19年度	5	—	1	—	—	—	1	1	1	1
20年度	15	1	3	2	2	1	2	2	2	—
21年度	11	1	1	—	2	1	1	2	3	—
22年度	12	2	1	2	2	1	1	2	1	—
23年度	11	2	1	1	1	1	—	2	3	—
総数	92	8	10	7	10	9	9	17	15	7

第4 医療技術者専門研修業務

がん専門職員の不足が、がん対策推進のあい路となっており、これを解消するため医療技術者の研修を実施することとし、昭和41年度から本格化した。研修の種類として当初、厚生省の委託を受けて行う委託研修、希望に応じて随時行う任意研修、当センターの計画に基づいて行う計画研修の3種類があったが、

委託研修が昭和52年で終了し、現在は、任意研修、計画研修の2本立てである。

なお、研修希望者は、国内に限らず、東南アジアを始め欧米各国に及んでいる。

研修実施状況

区 分		総数	41~12 年 度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
総 数		5236	3839	106	143	138	164	164	147	124	135	108	87	81	
委 託 研 修	総 数	496	496	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	医 師	169	169	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	診 療 放 射 線 技 師	114	114	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	臨 床 (衛 生) 検 査 技 師	71	71	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	看 護 婦	142	142	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
計 画 研 修	総 数	218	198	2	2	0	2	2	2	1	3	3	2	1	
	医 師	141	141	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	診 療 放 射 線 技 師	13	12	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	
	臨 床 (衛 生) 検 査 技 師	64	45	2	2	0	2	1	2	1	3	3	2	1	
任 意 研 修	総 数	4522	3145	104	141	138	162	162	145	123	132	105	85	80	
	医 師 (病 院)	2017	1588	38	51	49	49	42	26	26	48	42	34	24	
	医 師 (研 究 所)	911	554	30	49	40	49	40	41	37	15	17	17	22	
	診 療 放 射 線 技 師 (病 院)	95	83	—	—	1	1	2	3	3	—	1	—	1	
	診 療 放 射 線 技 師 (研 究 所)	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	臨 床 (衛 生) 検 査 技 師 (病 院)	377	286	1	12	6	10	19	13	9	10	5	3	3	
	臨 床 (衛 生) 検 査 技 師 (研 究 所)	77	52	—	2	1	3	5	4	3	3	3	1	—	
	看 護 師	158	134	2	3	1	3	—	—	4	4	3	1	3	
	研 究 員 (病 院)	20	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	研 究 員 (研 究 所)	86	86	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	そ の 他 (運 用 部)	5	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	そ の 他 (病 院)	278	110	10	5	5	9	17	28	20	35	14	12	13	
	そ の 他 (研 究 所)	497	226	23	19	35	38	37	30	21	17	20	17	14	

第5 知識普及業務

一般県民へのがんの予防啓発や知識の普及は、新聞・テレビ等報道機関に対し、取材協力や資料提供等により行うとともに、各種団体・個人からの依頼に基づき施設見学等を行っている。

一般県民を対象に「がんセンター公開講座」を開催しており、平成23年度は6月から2月までの間に「がん医療の温故創新：がんの予防から診断・治療まで」をメインテーマに国際医学交流センターを始め3会場にて4回開催し、延べ686名の受講者があった。

また、毎年9月のがん征圧月間にちなみ開催している「がん

征圧講演会」を、9月3日に国際医学交流センターで講演「予防可能な感染症関連がんへの取り組み」の内容で行い136名の聴講者があった。

更に、9月の「がん征圧講演会」の際に「研究所研究内容のパネル展示と研究所ツアー」を開催し、研究所の活動内容の広報を行った。

この他、研究所において、8月5日に高校生を対象とした実験・体験コースを開催し、16名ががんの研究や基礎医学などの分野で用いられる重要な実験技術を体験した。

第6 がん患者登録及び追跡調査業務

当センターで受診した全てのがん患者の登録を行い、毎年12月に登録患者の追跡調査を行っている。

なお、平成22年までの年次別患者登録数及び平成23年12月の追跡調査結果のあらまはは、次表のとおりである。

年次別・部位別がん患者数（男女計）1964－2010

がんの部位 区分 (ICD10)	がんの部位														
	全部位 (C00～D09)	食道がん (C15)	胃がん (C16)	結腸がん (C18)	直腸がん (C19～C21)	肝臓がん (C22)	頭頸部がん (C00～C14 C30～C32)	肺がん (C33, C34)	乳房がん (C50)	子宮がん (C53～C55 C58)	泌尿器がん (C60～C68)	甲状腺がん (C73)	悪性リンパ腫 (C82, C84, C85, C96)	白血病 (C91～C95)	その他のがん
昭和39年(1964)	65	2	18	0	2	0	11	5	10	10	2	0	0	0	5
昭和40年(1965)	1,437	43	506	20	58	16	109	99	167	245	19	13	4	19	119
昭和41年(1966)	1,606	51	549	28	68	20	145	101	207	257	19	19	6	17	119
昭和42年(1967)	1,525	40	525	32	62	25	136	114	156	263	24	13	4	12	119
昭和43年(1968)	1,485	36	448	25	49	23	125	115	191	291	23	21	9	20	109
昭和44年(1969)	1,571	42	488	20	68	21	131	120	203	286	19	22	9	10	132
昭和45年(1970)	1,567	48	437	36	62	27	124	124	222	287	21	20	7	23	129
昭和46年(1971)	1,639	45	438	32	59	37	149	125	228	303	21	30	10	12	150
昭和47年(1972)	1,659	46	427	40	70	30	155	152	242	297	20	19	6	17	138
昭和48年(1973)	1,497	41	390	32	73	28	116	132	191	284	12	26	14	13	145
昭和49年(1974)	1,364	54	348	36	61	9	113	121	224	222	14	25	6	9	122
昭和50年(1975)	1,427	38	375	42	65	13	100	133	214	243	9	28	5	19	143
昭和51年(1976)	1,326	39	352	32	92	25	66	119	202	236	12	18	11	2	120
昭和52年(1977)	1,286	37	327	49	85	14	62	111	201	215	8	20	7	15	135
昭和53年(1978)	1,391	53	345	42	74	15	69	133	231	212	15	24	8	9	161
昭和54年(1979)	1,358	36	336	53	49	28	82	132	241	197	12	21	34	9	128
昭和55年(1980)	1,377	45	334	55	71	23	68	136	289	164	15	26	31	15	105
昭和56年(1981)	1,363	43	326	48	73	32	48	143	302	162	16	22	29	11	108
昭和57年(1982)	1,332	34	295	49	69	26	68	151	316	170	9	14	27	13	91
昭和58年(1983)	1,405	49	297	76	85	25	72	154	300	161	12	19	34	13	108
昭和59年(1984)	1,362	41	306	72	67	27	63	139	331	134	6	15	29	16	116
昭和60年(1985)	1,482	35	297	77	77	37	86	157	364	140	12	19	50	3	128
昭和61年(1986)	1,396	37	311	54	74	43	67	134	326	149	8	22	52	6	113
昭和62年(1987)	1,384	34	268	68	74	34	74	156	337	139	14	20	38	10	118
昭和63年(1988)	1,421	39	275	105	57	28	81	167	348	147	6	18	40	11	99
平成元年(1989)	1,261	32	272	64	54	32	86	151	269	141	7	28	32	10	83
平成2年(1990)	1,280	39	246	82	72	45	96	125	243	151	8	30	39	7	97
平成3年(1991)	1,262	39	217	99	68	39	64	134	276	168	6	22	34	9	87
平成4年(1992)	1,344	46	224	84	64	32	94	169	275	175	8	38	30	6	99
平成5年(1993)	1,464	48	261	125	74	62	88	184	300	143	10	26	39	8	96
平成6年(1994)	1,469	62	264	100	84	42	94	180	298	152	24	23	45	3	98
平成7年(1995)	1,463	46	249	111	74	49	113	178	287	106	57	24	36	1	132
平成8年(1996)	1,462	51	202	96	66	49	124	200	290	106	74	29	32	7	136
平成9年(1997)	1,598	43	235	110	67	60	144	219	307	129	61	23	24	9	167
平成10年(1998)	1,684	56	250	120	68	67	134	246	296	144	68	30	31	11	163
平成11年(1999)	1,810	66	245	101	84	64	141	277	364	116	73	30	29	11	209
平成12年(2000)	1,812	65	252	113	63	55	168	275	309	136	74	27	38	13	224
平成13年(2001)	1,922	114	242	122	94	58	158	291	326	153	71	44	38	10	201
平成14年(2002)	2,049	106	257	134	110	61	198	314	314	141	88	44	40	10	232
平成15年(2003)	2,085	113	242	150	110	54	201	305	293	144	116	43	46	7	261
平成16年(2004)	2,162	130	270	131	108	61	203	297	295	174	115	52	41	7	278
平成17年(2005)	2,223	139	286	147	147	73	206	317	296	143	102	36	42	5	284
平成18年(2006)	2,192	146	304	144	155	55	193	307	285	117	156	43	53	5	229
平成19年(2007)	2,359	152	295	154	152	61	178	332	329	152	138	50	57	5	304
平成20年(2008)	2,079	103	283	135	130	28	124	262	339	148	132	46	44	3	302
平成21年(2009)	2,709	150	292	159	157	68	241	367	412	224	218	47	33	0	341
平成22年(2010)	2,946	178	324	187	162	94	225	407	450	220	224	50	16	0	409
合計	75,360	2,932	14,730	3,791	3,807	1,815	5,593	8,710	12,896	8,497	2,178	1,279	1,289	451	7,392

※平成8年までは、ICD9による集計

年次別・部位別がん患者割合（％）（男女計）1964－2010

がんの部位 区分 (ICD10)	がんの部位														
	全部位 (C00～D09)	食道 がん (C15)	胃がん (C16)	結腸 がん (C18)	直腸 がん (C19～C21)	肝臓 がん (C22)	頭頸部 がん (C00～C14 C30～C32)	肺がん (C33, C34)	乳房 がん (C50)	子宮 がん (C53～C55 C58)	泌尿器 がん (C60～C68)	甲状腺 がん (C73)	悪性リ ンパ腫 (C82, C84, C85, C96)	白血病 (C91～C95)	その他 のがん
昭和39年(1964)	100.0	3.1	27.7	0.0	3.1	0.0	16.9	7.7	15.4	15.4	3.1	0.0	0.0	0.0	7.7
昭和40年(1965)	100.0	3.0	35.2	1.4	4.0	1.1	7.6	6.9	11.6	17.1	1.3	0.9	0.3	1.3	8.3
昭和41年(1966)	100.0	3.2	34.2	1.7	4.2	1.2	9.0	6.3	12.9	16.0	1.2	1.2	0.4	1.1	7.4
昭和42年(1967)	100.0	2.6	34.4	2.1	4.1	1.6	8.9	7.5	10.2	17.2	1.6	0.9	0.3	0.8	7.8
昭和43年(1968)	100.0	2.4	30.2	1.7	3.3	1.6	8.4	7.7	12.9	19.6	1.6	1.4	0.6	1.3	7.3
昭和44年(1969)	100.0	2.7	31.1	1.3	4.3	1.3	8.4	7.6	12.9	18.2	1.2	1.4	0.6	0.6	8.4
昭和45年(1970)	100.0	3.1	27.9	2.3	4.0	1.7	7.9	7.9	14.2	18.3	1.3	1.3	0.4	1.5	8.2
昭和46年(1971)	100.0	2.7	26.7	2.0	3.6	2.3	9.1	7.6	13.9	18.5	1.3	1.8	0.6	0.7	9.2
昭和47年(1972)	100.0	2.8	25.7	2.4	4.2	1.8	9.3	9.2	14.6	17.9	1.2	1.2	0.4	1.0	8.3
昭和48年(1973)	100.0	2.7	26.1	2.1	4.9	1.9	7.7	8.8	12.8	19.0	0.8	1.7	0.9	0.9	9.7
昭和49年(1974)	100.0	4.0	25.5	2.6	4.5	0.7	8.3	8.9	16.4	16.3	1.0	1.8	0.4	0.7	8.9
昭和50年(1975)	100.0	2.7	26.3	2.9	4.6	0.9	7.0	9.3	15.0	17.0	0.6	2.0	0.4	1.3	10.0
昭和51年(1976)	100.0	2.9	26.6	2.4	6.9	1.9	5.0	9.0	15.2	17.8	0.9	1.4	0.8	0.2	9.0
昭和52年(1977)	100.0	2.9	25.4	3.8	6.6	1.1	4.8	8.6	15.6	16.7	0.6	1.6	0.5	1.2	10.5
昭和53年(1978)	100.0	3.8	24.8	3.0	5.3	1.1	5.0	9.6	16.6	15.2	1.1	1.7	0.6	0.6	11.6
昭和54年(1979)	100.0	2.7	24.7	3.9	3.6	2.1	6.0	9.7	17.8	14.5	0.9	1.5	2.5	0.7	9.4
昭和55年(1980)	100.0	3.3	24.3	4.0	5.1	1.7	4.9	9.9	21.0	11.9	1.1	1.9	2.2	1.1	7.6
昭和56年(1981)	100.0	3.2	23.9	3.5	5.4	2.3	3.5	10.5	22.2	11.9	1.2	1.6	2.1	0.8	7.9
昭和57年(1982)	100.0	2.6	22.1	3.7	5.2	2.0	5.1	11.3	23.7	12.8	0.7	1.0	2.0	1.0	6.8
昭和58年(1983)	100.0	3.5	21.1	5.4	6.0	1.8	5.1	11.0	21.4	11.5	0.9	1.3	2.4	0.9	7.7
昭和59年(1984)	100.0	3.0	22.5	5.3	4.9	2.0	4.6	10.2	24.3	9.8	0.5	1.1	2.1	1.2	8.5
昭和60年(1985)	100.0	2.4	20.0	5.2	5.2	2.5	5.8	10.6	24.6	9.4	0.8	1.3	3.4	0.2	8.6
昭和61年(1986)	100.0	2.6	22.3	3.9	5.3	3.1	4.8	9.6	23.3	10.7	0.6	1.6	3.7	0.4	8.1
昭和62年(1987)	100.0	2.5	19.4	4.9	5.4	2.5	5.4	11.3	24.3	10.0	1.0	1.4	2.7	0.7	8.5
昭和63年(1988)	100.0	2.7	19.4	7.4	4.0	2.0	5.7	11.7	24.5	10.3	0.4	1.3	2.8	0.8	7.0
平成元年(1989)	100.0	2.5	21.6	5.1	4.3	2.5	6.8	12.0	21.3	11.2	0.6	2.2	2.5	0.8	6.6
平成2年(1990)	100.0	3.1	19.2	6.4	5.6	3.5	7.5	9.8	19.0	11.8	0.6	2.3	3.1	0.5	7.6
平成3年(1991)	100.0	3.1	17.2	7.8	5.4	3.1	5.1	10.6	21.9	13.3	0.5	1.7	2.7	0.7	6.9
平成4年(1992)	100.0	3.4	16.7	6.2	4.8	2.4	7.0	12.6	20.5	13.0	0.6	2.8	2.2	0.4	7.4
平成5年(1993)	100.0	3.3	17.8	8.5	5.0	4.2	6.0	12.6	20.5	9.8	0.7	1.8	2.7	0.5	6.6
平成6年(1994)	100.0	4.2	18.0	6.8	5.7	2.9	6.4	12.2	20.3	10.3	1.6	1.6	3.1	0.2	6.7
平成7年(1995)	100.0	3.1	17.0	7.6	5.1	3.4	7.7	12.2	19.6	7.2	3.9	1.6	2.5	0.1	9.0
平成8年(1996)	100.0	3.5	13.8	6.6	4.5	3.3	8.5	13.7	19.8	7.2	5.1	2.0	2.2	0.5	9.3
平成9年(1997)	100.0	2.7	14.7	6.9	4.2	3.7	9.0	13.7	19.2	8.1	3.8	1.4	1.5	0.6	10.5
平成10年(1998)	100.0	3.3	14.8	7.1	4.0	4.0	8.0	14.6	17.6	8.6	4.0	1.8	1.8	0.7	9.7
平成11年(1999)	100.0	3.7	13.5	5.6	4.6	3.5	7.8	15.3	20.1	6.4	4.0	1.7	1.6	0.6	11.6
平成12年(2000)	100.0	3.6	13.9	6.2	3.5	3.0	9.3	15.2	17.0	7.5	4.1	1.5	2.1	0.7	12.4
平成13年(2001)	100.0	5.9	12.6	6.3	4.9	3.0	8.2	15.1	17.0	8.0	3.7	2.3	2.0	0.5	10.5
平成14年(2002)	100.0	5.2	12.6	6.5	5.4	3.0	9.7	15.3	15.3	6.9	4.3	2.1	2.0	0.5	11.3
平成15年(2003)	100.0	5.4	11.5	7.2	5.3	2.6	9.6	14.6	14.1	6.9	5.6	2.1	2.2	0.3	12.5
平成16年(2004)	100.0	6.0	12.5	6.1	5.0	2.8	9.4	13.7	13.6	8.1	5.3	2.4	1.9	0.3	12.9
平成17年(2005)	100.0	6.3	12.9	6.6	6.6	3.3	9.3	14.3	13.3	6.4	4.6	1.6	1.9	0.2	12.8
平成18年(2006)	100.0	6.7	13.9	6.6	7.1	2.5	8.8	14.0	13.0	5.3	7.1	2.0	2.4	0.2	10.4
平成19年(2007)	100.0	6.4	12.5	6.5	6.4	2.6	7.5	14.1	13.9	6.4	5.8	2.1	2.4	0.2	12.9
平成20年(2008)	100.0	5.0	13.6	6.5	6.3	1.3	6.0	12.6	16.3	7.1	6.4	2.2	2.3	0.1	14.5
平成21年(2009)	100.0	5.5	10.8	5.9	5.8	2.5	8.9	13.5	15.2	8.3	8.1	1.7	1.2	0.0	12.6
平成22年(2010)	100.0	6.0	11.0	6.3	5.5	3.2	7.6	13.8	15.3	7.5	7.6	1.7	0.6	0.0	13.9
合計	100.0	3.9	19.5	5.0	5.1	2.4	7.4	11.6	17.1	11.3	2.9	1.7	1.7	0.6	9.8

※平成8年までは、ICD9による集計

登録（診断）年次別がん患者の生存数（男女計） 1964－2009

登録（診断）年	症例数	経過年数					
		1年経過	2年経過	3年経過	4年経過	5年経過	10年経過
昭和39年(1964)	65	38	33	31	26	23	15
昭和40年(1965)	1,437	801	637	572	541	508	414
昭和41年(1966)	1,606	965	764	673	640	613	507
昭和42年(1967)	1,525	915	708	619	576	551	443
昭和43年(1968)	1,485	940	746	662	617	582	472
昭和44年(1969)	1,571	981	788	697	630	593	502
昭和45年(1970)	1,567	1,019	803	724	671	629	536
昭和46年(1971)	1,639	1,049	850	768	701	642	535
昭和47年(1972)	1,659	1,104	907	820	753	713	593
昭和48年(1973)	1,497	1,010	844	748	707	667	561
昭和49年(1974)	1,364	948	769	684	638	597	497
昭和50年(1975)	1,427	963	776	704	659	634	553
昭和51年(1976)	1,326	924	755	673	636	602	503
昭和52年(1977)	1,286	908	736	677	630	599	521
昭和53年(1978)	1,391	979	811	742	689	654	550
昭和54年(1979)	1,358	985	822	749	701	669	574
昭和55年(1980)	1,377	1,005	843	775	720	684	582
昭和56年(1981)	1,363	1,016	856	775	737	692	582
昭和57年(1982)	1,332	986	845	763	726	698	564
昭和58年(1983)	1,405	1,048	882	798	734	700	593
昭和59年(1984)	1,362	1,035	873	792	741	709	602
昭和60年(1985)	1,482	1,177	1,007	905	841	810	696
昭和61年(1986)	1,396	1,094	946	857	808	771	648
昭和62年(1987)	1,384	1,100	948	862	787	749	631
昭和63年(1988)	1,421	1,140	991	904	856	829	712
平成元年(1989)	1,261	985	861	800	766	739	624
平成2年(1990)	1,280	1,041	898	839	796	761	661
平成3年(1991)	1,262	1,049	917	846	799	760	661
平成4年(1992)	1,344	1,099	955	887	849	815	698
平成5年(1993)	1,464	1,193	1,037	941	894	858	726
平成6年(1994)	1,469	1,206	1,075	993	930	894	767
平成7年(1995)	1,463	1,190	1,032	935	878	850	718
平成8年(1996)	1,462	1,201	1,054	947	907	859	729
平成9年(1997)	1,598	1,336	1,146	1,041	980	940	750
平成10年(1998)	1,684	1,367	1,198	1,096	1,031	980	768
平成11年(1999)	1,810	1,470	1,271	1,163	1,099	1,056	976
平成12年(2000)	1,812	1,492	1,294	1,195	1,118	1,054	969
平成13年(2001)	1,922	1,557	1,372	1,259	1,176	1,114	465
平成14年(2002)	2,049	1,682	1,447	1,299	1,222	1,181	1,027
平成15年(2003)	2,085	1,719	1,485	1,375	1,278	1,310	
平成16年(2004)	2,162	1,830	1,570	1,485	1,440	1,357	
平成17年(2005)	2,223	1,849	1,719	1,669	1,613	1,507	
平成18年(2006)	2,192	2,070	2,024	1,839	1,722	1,617	
平成19年(2007)	2,359	2,027	1,941	1,836	1,690		
平成20年(2008)	2,356	2,010	1,872	1,711			
平成21年(2009)	2,752	2,348	2,051				

登録（診断）年次別がん患者の実測生存率*（％）（男女計） 1964－2009

※Kaplan-Meier法による

登録（診断）年	経 過 年 数					
	1年経過	2年経過	3年経過	4年経過	5年経過	10年経過
昭和39年(1964)	58.5	50.8	47.7	40.0	35.4	23.1
昭和40年(1965)	55.7	44.3	39.8	37.6	35.4	28.8
昭和41年(1966)	60.1	47.6	41.9	39.9	38.2	31.6
昭和42年(1967)	60.0	46.4	40.6	37.8	36.1	29.0
昭和43年(1968)	63.3	50.2	44.6	41.5	39.2	31.8
昭和44年(1969)	62.4	50.2	44.4	40.1	37.7	32.0
昭和45年(1970)	65.0	51.2	46.2	42.8	40.1	34.2
昭和46年(1971)	64.0	51.9	46.9	42.8	39.2	32.6
昭和47年(1972)	66.5	54.7	49.4	45.4	43.0	35.7
昭和48年(1973)	67.5	56.4	50.0	47.2	44.6	37.5
昭和49年(1974)	69.5	56.4	50.1	46.8	43.8	36.4
昭和50年(1975)	67.5	54.4	49.3	46.2	44.4	38.8
昭和51年(1976)	69.7	56.9	50.8	48.0	45.4	37.9
昭和52年(1977)	70.6	57.2	52.6	49.0	46.6	40.5
昭和53年(1978)	70.4	58.3	53.3	49.5	47.0	39.5
昭和54年(1979)	72.5	60.5	55.2	51.6	49.3	42.3
昭和55年(1980)	73.0	61.2	56.3	52.3	49.7	42.3
昭和56年(1981)	74.5	62.8	56.9	54.1	50.8	42.7
昭和57年(1982)	74.0	63.4	57.3	54.5	52.4	42.3
昭和58年(1983)	74.6	62.8	56.8	52.2	49.8	42.2
昭和59年(1984)	76.0	64.1	58.1	54.4	52.1	44.2
昭和60年(1985)	79.4	67.9	61.1	56.7	54.7	47.0
昭和61年(1986)	78.4	67.8	61.4	57.9	55.2	46.4
昭和62年(1987)	79.5	68.5	62.3	56.9	54.1	45.6
昭和63年(1988)	80.2	69.7	63.6	60.2	58.3	50.1
平成元年(1989)	78.1	68.3	63.4	60.7	58.6	49.5
平成2年(1990)	81.3	70.2	65.5	62.2	59.5	51.6
平成3年(1991)	83.1	72.7	67.0	63.3	60.2	52.4
平成4年(1992)	81.8	71.1	66.0	63.2	60.6	51.9
平成5年(1993)	81.5	70.8	64.3	61.1	58.6	49.6
平成6年(1994)	82.1	73.2	67.6	63.3	60.9	52.2
平成7年(1995)	81.3	70.5	63.9	60.0	58.1	49.1
平成8年(1996)	82.1	72.1	64.8	62.0	58.8	49.9
平成9年(1997)	83.6	71.7	65.1	61.3	58.8	46.9
平成10年(1998)	81.2	71.1	65.1	61.2	58.2	45.6
平成11年(1999)	81.2	70.2	64.3	60.7	58.3	53.9
平成12年(2000)	82.3	71.4	65.9	61.7	58.2	53.5
平成13年(2001)	81.0	71.4	65.5	61.2	58.0	51.9
平成14年(2002)	82.1	70.6	63.4	59.6	57.6	50.1
平成15年(2003)	82.4	71.2	65.9	61.3	62.8	
平成16年(2004)	84.6	72.6	68.7	66.6	62.8	
平成17年(2005)	83.2	77.3	75.1	72.6	67.8	
平成18年(2006)	94.4	92.3	83.9	78.6	73.8	
平成19年(2007)	85.9	82.3	75.1	71.6		
平成20年(2008)	85.3	79.5	72.6			
平成21年(2009)	85.3	74.5				

第3章 病院業務

第1節 概要

当部門において、がんの診断及び診察を行うため、次の診療科を置き、業務を行っている。

<診療科目>消化器内科、呼吸器内科、血液内科、薬物療法内科、臨床検査科、病理診断科、循環器内科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、泌尿器科、

皮膚科、婦人科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、脳神経外科、眼科、歯科、緩和ケア内科 計23診療科

診断については、原則として総合診断方式、すなわち初診医師の指示により諸検査を行い、検査終了後関係医師団による総合診断を行い、その治療方針及び担当部を決定している。

第2節 診断、治療及び社会復帰業務

第1 外来患者状況

初診患者は、開院以来（昭和39年12月1日～平成24年3月31日）408,106人となり、性別比率は男37.6%、女62.4%、住所地

別では、愛知県80.9%（このうち名古屋市43.7%）、愛知県以外は19.1%となっている。

外来患者状況

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	昭和39年～平成23年度
外来患者数	6,193	5,557	5,481	409,132
外来患者延数	154,001	149,769	149,626	5,579,571
実外来診療日数	242	243	244	12,918
1日平均患者数	636.4	616.3	613.8	431.9
平均通院回数	24.9	27.0	27.2	13.6

初診患者数（性別）

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		昭和39年～平成23年度	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
総数	6,193	100.0	5,557	100.0	5,481	100.0	408,106	100.0
男	2,654	42.9	2,398	43.2	2,325	42.4	153,043	37.5
女	3,539	57.1	3,159	56.8	3,156	57.6	255,063	62.5

初診患者住所地別割合

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	昭和39年～平成23年度
総数	100.0	100.0	100.0	100.0
愛知県	77.1	76.1	75.4	80.9
（名古屋市）	(39.4)	(40.6)	(39.1)	(43.7)
（その他）	(37.7)	(35.5)	(36.3)	(37.2)
岐阜県	10.0	8.8	9.6	9.1
三重県	8.8	10.1	9.7	6.4
静岡県	0.6	0.6	0.6	1.0
その他	3.5	4.4	4.6	2.6

第2 入院患者状況

入院患者は、開院以来（昭和39年12月21日～平成24年3月31日）187,456人となり、性別比率は男51.6%、女48.4%、住所地

別では、愛知県76.7%（このうち名古屋市39.0%）、その他の府県23.3%となっている。

入院患者状況

区 分		平成21年度	平成22年度	平成23年度	昭和39年～平成23年度
入院患者数	総 数	10,175	10,020	9,920	・
	繰 越	375	396	402	・
	新 入 院	9,800	9,624	9,518	187,456
退院患者数	総 数	9,800	9,624	9,611	187,174
	死 亡	442	455	470	16,488
	そ の 他	9,358	9,169	9,141	170,686
入 院 患 者 延 数		154,884	154,352	150,036	6,246,734
1 日 平 均 患 者 数		424.3	422.9	409.9	・
平 均 在 院 日 数		14.8	15.1	14.7	・
病 床 利 用 率		89.7	89.4	86.7	・
死 亡 率		4.5	4.7	4.9	・

新入院患者数（性別）

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		昭和39年～平成23年度	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
総 数	9,800	100.0	9,624	100.0	9,518	100.0	187,456	100.0
男	5,626	57.4	5,422	56.3	5,465	57.4	96,780	51.6
女	4,174	42.6	4,202	43.7	4,053	42.6	90,676	48.4

入院患者住所地別割合

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	昭和39～平成23年度
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0
愛 知 県	74.6	75.3	73.8	76.7
（ 名 古 屋 市 ）	(33.4)	(36.1)	(35.2)	(39.0)
（ そ の 他 ）	(41.2)	(39.2)	(38.6)	(37.7)
岐 阜 県	11.2	9.9	10.6	10.6
三 重 県	10.1	10.4	11.1	8.2
静 岡 県	0.5	0.6	0.5	0.9
そ の 他	3.6	3.8	4.0	3.6

第3 社会復帰業務

健康医療相談では、一般予防に関する資料を配布している。

また、術後患者の社会生活をサポートするために、専門の看護師がリマンマ・ストーマ相談を行っている。

平成6年度からは医療ソーシャルワーカーが配置され、患者・家族の経済的、心理社会的相談に対応している。

また、平成19年度からは相談支援室を開設、平成21年度から

は乳腺科外来に乳がん認定看護師を配置し、手術前のオリエンテーションは認定看護師が主に担当するようになったため、乳腺看護相談件数が飛躍的に増加した。

毎週月曜日には、日本喉頭摘出者団体連合会愛友会による、喉頭がん術後患者のための発声訓練指導が行われ、約30名の患者が参加している。

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	1月平均	件数	1月平均	件数	1月平均
人工肛門（ストーマ）相談	200	16.7	232	19.3	357	29.8
乳 腺（リマンマ）相談	360	30.0	269	22.4	369	30.8
乳 腺 看 護 相 談	400	33.3	14	1.2	8	0.7
医 療 社 会 福 祉 相 談	4,926	410.5	4,570	380.8	4,624	385.3
〔 内 訳 〕	〔 3,343 〕	〔 278.6 〕	〔 2,821 〕	〔 235.1 〕	〔 2,756 〕	〔 229.7 〕
〔 内 訳 〕	〔 1,583 〕	〔 131.9 〕	〔 3,183 〕	〔 265.3 〕	〔 1,868 〕	〔 155.7 〕

第4 放射線診断及び治療業務

1. 診断業務

平成21年度を100とした場合、照射回数は22年度97.2、23年度95.5、アイソトープ検査件数は、22年度93.8、23年度85.3、超音波断層撮影件数は、22年度71.8、23年度72.3となっている。

放射線照射回数（診断）

直接撮影・方法別取扱件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均
総 数	46,299	191.3	45,001	185.2	44,232	181.3
単 純 撮 影	40,378	166.9	39,035	160.6	38,309	157.0
造 影 撮 影	4,979	20.6	4,988	20.5	4,787	19.6
特 殊 撮 影	942	3.9	978	4.0	1,136	4.7

アイソトープ検査件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均
総 数	1,235	5.1	1,159	4.8	1,052	4.3
シンチスキャン	935	3.9	840	3.5	721	3.0
センチネルリンパ	285	1.2	308	1.3	327	1.3
動態計測	15	0.1	11	0.0	4	0.0

超音波断層撮影件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均
総 数	5,009	20.7	3,595	14.8	3,621	14.8
甲 状 腺	948	3.9	588	2.4	659	2.7
乳 腺	836	3.5	775	3.2	682	2.8
腹 部	1,721	7.1	1,681	6.9	1,886	7.7
そ の 他	1,504	6.2	551	2.3	394	1.6

2. 治療業務

平成21年度を100とした場合、照射回数は22年度100.6、23年度94.8となっている。

放射線照射回数（治療）

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均	
総 数	61,906	255.8	63,188	260.0	59,532	244.0	
放射線 物 質	コバルト遠隔大量照射	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	R A L S	85	0.4	95	0.4	58	0.2
	小 線 源	23	0.1	19	0.1	26	0.1
その他	リニアック	57,114	236.0	58,320	240.0	54,732	224.3
	C T	1,067	4.4	981	4.0	902	3.7
	M R I	3,424	14.1	3,577	14.7	3,610	14.8
	シミュレータ	193	0.8	196	0.8	204	0.8

第5 検査業務

一般臨床検査においては、平成21年度の総件数を100とした場合、22年度96.0、23年度は96.9となっている。

一般臨床検査件数

直接撮影・方法別取扱件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均
総 数	2,923,804	12,081.8	2,805,573	11,545.6	2,827,921	11,589.8
尿 検 査	27,821	115.0	27,733	114.1	27,213	111.5
糞 便 検 査	720	3.0	747	3.1	641	2.6
血液学的検査	1,021,237	4,220.0	919,789	3,785.1	897,307	3,677.5
生化学的検査	1,470,775	6,077.6	1,453,125	5,979.9	1,484,230	6,082.9
細菌学的検査	15,065	62.3	17,214	70.8	16,784	68.8
血清学的検査	{ 190,445 (1,745)	{ 787.0 (7.2)	{ 193,101 (1,740)	{ 794.7 (7.2)	{ 203,495 ※(733)	{ 834.0 (3.0)
病理組織検査	8,379	34.6	8,303	34.2	8,484	34.8
癌遺伝子検査	1,547	6.4	1,580	6.5	1,878	7.7
細胞学的検査	7,568	31.3	7,345	30.2	7,267	29.8
その他採血業務 治験処理等	176,977 3,270	731.3 13.5	173,633 3,003	714.5 12.4	177,366 3,256	726.9 13.3

(注) () 内はアイソトープ使用により実施した件数を再掲した。

※9月よりRI検査中止→外注委託

機能検査件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均
総 数	22,089	91.3	22,076	90.8	23,681	97.1
心電図検査	5,593	23.1	5,735	23.6	6,244	25.6
負荷心電図検査	1,908	7.9	1,864	7.7	1,891	7.8
トレッドミル検査	696	2.9	705	2.9	836	3.4
ホルター心電図検査	359	1.5	381	1.6	411	1.7
心臓超音波検査	1,951	8.1	2,221	9.1	2,430	10.0
肺機能検査	6,645	27.5	6,569	27.0	6,893	28.3
ピロリ菌呼気試験検査	84	0.3	81	0.3	90	0.4
聴力純音検査	119	0.5	102	0.4	156	0.6
乳腺超音波検査	796	3.3	719	3.0	664	2.7
骨塩定量検査	0	0.0	0	0.0	0	0.0
血液ガス検査	3,933	16.3	3,699	15.2	4,066	16.7
その他検査	5	0.0	0	0.0	0	0.0

内視鏡検査件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均
総 数	9,000	37.2	8,849	36.4	8,835	36.2
上部消化管	4,779	19.7	4,820	19.8	4,995	20.5
下部消化管	2,800	11.6	2,627	10.8	2,246	9.2
気 管 支	151	0.6	159	0.7	177	0.7
膵胆管造影(ERCP)	415	1.7	422	1.7	407	1.7
超音波内視鏡(EUS)	583	2.4	555	2.3	694	2.8
超音波内視鏡下穿刺生検 (EUS-FNBAB)	272	1.1	266	1.1	316	1.3

内視鏡治療件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均
総 数	905	3.7	913	3.8	1,010	4.1
食 道 ESD	44	0.2	61	0.3	48	0.2
胃 ESD	91	0.4	82	0.3	92	0.4
大腸 ESD、EMR	355	1.5	302	1.2	359	1.5
食道狭窄拡張術	203	0.8	218	0.9	285	1.2
胆道ステント留置術	166	0.7	183	0.8	139	0.6
乳頭切開術、胆道碎石術	46	0.2	67	0.3	87	0.4

第6 手術業務

部位別手術件数は、次表のとおりである。

手術件数（部位別）

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件 数	1日平均	件 数	1日平均	件 数	1日平均
総 数	2,663	11.0	2,637	10.9	2,720	11.1
頭 頸 部 系	477	2.0	438	1.8	517	2.1
胸 部 系	766	3.2	774	3.2	719	2.9
消 化 器 系	703	2.9	735	3.0	802	3.3
婦 人 科 系	310	1.3	300	1.2	273	1.1
泌 尿 器 系	191	0.8	175	0.7	165	0.7
そ の 他	216	0.9	215	0.9	244	1.0

第3節 看護業務

病棟部門の勤務体制は、平成21年度から7対1看護の3交代制をとり、普通病棟では1看護単位当り、50床を担当するもの7単位、49床を担当するもの1単位、30床を担当するもの1単位、25床を担当するもの2単位からなり、特殊病棟では、ICU病棟の4床及びHCU等の病棟の17床を担当するもの1単位となっ

ている。

その他外来診療を担当する外来部門、手術を担当する手術部門、衛生材料・器具当の滅菌業務を担当する中材部門がある。

看護力の配置状況は次表のとおりである。

看護体制

区 分		平成21年度	平成22年度	平成23年度
看護単位数		15	15	15
配 置 状 況	総 数	406	407	407
	病 棟 部 門	343	339	341
	外 来 部 門	34	39	36
	手 術 部 門	26	27	27
	中 材 部 門	1	1	1
職 種	そ の 他	2	1	2
	総 数	406	407	407
	看 護 師	397	400	400
	看 護 助 手	9	7	7

第4節 薬剤業務

平成21年度から平成23年度までの薬剤業務の状況は次表のとおりである。

薬 剤 業 務

区 分		平成21年度		平成22年度		平成23年度		
		総 数	1日平均	総 数	1日平均	総 数	1日平均	
処 方	枚数	総 数	75,118	310.4	75,173	309.4	76,266	312.6
		外 来	9,211	38.1	8,574	35.3	9,358	38.4
		入 院	65,907	272.3	66,599	274.1	66,908	274.2
	剤数	総 数	135,593	560.3	137,542	566.0	140,961	577.7
		外 来	21,882	90.4	19,499	80.2	21,893	89.7
		入 院	113,711	469.9	118,043	485.8	119,068	488.0
	延剤数	総 数	1,374,632	5,680.3	1,086,309	4,470.4	1,134,997	4,651.6
		外 来	399,375	1,650.3	292,969	1,205.6	343,264	1,406.8
		入 院	975,257	4,030.0	793,340	3,264.8	791,733	3,244.8
治 験 処 方 枚 数		総 数	836	3.5	1,002	4.1	846	3.5
		外 来	779	3.2	859	3.5	810	3.3
		入 院	57	0.2	143	0.6	36	0.1
注 射	枚数 (患者人数)	総 数	110,407	456.2	104,899	431.7	106,864	438.0
		外 来	22,239	91.9	22,330	91.9	24,094	98.7
		入 院	88,168	364.3	82,569	339.8	82,770	339.2
	剤数	総 数	519,211	2,145.5	478,858	1,970.6	502,783	2,060.6
		外 来	68,023	281.1	64,344	264.8	70,652	289.6
		入 院	451,188	1,864.4	414,514	1,705.8	432,131	1,771.0
薬 剤 管 理 指 導 数		人 数	1,912	7.9	2,397	9.9	2,805	11.5
		算定件数	2,018	8.3	2,640	10.9	3,142	12.9
外来抗癌剤 調製数 ^{*1}	調製件数(患者数)	14,475	59.8	14,453	59.5	15,510	63.6	
	調製本数(剤数)	22,766	94.1	21,888	90.1	24,058	98.6	
外来抗癌剤 (治験) 調製数 ^{*2}	調製件数(患者数)	1,315	5.4	685	2.8	1,220	5.0	
	調製本数(剤数)	1,706	7.0	888	3.7	1,695	6.9	
入院抗癌剤 (治験を含む) 調製数 ^{*3}	調製件数(患者数)	2,351	9.7	8,844	36.4	9,189	37.7	
	調製本数(剤数)	3,286	13.6	11,866	48.8	12,536	51.4	
麻薬処方せん枚数		6,916	28.6	8,237	33.9	7,590	31.1	
麻薬注射せん枚数		13,232	54.7	16,107	66.3	19,086	78.2	
T D M 実施件数		59	0.2	62	0.3	89	0.4	

* 1 外来抗癌剤調製数は、薬剤師が調製した分のみを計上

* 2 外来抗癌剤調製数(治験)は、薬剤師が調製した分のみを計上

* 3 入院抗癌剤調製数(治験を含む)は、薬剤師が調製した分のみを計上

第5節 給食業務

平成21年度から平成23年度までの患者給食の状況は、次表のとおりである。

患者給食実施状況

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		
	総 数	%	総 数	%	総 数	%	
入 院 患 者 延 数	154,884	•	154,352	•	150,036	•	
給 食 数 (配膳延人数)	総 数	115,668	100.0	121,252	100.0	116,994	100.0
	一般食	97,493	84.3	101,263	83.5	93,428	79.9
	特別食	18,175	15.7	19,989	16.5	23,566	20.1
給 食 率	•	74.7	•	78.6	•	78.0	

第6節 血液管理業務

平成21年度から平成23年度までの血液管理業務は、次表のとおりである。

輸 血 状 況

1 血液使用量

(単位：件)

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	総 数	月 平均	総 数	月 平均	総 数	月 平均
自 己 血 液	385	32.1	325	27.1	288	24.0
全 血 液	—	—	—	—	—	—
赤 血 球 製 剤	2	0.2	16	1.33	58	4.8
赤 血 球 濃 厚 液	5,578	464.8	5,396	449.7	5,590	465.8
凍 結 血 漿	934	77.8	684	57.0	1,259	104.9
血 小 板	16,565	1380.4	15,395	1282.9	13,100	1091.7

2 検査件数

(単位：件)

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	総 数	月 平均	総 数	月 平均	総 数	月 平均
ク ロ ス マ ッ チ	3,425	285.4	3,195	266.3	3,299	274.9
血 液 型 (A B O)	3,314	276.2	3,554	296.2	3,656	304.7
R H 因 子	3,314	276.2	3,554	296.2	3,656	304.7
間 接 ク ー ム ス 試 験	9,616	801.3	9,198	766.5	9,576	798.0
抗 体 ス ク リ ー ニ ン グ	6,181	515.1	5,981	498.4	6,259	521.6
直 接 ク ー ム ス 試 験	17	1.4	27	2.3	19	1.6

(注) ・全血製剤は血液200mlを1単位、成分製剤は血液200mlを由来する成分を1単位とする。
 ・直接クーモス試験は平成9年度より、臨床検査部から血液管理部へ移管。

第4章 研究業務

第1節 概要

当がんセンターにおいては、がん患者の診断治療を行うのみならず、がんの研究機関としての研究業務も設置目的に含まれており、病院部門における臨床医学的研究と、研究部門における基礎医学的研究と相まって、当センターの機能を発揮しているが、その研究体制は、研究所における人当研究、病院における課題別研究、病院及び研究所両部門による共同研究並びに受託研究の四つに大別され、各研究テーマの研究が実施されている。

るが、その研究体制は、研究所における人当研究、病院における課題別研究、病院及び研究所両部門による共同研究並びに受託研究の四つに大別され、各研究テーマの研究が実施されている。

第2節 研究業務

第1 病院部門の研究業務

病院における研究は、診断、治療を通じての臨床研究であることはいうまでもないが、課題別研究の形式をとっているため、その課題に関係する医師群等によって行われている。これらの研究には、課題別研究費が充てられるが、その研究

課題は次表のとおりである。

また、これらの研究の成果は愛知県がんセンターとしての全国あるいは地方の各学会に発表しているが、その件数は、21年778件、22年度809件、23年度825件となっている。

病院部門における研究課題

(平成23年度)

	研 究 課 題	研 究 員
1	がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究	稲葉 吉隆 ほか7名
2	治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究	岩田 広治 ほか5名
3	骨軟部肉腫進行例に対する治療法の研究	杉浦 英志 ほか1名
4	早期前立腺がんに対する密封小線源永久挿入療法の臨床的研究	林 宣男 ほか2名
5	病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究	谷田部 恭 ほか5名
6	臨床検査における各種癌診断手法の改善・開発	谷田部 恭 ほか8名
7	トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用	古平 毅 ほか3名

第2 研究所部門の研究業務

当部門における定型的な研究単位は部であり、その構成はおおむね部長1名、室長2名、研究員2名、研究助手1～2名であり、総計9部により研究所を構成している。

また、研究課題についても、これらの室ごとにそれぞれ研究テーマを受け持っているが、必ずしも独立して研究を行うのではなく、部門において相互に有機的な連携をはかり研究を行っており、また「部」においても他部と密接な連携を保ち研究業

務を実施している。

これらの研究に要する経費には、人当研究費が当てられ、その研究課題は次表のとおりである。また、文部科学省の委託による研究も実施している。なお、これらの研究の成果を全国あるいは地方の各学会等に発表した件数は21年度233件、22年度209件、23年度222件となっている。

研究所における部別研究課題

(平成23年度)

部名	研究課題
研 究 所 長	日本と東アジア諸国におけるがんの民族疫学研究
疫 学 ・ 予 防 部	1 がん統計情報の構築に必要な地域がん登録の精度向上を目指した記述疫学研究 2 がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究 3 「健康日本21あいち」に基づく愛知県民のためのがん予防啓発技術の開発研究 4 がん治療の長期予後（効果）に影響する要因の分析
腫 瘍 病 理 学 部	1 難治性がん（難治性消化器がん、呼吸器がん、血液系・神経系腫瘍など）の分子病理学的特徴解析の研究 2 難治性がんに対する分子治療学的技術開発の基盤研究 3 胃がん・大腸がん発生・増殖進展・転移の分子機序の研究 4 病理剖検症例の病理組織学的研究
分 子 腫 瘍 学 部	1 肺がんの発症・進展機序の解明と分子標的療法の探索 2 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究 3 消化器がんの発症におけるエピジェネティクス関与の解明
遺 伝 子 医 療 研 究 部	1 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用 2 造血器細胞の分化、増殖に關与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究
腫 瘍 免 疫 学 部	1 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索 2 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究 3 がん免疫治療についての情報収集と解析
腫 瘍 ウ イ ル ス 学 部	1 ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析 2 遺伝子組み換えウイルスを用いた発がん研究 3 抗瘤ウイルス療法の開発
分 子 病 態 学 部	1 マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究 2 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出
発 がん 制 御 研 究 部	1 中間径フィラメント関連蛋白質を介した発がんの基礎研究 2 プロテインキナーゼを介した発がんの基礎研究 3 抗リン酸化ペプチド抗体の進化 4 ノックアウトマウスの手法を用いた細胞増殖・細胞分化の二律背反に関する研究
中 央 実 験 室	1 食道がん、頭頸部腫瘍の分子遺伝子学的研究

第3 病院・研究所両部門間共同の研究業務

病院、研究所両部門が共同して行う当研究は、共同研究員によって行われるが、その研究課題は次表のとおりである。

1. 病院・研究所両部門による共同研究課題

(平成23年度)

	研 究 課 題	研 究 員
1	肺癌・中皮腫細胞の解析と診断治療法への応用	樋田 豊明 ほか7名
2	機能の温存を目指す頭頸部癌の外科治療	長谷川 泰久 ほか4名

第4 受託研究

当センターでは、薬事法に基づく医薬品の製造販売承認申請等の際に必要な資料の収集のために行われる臨床試験（治験等）及び医薬品の製造販売後調査等を受託している。

受託は「愛知県がんセンター中央病院受託研究取扱要綱」に基づいて実施している。

受託状況は次表のとおりである。

年 度	21年度	22年度	23年度
受 託 件 数	153	158	163
委 託 者 数	37	38	40

第5 特許の状況

当センターでは県民の健康の推進、医療の向上等を目的とした知的財産創造の主要な担い手として、「愛知県試験研究機関の知的財産戦略推進方針」に基づき、優れた知的財産の創出を推進してきた。

特許の状況は以下のとおりであり、平成16年度からは外国出願も行っている。

また、企業への技術移転にも努めており、5件の実施許諾契約を締結している。

区 分		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
発 明 件 数		4	4	6	7	6
登 録 件 数	年 度 当 初	1	3	6	9	15
	新 規	2	3	3	6	4
	権 利 消 滅	0	0	0	0	0
	年 度 末	3	6	9	15	19
実 施 許 諾 件 数	年 度 当 初	3	6	6	7	6
	新 規	4	0	2	0	0
	満 了 ・ 解 約	1	0	1	1	1
	年 度 末	6	6	7	6	5

(注) 出願件数には外国出願、国際（PCT）出願を含む。

第6 科学研究費補助金獲得状況

平成21年度から平成23年度までの科学研究費補助金の獲得状況は、次表のとおりである。

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
件 数	136件	137件	150件

(注) 分担金の配分を受けた研究分担者も含む。

第7 民間企業等との共同研究

当センターが、「愛知県がんセンター共同研究取扱規程」に基づいて民間等と行っている共同研究の実施状況は、次表のとおりである。

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
件 数	24件	26件	21件

第5章 国際交流業務

昭和39年の開院以来、愛知県がんセンターで築かれたがんの診断・治療・研究に関する実績は、国内はもとより国際的にも高く評価されている。さらに積極的にこれ他の成果を世界に伝え、また、外国の情報を収集するために、さまざまな形で医学

の国際交流を深めている。

因みに、平成23年度におけるがんの診断、治療に係る国際協力活動は、受入れ3件、派遣46件、合計49件であり、その概要は、次のとおりである。

がんの診断、治療等に係る国際協力活動状況一覧

1. 受入状況

目的	国名等	部署等	期間	備考
研修	韓国	消化器内科	23.8.1-23.8.26	
共同研究	中国、フィリピン、台湾、アメリカ、ベトナム	疫学・予防部	23.10.2-23.10.6	第3次対がん10か年総合戦略 平成23年度 外国人研究者招聘事業
研修	韓国	消化器内科	24.2.20-24.2.29	

がんの診断、治療等に係る国際協力活動状況一覧

2. 派遣状況

目的	派遣者	派遣先	期間	備考
研究発表	分子腫瘍学部 室長 近藤 豊	アメリカ オーランド	23.3.31～ 23.4.9	102nd AACR annual meeting
研究発表	消化器外科部 医長 金光 幸秀	韓国 ソウル	23.4.1～ 23.4.3	Korea-Japan Colorectal Cancer Symposium
研究発表	分子腫瘍学部 部長 関戸 好孝	アメリカ オーランド	23.4.1～ 23.4.7	アメリカ癌学会総会
研究発表	疫学・予防部 主任研究員 細野 覚代	アメリカ オーランド	23.4.1～ 23.4.8	第102回米国癌学会
研究発表	総長 二村 雄次	南アフリカ共和国 ケープタウン	23.4.10～ 23.4.19	第9回ヨーロッパ肝胆膵学会（EHPBA）大会
情報収集	薬物療法部 医長 設楽 紘平	韓国 ソウル	23.4.22～ 23.4.23	9th International Gastric Cancer Congress
情報収集	薬物療法部 部長 室圭	フランス パリ	23.5.1～ 23.5.8	Preceptorship Program
情報収集	薬物療法部 医長 設楽 紘平	イタリア ローマ	23.5.5～ 23.5.8	Molecular Targeted Therapy of Cancer
共同研究 打ち合わせ	消化器内科部 部長 山雄 健次	アメリカ チャールストン、シカゴ	23.5.5～ 23.5.11	ERCP、EUS共同研究打ち合わせ及び米国消化器病週間
	消化器内科部 医長 脇岡 範 レジデント 小倉 健	アメリカ シカゴ	23.5.6～ 23.5.12	米国消化器病週間
研究発表	内視鏡部 医長 近藤 真也	アメリカ シカゴ	23.5.6～ 23.5.12	米国消化器病週間
情報交換	研究所長 田島 和雄	スイス ジュネーブ	23.5.13～ 23.5.17	国際対がん連合理事会
講演	薬物療法部 医長 高張 大亮	中国 南京	23.5.19～ 23.5.21	2nd Sino-Japanese Summit forum of Gastric Cancer Treatment
研究発表	総長 二村 雄次	スペイン マドリッド	23.5.23～ 23.5.30	第34回国際外科学会
情報収集	薬物療法部 部長 室圭 医長 高張 大亮 医長 設楽 紘平	アメリカ シカゴ	23.6.2～ 23.6.9	ASCO 2011

目的	派遣者	派遣先	期間	備考
研究打ち合わせ及び情報収集	疫学・予防部 室長 松尾恵太郎 主任研究員 細野 覚代	スウェーデン ストックホルム	23.6.12～ 23.6.19	卵巣がん、乳がんに関する疫学研究の国際コンソーシアム
研究発表	遺伝子医療研究部 主任研究員 細野 覚代	スイス ルガノ	23.6.13～ 23.6.20	第11回国際リンパ腫会議
研究発表	疫学・予防部 リサートレジデント 川北 大介	シンガポール	23.7.13～ 23.7.18	第3回国際口腔腫瘍学会
研究発表	疫学・予防部 部長 田中 英夫	スコットランド エジンバラ	23.8.6～ 23.8.12	第19回国際疫学会
情報収集	薬物療法部 部長 室圭	タイ バンコク	23.8.18～ 23.8.21	E7080 Investigator Meeting
招聘講演	遺伝子医療研究部 部長 瀬戸 加大	韓国 ソウル	23.8.21～ 23.8.24	Samsung Medical Center invited seminar
研究発表	薬物療法部 医長 設楽 紘平	韓国 ソウル	23.8.25～ 23.8.26	World Congress on Gastrointestinal Cancer
研究発表	薬物療法部 医長 高張 大亮	アメリカ アーリントン	23.9.14～ 23.9.18	I S G I O
情報収集	薬物療法部 医長 高張 大亮	スウェーデン ストックホルム	23.9.22～ 23.9.28	E S M O
研究発表	薬物療法部 医長 設楽 紘平			
研究発表	消化器内科部 医長 原 和生 レジデント 羽場 真	シンガポール	23.10.1～ 23.10.5	Asian Pacific Digestive Week 2011
研究打ち合わせ及び情報収集	疫学・予防部 室長 松尾恵太郎	中国 西安	23.10.8～ 23.10.11	学振日中韓A3フォーサイトプログラム会議
研究発表	内視鏡部 医長 田近 正洋	スウェーデン ストックホルム	23.10.22～ 23.10.28	欧州消化器病週間
研究打ち合わせ及び情報収集	疫学・予防部 室長 松尾恵太郎	韓国 ソウル	23.11.1～ 23.11.3	アジア環太平洋がん予防学会
研究発表	研究発表 室長 伊藤 秀美			
研究発表	研究所長 田島 和雄	韓国 ソウル	23.11.3	第5回アジア太平洋がん予防学会地方会、特別講演招待
研究発表	研究所長 田島 和雄	韓国 ソウル	23.11.4～ 23.11.6	第4回国際対がん学会、シンポジウム座長、講演
研究発表	研究所長 田島 和雄	マレーシア クアラルンプール	23.11.9～ 23.11.13	第21回アジア太平洋癌学会、基調講演
治験発表	薬物療法部 医長 宇良 敬	アメリカ サンフランシスコ	23.11.12～ 23.11.18	AACR-NCI-EORTC International conference
情報交換	研究所長 田島 和雄	アイルランド ダブリン	23.11.15～ 23.11.20	国際対がん連合理事会、World Cancer Leader'Summit
研究発表	消化器内科部 部長 山雄 健次 医長 脇岡 範 レジデント 長谷川俊之	中国 上海	23.11.18～ 23.11.20	新華医院学会
研究発表	総長 二村 雄次	インド ボパール	23.11.24～ 23.11.28	国際肝胆膵学会（IHPBA）インド支部年次単一テーマ会議：胆道疾患
研究発表	遺伝子医療研究部 部長 瀬戸 加大	アメリカ サンディエゴ	23.12.8～ 23.12.15	第53回アメリカ血液学会
研究発表	分子腫瘍学部 部長 関戸 好孝	中国 上海	23.12.20～ 23.12.24	9th China-Japan Joint Conference of Cancer

目的	派遣者	派遣先	期間	備考
議論及び招請セミナー	遺伝子医療研究部 部長 瀬戸 加大	スウェーデン ストックホルム スペイン バルセロナ スイス ベリンゾーナ	24.1.8～ 24.1.15	1/9～1/10:議論と招請セミナー 1/10～1/12:セミナー 1/13:招請講演
研究打ち合わせ及び情報収集	疫学・予防部 室長 松尾恵太郎	フランス パリ	24.1.15～ 24.1.20	乳がん国際コンソーシアム会議
情報収集 研究発表 研究発表	薬物療法部 部長 室圭 医長 高張 大亮 医長 設楽 紘平	アメリカ サンフランシスコ	24.1.18～ 24.1.23	ASCO-GI
研究発表	遺伝子医療研究部 主任研究員 加留部謙之輔	アメリカ サンフランシスコ	24.1.25～ 24.1.29	第4回T細胞性リンパ腫フォーラム
研究打ち合わせ	疫学・予防部 部長 田中 英夫 リサーチレジデント 中尾 心人	タイ コンケン	24.2.16.～ 24.2.18	コンケン大学医学部生化学講座および寄生虫学講座
研究発表	分子腫瘍学部 室長 近藤 豊	アメリカ ベゼスダ	24.2.22～ 24.2.26	The 15th US-Japan Cellular and Gene Therapy Conference. Epigenetics in Cancer
情報収集	薬物療法部 部長 室圭	デンマーク コペンハーゲン	24.3.8～ 24.3.12	EGFR Advisors'Network (EAN) for mCRC
共同研究	研究所長 田島 和雄	中国 重慶・成都	24.3.20～ 24.3.25	第3軍医大学：共同研究打ち合わせ／四川大学：名誉教授授与式・講義
研究発表	総長 二村 雄次	中国 武漢	24.3.23～ 24.3.26	国際肝胆膵学会（IHPBA）第5回中国支部大会
研究打ち合わせ及び情報収集	疫学・予防部 主任研究員 細野 寛代	アメリカ シカゴ	24.3.28～ 24.4.2	卵巣がん国際コンソーシアム

第6章 部門紹介

第1節 病 院

消化器内科部

消化器疾患（食道、胃、十二指腸、大腸、肝臓、胆嚢・胆管、膵臓）のがんの診断と治療を中心に、（1）安全かつ質の高い医療を提供すること、（2）患者さんの負担を軽減すること、（3）知りえた情報は患者さんと医療スタッフが共有し治療を行うこと、を目標に行っています。

平成23年度入院患者数（延べ人数）の疾患別内訳は、食道がん286例、胃がん（GIST含む）298例、肝がん6例、大腸がん56例、胆道がん129例、膵がん256例などでした。とくに食道がんと膵がんに関しては来院され、入院加療をされる患者さんは中部地方では最も多い施設の一つです。

内視鏡的診断と治療に関しても高いレベルの技術を提供させていただいています。とくに内視鏡を用いた食道・胃・大腸などの消化管がんの内視鏡的切除術、閉塞性黄疸に対する内視鏡的ドレナージ術と超音波内視鏡を用いた胆・膵がんの正確な診断と治療を得意としています。平成23年度の検査実績は、上部消化管内視鏡検査総数4995件（うち検査のみ4029件）、下部消化管内視鏡検査総数2246件（うち検査のみ2010件）、内視鏡的膵管胆管造影検査（ERCP）407回（うち胆道ドレナージは139回）、超音波内視鏡（EUS）1010回、（うち超音波内視鏡下生検；EUS-FNAは316回）でした。

消化器がんに対する内視鏡的治療の診療実績は、内視鏡部部門紹介を参照して下さい。

転移あるいは手術不能な進行がんにおいては常に患者さんのQOLを考慮し、化学療法や放射線治療を行っています。また、全国のがんセンターと協力して抗がん剤の臨床試験を積極的に推進し、一般診療では使用できない新規抗がん剤や既存の抗がん剤を組み合わせる治療を提供しております。平成23年度化学療法、放射線療法実績（年間入院患者数（のべ人数））は、胃がん180例、食道がん132例、大腸がん14例、膵がん118例、胆道がん43例でした。

若手がん研究者の育成をめざしてレジデント、数多くの国内・国外からの研修、見学を受け入れています。本年度はレジデント4名の研修医を受け入れました。さらに国内・国外（韓国）から18名の短期見学者を受け入れました。

また、研究の成果は学会発表92件（国内75件、海外17件）、論文数65件（和文41件、英文24件）などを通じ積極的に公表しています。

内視鏡部

当部は2005年4月に開設されました。内視鏡検査・内視鏡治療の高度専門化に伴い、消化器内科部のスタッフの一部を内視鏡検査・治療の専任とし、この分野のさらなる発展を目的として立ち上げられました。専任スタッフは4人ですが、消化器内科部のスタッフの5人は内視鏡部も兼任しており、実際の検査・治療は消化器内科部・内視鏡部が一体となって行っています。

当部の目標は、苦痛のない正確な診断と安全確実な内視鏡治

療です。食道癌・胃癌・大腸癌などの消化管の癌の早期発見はもちろん、色素を散布した内視鏡検査や拡大内視鏡・超音波内視鏡などを用いて癌の広がりや深さの診断を精密に行います。NBI（narrow band image）やFICE（Flexible spectral Imaging Color Enhancement）などの新しい画像強調診断法を積極的に取り入れています。また苦痛のないように鎮静剤や経鼻内視鏡用の極細径内視鏡を適宜使用して行います。消化管造影検査については精密検査も担当し、多角的に診断できるようにしています。消化管の癌の内視鏡切除は、外科手術に比べて体に変やさしい治療法です。この方法を行う場合には、適応・方法・合併症などを十分説明し、ご理解いただいた上で行います。なお、胆膵疾患の内視鏡診断（内視鏡的胆膵管造影、超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下穿刺生検）・内視鏡治療（乳頭切開、乳頭切除、胆管ドレナージ）は消化器内科スタッフが中心となり行っています。

診療実績は、平成23年度の食道・胃・大腸の内視鏡検査数と内視鏡治療数は、上部消化管内視鏡検査4,894件、下部消化管内視鏡検査2,246件、食道癌内視鏡切除48件、胃癌内視鏡切除92件、大腸癌・ポリープ内視鏡切除329件、内視鏡的消化管狭窄拡張術277件などとなっています。検査数・治療件数いずれの数字も年々増加傾向にあります。胃癌に対する内視鏡切除は、2003年より内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を導入し、食道においても年間20例以上に行っています。大腸ESDは先進医療として35例に施行し、これまで合計200例以上に施行しました。最近では頭頸部外科とともに咽頭癌の治療をELPS（内視鏡的咽喉頭手術）によって15例施行し、今後も拡大していく予定です。内視鏡部は、消化管癌における治療を各科と連携して内視鏡治療、外科治療、抗がん剤治療、食道癌に対しては放射線治療などを駆使して集学的に行っています。

研究面ではJCOG（日本臨床腫瘍グループ）による臨床試験（食道癌、胃癌、消化器内視鏡、大腸癌）に参加しています。胃MALTリンパ腫に対するヘリコバクターピロリ除菌後の長期経過、各内視鏡治療後の予後、バイオマーカーであるHER2と胃癌の内視鏡所見と組織像との対比および新しい診断法の開発について海外学会での発表、論文発表を行っています。

呼吸器内科部

呼吸器内科部では、肺がん、胸膜中皮腫をはじめとした呼吸器腫瘍の診断と内科的治療を担当している。肺がんは増加の一途をたどっており、現在の年間死亡数は7万人にも上り、近い将来10万人を越えることが予測されている。

診断に関しては、診断に難渋する診断困難例の紹介が多いのも当科の特色と考えられるが、診断困難例に対しては、超音波気管支鏡による診断に加え、放射線診断部とCTガイド下生検を行い診断を確定する場合や、食道・胃からアプローチ可能な胸部・腹部リンパ節や副腎腫瘍の診断には消化器内科部で消化管からの超音波ガイド下生検を行い診断を確定する場合など、病院各部と密接な関係が構築できている。さらに、現在では肺

がんの治療は遺伝子検査を施行し、その結果に基づいて行われるが、呼吸器内科では、遺伝子病理診断部と密接に連携し短期間で遺伝子診断を確定し、すみやかに治療を開始している。

肺がんの治療は、外科手術、抗がん剤による化学療法、放射線療法が3本柱とされているが、内科的治療としての化学療法の占める割合が大きくなっている。その理由は早い時期より肺がんは転移をすることが多く、全身療法としての化学療法が多く症例に必要なためである。放射線治療が適応になる場合には放射線治療部と、手術に関しては呼吸器外科と密接に係わり、最善の治療を目指した集学的治療を行っている。進行肺がんに対する標準的治療は十分確立されたものではないが、呼吸器内科では厚生労働省肺がん研究班（JCOG）や西日本がん研究機構（WJOG）のメンバーとして治療法の開発を目指した臨床研究を行っている。がん薬物療法専門医による専門性の高い、繊細で患者さん本位の医療が行えるように心がけ、エビデンスに基づいた標準的治療を迅速かつ確実に提供するとともに、抗がん剤の臨床治験では、有望な分子標的薬や新規抗がん剤をいち早く患者さんに提供している。

基礎研究面では、肺がんの発生や増殖のメカニズムについて急速に知見が蓄積されつつあり、がん細胞の増殖を抑える分子標的薬による新しい治療法も開発されている。呼吸器内科では、患者さんに最新で最良の治療を提供するとともに、新しい薬剤の肺がん治療への応用について研究所と共同研究し、基礎研究で得られた成果をいち早く臨床に還元していきたいと考えている。

血液・細胞療法部

血液・細胞療法部は、当センター設立当初より開設されていた血液化学療法部が、平成15年4月1日の組織改編により名称が変更された部門であり、悪性リンパ腫、白血病、骨髄腫などの造血器腫瘍に対する化学療法、抗体療法などの薬物療法と、自家もしくは同種造血幹細胞移植併用の大量化学療法などの細胞療法を専門とする診療科である。化学療法、新薬治験から移植まで全ての治療法に対応している。外来診療は新患、再来ともに毎日行っており、入院治療は6西病棟を中心に、癌の化学療法、移植療法、疼痛治療に精通した看護スタッフとともにしている。化学療法（特に、初発例の化学療法）、抗体療法は、最近ではできる限り外来治療で実施することを原則としている。

基本方針として、医学的に十分な根拠（エビデンス）と各種ガイドライン・臨床実績に基づいた最適で最新の治療法を治療方針（Decision Tree）としてまとめ、どの患者さんにも、症例・病状に対応したきめ細かい適切な治療を、個々の医師の判断のみでなく診療科として責任を持って提供できるようにしている。

Japan Clinical Oncology Group (JCOG)、厚生労働科学研究造血細胞移植研究班、日本骨髄バンク、Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)などに積極的に参加し、わが国における造血器腫瘍の診断・治験・臨床研究の推進に主導的な役割を担うとともに、臨床検査/遺伝子病理診断部、研究所の腫瘍免疫学部、遺伝子医療研究部、疫学・予防部と三位一体となりトランスレーショナルリサーチを推進している。

薬物療法部

近年のがん治療における薬物療法（抗がん剤治療）の進歩は著しく、がん薬物療法の専門家（腫瘍内科医）が化学療法を実践していくことの必要性が叫ばれている。私どもは4名のスタッフと1名のレジデントの計5名という少ないスタッフ数ではあるが、がん薬物療法の専門家として少数精鋭で積極的に治療を行っている。

診療領域は、食道癌、胃癌、大腸癌といった消化管癌の化学療法、化学放射線療法を中心に、その他、原発不明癌、頭頸部癌、胚細胞腫瘍などの固形癌に対する化学療法を行っている。最近では新薬の第I相試験に力を入れている。外来診療は新患、再来ともに毎日行っており、入院治療は4階西と6階西病棟を中心に行っている。最近の抗がん剤治療は外来治療が主となっているが、入院での治療に関しては、癌の化学療法・疼痛治療・緩和医療に精通した薬剤部や看護スタッフ、MSWらと共に診療に当たっている。

当科で行う薬物療法はエビデンスおよび最新の知見に基づいて治療を行っており、がん専門病院として他科（消化器外科、胸部外科、消化器内科、放射線診断・IVR部、放射線治療部、病理部）と緊密な連絡をとり、総合的な医療を提供している。基本的に確立された標準的薬物療法を行っているが、さらに優れた治療法の開発を目指した臨床研究（JCOGの公的臨床試験やWJOGの臨床試験、企業主導の治験、院内あるいは専門施設での自主研究など）にも積極的に取り組んでいる。また標準的治療が確立されていないがん種や一般的な治療が無効になってしまった場合には、新規抗がん剤や分子標的薬などの臨床試験を行い、新しい治療法や新薬の開発に努めている。

当科は抗がん剤治療を提供するとともに、院内での外来化学療法、入院化学療法が安全かつ適正に遂行されるために主導的な役割を担っており、化学療法チームを組織している。県のがん診療連携拠点病院として、特にがん薬物療法の地域のリーダーとして新たな治療開発とともに均てん化に取り組んでいる。

臨床検査部

臨床検査部は、がんセンターの基本理念及び臨床検査部の理念に基づき、がん専門病院の診療を支える精度の高い検査結果を提供すると共に、診察前検査に対応した迅速検査報告体制をとっています。また、時間外緊急検査には夜間の宿直体制、休診日の日直体制で対応しています。

部は2科8部門から構成され、血液検査部門では、血球数算定検査、凝固・線溶検査、骨髄検査の他に、白血病や悪性リンパ腫を対象とした細胞表面抗原解析を行っています。腫瘍細胞に特徴的な表面抗原を検出することで、診断および治療に伴う残存腫瘍の追跡に役立っています。

生化学・血清検査部門では、生化学的あるいは免疫学的手法による各種分析装置を使用し、血中の各種物質を精度よく迅速に測定しています。これらの結果により患者さんや疾患の状態を把握することができ、診断、治療、経過観察に役立っています。特に腫瘍マーカー検査は、がん細胞と直接関連する分子を測定し、がんの診断、進展状況や治療効果の判定に不可欠となっています。

一般検査部門では、尿を材料とした尿一般検査（蛋白質、糖、

潜血など)や尿沈渣(尿中の細胞成分や固形成分を調べる)があります。便の潜血検査や胸水・腹水などの穿刺液の検査も行っています。

生理検査部門では、主に手術前やがんの化学治療前後の心肺機能評価を目的とした心電図、運動負荷試験検査、心臓超音波検査、肺機能検査を実施しています。また乳腺超音波検査・聴力検査・ピロリ菌呼気試験なども行っています。

病理検査部門では、生検組織・手術摘出臓器の病理組織標本の作製と術中迅速病理検査を行っています。原発不明がんや転移性がんの鑑別、がん関連遺伝子産物や関連ウイルスの検索、悪性リンパ腫などに対する免疫組織学的検索など、診断から治療方針の決定に重要な役割を果たしています。

遺伝子検査部門では、遺伝子を用いて腫瘍における遺伝子変異による診断を行っています。また、新しい治療薬である分子標的薬の治療感受性予測の検査をはじめとした有用な遺伝子診断項目の拡充を図っています。

細胞診検査部門では、尿、子宮頸部および内膜材料、体腔液、喀痰などを対象とした通常の細胞診の他に、手術中の胸腔あるいは腹腔洗浄液の迅速検査、超音波内視鏡下での穿刺吸引材料の迅速検査の実施で診療支援を行っています。また穿刺吸引細胞診の実施時にはベッドサイドに技師が赴き標本作製し、質の高い標本作りに努力し診断精度向上に貢献しています。

細菌検査部門では、抗がん剤投与や骨髄移植などで免疫機能の低下した患者さんの感染症に特に眼を向けて検査を行っています。また、院内感染対策チームの一員として、検出菌情報、耐性菌情報を提供し、抗菌薬の適正使用や、アウトブレイク(集団発生)を防ぐための一翼を担っています。

遺伝子病理診断部

遺伝子病理診断部は、外来・入院部門を持たない特殊な診療科です。そのため、患者さんとは直接接する機会はありませんが、診断に関わる重要な三つの診断業務(病理組織診断、細胞診、遺伝子診断)を行っています。その内容は、生検で腫瘍の性質を判断し臨床医師に伝え、治療が効果的に行われているかを第三者的な目で判断する重要な役割を果たします。

この重要な業務について、中央病院のみならず、愛知病院、尾張診療所も含めた、愛知県がんセンター全体の病理診断を担い、安全、的確で迅速な診断を遂行することを通じて医療の質を高めることを目標としています。

1. 病理組織診断

平成23年は、中央病院約8000件、愛知病院2500件の病理診断を行っています。そのほとんどが腫瘍性疾患であり、件数が同等の一般病院とくらべて作業量はその数倍にのぼります。術中迅速検査数が多いのも特徴であり、年間述べ1800件・一日平均延べ7~8件をこなしています。また、細分化、専門家が進む各科の要求に対応するため、高度で専門化された病理診断を遂行しています。このほか、免疫組織化学法も開発当初より積極的に取り入れ、原発不明がんや転移性腫瘍の診断、造血器腫瘍の診断、腫瘍の悪性度診断に役立てています。また、遺伝子診断のための組織固定包埋方法の開発や穿刺細胞診からのセルブロック標本の作成も平行して行っています。

2. 細胞診

平成23年には、中央病院約6000件、愛知病院約1300件の細胞

診のうち、診断医に回る件数は半数以上であり、さらにその約半数近くが偽陽性以上を占めます。すなわち全体としておよそ1/4の症例が偽陽性もしくは陽性であり、がんセンターの特徴を良く表わしています。特に乳腺腫瘍の細胞診は年約1000件前後を占めるとともに、手術適応、術式決定について重要な情報を提供しています。細胞診は簡便で、迅速な診断法であり、必要な場合には検体採取当日の報告も積極的に行っています。さらに、臨床医とのその場での細胞量のチェックや詳細な臨床情報交換を通じて、診断精度を上げる試みも行っています。

3. 遺伝子診断

当部の特徴の一つとして、院内で多数の遺伝子解析を施行していることを挙げるができます。国内でも高い水準を誇り、肉腫の診断はもとより、分子標的療法の効果予測(肺癌におけるEGFR-TKIs、大腸癌におけるセツキシマブ、乳癌・胃癌におけるトラズマブなど)を中心にを行っています。これらの結果について年間1800件のレポートを提出しています。この実績から、多数の見学者や研修者を受け入れると同時に、これらの結果をもとにした研究成果は海外でも高く評価されています。

頭頸部外科部

頭頸部の「頭」は「顔面頭蓋」を意味しています。当診療科の担当する解剖学的レベルは頭蓋底から鎖骨までになります。従いまして、私どもの領域は従来の耳鼻咽喉科とほぼ同義であります。眼科領域、脳神経外科領域および脊椎を除く頭部、頸部臓器の腫瘍性疾患を扱っております。鼻、副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、唾液腺、甲状腺、副甲状腺、頸部食道、顔面頸部皮膚、さらにリンパ組織の腫瘍性疾患の治療にあたります。

当科の人員構成は部長の長谷川泰久をはじめ、医長の花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典さらにレジデントが現在6名在籍しており、総勢11人で日々の診療にあたっております。長谷川は部長として科全体を統括し、入院患者の主治医はスタッフ5人がレジデント6人と共に担当しています。外来は月から金の週5日で、その内の月、水、金には初診と再来の2診、火、木は初診再来1診、金にはセカンドオピニオン外来を行っています。検査日は月水午後は生検術等、月午後と金午前は超音波検査です。

頭頸部癌の治療については、歴史的に拡大手術による治療成績の向上の時代を経て、今日では、根治性を損なわない縮小手術、機能温存手術、また、化学療法および放射線治療による臓器温存治療へと治療戦略がシフトしてきております。私どもは頭頸部外科であり、外科的治療が私どもの仕事で最も大きなウェイトを占める部分ではありますが、積極的に化学療法を取り入れ、当院の放射線治療部と協力し、放射線治療を取り入れ可能な限り臓器温存、ないし手術が必要な場合でも縮小、機能温存手術に努めております。常に、治療を受ける方の根治性と生活の質を念頭において日々の診療を行っています。平成23年度は他科の手術に協力した例を含め、約550例の手術を行いました。

研究面では、頭頸部領域における厚生省班研究に積極的に参加し、臨床治験も数々手がけております。当科におけるオリジナルの研究としましては、薬物療法バイオマーカーの研究、口腔咽頭癌におけるセンチネルリンパ節生検術ナビゲーション手術の研究、咽喉頭癌に対する経口的切除術による機能温存など

が主なテーマであります。また、これらにとどまらず、日々の臨床をテーマにした研究も行い、全国学会等で積極的に発表、論文の投稿を行っております。平成23年度の業績は学会および研究会発表が40件、論文が欧文5篇と邦文5篇の10編でありました。

今後も患者さまの利益につながるよう、臨床、研究ともに日々努力を続けていきたいともいます。

輸血部

愛知県赤十字血液センターから供給される輸血用血液製剤主に赤血球製剤、血小板製剤、血漿製剤の確保から保存、支給までを一元的に管理している。輸血の検査項目としては血液型検査、赤血球製剤を輸血する場合の交差適合試験、赤血球がすでに不完全抗体で感作されているか否かを確認する直接抗グロブリン試験、赤血球に対する抗体スクリーニング（間接抗グロブリン試験）などで、人による過誤を減らすため自動輸血検査装置を用い、より安全性の高い輸血検査を実施している。

血液のがんなどに有効な治療法として末梢血幹細胞移植が行われるようになってきた。これは従来、血液幹細胞として骨髄から採取されてきたが、末梢血にも流れていることが明らかになり、血球成分採血装置を用いて腕の静脈から採取する方法である。その採取、分離、保存を血液・細胞療法部とともに実施している。

また、愛知県赤十字血液センターの協力を得て、輸血に関する情報の収集や輸血副作用の原因究明などを行っている。年に数回、輸血委員会を開催し輸血事故防止や適正な輸血について話し合いの場を設けている。平成13年度から臨床検査部と協力して24時間体制で時間外の緊急輸血に対応している。

形成外科部

形成外科は、身体外表の形状変化に対して、外科手技によって機能・形態を正常に近づけることにより、個人が社会に適応することを目的としています。

たとえば、舌癌により舌の大部分を切除された場合でも、大腿部や腹部の皮膚を含めた組織（遊離皮弁）を移植することにより、残った舌の動きを妨げず、食事や会話をすることが可能になります。また、乳房再建では、一人一人の希望に合わせた再建をこころがけ、乳癌術後の生活の質がなるべく保たれるよう手術を行っています。

当院の特徴として、他科と共同で手術を行うことが多く、口腔癌や咽頭癌切除後や乳房切除後、四肢・体幹の腫瘍切除後に、体のさまざまな部位から皮膚・皮下組織、筋肉、骨、腸などを移植する再建手術を行っています。

I) マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）を用いた再建

舌癌の手術では、舌の半分～大部分を切除されてしまうことがあります。大腿部や腹部の皮膚を含めた組織（皮弁）を移植することにより、残った舌の動きを妨げず、食事や会話をすることが可能になります。大腿部や腹部のなどの頸部からはなれた部位から移植する場合、皮弁が口やのどで生着するためには、顕微鏡下の血管吻合術が必要となります。2011年4月～2012年3月の1年間に111件のマイクロサージャリーを用いた再建を行いました。

II) 乳房再建

乳腺科と協力し乳腺全摘術後の乳房再建術を行っています。

乳房再建術は、主に2通りの再建方法があります。腹部や背部の皮膚や皮下脂肪等の自家組織を用いる方法と、インプラントによる人工物を用いた方法です。それぞれ特徴があり、患者さんの希望や適応に添った方法が選択されています。年々再建を希望される患者さんが増えており、当科では平成23年度79件の乳房再建関連手術をおこないました。

III) 瘻痕や変形に対する治療、創治癒遅延に対する治療

手術後の傷跡や変形が気になる方の修正や傷跡がケロイド状になった方の治療なども行っています。また、褥瘡に関しても、コメディカルスタッフと共同で治療に関わっています。

IV) リンパ浮腫の治療

現在、月に一回ほどリンパ浮腫外来の診察を担当させていただいています。

他のリンパ浮腫外来を担当している先生がたと相談し、外科的治療の適応のある患者さんに対しては、リンパ管静脈吻合術を行っています。

現在形成外科部はスタッフ2名、レジデント1名の体制で診療に当たっています。今後さらに臨床に即した研究を行い、よりよい再建手術が行えるよう研鑽して参りたいと思っています。

呼吸器外科部

胸腔内臓器の悪性腫瘍の診療、すなわち原発性肺癌、転移性肺腫瘍、および縦隔腫瘍等の外科治療を中心に、薬物療法から緩和医療まで担当している。平成24年7月現在、スタッフは波戸岡俊三（集中治療部長）、宇佐美範恭、伊藤志門の計3名である。これに加え、シニアレジデントとして小林祥久、レジデントとして富沢健二、千葉真人、森俊輔の4名が診療を行っている。

日本の癌死亡原因の1位は肺癌であり、これを反映して当科の肺癌手術症例は増加傾向にある。平成10年に初めて100例を超えた切除症例数は平成19年には200例を突破した。平成23年は206例、呼吸器外科手術全体では278例で、転移性肺腫瘍41例、縦隔腫瘍8例の手術を行った。1995～2005年の肺癌切除症例においてステージごとの5年生存率はIA、IB、IIA、IIB、IIIAでそれぞれ91、81、69、52、37%、1999年の全国集計13010例の83、66、61、47、33%と比して遜色ない成績を誇っている。

肺癌は固形癌の中でも代表的な難治癌であり、新たな治療戦略を構築していく必要がある。このためには多施設共同で臨床試験を行っていくことが必須であり、われわれはJCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）やWJOG（西日本がん研究機構）などの日本を代表するがん臨床研究グループの中核的メンバーとして活動している。

他癌種と同様に肺癌に対しても分子標的薬がつつぎと臨床応用されつつある。ゲフィチニブ（イレッサ）やエルロチニブ（タルセバ）は上皮成長因子受容体（EGFR）のチロシンキナーゼに対する選択的阻害剤で、EGFR遺伝子の突然変異を有する患者（肺腺癌の一部）に劇的な効果を示す。われわれは遺伝子病理診断部とともにこの発見の重要性にいち早く注目し、EGFR遺伝子変異のゲフィチニブの効果予測因子としての意義を追試して専門誌に発表するとともにEGFR遺伝子検査を実地

臨床に取り込んだ。遺伝子情報などでがんの個性を明らかにし、投与に適切な患者さんを選択することで、最小の負担で最大の効果が得られる医療を提供できると考えている。

乳腺科

平成23年度は岩田広治、藤田崇史、澤木正孝（平成23年4月から）、服部正也、近藤直人、堀尾章代のスタッフ6名と、足立、牛尾、権藤のレジデント3名の体制で診療にあたった。乳腺科の特徴は外来診療がメインであり、手術や全身状態の悪い方の入院など特殊な場合を除き、化学療法などもすべて外来で行っている。一日の外来患者数が100人を超える日も多く、多くの紹介患者を含め新患者が1日20人を超えることも稀にある。乳腺科は、乳癌の診断から手術、薬物療法、再発治療まで、トータルに乳癌診療を担当している。

診断では、堀尾、近藤がマンモグラフィ読影資格のA判定をもち読影を担当、超音波検査は検査技師が毎日午後に行っている。マンモグラフィ検診の普及に伴い、非触知病変の確定診断の重要性が増してきた【ステレオガイド下マンモトーム生検：97例、超音波ガイド下マンモトーム生検：202例】。非触知乳がんの低侵襲な診断（細胞診、マンモトーム生検）に努めることにより、平成23年は乳癌手術患者の約15.8%が非浸潤癌であった。

手術は、平成23年の乳癌手術患者数が405人と年間の乳癌手術患者数が昨年度を上回り、温存率は44.9%であった。センチネルリンパ節生検は1999年から当院で行ってきた研究等の実績により、2010年に保険適応となった。平成23年は、これによる腋窩リンパ節郭清省略が温存術群では84.6%、乳房切除群でも65.4%になっている。また平成23年は乳房再建手術が開始4年目で29例に1期再建手術が行われ、同時再建の件数が年々増加している。

薬物療法に関しては、術前療法症例が年々増加している。平成23年度の術前化学療法は医師主導臨床試験へ主に登録し、術前ホルモン療法は閉経後の方のC-SPOR-06（NEOS）試験へ登録した。術後薬物療法に関しては世界的なエビデンスに基づき当院の独自の治療指針を作成し、地域の先生方の好評を得ている。再発治療では、様々な関連科（整形外科、放射線治療部、放射線診断部、脳外科、循環器科など）と密な連携を保ちながら、co-medicalとも連携し、チームアプローチを実践している。平成23年度も乳癌看護認定看護師2名の活動が院内で周知され、外来と入院での継続したチーム医療がよりスムーズに行え、毎週開催される再発カンファレンスは入院早期からの方針決定の場として定着した。術前、術後、再発治療を通じ、日本あるいは世界との共同試験として、多数の治験、臨床試験に参加している。

このような日常業務で忙しい毎日であるが、乳癌学会をはじめとする各種関連学会にはスタッフ、レジデント共に積極的に発表し高い評価を得ている。また、地域の活性化のために、TBCRGという東海地区の臨床試験グループを立ち上げ、事務局を当院において臨床試験を行っている。さらに、新しい治療手段の確立の為に、術中照射や腋窩リパースマッピング法の確立に関する研究も行っている。

消化器外科

消化器外科は、腹腔内消化管及び肝胆膵領域の悪性腫瘍を診療対象としてきました。平成23年度より胸部外科から食道グループが消化器外科に編入され4診療グループとなり、5月には清水泰博が部長に就任し、新体制で消化器がん全般の外科診療を行っております。平成23年度のスタッフは食道外科（安部哲也、植村則久）、胃外科（伊藤誠二、三澤一成、伊藤友一）、大腸外科（金光幸秀、小森康司、木村賢哉）、肝胆膵外科（清水泰博、佐野力、千田嘉毅）で、さらにシニアレジデント2名（金城和寿、川合亮佑）とジュニアレジデント4名（服部憲史、大澤高陽、二宮 豪、今井健晴）が加わり、診療・研究にあたりました。

平成23年度も院内では消化器内科、内視鏡部、放射線診断部、薬物療法部と、また院外では診療所、他病院の医師との連絡を密にし、患者紹介された際には速やかに手術を行い、化学療法などの次のステップに移行できるように努力しています。

診療面では手術枠の有効利用に努め、1年間に826件の手術を行いました。これは病院全体の手術件数の35%にあたります。愛知県がんセンター中央病院での治療を希望される方の待機時間を短縮するように努力をしています。また、病院全体として浸透してきているチームケア、クリニカルパスの充実を図り、合併症や医療過誤のおきにくいシステム作りに努めています。研究面においては、学会発表109件、論文発表48編（うち英文31編）でした。

食道グループでは昨年度75例の手術を行いました。専任スタッフ2名で担当しており、手術待機期間も短縮し、手術単独の方では2～3週間程度、術前化学療法後手術の方では、化療後の待機期間はほとんどなく手術が可能となっています。放射線化学療法後サルベージ手術や局所高度進行食道癌に対する3剤併用術前化学療法後手術も積極的に行っています。また平成23年12月より腹腔鏡補助下胃管作成術を開始し、平成24年度からは食道表在癌に対して、胸腔鏡下食道切除術をおこなう予定です。

胃グループでは昨年224例の胃癌手術を行いました。胃癌治療ガイドライン第3版では、大動脈周囲リンパ節転移症例や腹膜転移症例はStage4で全身化学療法が標準治療となりました。しかし、当科では、術前化学療法+外科的切除や腹腔内化学療法の比較的良好な治療成績を踏まえて、大動脈周囲リンパ節転移例に対するDocetaxel + CDDP + TS-1（DCS）術前化学療法+胃切除術（JCOG1002試験）や、腹膜転移例に対するTS-1 + Paclitaxel 経静脈・腹腔内併用療法（Phoenix-GC試験）を臨床試験として行っています。また、Stage IBまでの胃癌に対しては、患者さんに負担の少ない手術として、腹腔鏡下手術（幽門側胃切除、全摘、噴門側胃切除）を積極的に行っており、進行度に応じて、様々な治療法を提供できるようにしております。

大腸グループは昨年度374例の手術を行いました。進行癌には徹底したD3郭清を伴う手術を基本とし、高い治癒率を得ています（特に直腸癌の5年生存率は、大腸癌全国登録がⅢa期：65%、Ⅲb期：47%であるのに対し、当グループではⅢa期：83%、Ⅲb期：61%）。最近では肛門から5cm以内に癌があっても肛門を温存する術式（ISR）を試み、2007年からの3年間で永久的な人工肛門が必要になった症例は、直腸癌全体でわずか11%に過ぎません。また、Stage I までの結腸癌、直腸S状部癌

に対しては腹腔鏡下手術を積極的にいき、直腸では早期癌や大きな腺腫に対して東海地方で唯一経肛門の内視鏡下マイクロサージェリー（TEM）が行える装置を備え、少ない侵襲による手術を施行しています。再発手術も積極的にいき、直腸癌局所再発に対する再切除のR0率は62%、R0例の5年生存率は43.3%と良好な成績を得ています。

肝胆膵グループは昨年153例の手術を行いました。膵頭十二指腸切除（PD）は消化器外科領域で最も難度の高い手術のひとつであり、手術関連死亡の多くは術後膵液瘻に起因するものと言われています。当科では年間30例以上のPD症例があり、膵液瘻の発生を低下させるために術式、術後管理に様々な試みを行ってきました。その結果、平成23年の膵液瘻は従来の52%から29%へ減少しました。また、平成24年4月には診療報酬改定により腹腔鏡下膵尾側切除術が新たに保険収載される予定です。適応は良悪性境界病変に限られますが、当科では以前より経験症例も多く、安全に施行可能です。疾患の特性上、若年女性も多いため今後は積極的に腹腔鏡下手術を導入する予定です。4診療グループともにJCOGを始めとする多施設の共同臨床試験に積極的に参加し、手術や化学療法のエビデンス作りに取り組んでいます。

整形外科部

整形外科部は外来部整形外科から平成15年6月より整形外科部として独立し、現在常勤2名のスタッフと1名のレジデントで臨床および研究を行っている。平成23年度の実績については、外来患者数は年間で8,072人であり、その内新患患者は216人で、約60%が紹介患者であった。再来患者は3,357人、入院患者の依頼診察は747人、リハビリテーション依頼診察3,752人であった。これらの患者のほとんどが原発性骨軟部腫瘍あるいは癌の骨転移患者である。平成23年度の手術件数は年間146件であり、その内骨悪性腫瘍広範切除術19件、骨良性腫瘍切除術9件、軟部悪性腫瘍広範切除術28件、軟部良性腫瘍切除術54件、その他36件であった。原発性骨悪性腫瘍の5年生存率は67.3%、原発性軟部悪性腫瘍の5年生存率は79.2%とその予後は海外データと比較しても良好な成績である。しかしながら初診時転移を呈していた症例では予後は厳しく、このような症例に対しては末梢血幹細胞移植を併用した超大量化学療法や分子標的治療としての臨床治験を行っている。骨肉腫の治療に関しては抗がん剤治療を手術と併用することで、初診時に遠隔転移がない症例の5年生存率が約90%、無病生存率が約70%、患肢温存率85%である。切除後の再建には顕微鏡を使つての自家複合組織移植術や、罹患骨を再利用する温熱処理骨移植というユニークな手術を行っており、これらの成果を学会で報告している。また、進行性や転移性の原発性骨軟部腫瘍患者を対象とした治験や骨肉腫やユウイング肉腫に対する臨床試験も積極的にいき、JCOGにも参加している。なお、当科外来で圧倒的に多いのは、患者の7割を占める骨転移であるが、骨転移患者の治療の第一選択は手術ではなく放射線治療や薬物治療であり、各科と連携しながらそれらの治療向上に力を入れている。研究面においては、研究所と協力して、文部科学省科学研究費基盤研究「骨肉腫転移阻止の為の血管新生抑制剤と抗体投与による併用療法の開発」についての基礎的研究を行っている。これらの研究の成果を今後の臨床にも還元していきたい。

泌尿器科部

泌尿器科は、スタッフ3名で診療を行っている。平成22年度の手術件数は165例で、67例の全身麻酔手術、98例の腰椎麻酔手術を行った。全身麻酔手術の内訳は、根治的前立腺全摘術が42件、根治的腎摘術が12件、腎部分切除術が4例、尿管摘出術が2例、根治的膀胱全摘術が5件、精巣癌の後腹膜リンパ節廓清術が1例、子宮頸癌術後の膀胱尿管新吻合術が1例であった。腰椎麻酔手術では、経尿道膀胱腫瘍切除術が45例、密封小線源永久挿入療法が24例、前立腺Saturation Biopsyが16例、男性の尿管ステントカテーテル交換が7例、尿管鏡検査が2例、高位精巣摘出術、精巣上体切除術、陰嚢水腫根治術、膀胱ランダム生検が各1例であった。手術件数から明らかのように、愛知県がんセンター中央病院泌尿器科の診療の特徴は、前立腺がんと膀胱がんが中心となっていることである。

前立腺がんに関しては、手術治療以外の根治療法として、放射線治療部と協力し、強度変調放射線治療（IMRT：総照射量78グレイ）やヨウ素125密封小線源永久挿入療法を行っている。手術治療は年間40～50例と症例数は安定している。平成24年度からは、腹腔鏡下小切開前立腺全摘術に移行する予定である。

強度変調放射線治療は年間60～70例、ヨウ素125密封小線源永久挿入療法は年間20～25例を行っている。また、根治的前立腺全摘術後の局所再発に対しても、三次元照射法による放射線治療（総照射量66グレイ）を第一選択として行っている。前立腺がんに対する全ての保険適応の治療が愛知県がんセンター中央病院で可能である。

膀胱がんに関しては、表在性であれば経尿道膀胱腫瘍切除術を、浸潤性であれば根治的膀胱全摘術を基本的に行っている。表在性膀胱がんは、術後再発の頻度が高いので、抗癌剤（マイトマイシンC）やBCGの膀胱内注入療法を再発予防の目的で施行している。また、膀胱全摘術後の尿路変更も自然排尿型回腸新膀胱造設術、回腸導管造設術および尿管皮膚瘻造設術の適応基準を決めて選択している。

平成24年度からは、腎癌に対して腹腔鏡下根治的腎摘除術や腹腔鏡下小切開腎部分切除術を積極的にいき、方針である。

婦人科部

婦人科部では女性性器に発生する悪性腫瘍の診断・治療を行っており、主に取り扱う疾患は子宮頸がん・子宮体がん・卵巣癌で、平成23年の初回治療症例数は各々122例・54例・32例で、これ以外に外陰がんや膣がん2例を治療した。この様に当院には国内有数の婦人科悪性腫瘍の症例数があり、現在東海地方の中核病院である。部内では手術や化学療法を中心にいき、放射線治療は放射線治療部と連携して行っている。子宮頸がんに対する主な手術は子宮頸部円錐切除と広汎子宮全摘術で、子宮体がんには主に準広汎子宮全摘術、卵巣癌には卵巣癌根治手術を行っており、昨年の手術施行数は子宮頸部円錐切除術が94例、広汎子宮全摘術が60例、準広汎子宮全摘術が47例、卵巣癌根治手術が32例であった。他に良性?境界悪性卵巣腫瘍に対する付属器摘出術4例、初期の子宮がんや子宮肉腫に対する腹式子宮全摘術14例、子宮頸部異型上皮や初期子宮頸がんに対する膣式子宮全摘術11例、外陰がんに対する外陰腫瘍切除1例、腹腔内再発に対する再発腫瘍切除を1例、再発腫瘍に対する骨盤内蔵

全摘術を0例施行している。放射線治療は、子宮頸がんの中でも進行症例や手術により子宮外病変が確認された症例に対し行っている。放射線治療時にはその効果を高めるために積極的に化学療法を併用し、進行癌の治療成績向上に努めている。化学療法は、主に子宮体がんや卵巣がんの手術後追加治療として使用し、進行症例に対する手術前化学療法も積極的に行っている。再発症例の場合には疾病の治療が難しいため、十分な説明と同意を得た上で延命を目的とした化学療法も行っている。診療にあたり、看護師や薬剤師など他のスタッフと連携し、また十分な説明機会を設けるなどして、患者さんとの意志の疎通がはかれる様努力している。現在婦人科部のスタッフは4名のみで、国内の他がん専門施設に比べ非常に少数であるため、日常診療以外の研究活動がなかなかできない状況である。それでも平成23年度の当院からの学会報告を6件、論文報告2件を行い、また日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）や婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構（JGOG）などの主催する臨床試験や新規薬剤の治療に積極的に参加している。

麻酔科部

麻酔科部は平成23年8月より伊藤立志先生が赴任され、常勤麻酔科医は5名となりました。名古屋大学麻酔科の応援と非常勤医の確保により、忙しい麻酔科業務がすこし緩和され、より安全かついろいろな部分に配慮された手術室運営が達成されています。現在のスタッフは以下の通りです。

麻酔科部長：細田蓮子・麻酔指導医、日本麻酔科学会代議員、ペインクリニック専門医、緩和医療学会暫定指導医

麻酔科医長：伊藤直哉・麻酔専門医

麻酔科医長：伊藤立志・麻酔専門医

麻酔科医長：西良雅夫・麻酔指導医

麻酔科医長：仲田純也・麻酔指導医

<平成23年度活動報告>

手術総件数：2719件（前年度2637件）、全身麻酔：2336件（前年度2226件）、と一時減少していた件数が再び増加がしてまいりました。全身麻酔件数は過去最高の件数となっています。しかしその後は手術申込み自体が減少して来ていますので、がんセンターの外科系診療の目指すところがどこにあるのかをしっかりと見据えて、麻酔科の支えを軸として組織目標達成に進んでゆかなければならないと思っています。

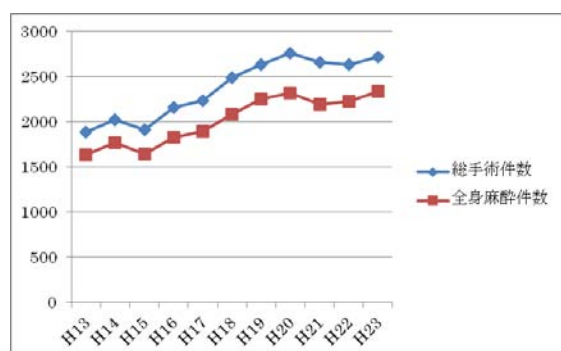


図1 平成23年度手術件数並びに全身麻酔件数

表1 平成23年年間麻酔管理法別統計（1月～12月）

全身麻酔（吸入）	879例
全身麻酔（TIVA）	197例
全身麻酔（吸入）+硬・脊・伝麻	1168例
全身麻酔（TIVA）+硬・脊・伝麻	158例
脊髄くも膜下麻酔	5例
その他	0例
合計	2336例

手術部位別麻酔科管理統計

開頭	0例
開胸・縦隔	293例
開胸+開腹	62例
開腹（上腹部）非内視鏡	313例
内視鏡	88例
開腹（下腹部）非内視鏡	518例
内視鏡	31例
頭頸部・咽喉頭	450例
胸壁・腹壁・会陰（乳腺含）	498例
股関節・四肢	64例
検査	2例
その他	17例
合計	2336例

麻酔法は揮発性吸入麻酔薬の使用が減少し、静脈麻酔薬、鎮痛薬を組み合わせたバランス麻酔が増加しています。私たち麻酔科医は、麻酔の覚醒の質の向上（十分な鎮痛と穏やかな麻酔覚醒）の達成を第一の目標としています。DPC導入に伴い、術前の入院期間が短縮され、患者の術前評価は外来で行われるようになりました。この点各診療科には周術期を円滑に乗り切るためのご協力をさらにお願ひすることとなっています。循環器疾患や、糖尿病のコントロール、抗凝固薬の投与スケジュールなど、計画的に進めていただいています。麻酔科はこれらがきちんとおこなわれていれば麻酔を断ることはありません。以前ちょっとした心疾患でも麻酔を断るとのつらい評判があったようですが、これを振り払うべく努力しています。挿管困難例の対応では当がんセンター麻酔科は高い技術を持っています。乳腺科の術中放射線照射時の麻酔法では高頻度ジェット換気を採用、食道がん手術での腹臥位内視鏡手術時の麻酔法の検討など、新しいことにも取り組んでいます。

<今後の手術室運営について>

電子カルテ導入に向け、手術室ではフィルムレスへの対応、電子麻酔記録の導入、医事物流への情報移行などについて議論を重ね、実施してゆかなければならないことが積まれています。残念ながら、手術室への電子カルテ導入は先送りになってしまいました。予算が限られているとはいえ手術室機能を高めることがなければ、手術件数増にも結びつかないのではないのでしょうか。平成3年に新手術室が作られてから20年、他施設と比べ手術室への設備投資が遅れていることを実感します。今こそ将来構想を立てなおす時期と思われるます。

集中治療部

集中治療部は、平成21年4月から診療科として開設されました。内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤

な急性機能不全の患者を24時間体制で管理し、より効果的な治療を行うことを目的としています。

つぎの患者を集中治療管理の対象としています。1. 集中管理を必要とする術後患者、2. 大量化学療法、骨髄移植を受けクリーンルームでの管理を要する患者、3. 心タンポナーデなどのoncologic emergencyの患者、4. 一般病棟で急変し全身管理を必要とする患者。

病床は、ICU（集中治療室）4床、HCU（高度治療室）17床からなっています。ICUは術後回復室を高度にしたもので、主に全身麻酔による外科手術後の患者が、容態が安定するまで使います。2：1看護体制（1名の看護師が2名の患者を担当）となっています。HCUはICUと一般病棟の中間の病床で、一般病棟へ移動するまでの病床として利用されています。

運営診療形式は、各診療科が独自に利用する主治医制をとっています。

集中治療認定看護師および、急性重症患者看護専門看護師が中心となり、院内研修会、勉強会を開催しています。より安全で高度な周術期管理を行える体制を順次整えているところです。

放射線診断・IVR部

平成18年度に放射線診断部から、放射線診断・IVR部へと部署名が変更になりました。以前から力を入れてきたIVRの名前を全面に押し出し、その活動内容が分かりやすくなっております。

メンバーは部長以下5名のスタッフと3名のレジデントの計8名です。全体に若い年齢層ながら、一般臨床ほか、学会・研究会、臨床試験に力を入れるとともに、放射線科領域とは離れた消化器癌の化学療法にも深く関わって活発な活動を行っています。

画像診断部門では、まずCT装置は8列と32列のMDCTが稼働しており、年間14,000件以上の検査と読影が行われています。特にMDCTで得られるデータはMPR像や3D画像へと応用され、臨床的にも有用であることから、その需要は年々のびています。MRは3T装置が1台稼働しています。近年のMRではCT同様にボリュームデータが得られるようになり、病変部の詳細な観察が可能となっています。しかし、機器の発達もたらした大量のデータを効率よく処理し、臨床の場へと還元するにはモニター診断やフィルムレス化といった環境の設備が必須です。当院でも平成23年度末にようやくPACSが導入され、フィルムレス運用となりました。

PET検査は、がんの存在診断のみならず、治療効果の診断にも有用とされ、がん診療には欠かせないものとなっています。PET装置は当院にはないものの、東名古屋画像診断クリニックの協力により、PETを含めた診療が身近なものとなりました。また、近年、メタストロンやゼパリンといった、放射性物質を用いた治療薬が発売され、ゼパリンを用いた悪性リンパ腫の治療は当部も協力して行われています。

IVR部門では、FOLFOX、FOLFIRI療法といった、大腸癌に対する全身化学療法が多く行われている事や、外来での抗がん治療、また終末期の在宅医療が普及してきたことにより、中心静脈ポートの需要が年々増加し、数年前まで年間150件程度でしたが、現在は400件を超えるようになっています。また、先進医療として胸部悪性腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼療法に取り組みました。

放射線治療部

当科では1960年代に愛知がんセンター名誉総長高橋信二先生が開発された当時としては画期的な「高精度放射線治療」である原体照射法を当初より臨床応用し、以来頭頸部がん・婦人科がん・前立腺がん・肺がん・食道がんに優れた治療効果と安全性を報告してきた。近年治療技術や計画コンピュータの革新的な進歩により三次元放射線治療や定位放射線治療、強度変調放射線治療などの高精度放射線治療は急速に臨床に浸透しているが、これら最先端放射線治療の基礎は当院で長い実績をもつ原体照射法に端を発しているといっても過言でない。

現在当院では外部照射装置（リニアック2台、トモセラピー1台）、小線源治療（RALS セレクトロン1台、密封小線源治療；イリジウム、ゴールドグレーン、ヨード）を主たる治療手法として年間900名程度の新規患者治療を行っており、全国でも有数の治療件数を誇っている。また頭頸部がん・子宮がんにて代表される根治的な放射線治療を行う患者は当科で化学療法を含む包括的治療を行っている。

高精度治療の代表的手法である強度変調放射線治療は「究極の放射線治療」と呼ばれ複雑な形状の病変にたいして正確な放射線投与が可能になると同時に、周辺の正常組織の放射線をきわめて少なくすることを可能にする。トモセラピーは強度変調放射線治療の専用機であり、ライナックでの強度変調放射線治療に比し効率よい運用が可能であるだけでなく治療精度が優れていると考えられている。トモセラピーはCT撮影装置を内蔵しており、治療毎に正確な位置確認を行うだけでなく、経過中の病変や臓器の移動形状の変化を確認しこの画像情報を元に線量分布の確認修正を可能にする優れた特徴を持っている。トモセラピーは現在主に頭頸部がん・前立腺がんの強度変調放射線治療を中心に行っており、将来肺定位照射への応用、婦人科がんへの強度変調放射線治療の適応を検討している。

当科の特徴として頭頸部癌の症例が豊富なことがあげられる。強度変調放射線治療だけでなく、動注療法、小線源治療など様々な治療手技をもちい機能温存を重視した個別化治療による個々の治療に対応している。頭頸部がんは発声、嚥下、呼吸などの重要な機能を担当する臓器であることに加え、形態を温存して治療することが美容的、精神的に満足度の高い治療ができる利点がある。昨今患者さんからのニーズの大きいいわゆる低侵襲治療の代表的治療の一つである。

トップレベルのがん専門病院に要求される高品質のがん治療の基盤治療の一つとして当科の放射線治療は大きく貢献している。高品質な集学的治療に重要な役割を果たすのみならず、がん治療に本質的な役割を担う緩和治療の根幹を支える重要な役割も担っている。今後も当科の放射線治療は当院の日常臨床および新しい治療開発に大きく貢献していくと思われる。

外 来 部

外来部は、病院の基本理念、基本方針に基づいて、初診患者さんや再診患者さんが外来診療に満足していただけるようにすること、かかりつけ医や地域の病院と当院の各診療科との医療連携がスムーズに行えるように院内外の調整を行うことが重要と考えています。また、がん診療も入院から外来に軸足を移してきており、外来で精密検査や化学療法などを受ける患者さん

が増えているため、各診療科間の横断的で効率的な診療を行えるようにすること、外来カンファランスを充実させること、連携医療システム確立も重要です。特記すべき事として、平成24年1月24日よりがんに関連した解決困難な苦痛や悩みを抱えた当院外来通院中の患者および家族を対象に看護外来が開始したことがあります。

外来部所属の診療科としては、脳神経外科、皮膚科、眼科の3科です。当院のがん治療を安全かつ円滑に進めるために必要不可欠の診療科であるために外来部として統括され、名古屋大学から脳神経外科：夏目医師（火）、大岡医師（水）、皮膚科：横田医師（水）、眼科：立川医師（金・午後のみ）、当センター研究所から脳神経外科：藤田医師（金）が外来診療を行っています。常勤医師ではないので、当院では手術などの治療は行っていませんが、名古屋大学や名古屋医療センターなどと連携をとっています。

外来化学療法センターは、平成17年12月に29床で開設し、平成18年9月からは全診療科共通の点滴当番医制を導入、専任看護師、受付クラークも配置し、薬剤部の抗がん剤ミキシングの協力も得てほぼフルに稼働しています。一日の外来化学療法件数も約60～120となり、ベッドが3～4回転する日も多くあります。外来治験治療数も増加し、場所も手狭になってきています。安全で効率のよい外来化学療法を行うため、平成25年度には新外来化学療法センターの運営開始予定されており、さらなる充実化が期待されます。

外来診療の大きな課題として診察待ち時間があります。平成19年にセカンドオピニオン外来を設置し、通常診療と分けました。再来診察は予約制が浸透しました。しかしながら、がん患者の診療はなかなか時間通りの診察は難しい側面があります。初診患者も事前に医療連携室での予約が50%を超え、受診時間の予定がたつようにしました。今後は紹介医に予約制の案内をさらに広げ、システムの簡略化もはかり、多くの初診患者の方が予約制度を利用できるようにすることを目指しています。

平成22年2月15日より新しいオーダーリングシステムが稼働し、外来での患者呼び出しシステムも番号呼び出しとなりました。待ち時間対策として呼び出しパネルを介した情報提供と各診察受付などに参考図書などを設置するようにしてきています。

循環器科部

循環器疾患には、心筋梗塞、心室細動など短時間で生命を奪ってしまう疾患が多いです。したがって、循環器科部の診療では、常に、すばやく正確な判断が要求されます。

当センターでは、次のような循環器科の業務を行なっております。

1) がん治療前の循環器チェック

循環器疾患には、悪性腫瘍（以下がんと表現します）がほとんどありません。しかし、がんも循環器疾患も比較的高齢者に多く発症しますので、循環器疾患を持ってみえるがん患者さんは少なくありません。がん治療前に循環器チェックを行っておりますが、このチェックで循環器疾患が初めて見つかる方もおみえになります。

2) 循環器疾患を合併してみえるがん患者さんの循環器治療

手術療法、化学（薬物）療法、放射線療法、内視鏡治療などの多くのがん治療は心臓に負担をかけます。循環器疾患を合併

してみえる場合、がん治療が安全に行なえるようにがん治療に合った循環器治療を行ないます。

3) がん治療により誘発される循環器疾患の予防と治療

がん治療自体が心筋梗塞、狭心症、心不全などの循環器疾患の原因となることがあります。また、心毒性をもった抗がん剤による心筋障害が発生することもあります。これに対し、循環器科は、がん治療中に循環器疾患が発生しないように予防処置を講じます。循環器疾患が発生した場合には、治療を迅速に行ないます。

4) 漢方治療

肥満や、がん治療に伴う下痢、便秘、咳などの副作用の緩和など、漢方による癌の補完代替医療を始めました。

これら雑多な診療内容ですが、がん診療の主科と連携しながら診療を行っています。

スタッフは部長の波多野潔1名のみです。循環器専門医で狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈、人工ペースメーカー、高血圧症などの一般的な循環器疾患の多数の臨床研究および臨床経験がありますので循環器診療の知識と経験は豊富です。

がんセンター着任後は、がん患者さんに対する循環器診療を行っています。抗がん剤の心毒性や自律神経障害、悪性心膜炎に関する治療、研究などがん治療に伴う循環器診療を行ってきました。特殊な診療分野ですので解明されていない事象が多く、難しい舵取りが要求されます。しかしながら、一般病院の循環器科17年、がんセンター循環器科19年勤務のベテランです。蓄積した貴重な経験が、最良のがん患者さんのための循環器診療に導いてくれているものと自負しております。

緩和ケア部

1 診療活動

緩和ケアチームは、適切な緩和ケアが迅速に実施できるように病院全体で取り組むことを目的に組織されており、医師、看護師、薬剤師など多職種のメンバーが、がん治療に関する専門的な力を発揮し活動しています。

緩和ケア部長	細田 蓮子 (緩和ケア暫定指導医・ペインクリニック専門医・麻酔指導医)
緩和ケア部・精神腫瘍科医長	小森康永 (精神科専門医・精神保健指定医・臨床心理士)
ペインクリニック外来担当	木村智政 (ペインクリニック専門医・麻酔指導医)
看護師	リーダー (専従看護師) 山崎祥子 (がん性疼痛看護認定看護師) メンバー 新貝夫弥子 (がん看護専門看護師) メンバー 向井未年子 (がん看護専門看護師) メンバー 柴田亜弥子 (がん看護専門看護師) メンバー 永田 智子 (緩和ケア認定看護師) メンバー 藤田 恵 (がん性疼痛看護認定看護師) メンバー 新田 都子 (がん性疼痛看護認定看護師) メンバー 美濃屋亜矢子 (緩和ケア認定看護師) メンバー 深谷 恭子 (緩和ケア認定看護師)
薬剤師	メンバー 立松三千子 (がん専門薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師) メンバー 水野 康也 メンバー 松崎 雅英

支援グループ 1) リンクナース 2) 連携ナース	各病棟1名 退院調整ナース 日置みさき 家族支援チーム 柴田亜弥子 (がん看護専門看護師) スピリチュアルケア推進チーム 宮原 久枝
---------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

緩和ケアチームでは調整ナースを中心に、患者情報を的確に把握し、医師と薬剤部、MSW、病棟リンクナース、リハビリ、口腔ケア、また院内サポートチームとの連携により、迅速かつ専門的な緩和ケアの提供が可能になっています。平成23年度の新規依頼件数は、423件で、がんセンター入院患者の除痛率は80%以上とよい結果を出しています(図1、図2)。ペインクリニック外来(毎週水曜)では、がん患者の痛みについて木村智政非常勤医師が相談にのっております。年間の依頼患者数を図3に示しました。一方、こころの痛みについては、精神腫瘍診療科小森康永医師が入院緩和ケアを提供すると共に、外来でも介入とフォローアップを続けています。今後は緩和ケア専従医師の確保により緩和ケア外来の設置と、チーム看護師、薬剤師による緩和ケア疼痛看護外来を開設する予定です。来年度はさらに充実した成果をご報告できると思います。

平成23年11月には第9回名古屋がん疼痛緩和フォーラムを開催しました。星薬科大学薬品毒性学教室教授鈴木勉先生には「新しいオピオイドの最新情報」、岡山済生会総合病院緩和ケア科石原辰彦先生には、「がん疼痛治療と死が近いときの対応」をテーマに最先端の講演をしていただきました。第4回がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会は1月28-29日に開催しました。ようやく院内の医師の受講が増えて参りましたが、当院の場合は医師全員が受講対象となりますので次回の第5回緩和ケア研修会は是非受講して下さるようお願いいたします。その他緩和ケアチーム主催で院内勉強会、新薬採用に伴う説明会を企画し多数の参加を得ています。がんの診断と共に緩和ケアは始まります。患者さん及びその家族の心によりそった緩和ケアの実践に努力して参ります。

図1

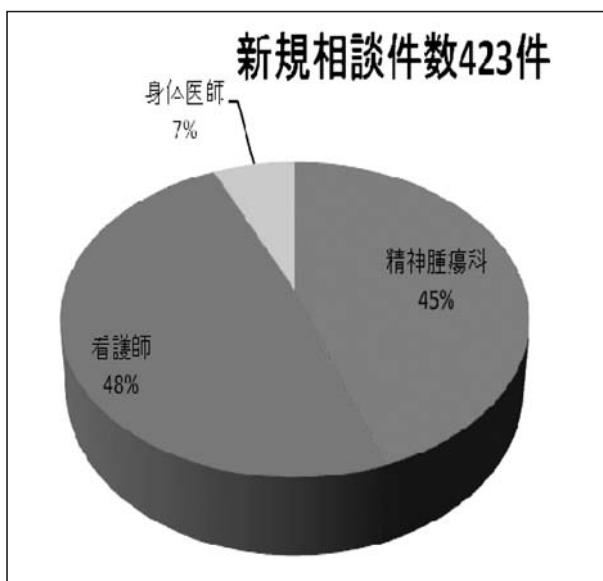


図2 科別新規相談依頼件数

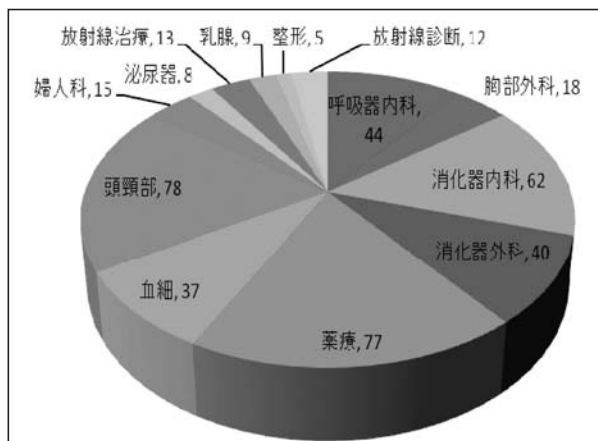
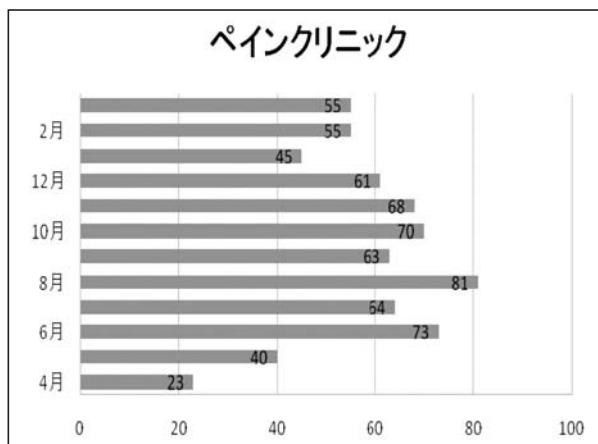


図3 ペインクリニック延べ患者数



看護部

平成23年度看護部の目標

- 1 働きやすい労働環境をつくり、ワークライフバランスを実現する
- 2 質の高い個別性のある看護を提供する
- 3 リスク感性を高め、医療安全を推進する

この3つの目標を達成するため、各病棟、委員会、支援チームが活動を推進してきた。ここでは成果があったことを3点述べる。

●新人看護師の離職が激減した

今年度の最も大きな1点目の成果は、新人看護師の離職が激減したことである。教育・指導体制を変更し、入職後3カ月間は機能別看護を行い、基本的な看護技術の習得を優先させた。これにより入職後3カ月以内に体験するリアリティーショックを最小限にするためである。この方法がよかったのかどうかは、今後も継続した評価が必要である。よい成果が得られたのは、多くの先輩看護師が現場で負担を抱えながらも丁寧に新人看護師に関わった結果と心から感謝する。新人看護師の教育体制はここ数年で大きく変化し、自分たちが育った時代にあった「きびしさ」に欠けるという現場の声もよく耳にする。ゆとり教育で育った新人看護師の社会性を考えると、リアリティーショックを回避するためには現場にいる私達が今までの認識を変える必要に迫られている。

看護部では平成24年度も現場スタッフの皆様へ新人看護職員研修ガイドラインの内容を繰り返し説明する機会を作っている。

●2交代制勤務の導入（試行）が実現し、労働環境改善に…

2点目の成果は、12時間夜勤による2交代制勤務導入が試行という形で実現できたことである。日本看護協会が夜勤交代制勤務ガイドライン（案）を提示したことを追い風に、全国に先駆けて当院もその骨子を満たす方法で導入した。現場スタッフからは夜勤の負担が軽減し、時間外勤務が減少したと肯定的な評価であった。労働時間管理が複雑になるなどの問題も抱えているが、少しでも看護師が働きやすい労働環境の提供に向け、継続して取り組んでいる。

●看護実践を48題、院外発表できた

3点目の成果は、看護実践を研究的視点でまとめ48題の院外発表ができたことである。これもひとえに当院で活躍するスペシャリスト（専門・認定看護師）の実践力を可視化したことと高く評価する。スペシャリストだけでなく、初めて院外発表したというジェネラリストもあり、その体験を生き生きと報告してくれたことが印象に残っている。平成24年度は看護部倫理審査委員会を立ち上げ、看護研究における倫理的視点を審査し、看護の質を保証できるよう取り組んでいく。

ここにあげた成果は小さなことかもしれないが、できたことを認めそれを強みとして強化していく「ポジティブアプローチによる看護管理」を次年度も継続する。1人1人のスタッフの努力に心から感謝する。

薬 剤 部

薬剤部は20名の薬剤師を中心として、次のような理念、目標を掲げ、日々業務に努めている。

薬剤部の理念

- 1 最良の心あるがん医療の一翼を担います。
- 2 良質で安全な医療の一翼を担います。

薬剤部の目標

- 1 安心できるお薬を、患者さんにお届けします。
- 2 わかりやすいお薬の説明に努めます。
- 3 薬剤師としての専門性を発揮し、知識・技術の向上に努めます。
- 4 チーム医療の一員として他職種と協力して、より良い医療を目指します。

薬剤部の業務は、調剤、注射薬の供給、医薬品情報（DI）の提供、服薬指導（薬剤管理指導）、抗がん剤の調製、治験（医薬品の臨床試験）など多岐に渡っており、安全で質の高い薬物療法の一翼を担っている。

がんの薬物療法の進歩は著しく、分子標的薬をはじめとする新薬も次々と開発され、使用されている。これら新しい薬剤については、医師、患者さんに対し情報提供を行い、適切な治療を支えている。

また、がんの治療と合わせて重要な緩和医療については、使用できるオピオイドの種類も増えてきており、多彩な薬剤の中から患者さんに適したオピオイドを選択し、また、痛み以外の生活の妨げとなる症状の緩和についても、緩和ケアチームとも

連携しながら症状のコントロールを図り、患者さんのQOLの維持向上に努めている。

一方、在宅医療への対応として、近隣の薬剤師会、保険薬局とも連携を取り、当院で行われる治療についての情報、外来治療の進行状況など、患者さんに関する情報を共有することで、安全で有効な薬物療法の継続に努めている。

医薬品の開発に必要な臨床試験（治験）の件数もここ数年増加の一途をたどっており、承認前の医薬品のみならず、新薬として承認された後の製造販売後臨床試験や適応拡大のための臨床試験も行われている。これら治験の適切な実施、データ収集、治験の進行管理は重要な業務であり、薬剤部としても業務のウエイトが大きくなってきている。

第2節 研究所

疫学・予防部

疫学・予防部の主要な研究目的をまとめると、第一に、県下のがん流行の実態把握、第二に、発がんに関する危険・防御要因の探索、第三に、がん予防に役立つ情報に基づいた予防的介入による効果評価など、愛知県民・国民のがん予防対策に役立つ総合的な情報を構築していくことである。平成23年度は研究員5名、研究技師2名、リサーチレジデント2名、大学院生3名、研究・研修生4名、それに約20名の非常勤研究補助者らに助けられ、さらに競争資金としての文部科学省や厚生労働省の研究補助を得て、国内外の共同研究者らと共に、国際学術誌に原著論文53編を出版し、国内外の学術会議では32課題を報告できた。それらに関連した主な研究内容をまとめると以下のようになる。

第一に、県のがん対策の策定に不可欠ながんの統計情報を得るため、健康福祉部が健康増進推進事業の一環として実施している「地域がん登録」の精度向上を目指し、疫学研究の側面から技術的支援を継続実施している。そして、東アジア地域でのがん医療の均てん化を目指して、地域がん登録資料を用いた、日本と韓国の主要部位別がんの5年相対生存率共同研究を主導した。また、愛知県内のがん患者の5年相対生存率と、がんの登録精度の指標であるDCN%を医療圏別に算出、比較し、登録精度が生存率値に及ぼす影響を検討した。

第二に、疫学的研究手法を用いながら、県民を対象とした主要な発がん関連要因を探索していく、世界に例のない大規模病院疫学研究を1988年から展開しており、平成22年までに健康調査票から得られた14万人以上（県民の2%）の新来患者データを蓄積した。また、2005年から全国11ヶ所で開始した、日本多施設共同コホート研究に参画しており、全体で8万1千人のエントリーが平成24年3月末までに終了した。さらに、がんの要因としての生活習慣の影響を左右する個々人の特性、つまり遺伝子多型に焦点を当てた分子疫学研究を展開し、個々人の遺伝子体質を考慮したがんのテーラーメード予防に役立つ情報を構築してきた。これらの情報は、がんセンターのホームページを通じて国民にわかりやすい形に編集し、発信している。

第三に、健康福祉部の事業としての「健康日本21あいち」に基づく健康増進事業に参画し、社会医学的側面からがん予防研究に取り組んでいる。例えば、保健を使った禁煙治療を標準化して、治療成績を向上させるための多施設共同研究を主導し、平成22年度末までに6施設で700症例を登録し、治療効果判定のための追跡調査を実施した。

腫瘍病理学部

腫瘍病理学部は、研究の基本方針として、ヒト悪性腫瘍の病理組織学を基盤とする組織学的・分子生物学的解析の総合的基礎研究と、基礎病理学研究成果を生かすという視点に立った先進分子治療学の技術研究・診断学的研究を二大骨子として本年度も継続推進してきた。また、がんセンター中央病院の依頼を受けて実施している病理解剖に基づく人体病理学的研究もこれらに加えて行っている。（※臨床的に特に重要な病理解剖症

例については、臨床病理検討会（CPC）で討議され、当がんセンターの医療水準向上の一端を担っている。）

平成23年度の具体的な実施研究は以下である。（詳細は研究抄録の部を参照されたい。）まず第一に、新規がん細胞選択的透過性ペプチドの開発とそのユーティリティの研究。われわれ独自の基盤技術に基づくがん細胞膜透過能を発揮する新規ペプチドの開発研究であり、これを基盤材料とした細胞内分子輸送システムや分子標的治療システム、疾患診断用イメージングシステムの構築を目指した生体低侵襲性ドラッグデリバリー医療技術研究を鋭意進めてきた。また、愛知県「知の拠点」プロジェクトの一環として、消化器がんの微小転移に対する新しい診断法の開発を進め、独自に樹立した耐性株を用いて胃がんに対するパクリタキセル耐性関連遺伝子マーカーを候補として同定し、一部感受性予測マーカーとしての有用性を確認した。さらに、がん細胞のEMT出現の機構の一端を明らかにし報告するとともに、引き続き継続中の分子病理学研究として、難治性がん、特に分子標的薬（EGFR標的薬（Gefitinib））耐性肺がん克服に向けた薬剤耐性機序の解析研究、CXADR、OGFOD-1などを中心とした固形がんの増殖制御分子の解析研究、および頭頸部扁平上皮癌、胃癌、大腸がん、脳腫瘍（グリオーマ）などについてのがん幹細胞を標的とする治療法開発の手掛かりをめざした分子病理学的研究を実施中である。

分子腫瘍学部

分子腫瘍学部ではがんに対する新たな予防、診断、治療への展開を目的とした前臨床的研究を進めている。特に、肺がん、中皮腫、消化器がん（大腸がん、肝がん、GIST）、脳腫瘍を主たる研究対象とし、中央病院各科や他大学・研究機関との共同研究を通じその原因遺伝子の探索研究や悪性形質獲得に関する解析研究を行っている。

平成23年度、悪性中皮腫の研究に関してはHippo細胞内シグナル伝達系の解析を中心に悪性中皮腫に対する新たな治療法開発を目指した研究を推進した。肝腫瘍、大腸がん、GIST、脳腫瘍、および肺がんにおけるエピジェネティクス解析研究や、肺がんの神経内分泌分化の研究、microRNAの解析研究も進んだ。

平成23年度は常勤スタッフとしては関戸好孝部長、長田啓隆室長、近藤豊室長、藤井万紀子主任研究員と技師1名および嘱託技師1名を含めた計6名の体制であった。また、名古屋大学大学院医学系研究科細胞工学講座（連携大学院）の教官として関戸（教授）、長田（准教授）が担当した。リサーチレジデントとして水野鉄也（2年次）、石黒太志（2年次）および細胞工学講座（名古屋大学連携大学院）の大学院生として新城恵子（4年次）が参加し、任意研修生としては名大、名市大、名城大学等から5名が参加し、熱心に研究活動を行った。

遺伝子医療研究部

遺伝子医療研究部は「造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用」と「造血器細胞の分化・増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究」をテーマに研究を

つづけている。

HTLV1ウイルスが関与する成人T細胞性白血病リンパ腫(ATLL)の中の「急性型」群と「リンパ腫型」群の異同の詳細は明らかでなかったが、今回アレイCGH解析により両者は全く異なるゲノム異常様式を持つことが明らかとなった。さらに、「急性型」群を詳細に検討した結果、腫瘍はリンパ節内で最初のクローンが次々と進展し、複数のクローンを含んだ状態が認められることを明らかにした。さらに、その一部のクローンが末梢血に出て白血化していることが明らかとなった。また、HTLV1ウイルスが関与しない末梢性T細胞リンパ腫(PTCL-U)に関しては、やはりアレイCGH解析により、ゲノム異常や病理所見・予後に関して均一な新規サブグループを見出すことに成功している。また、ATLLと同様に複数のクローンが見出されることも明らかにした。

NK細胞性リンパ腫はアジア地区で頻度の高い腫瘍であり、その病態解明が待たれる。今回アレイCGH法を用いて、NK細胞性腫瘍のゲノム異常の解析を行ったところ、6q21領域において、最も高頻度な欠失が認められた。この領域にある遺伝子のうちPRDM1およびFOXO3の欠失が腫瘍化に重要であるとの知見を得た。また、FOXO3はNK細胞に特異的ながん抑制遺伝子であることも明らかにした。

小児リンパ性白血病の原因として最も多い染色体転座t(12;21)はTEL-AML1を形成する。その転座関連遺伝子AML1には長さの異なるたんぱくをコードするが、短いものは試験管内のみならず動物個体でも造血幹細胞を増幅することが明らかとなり、今後臨床的な有用性へと展開する可能性が示唆された。

今後は、造血器腫瘍の発症や進展を理解するうえで種々の遺伝子同士の相互作用に着目した研究を進展させることも考慮した研究を展開していきたい。

腫瘍免疫学部

手術療法、放射線療法、化学療法に加えて、がんの特長を分子生物学的に分析し治療の戦略を組み立てる、いわゆる分子標的療法が近年注目されている。一部のがんでは劇的な効果をあげているが、再発や副作用等の問題も生じている。がんの免疫療法に対する期待は以前からあったが、特にこの数年、様々な新規の免疫療法が臨床応用に至っている。加えて、2010年以降米国FDAががん免疫治療薬を相次いで認可したことは、新しい時代の到来を予感させる。

がんを免疫の力で治療あるいは予防しようとする試みの難しさは、がん細胞が自分自身の臓器の一部から発生している事実起因する。すなわち、免疫システムは本来、自分の細胞を攻撃しないような仕組みを内在しており、がん免疫治療は、その仕組みを打ち破ることが必要条件になる。腫瘍免疫学部では、より有効な免疫療法を確立するために、将来の免疫治療の基盤となるような研究を、独創性を維持しながら実施している。今年度は、1) 内因性HLAの発現を抑制し目的のHLA-A24を発現する人工抗原提示細胞を用いた卵巣がんを傷害するCTLの誘導、2) NKT細胞サブセットをベースとした新規抗腫瘍エフェクター細胞の構築とがん免疫療法への応用、3) 神経芽腫に対する $\gamma\delta$ T細胞を利用した新規治療のための基盤研究、4) 非ステロイド系抗炎症薬による肺がん脳転移免疫学的予防法の確立、のそれぞれの課題について研究を実施した。

腫瘍ウイルス学部紹介

ヒトがんのおよそ15%がウイルスによる発がんであると推計され、ウイルス発がんは重要な研究領域となっている。現在、ヒトがんウイルスは7種類同定されている。腫瘍ウイルス学部ではヒトがんウイルスであるEpstein-Barrウイルス(EBV)を主な研究対象としている。EBVはパーキットリンパ腫、上咽頭がんと深く関わりがあることが1960年代から知られていたが、最近多くのがん(胃がん、ホジキン病、T細胞リンパ腫、臓器移植後リンパ腫等)に感染していることが明らかとなっている。EBV増殖機構、感染とがん発症の分子機構についての解析を通して、EBV感染症の制御を目標として研究を行っている。EBV陽性がん細胞の大部分は潜伏感染状態にあり、ウイルスの産生はないが、一部のがん細胞は溶解感染を誘発し、IL6,IL10などのサイトカインを発現させ、潜伏感染状態にあるがん細胞の増殖を促進させている。従って潜伏感染状態と同様、溶解感染状態のウイルス増殖機構の解明はEBV陽性がんを制御する上で重要である。

平成23年度において我々は、EBV溶解感染のトリガーであるBZLF1の転写がJDP2と呼ばれる転写抑制因子によって制限されていることを報告した(Murata et al. J. Biol. Chem. 2011)ほか、潜伏感染の維持と再活性化に重要なエピジェネティックヒストン修飾について解析した(Murata et al. J. Virol. 2012)。さらにEBV溶解感染を誘導した細胞において、経時的にウイルス複製関連タンパクや複製されたウイルスDNA、宿主の修復関連因子の局在を詳細に観察し、それらの挙動について新しい知見を得た(Sugimoto et al., J. Virol. 2011)。

一方、潜伏感染に関しては、EBVのFRというリピート配列の重要性について(Kanda et al., PLoS One. 2011)、がん遺伝子LMP1の発現におけるC/EBPの役割について(Noda et al., J. Biol. Chem. 2011)検討を行った。

さらに、組み換えEBV感染リンパ芽球様細胞を抗原提示細胞とした腫瘍免疫の活性化(Kanda et al., in press)、EBNA1のDNA結合を阻害する薬剤候補の探索(Yasuda et al., Cancer Sci. 2011)といった応用研究も遂行している。

この他、ヒトサイトメガロウイルスのUL79、UL87、UL95遺伝子がウイルスの後期遺伝子の発現に重要なはたらきをしていることを報告した(Isomura et al., J. Virol. 2011)。

分子病態学部

日本では1日あたり100人以上の大腸がん患者が死亡し、10年後には大腸がんは日本人の最も罹患率の高い悪性腫瘍になると予想される。我々は、大腸がんモデルマウスを用いて、生体レベルで腫瘍細胞を解析し、新たな抗がん治療の開発基盤の創出を目指している。現在、新規抗がん剤の開発では、間質細胞を含む腫瘍微小環境を標的とした分子標的薬の将来性が有望視されている。間質細胞を標的とした薬には、併用する化学療法薬の治療効果促進・副作用軽減の可能性や、薬剤耐性が出現しにくい可能性が期待できる。私たちは、大腸がんの腫瘍形成機構について、特に腫瘍微小環境内での異種細胞間相互作用やシグナル経路に着目し、大腸がん自然発症マウスモデルを用いて生体レベルでの解析を行い、先進的な分子標的治療の開発に繋げ

ることを目指している。また、大腸がんの死因の9割が浸潤・転移によるとされ、浸潤・転移の制御なしには大幅な予後改善は望めない。我々は、生体レベルでのスクリーニングにより浸潤・転移に関与する遺伝子の同定を試みている。将来的には遺伝子改変によって遠隔転移を自然発生する転移性大腸がんマウスモデル作出し、転移の機序解明や転移性大腸がんの予防・治療薬の開発に役立てたい。

Apc遺伝子にヘテロ接合変異を持つマウス（Apc変異マウス）は、腸管に多くの腺腫性ポリープを生じ、大腸がんの発がん初期過程のマウスモデルとして汎用されている。これまでに我々は、腫瘍形成にはApcの機能消失によるWnt経路の活性化だけでは不十分で、mTORC1経路の活性化が必要であることを示してきた。平成23年度には、Apc変異マウス腸管腫瘍細胞におけるmTORC1経路活性化にはJNKが重要で、JNKがmTORC1の構成要素であるRaptorを直接リン酸化してmTORC1を活性化することを示した。さらに、JNKはc-Junのリン酸化を介してcyclin E、osteopontin、proliferinなどの転写を活性化すると同時に、mTORC1経路の活性化を介してこれらの翻訳を亢進させるという二つの機序で腸管腫瘍の成長に寄与することを明らかにした（Fujishita et al., *Gastroenterology* 2011）。今後はJNKの活性化機序を解明するとともに、局所浸潤性の大腸がんを自然発症するcis-Apc/Smad4複合変異マウスを用いて、JNK/mTORC1経路が大腸がんの浸潤において果たす役割も明らかにしたい。

発がん制御研究部

ヒトを含む哺乳類細胞では一次線毛と呼ばれるアンテナのような突起物を増殖停止時に生じることが知られています。最近我々は、我々が同定した新規蛋白質「トリコプレイン（trichoplein）」の機能を抑えると一次線毛が形成され、細胞増殖を積極的に停止させることを世界に先駆けて発見しました。これは、一次線毛が細胞増殖とその休止を切り替えるという全く新しい仕組みが存在することを提唱するものです。多くのがんでは一次線毛が欠失していることが知られており、この仕組みを利用すると、一次線毛が欠失しているがん細胞を選択的に死滅させる新しい発想の新薬開発につながる可能性があります。

また我々は、中間径フィラメント蛋白質ピメンチンの構築が、そのヘッドドメインのリン酸化によって制御されていることを世界で初めて明らかにし、そのリン酸化が分裂期における細胞質分裂に必須であることを報告してきました。今回、ピメンチンの特異的リン酸化部位を変異させたマウスを作製したところ、変異マウスでは白内障が生じたり、皮膚の損傷修復過程に異常があることを発見しました。そして、その詳しい解析から、ピメンチンのリン酸化の障害によって引き起こされた細胞質分裂の異常により、多核細胞が出現し、染色体の不安定性が生じることが明らかとなりました。これは、がんの発生や悪性化の過程における染色体の不安定性の意義の解明につながる重要な知見です。

発がん制御研究部では、「どうしてがんができるのか」というがんの基本的メカニズムの解析に正面から立ち向かい、その研究を通して新しい抗がん剤の開発に寄与していきたいと考えています。

中央実験室

中央実験室では現在、研究員1名、技師1名、再任用職員1名、臨時雇用職員1名のスタッフで、研究所全体の研究活動や臨床研究を円滑に進めるのに必要な種々のサービス業務を行うとともに、研究員が独自の研究も行っている。

研究所全体の研究活動における共通業務では、1. 共同利用機器の整備と維持管理、2. 研究所設備の整備全般に関わる業務、3. RI 実験施設の維持管理、4. セキュリティシステムの維持管理、5. 見学者の案内、6. 動物管理委員会による実験動物飼育施設の維持管理の補助業務、など、広範囲に及ぶ。実験動物飼育施設の維持作業は、器具の洗浄、えさの滅菌など実務を業者に委託している。中央実験室では、その管理及び動物管理委員会と協力して動物飼育室の円滑な利用を推進している。共同利用機器の中で、DNAシーケンサーは、研究者から依頼されたサンプルをまとめて運転し、そのDNA塩基配列を決定している。ここ数年は約15,000サンプルで安定しているが、ほぼ毎日運転している。昨年度に質量分析装置が整備され、今まで外部委託したり、共同研究により他施設を利用していた解析が、本研究所で行えるようになった。このことによって、研究を加速出来ると共に、より詳細な独自の解析が可能となった。本機器を始め共同機器の利用を円滑に行うために、テクニカルセミナーを随時開催し、毎回多数の参加があり、好評を得ている。

中央実験室は「ミトコンドリアDNAの多型と食道がん発がんリスク」と言うテーマで研究を行っている。ミトコンドリアでは酸化的リン酸化によりATPを産生しているが、その副産物として、電子が漏れることにより活性酸素が発生する。酸化的リン酸化に関与するタンパク質の多型や変異によって、活性酸素の発生量は異なると考えられることから、これらのタンパク質の一部をコードしているmtDNAの多型によって活性酸素の量や、mtDNAおよび核ゲノムへの変異の入り易さが異なる可能性が考えられる。このことを明らかにするため、食道がん患者および非がん患者のmtDNAのD-loop 領域の多型を網羅的に調べ、食道がん発がんとの関連を解析することを計画した。現在、それぞれの症例のD-loop領域の塩基配列を決定するため、市販のリシーケンシングプライマーを用い、D-loop領域全域を増幅し、塩基配列を決定している。今後、食道がん症例、非がん患者由来のDNA を用い、それぞれの多型の位置、種類、数を決定した後、食道がん発がんへの関連性を解析する。

研 究 編

第1章 研究抄録関係

1. 病院における研究（課題別研究費）

<研究課題1>

がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究

Clinical evaluation of interventional radiology in oncology 経皮的胃瘻造設術

<研究者氏名> 放射線診断・IVR部 稲葉吉隆

共同研究者 山浦秀和、佐藤洋造、加藤弥菜、井上大作、栗延孝至、佐藤健司、加藤久晶

【はじめに】

胃瘻は経口摂取が困難または不十分な症例での経腸栄養経路として用いられる。その胃瘻の造設方法として、本邦では経皮内視鏡的胃瘻造設術（percutaneous endoscopic gastrostomy: PEG）が広く普及している。しかし、開口障害や咽頭・食道狭窄などのために内視鏡挿入が困難な症例も存在する。当院では口腔癌、咽頭癌、食道癌などのために胃内までの内視鏡挿入が困難な場合には、IVR手技を用いて経皮放射線的胃瘻造設術（percutaneous radiologic gastrostomy: PRG）を行っている。本研究は、当院におけるPRGの実効性について後方視的に検証するものである。

【対象と方法】

2001年から2011年に当院で105症例にPRGが施行されており、全例において患者背景、疾患、手技内容、使用器具、技術的成功率、手技中・手技後の合併症、胃瘻期間、転帰について調査した。

PRGの年次施行手技数を表1に示す。2008年に頭頸部癌症例への化学放射線療法に関する臨床試験において、治療を完遂させるために事前に胃瘻造設することが推奨されてから増加している。

PRGの手技方法を以下に示す。経鼻胃管挿入可能な場合には、①経鼻胃管から空気を注入して胃を拡張させる。②X線透視下に拡張した胃の位置を確認し、穿刺位置を決定する。③超音波により、胃と腹壁に間に肝や横行結腸などが介在しないことを確認する。④穿刺部に局所麻酔を行う。この際、胃を試験穿刺し、皮膚面からの距離を測定する。⑤胃蠕動が活発な場合には鎮痙剤（ブスコパンまたはグルカゴン）を筋注する。⑥胃壁固定具により胃壁を腹壁に密着させ固定する。⑦X線透視下で、経皮的に胃壁を穿刺し、胃内にガイドワイヤーを誘導して、

表1：年次施行件数

year	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	total
PRG	2	1	3	8	3	3	9	18	23	20	15	105
with NG tube	0	0	3	6	2	3	7	15	20	12	13	81
without NG tube	2	1	0	2	1	0	2	3	3	8	2	24
PTEG	4	6	4	2	5	6	8	7	6	8	8	64
PEG	no data				4	3	11	25	39	49	33	164

PTEG: percutaneous trans-esophageal gastric tubing

セルジンガー法により胃瘻チューブを挿入する。

経鼻胃管挿入が不可能な場合には、超音波下に細径針（23～21G）で胃を直接穿刺し、空気を胃内に注入して胃を拡張させてから、上記の②～⑦を行う。

【結 果】

患者背景、原疾患を表2に示す。胃瘻造設理由は頭頸部癌への化学放射線治療完遂目的（治療中に高度の口内炎のために経口摂取不可となるため）が25例、緩和的経腸栄養目的が80例であった。PRGに際して、経鼻胃管を使用したものが81例、経鼻胃管使用不可が24例で、PRG手技は全例で成功しており、手技中の重篤な合併症は認めていない。98例で健常胃にPRGが施行されたが、4例では遠位側胃切除後の残胃に対して、3例では拳上胃管にPRGが施行された。胃壁固定は鮎田式胃壁固定具（クリエートメディック）による2点固定が41例、T型固定糸（Cope gastrointestinal suture anchor set: Cook）による2点固定が48例、同1点固定が15例、固定なしが拳上胃管への1例であった。PRGにより留置された胃瘻チューブは15.5Fマレコ型（フリクションロック）胃瘻チューブ（Cook）を99例で使用し、残り6例（拳上胃管3例、胃切除後3例）では8～12Fストレート型シリコンチューブ（クリエートメディック）を使用した。器具の選択はPRGを実施したIVR医の裁量によるが、胃壁固定に際しては、牛角胃や瀑状胃では腹壁に対して斜め穿刺となる傾向があるため1本針によるT型固定糸が選択され、通常型胃や下垂胃では垂直穿刺がほぼ可能となるため2本針の鮎田式胃壁固定具の使用も容易であると考えて選択している。

手技後の重篤な合併症は胃壁固定不十分（T型固定糸1点固定）により気腹腹膜炎を生じて開腹処置に至ったもの、輸血を要したヘモグロビン低下となったもの、瘻口感染のためにチューブ抜去となったものが各々1例ずつ生じた。輸血には至らなかったが、ヘモグロビンが2g/dl以上低下したものが4例、圧迫で対応可能であった刺入部出血が1例、1週間以上遷延した刺入部痛が2例で認められた。PRGからの30日以内死亡は6例で認めたが、原病の悪化によるものが3例、誤嚥性肺炎の悪化によるものが3例であった。胃瘻チューブ留置期間は中央値80日（1～731日）、全経過観察期間は中央値112日（1～1142日）であり、転帰は死亡59例、転院のため不明23例、チューブ抜去18例（内6例が生存中）、胃瘻チューブ留置生存中5例であった。チューブ抜去理由は、経口摂取改善が11例（化学放射線療法後9例、食道ステント留置後2例）、患者希望が5例、刺入部感染が1例、開腹処理に伴うものが1例であった。経鼻胃管使用例、経鼻胃管使用不可例別の症例数は表2、3に示す。

【考 察】

経皮的胃瘻造設の報告は1967年にみられるが、手技的に確立したのは、1979年にPRG、1980年にPEGの報告がなされて以降である。1984年以降、T型胃壁固定糸が使用されるようになり手技上の安全性の向上が図られるようになっていく。本邦では、1991年に鮎田式胃壁固定具が発表され、内視鏡技術の向上

表2：患者背景と使用器具

		PRG	with NG tube	without NG tube
No. of patients		105	81	24
Age	mean	63	63	62
	range	29-87	29-87	49-80
Gender	male	75	59	16
	female	30	22	8
Primary disease	esophageal ca	32	17	15
	pharyngeal ca	38	31	7
	oral ca	17	15	2
	others	18	18	0
Intent	chemoradiation	25	22	3
	supportive care	80	59	21
Procedure	successful	105	81	24
	failed	0	0	0
Stoma site	normal stomach	98	74	24
	reconstructive gastric tube	3	3	0
	residual stomach	4*	4*	0
Gastropexy	Funada's suture anchor	41	38	3
	dual T-fastener	48	31	17
	single T-fastener	15	11	4
	none	1	1	0
Gastrostomy tube	Russell-Malecot	99	76	23
	others	6	5	1

表3：合併症と転帰

		PRG	with NG tube	without NG tube
No. of patients		105	81	24
Observation period (days)	median	112	114	98
	range	1~1142	1~1142	9~678
Duration of tube placement (days)	median	80	86	51
	range	1~731	1~731	9~678
Complications	peritonitis	1	1	0
	decreased hemoglobin, lowered over 2.0	5	3	2
	transfused	1	0	1
	fistula infection	1	0	1
	insertion site bleeding	1	1	0
	prolonged fistula pain	2	1	1
	death within 30 days	6	4	2
primary disease		3	2	1
	aspiration / sepsis	3	2	1
Outcome	dead	59	46	13
	unknown (transfer)	23	19	4
	alive with gastrostomy	5	5	0
	removed	18	11	7
	improved oral intake	11*	7	4*
	infection	1	0	1
	rejection by patients	5	3	2
surgical repair	1	1	0	

とともにPEGが普及していった。一方、欧米では内視鏡を使用しないPRGも広く行われている。

当院では、IVR技術を用いたPRGをPEG困難例において実施している。口腔癌、咽頭癌、食道癌の進行に伴う経口摂取困難例や頭頸部癌への化学放射線治療完遂を目的とした症例などにおいて内視鏡挿入困難例がPRGの対象となっている。

経鼻胃管挿入可能例では、PRGの手技は確立しており、胃の形状に問題がなければ容易に施行可能である。経鼻胃管すら挿入困難な完全閉塞例においても超音波を用いて直接胃を穿刺して空気を注入することで経鼻胃管使用の場合と同様に施行可能となる。

高度進行癌症例が含まれるためPRGから30日以内での死亡が6例に見られたが、PRG関連死亡はなく、回避処置を要し

た重篤な合併症は3例(2.9%)であり、PEGの報告と比較しても許容されるものであった。胃壁固定逸脱による腹膜炎はT型固定糸1点固定症例で生じており、これ以降では鮎田式にしても、T型固定糸にしても2点固定としており、腹膜炎の合併は認めていない。刺入部感染や胃壁固定逸脱による腹膜炎はPEGでも同様に見られ対応も同様であるが、穿刺経路での胃内出血は内視鏡挿入不可のPRG症例ではその対応は困難であり、内視鏡が使用できない欠点であり、リスクである。これに留意する必要はあるが、PEG困難症例で、経鼻胃管挿入困難例も含めても、PRGは100%実施可能であり、PRGの実行性は高いものであると考えられた。

< 研究課題 2 >

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based on the treatment sensitivity and the relapse risk.

< 研究者氏名 > 乳腺科部 岩田広治

共同研究者 藤田崇史、澤木正孝、服部正也、近藤直人、堀尾章代

【1年間の総括】

この1年間にも乳癌の術前後薬物療法に関する膨大な情報が世界中から流入し、我々が参加している国内・国外の臨床試験も多方面にわたって進行したが、昨年にも増してmolecular subtype別に考える重要性が明らかになってきた。

1：術後内分泌療法に関する研究

報告：昨年度に引き続き術後ホルモン療法での課題は投与期間である。閉経後乳癌患者ではアロマターゼ阻害剤の5年間投与が標準治療と位置づけられるが、現在の課題は投与期間である。今年度、当院のデータとしてホルモン感受性乳癌の全再発の内、術後5年以降の再発が全体の23%にも達することが論文文化された(乳癌の臨床2012)。5年以降の長期内分泌療法によって、再発が減少できるかは極めて重要な課題である。これを検証する臨床試験が世界中で行われ、当院ではアナストロゾールの5年と10年を比較するN-SAS-BC05試験(日本)に参加中である。

2：術後化学療法に関する研究

報告：術後薬物療法の適応を考える入口を、まずmolecular subtypeで考えようとする方向性が出てきた。ホルモン高感受性乳癌に対する抗癌剤の意義に疑問がもたれ、当院でも化学療法の必要性を判断する指標としてKi67indexを遺伝子病理部の協力で全例に測定を行っている。新しい薬剤の開発は難しい分野になっており、この1年間に登録した試験は、術前化学療法でpCRが得られなかった患者に対して、ゼロダ投与の有効性を評価するJBCRG04s studyのみである。

3：術後分子標的治療に関する研究

報告：昨年度から引き続き、HER2陽性乳癌に対する術後Trastuzumab投与に変化はない。腫瘍径0.5cm以上に対する投与も浸透してきた感がある。昨年度検証したneratinib試験は、途中で試験自体が中断した。さらに高齢者HER2陽性乳

癌患者における化学療法省略の是非を問う N-SAS-BC07 試験も引き続き登録中である。さらに、術前 Tykerb と Trastuzumab 併用療法の有効性を評価する NeoLaTH 試験 (医師主導治験) や、術後 Pertuzumab の標準治療への上乘せを評価する Affinity 試験 (global study) なども開始され当院からも登録中である。術後 Tykerb や Bevasizumab の効果を検証する世界共同治験は、経過観察中であり試験結果が早く待たれるところである。この分野は新薬の開発、新規治療方法の検証など話題の多い分野であった。

4：術前化学内分泌療法に関する研究

報告：この分野の臨床試験は世界の中でも特に日本で積極的に行われている。昨年度から始まった HER2 陰性患者を対象にして carboplatin の適応拡大を目指した randomized phase II 試験 (医師主導治験) の登録は、本年度すべて終了してデータの解析待ちの状況である。閉経後ホルモン感受性乳癌では術前ホルモン療法の効果で術後の抗がん剤の必要性を検証する、第III相多施設共同比較試験 (N-SAS-BC06, : NEOS study) が開始から3年が経過した。当院からの登録数は日本トップである。登録期間の延長が認められ、登録促進が期待される場所である。この1年間でこの分野のエビデンスが蓄積して考え方が大きく変化してきた。Molecular subtypeによってpCRの意義が異なる (生存率とリンクするか否か) が示され、術前化学療法は何を指標に行うべきかを再度検証する必要性が生じてきたと言える。

5：術後denosumab投与に関する研究

報告：骨転移を有する乳癌患者にゾメダとの比較試験で有効性を示し、固形癌の骨転移に対して承認された denosumab (RANKL抗体) を、術後再発 high risk 乳癌患者に再発予防で使用する世界共同大規模臨床試験が動いている。当院も含めて日本からの登録はすべて終了した。

全体として diversity の考え方が更に進化した。人種の多様化、社会通念の多様化、文化の多様化、癌の多様化、様々な分野で diversity が注目され、乳癌の分野でも大きく取り上げられている。昨年度に引き続き個別化を目指した治療戦略が更に重要になってくることは間違いない、世界の潮流に乗って現場の治療選択を行っていききたい。

<研究課題3>

骨軟部肉腫進行例に対する治療法の研究

A clinical trial of novel therapy for cases with advanced musculoskeletal sarcomas.

<研究者氏名> 整形外科部 杉浦英志

共同研究者 山田健志

【目的】

進行性の骨軟部肉腫症例に対しては有効な標準的治療がないのが現状である。今回腫瘍の進行の為に手術療法が困難な症例あるいは再発性の腫瘍に対してカルボプラチン、エトポシドによる動注化学療法及び術前放射線療法を行い、その有効性と安全性を確認した。

【対象および方法】

血管造影により腫瘍血管を確認。血管造影後にカテーテルを main feederにおき、病室にてカルボプラチン300mg/m² (2時間)・エトポシド200mg/body (2時間)を順に計4時間にわたって投与した。上記動注療法を2クール以上行っても縮小効果の見られなかった症例では放射線療法を追加した。照射法は分割照射とし、一回2-3 Gy、totalで30-60Gyとした。動注療法を施行した骨軟部腫瘍症例は13例であり、13例中放射線療法を併用した症例は7例であった。放射線線量は30-60Gy、平均44.9Gyであった。13例の内訳は男性6例、女性7例、平均年齢は40.5歳 (22-73歳) であった。腫瘍の組織型は、骨腫瘍では骨肉腫1例、Ewing肉腫1例、骨MFH1例、軟部腫瘍では平滑筋肉腫4例、MFH3例、滑膜肉腫2例、類上皮肉腫1例であった。腫瘍発生部位は骨腫瘍では肩甲骨1例、上腕骨1例、脊椎1例であり、軟部腫瘍では大腿部4例、臀部2例、下腿部1例、頭部1例、肩部1例、会陰部1例であった。

【結果】

治療効果については13例中10例がPR、3例はNCであった。PR10例のうち3例は60%以上の著明な腫瘍縮小が認められた。著明な腫瘍縮小の見られた症例は滑膜肉腫1例と平滑筋肉腫2例であった。局所再発は12例中3例に見られ、遠隔転移は8例に見られた。また、最終経過観察時の予後はCDF4例、NED1例、AWD1例、DOD7例であった。

副作用としては軽度の悪心を訴えたが、嘔気が持続することはなく、外来通院でも治療可能であった。血液検査では、初期の2コースでは白血球の軽度の減少を見るのみであったが、3コース以後は、白血球のみならずヘモグロビン、血小板いずれもが減少する汎血球減少症を呈した。

【考察】

経血管束等の重要臓器に近接した軟部肉腫進行例では、機能温存のために切除縁を縮小した手術が試みられるが、これには術前計画に基づいた一定の治療方針が必要である。放射線照射は、脂肪肉腫等の比較的感受性が高いものを除き、大部分の軟部肉腫に対してはその有用性は明らかではない。化学療法においては、小円型細胞肉腫を除き軟部腫瘍の感受性は乏しく、術前治療において有効性が確認されているものは現在のところ見られない。このため、腫瘍の縮小と安全な切除縁の確保を目的に、我々はカルボプラチン・エトポシドによる動注療法を行った。また、放射線治療の併用によって更なる効果を期待したが、CRといった著しい効果を得る事は困難であった。しかしながら本法においてPRを示した症例は13例中10例 (77%) であり、重要臓器の機能温存に寄与するものと考えられた。

<研究課題4>

早期前立腺がんに対する密封小線源永久挿入療法の臨床的研究

Clinical study of brachytherapy against early prostate cancer

<研究者氏名> 泌尿器科部 林 宣男

共同研究者 小倉 友二、曾我 倫久人

【研究目的】

早期前立腺癌に対する密封小線源永久挿入療法（小線源治療）は米国では標準的な治療法の一つとして確立されている。本邦では2003年7月に法的基準が制定され、同年9月より治療が実施可能となった。愛知県がんセンター中央病院では2006年6月より開始した。患者背景因子と治療成績の解析を行った。さらに、放射線治療により生じた有害事象を調べた。

【研究の対象と方法】

2006年6月より2011年10月までに111例の治療を行っている。治療方法としては、低リスク群（治療前PSA値が10ng/ml以下、グリソンスコアが6以下、TステージがT2a以下）では2009年4月以前は144Gy、以後は160Gyの小線源治療単独、中リスク群（治療前PSA値が10～20ng/ml、グリソンスコアが7、TステージがT2b）では104Gyの小線源治療と40Gyの放射線外照射の併用、高リスク群（治療前PSA値が20ng/ml以上、グリソンスコアが8以上、TステージがT2cかT3a）では104Gyの小線源治療と40Gyの放射線外照射の併用に内分泌治療を追加し行うことを基本としてきた。外照射は線源刺入1ヵ月後から開始している。2009年4月より、グリソンスコアが7（3+4）でもPSA値が10ng/ml以下でTステージがT2a以下の場合は、小線源治療単独に変更した。

プレプランは、線源刺入の2～4週間前に、実際に治療に使用する経直腸エコーを用い、治療計画装置（VariseedTM 7.1）を用いてPeripheral loading法にて線源配置を決定し線量計算を行った。線源配置のポストプランは刺入1ヵ月後にMRIとCTscanで行い、実際の線量計算を行った。また、小線源治療後に排尿障害を生じるため、 α 1ブロッカーを投与した。入院期間はプレプランで1泊2日、小線源治療は3泊4日とした。

【患者背景】

平均年齢は68.3歳（53-79歳）、低リスク群が73例（65.8%）、中リスク群が34例（30.6%）、高リスク群が4例（3.6%）であった。治療前PSA値は10 ng/ml以下が103例（92.7%）、10～20 ng/mlが8例（7.2%）、20 ng/ml以上は0例（0%）であった。グリソンスコアは3+3が89例（80.2%）、3+4が22例（19.8%）であった。TステージはT1cが55例（49.5%）、T2aが48例（43.2%）、T2bが4例（3.1%）、T2cが4例（3.1%）、T3aが0例（0%）であった。小線源治療単独は83例（74.8%）、外照射併用群は28例（25.2%）であった。

【研究結果】

- 1) 治療後に、再発を疑わせるPSA値上昇が3例にみられたが、すぐに低下しており、再発とは診断されなかった。
- 2) 癌死症例はなく、術後1ヵ月後の脳出血による他因死を1例認めた。
- 3) 合併症として、①ほぼ全症例で治療後に排尿障害がみられたが、 α 1ブロッカーの服用で9～12ヵ月間で改善した。②3%に尿閉を認め一時的な自己導尿を要したが、速やかに自排尿が可能となった。③約10%に直腸出血を認めたが、輸血、止血術を要するような、重篤な症例はなかった。

【結 果】

- 1) 111例の早期前立腺癌に対して小線源治療を行い、治療開

始後5年4ヵ月経過したが明らかな再発がないことから小線源治療の有用性が確認された。

- 2) 重篤な有害事象はみられず、保存的治療で対応可能であった。
- 3) 治療期間が短く低侵襲の治療法であり、早期前立腺癌に対して有効な治療法と考えられた。

<研究課題5>

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究

Development of molecular analysis on cancer diagnosis

<研究者氏名> 遺伝子病理診断部 谷田部恭

共同研究者 細田和貴、佐々木英一、村上善子、菅野雅人、長坂暢

【研究成果】

近年の分子生物学の飛躍的な発達により、がんの発生・悪性度の評価・薬剤応答性などの知見が蓄積され、それは現在も増えつつある。これら情報の一都は実臨床に直結しており、その応用により適切な診断・治療に結びつくものも多い。そこで、これらの知見を検証した上で、実際の病理診断、細胞診断に導入、応用することを目標に掲げた。その際に、診断に用いられる臨床検体は、生検検体などの小さな組織を利用しなければならなかったり、正常細胞が多数混じているなどの問題点も多い。そこで、それらの点を踏まえた新たなアッセイ系の確立を検討した。

本年度は、ALK阻害剤の発売が間近ということもあり、これまで知られているALK融合遺伝子の免疫染色による検出法について検討を行った。

ALK肺癌の免疫染色による同定には2つの重要なファクターが存在することを明らかにした。すなわち抗体のクローンと検出システムである。これまでの報告から、リンパ腫でよく使用されているクローンALK1は不十分であり、肺癌で適切と考えられているクローン5A4、D5F3を用いる必要があることを明らかにした（**図1**）。クローンD5F3はこれまで購入することができなかったが、現在は研究用として発売されている。発売当初であるため、実際の使用については評価が定まっていないが、正常細胞においても細胞膜表面に偽陽性所見が得られるなどの欠点も見出した。検出系としては、ALKの発現自体が弱いこともあり、高感度の検出系を用いてようやく陽性所見を取ることが出来る場合も少なくなく、リンカーを用いてシグナル増強をするiAEP法やEnvision Flex+法を用いる必要がある。両者はほぼ同等の検出感度を示すことがわかった。

FISHでは偽陰性が生じることがあるが、免疫染色では小細胞癌や神経内分泌大細胞癌で偽陽性が経験される。我々の検討においては67例の小細胞癌のうち、9例に部分的な反応も含めて陽性像が確認された（**図2**）。これはALKの発現が神経系細胞で見出されるのと関係があるのではないかと考えている。これらの組織型でのALKの発現には注意が必要であることがわかった。

図1 ALK免疫染色における抗体クローンと検出システムの違い

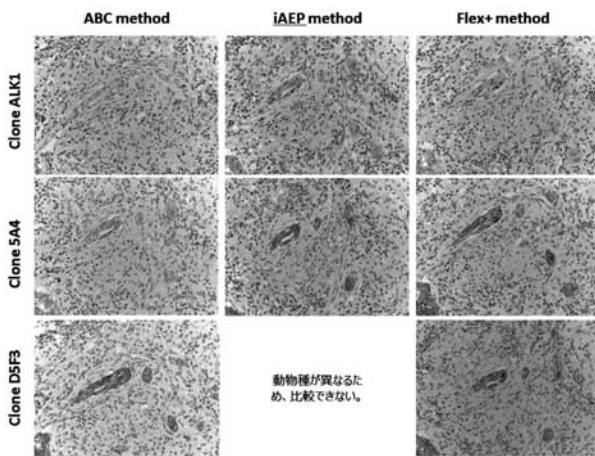
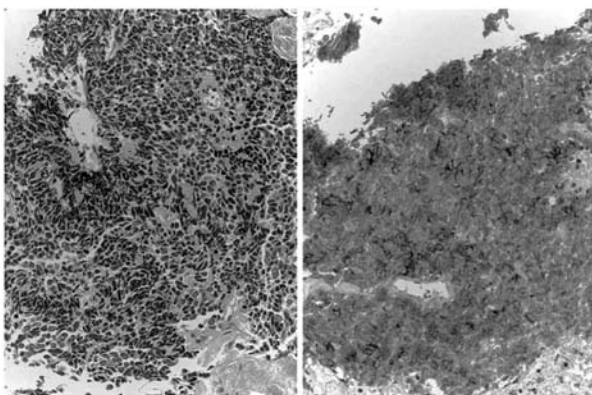


図2 小細胞癌におけるALK免疫染陽性像



<研究課題6>

臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発

Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

<研究者氏名> 臨床検査部 谷田部恭

共同研究者 山田智恵子、藤田 美幸、遠山由美子、
岡田 恭孝、所 嘉朗、板倉 英二、
早川 登、柴田 典子

臨床検査部は専門の異なる7部門からなり、それぞれに研究成果を上げている。

生化学部門では、投与前の血中濃度を迅速に報告することができるようにバンコマイシン血中濃度を院内の機器で測定するための検討を行い、院内検査に加えた。また、腫瘍崩壊症候群のリスクがある患者に対して使用されるラスリテック（がん化学療法用尿酸分解酵素製剤）の尿酸のモニタリングについて検討を行い、医師だけでなく、看護師にも正確な検査結果を理解しやすくした。HbA1cについては汎用試薬で測定していたが、標準法であるHPLC法の専用機器の導入によりデータの信頼性をより高めることができた。診療前待ち時間の短縮に向けて、腫瘍マーカーの測定機種（2機種）への項目振り分けを見直した。これにより、検体の流れを円滑にでき、診療前待ち時間の短縮できた。来年度にはさらに診療前待ち時間の短

縮に向けて努力したい。

血液検査部門では、フローサイトメトリー（FCM）法によるcyclin D1の過剰発現とBCR-ABL融合蛋白検出を検討した。前者ではCLLとの鑑別を、後者では染色体・遺伝子法との感度の比較を目的に行った。cyclinD1の解析は、CD5/CD19/cyclinD1の3カラー染色を施し、CD19+B細胞とCD5+T細胞（陰性対照）各々のCCND1平均蛍光強度の差を算出した。これにより、CCND1陽性のマントル細胞リンパ腫群と陰性疾患群の間に有意差を認め、その過剰発現を検出可能であることがわかった。一方BCR-ABL融合蛋白検出については、Ph1陽性のCML、ALLいずれも検出可能であったが、融合蛋白抽出の段階で検体に混在する好中球由来のプロテアーゼが結果に影響を及ぼす可能性を否定できず、治療効果判定に用いるには更なる検討が必要であることが判明した。これらの検討結果はいずれも学会にて発表した。

生理検査では、肺手術による心電図変化を検討した。胸腔鏡による部分切除群15例と開胸による片肺全摘群8例について、術前・術後の、心拍数、PQ時間、QTc時間、電気軸、Sv1、Rv5、I誘導波高、II誘導波高、移行帯、心電図診断の10項目を比較検討した。結果、胸腔鏡部分切除群では、全ての項目で有意な変化はなかった。開胸片肺全摘群では術後のII波高が、胸腔鏡部分切除群に比して優位に（ $P<0.05$ ）に低下していた。心電図診断が変化した症例は、部分切除群5例（33%）に比し、片肺全切除では6例（75%）であったが、統計的には有意ではなかった。考察として、①胸腔鏡部分切除で心電図が変化しなかったのは、侵襲性が少なかった、②片肺全摘でII誘導が減少したのは、開胸術による影響が大きかった、などがあげられる。今後は症例を増やしさらに検討をすすめる予定である。

病理検査部門では、癌の確定、補助診断に必要な不可欠な免疫染色結果を、より早く、安定して得るために、自動免疫染色機を導入し、諸条件の検討を行った。CD5を始め、用手法で行っていた大多数の抗体について、前処理の方法、検出システム（ABC法からEnvision FlexまたはEnvision Flex+法に変更）、抗体希釈倍率などについて検討し検出感度を上げると共に、自動染色に最も適した方法を決定した。CD13、HNF4αやCCR4については、新たなクローンやキットを用いての染色条件の検討を行い、導入に向けての準備を行った。また、骨組織脱灰では、EDTA脱灰液を用い、マイクロウィーブを照射することで、抗原分子の発現を保持したまま、従来よりも短時間で品質の良い標本が作成可能となった。

細胞診検査部門では、体腔液細胞診で、通常の判定とともに免疫組織学的染色を用いて異型細胞の検出率向上を目指している。本年度実施した体腔液（腹水・胸水・心嚢水）807例の内、免疫染色施行した46例（CDX2、TTF-1、ER、HNF4α、HNF-1β、p63、MITF、WT-1の8種の抗体を使用）を対象とした。中でもCDX2に注目し、2005年から2011年の腹水細胞診でCDX2の免疫染色を行った90例について原発組織別で比較し陽性率の検討を行った。特に胃癌では、腹水採取以前に化学療法を行った群ではその陽性率が21例中11例（52%）と下回り、その判定には注意を要することがわかった。

遺伝子検査部門では、肺がんにおける新規分子標的薬の効果予測のALK融合遺伝子検出方法についてRT-PCR法、免疫組織化学（IHC）法、FISH法の3法を用いて検討を行った。その結果、RT-PCR法の感度は良いが、検体として生材料が必要

であり、過去の症例では検査不可能であること、IHC法は簡便であるが固定の影響を受け易く、非特異反応もおきること、FISH法はその判定が難しい症例があること等、それぞれの方法の長所短所が明らかになった。今年度より、ALK遺伝子FISH検査が保険適応となり、それぞれの特徴に合わせた検査を行なって行きたい。

細菌検査部門では、血液培養の迅速化について検討した。血液培養検査は抗がん剤治療などにより易感染状態の患者にとって重要な検査であり、検査件数も平成19年度1580件、から平成23年度2594件と増加している。平成22年2月のオーダリングシステムの更新時に血液培養の陽性結果速報を採用し24時間リアルタイムに病棟に出力することで、患者の状態にあわせた処置が可能になった。しかし、主治医は菌名が確定するまで、無効な抗生剤を投与していた症例も複数件あった。一方で菌名確定はこれまで12~72時間後の結果報告であり長時間を要する検査だった。そこで、通常の血液寒天培地に加え、MRSA培地やBile Esculin培地などの特殊培地にも塗布したり、寒天平板培地に抗菌薬ディスクを載せて培養したりして夕方には推測される菌名を報告できる体制をとった。その結果担当医が適切な抗生剤を速やかに処方できるようになった。

<研究課題7>

トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用

Clinical evaluation for intensity modulated radiotherapy with Helical Tomotherapy

<研究者氏名> 放射線治療部 古平 毅

共同研究者 立花 弘之、富田 夏夫、大島 幸彦

はじめに

当院では2006/6にトモセラピー (TomoTherapy 社 TomoTherapy Hi-Art System) が設置されて以来、臨床例のIMRTによる治療を開始してきた。今回われわれはIMRTの治療効果とその有用性の指標である唾液腺機能を評価検討し当院での頭頸部IMRTの臨床的評価を試み、臨床的有用性・妥当性の評価を行うことを目的とした。

方 法

我々は今回IMRTの臨床的評価の目的で咽頭がんおよび頭頸部リンパ腫症例に対し、治療前後での唾液腺機能評価の目的で唾液腺シンチグラフィを実施してきた。

2006/6-2012/5に頭頸部癌に対しヘリカルトモセラピーを用い340例の頭頸部癌へのIMRT治療の経験を得た。上咽頭および中咽頭はIMRTによる耳下腺の線量低減のメリットが大きいと考えられ、積極的にIMRTの適応を勧めてきた。誌面の関係で上咽頭癌の成績を紹介するにとどめる。対象年齢は中央値52歳 (11-76)、男性59例・女性20例、臨床病期は I : II : III : IV (2例のIVCを含む)=1 : 16 : 33 : 15 : 14という内訳だった。全例化学療法を併用した。WHOの病理組織分類の type I は18例 (23%) type II-III は35例 (76%)、のこり1例は組織型判別不能であった。予後調査の解析時点で観察期間中央値は29.2ヵ月 (11-62ヵ月)、無病生存は59例、担癌生存は10例、

原病死が7例の内訳だった。2年粗生存率は89.4%、無増悪生存率は75.7%という結果であった。また唾液腺機能評価の目的で唾液腺機能評価の目的で、治療前・治療後3ヵ月・治療後1年に唾液腺シンチグラフィの評価を施行した。41症例・82耳下腺を対象に、経過中少なくとも2回以上の唾液腺シンチグラフィを施行できた症例を対象とした。治療前の評価が行えた症例は約半数程度だが、治療後3ヵ月のMER値に比較し、治療後1年のMER値は有意に上昇していた ($p < 0.0001$)。治療後3ヵ月時点の分布に比し、治療後1年のG2の割合は有意に減少しており ($p < 0.05$)、1年時点の口渇症状がないG0の割合も全体の約4分の1を占めていた。

ま と め

当院におけるトモセラピーを用いた頭頸部癌のIMRTにおいて治療効果および治療後QOL改善の点で、その高い臨床的有用性が示された。

2. 研究所における研究（人当研究費）

所長室

<研究課題>

- (主題) 日本と東アジアにおけるがんの民族疫学研究
(副題) 胆道がんの予防対策策定のための民族疫学研究（継続）

<研究者氏名>

田中英夫、松尾恵太郎、中尾心人¹⁾、渡邊美貴、田島和雄、
Puangrat Y¹⁾、Chawalit P¹⁾、Paiboon S¹⁾、Sopit W¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

タイ国東北部では胆道がんの発生頻度が世界で最も高く、保健医療上重要な問題となっている。これまでの疫学研究により肝吸虫感染・炎症との密接な関連が示され、吸虫感染者の胆道がんの予防、早期診断法の確立が急務、かつ可能な新局面に入り、われわれは日本とタイの両国における胆道がんの疫学的、臨床的、分子遺伝学的比較、特にがん関連遺伝子やゲノムコピー数多型や血清タンパク質の網羅的解析などの新手法を用いて胆道がんの特性を明らかにし、予防法の確立、診断マーカーの同定を目指す研究を今年度から展開していく。

本研究は、東京大学医科学研究所村上教授を研究代表者とする国内外の研究チームで構成されており、田島は20年以上、タイ側と共同研究を展開しておりコーンケン大学の研究者とも深い信頼関係を築いてきたが、本研究は胆道がん制御の新局面を拓く若い世代の共同研究基盤を構築も目指しており、寄生虫感染と慢性炎症による発がんという重要な課題の解決を通し、日本とタイ国との若手研究者の交流を目指した民族疫学研究を展開している。

<今後の方針>

三年計画の国際共同研究の二年目となり、肝吸虫感染者と比較対照群の資・試料収集が進められており、来年度中にすべての資・試料を収集し、解析し、原因探索を進める予定である。また、本研究を介して若手研究者を含む両国の研究者間の信頼関係を築いていくため、両国の研究協力体制に基づき、タイ側と日本側の研究者が東京に集い、両国のがん研究協力、交流の制度化を目指す。

¹⁾リサーチレジデント、²⁾タイ国・コンケン大学医学部

疫学・予防部

<研究課題> 1

- (主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析
(副題) 地域がん登録情報を用いた成人T細胞白血病リンパ腫の罹患動向の検討

<研究者氏名>

伊藤秀美、千原 大¹⁾、松尾恵太郎、片野田耕太²⁾、

柴田亜希子²⁾、松田智大²⁾、田島和雄³⁾、祖父江友孝⁴⁾、
田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

成人T細胞白血病リンパ腫についての記述疫学的な検証はこれまで疾患の原因ウイルスであるHTLV-1ウイルス流行地域である九州地区を中心に構築され、非流行地域での検証はなされていなかった。しかしながら非流行地域における罹患率推移の検証は今後の感染予防対策を構築していくうえで非常に重要と考えられる。そこで今回我々は、成人T細胞白血病リンパ腫の罹患率の経年推移を流行地域である九州、非流行地域である本州、また同様に非流行地域である米国の3地域で検証した。研究対象データは、日本に関しては国立がん研究センターがん対策情報センターの整備する全国がん罹患モニタリング集計データ(MCIJ)の部位別詳細解析用データであり、米国に関してはSurveillance Epidemiology and End Results (SEER)において9地域から構成されるSEER9を用いた。MCIJデータ中の各道府県別のデータについては2006年全国がん罹患統計に使用されている15都道府県のデータを使用した(秋田県、山形県、宮城県、新潟県、栃木県、千葉県、神奈川県、福井県、愛知県、鳥取県、岡山県、広島県、佐賀県、長崎県、熊本県)。このうち佐賀県、長崎県、熊本県の3県から構成されるデータをHTLV-1流行地域として、その他12県から構成されるデータを日本の非流行地域とし解析を行った。日本における解析は1993年から2006年までのデータを使用し、米国のデータは1993年から2008年までを使用した。その結果解析対象となった期間で本州地区、米国の2か所のHTLV-1非流行地域では成人T細胞白血病リンパ腫の罹患率の有意な増加がみられた一方で、九州地区では罹患率が変動していないことが示された(年間変化率;本州: +4.6%、米国: +6.2%、九州: 0.0%)。しかしながら2006年の罹患率は九州地区で人口10万人に対して1.85人なことに對して本州では0.17人、米国では0.02人と依然流行地域における罹患率が同疾患の大半を占めることが示された。

<今後の方向>

これまで成人T細胞白血病リンパ腫の罹患動態についてHTLV-1非流行地域のデータは示されたことがなかったが、今回の検証で非流行地域にキャリアが移動した結果、非流行地域での成人T細胞白血病リンパ腫の発症が増えていることが示唆された。疾患に対する理解の不足から非流行地域での感染予防への意識は流行地域よりも稀薄な可能性もあり、現在国が行っている全妊婦に対するHTLV-1検査の徹底などが必要と考えられる。非流行地域における罹患率増加を示したことで、同地域における感染予防の一助になると考えられる。

¹⁾連携大学院生、²⁾国立がん研究センター、³⁾研究所所長、
⁴⁾大阪大学医学部大学院医学系研究科

<研究課題> 2-1

- (主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) 複数の乳がん関連遺伝子多型による遺伝的な乳がんリスク予測モデルの構築

<研究者氏名>

松尾恵太郎、伊藤秀美、末田愛子¹⁾、川瀬孝和¹⁾、
広瀬かおる²⁾、細野覚代、谷田部恭³⁾、田島和雄⁴⁾、
岩田広治⁵⁾、岩瀬弘敬⁶⁾、田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

欧米人の全ゲノムを対象とした大規模疫学研究において、乳がんリスクに影響を与える複数の遺伝子多型が見出された。しかしながら、これらの遺伝子多型が日本人の乳がんリスクにどれほど影響を与えるかは不明である。そこで、日本人乳がんにおける遺伝的乳がん予測モデルを構築するため、愛知県がんセンター病院疫学プログラムに参加した697例の乳がん患者と1394例の非がん患者を対象に、症例対照研究を行った。乳がんリスクとの関連の強さを元に遺伝子多型を選定し、これらの選定された遺伝子多型を組み合わせ、リスクアレル数に基づきリスクスコアを作成した。このリスクスコアについて、乳がんリスクとの関連を検討し遺伝的乳がん予測モデルとして有効かどうかを、ROC曲線下の面積 (are under the curve: AUC) を評価することにより検討した。

乳がんリスクとの関連が強い、線維芽細胞増殖因子受容体2遺伝子多型、エストロゲン受容体1遺伝子多型を含む7つの遺伝子多型を選定した。一般集団において、リスクスコア0?4点の頻度分布はそれぞれ、18.7%、44.3%、30.9%、5.7%、0.4%であった。リスクスコア0 (リスクアレル数0-3) を持つ女性と比べ、リスクスコア1 (4-5)、2 (6-7)、3 (8-9)、4 (10-14) を持つ女性は、それぞれ1.34倍、1.71倍、3.01倍、8.69倍乳がんになりやすいことが分かった。遺伝要因 (リスクスコア) モデル、環境要因モデル (これまでの研究で乳がんリスクとの関連が見出されている要因: 年齢、閉経状況、初潮年齢、初産年齢、家族歴、BMI、運動)、遺伝+環境要因モデルのAUCはそれぞれ、59.7%、66.5%、69.3%で、統計学的有意に遺伝+環境要因モデルが予測モデルとして優れていた。

乳がんリスクに関連のある遺伝子多型をいくつか組み合わせることにより、遺伝的に乳がんになりやすい人を同定することができた。今回見出した遺伝的要因と既知の環境要因とを組み合わせると、環境要因のみで乳がんを予測するよりも、正しく乳がんを予測できた。今回の研究結果は、乳がんの遺伝的リスクの強さに応じたリスク評価に基づくリスク変容、遺伝的リスクに応じた検診法といった個別化した乳がん予防の可能性を示唆するものである。

<今後の方向>

個別化した乳がん予防の実現には、さらに正確なリスク予測モデルの構築が必要であるため、欧米人やアジア人を対象とした全ゲノムを対象とした大規模疫学研究で最近見出された遺伝子多型を追加して評価する予定である。

¹⁾研修生、²⁾愛知県衛生研究所、³⁾中央病院遺伝子病理診断部、⁴⁾研究所所長、⁵⁾中央病院乳腺外科、⁶⁾熊本大学大学院

<研究課題> 2-2

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病因疫学研究

(副題) 日本人女性における成人期の体重増加と子宮内膜癌リスクとの関連

<研究者氏名>

細野覚代、松尾恵太郎、広瀬かおる¹⁾、伊藤秀美、
鈴木勇史²⁾、川瀬孝和³⁾、渡邊美貴、中西 透⁴⁾、田島和雄⁵⁾、
田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

子宮内膜癌はエストロゲン依存性腫瘍であり肥満が重要な危険因子である。近年日本人では子宮内膜癌は増加傾向にあるが、日本人女性のBody Mass Index (BMI) は増加していない。今回我々は日本人女性において20歳から研究参加時までの体重増加と子宮内膜癌リスクとの関連を調べるために症例対照研究を行った。

2001年1月から2005年11月までに愛知県がんセンターを受診した子宮内膜癌222例と非がん女性2162名を研究対象とした。自記式の生活習慣調査票を用いて現在の身長と体重、20歳時の体重を調べ、BMIの変化を0以下 (G1)、0-3増加 (G2)、3以上増加 (G3) の3グループに分類した。ロジスティック回帰分析を用いて交絡因子調整オッズ比 (OR) と95%信頼区間 (95%CI) を調べ、20歳から研究参加時までの体重増加と子宮内膜癌リスクとの関連の強さを検討した。

G1と比較して、G2 (OR=1.28, 95%CI=0.88-1.87) とG3 (OR=2.02, 95%CI=1.38-2.96) ではORが高く正の関連を示した (trend P<0.001)。この関連は月経の有無、運動習慣の有無、分娩の有無、20歳時のBMIによる層別化解析後も保たれていた。統計学に有意ではなかったが、分娩の有無 (interaction P=0.074) と20歳時のBMI (interaction P=0.263) は成人期の体重増加と子宮内膜癌リスクとの関連に影響を与えている可能性が示された。青年期からの体重管理が子宮内膜癌の予防的に重要かもしれない。

<今後の方向>

子宮内膜癌の予防に関するエビデンスを集積するため、今後さまざまな生活習慣や遺伝的要因に関する研究を実施していく。

¹⁾愛知県衛生研究所研修生、²⁾名古屋市立大学大学院医学系研究科、³⁾研修生、⁴⁾中央病院婦人科、⁵⁾研究所所長

<研究課題> 2-3

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) ABO遺伝子型と胃がん、慢性胃炎、および*H.pylori*感染リスクの検討

<研究者氏名>

中尾心人¹⁾、松尾恵太郎、伊藤秀美、設楽紘平²⁾、細野覚代、
渡邊美貴、伊藤誠二³⁾、澤木 明⁴⁾、飯田真介⁵⁾、佐藤滋樹⁵⁾、
矢田部恭⁶⁾、山雄健次⁴⁾、上田龍三⁵⁾、田島和雄⁷⁾、

<目的・概要・進捗状況>

ABO血液型と胃がんリスクについての関連性がいくつかの研究で報告されているが、ABO遺伝子型を用いた検討されていなかった。今回の研究では、ABO遺伝子型が胃がんリスクに与える影響について日本人集団で検討した。また胃がんのリスク因子である *H.pylori* 感染や慢性胃炎についても、ABO遺伝子型との関連を検討した。

病院疫学研究システム (HERPACC) に参加した、703人の胃がん患者と1465人の非がん患者を用いて症例対照研究を行った。慢性胃炎、*H.pylori* 感染に関しては、血清 pepsinogen (PG) 値と抗 *H.pylori* IgG値の測定が可能であった、1406人の非がん患者について評価を行った。ABO遺伝子型は血液検体を用いて決定した。ABO遺伝子型が胃がん、慢性胃炎、*H.pylori* 感染に与える影響は、年齢、性別、喫煙歴、飲酒歴、胃がんの家族歴を調整し、多変量解析で評価した。

胃がんのオッズ比は、遺伝子型がAAの被験者と比較してOO、BOの被験者で、それぞれ0.70 (95% CI, 0.50-0.99)、0.53 (0.36-0.77) であった。また胃がんのオッズ比は、A allele数が多くなるとともに増加し (trend $P < 0.001$)、B allele数が多くなるとともに減少した (trend $P = 0.023$)。慢性胃炎のオッズ比はA型の被験者に比べてB型の被験者で0.73 (0.53-0.99) であり、*H.pylori* 感染のオッズ比はAAの被験者と比較してBBの被験者で0.39 (0.17-0.87) であった。

今回の研究においてABO遺伝子型と胃がんに有意な関連を認めた。A遺伝子を持つ群では、他の群より有意に胃がんリスクが高く、これまでの海外での報告と矛盾しない結果であった。また、B遺伝子を持つ群では、他の群より胃がんリスクが低い傾向がみられた。さらに、A遺伝子を持つ群では他の群より慢性胃炎の有病率が高い傾向が示唆され、B遺伝子を持つ群では他の群より *H.pylori* 感染が少ない傾向が示唆された。

<今後の方向>

他のがん発症リスクにもABO遺伝子が関連しているかどうか、ABO遺伝子が胃がん、慢性胃炎、*H.pylori* 感染に影響を与えるメカニズムなどについて、今後さらなる検討を行っていく。

¹⁾リサーチレジデント、²⁾中央病院薬物療法部、³⁾中央病院消化器外科部、⁴⁾中央病院消化器内科部、⁵⁾名古屋市立大学、⁶⁾中央病院遺伝子病理診断部、⁷⁾研究所所長、⁸⁾名古屋大学

<研究課題> 2-4

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) 末梢血リンパ球DNA中のIGF2, TUSC3メチル化と胃がんリスクの関連

<研究者氏名>

尾瀬 功^{1,2)}、湯浅保仁³⁾、長崎弘美³⁾、秋山好光³⁾、設楽紘平⁴⁾、伊藤誠二⁵⁾、細野覚代、渡邊美貴、伊藤秀美、田中英夫、Daehee Kang⁶⁾、Kai-feng Pan⁷⁾、

<目的・概要・進捗状況>

異常なDNAメチル化は多くのがんの発がん過程において重要な役割を果たす。したがって胃粘膜細胞のDNAメチル化状態を測定することで発がんリスクの推定が行えるが、胃粘膜の採取は簡便ではなく、侵襲も伴うという問題がある。一方、末梢血の採取は簡便かつ低侵襲で可能であるものの、末梢血DNAのメチル化と胃がんの罹患や生存との関連は明らかではない。そこで、末梢血DNAのメチル化と胃がんの関連を明らかにするべく症例対照研究を行った。

当院で行われている大規模病院疫学研究HERPACCに2001年から2005年の間に参加した外来初診患者のうち、胃がん患者299名を症例とし、性別・年齢を一致させた非がん患者299名を対照とした。対象者の末梢血リンパ球よりDNAを抽出し、MSP法を用いてIGF2およびTUSC3のメチル化の測定を行った。

症例の末梢血リンパ球DNA中のIGF2のメチル化は対象者より低く、IGF2のメチル化と胃がんとの間に負の関連が見られた。また、症例のうち臨床情報の得られた231名を対象として全生存と末梢血リンパ球DNAメチル化との関連を検討したところ、IGF2高メチル化群で有意に良好な生存を示した (HR 0.42, 95%CI 0.25-0.71)。一方、TUSC3は胃がんおよび生存と関連を示さなかった。次に生活習慣と末梢血リンパ球DNAのメチル化を検討したところ、年齢と喫煙がIGF2低メチル化とTUSC3高メチル化に関連していた。

以上の結果より、末梢血リンパ球のIGF2メチル化は胃がんリスクの代替指標として有用であることが示唆された。加えて、末梢血IGF2のメチル化は胃がんの予後予測因子としても有用な可能性が示唆された。

<今後の方向>

胃がんの発がん過程における末梢血DNAのエピジェネティクスな変化に影響する要因の探索を継続してゆく。

¹⁾研修生、²⁾がん研究振興財団リサーチレジデント、³⁾東京医科歯科大学、⁴⁾中央病院薬物療法部、⁵⁾中央病院消化器外科部、⁶⁾Seoul National University College of Medicine、⁷⁾Peking University Cancer Hospital and Institute

<研究課題> 3

(主題) 「健康日本21あいち」に基づく愛知県民のためのがん予防啓発技術の開発研究

(副題) 各種禁煙プログラムに関する費用効果分析：OTC禁煙補助約利用によって生み出される禁煙成功者に要したコスト

<研究者氏名>

田中英夫、谷口千枝¹⁾、伊藤秀美、尾瀬 功^{2,3)}

<目的・概要・進捗状況>

各種禁煙プログラムを国内で普及させることで喫煙率を低下させ、がんの一次予防を推進するためには、プログラムの費用効果を分析し、その経済的な有用性を明らかにしておく必要が

ある。そこで現在、国内のドラッグストアで使用されているOTC禁煙補助薬の利用によって生み出される禁煙成功者に要したコストを算出し、効果的で効率的な禁煙プログラムのあり方を考えることを目的とした。

コスト算出の方法は、名古屋市内のドラッグストアでニコチンパッチを購入した64人の、購入金額の総計(A)+薬剤師の指導時間コスト(B)+薬局に行くまでの禁煙希望者の時間コスト(C)とした。算出に用いた禁煙成功率は、上記64人のニコチンパッチ購入開始日から14週後の時点における禁煙成功率とした。対象者に要したコストの総額を対象者の中の禁煙成功数(対象者×禁煙成功率)で除した。

電話等による喫煙状況の確認調査の結果、対象者の禁煙成功率は9%であった。一方、対象者全体の費用の合計は957,144円(A:864,360円、B:37,232円、C:55,552円)であり、その結果、OTC禁煙補助薬の利用によって生み出される一人の禁煙成功者に要したコストは、159,524円となった。

<今後の方向>

前回調査した、保険を使った禁煙治療により生み出される禁煙成功者に要したコスト計算では、一人の禁煙成功者を生み出すコストは、259,799円であった。今回のOTC禁煙補助薬利用によって一人の禁煙成功者を生み出すコストは159,524円であり、保険を使った禁煙治療に比べて低コストであった。今回は、禁煙補助薬の初回購入から14週間後の禁煙成功率であり、今後は、長期的な禁煙成功率を調査し、算出していく必要があると考えられる。

¹⁾名古屋医療センター、²⁾任意研修生、³⁾がん研究振興財団リサーチレジデント

腫瘍病理学部

<研究課題> 1

(主題) 制がん医療の基盤材料となる機能性ペプチドの開発
(副題) がん選択的DDSとがん標的医療技術確立の試み

<研究者氏名>

近藤英作、齋藤 憲¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

我が国の制がん医療における先進医療の新しいレパートリーを創出することを目標に、がん細胞選択的に細胞膜透過能を発揮する新規ペプチドを開発し、これを基盤材料とした細胞内分子輸送システムや分子標的治療システム、疾患診断用イメージングシステムの構築を目指している。現在まで発生系統の異なる約10種類のヒト悪性腫瘍細胞に対して選択的勾配を示して高透過能を発揮する新規アミノ酸配列をコードする細胞膜透過ペプチドを得た(特許申請済み、学術論文掲載済み)。さらにこれらの中から白血病・肝細胞がん標的ペプチドと癌抑制遺伝子p16INK4aの機能を代償する配列を融合した抗腫瘍ペプチドを作成、さらに現在機能の大幅な増強を目指したペプチド改変技術を検討中である。

<今後の方向>

今後はこれらペプチドを用いた腫瘍イメージングやペプチド医薬の創成など、がん医療への実施応用のための開発研究を推進していく。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 2

(主題) 難治性肺がんの分子病理学的性状の解析研究
(副題) ゲフィティニブ耐性肺がんに対する増殖抑制分子の研究

<研究者氏名>

齋藤 憲、瀧川奈義夫¹⁾、木浦勝行²⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

肺がんにおける先進医療の領域ではgefitinib(イレッサ)、erlotinib(タルセバ)などの分子標的薬がベッドサイドに登場し活躍しているが、近年、これら現行の分子標的薬による耐性クローン腫瘍の出現が新たに大きな治療学上の問題となっている。このような耐性変異型遺伝子出現が頻発している現状に鑑みて、われわれはゲフィティニブ反応性・耐性肺がんのちがいに焦点を当て、耐性がんと感受性がんの分子学的特徴の差異を解析し、増殖抑制に大きな影響を与える分子反応を明らかにしつつある。さらにこの結果に基づいて、gefitinib(イレッサ)耐性肺がん標的ペプチドツールの創成と、その機能の解析を進めている。

<今後の方向>

作成中の耐性肺がん標的抗腫瘍ペプチドのin vivo tumor modelマウスにおける実効性の検討、さらに機能増強を企図したペプチドの修飾改良などを行っていく予定である。

¹⁾ 川崎医科大学付属川崎病院総合内科

²⁾ 岡山大学医学部血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科

<研究課題> 3

(主題) 固形癌細胞膜表面レセプターCXADR(CAR)を介する増殖制御機構の解析
(副題) がん細胞膜上に恒常的に発現するウイルスレセプターのがん増殖制御における役割の解析

<研究者氏名>

近藤英作、齋藤 憲¹⁾、阪口正清²⁾、飯岡英和³⁾、中西速夫

<目的・概要・進捗状況>

多種類のヒトがん細胞で、増殖時ウイルス非存在下に恒常的なウイルスレセプター遺伝子の有意な発現が維持されている現象が認められる。これは同分子が本来がん細胞増殖に重要な役割を果たしていることを示唆している。われわれは、アデノウイルスレセプターCXADR(Coxsackie and Adenovirus receptor; CAR)に注目し、その恒常的発現を持つがん細胞の生物

学的動態にいかなる役割を担っているのかを検討している。約20種類のヒト悪性腫瘍細胞株についてqPCR法を用いてCARの発現の特徴を解析し、高発現する固形癌でCARの発現抑制を行ったところ、数種類のがん細胞群で増殖能の顕著な低下が認められた。この増殖抑制の分子機序としてCARが細胞骨格の制御に重要な役割を果たす分子の機能を制御していることが判明している。

<今後の方向>

CARが固形癌の増殖進展に必要な分子であることをin vivo 担癌モデルマウスで検証していきたい。

¹⁾ リサーチレジデント

²⁾ 岡山大学医学部細胞生物学講座

³⁾ 研修生

<研究課題> 4

(主題) ヒトおよび動物がん転移の分子病理学的研究

(副題) 腹膜転移および血行性転移機構の解析とその臨床応用

<研究者氏名>

中西速夫、村上弘城¹⁾、伊藤誠二²⁾、金光幸秀²⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

胃癌の術後再発の半数以上は腹膜再発である。この腹膜再発は腹腔内の遊離癌細胞あるいは目に見えない微小転移によるものと考えられることから、微小転移に対する高感度な診断法と効果的な治療法の組み合わせにより再発の予防と生存率の大幅な改善が期待できる。我々はGFP遺伝子導入ヒト胃癌の腹膜微小転移モデルを用いて、微小転移は進行した転移に比較して各種抗癌剤、殊にパクリタキセルの腹腔内投与に対する化学療法感受性が高いことを明らかにしてきたが、自然耐性また獲得耐性の克服が臨床的課題となっている。パクリタキセル感受性予測にもとづく要治療患者の選別は個別化医療をすすめるためにじゅうようである。そこで、3種類のがん細胞株(親株)からin vivo selectionによりパクリタキセル耐性株を作成し、網羅的解析により薬剤抵抗性候補遺伝子の探索を行っている。これまでに30Kチップによる発現解析から1次選別しqRT-PCRで確認した10個程度の抵抗性候補遺伝子につき、感受性の評価が可能であった臨床検体(Responder, Non-responder)を用いてvalidationを行い、少なくとも3個の遺伝子がパクリタキセル抵抗性に関連している可能性を明らかにした。

一方、血行性転移に対する早期診断、治療効果モニター法として近年、血液中循環がん細胞(CTC)が注目を集めている。しかし、現在唯一FDAに承認されているCellSearch Systemは操作が煩雑で時間とコストがかかり、実用的でない。我々らはがん細胞のサイズなどに注目し、EpCAM/CD45染色により簡便かつ低コストにCTCを濃縮、分離できる各種マイクロデバイスを作成した。本法はViabilityが高く、生きたがん細胞を効率的に分離でき、1個のがん細胞の多数の遺伝子発現解析が可能であることを明らかにした。

<今後の方向>

上記のうちCTCに関してはマイクロデバイスの改良、細胞アレーによる細胞の配列、1細胞(自動)ピッキング法など各要素技術の改良を行い、システムとして簡便迅速、高精度なCTC分離解析装置の開発を進める予定である。また実際の臨床検体で検討し、CTCが予後や再発と関連するか否か検討する。

¹⁾ 研修生、²⁾ 愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 5

(主題) ヒトおよび動物癌転移の分子病理学的研究

(副題) 胃癌等の消化器がん転移に対する新しい分子光イメージング法に関する研究

<研究者氏名>

中西速夫、小笠原麻衣¹⁾、伊藤彰洋¹⁾、三澤一成²⁾、伊藤誠二²⁾、伊藤友一²⁾、近藤英作

胃がんの腹膜転移を早期に発見することは従来のCT/MRIでは困難であり、CT/MRIの弱点とされてきた。この点を改善するためにはがん細胞を特異的に検出できるプローブを用いた分子イメージング法の開発が必要である。我々はそのプローブとして種々の抗体について検討し、EGFRが胃がんの腹膜転移巣では80%と高率に発現していることを免疫染色により見いだした。そこで、今年度はプローブとして臨床ですでに分子標的治療薬として大腸がんに対して使われている抗体医薬(抗EGFR抗体)であるCetuximabについて検討した。

このEGFR抗体をXenolight750ならびに現在すでに肝機能検査薬として臨床で使われ、米国FDAにより安全性も承認されているICG(indocyanine green)などの近赤外(NIR)蛍光色素で標識し、腹膜転移を有するヌードマウスの腹腔内(静脈内)に接種してIVIS Lumina システム(愛知県がんセンター)により体外発光イメージングおよび蛍光イメージングを行ったところ、数mmサイズの小さな腹膜転移を特異的に検出することができた。このことからNIR蛍光標識-Cetuximabを用いた蛍光イメージングにより腹膜転移を高感度にしかも簡便、安全に早期診断できる可能性が示唆された。

しかし、腹膜転移の蛍光イメージングでは、2次元のイメージしか取得できず、正確な3次元的位置情報が得られなかった。そこで3Dイメージングの可能なIvis Spectrumを用いて3Dイメージング像を取得し、専用の画像ソフトを使って愛知県がんセンターで取得したMRI画像と融合することに成功した。これにより2Dイメージでは得られなかった体内における正確な転移巣の部位の特定が可能になった。

<今後の方向>

NIR蛍光標識抗体を用いた体外分子イメージングはマウスモデルにおいては1-2mmサイズの腹膜微小転移をMRIなどの従来の画像診断法に比較して高感度かつ簡便に検出できることを今回初めて明らかにした。しかし、臨床応用に際し、一番の課題は蛍光の組織透過性の問題で、実際の胃がん患者への応用可能性である。今後、臨床応用に向けたアプローチとして蛍光

腹腔鏡による腹膜転移，リンパ節転移の近赤外蛍光イメージングについて医工連携、企業との連携により共同で進めてゆきたい。

¹⁾研修生、²⁾愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 6

(主題) ヒトおよび動物癌転移の分子病理学的研究

(副題) 頭頸部扁平上皮癌、胃癌、大腸癌等の消化器がんに対する新しい分子標的治療法に関する研究-がん幹細胞を標的とする治療法に関する基礎的検討

<研究者氏名>

中西速夫、大島由起子¹⁾、欄真一郎¹⁾、斉藤卓也¹⁾、田中晴成²⁾、伊藤誠二³⁾、金光幸秀³⁾、長谷川泰久⁴⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

根治可能ながん治療法としてがん幹細胞を標的とする分子標的治療法の研究が注目されている。EGFR、HER2などのHER family 標的薬は大腸がん (CRC)、胃がん (GC)、肺がん、頭頸部扁平上皮がん (HNSCC) において一般臨床に使用され、有意な生存延長効果が示されているが、耐性の獲得は避けられず、その克服が臨床大課題となっている。我々は、耐性克服のための有力なアプローチとしてがん幹細胞を標的とする分子標的治療法の開発を目指している。そのためにがん幹細胞様形質を有する種々の消化器がん細胞株を確立し、それらのがん幹細胞様細胞のHER family 標的薬 (Gefitinib、Lapatinib、Cetuximab、Trastuzumab) に対する感受性とその機構の検討を行っている。これまでにCRC株、GC株ならびにHNSCC株など複数のがん幹細胞様細胞を作成している。大腸癌がん細胞株 COLM-5 は変異や増幅はないがEGFRを高発現し、Gefitinib、Cetuximabは本株に対し強い抗腫瘍効果、転移抑制効果を示した。本細胞からsortingしたCD133(+)細胞はCD133(-)細胞に比べ、spheroid形成能やNOD/Scidマウス皮下腫瘍形成率が高く、がん幹細胞様形質を示した。両細胞のGefitinib感受性を検討したところ、Gefitinib感受性はCD133(-)細胞に比べ、CD133(+)細胞の方が有意に高かった。またHER2陽性胃がん細胞株のSP fractionはnon SP fractionに比べてLapatinib感受性が高かった。

一方、近年、肺癌等においてGefitinibの耐性化の原因の一つとしてEMTが関与していることが報告されているが、頭頸部扁平上皮がん細胞 (HNSCC) においては、その意義や機序はいまだ明らかでない。本年度は、HNSCC細胞株を用いてEMTとGefitinibの感受性の関連および耐性化のメカニズムを検討した。UM-SCC-81B細胞はGefitinib高感受性である。In vitroでUM-SCC-81BにGefitinibを反復投与し、耐性株(UMSCC-81B-Fb=Fb)を作成したところ、EMT形質E-cadherin(-)/Vimentin(+)/Snail(+)を発現していた。このFb細胞ではEGFRのdown regulationが見られ、EGFRの局在は膜ではなく細胞質に変化していた。以上のことから、HNSCCにおいてもEMTはGefitinibの耐性の原因となること

が考えられた。また、そのメカニズムとしてEGFRの発現低下、局在変化が関与している可能性が示唆された。

<今後の方向>

がん幹細胞様形質を示す大腸がん、胃がん細胞株のGefitinib感受性ならびにEMT形質を示す頭頸部がん細胞株のGefitinib抵抗性のシグナル経路としてHER familyが密接に関連している可能性が示唆された。HER familyの下流シグナルや他のシグナル経路とのクロストーク等の解析を行い、この制御機構を明らかにし、がん幹細胞を標的とする新しい分子標的治療を構築したい。

¹⁾研修生、²⁾愛知県がんセンター研究所中央実験室、³⁾愛知県がんセンター中央病院・消化器外科、⁴⁾愛知県がんセンター中央病院・頭頸部外科

<研究課題> 7

(主題) 人体剖検例の病理組織学的研究

<研究者氏名>

中西速夫、斎藤典子、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

本年度(平成23年4月~平成24年3月)は18体の病理解剖を行い、開所以来の総剖検数を2,630体とした。これらの症例は組織検査後、病理診断・解剖所見を付して担当医に報告されると同時に、日本病理学会の剖検輯報に掲載される。学問的に貴重な症例、臨床的(診断並びに治療)に重要で検討を要する症例に関しては、担当医との意見の交換は勿論であるが、適時行われるCPC(臨床病理検討会)に提出し相互討議を深め、当がんセンターの医療水準の向上の一役を担ってきた。本年度は直腸がん、食道がんおよび甲状腺がんの3症例についてCPCを開催した。

<今後の方向>

がんの診断技術、制がん手段(手術・照射・制がん剤・免疫療法)の進歩によって、根治例の増加は勿論、非根治例でも長期間寛解をもたらす機会が開かれつつある。悪性リンパ腫等に対する幹細胞移植を組み合わせた超大量化学療法や分子標的治療、食道がん、脳転移への分割照射の治療効果などがその代表で、剖検時腫瘍の顕著な縮小、癒痕治癒を認めることが少なくない。しかし一方で感染症をはじめ出血、血栓症などの合併症が死因となる例も決して稀ではない。かかる症例を疾患の自然史的立場から系統的な病理学的検討を行い、良好な予後に導く要因を引き出すのが今後の重要な課題である。また近年増加傾向にある臨床試験(治験)が行われている症例や医療事故が疑われる症例の剖検については臨床側との密接な協力、また第三者機関へのコンサルテーション等により積極的に症例報告、情報開示を行ってゆくことが大切である。

分子腫瘍学部

<研究課題> 1

(主 題) 肺がんの発症・進展機序の解明と分子標的療法の検索

(副 題) 小細胞肺癌におけるmicroRNA miR-375の役割

<研究者氏名>

長田啓隆、西川恵理¹⁾、岡崎泰昌²⁾、有馬千夏¹⁾、富田秀太¹⁾、立松義朗、田口 歩¹⁾、島田由香子¹⁾、柳澤 聖¹⁾、藤井万紀子、近藤豊、谷田部恭³⁾、豊國伸哉²⁾、関戸好孝、高橋 隆¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

多くの先進諸国において癌死亡率第一位を占める肺癌の予後改善のために革新的な新規治療法の開発が求められており、そのために肺癌の発生・進展機序に関する分子生物学的な解析が精力的になされ、ジェネティック・エピジェネティックな異常の蓄積に基づく特徴的な遺伝子発現プロファイルが、肺癌の病理組織像や臨床予後と強い関連を持つことが明らかとなってきている。我々はこのような過程で、肺癌における遺伝子発現異常だけでなく、遺伝子発現制御に関わるmicroRNA (miRNA) にも注目し検討してきており、let-7発現低下・miR-17-92クラスター発現亢進といった代表的なmiRNAの発現異常が、肺癌の発生・進展に深く関わっていることを明らかとしてきた。同時に肺癌細胞の細胞系列・分化異常の重要性にも注目し、肺神経内分泌細胞 (PNEC) の発生・分化のマスターレギュレーターである転写制御因子achaete-scute homologue 1 (ASH1/ASCL1) が、高悪性度肺癌である神経内分泌肺癌の分子病態獲得にも重要な寄与をすることを以前報告した。

このような研究経過から、神経内分泌肺癌の分子病態におけるmiRNAの意義を検討したところ、ASH1がmiR-375を非常に強く発現誘導することが判明した。またmiR-375単独で神経内分泌分化を誘導し、miR-375がASH1による神経内分泌分化誘導シグナルの中で重要なメディエーターの役割を果たすことが判明した。更にmiR-375の標的遺伝子を探索したところ、がん関連遺伝子として注目されているYAP1が強い発現抑制を受けることが判明した。そこで多数の肺癌細胞株でASH1, miR-375, YAP1の発現レベルを検討したところ、ASH1とmiR-375とは正相関、ASH1及びmiR-375とYAP1とは負の相関が見られた。代表的神経内分泌肺癌である小細胞肺癌では、miR-375が高発現し、その標的であるYAP1は殆ど発現していなかった。そこで、小細胞肺癌にYAP1遺伝子を導入したところ、アポトーシス誘導と細胞増殖抑制が観察された。一方、非小細胞肺癌ではそのような増殖抑制効果は得られなかった。

<今後の方向>

この今年度の解析は、ASH1-miR-375-YAP1というシグナルが神経内分泌肺癌の発症進展に重要な寄与をしていることを示唆している。またYAP1は非小細胞肺癌では腫瘍を促進する癌遺伝子と考えられるが、神経内分泌肺癌の小細胞肺癌では癌抑制遺伝子として作用していると考えられ、細胞リネージ特異的な機能を持つと考えられる。今後も肺癌の分子病態の全貌を理解する上でmiRNAの発現異常の解析が非常に重要であると

考えられる。

¹⁾名大・院医・分子腫瘍、²⁾名大・院医・生体反応病理学、

³⁾中央病院・遺伝子病理

<研究課題> 2

(主 題) 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副 題) 中皮腫細胞におけるがん遺伝子YAPの発現異常の解析

<研究者氏名>

水野鉄也¹⁾、石黒太志¹⁾、藤井万紀子、近藤豊、長田啓隆、関戸好孝

<目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫はアスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他のコモンな腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。40~50%の中皮腫症例においてNeurofibromatosis type 2 (NF2) 遺伝子の不活化変異を認めることが報告されている。近年NF2遺伝子産物、Merlinの下流カスケードの1つであるHippoシグナル伝達経路が細胞増殖やアポトーシスの制御をすることによって臓器の大きさを調節するのに重要な役割を担っていることが明らかにされた。さらにHippoシグナル伝達系の異常が各種臓器の発がんに関与していることも明らかにされつつある。中皮腫においてはHippoシグナル経路の構成分子のいずれかの分子が70%の腫瘍で不活化しており、その結果引き起こされるエフェクター分子であるYAPがん遺伝子の活性化が高頻度に起きていることが我々の研究で明らかとなった。YAPは転写コアクチベーターであり、転写因子TEADと結合することが知られているが中皮腫細胞における転写の標的遺伝子や役割の詳細は十分に分かっていない。

我々は、今回、中皮腫細胞株においてレンチウィルスを用いてYAPのshRNAを導入し (YAPノックダウン)、Tetra Color Oneを用いたMTTアッセイ変法により増殖能の変化を評価した。細胞の遊走能、浸潤能はBoyden chamber assayを用いて、足場非依存性増殖能はsoft agar colony formation assayを用いて評価した。その結果、YAPをノックダウンすることにより、YAP活性型の中皮腫細胞株においては増殖能、遊走能等、いずれの活性化も著明に抑制されることを明らかにした。

さらに、YAPの標的遺伝子を同定することを目的として中皮腫細胞株3株を用いてYAPノックダウンを行い、発現アレイ解析を用いて3株に共通して1/2以下に発現低下した遺伝子群を同定した。その結果、228個の遺伝子が3つの細胞株に共通して発現低下することが明らかになった。同定された遺伝子群に対してGene Ontology解析、Pathway解析を行ったところ細胞周期に係わる遺伝子との強い関与が示され、転写因子forkhead box M (FOXO) やcyclin D1 (CCND1) がYAPの標的遺伝子の候補であると考えられた。抗YAP抗体を用いたクロマチン免疫沈降法とルシフェラーゼレポーターアッセイ

によってYAPの転写制御への関与を検索したところ、これらの遺伝子がYAP転写コアクチベーターの転写標的遺伝子であることが明らかとなった。中皮腫細胞において、CCND1、FOXM1をノックダウンし、それぞれの細胞周期、細胞増殖への影響を検討したところ抑制効果が認められた。しかしその抑制効果は、YAP自身のノックダウンと比較するとやや軽度であった。

<今後の方向>

中皮腫細胞においてCCND1, FOXM1はYAPがん遺伝子の標的遺伝子であることが示された。YAPはそれらの遺伝子を含む細胞周期促進遺伝子群の転写を上昇させることでがん遺伝子として機能することが示唆された。悪性中皮腫細胞の新規治療戦略開発においては、今後、YAPおよびその標的遺伝子であるCCND1, FOXM1を制御することが一つの有力な戦略と考えられ、Hippoシグナル伝達系に関わる研究をさらに推進することが必要であることが示唆された。

¹⁾リサーチレジデント

<研究課題> 3

(主題) 消化器がんの発症におけるエピジェネティクス関与の解明

<研究者氏名>

岡本泰幸¹⁾、近藤 豊

<目的・概要・進捗状況>

Gastrointestinal stromal tumor (GIST) は、胃や小腸、大腸などの消化管に発生する間葉系由来の腫瘍であり、KIT遺伝子やPDGFR α 遺伝子の変異が高頻度に認められる。しかしGISTには、転移を伴う極めて予後不良な群と、腫瘍の増大が遅く転移を伴わない予後が比較的良好な群を認め、それらの分子生物学的な違いは明らかになっていない。

GIST115例を対象として、転移・浸潤をきたしている症例をmalignant GIST, 転移・浸潤のない症例をbenign GIST (<5cm and <5/50HPF) とborderline GIST (>5cm or >5/50HPF) とし、Methylated CpG Island amplification-microarray (MCAM) 法での6,157遺伝子のプロモーター領域のDNAメチル化の網羅的解析とパイロシーケンス法によるDNAメチル化の定量的解析により、GISTの悪性度におけるDNA異常メチル化の関与を検討した。

malignant GISTでは、がん抑制遺伝子 (RASSF1A, CDKN2A) のプロモーター領域での異常メチル化をみとめ、LINE1のメチル化は低下していた (P=0.02)。また、網羅的解析の結果、malignant GISTでは、benign GISTに比較し多くの遺伝子でプロモーター領域の異常メチル化を認めた (473 \pm 182遺伝子vs 360 \pm 82遺伝子, P=0.012)。MCAMによるメチル化情報からmalignant GISTとbenign GISTを区別する最適な遺伝子セット (REC8, PAX3, CDKN2A) を同定し、予後予測マーカーとしての有用性を検討した。3遺伝子のうち少なくとも1つの遺伝子でメチル化が検出される症例は有意に予後が悪く (P=0.034)、また多変量解析から、メチル化状態は独立した予後予測因子となった (Hazard ratio 4.579, P=0.

042)。

GISTの進展にはゲノム全体の低メチルとプロモーター領域のメチル化亢進が深く関与しており、同定したDNAメチル化マーカーのメチル化状態は悪性度の予測マーカーとして有用であると考えた。今後、多数検体による前向き試験等で、その有用性を検討していきたい。

¹⁾研修生

遺伝子医療研究部

<研究課題> 1-1

(主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副題) aCGHによる末梢性T細胞性リンパ腫、非特異型におけるサブクローンの同定

<研究者氏名>

吉田雅明¹⁾、海野 啓²⁾、劉芳³⁾、在田幸太郎³⁾、加留部謙之輔、都築 忍、大島孝一⁴⁾、瀬戸加大

<目的・概要・進捗状況>

我々は以前に、ゲノム異常陽性のperipheral T-cell lymphoma, not otherwise specified (PTCL-NOS) とリンパ腫型Adult T-cell Leukemia/Lymphoma (ATLL) のゲノム異常様式、またその臨床病理学的所見ならびに予後が極めて類似していることを見出した。このことからheterogeneousなcategoryであるPTCL-NOSの中にはリンパ腫型ATLLと良く似た病態を有する疾患が存在することを示した。また我々は以前に大多数のATLL患者では、リンパ節内にゲノム異常の異なる複数のサブクローンが存在することを見出し、報告した。そこで今回PTCL-NOSでもATLLと同じくサブクローンが存在しているかについてarray comparative genomic hybridization (aCGH) を用いて詳細に検討した。13例のPTCL-NOSのリンパ節検体について解析を行い、うち9例 (69.2%) でlog2 ratio imbalanceを認め、ゲノム異常陽性のPTCL-NOSにもサブクローンが存在することが示唆された。これは以前にATLLで確認されたサブクローンの存在割合と同じであった (13例中9例、69.2%)。このことは両疾患が良く似た疾患群であることを更に支持しており、両者はHTLV-1感染情報なしには区別することのできない疾患であると考えられる。またPTCL-NOSにおいてサブクローンを有する症例の予後はサブクローンを持たない症例と比較し不良である傾向があった。このことはサブクローンが存在することが治療抵抗性、早期再発に関与している可能性を示唆する。

<今後の方向>

詳細なゲノム異常解析により、ATLLとPTCL-NOSでのサブクローンの存在を見出すことができた。再発検体などの同一患者の検体の評価により治療抵抗性に深く関わるサブクローン、ゲノム異常などの同定を実施したい。また他のリンパ腫についても同様に解析を実施していく。

¹⁾連携大学院生、²⁾三重大学大学院医学系研究科・血液腫瘍内科、³⁾リサーチレジデント、⁴⁾久留米大学医学部・病理

<研究課題> 1-2

(主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副題) NK細胞性腫瘍におけるがん抑制遺伝子としてのFOXO3

<研究者氏名>

加留部謙之輔、瀬戸加大

<目的・概要・進捗状況>

NK細胞性腫瘍において、6q21は最も高頻度にゲノム欠失の異常を示す領域である。この領域に存在する遺伝子の中で、FOXO3およびPRDM1のみが遺伝子導入による細胞増殖抑制効果を示す。しかしこの効果がNK細胞性腫瘍に特異的なものであるか不明であった。そこでNK細胞性腫瘍以外の様々なlineageの細胞株に両遺伝子を導入し、細胞増殖に与える影響について解析した。

方法としては、tet-OFFシステムを併用した遺伝子導入を行った。用いた細胞株はNKL、SNK10、NKYS、K562、Jurkat、Reh、Jeko1、293T、MCF7、Helaである。

遺伝子導入後、全ての細胞株において発現が確認できた。FOXO3はNK細胞株(NKL、SNK10、NKYS)にのみ細胞増殖抑制効果があり、その他の細胞株には効果はなかった。一方、PRDM1は293Tを除く全ての細胞株において増殖抑制効果があった。導入されたFOXO3の局在を検討したところ、NK細胞株においては核に局在し、非NK細胞株では細胞質に局在した。この局在の違いがFOXO3の“functional lineage specificity”の原因と考えられた。

<今後の方向>

PRDM1の遺伝子導入が様々な細胞に影響を与えるのに対し、FOXO3はNK細胞性腫瘍に特異的であった。FOXO3はNK細胞性腫瘍特異的な遺伝子治療のターゲットになりうると考えられた。今後、FOXO3のより詳細な機能を解析したい。

<研究課題> 2-1

(主題) 造血器細胞の分化・増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究

(副題) AML1転写因子の短いアイソフォームによる造血幹細胞・前駆細胞の増幅

<研究者氏名>

都築 忍、瀬戸加大

<目的・概要・進捗状況>

転写因子AML1は造血発生に必須であり、その異常は白血病や骨髄異形成症候群などでしばしば見いだされる。AML1には少なくとも長短2種類のアイソフォームが存在し、うち短いアイソフォームには骨髄移植後の造血細胞再構築を促進する作用

があることを報告してきた。今回、その機序として造血幹細胞および前駆細胞の増幅によることを見出した。この造血細胞増幅能はin vitroでも in vivoでも確認でき、特にin vitroでの増幅はトランスレーショナル・リサーチの可能性を示唆する知見である。

<今後の方向>

AML1の短いアイソフォームによる造血幹細胞の増幅作用をヒト造血細胞の増幅に応用していきたい。

腫瘍免疫学部

<研究課題> 1-1

(主題) 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索

(副題) 内因性HLAの発現を抑制し目的のHLA-A24を発現する人工抗原提示細胞を用いた卵巣がんを傷害するCTLの誘導

岡村文子、近藤紳司¹⁾、山田英里¹⁾、廣澤友也²⁾、山本英子¹⁾、柴田清住¹⁾、吉川史隆¹⁾、葛島清隆

<目的・概要・進捗状況>

担がん患者のリンパ球を自己のがん細胞株で刺激することで得られる細胞傷害性Tリンパ球(CTL)は、CTL標的抗原の同定に必須である。しかし、リンパ球と抗原提示細胞が同一ドナーに由来しない場合、一致していないHLAに対する強いアロ反応がCTLの誘導を阻害する。我々はこのアロ反応を回避するため、任意の単一HLAのみを発現する人工抗原提示細胞(artificial antigen presenting cell; aAPC)システムの構築を試みている。すでに卵巣がん細胞株TOV21Gをベースとして、もともと保有するHLAの発現を完全に抑制し、目的のHLA-A24および共刺激分子であるCD86を発現するaAPCを作製して、HLA-A24拘束性のがん細胞株を認識するCTLクローンを樹立した。今年度は本aAPCによって誘導したCTLクローン1D2が認識する抗原を同定した。aAPCのベースとして用いた卵巣がん細胞株TOV21GのmRNAから構築したcDNAライブラリーを用いた発現スクリーニング解析により、クローン1D2はクローディン1を認識することが明らかとなった。次に短縮遺伝子および合成ペプチドを用いてエピトープの同定を行った結果、9アミノ酸からなるペプチドを認識することが明らかとなった。クローディン1は上皮細胞の細胞間接着分子として重要なタンパク質であり、一部のがんで高発現していることが報告されている。CTLクローン1D2はクローディン1を発現し、HLA-A24陽性の正常気管支由来上皮細胞を認識した。これらのことからクローディン1は正常上皮細胞において発現し、かつCTLのエピトープを産生するため、免疫療法のターゲットとして適していないと考えられた。しかしながら、他の免疫療法中に惹起されるエピトープスプレディングなどの免疫応答の有無や、正常にも発現する抗原ががん免疫に果たす役割を検討することは意義深く、今後活用される研究成果であると考えられる。

<今後の方向>

本aAPCによって誘導した他のCTLクローンが認識する抗原の同定を行う。

- ¹⁾名古屋大学大学院医学系研究科・産婦人科学、
²⁾愛知県がんセンター中央病院・婦人科部

<研究課題> 2-1

- (主 題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究
(副 題) NKT細胞サブセットをベースとした新規抗腫瘍エフェクター細胞の構築とがん免疫療法への応用

植村靖史、峰野純一¹⁾、池田裕明²⁾、張エイ、菌田精昭³⁾、
珠玖洋²⁾、葛島清隆

<目的・概要・進捗状況>

細胞傷害作用と免疫賦活効果を発揮するヒトインバリアントナチュラルキラー-T (iNKT) 細胞に、がん抗原を認識するT細胞抗原受容体 (TCR) を人為的に発現させ、がん細胞を抗原特異的に傷害する新規・抗腫瘍エフェクター細胞を作製する。このiNKT細胞をベースとしたエフェクター細胞ががん細胞に示す傷害活性、樹状細胞 (DC) に賦与する機能的修飾、および効果的な生体内投与法を明らかにすることで、持続的で強力ながんの排除を誘導する新たな免疫療法を開発することを目的とする。

<方 法>

末梢血単核球を α -GalCer刺激することによって、 α -GalCer特異的ヒトV α 24 iNKT細胞の増殖を誘導した。高速自動セルソーターを使用して、V α 24⁺V β 11⁺6B11⁺ヒトiNKT細胞を分離し、複数回刺激することで株化した。これにHLA-A24拘束性がん特異抗原ペプチド (MAGE-A4) を認識するTCR、およびCD8 α / β 鎖をレトロウィルス導入系によって発現させた。さらにMAGE-A4テトラマー陽性CD4⁺CD8 β ⁻ (CD4)、およびCD4⁻CD8 β ⁻ (DN) の iNKTサブセットを分離し、がん細胞株に示す細胞傷害活性、およびDCに賦与する機能的修飾を解析した。

<結 果>

MAGE-A4特異的TCRを人為的に発現させたiNKT細胞は、導入したTCRの他に内因性のTCRを発現していた。この遺伝子改変iNKT細胞は、MAGE-A4とHLA-A24を発現する肺がん細胞株 (11-18)、およびMAGE-A4ペプチドを負荷したHLA-A24陽性細胞に対して細胞傷害活性を示した。特にDN iNKTサブセットをベースとしたものは、細胞傷害性T細胞をベースとしたものと同等の傷害活性を示し、抗腫瘍エフェクター細胞としての有用性が示唆された。一方、MAGE-A4特異的TCRを発現するCD4 iNKTサブセットは、野生型のものに比較して、 α -GalCer負荷DCにおけるCD86発現の上昇とIL-12産生の増大を誘導し、細胞アジュバントとしての機能に優れることが明らかになった。

<今後の方向>

作製した抗腫瘍エフェクター細胞の抗腫瘍効果をin vivoで評価する。

- ¹⁾タカラバイオ株式会社・細胞遺伝子治療センター、²⁾三重大学大学院医学系研究科・遺伝子免疫細胞治療学、³⁾関西医科大学大学院医学研究科・幹細胞生物学

<研究課題> 2-2

- (主 題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究
(副 題) 神経芽腫に対する細胞性免疫を利用した新規治療のための基盤研究

西尾信博、藤田 貢、田中義正¹⁾、牧 寛之、張 エイ、
廣澤友也²⁾、岡村文子、植村靖史、田口 修³⁾、高橋義行⁴⁾、
小島勢二⁴⁾、葛島清隆

<目的・概要・進捗状況>

小児の進行神経芽腫の一部は、化学療法、手術、放射線治療、大量化学療法などの治療に抵抗し、生存率は30-40%程度である。このため、新たな治療法の開発が望まれている。腫瘍免疫学部では、細胞性免疫を利用した新規治療法の開発を目指して研究を行っている。昨年度は、HLA非拘束性に非蛋白抗原であるピロリン酸を認識して細胞傷害性を発揮する $\gamma\delta$ T細胞が、ビスフォスフォネートで前処理した神経芽腫細胞株および神経芽腫細胞株から樹立した「神経芽腫幹細胞株」を傷害することを報告した。また、 $\gamma\delta$ T細胞は、インビトロにおける神経芽腫コロニー形成能を阻害することを確認した。今年度は、 $\gamma\delta$ T細胞の効腫瘍効果をマウス体内環境において立証することを目的とした。

検証1)：免疫不全マウスの腎皮膜下に、ビスフォスフォネートで前処理した「神経芽腫幹細胞株」を10万個移植する実験系を用いた。腫瘍移植と同時に、50万個の $\gamma\delta$ T細胞あるいはヒトサイトメガロウイルス (HCMV) 特異的CTLを同部位に接種して、その後の腫瘍生着を観察した。 $\gamma\delta$ T細胞接種群では、5個の腎臓のうち1個においてのみ腫瘍が生着し、観察期間中の最大径は15 mmであった。これに対してHCMV特異的CTL接種群では、5個の腎臓のうち4個において腫瘍生着が確認され、観察期間中の最大径平均値は27.75mm (標準偏差9.9mm) であった (有意差検定値P=0.038)。

検証2)：上記と同様の腫瘍移植に加えて、同日に $\gamma\delta$ T細胞あるいはHCMV特異的CTLを静脈内に接種して、その後の腫瘍生着を観察した。全てのマウスにおいて神経芽腫の生着が見られたが、6週後の腫瘍最大径は $\gamma\delta$ T細胞接種群で6.20mm (標準偏差4.76mm) であった。これに対して、HCMV特異的CTL接種群では、14.40mm (標準偏差5.08mm) であった (有意差検定値P=0.03)。

マウスモデルを用いて、 $\gamma\delta$ T細胞が神経芽腫の増大を抑制することが確認された。これらの研究結果から、神経芽腫に対する $\gamma\delta$ T細胞を使用した養子免疫療法は有望な治療法である可能性があると考えられた。

<今後の方向>

今回の実験に用いた $\gamma\delta$ T細胞は、健康な人の末梢血リンパ

球から増殖培養したものである。神経芽腫に罹患した患児の末梢血リンパ球をビスフォスフォネートで刺激して、同様に $\gamma\delta$ T細胞を増殖培養できるか確認実験を実施する。

¹⁾京都大学大学院医学研究科・感染免疫学、²⁾愛知県がんセンター中央病院・婦人科部、³⁾分子病態学部、⁴⁾名古屋大学大学院医学系研究科・小児科学

<研究課題> 2-3

(主題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究
(副題) 非ステロイド系抗炎症薬による肺がん脳転移免疫学的予防法の確立

<研究者氏名>

藤田 貢、張 エイ、三浦理恵、葛島清隆

<目的・概要・進捗状況>

がん原発巣に対する治療法の有効性向上に伴い、転移性脳腫瘍罹患率が近年漸増している (Steeg PS. Nat Rev Cancer. 2011; 11:352)。これらの脳病変はがん患者に神経学的症状を来としQOL制限の主要な原因となるため、代表的な予後不良因子のひとつとなっている。従ってがん患者、特に原発巣の治療が完了した患者における転移性脳腫瘍予防の意義・需要は極めて大きい。転移性脳腫瘍の中では肺がんを原発とするものが最も多く (Yamanaka R. Oncol Rep. 2009; 22:1269)、よって本研究では主として肺癌脳転移を標的疾患とした。

2011年初頭、COX-2阻害剤である非ステロイド性抗炎症薬 (non-steroidal anti-inflammatory drug; NSAID) の長期投与によりがん死亡率が顕著に低下することが報告された (Rothwell PM. Lancet. 2011; 377:31)。原発性脳腫瘍についても同様の疫学データが報告されている (Scheurer ME. Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2008; 17:1277)。これらの観察と一致し、最近我々は自発発生型脳腫瘍マウスモデルを用いてCOX-2阻害が脳腫瘍発生を抑制することを免疫学的に証明した (Fujita M. Cancer Res. 2011; 71:2664)。これらの知見を基に、本研究では肺がん脳転移マウスモデルを用い、NSAID長期投与を軸とした予防的治療法について検討した。

<方 法>

C57BLマウス由来肺がん細胞株LL/2を同系マウス脳内に移植し、肺がん脳転移実験モデルとした。がん細胞移植 1週間前あるいは 1週間後よりアスピリン (10mg/kg 体重/日) 含有水または通常水を投与し、腫瘍形成率・生存率を評価した。一部のマウスの脳腫瘍組織からメッセンジャーRNAを抽出し、定量PCR法にてケモカイン発現量を測定した。さらに腫瘍組織からリンパ球を抽出し、フローサイトメトリーにて細胞分画を評価した (Fujita M. Cancer Res. 2009; 69:1587)。

<結 論>

がん細胞移植 1週間前よりアスピリン投与された群では腫瘍形成はみられず、一方、未治療群では細胞移植後40日までに全てのマウスが腫瘍死した。細胞移植1週間後に治療を行った場合は約12日の生存時間延長をみた。

アスピリン投与群腫瘍組織内では、未治療群に比し、CCL2ケモカインの低下およびCXCL10ケモカインの上昇をみた。これに一致し、骨髄由来抑制細胞の低下および細胞傷害性Tリンパ球の上昇が観察された。

<今後の方向>

アスピリンをはじめとするNSAIDを長期投与することで、脳内ケモカイン発現パターンが変化し、免疫抑制性細胞の集積が低下する。その結果、肺がん脳転移の形成が抑制されたと考えられる。この結果より、肺がん術後患者にNSAIDを継続投与することで転移性脳腫瘍の発生を予防しうる可能性が示唆された。

腫瘍ウイルス学部

<研究課題>

(主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
(副題) EBウイルス潜伏感染の維持と再活性化の制御機構

<研究者氏名>

村田貴之、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

EBウイルスは多くの健常成人のBリンパ球などに潜伏感染しており、刺激により再活性化し、溶解感染に至る。このようなウイルス感染様式の変化は、ウイルスの複製のみならず、EBウイルス陽性癌の細胞増殖性とも密接に関係しているため、この生活環の制御メカニズムを理解することは重要である。

EBウイルスの再活性化には前初期遺伝子のひとつであるBZLF1が必要かつ十分であることが知られている。BZLF1はウイルスのコードするb-Zip型転写因子であり、ウイルスの初期遺伝子の転写を活性化することでウイルスの再活性化を強力に促進する。

今回我々は、このBZLF1遺伝子の転写に着目し、EBウイルス再活性化を制御しうるエピジェネティックなヒストン修飾を解析した。潜伏状態においてBZLF1プロモーター周辺はヒストンH3K9me2/3、H3K27me3、H4K20me3などの抑制性の修飾が顕著であり、再活性化を誘導するとヒストンアセチル化、H3K4me3などの活性化の指標である修飾が亢進した。この中で、今回特に、潜伏感染維持におけるH3K27me3、H4K20me3の重要性を報告した (Murata et al., J Virol 2012)。

さらに、宿主細胞にコードされているb-Zip型転写抑制因子c-Jun dimerization protein 2 (JDP2) が、BZLF1プロモーターに結合し、BZLF1の転写を抑制することでウイルスの再活性化を抑制し、潜伏感染の維持に貢献していることを見いだした。JDP2を過剰発現するとEBウイルス再活性化は抑制され、逆にsiRNAによりJDP2をノックダウンすると再活性化が促進された。レポーターアッセイ、クロマチン免疫沈降法、EMSAアッセイ、点変異導入組み換えEBウイルスの実験により、JDP2はBZLF1プロモーター上のZIIと呼ばれるシスエレメントに結合することを明らかにした。またJDP2は、ヒストン脱アセチル化酵素のひとつであるHDAC3をプロモーター上にリクルートすることでBZLF1の発現を抑制していることを確認

した。以上からJDP2がEBウイルス潜伏感染の維持に重要な働きをしていることが明らかになった (Murata et al., JBC 2011)。

<今後の方向>

今回の研究では、エピジェネティクスとJDP2に着目して研究を行ったが、我々の行ったcDNAライブラリを用いた網羅的スクリーニングにより、他にも潜伏感染の維持や溶解感染の誘導に重要な役割を果たしている因子があることを見いだしている。今後はこれらの因子について同様な研究を展開し、EBウイルスライフサイクル制御メカニズムの包括的解明を目指し、特異的抗ウイルス薬、抗がん治療の開発のための創薬ターゲット探索につながるような基礎研究を展開していきたい。

<研究課題>

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
- (副題) EBウイルスBZLF 1 遺伝子産物の精製

<研究者氏名>

中洲 章、鶴見 達也

<目的・概要・進捗状況>

EBウイルスのBZLF 1 遺伝子産物 (pBZLF 1) は、EBウイルスの潜伏感染状態からウイルス産生サイクルへの再活性化を誘発する転写制御因子であると共に、ウイルス産生サイクルで機能する複製開始点に結合する事からDNA複製への関与が示唆されている。ここではpBZLF 1 の生化学的な機能を調べるために精製を試みている。

昆虫細胞を用いた大量産生系で発現させたpBZLF 1 は不可逆的に凝集体を作りやすく、カラムクロマトグラフィーで単一のピークを形成しない事からタンパクが正しい高次構造を取っていない事が示唆された。そこでEBウイルスが潜伏感染しているマーマセット由来のB95-8細胞からの精製を試みた。薬剤を用いて再活性化したB95-8細胞から高塩濃度の条件下で界面活性剤によりpBZLF 1 を抽出し、疎水性カラムクロマトグラフィーで分画する事により低塩濃度 (0.1M NaCl) でも可溶化しているpBZLF 1 標品を得る条件を設定した。しかし低塩濃度でショ糖密度勾配遠心を行うと大部分のpBZLF 1 は高分子量の分画に広く分布した。この事はpBZLF 1 は他のタンパクと複合体を形成している事を示し、このタンパクを精製するためには高塩濃度の条件下で分画を行える段階が必要となる。イオン交換カラムで部分精製した後に、高塩濃度 (1.5M NaCl) の条件下でショ糖密度勾配遠心、ヒドロキシアパタイトクロマトグラフィーを用いてさらに精製を進め、その後0.3 MのNaClの条件でヘパリンセファロースに吸着することによりpBZLF 1 が主成分になった標品が得られる条件を設定した。しかしながら再現性が悪く回収率のばらつきが大きい。

<今後の方向>

回収率についてはショ糖密度勾配遠心を行う時にBSAを添加する事によりこの段階での回収率を改善できる事をみだした。またヒドロキシアパタイトについてはサブミルモルの濃度のリン酸でカラムの挙動が変わる事を新たに見いだしている。

しかし現時点ではまだ再現性があまり改善されておらず、高塩濃度の条件下で分画できるステップがさらに必要だと考えられる。そこで精製の最初に用いた疎水性カラムであるフェニールセルファインと似た性質をもつブチールセルファインを用いて改善できるかを検討する。またこれらの疎水性カラムを精製の途中段階でも使えるように、高濃度 (1%) のトリトンを含むサンプルに使用できる条件を検討する。現在3リットルの細胞培養液から精製を始めているがpBZLF 1 の量はかなり少ない事が示唆されてきたのでスケールアップしてさらなる精製を試みる。

<研究課題>

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
- (副題) EBウイルスカプシド形成・DNA packagingの場の構造解析

<研究者氏名>

杉本温子、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

EBVは、潜伏感染と溶解感染という2つのライフサイクルを持っている。EBV陽性がんの大部分は潜伏感染状態にあるが、一部は溶解感染状態にあり、そこから分泌されるサイトカインによりEBV潜伏感染細胞の増殖を促進している。そのため、EBV感染制御のためには、溶解感染を理解することが必須といえる。これまでの研究で、EBV溶解感染の際には、replication compartment (RC) と呼ばれる核内の局在した部位にウイルス由来の複製タンパクや宿主タンパクがリクルートされ、複製の場となっていることがわかっている。さらに我々はこれまでの研究によって、1) RCの内部に二本鎖DNA結合能を持つウイルスタンパクであるBMRF1で構成される構造物 (BMRF1-coreと名付けた) があること2) BMRF1-coreの外部に局在するウイルスゲノムは、経時的にBMRF1-coreの内部に移行することを明らかにしてきた。今回我々はEBVのカプシドの形成の場を明らかにする目的で、EBVのカプシド形成に関わるタンパク (カプシド構造タンパクおよびDNA packagingタンパク) とBMRF1-coreの位置関係を免疫蛍光染色と3次元再構築を組み合わせた観察法で観察した。その結果、DNA packagingタンパクはBMRF1-coreの内部で貯蔵されているウイルスDNAの内部に局在していることが明らかとなった。一方、カプシド構造タンパクはBMRF1-coreの外側および内側に局在していた。以上の研究結果から、我々はEBVカプシド形成に関して、以下に示す新しいモデルを提案した。1) EBVのプロカプシドの組み立てはBMRF1-coreの局在とは無関係に起こる。2) 組み立てられたEBVプロカプシドはBMRF1-coreの内部のウイルスDNA貯蔵の場に輸送される。3) ウイルスDNAの貯蔵の場でプロカプシド内にウイルスDNAがパッケージングされ、成熟したカプシド粒子ができる。

<今後の方向>

今回の研究結果から、BMRF1-coreがカプシドの成熟・DNA packagingの場となるという役割が示唆された。今後は、EBVゲノム複製機構のさらなる理解のために、EBVカプシド

形成のみならず、DNA複製・転写の詳しい機序を調べる。

<研究課題>

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
(副題) EBNA1蛋白質の宿主細胞染色体付着機構の解析

<研究者氏名>

神田 輝、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

EBNA1蛋白質は、分裂増殖するEBウイルス潜伏感染細胞のすべてにおいて発現し、ウイルスゲノムの核内維持やトランスフォーム蛋白質の発現制御などにおいて中心的役割を果たす。EBNA1蛋白質の宿主染色体付着の分子メカニズムを明らかにすることを目的として、EBNA1蛋白質の染色体結合ドメイン(chromosome binding domain, CBD)を赤色蛍光蛋白質mCherryとの融合蛋白質としてHeLa細胞で発現させ、生細胞で染色体局在の有無を容易に判定可能な実験系を構築した。CBD領域に計24個存在するアルギニン残基への変異導入実験の結果、アルギニン残基の数と染色体結合能との間に密接な相関を認めた。

<今後の方向>

EBNA1蛋白質のCBDと染色体構成成分(ヌクレオソーム、ヒストン蛋白質など)との試験管内相互作用を調べることで、染色体局在の分子機構を明らかにする。得られた知見をもとに、EBNA1蛋白質の染色体局在を特異的に阻害する低分子化合物による新規抗ウイルス療法開発をめざす。

<研究課題>

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
(副題) EBウイルスによるヒト上皮細胞がん化メカニズムの解析

<研究者氏名>

神田 輝、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

EBウイルスは、上咽頭がん、胃がんなど上皮系の細胞へ感染し、そのがん化に関与することが知られている。しかしながら、EBウイルスによる上皮細胞がん化のメカニズムの詳細は不明である。われわれはB95-8株EBウイルスゲノムをクローン化したEBV-BAC (bacterial artificial chromosome) システムにより、高効率にBリンパ球を不死化する組換えEBウイルスの産生に成功している。一方で、B95-8株EBウイルスゲノムは、上皮細胞において活発に転写されている約12キロベースのウイルスゲノム領域(BART-miRNA領域)を欠損しており、上皮細胞への感染実験に最適系とはいえない。そこで、上皮細胞への感染およびがん化メカニズムの解明をめざして、上記欠損領域を、野生型ウイルスゲノム由来のEBウイルス断片で修復した完全長EBV-BACクローンを取得した。

<今後の方向>

完全長EBV-BACクローンをもとに産生した組換えウイルスおよび変異ウイルスを用いて、各種上皮細胞への感染実験を行うことで、BART-miRNA領域の上皮細胞がん化における意義の解明をめざす。

<研究課題>

- (主題) 抗がんウイルス療法の開発
(副題) がん抗原をHLA拘束性に提示するリンパ芽球様細胞株の樹立と応用

<研究者氏名>

神田 輝、葛島清隆、安川正貴¹⁾、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

EBウイルスを末梢血Bリンパ球に試験管内感染させることで樹立できるリンパ芽球様細胞株(lymphoblastoid cell line, LCL)は、抗原提示細胞としての有用性が知られている。われわれは、ウィルムス腫瘍原因遺伝子WT1を組み込んだ組換えEBウイルスを用いて、HLA型の異なる健康人ドナー3名由来のWT1発現LCLを樹立し、得られたWT1発現LCLにおいてWT1ペプチドがHLA拘束性に抗原提示されていることを報告した。一方で、WT1抗原発現LCLを抗原提示細胞としたWT1抗原特異的CTLの体外増幅についても試みたが、現状では困難であった。

<今後の方向>

本システムを応用して、より抗原性が強いと考えられるウイルス抗原を発現するLCLを樹立し、その抗原提示細胞としての有用性を検証する。

¹⁾愛媛大学・生体統御内科学

<研究課題>

- (主題) 遺伝子組み換えウイルスを用いた発がん研究
(副題) EBウイルスLMP1の発現を制御する新規宿主因子の同定とその解析

<研究者氏名>

野田千恵子、村田貴之、神田 輝、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

LMP1は、上咽頭癌を含む、多くのEBV関連癌の発癌における重要なウイルス癌遺伝子である。CD40を模倣し、リガンド非依存的に、NF- κ B、JNK/AP1、JAK/STAT経路などといったCD40からの細胞内シグナル伝達を恒常的に活性化することで、宿主細胞の増殖、不死化、浸潤転移の促進、アポトーシスの抑制をもたらす。III型においてはEBNA2がRBP-J κ およびPu.1と共同してLMP1遺伝子の発現に寄与することがよく知られているが、II型ではEBNA2は発現しておらず、EBNA2非依存的なLMP1発現の詳細な仕組みは未だ明らかではない。そこで今回我々はLMP1発現のメカニズムを網羅的に解析する

ため、cDNAライブラリを用いたスクリーニングを遂行し、LMP1プロモーターを活性化する宿主因子の探索を行った。これまでに2万個以上のクローンを精査し、LMP1の新規転写活性化因子としてC/EBP ϵ を同定した。EBV感染細胞株において、C/EBP α または ϵ を過剰発現させると、LMP1のmRNAおよびタンパク質発現が増強した。またEBV感染細胞での解析の結果、C/EBP α によるLMP1の転写活性化には、近位(ED-L1)、遠位(TR-L1)の2つのプロモーターが関与していることが分かった。レポーターアッセイおよびEMSAによってC/EBP結合部位を同定し、またこの部位が近位と遠位の両プロモーターの活性化に関与することを明らかにした。そこで、同定したC/EBP結合部位に変異を加えたEBV-Bacを作製し、解析を行った結果、野生株のウイルスと比較して、LMP1の発現量が転写レベルでもタンパク質レベルでも減少していた。

<今後の方向>

今回、LMP1遺伝子の転写制御因子として、はじめてC/EBPを同定した。今後C/EBPを介したLMP1プロモーター活性化についてさらに詳細に解析するほか、C/EBP以外の転写因子によるLMP1転写活性化制御についても解析を進めていきたい。

分子病態学部

<研究課題> 1-1

- (主 題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究
(副 題) 腸管腫瘍形成におけるJNK/mTORC1経路の役割

<研究者氏名>

青木正博、藤下晃章¹⁾、武藤 誠¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

現在、日本では1日あたり100人以上の大腸がん患者が死亡し、2020年には、大腸がんは日本人が最も多く罹患する悪性腫瘍になると予想されている。大腸がんの多段階発がん過程において最初に生じる遺伝子レベルの変化は、APCがん抑制遺伝子の変異と考えられており、大腸がん症例の約85%にAPC遺伝子の変異が見つかる。Apc遺伝子にヘテロ接合変異を持つ遺伝子改変マウス(以下Apc変異マウス)では、腸上皮細胞のApc遺伝子座でのヘテロ接合性の消失loss of heterozygosity (LOH)によりAPCタンパクの機能が失われる結果、Wnt経路が恒常的に活性化し、腺腫性ポリープを発症する。我々はこれまでに、Apc変異マウスの腸管ポリープの成長にはmammalian target of rapamycin complex 1 (mTORC1)経路の活性化が重要な役割を果たし、mTORC1はJNKによるRaptorのリン酸化を介して活性化されていることを示してきた。

平成23年度は、Apc変異マウスの腸管腫瘍細胞では、cyclin E、osteopontin、proliferinという3つの分子が、JNKによって活性化されたmTORC1により翻訳レベルでの発現調節を受けること、そして予期せぬことに、JNKは同時にc-Junの活性化を介してこれらの分子の発現を転写レベルにおいても正に制御していることを明らかにした。ヒト大腸がんにお

いてJNKの活性化はoncogenicに作用することが示唆されているが、本研究はその分子機序を明らかにするものであり、JNK経路が大腸がんの予防・治療標的となる可能性を強く示唆している。

<今後の方向>

腸管腫瘍におけるJNKの活性化機序を解明する。JNK/mTORC1経路が大腸がんの浸潤・転移に果たす役割を明らかにする。

¹⁾京大・医・遺伝薬理学

<研究課題> 1-2

- (主 題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究
(副 題) 大腸がん細胞のEMTに伴うシアルルイス糖鎖発現誘導機構

<研究者氏名>

佐久間圭一郎、神奈木玲児¹⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

がん細胞はEpithelial-mesenchymal transition (EMT:上皮間葉転換)によって間葉系細胞の性質を獲得し、運動能・浸潤能が亢進する。EMTは、TGF- β 、EGF、FGFなどの様々な液性因子によって誘導される。大腸がんにおいてはTGF- β のシグナル伝達経路はしばしば不活化しているため、EGFやFGFがEMT誘導因子としてより重要であると考えられる。

シアルルイス糖鎖(シアルルイスXとシアルルイスA)は、がん細胞に発現する糖鎖性接着分子で、血管内皮細胞のE-セレクトインと接着することでがん細胞の血管外脱出や血管新生を媒介し、血行性転移を促進する。がんのシアルルイス糖鎖発現量は転移や予後とよく相関するため、腫瘍マーカーとして大腸がんなど多くのがんで測定されている。しかし、シアルルイス糖鎖の発現機構は未だ完全には解明されていない。

我々は、シアルルイス糖鎖の発現機序とEMT誘導が密接に連動している可能性を検討した。大腸がん細胞株のHT29とDLD-1にEGFあるいはbasic FGF (bFGF)を用いてEMTを誘導した。両細胞共に、EMTに伴いシアルルイス糖鎖の発現が強く誘導され、E-セレクトインとの接着能が著明に亢進した。シアルルイス糖鎖の合成に関与する複数のシアル酸転移酵素とフコース転移酵素の発現が、c-MycとCDX2を介して転写レベルで変化した。興味深いことに、10%血清存在下でEGFやbFGFを添加してもEMTとシアルルイス糖鎖は誘導されず、逆に無血清下でもEGFやbFGFの添加無しではシアルルイス糖鎖の最大の誘導が得られなかった。このことは、シアルルイス糖鎖の誘導には、EGFやbFGFの作用に加えて無血清下で発現する何らかの協調分子が必要であることを示唆している。さらに、大腸がん臨床検体を用いて、EMTを起こし、かつシアルルイス糖鎖を発現するがん細胞を免疫組織学的に検索したところ、割合は少ないながらもそのような細胞が見出された。これらの細胞は常に間質の近傍に存在したことから、in vivoでのEMTやシアルルイス糖鎖の発現には間質が何ら

かの役割を果たしている可能性が示唆された。

<今後の方向>

上記の協調分子の同定およびin vivoでの発現機構を解明し、治療標的分子としての可能性を検証したい。

¹⁾愛知医科大学先端医学・医療研究拠点

<研究課題> 1-3

(主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究

(副題) マウスモデルを用いた大腸がんのがん関連線維芽細胞の解析

<研究者氏名>

小島 康、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

近年、腫瘍の進展には、腫瘍細胞の遺伝子異常のみならず腫瘍間質が重要な役割を果たしていることが明らかとなり、腫瘍間質は抗がん治療の重要な標的となると考えられている。がん関連線維芽細胞(がん随伴線維芽細胞) carcinoma associated fibroblasts (CAF) は、上皮性腫瘍の間質中に存在する、線維芽細胞と筋線維芽細胞とが混じり合った集団で、乳がん、肺がんなどの原発腫瘍の成長に重要な役割を果たすことが分かっている。

しかしながらCAFが腫瘍の浸潤、転移に与える影響については不明な点が多い。我々は、浸潤性腸がんを発症する cis-Apc/Smad4 マウスを用いて、浸潤プロセスにCAFが与える影響についての解析を開始した。平成23年度は、cis-Apc/Smad4マウスの腸管腫瘍からCAFを単離する方法を確立して、基本的な解析を行った。また将来的に線維芽細胞がCAFに変換する過程を生体レベルで観察する目的で、線維芽細胞のマーカーの一つであるVimentinレポーターマウス作製の準備も開始した。

<今後の方向>

今後、確立した手法を用いて様々な週齢の個体からCAFを単離し、遺伝子発現解析などにより大腸がんの腫瘍進展におけるCAFの役割を明らかにしていきたい。またVimentinレポーターマウスの作製についても適宜行っていきたい。

<研究課題> 2-1

(主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出

(副題) 腸管腫瘍形成におけるPLEKHG1の役割

<研究者氏名>

青木正博、後藤嘉子、武藤 誠¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんは2020年には最も罹患率の高いがん種になると予想されている。死亡率も顕著な増加を示し、その死因の9割が浸

潤・転移によるとされる。CDX1及びCDX2は消化管上皮細胞の分化に重要な役割を果たすホメオドメイン転写因子で、大腸がんの抑制因子と考えられている。我々はこれまでに、クロマチン免疫沈降法により、酪酸など短鎖脂肪酸を含むモノカルボン酸のトランスポーターをコードし、大腸がんのがん抑制遺伝子候補とされる solute carrier family 5, member 8 (SLC5A8) がCDX転写因子の標的遺伝子であることを示した。平成23年度は、CDX1とCDX2の標的遺伝子として新たに同定した PLEKHG1 (pleckstrin homology domain containing, family G (with RhoGef domain), member 1) の解析を行った。CDX1、CDX2はPLEKHG1遺伝子上流の調節領域に結合し、その領域を含むレポーター遺伝子の発現を上昇させた。また、正常ラット腸上皮細胞株においてCDX1またはCDX2を誘導的に発現させると、内在性Plekhhg1遺伝子の発現が顕著に上昇し、ヒト大腸がん細胞株でCDX2の発現レベルをshRNAベクターによって低下させると、内在性PLEKHG1のmRNA発現レベルは有意に減少した。これらの結果から、PLEKHG1はCDX1、CDX2の直接の標的遺伝子であることが示唆された。またPlekhhg1ノックアウトマウスを作出し、現在Apc変異マウス、cis-Apc/Smad4マウスとの交配を進めている。

<今後の方向>

Plekhhg1の機能消失が大腸がんの浸潤・転移能に与える影響を明らかにする。さらに大腸がん臨床検体でのPLEKHG1の発現解析を行いたい。

¹⁾京大・医・遺伝薬理学

<研究課題> 2-2

(主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出

(副題) 大腸がんマウスモデルを用いた転移抑制遺伝子の生体内スクリーニング

<研究者氏名>

佐久間圭一郎、小島 康、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんは日本で近年顕著な増加傾向にある悪性腫瘍であり、その死因の大半に転移が関係していることから、転移を制御する手段の開発が急務となっている。そのためには転移性大腸がんのマウスモデルが必須となるが、遠隔転移を自然発生するような大腸がんマウスモデルは未だ存在せず、大腸がん細胞株の移植による実験系が用いられている。cis-Apc/Smad4マウスは浸潤性大腸がんの良いモデルではあるが、その大腸がんが遠隔転移を起こすことはない。これまでに転移を促進する分子は数多く報告されているが、転移を抑制する分子の報告は少ない。転移抑制遺伝子のスクリーニング方法として、shRNAライブラリーを用いた生体内スクリーニングは有効な方法であり、近年この方法を用いて、KLF17とGAS1がそれぞれ乳がんと悪性黒色腫の転移抑制遺伝子であることが報告されている。我々は同じ手法を用いて大腸がんの転移抑制遺伝子を同定する試みを開始した。平成23年度は、準備段階としてC57BL/6マウス由来のCMT93大腸がん細胞株の細胞膜に蛍光タンパクを発現

させたクローンを複数作製し、同系マウス直腸粘膜下への同所移植の実験系を確立した。

<今後の方向>

作製した細胞にshRNAライブラリーを発現させたものをC57BL/6マウスに同所移植し、肝臓、肺、腸間膜リンパ節等に生じた転移巣から細胞を回収し、ノックダウンされている遺伝子を同定する。将来的には本研究により同定した転移抑制遺伝子の変異マウスとcis-Apc/Smad4マウスとの交配によって転移性大腸がんを自然発症するマウスモデルを作出したい。さらに、同定した転移抑制因子の機能解析から新たな治療標的を見出し、分子標的治療の開発につなげたい。

発がん制御研究部

<研究課題> 1

(主題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケード

(副題) Chk1の新規リン酸化反応の生理的な役割

<研究者氏名>

李萍¹⁾、後藤英仁²⁾、笠原広介³⁾、松山誠⁴⁾、王忠華⁵⁾、谷田部恭⁶⁾、清野透⁷⁾、稲垣昌樹²⁾

<目的・概要・進捗状況>

細胞には、紫外線(UV)や放射線などのDNAの損傷が生じた際やDNAの複製阻止が引き起こされた際、そのDNA異常を監視し修復するチェックポイント機構が存在する。このチェックポイント機構の中心分子として、ATR(ATM- and Rad3-relate)からチェックポイントキナーゼ1(Chk1)に至るリン酸化酵素(キナーゼ)カスケードがその中心的な役割を担っている。種々のDNA損傷によって活性化されたATRは、Chk1のSer317およびSer345をリン酸化する。我々は、Chk1が、ATRによるリン酸化修飾後Ser296を自己リン酸化すること、このSer296の自己リン酸化反応を契機に14-3-3ガンマを介してCdc25Aと複合体を形成すること、および、この複合体形成がCdc25Aのリン酸化および分解反応に重要であることを明らかにした。このCdc25Aの分解により、細胞周期の進行エンジンであるサイクリン依存性キナーゼ(Cdk)が活性化しないため、細胞周期の進行が停止する。また、我々は、Cdk1がChk1のSer286およびSer301をリン酸化することでChk1を核外に移行させていること、このChk1の核外移行により核内のCdk1の活性化および分裂期への進行が円滑に遂行されることを明らかにした。つまり、我々は、Chk1は、(これまで知られていた)ATR以外のキナーゼによってリン酸化修飾を受けることで、その機能を大きく変化させていることをこれまでに明らかにしてきた。

我々は、血清(増殖因子)刺激によって、Chk1のSer280が特異的にリン酸化されることを見出した。このリン酸化量の増加は、MAPキナーゼカスケード(Ras-Raf-MEK-ERK-p90RSK)の活性化に伴って引き起こされ、U0126(MEK阻害剤)またはBI-D1870(p90RSK阻害剤)処理やRSK1/2に特異的なsiRNA処理にて減弱することが明らかとなった。血清刺激によってPI-3キナーゼ-Akt/PKB経路も活性化されたが、

この経路の阻害剤やAkt1/2に特異的なsiRNA処理ではChk1-Ser280のリン酸化反応の減弱は認められなかった。In Vitroにおける解析で、p90RSKはChk1を効率よくリン酸化すること、および、Chk1-Ser280はp90RSKのほぼ唯一のリン酸化部位であることが判明した。また、Chk1は、このSer280のリン酸化修飾に伴い、細胞質から核に移行することが明らかになった。さらに、このChk1の核内集積により、細胞周期(特に、G1期)進行の際のチェックポイント応答を円滑していることが判明した。以上の結果は、増殖刺激応答に呼応してChk1が核内集積することで、その後の細胞周期進行に伴い、発生するDNA障害に対応していることを示唆している。

<今後の方向>

Chk1は、ATRからのリン酸化修飾のみで機能が制御されていると長い間考えられてきたが、我々の研究によりATR以外の多くのキナーゼがChk1をリン酸化することで、その機能を大きく変化させていることが明らかになった。これらの解析により、1) Chk1は外来性のDNA障害がなくても、細胞周期進行を核で負に制御している分子であること、2) 種々のキナーゼによるリン酸化修飾により、Chk1の細胞内局在が変化することでその細胞周期進行に対するブレーキを強めたり弱めたりしていることが明らかになった。

現在、Chk1は抗がん治療の標的分子として注目され、多くのChk1阻害剤が臨床試験に入っている。我々が見出した、外来性のDNA障害のない場合のChk1の機能は、(副作用の原因となる)Chk1阻害剤の正常細胞への障害作用を考えていくうえでも重要であると考えられる。今後、より詳細なChk1機能を明らかにすることで、副作用の少ない抗がん治療を提案できればと考えている。

¹⁾名大グローバルCOEポスドク研究員、²⁾名大・医・細胞腫瘍(兼任)、³⁾名市大・院薬・腫瘍制御(兼任)、⁴⁾リサーチレジデント、⁵⁾アルバイト、⁶⁾中央病院・遺伝子病理診断部、⁷⁾国立がんセンター・研・ウイルス発がん

<研究課題> 2-1

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析

(副題) がんにおける細胞極性制御異常の解析

<研究者氏名>

井澤一郎、林裕子、稲垣昌樹

<目的・概要・進捗状況>

私共は、細胞の形態や運動性に関与する細胞極性制御機構とがんの生物学的特性及び浸潤・転移との関連を研究している。私共はこれまで、細胞極性制御に関与することが報告されているLAP(leucine-rich repeats and PDZ)蛋白質ファミリーの解析を行ってきた。LAP蛋白質はロイシン・リッチ・リピート(leucine-rich repeats; LRR)ドメイン及びPDZドメインをもつ分子群であり、PDZドメインを4個もつScribbleと、PDZドメインを1個もつDensin-180、ERBIN、LET-413などの蛋白質が属する。私共は、酵母two-hybridスクリーニングの系を用いて、Densin-180のPDZドメインと結合しうる蛋白

質としてp120カテニン・サブファミリーに属するデルタ・カテニンを世界に先駆けて同定した。また、私共は、ERBINのPDZドメインと結合する蛋白質として、デルタ・カテニンに高い相同性をもつp0071蛋白質を同定した。上皮細胞においてERBINはp0071と共に細胞間接着部位に存在し、低分子量G蛋白質Rhoファミリーのドミナントアクティブ型を発現させると、ERBINが細胞間接着部位に濃縮することを報告した。一方、ショウジョウバエにおいて、Scribbleは腫瘍抑制遺伝子と考えられており、腫瘍の増殖・浸潤・転移に対して抑制的に働くことが報告されている。最近私共は、two-hybridスクリーニングでいくつかの新規Scribble結合候補蛋白質を同定し、その一つであるMultidrug resistance protein 4 (MRP4、別名ABCC4)について解析を行っている。MRP4は、ATP-binding cassette (ABC) transporter superfamilyのsubfamily Cに属する蛋白質で、形質膜に存在して、ロイコトリエンB4、cAMP、PGE1、GSHなどの内在性基質やMTX、topotecanなどの抗がん剤の細胞外への輸送を行う蛋白質であることが報告されている。MRP4はそのC末端にPDZドメイン結合モチーフをもつが、このPDZ結合モチーフを介してScribbleのPDZドメインと結合することが確認された。内在性のScribbleを免疫沈降したところ、その免疫沈降物中にMRP4が含まれており、ScribbleとMRP4は、in vivoで結合していることが示された。Caco-2細胞における細胞免疫染色で、ScribbleとMRP4は、basolateral membrane上で共局在していた。また、Caco-2細胞でScribbleの発現をRNA干渉法にてノックダウンすると、MRP4がbasolateral membraneより消失した。これらのことより、ScribbleはMRP4と相互作用し、その機能を制御している可能性が示された。

<今後の方向>

細胞極性を制御する分子であるScribbleと内在性小分子や抗がん剤の細胞外排出に関与するMRP4の相互作用を詳細に検討し、がん細胞における細胞極性異常と薬剤耐性機構との関連を解明したいと考えている。

<研究課題> 2-2

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析
(副題) 分化と増殖の分水嶺となり得るTPHD分子

<研究者氏名>

猪子誠人、松山誠¹⁾、何東偉¹⁾、井澤一郎、林裕子、浦野健²⁾、米村重信³⁾、清野透⁴⁾、五島直樹⁵⁾、稲垣昌樹⁶⁾

<目的・概要・進捗状況>

正常分化上皮細胞の特徴は、はっきりした極性や細胞間接着などに見られる。このような分化は増殖停止状態で起こり、細胞増殖はこれと相反するものである。がんではこのような分化上皮の特徴がしばしば消失しており、同時に無秩序な増殖が起こる。ケラチンは分化上皮細胞に特異的に発現する細胞骨格(中間径フィラメント)蛋白質として知られていたが、このような上皮分化制御の視点からの研究は立ち遅れていた。

私どもは、新規ケラチン結合蛋白質としてアルバトロストと

トリコプレインを同定し、これらの分子およびケラチンが上皮細胞の分化制御に関わるという新見解を増やしつつある。これまでに、この2つの分子をそのアミノ酸配列からTPHD(トリコヒアリン・プレクチン類似ドメイン)分子群と名付け、類似蛋白質も複数同定した。現在はこれらを新しい中心体及び細胞間接着制御因子群と位置づけ、機能解析を進めている。すなわち、TPHD分子群の特徴は、分化状態では主に細胞間接着部位に、そして増殖中は主に中心体に局在を変えることにあり、これはTPHD分子群が分化と増殖の分水嶺として全く新しいがんの治療標的となる可能性を示している。本年は特に中心体でのトリコプレインによる細胞周期制御に焦点を置いた。その結果、トリコプレインとオーロラA分裂期キナーゼによる一次線毛形成制御が積極的に細胞周期進行に影響を及ぼすことを実際に明らかにし、以下の内容で論文としてまとめた。

一次線毛は一つの細胞に一つだけ生じる細胞膜上のアンテナのような突起物で、進化の上では脊椎動物以降に見られる構造物である。一次線毛は増殖休止期に中心体から生じ、かつ細胞増殖時には中心体の紡錘体極化に伴い吸収される。そのため一次線毛は細胞の増殖と休止を切り替えるスイッチではないかとの推測が以前からなされていたが、実験的に証明されたことはなかった。私どもは、まずトリコプレイン蛋白質の中心体内局在が一次線毛の形成とともに消失することをRPE1細胞を用いた免疫染色にて発見した。それでトリコプレイン蛋白質の発現をRNA干渉法によって欠失させたところ、増殖条件培養下にも関わらず一次線毛が形成された。この時細胞増殖も休止した。しかし、一次線毛を除去するとこの増殖停止は起こらなくなった。このことから、トリコプレインは一次線毛形成を抑制することで、円滑な細胞周期の進行に寄与していると考えられた。また、脊椎動物以降の細胞では一次線毛が積極的に細胞増殖を休止させる可能性も考えられた。試験管内および培養細胞を用いた発現実験からは、このトリコプレインの機能がオーロラAキナーゼの活性化を介していることがわかった。オーロラAキナーゼは哺乳類のがん細胞が分裂するのに必須のキナーゼ(蛋白質リン酸化酵素)として知られており、増殖中の細胞で一次線毛形成を抑制することは新しい発見である。このオーロラAキナーゼ蛋白質の発現をRNA干渉法によって欠失させてみたところ、RPE1細胞は一次線毛を形成し、細胞増殖が休止した。一方、一次線毛形成能を失っているHeLa細胞は増殖休止を生じず細胞分裂障害を起こした。

この結果は、がん細胞を特異的に傷害する上でヒントを与える。多くのがん細胞は一次線毛が形成できなくなっている。そのため、今後特異性の改善されたオーロラAキナーゼ阻害剤が開発されればがん細胞だけを選択的に死滅させることが期待できると考えられる。

<今後の方向>

オーロラAキナーゼ阻害剤の特異性を高めるための基礎研究として、その分子間相互作用上で重要な配列をさらに絞り込む。

新規TPHD分子群についてもRNA干渉法を用いた機能スクリーニングを行い、一次線毛形成制御による積極的な細胞周期調節の有無を検討する。

現在までの結果を統合すると、TPHD分子群が分化と増殖の分水嶺として機能する確証は確実に増えつつある。すなわち、アルバトロストとトリコプレインは分化上皮細胞においては細胞

間接着部位に局在し、そのうちアルパトロスは極性化分子Par3と複合体を形成し細胞極性を制御している。またケラチンはこの機能に対し促進的に働く。一方、中心体ではトリコブレインによる一次線毛形成制御を介した積極的な細胞周期進行調節が明らかになり、アルパトロスによる微小管重合制御機能は実験的証拠を増やしている段階である。この先行した分子については、それぞれの局在部位で未解決となっている分子機構を補完する実験系を整え、その分子基盤の相違点を明らかにしていくことで、今後分化・増殖転換機構の全容解明を目指すうえでの手がかりにしたいと考えている。

¹⁾リサーチレジデント、²⁾島根大学医学部、³⁾理研 発生・再生科学総合研究センター、⁴⁾国立がんセンター、⁵⁾産業技術総合研究所、⁶⁾名大・医・細胞腫瘍(兼任)

<研究課題> 3

(主題) 部位特異的リン酸化ペプチド抗体の進化

(副題) 生細胞で機能するリン酸化抗体の開発

<研究者氏名>

笠原広介¹⁾、川本恵理子²⁾、大室有紀³⁾、上田宏³⁾、稲垣昌樹⁴⁾

<目的・概要・進捗状況>

がん細胞が無秩序な増殖や転移能を獲得する原因の1つとして、がん細胞の細胞内リン酸化シグナル伝達が異常に亢進していることが挙げられる。現在、時間的・空間的にダイナミックに変化するリン酸化シグナルの解析においては、抗リン酸化抗体を用いた免疫染色法は極めて強力な実験方法として汎用されている。我々は、抗リン酸化抗体を用いた技術をさらに発展させ、生細胞内のリン酸化シグナルを可視化することができる抗リン酸化抗体を開発することを目指している。

生細胞で機能する抗リン酸化抗体を開発する上で、抗体の1) 抗原親和性・特異性の亢進、2) 抗体の生細胞への導入方法、3) 生細胞で抗原抗体反応を検出する方法を開発・改良する必要がある。我々は、中間径フィラメントの1つであるビメンチンに対する抗リン酸化抗体群を用いて抗体可視化を試みているが、これまでにこれら抗体群の可変領域部(抗原認識部位)のcDNAをサブクローニングし、変異導入することで抗原親和性を亢進させることに成功している。また、試験管内(in vitro)での抗原親和性・特異検出法としてOS-ELISA(Open-Sandwich ELISA)の系も確立した。タンパク質細胞導入試薬を用いることで、抗体の生細胞内への導入は可能であることが分かったが、まだ改善の余地が残る。

<今後の方向>

これまでに、抗体可変領域のcDNAサブクローニングと変異導入による抗原親和性・特異性の向上と、2分子間(抗体-抗原)相互作用の検出法の技術進歩、抗体の生細胞導入などの各ステップを達成することができた。今後、上記技術を組み合わせ、生細胞内のリン酸化シグナル伝達を可視化することを目指す。リン酸化シグナルの生細胞観察により、細胞がん化の分子メカニズムの解明が大きく進展することが期待出来る。

¹⁾名市大・院薬・腫瘍制御(兼任)、²⁾嘱託技師、³⁾東大・院工、⁴⁾名大・医・細胞腫瘍(兼任)

<研究課題> 4

(主題) がん細胞の細胞骨格・増殖にかかわる遺伝子の遺伝子改変マウスの作製

<研究者氏名>

田中宏樹¹⁾、松山誠¹⁾、猪子誠人、小堀恭子²⁾、林裕子、井澤一郎、稲垣昌樹³⁾

<目的・概要・進捗状況>

中間径フィラメントは、細胞骨格を形成する主要な構成成分の1つである。中間径フィラメントのビメンチンは、間葉系細胞やがん細胞で発現・機能している。中間径フィラメントの基本構造は、ヘッド、ロッド、テイルの3つの領域から構成されており、フィラメントの重合・脱重合は、ヘッドドメインのリン酸化修飾によって時空間的に制御される。当研究室では世界に先駆けて部位特異的リン酸化状態を認識する抗リン酸化ペプチド抗体の開発し、細胞周期特異的なリン酸化部位の同定およびその酵素の同定をしてきた。また、リン酸化の生理的な意味を理解するために、リン酸化部位がリン酸化されない変異を導入した細胞では、細胞質分裂が終了したにもかかわらず娘細胞間が断裂されない架橋構造を認め、リン酸化が細胞質分裂の完了に必要なことを示した。しかしながら、マウスなどを用いた個体レベルにおいて、それらのリン酸化シグナルの生理的機能は、ほとんど解明されていない。そこで、我々は細胞分裂期特異的リン酸化部位の11カ所のリン酸化部位をセリンからアラニンに置換したマウスを作製・解析を行った。

現在までに、変異マウスでは目の水晶体の形態形成不全、白内障の発症、皮膚の損傷治癒遅延が起きることを観察した。さらに詳細に解析すると、変異マウスでは水晶体上皮細胞の数の減少、細胞質分裂障害によると考えられる2核の細胞の出現といったこれまで試験管レベルで観察されたことが、個体の生体内でも起きていることをあきらかにした。さらに、最終分化した水晶体線維細胞では、染色体数の異常を呈した。損傷治癒部位においても、変異マウスでは線維芽細胞数の減少、細胞質分裂障害を示す架橋構造が確認でき、さらには、染色体分離異常による染色体不安定性を引き起こす多中心体を有する細胞の存在やDNA損傷反応が起きていること、さらに、細胞老化に陥る細胞も認めた。

中間径フィラメントリン酸化不全による細胞質分裂障害は、染色体不安定性の亢進、さらには細胞老化に至ることを個体レベルで明らかにした。

<今後の方向>

ビメンチン点変異マウスでは染色体不安定性、細胞老化を認めたが、染色体異常による腫瘍形成を抑制する主要な因子であるp53が正常に機能している可能性が考えられる。p53遺伝子破壊マウスとの交配し、その子孫マウスを解析することにより、発がんにおけるビメンチンリン酸化の役割を個体レベルで明らかにでき、発がんの分子機構の一端が明らかになる。

また、今回作製したマウスのリン酸化部位に加え、Cキナーゼの基質部位である8カ所をさらに点変異を導入することにより、さらなる中間径フィラメントのリン酸化修飾の生理的意味の理解が進展し、リン酸化異常によって生じる疾患メカニズムの解明に役立つと考えられる。

¹⁾リサーチレジデント、²⁾嘱託技師、³⁾名大・医・細胞腫瘍(兼任)

プルについて解析し、mtDNA の変異と喫煙・飲酒に関連があるかどうか解析する。さらに、これらの解析によって、mtDNA の変異と飲酒・喫煙習慣との関連を明らかにし、食道がんにおけるmtDNA の変異がどのような過程で生じるかを考察する。

¹⁾疫学・予防部、²⁾研究所長

中央実験室

<研究課題>

(主題) 食道がん、頭頸部腫瘍の分子遺伝学的研究

(副題) ミトコンドリアDNA の多型と食道がん発がんリスク

<研究者氏名>

組本博司、松尾恵太郎¹⁾、田中英夫¹⁾、田島和雄²⁾

<目的・概要・進捗状況>

ミトコンドリアゲノムDNA (mtDNA) は核ゲノムDNA と比べ、一般に変異が生じやすいといわれている。また最近では老化やがん化に伴ってmtDNAに変異を生じることも報告されている。我々は、食道がんについて高頻度にmtDNA の変異が蓄積していることを以前明らかにした。もともと食道は、喫煙・飲酒の影響を直接受ける器官であり、これらの生活習慣によって発がんリスクも上昇することが示されている。mtDNA に多くの多型が存在することで、酸化的リン酸化の過程で電子が漏れ、活性酸素がより多く産生されることが考えられる。そこで、本研究では、mtDNA のD-loop 領域に存在する多型の数を数え、食道がんの発がんリスクとの関連を解析することを計画した。また、生活習慣に関わる発がんリスクとmtDNA の多型の数との関連も解析する。

本研究には、HERPACC (the Hospital based Epidemiologic Research Program at the Aichi Cancer Center) のデータベースより食道がん患者185例、食道がん患者に性、および年齢を一致させた非がん患者対照185例を用いた。書面による同意を得た後、自記式質問票により喫煙、飲酒習慣を含む生活習慣に関する情報を得た。さらに、7mlの血液の提供を受け、DNA を抽出した。

mtDNAのD-loop 領域は、複製、転写をコントロールする領域であり、多型、変異が多数見つかっている領域でもある。現在、市販のリシーケンシングプライマーセットを用い、食道がん患者および、非がん患者由来のDNA の塩基配列を決定している。さらに、これらの解析した塩基配列と、mtDNAの基準配列であるrCRS と比較することによって、D-loop 領域の多型を網羅的に検出している。

<今後の方向>

今後、これらの結果を用いて食道がんリスクを与える多型の探索や、多型の数と食道がんリスクとの関連、さらに飲酒・喫煙のリスクを修飾する多型の探索を行う。また、核だけでなくミトコンドリアでも働いていることが明らかとなっている修復遺伝子、hOGG-1 の多型 (Ser326Cys) をそれぞれのサン

3. 病院及び研究所における共同研究（共同研究費）

<研究課題1>

肺癌、中皮腫細胞の解析と診断治療法への応用

Analysis of lung cancer and mesothelioma cells and clinical application

<研究者氏名> 呼吸器内科部 樋田豊明

共同研究者 吉田公秀、堀尾芳嗣、清水淳市、朴将哲、近藤千晶、谷田部恭、関戸好孝

非小細胞肺癌は腺がん、扁平上皮がん、大細胞がんの3種類の組織型に大別され、抗がん剤治療は症例の全身状態や年齢、肺癌の組織型や病期に基づき決められてきた。しかし近年、肺癌の重要な遺伝子異常が見つかり、その遺伝子異常に対する特異的な分子標的薬が開発され個別化治療が必要とされている。EGFR (epidermal growth factor receptor) 遺伝子変異やEML4-ALK (echinoderm microtubule associated protein-like4-Anaplastic lymphoma kinase) 融合遺伝子はいずれも肺癌の中で最も多いタイプの腺がんにも認められる。呼吸器内科でEML4-ALK融合遺伝子症例20例の解析を行った所、年齢は26歳から79歳で、40歳未満が9人を占め一般の肺癌より若年傾向がみられた。また、Never smokerが11人を占め喫煙との関連性は低いと考えられた。ALK症例の抗がん剤感受性は比較的高いと考えられ4割以上で抗がん剤による奏効が見られた一方、二次抗がん剤治療での奏効は1例でのみ認め、初回化学療法での再発例に対する治療はALK阻害薬による治療が必要であると考えられた。

現時点での進行非小細胞肺癌の治療アルゴリズムとしては、EGFR 遺伝子変異とEML4-ALK融合遺伝子を治療前に検査し、EGFR 遺伝子変異陽性例には初回治療でEGFR-TKIを使用し、二次治療で抗がん剤を使用する選択肢と、初回治療で抗がん剤を使用し二次治療でEGFR-TKIを使用する選択肢が考えられる。どちらがより有用かについては症例のPS、年齢等を考慮して総合的に決定するのが良いと考えられた。EML4-ALK融合遺伝子陽性症例に対する初回治療は現時点では、PS良好例では抗がん剤治療後にALK阻害薬の使用と考えられ、PS不良例、抗がん剤治療の適応が難しい症例では、ALK阻害薬の初回治療からの使用と考えられる。EGFR遺伝子変異とEML4-ALK融合遺伝子共に陰性の非扁平上皮がん症例では、血管新生阻害薬である bevacizumab の適応例ではプラチナ + pemetrexed + bevacizumab の使用を、bevacizumab の不適応例ではプラチナ併用療法と考えられた。EGFR遺伝子変異とEML4-ALK融合遺伝子陰性の扁平上皮がん症例ではプラチナと docetaxel、gemcitabine、paclitaxel、TS1等との併用療法が推奨されると考えられた。

非小細胞肺癌の抗がん剤治療は全身状態や年齢、肺癌の組織型や病期を参考に決定されてきたが、臨床所見に加えEGFR遺伝子変異、ALK遺伝子異常等、肺癌の遺伝子所見を指標に治療法を選択することにより、最適な個別化医療が期待される。

<研究課題2>

機能の温存を目指す頭頸部癌の外科治療

Organ preservation surgery for head and neck cancer

<研究者氏名> 頭頸部外科部 長谷川泰久

共同研究者 花井信弘、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典

ハーモニックFOCUSを用いた下咽頭癌手術

I. はじめに

ハーモニックFOCUS[®]は超音波振動により凝固切離を行うことのできる頭頸部手術における新たなエナジーデバイスである。

II. 手術手技の工夫と要点

1. HF使用の要点

術者がモスキートペアンにて切離する組織を剥離、挙上し、その間を助手にHFで切離（シール）させるような使い方を目にするところがあるが、これはHFを最大限活用しているとは言い難い。最も効率的なのは術者がHFにて剥離を行い、剥離部位にHFのクランプアームを滑り込ませ、術者がそのままHFにて切離（シール）を行うという一連の操作である。

HFの先端は現時点で他の器具に比べ、これを行いやすい形状となっている。これにより止血、結紮に要する時間だけでなく、器具の持ち替えの手間と所要時間、助手に切離操作をさせる際の待ち時間まで短縮し、これらが総体となって手術時間の短縮に寄与する。また切離される組織（筋、実質臓器、脂肪組織）は同時にシールされるため、出血も起こらない。よって手術全体の出血量も減少する。

2. 頸部郭清における要点

- 胸鎖乳突筋枝（動・静脈）の処理
- 肩甲舌骨筋の切離、郭清組織中の小血管
- 頸横動脈の分枝
- 静脈角の処理
- 内頸静脈の分枝

3. 原発巣切除における要点

- 前頸筋の切離（含前頸静脈）→気管周囲郭清
- 甲状腺峡部の離断→ペリー靭帯の処理
- 上喉頭動脈、上喉頭神経の切離
- 舌骨前方の処理（含前頸静脈）
- 咽頭収縮筋の切離

III. 結果

筆者が行った同一時期の下咽頭癌手術6例、頸部郭清ND (JC) 12側の比較では、HF使用（7例）での平均所要時間35分、平均出血量27mlであったのに対し、HF不使用（5例）における平均所要時間は45分、平均出血量47mlであった。頸部郭清ND (JPC/M) 以上ではHF使用（3例）のデータのみで

あるが、平均所要時間は64分、平均出血量は80mlであった。
切除に要した時間（両側の頸部郭清術+原発巣切除（咽喉食摘））は両ND（JC）の2例では2時間25分（143～146分）、出血量は平均120ml（60～180ml）であった。ND（JC）+ND（JPC/M）以上の3例では切除に要した時間（両側の頸部郭清術+原発巣切除（咽喉食摘））は3時間38分（191～253分）出血量は平均203ml（180～220ml）であった。
HF使用による術後出血、リンパ漏、乳び漏等の合併症は認めなかった。

IV. 考 察

下咽頭癌手術におけるHFの使用は出血量を減少させ、原発巣切除を含めた所要時間においても手術時間の短縮が可能であり、手術侵襲の低減が可能ばかりでなく、術者のストレスも軽減されるものと考えた。

使用における注意点であるが、HFによる血管の処理については様々な状況が影響するためある程度の慣れが必要である。例えば切離（シール）の際に張力が加わることによりシール強度の低下を生じることがある。また静脈、リンパ管などの壁の薄い構造物を単独で処理しようとするときシールが十分でなく破綻をきたす場合がある。従来の手術でも同様であるが、HFを使用する手術においても止血やリンパ漏がないかなどを閉創前にきちんと確認する必要がある。

第2章 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ (総長)

総 長

- 001 **Nimura Y** : Advances in biliary imaging and staging for cholangiocarcinoma. 9th Congress of the European Hepato-Pancreato-Biliary Association (EHPBA), 2011, (Cape Town, South Africa), [Symposium]
- 002 **Nimura Y** : Surgical strategy for icteric biliary cancer patients. 9th Congress of the European Hepato-Pancreato-Biliary Association (EHPBA), 2011, (Cape Town, South Africa), [Round table]
- 003 **Nimura Y** : Where is the limit of resection of hilar cholangiocarcinoma. XXXIV International Meeting of Surgery, 2011, (Madrid, Spain), [Lecture]
- 004 **Nimura Y** : Extensive hepatobiliary resection with portal vein reconstruction for primary malignant lymphoma of the liver. XXXIV International Meeting of Surgery, 2011, (Madrid, Spain), [Video]
- 005 **Nimura Y** : Combined portal vein, right hepatic artery, left liver and caudate lobe resection with autovein grafting for hilar cholangiocarcinoma. XXXIV International Meeting of Surgery, 2011, (Madrid, Spain), [Video]
- 006 **Nimura Y** : Three decades of experience in surgery of hilar cholangiocarcinoma, Indian Chapter of International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA) Annual Monothematic Conference: Biliary Diseases, 2011, (Bhopal, India), [Lecture]
- 007 **Nimura Y** : Extended right hepatopancreatoduodenectomy for advanced gallbladder carcinoma. Indian Chapter of International Hepato-Pancreato-Biliary Association Annual Monothematic Conference: Biliary Diseases, 2011, (Bhopal, India), [Video]
- 008 **Nimura Y** : Combined portal vein, right hepatic artery, left liver and caudate lobe resection with autovein grafting for hilar cholangiocarcinoma. Indian Chapter of International Hepato-Pancreato-Biliary Association Annual Monothematic Conference: Biliary Diseases, 2011, (Bhopal, India), [Video]
- 009 **Nimura Y** : Current surgery for gallbladder cancer. The 5th Congress of the Chinese Chapter of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA), 2012, (Wuhan, China), [Lecture]
- 010 二村雄次：近藤 哲前理事長の遺志を語る. 第47回日本胆道学会学術集会, 2011, (宮崎), [メモリアル講演]
- 011 二村雄次：最近のがん治療の動向. 第23回椋山フォーラム 現代の医療はどこまでできるか? 2011, (名古屋), [講演]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ（病院）

病 院 長

001 **Ishikura S, Shinoda M, Nakamura K, Ito Y, Nishimura T, Kodaira T, Onozawa M, Nakamura R, Ando N:** Patterns of Failure after Definitive Chemoradiotherapy for Unresectable Carcinoma of the Thoracic Esophagus : Secondary Analyses of the Japan clinical Oncology Group (JCOG) 0303 Trial. ASTRO's 2011, (Florida, USA), [Poster].

消化器内科部

001 **Kondo S, Niwa Y, Tajika M, Kawai H, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Ogura T, Haba S, Ando T, Goto H, Yamao K:** Effectiveness of Endoscopic Treatment for Residual or Recurrent Esophageal Cancer after Chemoradiotherapy. Digestive Disease Week,2011.(Chicago), [ポスター]

002 **Haba S, Niwa Y, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Asaka M, Yamao K:** Characteristics of superficial esophageal cancer in patients with head and neck cancers. Digestive Disease Week,2011.(Chicago), [ポスター]

003 **Ogura T, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Saeki A, Haba S, Hosoda W, Yatabe Y, Bhatia V, Higuchi K:** Clinical usefulness of K-ras gene mutation analysis in EUS-FNA specimens from pancreatic mass lesions. Digestive Disease Week,2011.(Chicago),[ポスター]

004 **Hijioka S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Haba S, Ogura T, Kondo S, Kawai H, Tajika M, Niwa Y, Yamao K:** Role of EUS and EUS-guided FNA for metastasis to pancreas: A Tertiary Center Experience. Digestive Disease Week,2011.(Chicago), [ポスター]

005 **Haba S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Yatabe Y, Hosoda W, Yamao K:** Diagnostic Ability of Endoscopic Ultrasound-guided Fine Needle Aspiration for Pancreatic Solid Lesions: A Large Single . APDW 2011,2011.(Singapore), [ポスター]

006 **Hara K:** EUS-Guided Choledochoduodenostomy (EUS-CDS) For Malignant Lower Biliary Tract Obstruction. APDW 2011,2011.(Singapore), [ポスター]

007 **Mizuno N, Yatabe Y, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yamao K:** Corticosteroids correct aberrant CFTR localization in the duct and regenerate acinar cells in autoimmune pancreatitis. The 6th International Symposium on ALPD and Cirrhosis,2011. (福岡), [ポスター]

008 **Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Ogura T,**

Haba S, Yamao K: Administration of mosapride citrate as an adjuvant to polyethylene glycol (peg) -electrolyte solution for bowel preparation: a randomized, double-blind study. UEGW 2011,2011.(Stockholm), [ポスター]

009 **Yamao K:** Recent Advance for IPMN and MCN and Various Tumors of the Pancreas. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists,2011. (Tokyo), [シンポジウム司会]

010 **Yamao K:** New Frontiers in Endoscopy (EUS, upper GI endoscopy, lower GI endoscopy, and the laparoscopic approach). 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists,2011. (Tokyo), [シンポジウム司会]

011 **Yamao K:** Management in Long-term Follow-up after Pancreatectomy. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists,2011. (Tokyo), [ランチョンセミナー司会]

012 **Niwa Y, Kondo S, Tajika M, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Ohbayashi T, Shinagawa A, Hasegawa T, Nagashio Y, Ogura T, Haba S, Yamao K:** Investigation on the prediction of the procedural time of endoscopic submucosal dissection (ESD) for gastric epithelial neoplasms. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists,2011. (Tokyo) ,[口演]

013 **Tanaka T, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Obayashi T, Shinagawa A, Yamao K:** Prospective evaluation of flexible spectral imaging color enhancement (FICE) endoscopy using an ultra-thin endoscope for detecting pharyngeal and esophageal cancer. 21st World Congress of International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists,2011. (Tokyo), [口演]

014 **Hijioka S:** Advance of EUS. 新華医院学会, 2011. (Shanghai), [講演]

015 **Yamao K:** Advanced development of interventional EUS. 新華医院学会, 2011. (Shanghai), [講演]

016 **Mizuno N:** Recent Advances of EUS in the diagnosis of Chronic and Autoimmune Pancreatitis. "Role of EUS in the diagnosis of Autoimmune Pancreatitis". The International Pancreatic Research Forum 2011,2011. (Osaka), [シンポジウム]

017 **田近正洋, 丹羽康正, 河合宏紀, 近藤真也, 澤木明, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 小倉健, 羽場真, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 山雄健次:** 当施設における直腸腫瘍に対する内視鏡治療の現状. 第74回大腸癌研究会, 2010. (福岡), [ポスター]

018 **山雄健次:** 膵癌診療におけるEUS-FNAとEUSガイド下治療. 第5回膵癌 Cancer Chemotherapy研究会, 2011. (幕張), [特別講演]

019 **水野伸匡, 山雄健次, 洪繁:** 自己免疫性肝胆膵疾患一病態解

- 明から治療へー「脾外分泌機能からみた1型および2型自己免疫性脾炎の病態」. 第97回日本消化器病学会総会, 2011. (東京), [パネルディスカッション]
- 020 山雄健次, 谷田部恭, 細田和貴, 所嘉朗, 尾関順子, 越川卓: 膵腫瘍性病変に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) の有用性の検討. 第52回日本臨床細胞学会総会, 2011. (福岡), [ワークショップ]
- 021 肱岡範, 原和生, 山雄健次: 膵腫瘍に対するEUS-FNAの有用性の検討. 第84回日本超音波学会総会, 2011. (東京), [ワークショップ]
- 022 山雄健次: Interventional EUSを用いた膵がん治療の最前線. 第4回進行膵・胆道癌化学療法研究会, 2011. (千葉), [特別講演]
- 023 大林友彦, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 鈴木隆史, 山雄健次: ESDを施行した胃底腺型胃癌の1例. 第114回日本消化器病学会東海地方会, 2011. (長良川), [一般演題]
- 024 長谷川俊之, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次: 化学療法が奏功した胆嚢小細胞癌の1例. 日本消化器病学会東海地方会, 2011. (名古屋), [一般演題]
- 025 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博: 膵胆道がん診療におけるEUS-FNAとEUSガイド下治療. 第28回日本胆膵病態・生理研究会, 2011. (福岡), [特別講演]
- 026 山雄健次: 膵胆道がん診療におけるEUS-FNAとEUSガイド下治療. 第28回日本胆膵病態・生理研究会, 2011. (福岡), [特別講演]
- 027 原和生: Interventional EUS. ポストン講演会, 2011. (宮崎), [講演]
- 028 原和生: Interventional EUS. 浜松肝胆膵研究会, 2011. (浜松), [講演]
- 029 羽場真, 原和生, 水野伸匡, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 佐野力, 千田嘉毅, 細田和貴, 丹羽康正, 清水泰博, 谷田部恭, 山雄健次: 膵全摘術を施行した主膵管型IPMNの1例. 第12回臨床消化器病研究会 肝胆膵の部, 2011. (東京), [主題]
- 030 山雄健次: 消化器疾患に対するEUS-FNAとEUSガイド下治療. 第5回鹿児島胆膵研究会, 2011. (鹿児島), [特別講演]
- 031 *Obayashi T, Tajika M, Niwa Y, Kawai H, Kondo S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Ogura T, Nakamura M, Higuchi K, Goto H, Yamao K*: Autoimmune Hemolytic Anemia with Acute Renal Failure Induced by Oxaliplatin for Metastatic Colon Cancer. 第9回日本臨床腫瘍学会総会, 2011. (横浜), [ポスター]
- 032 羽場真, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 佐野力, 千田嘉毅, 細田和貴, 丹羽康正, 清水泰博, 谷田部恭, 山雄健次: 術前に悪性の診断が困難であった上皮内癌を伴う分枝型IPMNの1例. 第42回日本膵臓学会, 2011. (青森), [ポスター]
- 033 小倉健, 原和生, 水野伸匡, 澤木明, 山雄健次: EUS-FNA検体におけるK-ras遺伝子変異の有用性の検討. 第42回日本膵臓学会, 2011. (青森), [シンポジウム]
- 034 原和生: EUSガイド下胆管ドレナージと十二指腸ステントの併用が有用であった膵頭部癌の1例. 第42回日本膵臓学会, 2011. (青森), [ポスター]
- 035 肱岡範: 男性SPNの2例. 第42回日本膵臓学会, 2011. (青森), [ポスター]
- 036 原和生: EUS-BD. FNA-Club, 2011. (東京), [講演]
- 037 原和生: 膵癌診療 診断から治療まで. Lilly講演会, 2011. (名古屋), [講演]
- 038 原和生: Interventional EUSにおけるガイドワイヤテクニック. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [講演]
- 039 羽場真, 原和生, 山雄健次: 上皮内癌を伴う分枝型IPMNの1例. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [シンポジウム]
- 040 小倉健, 原和生, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中努, 近藤真也, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 佐野力, 清水泰博, 山雄健次: 当院における悪性胆道狭窄に対するInside Stentの有用性の検討. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [一般演題]
- 041 *Hijioka S, Hara K, Yamao K*: Prospective clinical study of EUS-guided choledochoduodenostomy for malignant lower biliary tract obstruction. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [シンポジウム]
- 042 原和生: EUS-BD手技の標準化に向けて. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [講演]
- 043 *Hara K*: EUS-guided biliary drainage (EUS-BD) for patients with malignant biliary obstruction. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [シンポジウム]
- 044 山雄健次: EUSの戦略と展望 - 診断・治療への貢献 -. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [座長]
- 045 山雄健次: 膵がんの診療 最近の話題. 第38回日本膵切研究会, 2011. (久留米), [特別講演]
- 046 大林友彦, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 鈴木隆史, 山雄健次: NBI併用拡大観察を施行した胃底腺型胃癌の1例. 第8回拡大内視鏡研究会, 2011. (東京), [一般演題]
- 047 原和生: 超音波内視鏡下胆管ドレナージ (EUS-guided Biliary Drainage: EUS-BD) のコツとピットフォール. 胆道学会, 2011. (宮崎), [ワークショップ]
- 048 羽場真, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 佐野力, 千田嘉毅, 細田和貴, 丹羽康正, 清水泰博, 谷田部恭, 山雄健次: 胆嚢小細胞癌の3例. 第47回日本胆道学会, 2011. (宮崎), [ポスター]
- 049 肱岡範, 原和生, 山雄健次: 肝門部浸潤を伴う胆道癌の進展度診断におけるコンベックス型EUSの有用性. 第47回日本胆道学会, 2011. (宮崎), [パネルディスカッション]
- 050 小倉健, 原和生, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 丹羽康正, 田近

- 正洋, 田中努, 近藤真也, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 佐野力, 清水泰博, 山雄健次: 十二指腸乳頭部腫大にEUS-FNAの有用性の検討. 第47回日本胆道学会, 2011. (宮崎), [口演]
- 051 山雄健次: 診断の最前線・IPMN. 第49回日本癌治療学会学術集会・市民公開講座, 2011. (名古屋), [講演]
- 052 山雄健次: EUS穿刺術ー現況と将来ー. 第87回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 2011. (神戸), [特別講演]
- 053 羽場真, 原和生, 清水泰博: 切除不能/再発胆道癌に対する化学療法における予後因子の検討. JDDW 2011(第53回日本消化器病学会大会、第82回日本消化器内視鏡学会総会、第9回日本消化器外科学会大会), 2011.: (福岡), [パネルディスカッション]
- 054 近藤真也, 丹羽康正, 田近正洋, 田中努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 谷田部恭, 山雄健次: HER2陽性胃癌の臨床病理学的検討. 第53回日本消化器病学会大会, 2011. (福岡), [ポスター]
- 055 小倉健, 原和生, 脇岡範, 水野伸匡, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中努, 近藤真也, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 佐野力, 清水泰博, 山雄健次: 膵腫瘍におけるKRAS変異からみた悪性度・予後の検討ーEUS-FNA検体を用いて. JDDW 2011, 2011. (福岡), [ポスター]
- 056 原和生: 切除不能中下部悪性胆管狭窄に対する超音波内視鏡下胆管十二指腸吻合術 (EUS-guided choledochoduodenostomy : EUS-CDS) のコツ. JDDW 2011, 2011. (福岡), [パネルディスカッション]
- 057 脇岡範, 清水泰博, 山雄健次: 分枝型IPMNに対するEUSを用いた長期経過観察例の成績と治療戦略. JDDW 2011, 2011. (福岡), [パネルディスカッション]
- 058 田中努, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 山雄健次: 直腸LSTに対する外科的治療と内科的治療の接点. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (福岡), [ポスター]
- 059 山雄健次: 第6回肝胆膵症例の病理を見る会, 2011. (名古屋), [座長]
- 060 原和生: Interventional EUS 診断から治療まで. 関西FNA Club, 2011. (大阪), [講演]
- 061 山雄健次: 超音波内視鏡による消化器疾患の診断と治療. 日本消化器内視鏡学会埼玉部会第37回学術講演会, 2011. (埼玉), [特別講演]
- 062 大林友彦, 丹羽康正, 玉木恒男: T1食道癌におけるPET診断の意義. 第115回日本消化器病学会東海地方会, 2011. (名古屋), [シンポジウム]
- 063 脇岡範: 膵癌について. ヤンセンファーマー社内講演, 2011. (名古屋), [講演]
- 064 山雄健次: 神経内分泌腫瘍の診断と治療ー最近の話題ー. 第14回富山消化器病最前線, 2011. (富山), [特別講演]
- 065 山雄健次: 癌治療の現状と将来ー膵がん・大腸がん 予防は可能か?ー. 第8回県民講座, 2011. (名古屋), [司会]
- 066 山雄健次: 超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) を用いた消化器疾患の診断と治療. 第338回福山市医師会消化器病研究会, 2011. (広島), [講演]
- 067 脇岡範: EUSから得られる情報を診断と治療にどう生かすか?. 第23回愛知県消化器内視鏡技師懇話会, 2011. (名古屋), [特別講演]
- 068 山雄健次: Interventional EUSによる消化器疾患の診断と治療. 第129回高知県消化器疾患研究会, 2011. (高知), [特別講演]
- 069 山雄健次: 診断. 第7回NET Work Japan, 2011. (東京), [座長]
- 070 山雄健次: 膵癌診療ー最近の話題ー. 金沢膵癌セミナー 2012, 2011. (金沢), [特別講演]
- 071 羽場真, 原和生, 脇岡範, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 十二指腸乳頭部腫大に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) の有用性の検討. 第44回肝胆膵治療研究会, 2011. (名古屋), [口演]
- 072 山雄健次: Interventional EUSによる消化器疾患の診断と治療. 第4回長崎消化器内視鏡治療研究会, 2011. (長崎), [特別講演]
- 073 山雄健次: コンベックスEUS走査とFNAの基本. TV Takeda Alimentary Conference, 2011. (名古屋), [講演]
- 074 山雄健次: EUSガイド下治療の現状と将来. 第4回インターベンショナルEUS九州研究会, 2011. (福岡), [司会]
- 075 原和生: Interventional EUS 診断から治療まで. 近畿超音波内視鏡研究会, 2012. (大阪), [講演]

内視鏡部

- 001 *Kondo S, Niwa Y, Tajika M, Kawai H, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Ogura T, Haba S, Ando T, Goto H, Yamao K*: Effectiveness of Endoscopic Treatment for Residual or Recurrent Esophageal Cancer after Chemoradiotherapy. Digestive Disease Week, 2011. (Chicago), [ポスター]
- 002 *Haba S, Niwa Y, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Asaka M, Yamao K*: Characteristics of superficial esophageal cancer in patients with head and neck cancers. Digestive Disease Week, 2011. (Chicago), [ポスター]
- 003 *Ogura T, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Saeki A, Haba S, Hosoda W, Yatabe Y, Bhatia V, Higuchi K*: Clinical usefulness of K-ras gene mutation analysis in EUS-FNA specimens from pancreatic mass lesions. Digestive Disease Week, 2011. (Chicago), [ポスター]
- 004 *Hijioka S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Haba S, Ogura T, Kondo S, Kawai H, Tajika M, Niwa Y, Yamao K*: Role of EUS and EUS-guided FNA for metastasis to pancreas: A Tertiary Center Experience. Digestive Disease Week, 2011. (Chicago), [ポスター]
- 005 *Haba S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Yatabe Y, Hosoda W, Yamao K*: Diagnostic Ability of Endoscopic Ultrasound-guided Fine Needle Aspiration for Pancreatic Solid Lesions: A Large Single center

- Experience. APDW 2011, 2011. (Singapore), [ポスター]
- 006 **Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Yamao K**: ADMINISTRATION OF MOSAPRIDE CITRATE AS AN ADJUVANT TO POLYETHYLENE GLYCOL (PEG) -ELECTROLYTE SOLUTION FOR BOWEL PREPARATION: A RANDOMIZED, DOUBLE-BLIND STUDY UEGW 2011, 2011. (Stockholm), [ポスター]
- 007 **Niwa Y, Kondo S, Tajika M, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Obayashi T, Shinagawa A, Hasegawa T, Nagashio Y, Ogura T, Haba S, Yamao K**: Investigation on the prediction of the procedural time of endoscopic submucosal dissection (ESD) for gastric epithelial neoplasms. IASGO, 2011. (東京), [口演]
- 008 **Tanaka T, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Obayashi T, Shinagawa A, Yamao K**: Prospective evaluation of flexible spectral imaging color enhancement (FICE) endoscopy using an ultra-thin endoscope for detecting pharyngeal and esophageal cancer. International Association of Surgeons, Gastroenterologists and ogists, 2011. (東京), [口演]
- 009 **田近正洋, 丹羽康正, 河合宏紀, 近藤真也, 澤木明, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 小倉健, 羽場真, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 山雄健次**: 当施設における直腸腫瘍に対する内視鏡治療の現状. 第74回大腸癌研究会, 2010. (福岡), [ポスター]
- 010 **近藤真也**: 症例提示. 東海胃腸疾患研究会, 2011. (名古屋), [口演]
- 011 **田近正洋**: 「症例レポートの書き方と病態把握」. 日本病態栄養学会平成23年度教育セミナー東海・北陸地区, 2011. (岐阜), [講演]
- 012 **大林友彦, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 鈴木隆史, 山雄健次**: ESDを施行した胃底腺型胃癌の一例. 第114回日本消化器病学会東海地方会, 2011. (岐阜), [一般演題]
- 013 **長谷川俊之, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次**: 化学療法が奏功した胆嚢小細胞癌の1例. 日本消化器病学会東海地方会, 2011. (名古屋), [一般演題]
- 014 **田中努, 丹羽康正, 田近正洋**: 経鼻内視鏡とFICEを用いた咽頭・食道癌の拾い上げ診断. 日本消化器病学会東海地方会, 2011. (名古屋), [シンポジウム]
- 015 **山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博**: 膵胆道がん診療におけるEUS-FNAとEUSガイド下治療. 第28回日本胆膵病態・生理研究会, 2011. (福岡), [特別講演]
- 016 **羽場真, 原和生, 水野伸匡, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 佐野力, 千田嘉毅, 細田和貴, 丹羽康正, 清水泰博, 谷田部恭, 山雄健次**: 膵全摘術を施行した主膵管型IPMNの一例. 第12回臨床消化器病研究会 肝胆膵の部, 2011. (東京), [主題]
- 017 **Shitara K, Ura T, Matsuo K, Takahari D, Yokota T, Yuki S, Yoshida M, Utsunomiya S, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Tajika M, Yamazaki K, Komatsu Y, Muro K**: Sensitivity to previous irinotecan treatment does not predict the efficacy of ation chemotherapy with cetuximab plus irinotecan for wild-type KRAS metastatic colorectal cancer. 第9回日本臨床腫瘍学会総会, 2011. (横浜), [ワークショップ]
- 018 **Obayashi T, Tajika M, Niwa Y, Kawai H, Kondo S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Ogura T, Nakamura M, Higuchi K, Goto H, Yamao K**: Autoimmune Hemolytic Anemia with Acute Renal Failure Induced by Oxaliplatin for Metastatic Colon Cancer. 第9回日本臨床腫瘍学会総会, 2011. (横浜), [ポスター]
- 019 **羽場真, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 佐野力, 千田嘉毅, 細田和貴, 丹羽康正, 清水泰博, 谷田部恭, 山雄健次**: 術前に悪性の診断が困難であった上皮内癌を伴う分枝型IPMNの1例. 第42回日本膵臓学会, 2011. (青森), [ポスター]
- 020 **丹羽康正**: 上部消化管の拡大内視鏡検査 ー通常観察から超拡大観察まで. 第11回日本消化器内視鏡学会東海支部ガイドライン研修会 ランチョンセミナー, 2011. (津), [講演]
- 021 **田近正洋, 丹羽康正, 中村常哉**: 消化管疾患に対する分子診断の進歩 API2-MALT1陽性胃MALTリンパ腫の長期予後に関する検討. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [ワークショップ]
- 022 **丹羽康正**: 胃: ESD 2 (予後). 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [座長]
- 023 **小倉健, 原和生, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中努, 近藤真也, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 佐野力, 清水泰博, 山雄健次**: 当院における悪性胆道狭窄に対するInside Stentの有用性の検討. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [一般演題]
- 024 **丹羽康正, 田近正洋, 宮原良二**: 内視鏡像からみた食道癌の自然史. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [ワークショップ]
- 025 **田近正洋, 丹羽康正, 谷田部恭**: 大腸ESD: 保険適応への課題大腸ESD症例における生検病理診断の必要性に関する検討. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [パネルディスカッション]
- 026 **近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正**: 胃MALTリンパ腫におけるH.pylori除菌前後の内視鏡および組織所見の変化. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (名古屋), [パネルディスカッション]
- 027 **大林友彦, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 鈴木隆史, 山雄健次**: NBI併用拡大観察を施行した胃底腺型胃癌の1例. 第8回拡大内視鏡研究会, 2011. (東京), [一般演題]
- 028 **羽場真, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 永塩美**

- 邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 佐野力, 千田嘉毅, 細田和貴, 丹羽康正, 清水泰博, 谷田部恭, 山雄健次: 胆嚢小細胞癌の3例. 第47回日本胆道学会, 2011. (宮崎), [ポスター]
- 029 小倉健, 原和生, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中努, 近藤真也, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 佐野力, 清水泰博, 山雄健次: 十二指腸乳頭部腫大にEUS-FNAの有用性の検討. 第47回日本胆道学会, 2011. (宮崎), [口演]
- 030 田近正洋: 一般口演・画像診断. 第70回日本癌学会学術総会, 2010. (名古屋), [座長]
- 031 近藤真也, 丹羽康正, 田近正洋, 田中努, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 谷田部恭, 山雄健次: HER2陽性胃癌の臨床病理学的検討. 第53回日本消化器病学会大会, 2011. (福岡), [ポスター]
- 032 小倉健, 原和生, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中努, 近藤真也, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 佐野力, 清水泰博, 山雄健次: 膵腫瘍におけるKRAS変異からみた悪性度・予後の検討—EUS-FNA検体を用いて. JDDW 2011, 2011. (福岡), [ポスター]
- 033 中村昌太郎, 松本主之, 飯島克則, 小野尚子, 田近正洋, 田利晃, 北台靖彦, 松本啓志, 長屋匡信, 浅香正博, 杉山敏郎: 胃MALTリンパ腫のHelicobacter pylori除菌治療後の長期予後: 多施設共同研究 (JAPAN GAST Study Group: JGSG). 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (福岡), [ポスター]
- 034 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: 化学放射線治療後の遺残、再発食道癌に対する内視鏡治療の有用性について. 第53回日本消化器病学会大会, 2011. (福岡), [パネルディスカッション]
- 035 田中努, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 山雄健次: 直腸LSTに対する外科的治療と内科的治療の接点. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (福岡), [ポスター]
- 036 丹羽康正: 胃-EMR/ESD. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (福岡), [座長]
- 037 長谷川俊之, 田中努, 丹羽康正: 経鼻内視鏡とFICEを用いた咽頭癌食道癌の拾い上げ診断. 第54回日本消化器内視鏡学会東海地方会, 2011. (名古屋), [シンポジウム]
- 038 丹羽康正: シンポジウム「消化管の内視鏡治療のための精査・スクリーニングの工夫」. 第54回日本消化器内視鏡学会東海地方会, 2011. (浜松), [司会]
- 039 小野裕之, 丹羽康正: 胃悪性疾患の診断と治療. 第22回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2011. (名古屋), [司会]
- 040 羽場真, 原和生, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 十二指腸乳頭部腫大に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) の有用性の検討. 第44回肝胆膵治療研究会, 2011. (名古屋), [口演]

呼吸器内科部

- 001 Atagi S, Katakami N, Hida T, Goto K, Horai T, Inoue A, Sarashina A, Seki Y, Lorence R, Shahidi M, Yamamoto N: LUX-Lung 4: A phase II trial of afatinib (BIBW 2992) in advanced NSCLC patients previously treated with erlotinib or gefitinib. 14th World Conference on Lung Cancer (IASLC), (2011), (Amsterdam) [Oral]
- 002 Satouchi M, Okamoto I, Morita S, Yoshioka H, Takeda K, Seto T, Yamamoto N, Fukuoka M, Hida T, Katakami N, Saito H, Senda H, Tamura K, Yokota S, Nakano T, Tanio Y, Nakagawa K: Phase III trial comparing carboplatin/S-1 to carboplatin/paclitaxel in treatment-na?ve patients with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC): subgroup analysis and updated results of the LETS study (WJTOG3605). 14th World Conference on Lung Cancer (IASLC), (2011), (Amsterdam) [Mini Oral]
- 003 Mitsudomi T, Tomizawa K, Horio Y, Hida T, Yatabe Y: Comparison of high sensitive IHC, FISH, and RT-PCR direct sequencing for detection of ALK translocation in lung cancer. 47th American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, (2011), (Chicago) [Poster]
- 004 Goto K, Katakami N, Atagi S, Hida T, Horai T, Inoue A, Ichinose Y, Kobayashi K, Takeda K, Kiura K, Nishio K, Yamamoto N: A phase II trial of afatinib (BIBW 2992) in patients with advanced non-small cell lung cancer previously treated with erlotinib (E) or gefitinib (G). 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, (2011), (横浜) [シンポジウム]
- 005 Shinjo K, Kondo Y, Okamoto Y, Yokoyama T, Usami N, Fujimoto N, Kishimoto T, Hida T, Fujii M, Murakami H, Osada H, Sekido Y: Identification of CpG island methylation phenotype of lung adenocarcinoma with distinct clinical features. 第70回日本癌学会, (2011), (名古屋) [English Oral Session]
- 006 Fujii M, Toyoda T, Nakanishi H, Yatabe Y, Sato A, Murakami H, Kondo Y, Kondo E, Hida T, Tsujimura T, Osada H, Sekido Y: TGF- β synergizes with YAP to simulate malignant mesothelioma growth by inducing CTGF expression. 第70回日本癌学会学術総会, (2011), (名古屋) [English Oral Session]
- 007 堀尾芳嗣: 画像診断. 第26回日本肺癌学会ワークショップ, (2011), (名古屋) [座長]
- 008 堀尾芳嗣: 第70回日本癌学会学術総会, (2011), (名古屋) [座長]
- 009 樋田豊明, 片山信之, 安宅信二, 後藤功一, 坂 英雄, 田村友秀, 岡本 勇, 野上尚之, 森永亮太郎, 西尾和人, 山本信之: EGFR-TKI 治療後の肺癌患者に対するafatinib (BIBW2992) の国内第2相試験 (LUX-Lung4). 第52回日本肺癌学会総会, (2011), (大阪) [一般演題 (口演)]
- 010 稲田順也, 岩本康男, 吉岡弘鎮, 森田智視, 岡本 勇, 武

- 田晃司, 瀬戸貴司, 山本信之, 石黒 崇, 樋田豊明, 山本雅史, 片山信之, 高山浩一, 中川和彦: 未治療進行非小細胞肺癌に対する S-1+carboplatin と paclitaxel+carboplatin 第Ⅲ相試験の Follow up 結果. 第52回日本肺癌学会総会, (2011), (大阪) [一般演題 (口演)]
- 011 堀尾芳嗣: 症例報告 脳・髄膜転移. 第52回日本肺癌学会総会, (2011), (大阪) [座長 (一般演題)]
- 012 堀尾芳嗣, 朴 将哲, 清水淳市, 吉田公秀, 谷田部 恭, 樋田豊明: 肝臓癌と食道癌治療後、多発小結節影と多発斑状影を呈した食道癌腫瘍栓塞症の1例. 第34回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, (2011), (浜松) [ポスター]
- 013 樋田豊明, 近藤千晶, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 谷田部 恭, 森 正一: 非小細胞肺癌切除後の再発に対して、ゲフィチニブ投与行い長期生存が得られている EGFR 遺伝子変異陽性の3症例. 第99回日本呼吸器学会東海地方会, (2011), (名古屋) [一般演題]

血液・細胞療法部

- 001 木下 朝博: B細胞リンパ腫に対する治療の進歩, 2011.04. 第28回日本医学会総会 東京 [シンポジウム]
- 002 徳永隆之、富田章裕、木下朝博、直江知樹: CD20蛋白発現異常を示す初発DLBCLにおけるリツキシマブ使用の妥当性の解析, 2011.06-07 第51回日本網内系学会総会 福岡 [口演]
- 003 木下朝博: 造血器腫瘍薬物療法における今年のエビデンス, 2011.07 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会 横浜 [口演]
- 004 浅野直子、木下朝博、大島孝一、吉野正、新津望、塚本憲史、森島泰雄、中村栄男: ホジキンリンパ腫の臨床病理学的解析: 中高年齢者発症の結節硬化型ホジキンリンパ腫は予後不良を示す, 2011.10 第70回日本癌学会学術総会 名古屋 [口演]
- 005 Tomohiro Kinoshita, Isamu Sugiura, Hirofumi Taji, Masafumi Sawa, Kunio Kitamura, Hirokazu Nagai, Sinsuke Iida, Hiroshi Kosugi, Kouichi Miyamura, Hidetsugu Mihara, Hiroshi Sato, Masanobu Kasai, Yoshiko Atsuta, Ritsuko Suzuki, Kazuyuki Shimizu, Yoshihisa Morishita: Phase II trial of C-VAD therapy followed by ASCT for newly diagnosed patients with MM:C-SHOT04011 2011.10 第73回日本血液学会学術集会 名古屋 [口演]
- 006 Kazuhito Yamamoto, Takashi Watanabe, Taro Shibata, Nobuo Maseki, Tomohiro Kinoshita, Takayo Suzuki, Makoto Yamaguchi, Kiyoshi Ando, Michinori Ogura, Masafumi Taniwaki, Naokuni Uike, Kengo Takeuchi, Shigeru Nawano, Takashi Terauchi, Kunihiko Tsukasaki, Tomomitsu Hotta, Kensei Tobinai: Phase II/III trial of RCHOP-21 vs. RCHOP-14 in untreated advanced indolent B-cell lymphoma: JCOG0203 2011.10 第73回日本血液学会学術集会 名古屋 [口演・プレナリーセッション]
- 007 Chisako Iriyama, Akihiro Tomita, Keisuke Sugiyama, Takashi Tokunaga, Junji Hiraga, Tomohiro Kinoshita, Tomoki Naoe: Clinical significances of genetic mutations in EZH2, CD79B, and CARD11 genes in DLBCL patients 2011.10 第73回日本血液学会学術集会 名古屋 [口演]
- 008 Takashi Tokunaga, Akihiro Tomita, Kazuyuki Shimada, Junji Hiraga, Takumi Sugimoto, Takahiko Ito, NaoeGoto, Tsuyoshi Takami, Tomohiro Kinoshita, Tomoki Naoe: Analyses of molecular mechanisms and rituximab effectiveness in CD20 IHC (+) /FCM (-) B-lymphoma Cells 2011.10 第73回日本血液学会学術集会 名古屋 [口演]
- 009 Yosuke Minami, Akihiro Abe, Miho Minami, Yachiyo Kuwatuska, Kunio Kitamura, JunjiHiraga, Shinichi Mizuno, Kazuhito Yamamoto, Toshiya Yokozawa, Masashi Sawa, Yuichiro Inagaki, Tomohiro Kajiguchi, KazutakaOzeki, Keisuke Watanabe, Koichi Miyamura, Hitoshi Kiyoi, Tomoki Naoe: Rapid decline of BCR-ABL transcripts in CD34+CD38- population during 2nd TKI therapy for CML-CP 2011.10 第73回日本血液学会学術集会 名古屋 [口演]
- 010 加藤春美、山本一仁、加留部謙之輔、都築忍、谷田部恭、瀧澤淳、大島孝一、中村栄男、森島泰雄、瀬戸加大: 加齢性EBV関連リンパ増殖性疾患の遺伝子発現解析 Expression profiling of EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) of the elderly 2011.10 第73回日本血液学会学術集会 名古屋 [口演]
- 011 Koji Izutsu, Ritsuko Suzuki, Takahiro Fukuda, Yutaka Ueda, Hirofumi Taji, Hisashi Sakamaki, Junji Suzumiya: Hematopoietic stem cell transplantation for lymphoma in Japan:Report from JSHCT Adult Lymphoma WG 2011.10 第73回日本血液学会学術集会 名古屋 [口演]
- 012 Yuichiro Inagaki, Masashi Sawa, Satomi Sahashi, Kotaro Miyako, Reona Sakemura, Toko Saito, Takanobu Morishita, Keisuke Watanabe, Keiko Nimi, Tatsuya Ono: The analysis of blood stem cell transplantation to the 24 old patients over 55 years old 2011.10 第73回日本血液学会学術集会 名古屋 [口演]
- 013 加藤春美、山本一仁、加留部謙之輔、都築 忍、谷田部恭、瀧澤淳、大島孝一、中村栄男、森島泰雄、瀬戸加大: 加齢性EBV関連B細胞性リンパ増殖性疾患の遺伝子発現プロファイル 第73回日本血液学会学術集会事務局名古屋国際会議場 2011年10月14-16日 [一般口演]
- 014 Harumi Kato, Kazuhito Yamamoto, Kennosuke Karube, Shinobu Tsuzuki, Yasushi Yatabe, Jun Takizawa, Koichi Oshima, Shigeo Nakamura, Yasuo Morishima, and Masao Seto: Gene expression profiling of EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) of the elderly Division of Molecular Medicine, Aichi Cancer Center Research Institute 第70回日本癌学会学術総会 名古屋国際会議場 2011年10月3-5日 [一般口演]
- 015 Harumi Kato, Kazuhito Yamamoto, Kennosuke

- Karube, Miyuki Katayama, Shinobu Tsuzuki, Yasushi Yatabe, Jun Takizawa, Koichi Ohshima, Shigeo Nakamura, Yasuo Morishima, and Masao Seto** : Gene Expression Profiling of Age-Related Epstein-Barr Virus (EBV) -Associated B-Cell Lymphoproliferative Disorder Uncovers Alterations in Immune and Inflammatory Genes: Possible Implications for Pathogenesis Division of Molecular Medicine, Aichi Cancer Center Research Institute 53th. ASH annual meeting, December 10-13, 2011, San Diego, LA, USA [ポスターセッション]
- 016 **Yosuke Minami, Akihiro Abe, Miho Minami, Yachiyo Kuwatsuka, Nobuaki Fukushima, Kunio Kitamura, Junji Hiraga, Kazuhito Yamamoto, Catriona Jamieson and Tomoki Naoe** . : Retention of Slow-Cycling CD34+ cells During Imatinib Treatment and Rapid Decline After 2nd ABL-TKI Treatment in Ph+ Leukemia Cells. (Oral Session #641). The 53rd Annual Meeting of American Society of Hematology, San Diego, CA, U.S.A., December 12, 2011. [口演]
- 薬物療法部**
- 001 **Shitara S** : Meta-analysis of Metastatic Gastric Cancer. World Congress on Gastrointestinal Cancer: Asian Perspective, 2011, (Seoul), [oral]
- 002 **Takahari D**: Phase II Trial of Combination Therapy with Bevacizumab and S-1 in Elderly Patients with Unresectable or Recurrent Colorectal Cancer (BASIC) . The 2011 European Multidisciplinary Cancer Congress, 2011, (Stockholm), [poster]
- 003 **Shitara K**: Reporting Patient Characteristics and Stratification Factors in Randomized trials of Systemic Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer. The 2011 European Multidisciplinary Cancer Congress, 2011, (Stockholm), [poster]
- 004 **Shitara K**: Prolonged survival of patients with metastatic colorectal cancer following first-line oxaliplatin-based chemotherapy with molecular targeting agents and curative surgery. The 2011 European Multidisciplinary Cancer Congress, 2011, (Stockholm), [poster]
- 005 **Shitara K**: Genetic Polymorphism of IGF1 Predicts Recurrence in Patients with Gastric Cancer Who Have Undergone Curative Gastrectomy. The 2011 European Multidisciplinary Cancer Congress, 2011, (Stockholm), [poster]
- 006 **Ura T**: Phase I study of ombrabulin in combination with cisplatin (CDDP) administered every 3 weeks to Japanese patients with advanced solid tumors. 2011 AACR-EORTC-NCI International Conference on molecular targets and cancer therapeutics, 2011, (San Fransisco), [poster]
- 007 **室 圭** : 胃がん、大腸がん化学療法の現状と今後の展望. 第50回日本消化器がん検診学会総会, 2011, (東京), [モーニングセミナー]
- 008 **近藤千紘** : 既治療進行再発胃癌におけるmFOLFOX6療法の使用経験. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [ポスター]
- 009 **設楽紘平** : 進行胃癌に対する比較試験における患者背景と層別化因子の系統的レビュー. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [口演]
- 010 **設楽紘平** : KRAS野生型大腸癌に対するCetuximab+irinotecan併用療法の有効性と前治療におけるirinotecanの効果の検討. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [ワークショップ]
- 011 **宇良敬** : 臨床病期2~3食道癌に対する術前Docetaxel、Cisplatin、5-FU併用療法の成績. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [ワークショップ]
- 012 **高張大亮** : 本邦における切除不能進行胃癌の予後因子解析—JCOG9912登録データを用いて. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [口演]
- 013 **室 圭** : 未治療の進行胃癌に対するcediranibとシスプラチン及びフッ化ピリミジン (TS-1又はカベシタピン) 併用の第I相臨床試験. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [口演]
- 014 **室 圭** : Development of molecular targeted agents for gastric cancer: first steps in a new era. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [シンポジウム]
- 015 **室 圭** : 大腸癌全身化学療法～アバスタチンが目指すべきもの～. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [ランチョンセミナー]
- 016 **室 圭** : 大腸癌補助化学療法～日本が目指すべきところ～. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2011, (横浜), [ランチョンセミナー]
- 017 **近藤千紘** : 終末期 (進行再発) 胃癌出血例における緩和的放射線照射の有効性の検討. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 2011, (札幌), [ワークショップ]
- 018 **高張大亮** : 化学療法による末梢神経障害に対するプレガバリンの臨床効果の検討. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 2011, (札幌), [口演]
- 019 **室 圭** : The experiences of TS-1 in mCRC. Multidisciplinary Liver-Directed Therapies Approach in Metastatic Colorectal Cancer Conference, 2011, (台湾), [講演] 10月
- 020 **室 圭** : 分子標的治療薬導入による胃癌化学療法の新展開. 第19回日本消化器病学会, 2011, (福岡), [パネルディスカッション] 10月
- 021 **室 圭 (座長)** : 胃-治療 (化学療法). 第19回日本消化器病学会, 2011, (福岡), [ポスターセッション座長]
- 022 **室 圭** : 大腸癌化学療法は再び暗黒時代を迎えるのか? ～今やるべきこと～. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 023 **室 圭** : 分子標的治療薬導入による胃癌化学療法の新展開. 第19回日本消化器病学会, 2011, (福岡), [パネルディスカッション]
- 024 **高張大亮** : 当院における高齢者胃癌化学療法の現状. 第19

- 回日本消化器病学会, 2011, (福岡), [ワークショップ]
- 025 室 圭: 大腸がん化学療法の適正化とレベルアップを目指して〜愛知県における他主食・多施設連携の取り組み〜. 第21回日本医療薬学会年会, 2011, (神戸), [シンポジウム]
- 026 室 圭: CYP2C19遺伝子多型はARQ197 (Tivantinib) の忍容性に影響する (ARQ197単剤第 I 相試験). 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [ワークショップ]
- 027 宇良敬: シスプラチンの腎障害危険印紙とMgを含む前投与法による腎障害抑制に関する検討. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [ミニシンポジウム]
- 028 宇良敬: 根治切除困難な進行食道癌症例における、化学放射線療法後遺後例に対する後治療の選択. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [ワークショップ]
- 029 宇良敬: 標準的化学療法が不応不耐となった大腸癌症例の予後予測モデル. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [口演]
- 030 宇良敬: FOLFOX 不応不耐大腸癌に対するFOLFIRI (CPT-11;180) + bevacizumab (BV) の第II相臨床試験. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [口演]
- 031 宇良敬: 切除不能進行再発大腸癌症例に対する標準化学療法不応不耐後の化学療法による延命効果. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [フォーラム]
- 032 宇良敬: 食道癌切除例における顕微鏡的遺残例の臨床的特徴と追加治療に関する検討. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [口演]
- 033 高張大亮: 化学療法による末梢神経障害に対するプレガバリンの臨床効果の検討. 第49回日本癌治療学会学術集会口演 名古屋 2011
- 034 高張大亮: 高血圧は大腸癌におけるベバシズマブ療法の効果・予後予測因子になりえるか. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [口演]
- 035 設楽紘平: 進行再発胃癌に対するS1+cisplatin療法とcapecitabine+ cisplatin療法の後方視的検討. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [口演]
- 036 設楽紘平: 当院におけるHER2陽性進行再発胃癌とHER2陰性胃癌の後方視的検討. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [ミニシンポジウム]
- 037 設楽紘平: 切除不能進行再発大腸癌に対する分子標的剤の導入と予後改善. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [ミニシンポジウム]
- 038 近藤千紘: 進行再発胃癌におけるHER2発現と血清AFP値の検討. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [口演]
- 039 近藤千紘: 悪性類上皮型腎血管筋脂肪腫にmTOR阻害剤everolimusが著効した一例. 第49回日本癌治療学会学術集会2011, (名古屋), [口演]
- 040 室 圭: StageIV大腸癌に対する補助療法. 第66回大腸肛門病学会学術集会, 2011, (東京), [ワークショップ]
- 041 室 圭: 進行再発大腸癌に対する治療戦略. 第66回大腸肛門病学会学術集会, 2011, (東京), [イブニングセミナー]
- 042 近藤千紘: 切除不能胃癌出血例における緩和的放射線照射の有効性の検討. 第84回日本胃癌学会総会, 2011, (大阪), [ワークショップ]
- 043 設楽紘平: Trastuzumab導入によるHER2陽性進行胃癌

の予後延長. 第84回日本胃癌学会総会, 2011, (大阪), [ワークショップ]

- 044 高張大亮: S-1+CDDPによる胃癌術後補助化学療法-再発および生存の解析. 第84回日本胃癌学会総会, 2011, (大阪), [口演]
- 045 室 圭: 切除不能・再発胃癌に対する2次治療としてのABI-007 (3週毎投与法) 第II相試験 (最終解析). 第84回日本胃癌学会総会, 2011, (大阪), [口演]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 **Yatabe Y:** Is the EGFR Mutation Distributed Heterogeneously within Tumors?. 5th IASLC/ASCO/ESMO International Conference on Molecular Targeted Therapy in Lung Cancer, 2012, (マルタ), [シンポジウム]
- 002 **Yatabe Y:** Diagnostic algorithm of ALK fusion ADC in clinical practice. 5th IASLC/ASCO/ESMO International Conference on Molecular Targeted Therapy in Lung Cancer, 2011, (マルタ), [シンポジウム]
- 003 **Yatabe Y:** It's TRU! Role of TTF-1 and EGFR Developmental Pathways In Lung Adenocarcinoma, ATS, 2011, (米国コロラド) [シンポジウム]
- 004 **Yatabe Y:** Pitfalls for EGFR mutation specific antibodies, oral workshop Molecular classification of lung carcinoma (1) : Adenocarcinoma, oral workshop Standardization of IHC for ALK, oral workshop, IASLC Path Panel in fall, 2011, (つくば) [ワークショップ]
- 005 **Yatabe Y:** Molecular correlation and classification of lung cancer, IASLC Pathology Panel Meeting, 2011, (つくば) [ワークショップ]
- 006 **Yatabe Y:** EGFR Mutation and ALK Testing Methods in Diagnostic Pathology, 14th World Conference on Lung Cancer, 2011, (オランダ・アムステルダム), [シンポジウム]
- 007 **Yatabe Y:** EGFR mutation in lung cancer -beyond TKI response, Tucson Symposium, 2012, (米国アリゾナ) [シンポジウム]
- 008 **Yatabe Y:** FISH technique for clinical application, The 7th Asia Pacific IAP congress, 2011 (台湾) [ワークショップ]
- 009 **Yatabe Y:** Update on NSCLC diagnosis focusing on small biopsy/cytology and EGFR mutation testing, 21st Asia Pacific Cancer conference, 2011, (Kuala Lumpur, Indonesia) [ワークショップ]
- 010 **Yatabe Y and Keith Kerr:** Biomarker Assay Standardization. IASLC Pathology Panel meeting, 2012, (バンクーバー、カナダ) [口演]
- 011 谷田部恭: 終末呼吸ユニットと肺腺癌. 第99回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2011, (静岡), [講演]

- 012 谷田部恭：これからの肺癌組織分類—新IASLC/ATS/ERS肺腺癌分類をむかえて。日本肺癌学会診断ワークショップ, 2011, (大阪), [講演]
- 013 谷田部恭：肺腺癌の新展開—分子標的薬と細胞診。関西細胞診連合会, 2011, (京都), [講演]
- 014 谷田部恭：分子生物学の向こうに見えるがん化メカニズム。日本癌学会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 015 村上善子、長坂暢、菅野雅人、佐々木英一、細田和貴、谷田部恭：転移巣が異なった組織型を呈した肺癌の一例。日本病理学会中部支部交見会, 2011, (長野)
- 016 菅野雅人、細田和貴、佐々木英一、村上善子、長坂暢、山田舞、谷田部恭：仙尾骨部腫瘍の症例。第70回東海骨軟部腫瘍研究会, 2011, (名古屋)
- 017 山田舞、近藤直人、足立恵理、牛尾文、末田愛子、権藤なおみ、堀尾章代、服部正也、藤田崇史、岩田広治：閉経前HR陽性症例に対するLH-RH analogue使用期間の検討。日本乳癌学会学術総会, 2011, (仙台), [口演]
- 018 山田舞、佐々木英一、長坂暢、村上善子、菅野雅人、細田和貴、岩田広治、谷田部恭：OSNA法による術中センチネルリンパ節転移診断の実地臨床導入に関する検討。日本外科学会学術総会, 2011, (東京), [口演]
- 019 太田裕子、板倉英二、山田智恵子、吉野聡：病理検体取り間違い防止への取り組み～生検検体を中心に～。第12回愛知県医学検査学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 020 岡田恭孝、濱嶋浩、小井手佳代子、森佐代美、小池考一、森島泰雄、谷田部恭：BCR-ABL Protein Kitの基礎的検討—フローサイトメトリー法によるBCR-ABL融合蛋白検出の有用性—。第12回愛知県医学検査学会, 2011, (愛知), [口演]
- 021 濱嶋浩、岡田恭孝、森佐代美、小井手佳代子、小池考一、谷田部恭：FCMによるCCND1 (cyclinD1) 検出の有用性。第12回日本検査血液学会, 2011, (岡山), [口演]
- 022 小井手佳代子、濱嶋浩、森佐代美、岡田恭孝、谷田部恭：CS-2000iにおけるオートLIA FM CA/CSシリーズ用の性能評価。日本臨床検査自動化学会第43回大会, 2011, (横浜), [口演]
- 023 堀田ありさ、宮下拓也、尾関順子、所嘉朗、長坂暢、村上善子、菅野雅人、佐々木英一、細田和貴、越川卓、谷田部恭：唾液腺の多形腺腫様所見を示した乳腺硬化性乳頭腫の一例。日本臨床細胞学会東海連合会例会, 2011, (名古屋), [口演]
- 024 所嘉朗、尾関順子、佐々木英一、細田和貴、山雄健次、越川卓、谷田部恭：臍のEUS-FNA。第8回熊本細胞診セミナー, 2011, (熊本), [口演]
- 025 所嘉朗：内分泌腫瘍。第6回中部免疫染色フォーラム, 2011, (松本), [口演]
- 026 堀田ありさ、植田菜々絵、尾関順子、所嘉朗、越川卓、谷田部恭：胸水中のALK陽性肺癌の細胞像の検討。日本臨床細胞学会東海連合会総会, 2012, (名古屋), [口演]
- 027 所嘉朗：ベセスダシステムについて。平成23年度愛知県細胞診従事者講習会, 2012, (名古屋), [口演]
- 028 柴田典子、野中綾子、谷田部恭：ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE) 標本から抽出したRNAを用いたKRAS遺伝子変異検査法の検討。日本染色体遺伝子検査学会総会, 2011, (東京), [口演]
- 029 堀田ありさ、宮下拓也、尾関順子、所嘉朗、長坂暢、村上善子、菅野雅人、佐々木英一、細田和貴、越川卓、谷田部恭：唾液腺の多形腺腫様所見を示した乳腺硬化性乳頭腫の一例。第12回愛知県医学検査学会, (名古屋), [口演]

頭頸部外科部

- 001 Hasegawa Y, Terada A, Yatabe Y, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H: Sentinel Lymph node biopsy in early tongue cancer patients. 3rd the International Academy of Oral Oncology, 2011, (シンガポール), [口演]
- 002 吉本世一、長谷川泰久、松塚崇、塩谷彰浩、高橋克昌、甲能直幸、吉田知之、北野博也：本邦での頭頸部センチネルリンパ節生検における臨床の現状。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 003 花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木淳志、宮崎拓也、原田生功磨、岡本啓希、長谷川泰久：化学放射線療法後の計画的（早期救済）頸部郭清術—郭清範囲に関する考察—。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 004 伊地知圭、長谷川泰久、花井信広、後藤満雄、足立誠、小川徹也：頭頸部癌に対する抗癌剤感受性試験—検体によるin vitro感受性試験と細胞株による感受性因子の探求—。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 005 小澤泰次郎、花井信広、平川仁、鈴木淳志、宮崎拓也、原田生久磨、岡本啓希、兵藤伊久夫、神山圭史、長谷川泰久：中咽頭癌放射線治療後の救済手術の検討。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 006 平川仁、長谷川泰久、花井信広、小澤泰次郎、兵藤伊久夫、神山圭史、鈴木淳志、宮崎拓也、原田生功磨、水上高秀、岡本啓希：鼻副鼻腔癌頭蓋底進展症例における鬱後再発例の検討。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 007 鈴木淳志、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、宮崎拓也、原田生功磨、岡本啓希、古平毅、立花弘之、長谷川泰久：中・下咽頭癌に対する放射線併用 weekly CDDPについての検討。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 008 宮崎拓也、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木淳志、岡本啓希、原田生功磨、水上高秀、藤本保志、吉野邦俊、長谷川泰久：喉頭癌に対する化学放射線交替療法の検討—臨床第2相試験—。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 009 原田生功磨、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木淳志、宮崎拓也、岡本啓希、水上高秀、岩野信吾、長谷川泰久：遺伝子組み換えヒトTSHを用いた進行甲状腺癌放射線ヨード治療の適応の検討。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 010 吉岡文、尾澤昌悟、浅見和哉、岡崎祥子、兵藤伊久夫、小澤泰次郎、平井秀明、重盛登世、長谷川泰久、田中貴信：3D造形機を用いた外鼻切除術後即時エピテーゼの簡便な製法について。第35回日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 011 長谷川泰久：頭頸部癌の分子疫学的考察。第27回奈良県頭

- 頸部腫瘍研究会, 2011, (奈良), [特別講演]
- 012 岡本啓希、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、鈴木淳志、原田生功磨、福田裕次郎、小出悠介、長谷川泰久：下咽頭及び頸部食道における重複癌に対する治療方針の検討. 第146回東海地方部会連合講演会, 2011, (津), [口演]
- 013 長谷川泰久：がん患者の口腔管理を地域ぐるみで考える-口腔管理医療連携モデル事業に取り組んで. 第5回日本緩和医療学会年会, 2011, (千葉), [シンポジウム]
- 014 坂井謙介、重富敏雄、長谷川泰久、横井基夫：がん治療における口腔合併症と口腔ケアの実際-医歯薬連携の重要性について. 第5回日本緩和医療学会年会, 2011, (千葉), [シンポジウム]
- 015 花井信広、小出悠介、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、鈴木淳志、岡本啓希、原田生功磨、福田裕次郎、長谷川泰久：甲状腺分化癌における喉頭・気管浸潤例の治療成績. 第44回日本甲状腺外科学会学術集会, 2011, (米子), [口演]
- 016 原田生功磨、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木淳志、岡本啓希、水上高秀、宮崎拓也、岩野信吾、長谷川泰久：遺伝子組み換えヒトTSHを用いた進行甲状腺癌放射線ヨード治療の適応の検討. 第44回日本甲状腺外科学会学術集会, 2011, (米子), [口演]
- 017 小澤泰次郎、花井信広、平川仁、鈴木秀典、長谷川泰久：当科における中咽頭前壁癌の検討. 第4回喉頭機能温存治療研究会, 2011, (東京), [口演]
- 018 福田裕次郎、鈴木秀典、花井信広、小澤泰次郎、鈴木淳志、岡本啓希、原田生功磨、小出悠介、長谷川泰久：当院における再発頭頸部癌に対する化学療法法の検討. 第10回東海頭頸部癌化学療法研究会, 2011, (名古屋), [口演]
- 019 長谷川泰久：口腔癌におけるセンチネルリンパ節の生検術の検討. 第51回日本核医学会, 2011, (つくば), [口演]
- 020 長谷川泰久：頭頸部に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション手術. 口腔顎顔面核医学フォーラム2011, 2011, (つくば), [口演]
- 021 岡本啓希、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、鈴木淳志、原田生功磨、小出悠介、福田裕次郎、長谷川泰久：下咽頭癌と頸部食道癌における重複癌に対する治療方針の検討. 第63回日本気管食道科学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 022 花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、鈴木淳志、岡本啓希、原田生功磨、岡本啓希、小出悠介、福田裕次郎、長谷川泰久：ハーモニックFOCUSを用いた下咽頭癌手術. 第63回日本気管食道科学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 023 鈴木秀典、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、長谷川泰久：喉頭癌と下咽頭癌における切除病理所見と術前情報の検討. 第63回日本気管食道科学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 024 小出悠介、鈴木秀典、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、長谷川泰久：喉頭温存手術の術後嚥下機能の検討. 第63回日本気管食道科学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 025 川北大介、三上慎司、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、村上信五、長谷川泰久：甲状腺乳頭癌における性別の予後への影響. 第63回日本気管食道科学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 026 長谷川泰久、吉本世一、松塚崇、甲能直幸、本間明宏、塩谷彰浩、横山純吉、大倉康男、小須田茂、高橋克昌、吉田知之、永藤裕、吉崎智一、上村裕和、三浦弘規、菅澤正：頭頸部癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション手術. 第13回Sentinel Node Navigation Surgery研究会学術集会, 2011, (東京), [口演]
- 027 平川仁、長谷川泰久、吉本世一、菅澤正、本間明宏、塩谷彰浩、三浦弘規、上村裕和、大倉康男、甲能直幸、小須田茂、高橋克昌、永藤裕、松塚崇、横山純吉、吉崎智一、吉田知之：口腔癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション頸部郭清術の検討-臨床第2相試験-. 第13回Sentinel Node Navigation Surgery研究会学術集会, 2011, (東京), [口演]
- 028 岡本啓希、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、原田生功磨、福田裕次郎、小出悠介、長谷川泰久：当科における中咽頭前壁癌の検討-一次的Tシャント増設の検討. 第147回東海地方部会連合講演会, 2011, (名古屋), [口演]
- 029 花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、岡本啓希、原田生功磨、小出悠介、福田裕次郎、長谷川泰久：オトガイ下皮弁 (Submental island flap) による頭頸部再建-当科での経験と予後の検討-. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 030 花井信広、古川まどか、藤本保志、松浦一登、門田信也：化学放射線療法後の頸部郭清に関する検討-feasibility study-. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 031 小澤泰次郎、花井信広、平川仁、鈴木秀典、岡本啓希、原田生功磨、小出悠介、福田裕次郎、長谷川泰久：放射線治療後の下咽頭がんにおけるルビエールリンパ節転移の検討. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 032 平川仁、長谷川泰久、吉本世一、菅澤正、本間明宏、塩谷彰浩、三浦弘規、上村裕和：口腔癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション頸部郭清術の検討-臨床第2相試験-. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 033 鈴木秀典、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、岡本啓希、原田生功磨、小出悠介、福田裕次郎、長谷川泰久：喉頭癌と下咽頭癌における手術法による術後入院期間の検討. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 034 福田裕次郎、鈴木秀典、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、岡本啓希、原田生功磨、小出悠介、長谷川泰久：当院における再発頭頸部癌に対する化学療法法の検討. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 035 原田生功磨、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、岡本啓希、小出悠介、福田裕次郎、長谷川泰久：頭頸部癌化学放射線療法における抵栄養状態が治療効果に与える影響. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 036 岡本啓希、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、原田生功磨、小出悠介、福田裕次郎、長谷川泰久：下咽頭癌と頸部食道癌における重複癌に対する治療方針の検討. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 037 鈴木淳志、長谷川泰久、藤本保志、丸尾貴志、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、原田生功磨、岡本啓希、小出悠介、水上高秀、中島務：2次元動画解析ソフトを用いた経時的な嚥下機能評価. 第22回日本頭頸部外科学会, 2012, (福島), [口演]
- 038 鈴木秀典：PET/CTによる下咽頭癌治療の個別化. 第17回頭頸部癌化学療法研究会, 2012, (東京), [口演]
- 039 原田生功磨、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、

- 岡本啓希、福田裕次郎、小出悠介、長谷川泰久、水上高秀：当科における頭頸部Spindle cell carcinomaの臨床的検討。第29回東海頭頸部腫瘍研究会，2012，(名古屋)，[口演]
- 040 小出悠介、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典、原田生功磨、岡本啓希、福田裕次郎、長谷川泰久：高齢者の頭頸部癌治療。第148回東海地方部会連合講演会，2012，(名古屋)，[口演]

形成外科部

- 001 *Hyodo I, Kohyama K, Mizukami T, Kamei Y* : Retrograde anastomosis of internal mammary vein, The 6th WSRM, 2011.6.29-7.2, Helsinki, Poster
- 002 水上高秀、兵藤伊久夫、神山圭史、亀井譲：頭頸部手術歴、放射線照射歴のある症例における咽喉食摘・遊離空腸再建後の合併症について，第54回日本形成外科学会総会・学術集会，2011.4.13-15，徳島，口演
- 003 神山圭史、兵藤伊久夫、水上高秀、亀井譲：腰背部悪性腫瘍切除後再建の経験，第54回日本形成外科学会総会・学術集会，2011.4.13-15，徳島，口演
- 004 神山圭史、兵藤伊久夫、水上高秀、亀井譲：臀部悪性腫瘍切除後再建の経験，第54回日本形成外科学会総会・学術集会，2011.4.13-15，徳島，口演
- 005 兵藤伊久夫、神山圭史、水上高秀、長谷川泰久、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、亀井譲：口腔癌再建後の機能評価，第35回日本頭頸部癌学会，2011.6.9-10，名古屋，シンポジウム
- 006 水上高秀、兵藤伊久夫、神山圭史、長谷川泰久、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、亀井譲：下顎側方切除後の遊離皮弁による軟部再建例における術後機能の検討，第36回日本頭頸部癌学会，2011.6.9-10，名古屋，口演
- 007 神山圭史、兵藤伊久夫、水上高秀、長谷川泰久、花井信広、小澤泰次郎、平川仁、不和信和、亀井譲：放射線併用動注化学療法後遊離皮弁再建例の検討，第37回日本頭頸部癌学会，2011.6.9-10，名古屋，口演
- 008 兵藤伊久夫、神山圭史、水上高秀、亀井譲：当科における術後瘻孔閉鎖の考え方，第3回日本創傷外科学会総会・学術集会，2011.7.8-9，札幌，シンポジウム
- 009 兵藤伊久夫、神山圭史、水上高秀、亀井譲：救済手術において逆行性内胸静脈吻合が有用であった1例，第46回日本形成外科学会中部支部学術集会，2011.8.6，名古屋，口演
- 010 兵藤伊久夫、神山圭史、水上高秀、亀井譲：当院における保存的リンパ浮腫治療，日本形成外科学会九州支部学術集会 第87回例会，2011.10.15，別府，口演
- 011 水上高秀、兵藤伊久夫、神山圭史、小森康司、長谷川泰久、亀井譲：咽喉食摘後の遊離空腸再建時に腸回転異常症を指摘された一例，第58回日本形成外科学会中部支部東海地方会，2011.10.22，名古屋，口演
- 012 水上高秀、兵藤伊久夫、神山圭史、亀井譲：下顎側方切除後の再建例における術後評価，第38回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2011.11.10-12，新潟，シンポジウム
- 013 神山圭史、兵藤伊久夫、水上高秀、亀井譲：鼻・副鼻腔腫瘍に対する頭蓋底手術後遊離皮弁再建における照射の影響，

第38回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2011.11.10-12，新潟，口演

- 014 兵藤伊久夫、神山圭史、水上高秀、亀井譲：皮弁を救済しえた乳房再建例の検討，第38回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2011.11.10-12，新潟，口演
- 015 兵藤伊久夫、神山圭史、水上高秀、亀井譲：リンパ管静脈吻合における赤外線カメラ付き顕微鏡の有用性，第5回がんのリンパ浮腫研究会，2011.12.17，名古屋，口演
- 016 神山圭史、兵藤伊久夫、水上高秀、澤木正孝、岩田広治、亀井譲：腹直筋を穿通しない穿通枝を用いた深下腹壁動脈穿通枝皮弁の一例，第59回日本形成外科学会中部支部東海地方会，2012.2.25，名古屋，口演
- 017 水上高秀、兵藤伊久夫、神山圭史、長谷川泰久、亀井譲：下顎側方欠損に対する骨性再建と軟部再建の術後機能の比較，第29回東海頭頸部腫瘍研究会，2012.3.10，名古屋，口演
- 018 兵藤伊久夫：再建外科?周術期合併症をいかに防ぐか，第23回三重外科系感染症フォーラム，2012.3.22，津，講演

呼吸器外科部

- 001 *Mitsudomi T, Tada H, Ichinose Y, Yokoi K, Katakami N, Oda M, Negoro S, Chiba Y, Nakagawa K, Nakanishi Y*: Randomized Phase III Trial of Adjuvant Chemotherapy with Gemcitabine Compared with Oral Tegafur-uracil (UFT) in Resected, Stage IB-IIIa Non-small Cell Lung Cancer (WJTOG 0101). 16th ECCO - 36th ESMO Multidisciplinary cancer congress, 2011, (Stockholm), [口演]
- 002 *Mitsudomi T, Suda K, Tomozawa K, Yatabe Y*: Comparison of high-sensitivity IHC, FISH, and RT-PCR direct sequencing for detection of ALK translocation in lung cancer. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, 2011, (Chicago), [poster discussion]
- 003 *Mitsudomi T*: EGFR Mut+ NSCLC and testing strategy. Targeted therapies integrated meeting of excellence (TIME) Hong Kong 2011, 2011, (Hong Kong), [特別講演]
- 004 *Mitsudomi T*: Meet the Expert session: ALK translocations. 14th World Conference on Lung Cancer, 2011, (Amsterdam), [特別講演]
- 005 *Mitsudomi T*: c-MET as a mechanism of resistance. 5th IASLC/ASCO/ESMO International Conference on Molecular Targeted Therapy in Lung Cancer, 2011, (Malta), [口演]
- 006 *Mitsudomi T*: Japanese studies. 5th IASLC/ASCO/ESMO International Conference on Molecular Targeted Therapy in Lung Cancer, 2011, (Malta), [口演]
- 007 *Mitsudomi T*: EGFR mutational testing and clinical trials in Asia. American Thoracic Society Annual Meeting, 2011, (Denver), [シンポジウム]
- 008 *Mitsudomi T*: Japanese Trials. The 6th Asian Thoracic Surgical Club, 2011, (Busan, Korea), [シンポジウム]

- 009 **Tomizawa K, Suda K, Nakanishi H, Yatabe Y, Mitsudomi T** : Analysis for squamous cell carcinomas with EGFR variant III mutation. 第70回日本癌学会総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 010 **光富徹哉, 須田健一, 松尾恵太郎, 谷田部恭, 上野剛, 宗淳一, 三好新一郎, 豊岡伸一** : A new model based on clinicopathological factors to predict epidermal growth factor receptor mutation in non-small-cell lung cancer. 第9回日本臨床腫瘍学会総会, 2011, (横浜), [シンポジウム]
- 011 **光富徹哉, 木村秀樹, 木島貴志, 池田晋悟, 石井芳樹, 大森亨, 小副川敦, 谷尾吉郎, 中原理恵, 張田信吾, Bang Y-J** : 日本人のALK融合遺伝子陽性NSCLC患者におけるクリゾチニブの有効性及び安全性. 第52回日本肺癌学会総会, 2011, (大阪), [口演]
- 012 **光富徹哉** : Oncogene addictionを標的とした肺がん治療. 第4回HImeji Oncology Meeting, 2011, (姫路), [特別講演]
- 013 **光富徹哉** : ALK融合遺伝子陽性肺がんの臨床病理学的特徴. Lung Cancer Diagnosis Symposium, 2011, (大阪), [シンポジウム]
- 014 **光富徹哉** : 遺伝子変異に基づく肺癌の個別化治療の進歩. 肺癌個別化治療を考える会 in 京都, 2011, (京都), [特別講演]
- 015 **光富徹哉** : 肺癌術後補助化学療法の現状と今後の展望. 第52回日本肺癌学会総会 ランチョンセミナー12, 2011, (名古屋), [特別講演]
- 016 **光富徹哉** : EGFR耐性と次世代のEGFR-TKI. 第52回日本肺癌学会総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 017 **光富徹哉** : 癌薬物療法のバイオマーカー 肺がん. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 018 **光富徹哉** : 日本のがん臨床研究 臨床試験 (特に肺がん)の現状. 第49回日本癌治療学会学術集市民公開講座, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 019 **光富徹哉** : 呼吸器臨床医に必要な癌遺伝子の知識. 第27回京滋肺癌研究会, 2011, (京都), [特別講演]
- 020 **光富徹哉** : My Best of ASCO 2011. 滋賀肺癌講演会, 2011, (大津), [特別講演]
- 021 **光富徹哉** : 肺癌治療の現況 2011. 第15回豊橋がん診療フォーラム, 2011, (豊橋), [特別講演]
- 022 **光富徹哉** : 胸部外科医が知っておきたい肺癌の分子生物学と標的治療. 第64回日本胸部外科学会 ランチョンセミナー17, 2011, (名古屋), [特別講演]
- 023 **光富徹哉** : EGFR遺伝子異常. 日本肺癌学会ワークショップ, 2011, (名古屋), [ワークショップ]
- 024 **光富徹哉** : 肺癌の分子マーカーに基づく個別化医療. New Year Seminar, 2011, (福岡), [特別講演]
- 025 **富沢健二, 須田健一, 小林祥久, 尾関直樹, 厚田幸子, 遠藤秀紀, 福井高幸, 伊藤志門, 谷田部恭, 光富徹哉** : 再発EML4-ALK肺癌の化学療法反応性. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 2011, (大分), [ポスター]
- 026 **富沢健二, 伊藤志門, 小林祥久, 千葉真人, 須田健一, 尾関直樹, 福井高幸, 波戸岡俊三, 谷田部恭, 光富徹哉** : ALK融合遺伝子の存在により15年目の再発と診断した肺腺癌の1例. 第100回日本肺癌学会中部支部会, 2012, (名古屋), [一般口演]
- 027 **小林祥久, 伊藤志門, 尾関直樹, 厚田幸子, 丹羽由紀子, 遠藤秀紀, 福井高幸, 安部哲也, 波戸岡俊三, 樋田豊明, 光富徹哉** : 非小細胞肺癌cN2 (III A) の手術例と非手術例の検討. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 2011, (大分), [一般口演]
- 028 **小林祥久, 福井高幸, 千葉真人, 須田健一, 富沢健二, 尾関直樹, 伊藤志門, 波戸岡俊三, 光富徹哉** : 胃癌肺転移切除例の検討. 第99回日本肺癌学会中部支部会, 2011, (静岡), [一般演題 (口演)]
- 029 **小林祥久, 福井高幸, 千葉真人, 須田健一, 富沢健二, 尾関直樹, 伊藤志門, 波戸岡俊三, 光富徹哉** : Ground glass opacityを示す末梢小型肺腫瘍の自然史と手術適応. 第52回日本肺癌学会総会, 2011, (大阪), [一般口演]
- 030 **千葉真人, 福井高幸, 小林祥久, 富沢健二, 須田健一, 尾関直樹, 伊藤志門, 波戸岡俊三, 光富徹哉** : 低肺機能患者の肺癌手術～%1秒量をもとにした検討～. 第24回中部肺癌手術手技研究会, 2011, (名古屋), [一般口演]

乳腺科部

- 001 **Kinoshita K, Masuda N, Sagara Iwata H, Nakamura S, Yanagita Y, Nishimura R, Iwase H, Kamigaki S, Takei H, Tsuda H, Noguchi S** : Neoadjuvant anastrozole or tamoxifen for premenopausal breast cancer : Ki67 expression data from the STAGE study. ASCO, 2011, (Chicago), [口頭発表]
- 002 **Goss P.E., Barrios C.H., Chan A, Chia S.K., Delaloge S, Ejlertsen B, Ingle J.N., Moy B, Iwata H, Holmes F.A., Mansi J, Minckwitz G, Han L, Thiele A, Agrapart V, Freyman A, Truscello J, Berkenblit a, Finkelstein D** : A phase III trial of adjuvant neratinib (NER) after trastuzumab (TRAS) in women with early-stage HER2+ breast cancer (BC). ASCO, 2011, (Chicago), [ポスター]
- 003 **Goss P.E., Barrios C.H., Bell R, Finkelstein D, Iwata H, Martin M, Braun H, Dansey R.D., Coleman R.E** : A randomised, double-blind, placebo-controlled multicenter phase III study comparing denosumab with placebo as adjuvant treatment for women with early-stage breast cancer who are at high risk of disease recurrence (D-CARE). ASCO, 2011, (Chicago), [ポスター]
- 004 **Masuda N, Toi M, Ueno T, Yamanaka T, Saji S, Kuroi K, Sata N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Sasano H** : A study of the recurrence score by the 21-gene signature assay as a predictor of clinical response to neoadjuvant exemestane for 24 weeks in estrogen receptor-positive breast cancer. ASCO, 2011, (Chicago), [ポスター]
- 005 **Ueno T, Masuda n, Kamigaki S, Morimoto T, Nakamura S, Kuroi K, Iwata H, Ohno S, Tanaka M, Toi M** : A multicenter phase II trial of neoadjuvant letrozole plus low dose cyclophosphamide in postmenopausal patients with estrogen receptor-positive breast cancer. ASCO, 2011, (Chicago), [ポスター]

- 006 **Ito Y, Aogi K, Masuda N, Ohno S, Iwata H, Kashiwaba M, Fujiwara Y, Kamigaki S, Ueno T, Takashima S** : Efficacy of first-line bevacizumab (Bev) combined with weekly paclitaxel (wPac) for HER2-negative metastatic breast cancer (MBC) : Results of a Japanese Phase II study (n=120). ASCO, 2011, (Chicago), [ポスター]
- 007 **Takada M, Saji S, Masuda N, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Ueno T, Sasano H, Toi M** : Relationship between Body mass Index and Preoperative Treatment Response to Aromatase Inhibitor Exemestane vs. Anastrozole for the First-Line treatment of Postmenopausal Japanese Women with Hormone Receptor Positive Advanced Breast Cancer. 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 008 **Masuda N, Iwata H, Ohno S, Rai Y, Sato Y, Ohsumi S, Hashigaki S, Nishizawa Y, Saeki T, Noguchi S** : A Randomized, Double-Blinded, Controlled Study of Ezemestane vs. Anastrozole for the First-Line treatment of Postmenopausal Japanese Women with Hormone Receptor Positive Advanced Breast Cancer. 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 009 **Iwata H, Yamaguchi T, Masuda N, Toyama T, Kashiwaba M, Yamamoto Y, Taira N, Saji S, Ohashi Y** : An Interim Efficacy Analysis of Neoadjuvant Letrozole in the New Primary Endocrine-therapy Origination Study (NEOS/N-SAS BC06) : A Randomized Study of Adjuvant Endocrine Therapy with or without Chemotherapy for Postmenopausal Breast Cancer Patients Who Responded to Neoadjuvant Letrozole. 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 010 **Watanabe T, Kuranami M, Inoue K, Masuda N, Aogi K, Ohno S, Iwata H, Mukai H, Uemura Y, Ohashi Y** : Docetaxel Is Superior to Paclitaxel Given Every Three Weeks in Post Operative Patients with Node-Positive Breast Cancer: Results of the Final Analyses of the NSAS-BC (National Surgical Adjuvant Study of Breast Cancer) 02 Trial from JAPAN. 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 011 **Goss PE, Barrios CH, Bell R, Finkelstein D, Iwata H, Martin M, Braun A, Ke C, Maniar T, Braun S, Dansey R, Coleman RE** : A Phase 3 Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Multicenter Study Comparing Denosumab with Placebo as Adjuvant Treatment for Women with Early-Stage Breast Cancer Who Are at High Risk of Disease Recurrence (D-CARE). 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 012 **Aogi K, Ando M, Iwata H, Hara F, Matsubara M, Fujiwara Y** : Phase I Study of Single Agent Trastuzumab Emtansine in Japanese Patients with Human Epidermal Growth Factor Receptor2 (HER2) - Positive metastatic Breast Cancer (JO22591). 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 013 **Sueta A, Ito H, Iwara H, Hosono S, Watanabe M, Iwase H, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K** : A Genetic Predictor for Breast Cancer Risk in a Japanese Population. 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 014 **Gondo N, Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Kondo N, Horio A, Adachi E, Ushio A, Sueta A, Iwata H** : Impact of Body Mass Index (BMI) for Clinical Outcomes in Japanese Breast Cancer Patients. 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 015 **Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Kondo N, Horio A, Ushio A, Gondo N, Adachi E, Iwata H** : The Accuracy of Preoperative Ultrasonography Guided Vacuum-assisted Breast Biopsy in Determining Histological Type, ER Status, PgR Status, HER2 Status and Ki67 Level in Invasive Breast Cancer. 第34回サンアントニオ乳癌シンポジウム, 2011, (サンアントニオ), [ポスター]
- 016 **Sawaki M, Itoh Y, Imai T, Kikumori T, Sato S, Ishihara S, Aoyama Y, Nakao A** : A Phase I/II study of intraoperative radiotherapy for early breast cancer in Japan. International Surgical Week 2011, 2011, (Yokohama), [Poster Discussion]
- 017 **Sawaki M, Sato S, Uchida H, Tsunoda N, Kikumori T, Ishihara S, Aoyama Y, Itoh Y, Nakao A, Imai T** : A phase I/II study of intraoperative radiotherapy for early breast cancer in Japan. The 18th German Surgical Society and the German Society of General and Visceral Surgery, 2011, (Germany), [Oral presentation]
- 018 **Sawaki M, Wada M, Sato Y, Mizuno Y, Kobayashi H, Yokoi K, Yoshihara M, Kamei K, Ohno M, Imai T** : Phase II study of high-dose Toremifene as first line treatment of metastatic breast cancer in patients with adjuvant aromatase inhibitor-resistance. Primary therapy of Early Breast Cancer 12th International Conference, 2011, (St. Gallen), [General poster]
- 019 **Hattori M, Ito Y, Takahashi S, Inoue K, Iwata H, Hatake K** : Entecavir for the prevention of chemotherapy-induced hepatitis B virus (HBV) reactivation in breast cancer patients with chronic HBV infection. Organization for Oncology and Translational Research 7th Annual Conference, 2011, (Hong Kong), [poster]
- 020 **岩田広治** : 乳癌における血管新生阻害剤の効果と問題点. 第9回日本臨床腫瘍学会, 2011, (横浜), [シンポジウム]
- 021 **岩田広治, 大野真司, 徳田裕, 角田博子, 光森通英, 村上茂, 向井博文, 中村清吾** : 乳癌診療ガイドライン2011ハイライト. 第19回日本乳癌学会, 2011, (仙台), [シンポジウム]
- 022 **岩田広治, 藤原康弘, 増田慎三, 高野利実** : 骨転移を有する日本人乳癌患者に対するデノスマブの有効性および安全性の検討. 第19回日本乳癌学会, 2011, (仙台), [口演]
- 023 **岩田広治** : 分子サブタイプで考える進行・再発乳癌治療. 第19回日本乳癌学会, 2011, (仙台), [ランチョンセミナー]

- 024 岩田広治：注目すべき治療薬 (pertuzumab) . 第49回日本癌治療学会, 2011, (名古屋), [特別シンポジウム]
- 025 岩田広治：HER2陽性乳癌の更なる個別化. 第49回日本癌治療学会, 2011, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 026 岩田広治：日本のがん臨床研究・臨床試験の現状-乳がん-. 第49回日本癌治療学会, 2011, (名古屋), [市民公開講座]
- 027 岩田広治：再発乳癌の治療戦略. 第60回日本農村医学会学術集会, 2011, (岐阜), [ランチョンセミナー]
- 028 岩田広治：乳がん～個別化治療と副作用対策～. 第11回オンコロジーセミナー, 2011, (東京), [シンポジウム]
- 029 岩田広治：乳がん. 第5回がん治療認定医教育セミナー, 2011, (幕張), [セミナー]
- 030 岩田広治：ペバシズマブによる進行・再発乳癌におけるニューパラダイム. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011, (東京), [ランチョンセミナー]
- 031 岩田広治：再発乳癌治療の動向 -エビデンスとコンセンサス-. 第9回日本乳癌学会近畿地方会, 2011, (奈良), [スポンサードミニシンポジウム]
- 032 藤田崇史、林裕倫、服部正也、堀尾章代、山田舞、末田愛子、牛尾文、足立恵理、権藤なおみ、岩田広治：乳癌術後骨単独転移症例の検討. 第111回日本外科学会総会, 2011, (紙上開催), [ポスター]
- 033 澤木正孝、佐藤成憲、井戸田愛、野田純代、佐々実穂、内田大樹、角田伸行、菊森豊根、石原俊一、伊藤善之、今井常夫：乳房温存術中照射の第I/II相試験 -最小の侵襲で標準治療と同等の効果を目指して-. 第19回日本乳癌学会総会, 2011, (仙台), [口演]
- 034 藤田崇史、林裕倫、服部正也、堀尾章代、山田舞、末田愛子、牛尾文、足立恵理、権藤なおみ、岩田広治：乳癌のサブタイプ別にみた再発形式の検討. 第19回日本乳癌学会総会, 2011, (仙台), [口演]
- 035 藤田崇史：超音波ガイド下吸引針生検の診断精度. 第27回日本乳腺甲状腺超音波診断会議, 2011, (大阪), [口演]
- 036 藤田崇史：乳癌の治療. 第31回日本細胞診学会東海連合会, 2011, (名古屋), [特別講演]
- 037 堀尾章代、藤田崇史、林裕倫、服部正也、山田舞、足立恵理、牛尾文、権藤なおみ、末田愛子、岩田広治：ICG蛍光法を用いたAxillary Reverse Mapping (ARM) の臨床的意義の検討. 第19回日本乳癌学会総会, 2011, (仙台), [示説討論]
- 038 堀尾章代、藤田崇史、澤木正孝、近藤直人、足立恵理、牛尾文、権藤なおみ、山田舞、谷田部恭、岩田広治：センチネルリンパ節生検における術中診断の精度と長期成績. 第73回日本臨床外科学会, 2011, (東京), [シンポジウム]
- 039 服部正也、藤田崇史、林裕倫、堀尾章代、岩田広治：転移再発乳癌に対するゲムシタピンの有効性と安全性. 第19回日本乳癌学会, 2011, (仙台), [口演]
- 040 服部正也：R-CHOP治療後HER2陽性乳癌の術後治療. 第3回ネットワークBC in 有明, 2012, (東京), [口演]
- 041 権藤なおみ、藤田崇史、澤木正孝、服部正也、近藤直人、堀尾章代、足立恵理、牛尾文、岩田広治：腋窩リンパ節転移3個以下の乳房温存・腋窩郭清症例に対する領域リンパ節照射の意義の検討. 第12回乳癌最新情報カンファレンス, 2011, (熊本), [ポスター]

- 042 権藤なおみ、藤田崇史、澤木正孝、服部正也、近藤直人、堀尾章代、足立恵理、牛尾文、岩田広治：腋窩リンパ節転移3個以下の乳房温存・腋窩郭清症例に対する領域リンパ節照射の意義の検討. 第8回乳癌学会中部地方会, 2011, (山梨), [口演]
- 043 権藤なおみ、藤田崇史、澤木正孝、服部正也、近藤直人、堀尾章代、足立恵理、牛尾文、岩田広治：ホルモン陽性乳癌におけるBMI (Body Mass Index) の検討. 第19回日本乳癌学会総会, 2011, (仙台), [ポスター]
- 044 権藤なおみ、藤田崇史、澤木正孝、服部正也、近藤直人、堀尾章代、足立恵理、牛尾文、岩田広治：HER2陽性DCISの検討. 第49回日本癌治療学会総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 045 牛尾文、澤木正孝、服部正也、近藤直人、堀尾章代、足立恵理、権藤なおみ、岩田広治：腫瘍径1cm以下のTriple negative 乳癌の検討. 第21回日本乳癌検診学会総会, 2011, (岡山), [口演]
- 046 牛尾文、藤田崇史、澤木正孝、服部正也、近藤直人、堀尾章代、足立恵理、権藤なおみ、岩田広治：再発乳癌患者へのアブラキササン投与による特異的有害事象の報告. 第49回日本癌治療学会総会, 2011, (名古屋), [ポスター]

消化器外科部

- 001 *Kanemitsu Y* : What is your treatment strategy in patients with rectal cancer?. 2nd Korea-Japan Cancer Symposium 2011, (Gwangju, Korea) [口演].
- 002 *Oda M, Kito M, Kitasaka T, Tanaka C, Misawa K, Fujiwara M, Mori K* : Development of laparoscopic surgery planning system and its evaluation based on surgery, International Forum Medical Imaging in Asia, 2011. (Naha) [口演].
- 003 *Huy Hoang Bui, Oda M, Zhenganag Jiang, Kitasaka T, Misawa K, Fujiwara M, Mori K* : A study on automated anatomical labeling to arteries concerning with colon from 3D abdominal CT images. SPIE Medical Imaging 2011. (Frolida) [口演].
- 004 *Mori K, Zhengag Jiang, Nimura Y, Kitasaka T, Misawa K, Fujiwara M* : Anatomical Name Annotation on Blood Vessels Rendered by Volume Rendering and Its Application to Virtual Laparoscopy. Augmented Environments for Computer Assisted Interventions, 2011. (Toronto) [ワークショップ].
- 005 *Oda M, Nakaoka T, Kitasaka T, Furukawa K, Misawa K, Fujiwara M, Mori K* : Organ segmentation from 3D abdominal CT images based on atlas selection and graph cut. Computational and Clinical Applications in Abdominal Imaging, 2011. (Toronto) [ワークショップ].
- 006 *Komori K, Kanemitsu Y, Ishiguro S, Shimizu Y, Sano T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N* : Analysis of lymph node metastatic pattern according to the depth of in-growth in the muscularis propria in T2 rectal cancer. 第21回IASGO: World Congress of the

- International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists 2011. (東京) [示説].
- 007 **Mori K, Suito T, Oda M, Nawano S, Iinuma G, Misawa K, Kitasaka T**: GastroVIS: A Visualization System for Generating Virtual Flattened Views of the Stomach from 3D Gastric CT Images. RSNA (Radiological Society of North America) Scientific Assembly and Annual Meeting Program 2011. (Chicago) [口演].
- 008 **Nimura Y, Hoang Huy Bui, Kitasaka T, Misawa K, Mori K**: Vasculature CAD: A CAD for Understanding Individual Vasculature Based on Direct Drawing of Blood Vessel Names to Vasculature on Volume-rendered Image. RSNA (Radiological Society of North America) Scientific Assembly and Annual Meeting Program 2011. (Chicago) [口演].
- 009 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金光幸秀, 小森康司, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 林雄一郎, 蔣 振剛, 小田昌宏, 森 健策, 藤原道隆, 小寺泰弘, 中尾昭公: 画像処理技術を用いた術前・術中支援システムの開発と臨床応用. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [ビデオシンポジウム].
- 010 大澤高陽, 金光幸秀, 小森康司, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一: 直腸腫瘍に対するTMEの治療成績. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [ビデオシンポジウム].
- 011 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博: 高度進行胃癌に対する審査腹腔鏡の意義. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [示説].
- 012 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 安藤公隆, 二村雄次, 山雄健次: 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の癌予測モノグラム-手術例および長期経過観察例における診断能の検討-. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [シンポジウム].
- 013 松井 聡, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 二村雄次: 大腸癌肝転移に対する化学療法後肝切除-画像上CR病変とその臨床的取り扱い-. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [パネルディスカッション].
- 014 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金光幸秀, 小森康司, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 林雄一郎, 蔣 振剛, 小田昌宏, 森 健策, 藤原道隆, 小寺泰弘, 中尾昭公: 画像処理技術を用いた術前・術中手術支援システムの開発と臨床応用. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [ビデオシンポジウム].
- 015 大澤高陽, 金光幸秀, 小森康司, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一: 直腸腫瘍に対するTEMの治療成績. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [ビデオシンポジウム].
- 016 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 安藤公隆, 二村雄次: 膵頭部癌術後膵液瘻と膵液感染・ERBDチューブ挿入との関連. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [示説].
- 017 安藤公隆, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 山雄健次, 柳澤昭夫: TS1浸潤性膵管癌の治療成績. 第111回日本外科学会定期学術集会, (紙上発表) [示説].
- 018 大澤高陽, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 金城和寿, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一: 当院で経験した過去10年間における初発GIST8例の検討. 第74回大腸癌研究会, 2011. (福岡) [口演].
- 019 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治: 直腸癌に対する新時代の治療戦略-内視鏡治療・chemoradiationから骨盤内臓器全摘術まで-. 第74回大腸癌研究会, 2011. (福岡) [口演].
- 020 田近正洋, 丹羽康生, 河合宏紀, 近藤真也, 澤木明, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 小倉健, 羽場真, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 山雄健次: 当施設における直腸腫瘍に対する内視鏡治療の現状. 第74回大腸癌研究会, 2011. (福岡) [口演].
- 021 伊藤真衣, 山下未希子, 山口真澄, 榊原由美子, 金光幸秀, 小森康司: イレオストミー造設患者の体型と装具貼用時の補正との検討. 第28回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2011. (福岡) [示説].
- 022 山下未希子, 山口真澄, 榊原由美子, 小森康司, 金光幸秀: 術後皮下膿瘍形成により装具貼用に難渋した一例. 第28回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2011. (福岡) [示説].
- 023 松井 聡, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 森本守, 志村正博, 金城和寿, 服部憲史, 大澤高陽, 二村雄次: KRAS遺伝子解析により術前診断した原発性膵癌の1例. 第281回東海外科学会総会, 2011. (名古屋) [口演].
- 024 金城和寿, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 大澤高陽, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博: No touch isolationと合理的中枢側郭清法の応用により治癒切除し得た局所進行盲腸癌の1例. 第281回東海外科学会総会, 2011. (名古屋) [口演].
- 025 曲家迪, 二村幸孝, 陳 斌, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森健策: 腹腔鏡手術支援のための3次元CT像からの腹壁領域抽出に関する研究. 第30回日本医用画像工学会, 2011. (大田原市) [口演].
- 026 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 小森康司, 安藤公隆, 松井聡, 森本守, 志村正博, 二村雄次: 膵頭十二指腸切除術後膵液瘻のリスクファクターと悪化防止の試み. 第23回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2011. (東京) [シンポジウム].
- 027 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 安藤公隆, 小森康司, 松井聡, 森本守, 志村正博, 二村雄次: 主膵管型IPMNに対する術式の検討-膵切除範囲と膵全摘の要否について-. 第23回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2011. (東京) [パネルディスカッション].
- 028 松井 聡, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 安藤公隆, 小森康司, 森本守, 志村正博, 二村雄次: 大腸癌肝転移に対する化学療法施行後肝切除-画像上complete remission (CR) 病変の転帰から-. 第23回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2011. (東京) [示説].
- 029 志村正博, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 安藤公隆, 松井聡, 森本守, 二村雄次: 石灰化を伴った主膵管型IPMNの1例. 第23回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2011. (東

- 京) [示説].
- 030 森本 守, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 安藤公隆, 松井聡, 志村正博, 二村雄次: 原発巣術後に卵巣転移を切除した胆嚢癌の1例. 第23回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2011. (東京) [示説].
- 031 大澤高陽, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 植村則久, 金城和寿, 服部憲史, 二宮豪, 川合亮佑, 今井健晴, 二村雄次, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次: 膵体部癌術後の膵内転移を切除した1例. 第114回日本消化器病学会 東海支部例会, 2011. (岐阜) [口演].
- 032 小森康司, 金光幸秀, 石黒成治, 加藤知行: 直腸癌肛門側先進部における低分化所見が有する臨床的意義. 第75回大腸癌研究会, 2011. (東京) [口演].
- 033 金光幸秀, 石黒成治, 小森康司, 加藤知行: Stage IV大腸癌手術治療対象例の予後予測モデル. 第75回大腸癌研究会, 2011. (東京) [口演].
- 034 植村則久, 加藤岳人, 平松和洋, 柴田佳久, 吉原基, 山田英貴, 夏目誠治, 桐山宗泰, 星野伸晃, 加藤健宏: 画像所見でvon Meyenburg complexが疑われた6症例の検討. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [口演].
- 035 丹羽由紀子, 伊藤誠二, 波戸岡俊三, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 篠田雅幸, 光富徹哉: 食道・胃接合部癌に対する治療戦略 食道胃境界部癌の新分類案 術式アプローチの違いによる成績の検討. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [パネルディスカッション].
- 036 小森康司, 金光幸秀, 石黒成治, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 加藤知行: 大腸癌Stage IIの補助化学療法の適応. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [シンポジウム].
- 037 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 加藤知行: 解剖学的層構築を意識した重点領域に対する側方郭清術. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [ビデオワーク].
- 038 大澤高陽, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 金城和寿: 消化管GIST切除47症例の検討. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [口演].
- 039 服部憲史, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 小森康司, 千田嘉毅, 石黒成治: 大動脈周囲リンパ節転移のみを有するM1胃癌の治療法に関する考察. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [示説].
- 040 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 安藤公隆, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 二村雄次: 胆管非拡張型膵胆管合流異常の治療成績. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [ワークショップ].
- 041 安藤公隆, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 二村雄次: 通常型膵癌治癒切除例に対する術後補助化学療法の効果に関する検討. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [特別企画/特別セッションなど].
- 042 松井 聡, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 二村雄次: 画像上complete remission (CR) 病変の出現からみた大腸癌肝転移に対する化学療法後肝切除のタイミング. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [特別企画/特別セッションなど].
- 043 服部憲史, 伊藤英二, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 小森康司, 千田嘉毅, 石黒成治: 大動脈周囲リンパ節転移のみを有するM1胃癌の治療法に関する考察. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [口演].
- 044 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 二村雄次, 山雄健次, 真口宏介: 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の癌予測ノモグラムの診断能-長期経過観察例における検討とexternal validity. 第66回日本消化器外科学会総会, 2011. (名古屋) [パネルディスカッション].
- 045 安藤公隆, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 二村雄次, 脇岡範, 原和生, 水野伸匡, 山雄健次, 柳澤昭夫: 発生膵管レベルの違いによる浸潤性膵管癌の初期進展・浸潤形式と予後の相違. 第42回日本膵臓学会大会, 2011. (弘前) [示説].
- 046 松井 聡, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 安藤公隆, 森本守, 志村正博, 二村雄次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 山雄健次: K-ras mutationが診断の一助となった原発性膵癌の2例. 第42回日本膵臓学会大会, 2011. (弘前) [示説].
- 047 志村正博, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 安藤公隆, 松井聡, 森本守, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 羽場真, 山雄健次, 二村雄次: 診断が困難であった嚢胞性膵腫瘍の1例. 第42回日本膵臓学会大会, 2011. (弘前) [示説].
- 048 羽場 真, 水野伸匡, 原和生, 澤木明, 脇岡範, 佐伯哲, 小倉健, 丹羽康生, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部恭, 細田和貴, 山雄健次: 術前に悪性の診断が困難であった上皮内癌を伴う分枝型IPMNの1例. 第42回日本膵臓学会大会, 2011. (弘前) [示説].
- 049 脇岡 範, 水野伸匡, 原和生, 小倉健, 羽場真, 丹羽康生, 細田和貴, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 山雄健次: 男性SPNの2例. 第42回日本膵臓学会大会, 2011. (弘前) [示説].
- 050 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡範, 佐伯哲, 小倉健, 羽場真, 清水泰博, 佐野 力, 丹羽康生: EUSガイド下胆管ドレナージと十二指腸ステントの併用が有用であった膵頭部癌の1例. 第42回日本膵臓学会大会, 2011. (弘前) [示説].
- 051 森本 守, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 安藤公隆, 松井聡, 志村正博, 二村雄次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 山雄健次: 膵頭十二指腸切除術後に発症した肝内結石の2例. 第42回日本膵臓学会, 2011. (弘前) [口演].
- 052 二村孝幸, 北坂孝幸, 本間裕敏, 高畑博嗣, 森雅樹, 名取博, 森健策: 統計アトラスとグラフカットに基づく3次元胸部CT像からの肺葉抽出. 第30回日本医用画像工学会大会, 2011. (大田原市) [口演].
- 053 曲 家適, 二村孝幸, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森健策: 腹腔鏡手術支援のための仮想気腹に関する実験的検討. 第50回日本生体医工学会大会, 2011. (東京) [口演].
- 054 Bui Huy Hoang, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森健策: 3次元腹部CT像における多クラスAdaBoostを用いた腹部血管領域への血管名自動対応付け手法. 第30回日本画像工学会大会, 2011. (大田原市) [口演].
- 055 大澤高陽, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 二村雄次, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 今岡大, 谷田部恭, 細田和貴: 膵頭部癌切除8年後に膵尾部切除を行った異時性膵癌の1例.

- 第43回肝胆膵治療研究会, 2011. (名古屋) [口演].
- 056 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 安藤公隆, 二村雄次, 稲葉吉隆: 臍頭十二指腸切除術後難治性膵液瘻に対しIVR下に経皮経腸膵管ドレナージ造設術を行った1例. 第38回膵切研究会, 2011. (久留米) [示説].
- 057 永塩美邦, 原和生, 水野伸匡, 肱岡範, 今岡大, 長谷川俊之, 羽場真, 小倉健, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次: 長期経過観察した主膵管型IPMCの1例. 第55回日本消化器画像診断研究会, 2011. (金沢) [口演].
- 058 清水泰博: 肝がん(肝細胞癌)の診断と治療. がん征圧講演会(第4回公開講座), 2011. (名古屋) [特別講演].
- 059 永塩美邦, 肱岡範, 原和生, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 長谷川俊之, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 術前に胆嚢癌の合併が疑われた胆嚢腺筋腫症の1例. 第50回日本胆道学会学術集会, 2011. (宮崎) [示説].
- 060 原 和生, 清水泰博, 山雄健次: 切除不能悪性胆管狭窄患者に対する超音波内視鏡下胆管ドレナージ(EUS-guided Biliary Drainage:EUS-BD)のコツとピットフォール. 第47回日本胆道学会, 2011. (宮崎) [ビデオワーク].
- 061 羽場 真, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 長谷川俊之, 丹羽康生, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 山雄健次: 胆嚢小細胞癌の3例. 第47回日本胆道学会学術集会, 2011. (宮崎) [示説].
- 062 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 小森康司, 安藤公隆, 二村雄次: 胆嚢腺扁平上皮癌の4例. 第47回日本胆道学会学術集会, 2011. (宮崎) [示説].
- 063 肱岡 範, 原和生, 清水泰博: 肝門部浸潤を伴う胆道癌の進展度診断におけるコンベックス型EUSの有用性. 第47回日本胆道学会学術集会, 2011. (宮崎) [ワークショップ].
- 064 小倉 健, 原和生, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 丹羽康生, 永塩美邦, 羽場真, 長谷川俊之, 羽場真, 長谷川俊之, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 山雄健次: 十二指腸乳頭部腫大に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)の有用性の検討. 第47回日本胆道学会学術集会, 2011. (宮崎) [口演].
- 065 永塩美邦, 肱岡範, 原和生, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 長谷川俊之, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 丹羽康生, 山雄健次: 術前に胆嚢癌の合併が疑われた胆嚢腺筋腫症の1例. 第47回日本胆道学会学術集会, 2011. (宮崎) [示説].
- 066 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 安藤公隆, 原和生, 肱岡範, 羽場真, 山雄健次, 二村雄次: 胆管内乳頭状腫瘍(IPNB)の2例. 第47回日本胆道学会学術集会, 2011. (宮崎) [示説].
- 067 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 金光幸秀, 石黒成治, 原和生, 山雄健次, 二村雄次: 膵胆管合流異常が証明できなかった胆管拡張の1例. 第47回日本胆道学会学術集会, 2011. (宮崎) [示説].
- 068 安部哲也, 波戸岡俊三, 丹羽由紀子, 篠田雅幸: 胸部食道癌に対する根治的放射線療法後のSalvage手術の成績と問題点. 第65回日本食道学会学術集会, 2011. (仙台) [示説].
- 069 植村則久, 加藤岳人, 平松和洋, 柴田佳久, 吉原基, 山田英貴, 夏目誠治: Zenker憩室を合併した胸部食道がんに対し3領域郭清術を施行した1例. 第65回日本食道学会学術集会, 2011. (仙台) [示説].
- 070 中村嘉彦, 古川和宏, 後藤秀実, 藤原道隆, 森健策, 北坂孝幸, 水野慎士, 三澤一成, 伊藤雅昭, 縄野繁: 特徴量解析の改良による3次元腹部X線CT像からのリンパ節自動検出手法の精度向上. 平成23年度電気関係学会東海支部連合大会, 2011. (津市) [口演].
- 071 チョ 成文, 中岡輝久, 小田昌宏, 北坂幸, 古川和宏, 三澤一成, 藤原道隆, 森健策: 腹部3次元CT像からの複数臓器抽出における臓器存在尤度アトラス作成のためのクラスタリングに関する検討, 平成23年度電気関係学会 東海支部, 2011. (津市) [口演].
- 072 二宮 豪, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 二村雄次, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 谷田部恭, 細田和貴: 先天性胆道拡張症に合併した多発胆管癌の1例. 第69回東海胆道研究会, 2011. (名古屋) [口演].
- 073 村上弘城, 伊藤誠二, 田中晴就, 大橋紀文, 中山吾郎, 小池聖彦, 藤原道隆, 小寺泰弘, 近藤英作, 中西速夫: 胃癌腹膜転移に対するPTXの新規感受性予測因子の網羅的探索(Comprehensive analysis of predictive markers for paclitaxel-resistance against peritoneal metastasis of gastric cancer). 第70回日本癌学会総会, 2011. (名古屋) [口演].
- 074 二宮 豪, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 植村則久, 服部憲史, 川合亮佑, 金城和寿, 大澤高陽, 今井健晴, 二村雄次: 主膵管型IPMCに対して膵全摘術を施行した1例. 第282回東海外科学会総会, 2011. (四日市) [口演].
- 075 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 波戸岡俊三, 篠田雅幸: 胸部食道扁平上皮癌根治術後再発例の検討ー至適観察方法および期間は?ー. 第19回日本消化器関連学会週間, 2011. (福岡) [示説].
- 076 田中努, 田近正洋, 丹羽康生, 近藤真也, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 小倉健, 羽場真, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 山雄健次: 直腸LSTに対する外科的治療と内科的治療の接点. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (福岡) [ポスター].
- 077 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 山雄健次: 直腸LSTに対する外科的治療と内科的治療の接点. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 2011. (福岡) [示説].
- 078 今岡 大, 肱岡範, 清水泰博: 膵Solid-pseudopapillary neoplasm (SPN) の診断と治療戦略. 第53回日本消化器病学会, 2011. (福岡) [ワークショップ].
- 079 肱岡 範, 原和生, 清水泰博: 分枝型IPMNに対するEUSを用いた長期経過観察例の成績と治療戦略. 第53回日本消化器病学会, 2011. (福岡) [パネルディスカッション].
- 080 羽場 真, 原和生, 清水泰博: 切除不能/再発胆道癌に対する予後因子の検討. 第53回日本消化器病学会, 2011. (福岡) [パネルディスカッション].
- 081 水上高秀, 兵藤伊久夫, 神山圭史, 小森康司, 長谷川泰久, 亀井 讓: 咽喉食摘後の遊離空腸再建時に腸回転異常症を指摘された一例. 第58回日本形成外科学会中部支部 東海地方会, 2011. (名古屋) [口演].
- 082 大橋紀文, 望月能成, 小島宏, 伊藤誠二, 中山吾郎, 小池聖彦, 藤原道隆, 安藤雄一, 小寺泰弘: UGT1A1遺伝子多型選別後のS-1抵抗性進行再発胃癌に対するCPT-11療法の有用性の検討. 第49回日本癌治療学会総会, 2011. (名古屋).

- 083 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治: 郭清効果およびリンパ節転移予測からみた側方郭清適応規準の妥当性. 第66回日本大腸肛門病学会, 2011. (東京) [口演].
- 084 小森康司, 金光幸秀, 石黒成治, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 金城和寿, 川合亮佑, 服部憲史, 大澤高陽, 今井健晴, 二宮豪, 加藤知行: 直腸癌において適切な肛門側切離距離(DM)とは?—病理組織学的から検討した肛門側への進展様式をおよび壁内進展距離—. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [パネルディスカッション].
- 085 今井健晴, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久: 当院の大腸手術におけるSSI予防の取り組み. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [口演].
- 086 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久: 右側結腸癌に対するno touch isolation technique. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [ビデオワーク].
- 087 服部憲史, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久: 結腸癌手術にドレーンは必要か?. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [口演].
- 088 安藤公隆, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 二村雄次, 柳澤昭夫: TS1通常型膵癌の治療成績-さらなる予後改善のために-. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [示説].
- 089 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒誠二, 植村則久, 安藤公隆, 二村雄次, 山雄健次: 分枝型IPMNにおける癌予測ノモグラムの診断能-最近の切除例および長期経過観察例における検討-. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [口演].
- 090 松井 聡, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 二村雄次: 大腸癌肝転移に対する化学療法後肝切除35例の検討(化療サイクル数とCR病変). 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [口演].
- 091 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 篠田雅幸: 二期分割手術を行い安全に切除し得たIPMNと胸部食道癌同時重複癌の1例. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [示説].
- 092 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 伊藤友一, 石黒成治, 安部哲也, 植村則久, 安藤公隆, 二村雄次: 胆管非拡張型膵胆管合流異常症例に対する外科治療成績. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [パネルディスカッション].
- 093 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 植村則久, 安藤公隆, 大澤高陽, 二村雄次: 膵頭十二指腸切除術後膵液瘻における出血防止の試み. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [パネルディスカッション].
- 094 金城和寿, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 大澤高陽, 植村則久, 石黒成治, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 脇岡範, 澤木明: GISTの肝転移症例に対する集学的治療としてのTAEの意義. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [パネルディスカッション].
- 095 大澤高陽, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 植村則久, 二村雄次: 残脾に発生した膵癌を切除し得た2例. 第73回日本臨床外科学会総会, 2011. (東京) [口演].
- 096 渡邊卓哉, 小寺泰弘, 藤原道隆, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 望月能成, 横山裕之, 谷口健次, 石山聡治: 早期胃癌に対する腹腔鏡下胃切除の術後quality of lifeの検討. 第73回日本臨床外科学会, 2011. (東京).
- 097 小寺泰弘, 石山聡治, 吉川貴己, 長 晴彦, 伊藤誠二, 望月能成, 木下敬史, 大橋紀文, 中山吾郎, 小池聖彦, 藤原道隆: 胃癌に対する化学療法の新展開 胃癌R1/R2切除後の化学療法の意義と限界. 第73回日本臨床外科学会, 2011. (東京) [口演].
- 098 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金城和寿, 植村則久, 石黒成治, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博: 外科医療におけるエコ対策 リューザブル超音波凝固切開装置使用によるコストおよび廃棄物削減. 第73回日本臨床外科学会, 2011. (東京) [口演].
- 099 小田昌宏, 北坂孝幸, 藤原道隆, 三澤一成, 森健策: 局所濃淡構造解析に基づく橢円体検出フィルタによる腹部CT像からのリンパ節検出手法. 第20回日本コンピューター外科学会誌, 2011. (東京都) [口演].
- 100 チョ 成文, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 藤原道隆, 森健策: 腹部3次元CT像からの複数臓器抽出における臓器存在尤度アトラス作成のためのAffinity Propagationを用いたクラスタリング手法の検討. 第20回日本コンピューター外科学会, 2011. (東京都) [口演].
- 101 曲 家迪, 二村孝幸, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森健策: 人体組織の物理量を考慮した仮想腹腔処理の変形精度に関する研究. 第20回日本コンピューター外科学会, 2011. (東京都) [口演].
- 102 水藤倫彰, 小田昌宏, 北坂孝幸, 飯沼元, 三澤一成, 縄野繁, 森健策: 3次元腹部CT像からの仮想胃展開像生成における噴門および幽門の位置情報を用いた切開線自動決定手法の開発. 第20回日本コンピューター外科学会, 2011. (東京) [口演].
- 103 ブイフイホアン, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 藤原道隆, 森健策: 3次元腹部CT像における腹部血管への血管名自動命名手法に関する検討 ~多症例を用いた命名性能評価~. 第20回日本コンピューター外科学会, 2011. (東京) [口演].
- 104 小森康司, 金光幸秀, 石黒成治, 加藤知行: 大腸癌StageIIの補助化学療法-再発リスクが高い病理組織学的所見を選別する-. 第66回日本大腸肛門病学会学術集会, 2011. (東京) [口演].
- 105 服部憲史, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治: 大腸癌肝・肺転移切除症例の検討-肝単独転移、肺単独転移、肝肺2臓器転移の比較. 第66回日本大腸肛門病学会学術集会, 2011. (東京) [シンポジウム].
- 106 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 加藤知行: 右側結腸癌に対する中枢側リンパ節郭清 開腹下no touch isolation tech

- niqueを中心に. 第66回日本大腸肛門病学会学術集会, 2011. (東京) [ビデオシンポジウム].
- 107 チョ 成文, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 藤原道隆, 森健策: 3次元CT像からの複数臓器抽出におけるAffinity Propagationを用いた臓器存在尤度アトラス構築に関する検討. 電子情報通信学会技術研究報告, 2011. (神戸) [ワークショップ].
- 108 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金城和寿, 植村則久, 石黒成治, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博: 腹腔鏡補助下噴門側胃切除・胃全摘術におけるEndo-Stitchを用いた食道・空腸吻合法の工夫. 第24回日本内視鏡外科学会総会, 2011. (大阪) [パネルディスカッション].
- 109 小森康司: 大腸がんの外科治療—根治性を重視した手術とは—. 平成23年厚生労働科学研究(がん臨床研究)推進事業 市民公開講座 大腸がん最新の研究動向, 2011. (名古屋) [特別講演]
- 整形外科部**
- 001 *Sugiura H, Nishida Y, Nakashima H, Yamada Y, Tsukushi S, Yamada K*: Pasteurized Autogenous Bone Grafts in Limb Salvage Surgeries to Treat Bone and Soft Tissue Sarcomas. ISOLS 2011 (INTERNATIONAL SOCIETY OF LIMB SALVAGE) 16TH GENERAL MEETING, 2011, (北京), [口演]
- 002 *Kohyama K, Hyodo I, Sugiura H, Mizukami T, Yamada K, Hamada S, Nishida Y, Kamei Y*: Soft-tissue Reconstruction of the Back and Sacral Region after Sarcoma Resection. ISOLS 2011 (INTERNATIONAL SOCIETY OF LIMB SALVAGE) 16TH GENERAL MEETING, 2011, (北京), [口演]
- 003 *Sugiura H, Nishida Y, Nakashima H, Yamada Y, Tsukushi S, Yamada K*: Local Re-recurrence and Prognosis after Wide Resection of Locally Recurrent Soft-Tissue Sarcomas. ISOLS 2011 (INTERNATIONAL SOCIETY OF LIMB SALVAGE) 16TH GENERAL MEETING, 2011, (北京), [ポスター]
- 004 *Kohyama K, Sugiura H, Taguchi O, Kozawa E, Wasa J, Yamada K, Nishida T, Kamei Y*: Tumor-suppressive Effect of Anti-interleukin-2 Monoclonal Antibody in a Murine Osteosarcoma Model. ISOLS 2011 (INTERNATIONAL SOCIETY OF LIMB SALVAGE) 16TH GENERAL MEETING, 2011, (北京), [ポスター]
- 005 *Yamada K, Sugiura H, Hamada S*: A 79-Year-Old Female, Myxoid-type malignant fibrous histiocytoma (myxofibrosarcoma) in the Right abdominis Wall. 第23回骨軟部肉腫外科研究会, 2011, (東京), [口演]
- 006 杉浦英志: 骨転移の病態と治療. 認定看護師教育課程講義, 2011, (名古屋), [口演]
- 007 杉浦英志: 骨軟部腫瘍. がん専門薬剤師研修, 2011, (名古屋), [口演]
- 008 山田健志: 上腕骨骨転移の治療戦略. 多地点合同メディカル・カンファレンス, 2011, (名古屋), [口演]
- 009 杉浦英志: 大腿骨骨転移の治療戦略. 多地点合同メディカル・カンファレンス, 2011, (名古屋), [口演]
- 010 杉浦英志: がん骨転移の診断と治療～泌尿器がん骨転移における整形外科の役割～. 第24回名古屋南部泌尿器研究会, 2011, (名古屋), [講演]
- 011 杉浦英志: 整形外科の立場からみた骨転移治療の重要性. 第10回がんチーム医療研究会, 2011, (津), [講演]
- 012 濱田俊介, 山田健志, 杉浦英志, 竹之下洋美: MP関節に発生した滑膜軟骨腫の1例. 第223回整形外科集談会東海地方会, 2011, (名古屋), [口演]
- 013 山田健志, 杉浦英志, 濱田俊介: 骨転移のプライマリーケア「肺癌」、中部地域整形外科骨転移フォーラム, 2011, (名古屋), [口演]
- 014 杉浦英志: 肺癌骨転移の予後と治療. 肺癌集学的治療セミナー, 2011, (名古屋), [口演]
- 015 杉浦英志, 濱田俊介, 中島浩敦: 大腿骨近位病的骨折に対する人工骨頭置換術後の生命予後と術後歩行能力について. 第116回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2011, (高知), [口演]
- 016 濱田俊介, 杉浦英志: 脛骨遠位端骨内ガングリオン2症例の治療経験. 第116回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2011, (高知), [ポスター]
- 017 杉浦英志: 加温処理骨法の移植形態別による利点と問題点について. 第9回多地点合同メディカル・カンファレンス, 2011, (名古屋), [口演]
- 018 濱田俊介: 臀部筋層内の血腫様病変として発見された軟部悪性腫瘍の1例. 第3回自由ヶ丘整形医会, 2011, (名古屋), [口演]
- 019 濱田俊介: 母指中手骨に発生した乳癌骨転移の1例. 第3回自由ヶ丘整形医会, 2011, (名古屋), [口演]
- 020 山田健志: 肋骨ユーイング肉腫の1例—肋骨切除による側弯症—. 第3回自由ヶ丘整形医会, 2011, (名古屋), [口演]
- 021 山田健志: 尺骨神経麻痺を合併した肘関節軟骨腫症の1例. 第3回自由ヶ丘整形医会, 2011, (名古屋), [口演]
- 022 杉浦英志: 加温処理骨と血管柄付き腓骨移植の併用で再建した大腿骨骨肉腫の1例. 第3回自由ヶ丘整形医会, 2011, (名古屋), [口演]
- 023 杉浦英志: 転移性骨腫瘍の治療. 第3回自由ヶ丘整形医会, 2011, (名古屋), [講演]
- 024 杉浦英志: がん骨転移の診断と治療～QOLの向上をめざして～. がん骨転移治療フォーラムin長野, 2011, (長野), [講演]
- 025 濱田俊介, 山田健志, 杉浦英志: 線維肉腫様変化を伴い多発転移を来した前胸部DFSPの1例. 第224回整形外科集談会東海地方会, 2011, (名古屋), [口演]
- 026 山田健志, 濱田俊介, 杉浦英志: 小円形細胞肉腫に対する化学療法における塩酸イリノテカンの使用経験. 第25回骨軟部腫瘍治療検討会, 2011, (名古屋), [口演]
- 027 杉浦英志, 山田健志, 西田佳弘, 中島浩敦, 山田芳久, 濱田俊介, 石黒直樹: 加温処理骨を用いた患肢温存術の施行状況と課題. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2011, (京都), [口演]
- 028 佐藤央, 中島浩敦, 吉田雅博, 杉浦英志, 山田芳久: 高齢

- 者軟部腫瘍の治療成績. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[口演]
- 029 中島浩敦、吉田雅博、西田佳弘、杉浦英志、山田芳久、佐藤央、石黒直樹：大腿骨近位骨巨細胞腫の治療成績. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 030 和佐潤志、西田佳弘、筑紫聡、浦川浩、杉浦英志、山田芳久、石黒直樹：膝関節周囲発生骨巨細胞腫の治療経過の検討. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 031 小澤英史、西田佳弘、筑紫聡、和佐潤志、浦川浩、杉浦英志、中島浩敦、山田芳久、新井英介、二村尚久、石黒直樹：高齢者発症高悪性度軟部肉腫における重複癌症例の検討. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 032 二村尚久、西田佳弘、中島浩敦、杉浦英志、山田芳久、筑紫聡、和佐潤志、浦川浩、新井英介、小澤英史、石黒直樹：体幹部発生骨肉腫の治療成績. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 033 神山圭史、兵藤伊久夫、水上高秀、亀井譲、山田健志、濱田俊介、杉浦英志：腰背部悪性骨・軟部腫瘍切除後の組織欠損に対する再建法の検討. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 034 山田健志、濱田俊介、杉浦英志：地域がん専門病院での診療の中で整形外科に求められる役割. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 035 山田健志、濱田俊介、杉浦英志：整形外科が担当する横紋筋肉腫に対する化学療法. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 036 浦川浩、西田佳弘、杉浦英志、中島浩敦、山田芳久、筑紫聡、和佐潤志、今井礼子、鎌田正、石黒直樹：索腫を除く骨・軟部肉腫に対する重粒子線治療成績の検討. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 037 濱田俊介、山田健志、杉浦英志、谷田部恭：線維肉腫様変化を伴った隆起性皮膚線維肉腫の3症例. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 038 筑紫聡、西田佳弘、杉浦英志、中島浩敦、山田芳久、亀井譲、鳥山和宏、八木俊路朗、兵藤伊久夫、浦川浩、新井英介、石黒直樹：骨・軟部腫瘍における血管柄付き遊離組織移植術の成績. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2011、(京都)、[ポスター]
- 039 杉浦英志：症例報告－Allocation Number：01681. MK-8669#030第II相試験中間研究会、2011、(京都)、[口演]
- 040 杉浦英志：がんリハビリテーションの動向と実際. がん専門分野研修、2011、(名古屋)、[講義]
- 041 杉浦英志：骨軟部腫瘍の治療～化学療法を含めて～. 東海がんプロフェッショナル養成プラン平成23年度第1回合同セミナー、2011、(名古屋)、[口演]
- 042 榊原由美子、小島瞳、杉浦英志、兵藤伊久夫、神山圭史、水上高秀：がん専門病院における褥創発生の現状. 第13回日本褥創学会学術集会、2011、(福岡)、[口演]
- 043 小島瞳、榊原由美子、杉浦英志、兵藤伊久夫、神山圭史、水上高秀：乳がんの仙骨骨転移部に褥創を生じた1例. 第1

- 3回日本褥創学会学術集会、2011、(福岡)、[口演]
- 044 杉浦英志：軟部腫瘍の治療とリハビリテーションについて. 第9回東三河運動器リハビリテーション研究会、2011、(豊橋)、[講演]
- 045 濱田俊介、杉浦英志、山田健志：前立腺癌骨転移におけるレントゲン学的評価の検討. 第49回日本癌治療学会学術集会、2011、(名古屋)、[口演]
- 046 山田健志、濱田俊介、杉浦英志：治療抵抗性再発肉腫症例に対するCDDP+CPT-11併用化学療法. 第49回日本癌治療学会学術集会、2011、(名古屋)、[口演]
- 047 濱田俊介、山田健志、杉浦英志、菅野雅人、谷田部恭：仙尾骨部軟部腫瘍の1例. 第72回東海骨軟部腫瘍研究会、2011、(名古屋)、[口演]
- 048 濱田俊介、山田健志、杉浦英志：坐骨部発生骨巨細胞腫の1例. 第226回整形外科集談会東海地方会、2011、(名古屋)、[口演]
- 049 奥田洋史、藤井恵悟、千葉晃泰：頸椎硬膜外悪性リンパ腫の1例. 第117回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、2011、(山口)、[ポスター]
- 050 杉浦英志：肺がん骨転移の治療について. 第14回癌と骨病変研究会、2011、(東京)、[口演]

泌尿器科部

- 001 林 宣男、脇田利明、小倉友二：2010年愛知県がんセンター中央病院泌尿器科入院手術統計. 第49回三重泌尿器科医会、2011、(津) [口演]
- 002 脇田利明、小倉友二、林 宣男、立花弘之、古谷和久、古平 毅：愛知県がんセンター中央病院における前立腺癌に対するヨウ素125密封小線源永久挿入療法83例の治療成績. 第99回日本泌尿器科学会総会、2011、(名古屋) [示説]
- 003 小倉友二、脇田利明、林 宣男：限局性前立腺癌に対する前立腺全摘除術の検討-Salvage Radiotherapyを含めた生化学的非再発率の検討. 第99回日本泌尿器科学会総会、2011、(名古屋) [口演]
- 004 曾我 倫久人、榊井 寛、長谷川嘉弘、神田英輝、山田泰司、木瀬英明、有馬公信、杉村芳樹：LH-RH agonist monotherapy先行、anti-androgen追加投与 (Delayed-CAB) 療法の長期臨床結果. 第99回日本泌尿器科学会総会、2011、(名古屋) [示説]
- 005 曾我 倫久人、杉村芳樹：抗癌剤投与の工夫と新規薬剤の可能性. ワークショップ「再燃性前立腺癌」. 第99回日本泌尿器科学会総会、2011、(名古屋) [口演]
- 006 林 宣男、小倉友二、脇田利明：局所前立腺癌に対する総照射量74グレイの放射線治療の成績. 第50回三重泌尿器科医会、2011、(津) [口演]
- 007 曾我 倫久人、榊井 寛、西川昇平、堀 靖英、長谷川嘉弘、神田英輝、山田泰司、有馬公信、杉村芳樹. 進行性腎細胞がんに対するGemcitabine / Capecitabine 療法の効果. 第49回日本癌治療学会学術集会、2011、(名古屋) [示説]
- 008 曾我 倫久人、榊井 寛、西川昇平、堀 靖英、長谷川嘉弘、神田英輝、山田泰司、有馬公信、杉村芳樹：外科的治

療が施行された小径腎腫瘍における腫瘍径別良性腫瘍の頻度。第42回腎癌研究会、2011、(名古屋) [口演]

- 009 曾我倫久人、有馬公伸、杉村芳樹、山門亨一郎、高木治行、内田克典、白石泰三：腎ラジオ波焼灼術施行後もしくは塞栓術後の腎腫瘍針生検組織における病理診断の評価。第25回日本泌尿器内視鏡学会総会、2011、(京都) [示説]
- 010 曾我 倫久人、小倉友二、林 宣男、西川昇平、山田泰司、有馬公信、杉村芳樹。ミニマム創内視鏡下手術におけるドナー腎摘除の経験：single port 手術とtwo port 手術の比較も含めて。第4回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会、2011、(東京) [示説]

婦人科部

- 001 廣澤友也、河合要介、吉田憲生、中西透：広汎子宮全摘術を行った子宮頸癌における再発部位の検討。第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2011、(札幌)、[ポスター]
- 002 東真規子、梶山広明、梅津朋和、水野美香、柴田清住、那波明宏、木下吉登、榊原克巳、松澤克治、水野公雄、山室理、中西透、竹田明宏、河井通泰、吉川史隆：1期卵巣明細胞腺癌の予後は不良か？ 大規模組織型別解析結果より。第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2011、(札幌)、[ポスター]
- 003 河合要介、廣澤友也、吉田憲生、中西透：再発卵巣癌に対するリポソーム化ドキシソルピシンの投与量の検討 (40mg/m²と50mg/m²の比較検討)。第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2011、(札幌)、[口演]
- 004 細野覚代、松尾恵太郎、伊藤秀美、広瀬かおる、中西透、田島和雄、田中英夫：子宮体癌の発癌・進展機構 日本人女性におけるDNA修復遺伝子多型と子宮体がんリスクとの関連。第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2011、(札幌)、[ポスター]
- 005 境康太郎、水野美香、梶山広明、河井通泰、松澤克治、中西透、水野公雄、山室理、榊原克巳、木下吉登、小口秀紀、吉川史隆：東海卵巣腫瘍研究会 成熟嚢胞奇形腫の悪性転化50症例の臨床的検討。第63回日本産科婦人科学会学術講演会、2011、(大阪)、[ポスター]
- 006 中西透、青木大輔、渡部洋、齋藤俊章：白金製剤感受性再発卵巣癌に対するリポソーム化ドキシソルピシン (PLD) とカルボプラチン (CBDCA) 併用療法に関する第II相臨床試験。第63回日本産科婦人科学会学術講演会、2011、(大阪)、[ポスター]
- 007 河合要介、中西透、吉田憲生：子宮頸部扁平上皮癌FIGO I Ib期の治療方針の検討。第63回日本産科婦人科学会学術講演会、2011、(大阪)、[ポスター]
- 008 梶山広明、水野美香、吉川史隆、水野公雄、山室理、木下吉登、松澤克治、榊原克巳、河井通泰、小口秀紀、中西透、神谷典男：難治性組織型を有する再発卵巣癌の長期治療成績は向上しているのか？ 大規模ヒストリカル解析の結果から。第63回日本産科婦人科学会学術講演会、2011、(大阪)、[口演]
- 009 東真規子、梶山広明、水野美香、吉川史隆、水野公雄、山室理、木下吉登、松澤克治、榊原克巳、河井通泰、小口秀

紀、中西透：術中腫瘍被膜破綻は1期卵巣癌においてどの程度の予後不良因子となるか？ 大規模組織型別解析における全生存率/無病生存率の結果から。第63回日本産科婦人科学会学術講演会、2011、(大阪)、[口演]

- 010 廣澤友也、河合要介、吉田憲生、中西透：子宮頸癌術後はいかにフォローアップすべきか？ 第129回東海産科婦人科学会、2011、(四日市)、[口演]
- 011 沼崎令子、宮城悦子、中西透、片岡史夫、猿木信裕、井畑穰、伊藤則雄、吉田憲生、村松孝彦、今泉明、山本浩史、高須万里子、山門實、青木大輔、平原史樹：血中アミノ酸プロファイルを指標とした婦人科癌スクリーニング法。第49回日本癌治療学会学術集会、2011、(名古屋)、[ポスター]
- 012 中西透、河合要介、廣澤友也、吉田憲生：当院のセカンドオピニオン外来の現状。第130回東海産科婦人科学会、2012、(四日市)、[口演]

麻酔科部

- 001 細田蓮子：がんの痛みを理解するために～疼痛管理～。新臨床腫瘍学セミナー、2011、(名古屋)、[講演]
- 002 細田蓮子：在宅医療におけるがん疼痛対策 日本ペインクリニック学会東海地方会、2011、(名古屋)、[司会]
- 003 細田蓮子：がん性疼痛 (突出痛を中心として) 第18回東海緩和医療研究会、2011、(名古屋)、[講演]
- 004 細田蓮子：疼痛事例検討、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア基本研修会、2011、(岡崎)、[講義]
- 005 細田蓮子：疼痛事例検討、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア基本研修会、2011、(豊橋)、[講義]
- 006 野村基雄、細田蓮子、立松三千子他：フェンタニル持静注から経皮吸収剤へ移行中の血中濃度測定 (6時間移行法) 第16回日本緩和医療学会 2011 (東京)
- 007 野村基雄、細田蓮子、立松三千子他：がん性難治性神経障害性に対するケタミンの有効性と効果予測因子の検討、第16回日本緩和医療学会 2011 (東京)
- 008 藤田恵、細田蓮子、木村智政他：難治性疼痛を有する患者の退院支援へのチームアプローチの1事例、第16回日本緩和医療学会 2011 (東京)
- 009 立松三千子、沢田一美、細田蓮子他：愛知県がんセンター中央病院における麻薬使用状況の調査～フェンタニルパッチ使用量が減少した理由についての検討～、第5回日本緩和医療学会 2011 (横浜)
- 010 細田蓮子、藤田恵他：緩和ケアにおける「難渋、失敗例」、名古屋緩和ケアカンファレンス 第6回症例検討会 2011 (安城)
- 011 細田蓮子：倦怠感について、がんセンター中央病院緩和ケア勉強会、2011 (名古屋)
- 012 細田蓮子：がん疼痛治療と死が近いときの対応、第9回名古屋がん疼痛緩和フォーラム 2011 (名古屋) [司会]
- 013 仲田純也、細田蓮子他：喉頭展開における視野を改善する補助手技の提案。第31回日本臨床麻酔学会 2011 (沖縄) [発表]
- 014 細田蓮子：疼痛事例検討、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア基本研修会、2011、(四日市)、[講義]

- 015 細田蓮子：疼痛事例検討、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア基本研修会, 2012, (名古屋), [講義]
- 016 仲田純也：下顎挙上と頸部圧迫併用による挿管補助手技の検討、第39回日本集中治療医学会 2012 (千葉)

放射線診断・I V R部

- 001 *Shitara K, Ura T, Takahari D, Yokota T, Yuki S, Yoshida M, Utsunomiya S, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Tajika M, Yamazaki K, Komatsu Y, Muro K* : Sensitivity to previous irinotecan treatment does not predict the efficacy of combination chemotherapy with cetuximab plus irinotecan for wild-type KRAS metastatic colorectal cancer . 第9回日本臨床腫瘍学会, 2011, (横浜), [ワークショップ]
- 002 *Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Ura T, Muro K* : Hepatic arterial infusion for patients with huge liver metastases from colorectal cancer refractory to standard systemic chemotherapy; post approval of cetuximab. 第9回日本臨床腫瘍学会, 2011, (横浜), [口演]
- 003 *Okita N, Kato K, Tokunaga S, Esaki T, Baba E, Takiuchi H, Mizushima N, Kato T, Inaba Y, Kanemitsu Y, Yasui H, Fuse N, Hamaguchi T, Yamada Y, Shimada Y* : Is there a relationship between tumor size before treatment and bevacizumab efficacy? . 第9回日本臨床腫瘍学会, 2011, (横浜), [ポスター]
- 004 *Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Kanamoto T, Inoue D* : Percutaneous gastrostomy in patients with pharyngoesophageal obstruction. CIRSE2011, (Germany), [Poster]
- 005 *Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Inoue D* : Percutaneous metallic stent placement for malignant afferent loop obstruction. SGI2011, (Korea), [Oral]
- 006 *Kurinobu T, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Inaba Y* : Interventional procedures via the cecum of the jejunum limb post pancreaticoduodenectomy. SGI2011, (Korea), [Poster]
- 007 *Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Kinosada Y, Era S, Shimizu H, Inaba Y* : Evaluation of future remnant liver function by the contrast enhanced ratio in hepatocellular imaging. RSNA 2011, (USA), [Oral]
- 008 *Yamakado K, Inaba Y* : Hepatic arterial embolization for unresectable hepatocellular carcinomas; do technical factors affect patients' survival?. RANA2011, (USA), [Poster]
- 009 山浦秀和, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 金本高明, 北角淳, 寺倉梨津子, 栗延孝至, 佐藤健司：腹部・骨盤領域の術後膿瘍に対する経皮的ドレナージ. 第70回日本医学放射線学会, 2011, (横浜), [教育展示]
- 010 稲葉吉隆：I V R 胸部. 第70回日本医学放射線学会, 2011, (横浜), [座長]
- 011 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 金本高明, 北角淳, 寺倉梨津子, 栗延孝至, 佐藤健司, 稲葉吉隆, 室圭：全身化学

- 療法不応例に対する肝動注化学療法：Cetuximab導入後の意義. 第70回日本医学放射線学会, 2011, (横浜), [口演]
- 012 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 金本高明, 北角淳, 寺倉梨津子, 栗延孝至, 佐藤健司：腫瘍出血に対する血管塞栓術に関する検討. 第70回日本医学放射線学会, 2011, (横浜), [口演]
- 013 稲葉吉隆：肝内胆管癌に対する塩酸ゲムシダピン (GEM) 肝動注化学療法の第 I / II 相臨床試験. 第40回日本 I V R 学会, 2011, (青森), [シンポジウム]
- 014 佐藤洋造, 渡辺裕一, 曾根美雪, 女屋博昭, 坂本憲昭, 大須賀慶悟, 高橋正秀, 荒井保明：肝細胞癌の治療効果判定基準の妥当性および信頼性に関する研究. 第40回日本 I V R 学会, 2011, (青森), [シンポジウム]
- 015 稲葉吉隆：大腸ステントによる緩和 I V R. 第40回日本 I V R 学会, 2011, (青森), [シンポジウム]
- 016 山浦秀和, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 金本高明, 北角淳, 寺倉梨津子, 栗延孝至, 佐藤健司：胆管ステント挿入患者における抗がん剤治療の肝胆道合併症への影響評価. 第40回日本 I V R 学会, 2011, (青森), [口演]
- 017 稲葉吉隆：ドレナージ (2). 第40回日本 I V R 学会, 2011, (青森), [座長]
- 018 佐藤洋造, 鈴木梨津子, 山浦秀和, 加藤弥菜, 金本高明, 北角淳, 栗延孝至, 佐藤健司, 稲葉吉隆：胃癌術後難治性腹水に対して T I P S を施行した 1 例. 第29回日本 Metallic Stents & Grafts 研究会, 2011, (青森), [口演]
- 019 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司：経皮的胃瘻造設術の検討. 日本 I V R 学会第31回中部地方会, 2011, (富山), [口演]
- 020 佐藤健司, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 稲葉吉隆：T A C E 無効 H C C に対するミリプラ chemolipiodolization の初期成績. 日本 I V R 学会第31回中部地方会, 2011, (富山), [口演]
- 021 栗延孝至, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 佐藤健司, 稲葉吉隆：P T P E 前後における E O B ・ プロモビストの取込み能の検討. 日本医学放射線学会第150回中部地方会, 2011, (富山), [口演]
- 022 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 稲葉吉隆：進行肝細胞癌患者における高齢者に対する Sorafenib 療法の検討. 第4回日本肝がん分子標的治療研究会, 2011, (東京), [口演]
- 023 稲葉吉隆：海外でのリザーバー肝動注化学療法の現状. 第36回リザーバー研究会, 2011, (御殿場), [シンポジウム]
- 024 佐藤洋造, 宇良敬, 山浦秀和, 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 高張大亮, 設楽紘平, 室圭：標準的化学療法抵抗性の肝転移を伴った切除不能進行再発大腸癌症例を対象としたオキサリプラチン (L - O H P) 肝動注療法の安全性と有用性を評価する第 I / II 相試験 (O H A ! study). 第36回リザーバー研究会, 2011, (御殿場), [口演]
- 025 田中利洋, 阪口浩, 西尾福英之, 穴井洋, 末吉智, 山本清誠, 稲葉吉隆, 吉川公彦：切除不能痔瘻に対する 5-FU 動注 + ゲムシタピン全身化学療法併用療法第 I / II 相臨床試験. 第36回リザーバー研究会, 2011, (御殿場), [口演]
- 026 丹羽沙津木, 福嶋敬子, 山口裕美子, 坂田正治, 都築優美, 笹川良子, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造：当院における CV ポート留置術の現状の把握～病棟・検査室看護師それ

- それぞれの立場から～. 第36回リザーバー研究会, 2011, (御殿場), [口演]
- 027 稲葉吉隆: 共催セミナー1 (肝動注化学療法におけるアイエーコールの位置づけ). 第36回リザーバー研究会, 2011, (御殿場), [座長]
- 028 稲葉吉隆: ポスター (肝切除・動注). 第9回日本臨床腫瘍学会, 2011, (横浜), [座長]
- 029 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造: 腫瘍出血に対する血管塞栓術による止血術についての検討. 第9回日本臨床腫瘍学会, 2011, (横浜), [ポスター]
- 030 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司: 腫瘍出血に対する止血目的の血管塞栓術に関する検討. 第70回東海総合画像医学研究会, 2011, (名古屋), [口演]
- 031 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶: バルーン閉塞下肝動脈化学塞栓療法の初期経験. 日本IVR学会第32回中部・第31回関西合同地方会 (第52回関西IVR研究会), 2012, (大阪), [口演]
- 032 井上大作, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶, 稲葉吉隆: 上腸間膜動脈経由の肝動注リザーバーカテーテル留置. 日本IVR学会第32回中部・第31回関西合同地方会 (第52回関西IVR研究会), 2012, (大阪), [口演]
- 033 佐藤健司, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜: 全身化学療法に伴う血小板減少に対するPSEの安全性と有効性. 日本IVR学会第32回中部・第31回関西合同地方会 (第52回関西IVR研究会), 2012, (大阪), [口演]
- 034 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶, 稲葉吉隆: 悪性輸入脚閉塞に対する経皮的ステント留置. 日本IVR学会第32回中部・第31回関西合同地方会 (第52回関西IVR研究会), 2012, (大阪), [口演]
- 035 栗延孝至, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 佐藤健司, 加藤久晶, 稲葉吉隆: 臍頭十二指腸切除術後の空腸盲端部腹壁固定部を介したIVRアプローチ. 日本IVR学会第32回中部・第31回関西合同地方会 (第52回関西IVR研究会), 2012, (大阪), [口演]
- 036 障子美奈, 三澤靖子, 福嶋敬子, 今泉文, 奥田孝光, 加藤千恵, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 清水淳一, 伊藤志門: IVRにおける看護師間の連携構築目指して; CTガイド下肺生検オリエンテーション開始. 日本IVR学会第32回中部・第31回関西合同地方会 (第52回関西IVR研究会), 2012, (大阪), [口演]
- 037 加藤弥菜: CVポート. 日本IVR学会第32回中部・第31回関西合同地方会 (第52回関西IVR研究会), 2012, (大阪), [座長]
- 038 山浦秀和: 診断・腹部. 日本医学放射線学会 第151回中部地方会, 2012, (名古屋), [座長]
- 039 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶: SPTの再発と考えられていた1例一再検討結果報告一. 日本医学放射線学会 第151回中部地方会, 2012, (名古屋), [口演]
- 040 稲葉吉隆: 日本臨床腫瘍学会 第19回教育セミナー, 2012, (横浜), [司会]
- 041 稲葉吉隆: 画像診断と治療効果判定基準. 日本臨床腫瘍学会 第19回教育セミナー, 2012, (横浜), [口演]
- 放射線治療部
- 001 Goto Y, Ito J, Tomita N, Tachibana T, Furutani K, Kodaira T: The clinical outcome and patterns of recurrence of limited field post-operative radiotherapy for squamous-cell carcinoma of head and neck. 53th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2011. (Miami)
- 002 Ishikura S, Shinoda M, Nakamura K, Ito Y, Nishimura T, Kodaira T, Onozawa M, Nakamura R, Ando N: Patterns of Failure after Definitive Chemoradiotherapy for Unresectable Carcinoma of the Thoracic Esophagus: Secondary Analyses of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 0303 Trial. 53th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2011. (Miami)
- 003 Nomura M, Kodaira T, Mizota A, Kondoh C, Shitara K, Yokota T, Takahari D, Ura T, Hatooka S, Muro K.: Evaluation of the seventh TNM classification system in esophageal cancer patients receiving chemoradiotherapy, 2011, Gastrointestinal Cancers Symposium (San Francisco)
- 004 Toita T, Ohno Y, Kaneyasu T, Kato T, Uno K, Hatano Y, Norihisa T, Kasamatsu T, Kodaira T, Yoshimura R, Furutani K, Ishikura S, Murakami N, Murofushi K, Noda E, Kasuya G, Ariga T, Hiraoka M, JCOG Radiation Therapy Study Group: CLINICAL TARGET VOLUME (CTV) FOR PRIMARY DISEASE IN EXTERNAL RADIOTHERAPY FOR INTACT UTERINE CERVICAL CANCER. 17th international meeting of the European Society of Gynaecologic Oncology, 2011. (Milan)
- 005 Kodaira T: Helical Tomo Therapy Experience from Aichi Cancer Center Hospital. Tomotherapy Asia-Pacific Users Meeting, 2011, (Singapore)
- 006 古平 毅, 藤井 博文: 座長 シンポジウム2 頭頸部癌化学放射線療法の位置づけと今後. 第35回日本頭頸部腫瘍学会, (2011) (名古屋)
- 007 神山圭史, 兵藤伊久夫, 水上高秀, 長谷川泰久, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川仁, 鈴木淳志, 宮崎拓也, 原田生功磨, 岡本啓希, 古平 毅, 不破 信和, 亀井讓: 放射線併用動注化学療法後遊離皮弁再建の検討. 第35回日本頭頸部腫瘍学会, (2011) (名古屋)
- 008 鈴木淳志, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川仁, 宮崎拓也, 原田生功磨, 岡本啓希, 古平 毅, 立花 弘之, 長谷川泰久: 中・下咽頭癌に対する放射線併用weeklyCDDPについての検討. 第35回日本頭頸部腫瘍学会, (2011) (名古屋) (口演)
- 009 古谷 和久, 立花 弘之, 古平 毅, 不破 信和: 副鼻腔癌に対する化学放射線療法-動注化学療法の併用は必要か-. 第35回日本頭頸部腫瘍学会, (2011) (名古屋) (口演)

- 010 古平 毅、古谷 和久、立花 弘之、不破 信和：上咽頭癌の放射線治療成績の検討 -3次元治療とIMRTの対比-。第35回日本頭頸部腫瘍学会、(2011) (名古屋) (口演)
- 011 石倉 聡、篠田雅幸、中村健一、伊藤芳紀、西村哲夫、古平 毅、小野澤正勝、光森通英、中村隆二、安藤暢敏：切除不能胸部食道癌に対する化学放射線療法の再発/増悪形式：JCOG0303の追加解析結果。第64回日本食道学会、(2011) (仙台) (口演)
- 012 野村 基雄、古平 毅、波戸岡俊三、設楽紘平、溝田綾子、近藤千紘、横田知哉、高張大亮、宇良敬、室 圭：食道癌化学放射線治療患者におけるAJCC-TNM第6版vs.第7版の検討。第64回日本食道学会、(2011) (仙台) (口演)
- 013 野村 基雄、設楽紘平、古平 毅、溝田綾子、近藤千紘、横田知哉、高張大亮、宇良敬、室 圭：食道癌化学放射線治療患者におけるリンパ節サイズの検討。第64回日本食道学会、(2011) (仙台) (口演)
- 014 古平 毅 平田希美子 大島 幸彦 伊藤 淳二 富田 夏夫 立花 弘之 古谷 和久、不破 信和：上咽頭癌の放射線治療成績の検討 -3次元治療とIMRTの対比-。日本医学放射線学会第148回中部地方会、(2011) (富山) (口演)
- 015 古谷 和久 平田希美子 大島 幸彦 伊藤 淳二 富田 夏夫 立花 弘之 古平 毅：局所進行腺癌に対する化学放射線治療。日本医学放射線学会第148回中部地方会、(2011) (富山) (口演)
- 016 立花 弘之 平田希美子 大島 幸彦 伊藤 淳二 富田 夏夫 古谷 和久 古平 毅：当院における前立腺癌に対する外照射併用小線源治療。日本医学放射線学会第148回中部地方会、(2011) (富山) (口演)
- 017 富田夏夫 古平毅 古谷和久 立花弘之 伊藤淳二 大島幸彦 平田希美子：頸部Castleman病に対しトモセラピーで治療した1例－続報。日本医学放射線学会第148回中部地方会、(2011) (富山) (口演)
- 018 伊藤淳二 平田希美子 大島 幸彦 富田 夏夫 立花 弘之 古谷 和久 古平 毅：頸部食道癌の放射線治療成績の検討 IMRTと三次元照射の対比。日本医学放射線学会第148回中部地方会、(2011) (富山) (口演)
- 019 大島 幸彦 平田希美子 伊藤 淳二 富田 夏夫 立花 弘之 古谷 和久 古平 毅：頸部リンパ腫に対するIMRTの有用性の検討。日本医学放射線学会第148回中部地方会、(2011) (富山) (口演)
- 020 古平 毅：子宮頸癌治療ガイドライン解説 照射野外および未照射の骨盤外再発に対する治療。第50回日本婦人科腫瘍学会、(2011) (札幌) (口演)
- 021 戸板 孝文、大野達也、兼安祐子、加藤友康、宇野 隆、幡野和男、則久佳毅、笠松高弘、古平 毅、吉村亮一、石倉 聡：子宮頸癌外部照射における原発巣臨床標的体積 (CTV primary) のコンセンサスガイドライン。第50回日本婦人科腫瘍学会、(2011) (札幌) (口演)
- 022 近藤千紘、野村基雄、高張大亮、溝田綾子、設楽紘平、横田知哉、宇良 敬、富田夏夫、古谷和久、立花弘之、古平 毅、室 圭：ワーク・ショップ1 緩和的放射線治療の実際 (適応と評価) 終末期 (進行再発) 胃癌出血例における緩和的放射線照射の有効性の検討。第16回日本緩和医療学会学術大会、(2011) (札幌) (口演)
- 023 古平 毅：前立腺癌の放射線治療の進歩。平成23年度がんセンター公開講座、(2011) (名古屋) (口演)
- 024 古平 毅：シンポジウム5 放射線治療 その治療成績と課題 頭頸部癌。第49回癌治療学会、(2011) (名古屋) (口演)
- 025 小野澤祐輔、吉野孝之、藤井正人、古平 毅、太田雅貴、Anne Gross、佃 守、田原 信：局所進行頭頸部扁平上皮癌に対するセツキシマブ+放射線療法：国内第II相試験。第49回癌治療学会、(2011) (名古屋) (口演)
- 026 野村 基雄、設楽紘平、古平 毅、溝田綾子、近藤千紘、横田知哉、高張大亮、宇良敬、室 圭：食道癌化学放射線治療患者におけるリンパ節サイズの検討。第49回癌治療学会、(2011) (名古屋) (口演)
- 027 古平 毅：放射線治療は今こまでできる。癌看護分野スキルアップセミナー講義、(2011) (名古屋) (口演)
- 028 古平 毅：頭頸部癌に対する化学放射線療法の標準化と実践－分子標的薬導入をふまえて－。がん臨床推進事業シンポジウム、(2011) (名古屋) (口演)
- 029 古平 毅：パネルディスカッション 頭頸部がんに対する集学的治療の中での化学療法の標準化－わが国の課題－自由討論者。がん臨床推進事業シンポジウム、(2011) (名古屋) (口演)
- 030 古平 毅：シンポジウム 高精度放射線治療の今後の課題 頭頸部癌IMRTに関する現状と課題。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)
- 031 古平 毅：口演発表18 頭頸部 中咽頭・口腔座長 ランチョンセミナー 700例の臨床経験からみたTomotherapyの臨床的有用性と展望。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)
- 032 平田希美子、大島 幸彦、伊藤 淳二、富田 夏夫、立花 弘之、古谷 和久、古平 毅：当院における下咽頭癌に対するIMRTの初期臨床経験。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)
- 033 伊藤淳二、平田希美子、大島 幸彦、富田 夏夫、立花 弘之、古谷 和久、古平 毅：頸部食道癌の放射線治療成績の検討 IMRTと三次元照射の対比。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)
- 034 大島 幸彦、古平 毅、古谷 和久、立花 弘之、富田 夏夫、伊藤 淳二、平田希美子：頸部リンパ腫に対するIMRTの有用性の検討。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)
- 035 清水秀年、藤井啓輔、後藤容子、赤羽恵一、久保田隆士、古谷和久、吉本学、古平毅：TomoTherapy Planning Station V4.03における表面線量計算値の評価。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)
- 036 岩田 学、清水秀年、久保田隆士、富田 夏夫、河合稔、中島地康、大崎光、中山雅詞、吉本学、古平 毅：Mega-VoltageCTを用いた患者固定精度の検証。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)
- 037 後藤容子、伊藤 淳二、富田 夏夫、立花 弘之、古谷 和久、古平 毅：頭頸部癌術後照射の治療成績と再発形式の検討。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)
- 038 野村 基雄、古平 毅、古谷 和久、立花 弘之、富田 夏夫：食道癌化学放射線治療患者におけるリンパ節サイズの検討。日本放射線腫瘍学会第24回学術大会、(2011) (神戸) (口演)

- 039 石倉 聡, 篠田雅幸, 中村健一, 伊藤芳紀, 西村哲夫, 古平 毅, 小野澤正勝, 中村隆二, 安藤暢敏: 切除不能胸部食道癌に対する化学放射線療法の増悪/再発形式: JCOG0303の追加解析結果. 日本放射線腫瘍学会第24回学術大会, (2011) (神戸) (口演)
- 040 伊藤芳紀、中島貴子、石山博條、田中正博、橋本孝之、古平毅、仲澤聖則、馬屋原博、加藤健: 臨床病期II/III食道癌に対する50.4 Gy、5-FU+CDDP併用化学放射線療法の臨床第II相試験. 日本放射線腫瘍学会第24回学術大会, (2011) (神戸) (口演)
- 041 古平 毅: 頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療. 群馬大学医学部がんプロ放射線腫瘍専門医コース・重粒子線治療推進研修コース合同セミナー, (2011) (前橋) (口演)
- 042 古平 毅: 頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療. 金沢医科大学大学院研究セミナー・がん診療連携拠点病院研修会合同講演, (2011) (金沢) (口演)
- 043 古平 毅: 頭頸部癌. Best of ASTRO 2011, 第25回ミッドウインターセミナー, (2012) (福岡) (口演)
- 044 古平 毅: 講演2 頭頸部癌のHelical TomoTherapyの臨床経験 更なるQOL改善の挑戦. Tomotherapyセミナー2012, (2012) (東京) (口演)
- 045 古平 毅: 最新放射線治療の現状と展望. 尾張東部病診連携セミナー2012, (2012) (瀬戸) (口演)
- 046 近藤千紘, 設楽紘平, 高張大亮, 宇良 敬, 富田夏夫, 古谷和久, 立花弘之, 古平 毅, 室 圭: 切除不能胃癌出血例における緩和的放射線照射の有効性の検討. 第84回日本胃癌学会総会, (2012) (大阪) (口演)
- 047 富田 夏夫, 古平 毅, 立花 弘之, 伊藤 淳二, 大島 幸彦, 平田希美子: 限局性前立腺癌に対する直腸打抜き原体照射野長期治療成績. 日本医学放射線学会第149回中部地方会, (2012) (長久手) (口演)
- 048 平田希美子, 古平 毅, 大島 幸彦, 伊藤 淳二, 富田 夏夫, 立花 弘之, 古谷 和久: 当院における下咽頭癌に対するIMRTの初期臨床経験. 日本医学放射線学会第149回中部地方会, (2012) (長久手) (口演)
- 049 大島 幸彦, 古平 毅, 立花 弘之, 富田 夏夫, 伊藤 淳二, 平田希美子: 当院における肛門管癌の治療成績の検討. 日本医学放射線学会第149回中部地方会, (2012) (長久手) (口演)
- 050 大島 幸彦 平田希美子 伊藤 淳二 富田 夏夫 立花 弘之 古平 毅: 頭頸部リンパ腫に対するIMRTの有用性の検討. 第30回頭頸部腫瘍研究会, (2012) (名古屋) (口演)

緩和ケア部

- 001 小森康永: 連携・多様性・語り、第10回近畿心料内科診療所研究会, 2011. (大阪市) [講演]
- 002 小森康永: 時間精神医学のすすめ: Dr. メルゲス、時間を追いかけた男、発達障害国際 シンポジウム女木島2011、(高松) [講演]
- 003 小森康永: ディグニティセラピーのすすめ、第23回愛知サマーセミナー, 2011 (名古屋) [講演]
- 004 小森康永: 安城更生病院緩和ケア研修会精神腫瘍学担当、

2011 (安城) [講演]

- 005 小森康永: シネマデュケーション、愛知県精神腫瘍学研修会、2011 (名古屋) [講演]
- 006 小森康永: 名古屋記念病院緩和ケア研修会精神腫瘍学担当、2011 (名古屋) [講演]
- 007 小森康永: 愛知県がんセンター中央病院緩和ケア研修会精神腫瘍学担当、2011 (名古屋) [講演]
- 008 Yasunaga Komori, *Dignity Therapy*: Workshop at Korean Family Therapy Association, 2011. (Seoul) [発表]
- 009 Yasunaga Komori: Narrative Psycho-educational Sharing, Japanese style, 10th Congress of International Family Nursing Association (第10回国際家族看護学会) 2011. (京都) [発表]
- 010 小森康永: ディグニティセラピーのすすめ、日本サイコロジ学会シンポジウム、2012. (大宮)、[発表]
- 011 小森康永: 適応障害: 診断と対策、第49回日本癌治療学会学術集会、シンポジウム4「がん患者の精神症状とそのケア」、2011. (名古屋) [発表]
- 012 小森康永: ナラティブ・サイコロジ、日本ブリーフサイコロジ学会 秋田大会ワークショップ、2011. (秋田) [発表]
- 013 小森康永: がん患者の社会復帰、第8回外来化学療法講演会、名古屋医療センター、2012 (名古屋) [講演]
- 014 小森康永: ディグニティセラピーについて、緩和ケア勉強会、2012 (前橋) [講演]

看護部

[学会発表]

- 001 青山寿昭 八重樫裕: がん専門病院の看護外来でのかかり一2症例を通して一、日本嚥下障害臨床研究会、2011、(広島) [口演]
- 002 青山寿昭: 食道癌術前患者への息こらえ嚥下指導の有用性、第5・6「日本摂食・嚥下障害看護研究会」2012、(大阪) [口演]
- 003 安形真由美: 空腸人工肛門 (Jejunostomy) 造設をした患者のストーマ装具の検討. 第29回日本ストーマ・排泄知ハビリテーション学会総会, 2012. (福島) [示説]
- 004 足立明美: がん看護に特化した新人看護師指導について～離職防止に向けての取り組み～第26回日本がん看護学術集会、2012、(島根) [示説]
- 005 岩井美世子: 化学放射線療法を受ける頭頸部がん患者のQOLと有害事象の関連、第26回日本がん看護学術集会、2012、(島根) [発表]
- 006 宇佐美秀子: 大腸内視鏡検査の前処置における腸管切除が腸管洗浄に及ぼす影響の検討. 日本消化器内視鏡学会, 2011, (熊本) [口演]
- 007 尾崎千鶴: 効果的な臨地実習方法の検討～学生による他者評価からの分析～、第28回愛知県看護管理研究会、2011、(名古屋) [口演]
- 008 川嶋羽純: 空腸人工肛門 (Jejunostomy) 造設をした患者に対する術後水分出納管理の検討. 第29回日本ストーマ・排泄知ハビリテーション学会総会, 2012. (福島) [示説]

- 009 川瀬静・井上さよ子：認知機能障害のある患者のがん薬物療法における倫理的意思決定を目指した医療チームの取り組み、日本生命倫理学会第23回年次大会、2011、(東京) [口演]
- 010 久保坂美保：院内留学が看護師に及ぼす影響、第15回日本看護管理学会、2011、(東京) [示説]
- 011 久保知：放射線治療を受ける女性患者の性交に関する看護の取り組み、第26回日本がん看護学会、2012、(島根) [示説]
- 012 黒河瑞江：がん専門病院における臨地実習指導方法の検討～指導者と学生のアンケート結果から～、第26回日本がん看護学会、2012、(島根) [示説]
- 013 小島瞳：乳がんの仙骨骨転移部に褥創を生じた1例、日本褥創学会、2011、(福岡市) [口演]
- 014 小原真紀子：外来化学療法における副作用電話相談のシステム構築と看護の課題、第26回日本がん看護学会、2012、(島根) [示説]
- 015 榊原由美子：がん専門病院における褥瘡発生の現状、第13回日本褥瘡学会、2011、(福岡) [口演]
- 016 佐野雄三：愛知県がんセンター中央病院内視鏡室における安全への取り組み、第6回 医療の質・安全学会、2011、(東京) [ポスター] ベストプラクティス優秀賞受賞
- 017 柴田亜弥子：入院生活を送りながらも家族の時間を持つことができたがん終末期患者と家族の事例検討、日本家族学会第18回学術集会、2011、(京都) [示説]
- 018 柴田亜弥子 高木礼子 新貝夫弥子：再発乳がん患者のチームカンファレンスへの問題分析、第19回日本乳癌学会学術総会、2011、(仙台) [口演]
- 019 柴田亜弥子：親子をつなぐサポートブックを使用したスピリチュアルペインへの介入、第26回日本がん看護学会、2012、(島根) [示説]
- 020 障子美奈：IVRにおける看護師間の連携構築を目指して～CTガイド下肺生検オリエンテーション開始～、第32回中部・第31回関西合同IVR地方会、2012、(大阪) [口演]
- 021 新貝夫弥子：バクリタキセルの末梢神経障害に対するトラマドールとプレガバリンの効果、第19回日本乳癌学会学術総会、2011、(仙台) [示説]
- 022 新貝夫弥子：Aがん診療拠点病院における「がん看護実践に強い看護師」育成のための研修評価、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [示説]
- 023 瀬古志桜：リマンマ相談充実に向けての検討、第19回日本乳癌学会学術総会、2011、(仙台) [示説]
- 024 高木礼子：自壊創の出血・滲出液の抑制を目的としたモース氏ペーストの症例、第8回日本乳癌学会中部地方会、2011、(山梨) [示説]
- 025 高木仁美：がん診療連携拠点病院のスペシャリストが連携して行うジェネラリスト育成研修 その1～ジェネラリスト育成研修～、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [示説]
- 026 高畑知帆子：悪心・嘔吐の症状マネジメント難渋例に対する制吐薬の検討～血液疾患レジメンに対するアプレピタント、パロノセトロンとの投与～、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [示説]
- 027 田中裕子：フィッシュ哲学を用いた職場風土向上への取り組み、ウイック愛知 第53回日本手術看護学会東海地区学会、2011、(名古屋) [口演]
- 028 鶴田美佐：臨地実習指導の現状と課題～学生による他者評価と指導者の自己評価から～、平成23年度愛知県看護研究学会、2011、(名古屋) [口演]
- 029 戸崎加奈江：がん診療連携拠点病院のスペシャリストが連携して行うジェネラリスト育成研修がん化学療法看護～ジェネラリストへの教育効果～、第26回日本がん看護学会、2012、(島根) [示説]
- 030 永田智子：エンド・オブライフケア～その人らしさを大切にできるケア、日本死の臨床研究会 年次大会2011、(東京) [示説]
- 031 永田智子：ジェネラリストナースと緩和ケア認定看護師との協働による緩和ケア～3年目の看護師の看護援助により考察する～、第26回日本がん看護学会、2012、(島根) [口演]
- 032 永田智子：終末期の呼吸困難に対する薬物療法の選択～患者・家族の意思決定を支える援助～、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [示説]
- 033 永田智子：エンド・オブ・ライフケア～その人らしさを大切にできるケア～、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [示説]
- 034 永田智子：ジェネラリストナースと緩和ケア認定看護師との協働による緩和ケア～卒業3年目の看護師により考察する～、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [口演]
- 035 西尾里美：乳がん患者のLH-RHアゴニスト皮下注射におけるトラブルとBMI・出産歴の関連性・乳がん患者におけるドセタキセル投与中の過敏症反応とその対応、第19回日本乳癌学会学術総会、2011、(仙台) [示説]
- 036 新田都子：がん診療連携拠点病院のスペシャリストが連携して行うジェネラリスト育成研修[緩和]、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [示説]
- 037 丹羽沙津木：当院におけるCVポート留置術の現状の把握、第36回リザーバー研究会、2011、(静岡) [口演]
- 038 福嶋敬子：当院におけるCVポート留置術の現状の把握～病棟・検査室看護師それぞれの立場から～第16回愛知クリニカルパス研究会、2011、(名古屋) [口演]
- 039 福嶋敬子：中心静脈ポート留置術パスの電子化を見据えた改訂への取り組み、第12回日本クリニカルパス学会学術集会、2011、(東京) [口演]
- 040 福間勉：咽頭喉頭食道全摘周手術期クリニカルパス作成の報告、第12回日本クリニカルパス学会学術集会、2011、(東京) [示説]
- 041 深水ひとみ：大腸内視鏡検査業務改善を試みて、東海内視鏡技師懇話会、2012、(名古屋) [口演]
- 042 藤田恵：難治性疼痛を有する患者の退院支援へのチームアプローチの1事例、第16回日本緩和医療学会学術大会、2011、(札幌市) [示説]
- 043 松山曜子：家族機能の変化に焦点をあてた終末期患者を支える家族の意志決定への援助、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [示説]
- 044 向井末年子：がん診療連携拠点病院のスペシャリストが連携して行うジェネラリスト育成研修 その2～スペシャリス

- ト (CNS・CN) への効果へ、第26回日本がん看護学術集会、2012、(島根) [示説]
- 045 向井未年子：再発肝がん患者のがんとともに生きることに対する態度とその構造、第26回日本がん看護学術集会、2012、(島根) [共同発表]
- 046 向井未年子：がん診療連携拠点病院のスペシャリストが連携して行うジェネラリスト研修 (その2)、第26回日本がん看護学会学術集会、2012、(島根) [共同発表]
- 047 村井律子：新人他施設間交流会フォローアップ研修の報告、名古屋国際会議場第25回日本手術看護学会年次大会、2011、(名古屋) [口演]
- 048 吉村優子，山田美佐子，段浩美：がん終末期にうつを発病した患者への関わりから学んだこと、平成23年度愛知県看護研究学会、2011、(名古屋) [口演]

〔講演講師、学会座長、シンポジストなど〕

- 001 青山寿昭：食事場面での観察・介助の実際、摂食・嚥下セミナー (名古屋) [講師]
- 002 青山寿昭：第2回県民公開シンポジウム、2012、(名古屋) [講演 講師]
- 003 青山寿昭：摂食・嚥下障害における看護の専門性、成人看護学総合実習 (臨床講義)、愛知県立看護大学、2011、(名古屋) [講師]
- 004 岩井美世子：倫理、スモールマニア 嚥下学習会、2011、(名古屋) [講師]
- 005 岩井美世子：放射線治療を受ける患者の口腔ケア、スモールマニア 嚥下学習会、2011、(名古屋) [講師]
- 006 宇佐美秀子：内視鏡検査の看護、愛知県立看護大学、[講師]
- 007 川瀬洋子：スピリチュアルケア、愛知県看護協会、2011、(名古屋)、[講義 講師]
- 008 川瀬洋子：看護診断とスピリチュアルケア—全人的なアセスメント・介入能力を高めるために—、第17回日本診断学会学術大会、2011、(兵庫) [シンポジウム シンポジスト]
- 009 久保知：がん放射線療法看護の実際、沖縄県看護協会 がん看護研修Ⅱ 2011、(那覇) [講師]
- 010 久保知：静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程 (がん放射線療法看護) 入試委員、2011~2013
- 011 黒河瑞江：演習「教育計画立案にあたって工夫したこと」平成22年度 新人看護職員研修 教育担当者育成コース①②、2011、(愛知県看護協会) [講義 講師]
- 012 小島瞳：在宅看護に必要な皮膚・排泄ケア分野の知識、平成23年度訪問看護職員交流会、(名古屋) [講義 講師]
- 013 小原真紀子：化学療法急性反応、H23年度新臨床腫瘍学セミナー、2011、(名古屋) [講義]
- 014 小原真紀子：皮膚障害の看護の実際、第10回東海外来治療フォーラム、2011、(名古屋) [講演]
- 015 小原真紀子：消化器がん化学療法におけるチーム医療、第7四国がんセンター臨床研究センターセミナー、2011、(愛媛県) [講演]
- 016 小原真紀子：ティーエスワン?内服中の患者の看護、第1回医看護業連携研修会、2012、(名古屋) [講演]
- 017 小原真紀子：平成23年度がん化学療法分野 事例発表会、愛知県立大学看護実践センター、2011
- 018 小原真紀子：平成23年度がん化学療法分野 臨地実習Ⅱの実習連絡会、愛知県立大学看護実践センター、2011
- 019 榊原由美子：ストーマ造設後に発症した皮下膿瘍の処置～感染対策も含めて～第130回感染防止研究会、2011、(名古屋) [講演]
- 020 榊原由美子：ストーマケア実習 第23回東海ストーマリハビリテーション講習会、2011、(名古屋) [講師]
- 021 榊原由美子：がん患者に対するスキンケア、2011 Autumn Seminar アドバンスドセミナー、2011、(名古屋) [講演]
- 022 榊原由美子：社団法人愛知県看護協会まちの保健室委員会、[委員]
- 023 榊原由美子：第29回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会口演 (心理・セクシュアリティ)、2012、(福島) [座長]
- 024 榊原由美子：第8回日本褥創学会中部地方学術集会 口演 (褥創対策チーム・予防)、2011、(名古屋) [座長]
- 025 笹川良子：第36回リザーバー研究会 (静岡) 2011、7月8・9日 看護セッション [座長]
- 026 笹川良子：第1回日本IVR学会認定看護師会 2011、12、3 (大阪) [企画代表]
- 027 笹川良子：リザーバー研究会 平成22年度から世話人継続
- 028 佐々木照美：在宅看護に必要な皮膚排泄ケア分野の知識、平成23年度訪問看護職員交流会、(名古屋) [演習 講師]
- 029 瀬古志桜：第2回浜松がん看護フォーラム21、2011、(浜松) [ファシリテーター]
- 030 瀬古志桜：乳腺外来看護業務における問題点、日本乳癌学会学術総会、2011、(山梨) [セミナー座長]
- 031 高木仁美：養成所・病院、看護技術ジョイント研修、愛知県看護研修センター、[講師]
- 032 高木仁美：愛知県専任教員養成講習会、「看護管理」愛知県看護研修センター、[講師]
- 033 高木仁美：認定看護管理者サードレベル教育課程、愛知県看護研修会館、[講師]
- 034 高木仁美：認定看護師教育課程「がん化学療法看護」「看護管理」、愛知県立大学 [講師]
- 035 高木仁美：愛知県立大学研究倫理審査委員会看護系審査部会、[委員]
- 036 高木仁美：財団法人 愛知県がん研究振興会、[評議員]
- 037 高木仁美：社団法人愛知県看護協会、[理事]
- 038 高木仁美：社団法人愛知県看護協会社会経済福祉委員会、[委員長]
- 039 日置みさき：訪問看護方法論 平成23年度訪問看護職員養成講習会、愛知県看護協会、[講師]
- 040 新田都子：看護セミナー「各種オピオイドの薬理について」、2011、(名古屋) [講師]
- 041 新田都子：がん性疼痛看護認定看護師の役割と専門性、成人看護学総合実習 (臨床講義)、愛知県立看護大学、2011、(名古屋) [講師]
- 042 戸崎加奈江：学術雑誌「外来癌化学療法」(2011年10月号掲載)、2011、(福岡) [座談会]
- 043 戸崎加奈江：腎癌 分子標的薬マネジメントセミナー、2011、(名古屋) [講演会司会]
- 044 戸崎加奈江：「外来化学療法NOW—看護師による血管確保の取り組み—」. 多地点メディカルカンファレンス、

- 2011, (名古屋), [発表者]
- 045 戸崎加奈江：「婦人科がん治療における外来化学療法のコツ～看護師の立場から～」, 第51回日本婦人科腫瘍学会学術集会ランチョンセミナー, 2011, (久留米) [講演]
- 046 西尾充代：外来化学療法における I R I S 療法の治療管理, 2011, (名古屋) [講師]
- 047 向井未年子：CNSと一緒に考える「がん看護にかかわる看護師のメンタルヘルス」：第5回三重がん看護フォーラム, 2012, (三重) [講演 講師]
- 048 向井未年子：コンサルテーション論. 愛知県立大学看護実践センター がん化学療法看護認定看護師養成コース, 2011, (名古屋) [講演 講師]
- 049 向井未年子：がん看護. 愛知医科大学看護学部 特別講義, 2011, (名古屋) [講演 講師]
- 050 向井未年子：看護調整機能論. 名古屋市立大学大学院, 2011, (名古屋) [講演 講師]
- 051 向井未年子：フィジカルアセスメントの実際. 社会保険看護実践センター がん性疼痛看護認定看護師養成コース, 2011, (船橋) [講演 講師]
- 052 向井未年子：コンサルテーション論. 愛知県立大学大学院, 2012, (名古屋) [講演 講師]
- 053 向井未年子：専門看護師の活動の実際. 愛知医科大学看護実践センター 専門看護師資格取得支援講座, 2012, (名古屋) [講演 講師]
- 054 新貝夫弥子：東海乳癌化学療法研究会, 2011, [講演]
- 055 新貝夫弥子：認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分野 指導, 愛知県立大学看護実践センター, 2011, [講師]
- 056 新貝夫弥子：臨床における倫理的問題, 平成23年度看護職員研修 看護倫理研修, 2011, (愛知県) [講義]
- 057 永田智子：がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会, 2012, (名古屋) [ファシリテーター]
- 058 村井律子：電気外科手術機器の安全使用について (名古屋) 2011, [講師]
- 059 村井律子・山口真由美：手術ケア・集中ケア, 名古屋医専看護保健学科4年[講師]
- 060 村井律子：愛知県立大学成人急性期看護学実習 (臨床講義) 「手術室における看護」. がんセンター中央病院, 2010, (名古屋), [講演 講師]
- 061 村井律子：「手術室における看護」. 名古屋医専, 2011, (名古屋) [講演 講師]
- 062 村井律子：第4回Covidienナースセミナー「電気外科手術機器の安全使用について」, (名古屋) [講演]
- 063 木戸彩恵子：医療心理学, 東海医療技術専門学校, 2011, [非常勤講師]
- 064 西尾充代：抗がん剤の被ばく対策と副作用対策, がん看護基礎 化学療法①②, (愛知研看護研修会館) 2011, (名古屋) [講演 講師]
- 065 西尾充代：特別講演, 第5回青森造血幹細胞移植研究会, 2011, (青森市) [講演 講師]
- 066 千種智之：回復リハビリテーション病棟における標準予防策, 2011, (名古屋) [講師]
- 067 千種智之：院内感染対策研修, 2011, (名古屋) [講師]
- 068 千種智之：第5回移植後感染フォーラム ワークショップ座長, 2011, (名古屋) [座長]
- 069 千種智之：済生会病院 院内感染対策 (2回), 2011, (名古屋) [講義 講師]
- 070 千種智之：城山病院 院内感染対策, 2011, (名古屋) [講義 講師]
- 071 千種智之：愛知県カムバック研修 (医療安全・感染対策) 看護研修センター, 2011 [講義 講師]
- 072 千種智之：愛知県新規採用者感染対策, 2011, 看護研修センター, [講義 講師]
- 073 千種智之：感染対策, 愛知県立看護大学, 2011, 臨床講義 講師 (4回) [講義 講師]
- 074 高木礼子：スキンケアの事例検討, 第8回日本乳がん中部地方会, 2011, (山梨) [パネリスト]
- 075 高畑知帆子：認定看護師教育課程説明会, 2011 (愛知県立大学看護実践センター), 2011, [講師]
- 076 竹内麻純：看護管理. 愛知県総合看護専門学校 2011, (名古屋) [講義 講師]
- 077 竹内麻純：看護の経営的視点. 県立病院研修検討会 2011, (名古屋) [講義 講師]
- 078 段浩美：平成23年度新人看護職員研修①②, 2011, (京都) (福知山市) [講師]
- 079 段浩美：がん看護基礎研修, 2012, (小牧市) [講師]
- 080 段浩美：認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分野 がんの医療サービスと社会支援, 2011, (名古屋) [講師]
- 081 段浩美：看護局院内研修：アサーション, 2011, (名古屋) [講師]
- 082 段浩美：がん治療の総論及び周術期の治療とケアについて, 2011, (名古屋) [講師]
- 083 宮谷美智子：第8回がん医療従事者の育成に関する研究会, 2011, (名古屋) [講演 講師]
- 084 宮谷美智子：平成23年度がん化学療法分野 事例発表会, 愛知県立大学看護実践センター, 2011, [講師]
- 085 宮谷美智子：北海道がん化学療法看護研究会 教育講演, 2011, (北海道) [講演 講師]
- 086 村井律子：日本手術看護学会東海地区中堅者セミナー, 2012, (岐阜市) [講師]
- 087 八重樫裕：摂食・嚥下障害看護研修「摂食・嚥下の解剖と基礎」, 2011, (名古屋) [講師]
- 088 山口真由美：クリティカル看護における専門性, 2011, (名古屋) [講師]
- 089 山口真由美：集中ケア領域における看護の役割, 2011, (名古屋医専) [講師]
- 090 山本香織：西三河がん化学療法看護勉強会, 2012, (豊田市) [講演 講師]
- 091 山崎祥子：認定看護師「がん性疼痛看護分野」フォローアップセミナー事例検討会, 2011, (名古屋) [講師]
- 092 山崎祥子：認定看護師教育課程「がん化学療法看護」, 2011, (名古屋) [講師]
- 093 山田美佐子：平成23年度[県委託研修 新人看護職員研修 教育担当者研修①②], 2011, (愛知県看護協会) [講義 講師]
- 094 山田佳代子：社団法人愛知県看護協会名古屋東地区支部委員会, 2011, [委員]

薬 剤 部

- 001 立松三千子, 坂井謙介, 下山理史, 秋山理恵, 佐藤由美, 長谷川泰久: がん治療における医歯薬連携～これからの薬剤師業務の広がり…口腔ケア・緩和ケアへの新しい取り組み～. 第5回日本緩和医療薬学会年会, 2011, (千葉), [シンポジウム(企画・座長)]
- 002 松崎雅英, 前田章光, 長谷川彩子, 立松三千子, 水谷旭良, 加藤恵一: トラマール®カプセルのNSAIDS等の鎮痛薬との併用に関する検討. 第5回日本緩和医療薬学会年会, 2011, (千葉), [示説]
- 003 立松三千子, 澤田一美, 水野靖也, 松崎雅英, 前田美恵子, 前田章光, 則竹香奈, 加藤恵一, 新田都子, 小池孝治, 細田蓮子: 愛知県がんセンター中央病院における麻薬使用状況の調査～フェンタニルパッチ使用量が減少した理由についての検討～. 第5回日本緩和医療薬学会年会, 2011, (千葉), [示説]
- 004 前田章光, 松崎雅英, 宇良敬, 長瀬智哉, 高橋新次, 立松三千子, 水野靖也, 加藤恵一: シスプラチン投与患者の有害事象発生に対する予測因子の解析～血清アルブミン値と有害事象発生の関連性について～. 第21回日本医療薬学会年会, 2011, (神戸), [口演]
- 005 松崎雅英, 前田章光, 長瀬智哉, 則竹香奈, 立松三千子, 水谷旭良, 加藤恵一: キャンサーボードによりがん薬物療法の副作用対策の方向性が得られた事例～ベバシズマブの高血圧治療に用いる降圧薬について～. 第21回日本医療薬学会年会, 2011, (神戸), [示説]
- 006 花岡千穂, 前田章光, 松崎雅英, 伊藤基博, 鈴木英子, 水野靖也, 立松三千子, 加藤恵一: 入院化学療法における有害事象の頻度と発症時期. 第21回日本医療薬学会年会, 2011, (神戸), [示説]
- 007 長瀬智哉, 前田章光, 松崎雅英, 中川千玲, 小原真紀子, 戸崎加奈江, 水谷旭良, 加藤恵一: 当院における抗がん剤暴露に関する意識調査. 第21回日本医療薬学会年会, 2011, (神戸), [示説]
- 008 筒井淳也, 立松三千子, 松崎雅英, 岩田広治, 室圭: ラパチニブ投与患者における副作用「下痢」の発現状況と止瀉薬の使用状況に関する後ろ向き調査. 第21回日本医療薬学会年会, 2011, (神戸), [示説]
- 009 長谷川彩子, 前田章光, 松崎雅英, 長瀬智哉, 水谷旭良, 加藤恵一: 薬剤師と看護師の抗がん剤暴露に対する意識調査～閉鎖系システムの導入に関して～. 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2011, 2011, (名古屋), [口演]
- 010 松崎雅英, 前田章光, 伊藤基博, 立松三千子, 水谷旭良, 加藤恵一: 抗がん剤の調製時間の予測に係る検討. 臨床腫瘍薬学研究会学術大会2012, 2012, (東京), [示説]
- 011 澤田一美, 前田美恵子, 水野靖也, 立松三千子, 加藤恵一: 市販のレジメンチェックシステムを利用したミキシング支援システムの導入例. 臨床腫瘍薬学研究会学術大会2012, 2012, (東京), [示説]
- 012 野村基雄, 井之上浩一, 松下祥子, 高張大亮, 近藤千紘, 横田知哉, 宇良敬, 立松三千子, 細田蓮子, 室圭, 岡尚男: フェンタニル持続静注から経皮吸収剤へ移行中の血中濃度測定(6時間移行法). 第16回日本緩和医療学会学術大会, 2011, (北海道), [口演]
- 013 野村基雄, 立松三千子, 細田蓮子, 溝田綾子, 近藤千紘, 設楽紘平, 横田知哉, 高張大亮, 宇良敬, 室圭: がん性難治性神経障害性疼痛に対するケタミンの有効性と効果予測因子の検討. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 2011, (北海道), [示説]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

所長室

- 001 **Tajima K** : Global cancer control direction with special reference to Asia-Pacific area. 5th Regional Conference of APOCP, Seoul, Korea, 2011.11.02.
- 002 **Tajima K, Trapido E** : Translating epidemiological evidence into policy & practice. 4th International Cancer Control Congress, Seoul, Korea, 2011.11.05.
- 003 **Tajima K** : Ethnoepidemiology of Asian cancer-epidemic pattern and its prevention strategy. 21st Asia Pacific Cancer Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, 2011.11.12.
- 004 **田島和雄** : 民族疫学研究のがん予防の実践. 第22回日本疫学会学術総会, 東京, 2012.01.28. (シンポジウム)
- 005 **田島和雄** : 加齢に挑戦するがん予防戦略. 第11回日本抗老化医学学会総会, 京都, 2011.05.27. (シンポジウム).

疫学・予防部

- 001 **Oze I, Matsuo K, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Tajima K, Tanaka H** : The association between coffee and green tea intake and upper aerodigestive tract cancer in Japanese population. 102nd Annual Meeting of the American Association for Cancer Research, 2011, (Orlando), [ポスター]
- 002 **Hosono S, Matsuo K, Ito H, Hirose K, Watanabe M, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H** : Polymorphisms in DNA repair genes are associated with endometrial cancer risk among Japanese women. 102nd Annual Meeting of the American Association for Cancer Research, 2011, (Orlando), [ポスター]
- 003 **Matsuo K, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Sugawara Y, Sasazuki S, Nagata C, Tamakoshi A, Wakai K, Inoue M, Tsugane S** : Association between Body-Mass-Index (BMI) and the Colorectal Cancer Risk in Japan : Pooled-Analysis of Population-Based Cohort Studies in Japan. The 5th Regional Conference of APOCP, 2011, (Seoul), [ポスター]
- 004 **Oze I, Matsuo K, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Tajima K, Tanaka H** : Facial Flushing and ALDH2 Glu504Lys Polymorphism after Alcohol Consumption for the Risk of Upper Aerodigestive Tract Cancer Risk in a Japanese Population. The 5th Regional Conference of APOCP, 2011, (Seoul), [ポスター]
- 005 **Kawakita D, Sato F, Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Hanai N, Hatooka S, Hasegawa Y, Shinoda M, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K** : Inverse Association between Yoghurt Intake and Upper Aerodigestive Tract Cancer Risk in a Japanese Population. The 5th Regional Conference of APOCP, 2011, (Seoul), [ポスター]

- 006 **Ito H, Sueta A, Hosono S, Iwata H, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K** : A genetic Risk Predictor for Breast Cancer Using Low-Penetrance Polymorphisms in a Japanese Population. The 5th Regional Conference of APOCP, 2011, (Seoul), [ポスター]
- 007 **Sueta A, Ito H, Iwata H, Hosono S, Watanabe M, Iwase H, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K** : A genetic predictor for breast cancer risk in a Japanese population. the 2011 CTRC-AACR San Antonio Breast Cancer Symposium, 2011, (San Antonio), [ポスター]
- 008 **Kawakita D, Matsuo K, Hosono S, Ito H, Hasegawa Y, Tanaka H** : Association between dietary folate intake and clinical outcome in head and neck squamous cell carcinoma. 第3回国際口腔腫瘍学会, 2011, (Singapore), [ポスター]
- 009 **Tanaka H, Hosono S** : Estimation of incidence rate of hepatitis b virus horizontal infection in the Japanese population in 2005. IEA World Congress of Epidemiology, 2011, (Edinburgh), [ポスター]
- 010 **川北大介, 松尾恵太郎, 長谷川泰久, 村上信五, 田中英夫** : 頭頸部癌における生活習慣の予後への影響. 日本頭頸部癌学会, 2011, (名古屋), [口演]
- 011 **伊藤秀美, 松尾恵太郎, 田中英夫** : 肺がんに関する分子疫学研究. がん予防大会2011京都, 2011, (京都), [ワークショップ]
- 012 **中尾心人, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 細野覚代, 渡邊美貴, 田島和雄, 浜島信之, 田中英夫** : ABO遺伝子型とH.pylori感染および慢性胃炎罹患リスクの検討, がん予防大会2011京都, 2011, (京都), [口演]
- 013 **尾瀬功, 松尾恵太郎, 若井建志, 永田知里, 溝上哲也, 田中恵太郎, 辻一郎, 笹月静, 井上真奈美, 津金昌一郎** : 生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究班. 食道がんリスクとアルコール摂取: わが国における分析疫学研究のレビューとメタ・アナリシス. がん予防大会2011京都, 2011, (京都), [ポスター]
- 014 **渡邊美貴, 松尾恵太郎, 細野覚代, 伊藤秀美, 加藤久登, 田中英夫** : 検査結果の通知による研究参加率・血液提供率への影響についての検討. がん予防大会2011京都, 2011, (京都), [ポスター]
- 015 **細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬功, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫** : 日本人女性における大腸がんリスクと生殖因子・女性ホルモン関連因子との関連について. がん予防大会2011京都, 2011, (京都), [ポスター]
- 016 **川北大介, 松尾恵太郎, 尾瀬功, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 長谷川泰久, 田島和雄, 田中英夫** : 喫煙の口腔扁平上皮癌患者における予後への影響, がん予防大会2011京都, 2011, (京都), [ポスター]
- 017 **細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 広瀬かおる, 中西透, 田島和雄, 田中英夫** : 日本人女性におけるDNA修復遺伝子多型と子宮がんリスクとの関連. 第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2011, (札幌), [ワークショップ]
- 018 **松尾恵太郎, 光富徹哉, 谷田部恭, 田島和雄** : がんの分子生

- 物学的特性を考えた疫学研究,第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 019 伊藤秀美, 末田愛子, 岩田広治, 細野覚代, 渡邊美貴, 岩瀬弘敬, 田中英夫, 松尾恵太郎: 日本人における乳癌の遺伝的予測因子. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 020 千原大, 松尾恵太郎, 中尾心人, 細野覚代, 伊藤秀美, 田島和雄, 田中英夫: ABO血液型と悪性リンパ腫罹患リスク. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 021 川北大介, 松尾恵太郎, 佐藤文仁, 澤村昌嗣, 尾瀬功, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 谷田部恭, 長谷川泰久, 篠田雅幸, 田島和雄, 田中英夫: 日本人集団におけるヨーグルト摂取の上気道消化器がんリスクに対する予防効果. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 022 細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 尾瀬功, 広瀬かおる, 田島和雄, 田中英夫: 日本人における葉酸摂取と大腸がんリスクとの関連. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 023 中尾心人, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 細野覚代, 渡邊美貴, 上田龍三, 田島和雄, 浜島信之, 田中英夫: ABO遺伝子型と胃がん, 慢性胃炎, およびH. pylori感染リスクの検討. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 024 尾瀬功, 松尾恵太郎, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫: 飲酒習慣とアルコール脱水素酵素(A DH)遺伝子多型: J-MI C C横断研究. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 025 田中英夫, 伊藤秀美: Collaborative study on population-based cancer survivals in East Asia. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [International Session]
- 千原 大, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 松田智大, 柴田亜希子, 祖父江友孝: 本邦の造血器腫瘍における記述疫学. 第22回日本疫学会学術総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 026 Tania Islam, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 細野覚代, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫: Folate, alcohol intake and risk of breast cancer: a case-control study. 第22回日本疫学会学術総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 027 川北大介, 松尾恵太郎, 尾瀬 功, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 田島和雄, 長谷川泰久, 田中英夫: 頭頸部がん患者における飲酒とALDH2遺伝子多型の予後への影響. 第22回日本疫学会学術総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 028 中尾心人, 松尾恵太郎, 細野覚代, 渡邊美貴, 伊藤秀美, 田島和雄, 田中英夫: 日本人集団におけるIGF-1遺伝子多型と肥満の膵臓がんとの関連, 第22回日本疫学会学術総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 029 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫: 飲酒行動に及ぼすアルコール脱水素酵素遺伝子多型の影響. 第22回日本疫学会学術総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 030 末田愛子, 伊藤秀美, 細野覚代, 渡邊美貴, 岩田広治, 田島和雄, 田中英夫, 松尾恵太郎: 乳癌リスクに対する全ゲノム関連解析同定遺伝子多型群に基づく遺伝的リスク要因と環境交互作用の検討. 第22回日本疫学会学術総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 031 細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 広瀬かおる, 渡邊美貴, 中

- 西 透, 田島和雄, 田中英夫: 日本人女性におけるインスリン様成長因子1 (IGF-1)遺伝子多型と子宮体がんリスクの関連. 第22回日本疫学会学術総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 032 田中英夫, 谷口千枝, 伊藤秀美, 尾瀬功, 坂英雄, 橋和延, 所昭宏, 末久弘, 加藤有加, 野崎裕広, 近藤千昌, 鈴木幸男, 川名由紀子: 保険を使った禁煙治療によって生み出される禁煙成功者に要した医療コスト. 第21回日本禁煙推進医師歯科医連盟総会・学術総会, 2012, (東京), [ポスター]

腫瘍病理学部

- 001 Nakanishi H, Ito S, Tsuchida D, Kodera Y.: Molecular aspect of peritoneal metastasis; A new diagnostic and therapeutic strategy in gastric cancer. 9th International Gastric Cancer Congress, 2011, (Seoul), [招請講演]
- 002 Kondo E.: Nanobiotechnology using novel CPPs for anti-tumor medicine. BioJapan 2011, 2011, (横浜), [口演]
- 003 Fujii M, Toyoda T, Nakanishi H, Yatabe Y, Sato A, Murakami H, Kondo Y, Kondo E, Hida T, Tsujimura T, Osada H, Sekido Y.: TGF-beta synergizes with YAP to stimulate malignant mesothelioma growth by inducing CTGF expression. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 004 Inoue T, Otani T, Tsuji-Takayama K, Takeuchi M, Kondo E, Nakamura S.: In vitro and in vivo analysis of anti-tumor activity of multifunctional T cell line, HOZ OT. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 005 Kondo E.: Development of highly efficient cell-penetrating peptides for anti-tumor medicine. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [セミナー]
- 006 Kondo E, Saito K, Nakanishi H.: Development of tumor lineage-homing peptides for molecular delivery systems in anti-cancer medicine. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 007 Maseki S, Ichiji K, Hasegawa Y, Ogawa T, Kondo E, Nakanishi H.: Involvement of EMT in the gefitinib-resistance of head and neck SCC cell lines. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 008 Murakami H, Ito S, Tanaka H, Ohashi N, Nakayama G, Koike M, Fujiwara M, Kodera Y, Kondo E, Nakanishi H.: Comprehensive analysis of predictive markers for paclitaxel-resistance against peritoneal metastasis of gastric cancer. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 009 Nakanishi H, Ogasawara M, Tsuchida D, Misawa K, Ito Y, Kondo E.: Molecular optical imaging of peritoneal metastasis of gastric cancer using near-infrared (NIR)-labeled antibody. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 010 Saito K, Kondo E, Nakanishi H.: Identification of key effector in gefitinib response NSCLC. 第70回日本癌学

- 会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 011 **Tanaka H, Oshima Y, Kondo E, Nakanishi H.**: Potential role of P95HER2 and MUC4 in the trastuzumab-resistance of HER2 overexpressing gastric cancer cell lines. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 012 **中田晋, 近藤英作**: LGR5は膠芽腫幹細胞および神経幹細胞の生存に寄与している. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 013 **秋田薫, 池原謙, 井上瑞江, 中西速夫, 成松久, 中田博**: 子宮内膜症および卵巣癌患者におけるCA125コアタンパク質上のシリアルTn抗原レベルの臨床的評価. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 014 **富沢健二, 須田健一, 中西速夫, 谷田部恭, 光富徹哉**: EGF Rvariant III変異を有する扁平上皮癌の解析. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 015 **近藤英作**: 細胞膜透過性ペプチドの応用による制がん技術展開へのアプローチ. 第27回日本DDS学会学術集会, 2011, (東京), [ワークショップ]
- 016 **近藤英作**: 固形がん細胞増殖抑制の標的分子候補としてのCAR(CXADR)の解析. 第15回日本がん分子標的治療学会, 2011, (東京), [ワークショップ]
- 017 **近藤英作, 小屋恵理子, 斎藤憲, 中西速夫**: ゲフィティニブ耐性肺がんの機能性ペプチド導入による新しい増殖制御法の検討. 第100回日本病理学会総会, 2011, (横浜), [口演]
- 018 **近藤英作, 小屋恵理子, 斎藤憲, 中西速夫**: 口腔がんにおけるアデノウイルスレセプターCARが果たす増殖制御の役割. 第100回日本病理学会総会, 2011, (横浜), [口演]
- 019 **斎藤憲, 中西速夫, 近藤英作**: 悪性腫瘍における新規増殖制御因子OGFOD-1の機能の解析. 第100回日本病理学会総会, 2011, (横浜), [口演]
- 020 **中西速夫, 土田大輔, 小笠原麻衣, 近藤英作**: 蛍光標識抗体を用いた胃がん腹膜転移の光イメージング. 第100回日本病理学会総会, 2011, (横浜), [口演]
- 021 **欄真一郎, 中西速夫, 伊地知圭, 長谷川泰久, 近藤英作**: 頭頸部扁平上皮癌細胞株におけるEMT(上皮間葉移行)とEGFR標的薬抵抗性の検討. 第100回日本病理学会総会, 2011, (横浜), [口演]
- 022 **土田大輔, 小笠原麻衣, 西田敬子, 金田典雄, 中西速夫**: 腹膜転移に対する蛍光イメージングとMRIによるマルチモダリティイメージングの検討. 第20回日本がん転移学会, 2011, (浜松), [口演]
- 023 **中西速夫, 田中晴成, 伊藤誠二, 近藤英作**: HER2陽性胃がん細胞のTrastuzumab耐性株におけるp95HER2およびMUC4の発現. 第84回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [ワークショップ]
- pression. FASEB SUMMER RESEARCH CONFERENCES: The TGF- β Superfamily; Signaling in Development and Disease, 2011, (Italia), [ポスター]
- 002 **Kondo Y.**: Plastic but Stable Epigenetic Regulation in Human Cancers. Center for Cancer Epigenetics-Weekly Meeting 2011, 2011, (Texas), [招請講演]
- 003 **Kondo Y.**: Epigenetic switch regulates plasticity of cancer stem cell in human glioblastoma. 6th Asian Epigenomics Meeting, 2011, (Kumamoto), [シンポジウム]
- 004 **Kondo Y.**: Integrated analysis of genetic and epigenetic alterations reveals CpG island methylator phenotype associated with clinical outcome of lung adenocarcinoma. Sapporo Cancer Epigenetics Seminar of the A3 Foresight Program 2011, 2011, (Sapporo), [シンポジウム]
- 005 **Kondo Y.**: Epigenetic networks regulate plasticity of cancer stem cell in glioblastoma. 13th Japanese-German Cancer Workshop, 2011, (Hiroshima), [シンポジウム]
- 006 **Kondo Y.**: Epigenetic regulatory network in plastic interconvertibility between tumor-initiating cells and non-tumor-initiating cells. US-Japan Cancer Genomics Workshop, 2011, (Kyoto), [ワークショップ]
- 007 **Mizuno T, Murakami H, Fujii M, Ishiguro F, Kondo Y, Akatsuka S, Toyokuni S, Ueda Y, Yokoi K, Osada H, Sekido Y.**: YAP transcription coactivator induces malignant mesothelioma cell proliferation by up-regulating cell cycle progression. the 14th World Conference on Lung Cancer, 2011, (Amsterdam), [ポスター]
- 008 **Okamoto Y, Shinjo K, Tanaka Y, Fujii M, Murakami H, Osada H, Kataoka H, Joh T, Sekido Y, Kondo Y.**: Analysis of epigenetic alterations in mice with humanized liver after hepatitis virus infection. 102nd AACR annual meeting, 2011, (Orlando), [ポスター]
- 009 **Osada H, Nishikawa E, Arima C, Okazaki Y, Tomida S, Tatematsu Y, Taguchi A, Shimada Y, Yanagisawa K, Toyokuni S, Sekido Y, Takahashi T.**: Roles of ASH1-miR-375 pathway in development of lung cancers with neuroendocrine features. AACR Annual Meeting 2011, 2011, (Orlando), [ポスター]
- 010 **Shinjo K, Kondo Y, Okamoto Y, Yokoyama T, Noriyasu U, Fujii M, Murakami H, Osada H, Sekido Y.**: Integrated analysis of genetic and epigenetic alterations reveals CpG island methylator phenotype associated with clinical outcome of lung adenocarcinoma. 102nd AACR annual meeting, 2011, (Orlando), [ポスター]
- 011 **Sekido Y.**: Dysregulation of signal transduction cascades in malignant mesothelioma cells induces connective tissue growth factor (CTGF) expression. 9th China-Japan Joint Conference of Cancer, 2011, (Shanghai), [ワークショップ]
- 012 **Kondo Y.**: Epigenetic plasticity contributing to

分子腫瘍学部

- 001 **Fujii M, Toyoda T, Nakanishi H, Yatabe Y, Sato A, Matsudaira Y, Ito H, Murakami H, Kondo Y, Hida T, Tsujimura T, Osada H, Sekido Y.**: TGF- β synergizes with defects in the Hippo pathway to stimulate human malignant mesothelioma growth by inducing CTGF ex

- establishment of tissue heterogeneity in glioblastoma. The 15th US-Japan Cellular and Gene Therapy Conference. Epigenetics in Cancer, 2012, (Bethesda), [シンポジウム]
- 013 **Ohka F, Natsume A, Motomura K, Kishida Y, Kondo Y, Momota H, Iwami K, Kinjo S, Ito M, Fujii M, Wakabayashi T.**: The Global DNA Methylation Surrogate LINE-1 Methylation Is Correlated with MGMT Promoter Methylation and Is a Better Prognostic Factor for Glioma. Sapporo Cancer Epigenetics Seminar of the A3 Foresight Program 2011, 2011, (Sapporo), [口演]
- 014 **Ahmed N, Sato M, Hase T, Yoshida K, Oguri T, Kondo M, Sekido Y, Yokoi K, Usami N, Hasegawa Y.**: The circadian clock gene BMAL1 as a possible therapeutic target for malignant pleural mesothelioma. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 015 **Ishiguro F, Murakami H, Mizuno T, Fujii M, Kondo Y, Usami N, Yokoi K, Osada H, Sekido Y.**: Overexpression of activated leukocyte cell adhesion molecule is involved in invasion of malignant mesothelioma cells. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 016 **Mizuno T, Murakami H, Fujii M, Ishiguro F, Kondo Y, Akatsuka S, Toyokuni S, Ueda Y, Yokoi K, Osada H, Sekido Y.**: YAP transcriptional coactivator induces malignant mesothelioma cell proliferation via up-regulating cell cycle-regulating genes including CCND1. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 017 **Ohka F, Natsume A, Motomura K, Kondo Y, Abe T, Nakasu Y, Namba H, Wakai K, Fukui T, Momota H, Fujii M, Wakabayashi T.**: LINE-1 methylation is directly proportional to MGMT promoter methylation and is a better prognostic factor for glioma. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 018 **Ishiguro F.**: Activated leukocyte cell adhesion molecule (ALCAM) promotes malignant phenotypes of malignant mesothelioma. 第4回NAGOYAグローバルリトリート, 2012, (大府), [ポスター]
- 019 **Katsushima K.**: Glioma stem-cell differentiation regulated by miR-1275 via histone H3 lysine 27 trimethylation. 第4回NAGOYAグローバルリトリート, 2012, (大府), [ポスター]
- 020 **関戸好孝**: 悪性中皮腫におけるHippoシグナル伝達系異常. 第84回日本生化学会大会, 2011, (京都), [シンポジウム]
- 021 **関戸好孝**: 悪性中皮腫における新規がん抑制遺伝子LATS2の同定とYAPがん遺伝子の活性化. 第52回日本肺癌学会, 2011, (大阪), [ワークショップ]
- 022 **石黒太志, 村上秀樹, 水野鉄也, 藤井万紀子, 近藤豊, 宇佐美範恭, 横井香平, 長田啓隆, 関戸好孝**: 非小細胞肺癌におけるALCAM/CD166の予後因子としての意義. 第52回日本肺癌学会, 2011, (大阪), [ポスター]
- 023 **須田健一, 富沢健二, 谷田部恭, 関戸好孝, 光富徹哉**: 逐次的な分子標的薬曝露により"EGFR-TKI依存状態"となったEGFR変異肺癌細胞株の解析. 第52回日本肺癌学会, 2011, (大阪), [口演]
- 024 **水野鉄也, 村上秀樹, 石黒太志, 豊國伸哉, 横井香平, 関戸好孝**: 悪性胸膜中皮腫におけるYAPがん遺伝子の標的遺伝子検索. 第52回日本肺癌学会, 2011, (大阪), [ポスター]
- 025 **近藤豊**: エピジェネティクスを標的とした新しいがん治療戦略の開発. 日本医工学治療学会第27回学術大会, 2011, (岡山), [シンポジウム]
- 026 **近藤豊**: がん細胞におけるエピジェネティクス異常の解析とその診断・治療への応用. 第100回日本病理学会総会, 2011, (横浜), [ワークショップ]
- 027 **近藤豊**: がんの生物学的特性を制御するエピジェネティック機構. 第5回日本エピジェネティクス研究会年会, 2011, (熊本), [ランチョンセミナー]
- 028 **近藤豊**: 癌細胞における遺伝子の動的・静的制御. 名古屋大学大学院工学研究科 セミナー, 2011, (名古屋), [セミナー]
- 029 **近藤豊**: 肝炎ウイルスによるエピジェネティック異常の誘発機構. 第19回日本消化器関連学会週間, 2011, (福岡), [シンポジウム]
- 030 **新城恵子, 岡本泰幸, 藤井万紀子, 村上秀樹, 長田啓隆, 関戸好孝, 近藤豊**: 肺線がんの生物学的特性に関わるエピジェネティクス異常の解析. 第5回日本エピジェネティクス研究会年会, 2011, (熊本), [ポスター]
- 031 **新城恵子, 岡本泰幸, 藤井万紀子, 長田啓隆, 関戸好孝, 近藤豊**: 肺腺がんにおけるCIMP (CpG island methylator phenotype) の意義. 第34回日本分子生物学会年会, 2011, (横浜), [ポスター]
- 032 **関戸好孝**: 悪性中皮腫の分子病態. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [セミナー]
- 033 **近藤豊, 関戸好孝**: Epigenetic regulation of plastic cancer-initiating cell function. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 034 **勝島啓佑, 新城恵子, 藤井万紀子, 長田啓隆, 関戸好孝, 夏目敦至, 近藤豊**: Epigenetic regulation of miR-1275 through histone H3 lysine 27 trimethylation upon glioma stem-like cell differentiation. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 035 **新城恵子, 近藤豊, 岡本泰幸, 横山俊彦, 宇佐美範恭, 藤本伸一, 岸本卓巳, 樋田豊明, 藤井万紀子, 村上秀樹, 長田啓隆, 関戸好孝**: 肺腺がんの生物学的特性に関わるDNAメチル化異常の網羅的解析. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 036 **須田健一, 富沢健二, 長田啓隆, 関戸好孝, 谷田部恭, 光富徹哉**: EGFR変異肺癌におけるチロシンキナーゼ阻害剤獲得耐性. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 037 **長田啓隆, 高橋隆**: Roles of ASH1-regulated miRNAs and lincRNAs in lung cancer development. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 038 **藤井万紀子, 豊田武士, 中西速夫, 谷田部恭, 佐藤鮎子, 村上秀樹, 近藤豊, 近藤英作, 樋田豊明, 辻村亨, 長田啓隆, 関戸好孝**: 悪性中皮腫細胞の増殖におけるTGF- β シグナルとhippo pathwayの役割. 第70回日本癌学会学術総会, 2011,

- (名古屋), [口演]
- 039 鈴木元, 富田秀太, 有馬千夏, 増田雄司, 神谷研二, 長田啓隆, 谷田部恭, 高橋 隆: Regulation of DNA polymerase subunit POLD4 influences genomic instability in lung cancer. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 040 勝島啓佑, 新城恵子, 藤井万紀子, 長田啓隆, 関戸好孝, 夏目敦至, 近藤豊: 脳腫瘍幹細胞の分化に関わるmiR-1275に関する研究. 平成23年度がん若手研究者ワークショップ, 2011, (蓼科), [ワークショップ]
- 041 水野鉄也, 村上秀樹, 藤井万紀子, 石黒太志, 近藤豊, 赤塚慎也, 豊國伸哉, 横井香平, 長田啓隆, 関戸好孝: ヒト悪性胸膜中皮腫におけるYAPを介した細胞増殖機構. 第15回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2011, (東京), [ポスター]
- 042 石黒太志, 村上秀樹, 水野鉄也, 宇佐美範菘, 横井香平, 関戸好孝: 非小細胞癌におけるALCAM/CD166発現の検討. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 2011, (別府), [ポスター]
- 043 大岡史治, 夏目敦至, 本村和也, 岸田悠吾, 近藤豊, 阿部竜也, 中洲庸子, 難波宏樹, 若井健志: 神経膠腫におけるmethylator phenotypeの診断と予後に対する意義の検討. 第29回日本脳腫瘍学会, 2011, (岐阜), [口演]
- 044 大岡史治, 夏目敦至, 本村和也, 岸田悠吾, 近藤豊, 阿部竜也, 中洲庸子, 難波宏樹, 若井健志, 福井崇史, 百田洋之, 岩味健一郎, 金城清乃, 伊藤牧, 藤井正純, 若林俊彦: 神経膠腫におけるジェネティクス, エピジェネティクスに基づく分子病理の解析. 第29回日本脳腫瘍病理学会, 2011, (東京), [口演]
- 045 大岡史治, 夏目敦至, 本村和也, 岸田悠吾, 近藤豊, 阿部竜也, 中洲庸子, 難波宏樹, 若井健志, 福井崇史, 百田洋之, 岩味健一郎, 金城清乃, 伊藤牧, 藤井正純, 若林俊彦: Low grade gliomaにおけるmethylator phenotypeの診断意義と予後解析, 日本脳神経外科学会第70回学術総会, 2011, (横浜), [シンポジウム]
- 046 藤井万紀子, 豊田武士, 長田啓隆, 谷田部恭, 松平康枝, 村上秀樹, 近藤豊, 樋田豊明, 関戸好孝: 悪性中皮腫細胞の増殖におけるCTGF (connective tissue growth factor)の役割について. 日本組織培養学会第84回大会, 2011, (東京), [口演]
- 047 近藤 豊: がん細胞のエピゲノム異常を標的とした新しい治療戦略. 第3次対がん10か年総合戦略(平成16年~25年度)文部科学省新学術領域研究「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」, 2012, (東京), [シンポジウム]

遺伝子医療研究部

- 001 *Karube K, Nakagawa M, Tsuzuki S, Ko YH, Nakamura S, Seto M.*: Identification of FOXO3 and PRDM1 as tumor suppressor gene candidates in NK cell neoplasms by the combination of genomic and functional analyses. 11th International Conference on Malignant Lymphoma, 2011, (Switzerland), [口演]
- 002 *Yamamoto K, Tsuzuki S, Naoe T, Seto M.*: Deregulated activity of AML1/RUNX1 cooperates with BCR-ABL to immortalize hematopoietic progenitor cells and induces

- blast crisis-like disease of chronic myelogenous leukemia in mice. American Society of Hematology (ASH) 53rd Annual Meeting, 2011, (San Diego), [ポスター]
- 003 *Kato H, Yamamoto K, Karube K, Katayama M, Tsuzuki S, Yatabe Y, Takizawa J, Ohshima K, Nakamura S, Morishima Y, Seto M.*: Gene Expression Profiling of Age-Related Epstein-Barr Virus (EBV)-Associated B-Cell Lymphoproliferative Disorder Uncovers Alterations in Immune and Inflammatory Genes: Possible Implications for Pathogenesis. American Society of Hematology (ASH) 53rd Annual Meeting, 2011, (San Diego), [ポスター]
- 004 *Karube, K., Seto, M.*: Genomic and functional analyses of NK-cell neoplasms. 4th T cell lymphoma forum, 2012, (San Francisco), [口演]
- 005 *Tashima M., Nishikori M, Kishimoto W, Yamamoto R, Samomi T, Suzuki T, Tsuzuki S, Seto M, Takaori-Kondo A.*: Development of a mouse model for blastoid variant of mantle cell lymphoma. 第73回日本血液学会学術集会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 006 都築忍, 瀬戸加大: ERG発現による白血病化. 第73回日本血液学会学術集会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 007 加藤春美, 山本一仁, 加留部謙之輔, 都築忍, 谷田部恭, 瀧澤淳, 大島孝一, 中村栄男, 森島泰雄, 瀬戸加大: 加齢性EBV関連B細胞性リンパ増殖性疾患の遺伝子発現プロファイル. 第73回日本血液学会学術集会, 2011, (名古屋), [口演]
- 008 瀬戸加大: Molecular bases of malignant lymphoma. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 009 成松隆弘, 松浦恵子, 泥谷直樹, 中田知里, 井上享, 野村威雄, 佐藤文憲, 瀬戸加大, 三股浩光, 守山正胤: 9p24.1-p13.3 loss may be indicator to predict metastasis of clear cell renal cell carcinoma. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 010 都築忍, 瀬戸加大: Altered differentiation and enhanced self-renewal activity of B cells by the leukemia-associated TEL(ETV6)-AML1(RUNX1) fusion gene. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 011 加藤春美, 山本一仁, 加留部謙之輔, 都築忍, 谷田部恭, 瀧澤淳, 大島孝一, 中村栄男, 瀬戸加大: Gene expression profiling of EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) of the elderly. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 012 加留部謙之輔, 中川雅夫, 都築忍, 清水則夫, 中村栄男, 高田尚良, 瀬戸加大: Identification of FOXO3 and PRDM1 as tumor suppressor gene candidates in NK cell neoplasms. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 013 松浦恵子, 中田知里, 成松隆弘, 塚本善之, 野村威雄, 佐藤文憲, 三股浩光, 瀬戸加大, 守山正胤: Frequent deregulation of the Hippo signaling pathway in high-grade clear cell renal cell carcinoma. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 014 瀬戸加大: どのように正常細胞からがんができるか? 今村分院内研修会. 招請講演. 2011, (鹿児島)
- 015 瀬戸加大: Molecular mechanisms of lymphoma

- development. Samsung Medical Center invited seminar. 招請講演. 2011, (ソウル市)
- 016 瀬戸加太: Frequent clonal evolution takes place in ATL patients. XXV IACRLRD Symposium Tokyo. 招請講演. 2011, (東京)
- 017 瀬戸加太: 悪性リンパ腫の分子病態と臨床的意義. 第2回中四国血液疾患治療研究会. 特別招請講演. 2011, (岡山)
- 018 瀬戸加太: Genetics and molecular mechanisms of lymphoma development. Karolinska Institute. 招請講演. 2012, (スウェーデン・ストックホルム市)
- 019 瀬戸加太: Genetic events and their relevance for malignant lymphoma. Hematopathology Unit Hospital Clinic, University of Barcelona. 招請講演. 2012, (スペイン・バルセロナ市)
- 020 瀬戸加太: Genetic events and their relevance for malignant lymphoma. Hematopathology IOR Institute of Oncology Research. 招請講演. 2012, (スイス・ベリンゾーナ市)
- 021 瀬戸加太: Genetic events and their relevance for malignant lymphoma. Hematopathology Unit Hospital Clinic, University of Barcelona. 招請講演. 2012, (スペイン・バルセロナ市)
- 022 瀬戸加太: Genomic Alterations in B-Cell Lymphoma. Malignant Lymphoma Academy 2012. 招請講演. 2012, (東京)

腫瘍免疫学部

- 001 *Fujita M, Kohanbash G, Fellows-Mayle W, Hamilton RL, Decker SA, Ohlfest JR, Okada H*: COX-2 blockade suppresses gliomagenesis by inhibiting myeloid-derived suppressor cells. The 102nd Annual Meeting of the American Association of Cancer Research, 2011, (Orlando), [ポスター]
- 002 *Okamoto S, Ikeda H, Fujiwara H, Nukaya I, Yoshioka H, Kuzushima K, Yasukawa M, Shiku H, Mineno J*: Highly Efficient and Safe Vectors for TCR Gene Therapy: Silencing of Endogenous TCR Improved Expression and Anti-Tumor Reactivity of Transduced Tumor-Specific TCRs in Human Lymphocytes. American Society of Gene and Cell Therapy, 2011, (Seattle), [ポスター]
- 003 佐々木豊, 松岡由和, 中塚隆介, 高橋雅也, 岩城隆二, 植村靖史, 藺田精昭: マウス骨髄造血幹細胞分画におけるc-kit発現レベルの検討. 第21回日本サイトメトリー学会学術集会, 2011, (京都), [口演]
- 004 *Fujita M, Kohanbash G, Fellows-Mayle W, Hamilton RL, Decker SA, Ohlfest JR, Okada H*: COX-2 blockade suppresses gliomagenesis by inhibiting myeloid-derived suppressor cells. 第15回日本がん免疫学会総会, 2011, (大阪), [ポスター]
- 005 赤塚美樹, 森島泰雄, 田地浩史, 山本一仁, 宮村耕一, 高橋利忠, 小寺良尚, 恵美宣彦, 葛島清隆: 同種移植後再発予防・治療を目的としたマイナー抗原ワクチン臨床試験 (中間報告). 第15回日本がん免疫学会総会, 2011, (大阪), [口演]
- 006 岡本幸子, 池田裕明, 藤原弘, 糟谷育衛, 吉岡広文, 葛島清隆, 安川正貴, 珠玖洋, 峰野純一: 内性TCRのノックダウンによる高効率かつ安全性の高いTCR遺伝子治療法の開発. 第15回日本がん免疫学会総会, 2011, (大阪), [口演]
- 007 *Asai H, Fujiwara H, Ochi T, An J, Shirakata T, Nagai K, Miyazaki Y, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Yasukawa M*: CCL2-CCR2 axis potentiates the anti-cancer reactivity mediated by gene-engineered WT1-specific CTLs. 第15回日本がん免疫学会総会, 2011, (大阪), [口演]
- 008 宮崎幸大, 藤原弘, 越智俊元, 朝井洋晶, 永井功造, 安軍, 石田高司, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖洋, 安川正貴: 成人T細胞白血病に対するhTERT特異的TCR遺伝子を用いた新たな細胞免疫療法. 第15回日本がん免疫学会総会, 2011, (大阪), [口演]
- 009 近藤紳司, 岡村文子, 牧寛之, *Rong Zhang*, 植村靖史, 藤田貢, 山本英子, 柴田清住, 吉川史隆, 葛島清隆: 内性HLAの発現を抑制し目的のHLA-A24を発現する人工抗原提示細胞を用いた卵巣癌を傷害するCTLの誘導. 第15回日本がん免疫学会総会, 2011, (大阪), [口演]
- 010 *Okamoto S, Ikeda H, Fujiwara H, Nukaya I, Yoshioka H, Kuzushima K, Yasukawa M, Shiku H, Mineno J*: Efficient and Safe Vectors for TCR Gene Therapy: Silencing of Endogenous TCR Improved the Efficacy and Safety of TCR Gene Therapy. 第17回日本遺伝子治療学会学術集会, 2011, (福岡), [口演]
- 011 *Fujita M, Kohanbash G, Fellows-Mayle W, Hamilton RL, Decker SA, Ohlfest JR, Okada H*: COX-2 blockade suppresses gliomagenesis by inhibiting myeloid-derived suppressor cells. 第3回 造血器腫瘍免疫治療研究会学術総会, 2011, (別府), [口演]
- 012 赤塚美樹, 森島泰雄, 田地浩史, 山本一仁, 宮村耕一, 高橋利忠, 小寺良尚, 恵美宣彦, 葛島清隆: 同種移植後再発予防・治療を目的としたマイナー抗原ワクチン臨床試験の中間報告. 第3回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2011, (別府), [口演]
- 013 宮崎幸大, 藤原弘, 越智俊元, 朝井洋晶, 永井功造, 石田高司, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖洋, 安川正貴: 成人T細胞白血病に対するhTERT特異的TCR遺伝子を用いた新たな細胞免疫療法. 第3回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2011, (別府), [口演]
- 014 朝井洋晶, 藤原弘, 越智俊元, 安軍, 白方俊章, 永井功造, 宮崎幸大, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖洋, 安川正貴: CCL2-CCR2クロストークはWT1特異的TCR遺伝子を導入した人工CTLの輸注後生体内での抗腫瘍活性を増強する. 第3回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2011, (別府), [口演]
- 015 葛島清隆, 岡村文子: Artificial antigen presenting cells as tools for defining cancer-specific antigens. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 016 宮崎幸大, 藤原弘, 越智俊元, 朝井洋晶, 永井功造, 安軍, 石田高司, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖洋, 安川正貴: hTERT特異的T細胞受容体遺伝子を導入したCTLは成人T

- 細胞白血病に対して抗腫瘍効果を発揮する. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 017 **Fujita M, Kohanbash G, Ohlfest JR, Okada H:** COX-2 blockade suppresses gliomagenesis by inhibiting myeloid-derived suppressor cells. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 018 赤塚美樹, 松原亜以子, 南谷泰仁, 森島泰雄, 高橋利忠, 葛島清隆, 小川誠司, 恵美彦彦: マイナー組織適合抗原をコードする一塩基多型のオンライン検索ツール. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 019 岡本幸子, 池田裕明, 藤原弘, 糟谷育衛, 吉岡広文, 葛島清隆, 安川正貴, 珠玖洋, 峰野純一: 内在性TCRのノックダウンによる高効率かつ安全性の高いTCR遺伝子治療法の開発. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 020 朝井洋晶, 藤原弘, 越智俊元, 安軍, 白方俊章, 永井功造, 宮崎幸大, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖洋, 安川正貴: 腫瘍由来のCCR2は腫瘍微小環境におけるWT1特異的TCR遺伝子導入人工CTLの抗腫瘍活性を増強する. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 021 岡村文子, 鳥飼宏基, 赤塚美樹, 三好浩之, 吉森保, 葛島清隆: 膵がん細胞における恒常的高活性オートファジーによるCTLエビトープの産生. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 022 近藤紳司, 岡村文子, 牧寛之, **Rong Zhang**, 植村靖史, 藤田貢, 山本英子, 柴田清佳, 吉川史隆, 葛島清隆: 内在性HLAの発現を抑制し目的のHLA-A24を発現する人工抗原提示細胞を用いた卵巣癌を傷害するCTLの誘導. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 023 **Fujita M, Kohanbash G, Ohlfest JR, Okada H:** COX-2 blockade suppresses gliomagenesis by inhibiting myeloid-derived suppressor cells. 第70回日本脳神経外科学会学術総会, 2011, (横浜), [口演]
- 024 **Akatsuka Y, Yamamura T, Bleakley M, Hikita J, Matsubara A, Hamajima T, Nannya Y, Morishima Y, Kodera Y, Riddell SR, Ogawa S, Emi N:** An online tool to scan single nucleotide polymorphisms for identification of novel minor antigens. 第73回日本血液学会学術集会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 025 **Yamamoto Y, Tsuzuki S, Akahori Y, Ukai Y, Sumitomo M, Tokuda M, Kanie T, Abe A, Akatsuka Y, Kurosawa Y, Emi N:** Isolation of human monoclonal antibodies directly modulating FLT3 signaling. 第73回日本血液学会学術集会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 026 **Fujita M, Hosono S, Matsuo K, Kohanbash G, Ohlfest JR, Okada H:** COX-2 blockade suppresses brain tumor development inhibiting myeloid-derived suppressor cells. 第29回日本脳腫瘍学会, 2011, (下呂), [口演]
- 027 植村靖史: ヒトインバリエントNKT細胞を用いたがん免疫細胞療法の可能性. 第34回日本造血細胞移植学会総会, 2012, (大阪), [招請講演]
- 028 松岡由和, 高橋雅也, 岩城隆二, 佐々木豊, 中塚隆介, 河野比良夫, 植村靖史, 井上雅美, 小川啓恭, 高橋隆幸, 石川淳, 日野雅之, 藪田精和: ヒト造血幹細胞支持能を有するヒト骨髓由来間葉系幹細胞の予期的分離. 第34回日本造血細胞

移植学会総会, 2012, (大阪), [ワークショップ]

- 029 岡村文子, 葛島清隆: 人工抗原提示細胞システムを利用した新規腫瘍抗原探索. 第34回日本造血細胞移植学会総会, 2012, (大阪), [ワークショップ]
- 030 藤原弘, 越智俊元, 朝井洋晶, 宮崎幸大, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖洋, 安川正貴: 抗白血病T細胞ネットワークを輸注する次世代型遺伝子免疫療法の開発. 第34回日本造血細胞移植学会総会, 2012, (大阪), [ワークショップ]
- 031 宮崎幸大, 藤原弘, 越智俊元, 朝井洋晶, 永井功造, 石田高司, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖洋, 安川正貴: 成人T細胞白血病に対するhTERT特異的TCR遺伝子を用いた新たな細胞免疫療法の開発. 第34回日本造血細胞移植学会総会, 2012, (大阪), [口演]
- 032 朝井洋晶, 藤原弘, 越智俊元, 安軍, 白方俊章, 永井功造, 宮崎幸大, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖洋, 安川正貴: WT1特異的TCR遺伝子導入CD8+T細胞に強制追加発現させたCCR2は輸注後腫瘍微小環境におけるCCL2-CCR2 axisを介してその抗腫瘍活性を増強する. 第34回日本造血細胞移植学会総会, 2012, (大阪), [口演]

腫瘍ウイルス学部

- 001 **Isomura H, Tsurumi T:** The human cytomegalovirus gene products essential for late viral gene expression assemble into pre-replication complexes before viral DNA replication. International Union of Microbiological Societies (IUMS) 2011, XV International Congress of Virology, 2011, (Sapporo), [シンポジウム]
- 002 **Isomura H, Tsurumi T:** Human cytomegalovirus genes required for late viral gene expression and assembly into pre-replication complexes before viral DNA replication. 13th CMV / BetaHerpesvirus Workshop, 2011, (Nuremberg), [口演]
- 003 **Kanda T, Murata T, Takada K, Tsurumi T:** Primary Sequence Heterogeneity of Family of Repeats (FR) of Epstein-Barr Virus (EBV) results in Strain-Specific Differences in the FR Stability in BAC vectors. 5th International Symposium on Nasopharyngeal Carcinoma, 2011, (Penang), [ポスター]
- 004 **Kanda T, Tsurumi T:** Primary Sequence Heterogeneity of Family of Repeats (FR) of Epstein-Barr Virus (EBV) results in Strain-Specific Differences in the FR Stability in BAC vectors. International Union of Microbiological Societies (IUMS) 2011, XV International Congress of Virology, 2011, (Sapporo), [ポスター]
- 005 **Kawashima D, Kanda T, Tsurumi T:** Involvement of Hsp90 in Epstein-Barr Virus Lytic Replication. "Hsp90 facilitates the interaction between BALF5 and BMRF1 and leads to their proper localization". International Union of Microbiological Societies (IUMS) 2011, XV International Congress of Virology, 2011, (Sapporo), [ポスター]
- 006 **Murata T, Noda C, Kanda T, Tsurumi T:** Identification

- and Characterization of a Novel Transcriptional Activator for EBV Oncogene LMP1 in Epithelial Cells. 5th International Symposium on Nasopharyngeal Carcinoma, 2011, (Penang), [口演]
- 007 **Murata T, Tsurumi T**: Involvement of Jun Dimerization Protein 2 (JDP2) in the Maintenance of Epstein-Barr virus Latency. International Union of Microbiological Societies (IUMS) 2011, XV International Congress of Virology, 2011, (Sapporo), [シンポジウム]
- 008 **Noda C, Murata T, Kanda T, Tsurumi T**: Identification and Characterization of a Novel Transcriptional Activator for EBV Oncogene LMP1. International Union of Microbiological Societies (IUMS) 2011, XV International Congress of Virology, 2011, (Sapporo), [ポスター]
- 009 **Noguchi K, Yasuda A, Katayama K, Mitsuhashi J, Kanda T, Minoshima M, Bando T, Sugiyama H, Sugimoto Y**: EBV-induced Immortalization Is Inhibited by Polyamide Targeting EBNA1-oriP Binding. International Union of Microbiological Societies (IUMS) 2011, XV International Congress of Virology, 2011, (Sapporo), [ポスター]
- 010 **Sugimoto A, Nishiyama Y, Tsurumi T**: Anatomy of Epstein-Barr virus genome manufacturing plant. International Union of Microbiological Societies (IUMS) 2011, XV International Congress of Virology, 2011, (Sapporo), [シンポジウム]
- 011 **Sugimoto A, Nishiyama Y, Tsurumi T**: Spatiotemporally different DNA repair systems participating during Epstein-Barr virus genome maturation. Structural Biology & DNA Repair, 2011, (Amsterdam), [ポスター]
- 012 **Tsurumi T, Sugimoto A**: Spatiotemporally different DNA repair systems, HRR and MMR, participate during Epstein-Barr virus genome maturation. Maintenance of Genome Stability 2012, 2012, (Nassau), [ポスター]
- 013 **Sugimoto A, Nishiyama Y, Tsurumi T**: Spatiotemporally Different DNA Repair System Participate in Epstein-Barr Virus Genome Maturation. 第3回グローバルCOE国際シンポジウム, 2011, (Nagoya), [ポスター]
- 014 **Sugimoto A, Nishiyama Y, Tsurumi T**: Spatiotemporally Different DNA Repair System Participate in Epstein-Barr Virus Genome Maturation. 第4回 NAGOYAグローバルリトリート, 2012, (名古屋), [口演]
- 015 **神田 輝, 鶴見達也**: Family of repeats(FR)1次配列のEBV株間における多様性と共通点について. 第8回EBウイルス研究会, 2011, (大阪), [口演]
- 016 **杉本温子, 西山幸廣, 鶴見達也**: EBVウイルスゲノム複製の場の構造解析. 第8回EBウイルス研究会, 2011, (大阪), [口演]
- 017 **磯村寛樹, 鶴見達也**: The novel antiviral targets for human cytomegalovirus. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 018 **神田輝, 村田貴之, 高田賢蔵, 鶴見達也**: FR (family of repeats) 1次配列のEBウイルス株間における多様性とその意義. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 019 **杉本温子, 西山幸廣, 鶴見達也**: Anatomy of Epstein-Barr virus genome manufacturing plant. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 020 **川島大介, 神田輝, 鶴見達也**: Influence of Hsp90 in Epstein-Barr Virus Lytic Replication. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 021 **村田貴之, 鶴見達也**: Involvement of Jun Dimerization Protein 2 (JDP2) in the Maintenance of Epstein-Barr virus Latency. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 022 **野田千恵子, 村田貴之, 神田輝, 鶴見達也**: Identification and Characterization of a Novel Transcriptional Activator for EBV Oncogene LMP1. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 023 **川島大介, 松本英樹, 大塚健三**: 分子シャペロン誘導剤は温度感受性変異p53の機能回復を促進する. 日本ハイパーミア学会第28回大会, 2011, (名古屋), [口演]
- 024 **川島大介, 鶴見達也**: Hsp90阻害剤はEBV溶解感染を阻害する. 第6回臨床ストレス応答学会大会, 2011, (名古屋), [口演]
- 025 **神田輝, 鶴見達也**: 潜伏感染EBウイルスゲノムの宿主染色体付着機構の解析. 第29回染色体ワークショップ, 2012, (仙台), [口演]
- 026 **神田輝**: 潜伏感染ウイルスによる宿主染色体ヒッチハイク機構の解析. 東北大学グローバルCOE Network Medicine 創生拠点NM高等教育セミナー, 2012, (仙台), [口演]
- 027 **神田輝, 鶴見達也, 野口耕司**: 新規抗ウイルス薬開発をめざしたEBNA1蛋白質機能阻害の戦略. 第21回EBウイルス感染症研究会, 2012, (東京), [口演]
- 028 **村田貴之, 鶴見達也**: EBウイルス感染様式の制御メカニズム. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 029 **齊藤伸一, 村田貴之, 鶴見達也**: EBウイルス脱ユビキチン化酵素BPLF1によるNF- κ B経路の阻害を介したウイルスDNA複製の促進. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 030 **神田輝, 村田貴之, 鶴見達也**: EBNA1蛋白質の宿主染色体付着メカニズムの解析とその応用の可能性. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 031 **成田洋平, 村田貴之, 木村宏, 鶴見達也**: Pin1はEBウイルス複製に重要な因子である. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 032 **川島大介, 鶴見達也**: EBVのDNAポリメラーゼの核移行はその付随因子とHsp90に依存する. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 033 **杉本温子, 木村宏, 鶴見達也**: EBV capsid形成・成熟・DNA packagingの場の解析. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 034 **神田輝, 村田貴之, 鶴見達也**: EBNA1蛋白質の宿主染色体付着メカニズムの解析. 第9回EBウイルス研究会, 2012, (米子), [口演]

分子病態学部

- 001 **Aoki M, Fujishita T, Taketo M.**: JNK promotes intestinal tumor formation in Apc mutant mice through activation of mTOR complex 1 and c-Jun. AACR's Tumor Microenvironment Complexity : Emerging Roles in Cancer Therapy Special Conference, 2011, (Orlando), [ポスター]
- 002 **Aoki M.**: Roles of the JNK/mTORC1 signaling in intestinal tumorigenesis of Apc mutant mice. The 16th Korea-Japan Cancer Research Workshop, 2011, (Sapporo), [口演]
- 003 **園下将大, 青木正博, 武藤誠**: Stimulation of colon cancer metastasis by Notch signaling. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 004 **佐久間圭一郎, 青木正博, 神奈木玲児**: EGF and bFGF induce EMT and E-selectin ligand glycan expression on colorectal cancer cells. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 005 **青木正博, 藤下晃章, 武藤誠**: JNK promotes intestinal tumor formation in Apc mutant mice through activation of mTOR complex 1 and c-Jun. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [口演]
- 006 **藤下晃章, 青木正博, 武藤誠**: The roles of mTORC1 in the intestinal adenocarcinoma. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 007 **青木正博, 藤下晃章, 武藤誠**: JNKシグナル伝達経路はmTORC1の活性化を介してApc変異マウスの腸管腫瘍形成を促進する. 第15回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2011, (東京), [ポスター]
- 008 **佐久間圭一郎, 神奈木玲児, 等**: Th2-specific skin-homing ligands involved in recurrent atopic dermatitis exacerbations. 第40回日本免疫学会学術集会, 2011, (千葉), [口演]
- 009 **青木正博**: The roles of JNK/mTORC1 signaling in intestinal tumorigenesis. 名古屋大学グローバルCOE第3回国際シンポジウム, 2011, (名古屋), [シンポジウム]

発がん制御研究部

- 001 **Goto H, Li P, Kiyono T, Matsuyama M, Kasahara K, Murakami Y, Yatabe Y, Inagaki M.**: Chk1 Phosphorylation by p90 Ribosomal S6 Kinase (p90 RSK). The 51th Annual Meeting of the American Society for Cell Biology, 2011, (Denver), [ポスター]
- 002 **Inagaki M.**: Novel regulatory mechanism of Plk1 at mitosis. MEXT Priority Research Project International Symposium "Cell Division", 2011, (Hakone), [シンポジウム]
- 003 **Li P.**: P90 RSK arranges Chk1 in the nucleus for monitoring of genomic integrity during cell proliferation. Global COE The 3rd International Symposium, 2011, (名古屋), [ポスター]

- 004 **Goto H, Li P, Kasahara K, Matsuyama M, Wang Z, Yatabe Y, Kiyono T, Inagaki M.**: P90 RSK arranges Chk1 in the nucleus for monitoring of genomic integrity during cell proliferation. 第45回日本発生生物学会 / 第64回日本細胞生物学会合同大会, 2011, (神戸), [ワークショップ]
- 005 **Goto H, Li P, Kasahara K, Matsuyama M, Wang Z, Yatabe Y, Kiyono T, Inagaki M.**: P90 RSK arranges Chk1 in the nucleus for monitoring of genomic integrity during cell proliferation. 第45回日本発生生物学会 / 第64回日本細胞生物学会合同大会, 2011, (神戸), [ポスター]
- 006 **Goto H, Li P, Yatabe Y, Kasahara K, Matsuyama M, Kiyono T, Inagaki M.**: Chk1 phosphorylation at Ser280 by p90 ribosomal S6 kinase (p90 RSK). 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ワークショップ]
- 007 **Hee-Jin Jeong, 大橋広行, 大室(松山)有紀, 稲垣昌樹, 上田宏**: Quenchbody 法によるピメンチンセリンリン酸化の検出. 第34回日本分子生物学会年会, 2011, (横浜), [ポスター]
- 008 **Inoko A, Matsuyama M, Goto H, Ohmuro-Matsuyama Y, Inagaki M.**: Trichoplein blocks the aberrant assembly of primary cilia in proliferating cells. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [シンポジウム]
- 009 **Izawa I, Hayashi Y, Inagaki M.**: Odin/ANKS1A, a PTB domain-containing protein, is localized at focal adhesion. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 010 **Kasahara K, Goto H, Inagaki M.**: 14-3-3 gamma activates Plk1 and controls mitotic progression. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 011 **Matsuyama M, Kobori K, Tanaka H, Inagakai M.**: Functional analyses of Vimentin phosphorylation in mice. 第70回日本癌学会学術総会, 2011, (名古屋), [ポスター]
- 012 **笠原広介, 後藤英仁, 渡邊信元, 清野透, 稲垣昌樹**: 新規リン酸化反応による分裂期キナーゼPlk1の活性制御メカニズム. 第34回日本分子生物学会年会, 2011, (横浜), [ワークショップ]
- 013 **笠原広介, 後藤英仁, 渡邊信元, 清野透, 稲垣昌樹**: 新規リン酸化反応による分裂期キナーゼPlk1の活性制御メカニズム. 第34回日本分子生物学会年会, 2011, (横浜), [ポスター]
- 014 **松山誠, 田中宏樹, 小堀恭子, 井澤一郎, 稲垣昌樹**: ピメンチンの細胞周期特異的なリン酸化部位に変異を導入した遺伝子改変マウスは腫瘍形成や白内障を引き起こす. 第34回日本分子生物学会年会, 2011, (横浜), [ワークショップ]
- 015 **松山誠, 田中宏樹, 小堀恭子, 井澤一郎, 稲垣昌樹**: ピメンチンの細胞周期特異的なリン酸化部位に変異を導入した遺伝子改変マウスは腫瘍形成や白内障を引き起こす. 第34回日本分子生物学会年会, 2011, (横浜), [ポスター]
- 016 **李萍, 後藤英仁, 松山誠, 笠原広介, 村上善子, 谷田部恭, 清野透, 稲垣昌樹**: p90 RSK (Ribosomal S6 Kinase)によるChk1-Ser280のリン酸化修飾. 第34回日本分子生物学会年会, 2011, (横浜), [ポスター]
- 017 **笠原広介**: Novel mitotic signaling pathway from Akt/PKB to Polo-like kinase 1 (Plk1). 第4回NAGOYAグローバルリトリート, 2012, (大府), [シンポジウム]

018 李萍 : P90 ribosomal S6 kinase (p90 RSK) arranges Chk1 in the nucleus to monitor. 第4回NAGOYAグローバルリトリート, 2012, (大府), [ポスター]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (総長)

総 長

- 001 **Nimura Y** : Future perspective. In : Venous Embolization of the Liver. Eds. Madoff D, Makuuchi M, Nagino M, Vauthey JN, Springer, London, UK, 307-310, 2011.
- 002 **Rahbari NN, Garden OJ, Padbury R, Maddern G, Koch M, Hugh TJ, Fan ST, Nimura Y, Figueras J, Vauthey JN, Rees M, Adam R, Dematteo RP, Greig P, Usatoff V, Banting S, Nagino M, Capussotti L, Yokoyama Y, Brooke-Smith M, Crawford M, Christophi C, Makuuchi M, B?chler MW, Weitz J** : Post-hepatectomy haemorrhage : a definition and grading by the International Study Group of Liver Surgery (ISGLS). *HPB*,13 :528-535, 2011.
- 003 **Nimura Y, Kitagawa Y** : Intrahepatic stones. In : Blumgart's Surgery of the Liver, Biliary Tracts, and Pancreas, 5th Edition. Eds. Jarnagin, Belghiti, B?chler, Chapman, D'Angelica, DeMatteo, Hann, Elsevier, Philadelphia, USA, 583-594, 2012.
- 004 **Sano T, Nimura Y** : Extended hepatic resections for biliary tumors : an alternative approach : Blumgart's Surgery of the Liver, Biliary Tracts, and Pancreas, 5th Edition. Eds. Jarnagin, Belghiti, B?chler, Chapman, D'Angelica, DeMatteo, Hann, Elsevier, Philadelphia, USA, 1512-1519, 2012.
- 005 **Nimura Y** : Resection for hilar cholangiocarcinoma. In : Master Techniques in Surgery, Hepatobiliary and Pancreatic Surgery. Eds. Lillemoe K, Jarnagin W, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, USA, 331-343, 2012.
- 006 **Nimura Y, Nagino M, Takao S, Takada T, Miyazaki K, Kawarada Y, Miyagawa S, Yamaguchi A, Ishiyama S, Takeda Y, Sakoda K, Kinoshita T, Yasui K, Shimada H, Katoh H** : Standard versus extended lymphadenectomy in radical pancreatoduodenectomy for ductal adenocarcinoma of the head of the pancreas : Long-term results of a Japanese multicenter randomized controlled trial. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 19 :230-241, 2012.
- 007 **Nimura Y** : In response to the article of Dr. Nadia Papparini, "Extended lymphadenectomy does not improve prognosis in pancreatic carcinoma : is that really so?". *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 19 :299, 2012.
- 008 **Fukutomi A, Furuse J, Okusaka T, Miyazaki M, Taketsuna M, Koshiji M, Nimura Y** : Effect of biliary drainage on chemotherapy in patients with biliary tract cancer : an exploratory analysis of the BT22 study. *HPB*, 14 :221-227, 2012.
- 009 **二村雄次** : 手術 I. 肝臓、胆道系、膵臓の手術、II. 手術の合併症. *NEW外科学* 改訂第3版, 南江堂, 東京, 767-781, 2012.
- 010 **二村雄次** : 近藤 哲前理事長の遺志を語る. *胆道*, 26 :154-161, 2012.

5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病院長

- 01 **Ozawa S, Tachimori Y, Baba H, Fujihira M, Matsubara H, Numasaki H, Oyama T, Shinoda M, Takeuchi H, Tanaka O, Teshima T, Udagawa H, Uno T, J. patrick Barron** : Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2003. Esophagus, 8 : 9-29, 2011.
- 02 **Ryu M, Hamano M, Nakagawara A, Shinoda M, Shimizu H, Miura T, Yoshida I, Nemoto A, and Yoshikawa A** : The Benchmark Analysis of Gastric, Colorectal and Rectal Cancer Pathways : Toward Establishing Standardized Clinical Pathway in the Cancer Care. Jpn j Clin Oncol, 41(1) : 2-9, 2011.
- 03 波戸岡俊三、安部哲也、丹羽由紀子、福井高幸、伊藤志門、光富徹哉、篠田雅幸 : パネルディスカッション2 頭頸部・気管・食道科領域の重複癌に対する診断と治療 食道がんからみた他臓器重複がんの解析. 日本気管食道科学会. 62 (2) : 160-161, 2011.
- 04 安部哲也、波戸岡俊三、丹羽由紀子、齊藤卓也、深谷昌秀、篠田雅幸 : 食道切除胃管再建時における経腸栄養チューブ挿入方法の工夫. 手術. 65 (5) 589-592. 2011.
- 05 篠田雅幸、波戸岡俊三、安部哲也 : 食道癌 - 基礎・臨床研究の進歩 - IV. 食道癌の再発とその治療 食道癌根治術後の再発. 日本臨床69 (6) : 414-419. 2011
- 06 安藤暢敏、篠田雅幸、福田治彦 : 食道癌-基礎・臨床研究の進歩-VI. 食道癌の多施設共同試験 我が国における食道癌の多施設共同試験 我が国における食道癌の多施設共同研究JCOG試験の概要と成績. 日本臨床69 (6) : 451-457. 2011.

消化器内科部

[原著]

- 001 **Hara K, Yamao K, Niwa Y, Sawaki A, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Kobayashi Y, Matumoto K, Bhatia V, Shimizu Y, Ito A, Hirooka Y, Goto H** : Prospective Clinical Study of EUS-Guided Choledochoduodenostomy for Malignant Lower Biliary Tract Obstruction. Am J Gastroenterol, 106(7) : 1239-1245, 2011.
- 002 **Ju HX, An B, Okamoto Y, Shinjo K, Kanemitsu Y, Komori K, Hirai T, Shimizu Y, Sano T, Sawaki A, Tajika M, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Ito H, Takeuchi I, Sekido Y, Kondo Y** : Distinct profiles of epigenetic evolution between colorectal cancers with and without metastasis. Am J Pathol, 178(4) : 1835-1846, 2011.
- 003 **Nakao M, Matsuo K, Hosono S, Ogata S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Iida S, Sato S, Yatabe Y,**

- Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H** : ABO blood group alleles and the risk of pancreatic cancer in a Japanese population. Cancer Sci., 102(5) : 1076-1080, 2011.
- 004 **Hara K, Bhatia V, Hijioka S, Mizuno N, Yamao K** : A convex eus is useful to diagnose vascular invasion of cancer, especially hepatic hilus cancer. Digestive Endoscopy, Suppl(1) : 26-8, 2011.
- 005 **Ueno H, Okusaka T, Furuse J, Yamao K, Funakoshi A, Boku N, Ohkawa S, Yokosuka O, Tanaka K, Moriyasu F, Nakamori S, Sato T** : Multicenter phase II study of gemcitabine and S-1 combination therapy (GS Therapy) in patients with metastatic pancreatic cancer. Jpn J Clin Oncol, 41(8) : 953-958, 2011.
- 006 **Nakao M, Matsuo K, Ito H, Shitara K, Hosono S, Watanabe M, Ito S, Sawaki A, Iida S, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Hamajima N, Tanaka H** : ABO genotype and the risk of gastric cancer, atrophic gastritis, and Helicobacter pylori infection. Cancer Epidemiol Biomarkers Prev, 20(8) : 1665-1672, 2011.
- 007 **Hijioka S, Matsuo K, Mizuno N, Hara K, Mekky MA, Vikram B, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Kondo S, Tajika M, Niwa Y, Tamada K, Yamao K** : Role of endoscopic ultrasound and endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration in diagnosing metastasis to the pancreas : a tertiary center experience. Pancreatology, 11(4) : 390-398, 2011.
- 008 **Ogura T, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y** : Clinical impact of K-ras mutation analysis in Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration specimens from pancreatic masses. Gastrointestinal Endoscopy, 75(4) : 769-774, 2011.
- 009 **Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Yamao K** : Comparison of endoscopic submucosal dissection and endoscopic mucosal resection for large colorectal tumors. Eur J Gastroenterol Hepatol, 23(11) : 1042-1049, 2011.
- 010 **Nakao M, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K** : Interaction between IGF-1 polymorphisms and overweight for the risk of pancreatic cancer in Japanese. Int J MolEpidemiol Genet, 2(4) : 354-366, 2011.
- 011 **Ennishi D, Shitara K, Ito H, Hosono S, Watanabe M, Ito S, Sawaki A, Yatabe Y, Yamao K, Tajika K, Tanimoto M, Tanaka H, Hamajima N, Matsuo K** : Association between insulin-like growth factor-1 polymorphisms and stomach cancer risk in a Japanese population. Cancer Sci, 102(12) : 2231-2235, 2011.
- 012 **Kitano M, Kudo M, Yamao K, Takagi T, Sakamoto H,**

- Komaki T, Kamata K, Imai H, Chiba Y, Okada M, Murakami T, Takeyama Y*: Characterization of small solid tumors in the pancreas: the value of contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography. *Am J Gastroenterol*, 107(2): 303-10, 2012.
- 013 *Okamoto Y, Sawaki A, Ito S, Nishida T, Takahashi T, Toyota M, Suzuki H, Shinomura Y, Takeuchi I, Shinjo K, An B, Ito H, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Kataoka H, Joh T, Sekido Y, Kondo Y*: Aberrant DNA methylation associated with aggressiveness of gastrointestinal stromal tumour. *Gut*, 61(3): 392-401, 2012.
- 014 山雄健次, 柳澤昭夫, 高橋邦幸, 木村理, 土井隆一郎, 福島敬宜, 大池信之, 清水道生, 羽鳥隆, 信川文誠, 一二三倫郎, 小林祐次, 飛田浩輔, 丹野誠志, 杉山政則, 宮坂義浩, 中郡聡夫, 山口武人, 花田敬士, 阿部秀樹, 多田稔, 藤田直孝, 田中雅夫: 卵巣型間質を伴うMCNの臨床病理学的特徴と予後. 日本膵臓学会多施設共同研究から. *膵臓*, 27(1): 9-16, 2012.

[座談会]

- 001 宮崎勝, 山雄健次, 森実千種, 太田岳洋: 【見直される胆道がん診療の新展開】見直される胆道がん診療の新展開(座談会/特集). *肝・胆・膵*, 62(6): 1163-1178, 2011.
- 002 古瀬純司, 山雄健次, 上坂彦彦, 石井浩, 奥坂拓志, 大川伸一: 膵癌治療のこれから. これまでの10年を振り返って. *膵・胆道癌Frontier*, 1(1): 4-13, 2011.
- 003 多田稔, 田中雅夫, 柳澤昭夫, 山雄健次, 羽鳥 隆: 【嚢胞性膵腫瘍の新知見-膵臓学会嚢胞性膵腫瘍委員会全国調査の結果を踏まえて-】. *肝・胆・膵*, 63(5): 827-848, 2011.

[症例報告]

- 001 *Hijioka S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Mekky MA, El-Amin H, El-AbdeenAhmed Sayed Z, Tajika M, Niwa Y, Yamao K*: Contrast-enhanced endoscopic ultrasonography (CE-EUS) findings in adrenal metastasis from renal cell carcinoma. *J Med Ultrason*, 38(2): 89-92, 2011.
- 002 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Haba S, Ogura T, Hirai T, Yamao K, Yatabe Y*: A first report of tumor cell implantation after EMR in a patient with rectosigmoid cancer. *Gastrointest Endosc*, 75(5): 1117-1118, 2011.
- 003 肱岡範, 原和生, 水野伸匡, 高木忠之, 小倉健, 羽場真, 千田嘉毅, 佐野力, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次: EUS-FNAが診断に有用であった非露出腫瘤型乳頭部癌の1例. *日本胆道学会*, 25(2): 196-202, 2011.
- 004 品川秋秀: TS-1/low dose CDDP併用療法が著効した肝細胞癌の2例. *愛仁会医学研究誌*, 42: 84-88, 2011.
- 005 小倉健, 山雄健次, 肱岡範, 原和生, 澤木明, 水野伸匡, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 羽場真, 友野輝子, 清水怜, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭: 転移性膵平滑筋肉腫の1例 EUS-FNAの有用性と問題点. *日本消化器病学会*, 108(6): 987-996, 2011.
- 006 宮岡洋一, 泉大輔, 三上博信, 矢崎友隆, 森藤吉哉, 今岡大,

藤代浩史, 高下成明, 今岡友紀, 大沼秀行: ESDにて治療し得た胃底腺型超高分化腺癌の1例. *Gastroenterological Endoscopy*, 53(7): 1778-1785, 2011.

- 007 佐野力, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 原和生, 山雄健次, 二村雄次: 肝門部胆管癌に対する肝左3区域切除時の右肝動脈再建に左肝動脈を用いた1例. *胆道*, 25(4): 672-679, 2011.
- 008 小倉健, 田近正洋, 丹羽康正, 河合宏紀, 近藤真也, 澤木明, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 中村正直, 樋口和秀, 後藤秀実, 山雄健次: 再発大腸癌に対するXELOX療法中に発症した免疫性溶血性貧血の1例. *日本消化器病学会*, 108(10): 1712-1719, 2011.

[総説、その他]

- 001 *Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Bhatia V, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K*: Current concept of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic cancer. *Pancreatol*, 11(Suppl 2): 40-46, 2011.
- 002 *Kudo M, Yamao K, Shimosegawa T*: The prognosis of patients with pancreatic cancer is extremely poor. *Pancreatol*, 11(Suppl2): 1-2, 2011.
- 003 *Leong Ang T, De Angelis CG, Alvarez-Sanchez M, Chak A, Chang KJ, Chen R, Eloubeidi M, Herth FJ, Hirooka K, Irisawa A, Jin Z, Kida M, Kitano M, Levy MJ, Maguchi H, Napoleon BV, Penman I, Seewald S, Wang G, Wallace M, Yamao K, Yasuda I, Yasuda K, Yasufuku K*: EUS 2010 in Shanghai - Highlights and Scientific Abstracts. *Endoscopy*, 43(Suppl3): S1-20, 2011.
- 004 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 澤木明, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 小倉健, 羽場真, 山雄健次: 膵がん患者、家族からかかりつけ医への質問. エコー検査で膵がんの疑いがあるといわれました. エコー以外の検査法には何があるのでしょうか?. *治療*, 93(4月増刊): 923-926, 2011.
- 005 山雄健次: 特集/膵・胆道の良性～低悪性病変. 巻頭言. *臨床消化器内科*, 26(5): 201-502, 2011.
- 006 肱岡範, 原和生, 水野伸匡, 澤木明, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 小倉健, 羽場真, 赤羽麻奈, 清水泰博, 山雄健次: 【膵疾患診療の現状と展望】閉塞性黄疸に対する治療. *総合臨床*, 60(5): 756-761, 2011.
- 007 肱岡範, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 澤木明, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 小倉健, 羽場真, 千田嘉毅, 佐野力, 清水泰博: 胆嚢を極める検査胆嚢の超音波内視鏡検査. *外科*, 73(5): 484-490, 2011.
- 008 山雄健次: 特集経過を追えた小膵癌-この所見に気をつけろ!～症例のまとめ～各症例からみた有効な経過観察方法. *肝胆膵画像*, 13(3): 307-309, 2011.
- 009 清水泰博, 金光幸秀, 佐野力, 千田嘉毅, 安藤公隆, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 山雄健次, 二村雄二: 【膵IPMNの手術適応の見直し】膵管内乳頭腫瘍 (IPMN) 癌予測ノモグラムの作成. *消化器内科*, 52(6): 660-665, 2011.
- 010 原和生, 山雄健次, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 田中努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: 【見直される

- 胆道がん診療の新展開】EUS下胆道ドレナージ術. 肝・胆・膵, 62(6): 1047-1054, 2011.
- 011 羽場真, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博: 【消化器癌のサーベイランス】胆道、胆嚢. The GI Forefront, 7(1): 31-33, 2011.
- 012 小倉健, 山雄健次: 【膵臓症候群(第2版) - その他の膵臓疾患を含めて-】膵腫瘍 嚢胞性腫瘍 粘液性嚢胞性腫瘍(MCN). 日本臨床: 256-259, 2011.
- 013 小倉健, 山雄健次, 原和生, 水野伸匡, 脇岡範, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博: 【胆道・膵疾患の画像診断】膵疾患 膵嚢胞性疾患(IPMN). 消化器外科, 34(8): 1213-1222, 2011.
- 014 原和生, 山雄健次, 脇岡範, 水野伸匡, 佐伯哲, 小倉健, 羽場真, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: 【腹部超音波検査up-to-date】超音波内視鏡下穿刺吸引生検および細胞診法: EUS-FNA. 臨床消化器内科, 26(9): 1293-1299, 2011.
- 015 羽場真, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博: 【消化器癌の予防とサーベイランス】胆管・胆嚢癌の予防とサーベイランス. G. I. リサーチ, 19(4): 342-347, 2011.
- 016 原和生, 山雄健次, 脇岡範, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 田中努, 近藤真也, 田近正洋, 越川卓, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正: 【EUS-FNA Now】EUS-FNA穿刺材料の取り扱い. 消化器内視鏡, 23(8): 1321-1326, 2011.
- 017 長谷川俊之, 脇岡範, 水野伸匡, 原和生, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次: 【膵神経内分泌腫瘍-Up date 2011】膵神経内分泌腫瘍の生検診断. 肝・胆・膵, 63(2): 293-300, 2011.
- 018 今岡大, 原和生, 水野伸匡, 脇岡範, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次, 田中努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博: 外科手術手技の実際 コツと工夫 EUS-BD(超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ)の実際. 膵・胆道癌Frontier, 1(1): 32-35, 2011.
- 019 脇岡範, 水野伸匡, 原和生, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 長谷川俊之, 大林友彦, 玉木恒男, 山雄健次, 品川秋秀: 【自己免疫性膵炎と膵癌の鑑別】FDG-PETによる自己免疫性膵炎と膵癌の早期鑑別法. 消化器内科, 53(6): 701-706, 2011.
- 020 小倉健, 山雄健次, 原和生, 水野伸匡, 脇岡範, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭: 【嚢胞性膵腫瘍の新知見-膵臓学会嚢胞性膵腫瘍委員会全国調査の結果を踏まえて-】膵嚢胞性腫瘍の全国調査で明らかにされた新知見の要点 MCNは悪性度が高く原則切除は妥当か?. 肝・胆・膵, 63(5): 765-770, 2011.
- 021 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 今岡大, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 【膵炎-診断と治療の最前線】各論 自己免疫性膵炎 自己免疫性膵炎と膵癌との鑑別. 肝胆膵画像, 13(7): 735-741, 2011.
- 022 今岡大, 清水泰博, 山雄健次: 【胆・膵疾患診療の最前線 新しいガイドラインによる有用な実地診療】セミナー/知っておくべき臨床知識 胆・膵疾患の画像診断のポイントとコツ 腫瘍性病変を中心に. Medical Practice, 29(1): 55-59, 2012.
- 023 原和生, 山雄健次, 脇岡範, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 田中努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: 【内視鏡的胆膵管ドレナージのすべて】EUS下胆管ドレナージ. 消化器内視鏡, 24(3): 295-302, 2012.
- 024 脇岡範: ガイドライン外来診療 2012 膵癌. 日経ガイドライン2012: 2012.
- 025 山雄健次, 脇岡範, 原和生: 誌上ディベート非切除胆道癌の肝門部胆管狭窄に対する内視鏡的胆管ステント留置術 メタリックorプラスチック 各論を総括して. 膵・胆道癌Frontier, 2(1): 23, 2012.
- 026 山雄健次: 序説・CAPS Summit Meetingの内容と欧米での画像診断法の選択-MRCPとEUSによるスクリーニングについて. 肝胆膵画像, 14(2): 101-105, 2012.
- 027 山雄健次: 特集胆道・膵のドレナージとステント. 臨床消化器内科, 27(4): 395-396, 2012.
- 【分担執筆】
- 001 脇岡範, 澤木明: グリベック. 血管新生阻害薬のベストマネージメント: 2011.
- 002 脇岡範, 近藤真也, 丹羽康正, 山雄健次: PNETの診断. NE T診断治療 実践マニュアル: 2011.
- 003 脇岡範, 原和生, 山雄健次: EUS下胆道ドレナージおよび腹腔神経節ブロック術. 先端医療シリーズ42 消化器疾患: 2011.
- 004 脇岡範, 山雄健次: 胆管ドレナージ法(経皮経肝、内視鏡的: 経乳頭的). 今日の治療指針: 2012.
- 内視鏡部
- 【原著】
- 001 Hara K, Yamao K, Niwa Y, Sawaki A, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Kobayashi Y, Matumoto K, Bhatia V, Shimizu Y, Ito A, Hirooka Y, Goto H: Prospective Clinical Study of EUS-Guided Choledochoduodenostomy for Malignant Lower Biliary Tract Obstruction. Am J Gastroenterol, 106(7): 1239-1245, 2011.
- 002 Ju HX, An B, Okamoto Y, Shinjo K, Kanemitsu Y, Komori K, Hirai T, Shimizu Y, Sano T, Sawaki A, Tajika M, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Ito H, Takeuchi I, Sekido Y, Kondo Y: Distinct profiles of epigenetic evolution between colorectal cancers with and without metastasis. Am J Pathol, 178(4): 1835-1846, 2011.
- 003 Shitara K, Ura T, Matsuo K, Takahari D, Yokota T,

- Yuki S, Yoshida M, Utsunomiya S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Inaba Y, Tajika M, Kawai H, Yamazaki K, Komatsu Y, Muro K* : Sensitivity to previous irinotecan treatment does not predict the efficacy of combination chemotherapy with cetuximab plus irinotecan for wild-type KRAS metastatic colorectal cancer. *Eur J Cancer*, 47(18) : 2673-2680, 2011.
- 004 *Hijioka S, Matsuo K, Mizuno N, Hara K, Mekky MA, Vikram B, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Kondo S, Tajika M, Niwa Y, Tamada K, Yamao K* : Role of endoscopic ultrasound and endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration in diagnosing metastasis to the pancreas : a tertiary center experience. *Pancreatology*, 11(4) : 390-398, 2011.
- 005 *Nakamura S, Sugiyama T, Matsumoto T, Iijima K, Ono S, Tajika M, Tari A, Kitadai Y, Matsumoto H, Nagaya T, Kamoshida T, Watanabe N, Chiba T, Origasa H, Asaka M; for the JAPAN GAST Study Group* : Long-term clinical outcome of gastric MALT lymphoma after eradication of *Helicobacter pylori* : a multicentre cohort follow-up study of 420 patients in Japan. *Gut*, 61(4) : 507-513, 2011.
- 006 *Ogura T, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y* : Clinical impact of K-ras mutation analysis in Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration specimens from pancreatic masses. *Gastrointest Endosc*, 75(4) : 769-774, 2011.
- 007 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Yamao K* : Comparison of endoscopic submucosal dissection and endoscopic mucosal resection for large colorectal tumors. *Eur J Gastroenterol Hepatol*, 23(11) : 1042-1049, 2011.
- 008 *Tanaka T, Shimada K, Yamamoto K, Hirooka Y, Niwa Y, Sugiura I, Kitamura K, Kosugi H, Kinoshita T, Goto H, Nakamura S* : Retrospective analysis of primary gastric diffuse large B cell lymphoma in the rituximab era : a multicenter study of 95 patients in Japan. *Ann Hematol*, 91(3) : 383-390, 2012.
- 009 近藤真也, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 安藤貴文, 後藤秀実 : 食道癌における放射線, 化学放射線療法後の遺残再発病変に対する当院での内視鏡治療. *臨床消化器内科*, 26(10) : 1411-1416, 2011.
- 〔症例報告〕
- 001 *Hijioka S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Mekky MA, El-Amin H, El-Abdeen Ahmed Sayed Z, Tajika M, Niwa Y, Yamao K* : Contrast-enhanced endoscopic ultrasonography (CE-EUS) findings in adrenal metastasis from renal cell carcinoma. *J Med Ultrason*, 38(2) : 89-92, 2011.
- 002 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Haba S, Ogura T, Hirai T, Yamao K, Yatabe Y* : A first report of tumor cell implantation after EMR in a patient with rectosigmoid cancer. *Gastrointest Endosc*, 75(5) : 1117-1118, 2011.
- 003 *Tanaka T, Megahed N, Takata K, Asano N, Niwa Y, Hirooka Y, Goto H* : A case of lymphomatoid gastritis : An indolent CD56-positive atypical gastric lymphoid proliferation, mimicking aggressive NK/T cell lymphomas. *Pathol Res Pract*, 207(12) : 786-789, 2011.
- 010 脇岡範, 原和生, 水野伸匡, 高木忠之, 小倉健, 羽場真, 千田嘉毅, 佐野力, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次 : EUS-FNAが診断に有用であった非露出腫瘍型乳頭部癌の1例. *日本胆道学会*, 25(2) : 196-202, 2011.
- 011 小倉健, 山雄健次, 脇岡範, 原和生, 澤木明, 水野伸匡, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 羽場真, 友野輝子, 清水怜, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭 : 転移性腓平滑筋肉腫の1例 EUS-FNAの有用性と問題点. *日本消化器病学会*, 108(6) : 987-996, 2011.
- 012 小倉健, 田近正洋, 丹羽康正, 河合宏紀, 近藤真也, 澤木明, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 中村正直, 樋口和秀, 後藤秀実, 山雄健次 : 再発大腸癌に対するXELOX療法中に発症した免疫性溶血性貧血の1例. *日本消化器病学会*, 108(10) : 1712-1719, 2011.
- 〔総説、その他〕
- 001 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 澤木明, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 小倉健, 羽場真, 山雄健次 : 膵がん患者、家族からかかりつけ医への質問 エコー検査で膵がんの疑いがあるといわれました。エコー以外の検査法には何かあるのでしょうか?. *治療*, 93(4月増刊) : 923-926, 2011.
- 002 脇岡範, 原和生, 水野伸匡, 澤木明, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 小倉健, 羽場真, 赤羽麻奈, 清水泰博, 山雄健次 : 【膵疾患診療の現状と展望】閉塞性黄疸に対する治療. *総合臨床*, 60(5) : 756-761, 2011.
- 003 脇岡範, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 澤木明, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 小倉健, 羽場真, 千田嘉毅, 佐野力, 清水泰博 : 胆嚢を極める検査胆嚢の超音波内視鏡検査. *外科*, 73(5) : 484-490, 2011.
- 004 丹羽康正, 宮原良二, 坂野閣紀, 後藤秀実 : 食道表在癌2011・臨床研究・endomicroscopy. *胃と腸*, 46(5) : 730-738, 2011.
- 005 原和生, 山雄健次, 脇岡範, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 田中努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正 : 【見直される胆道がん診療の新展開】EUS下胆道ドレナージ術. *肝・胆・膵*, 62(6) : 1047-1054, 2011.
- 006 羽場真, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博 : 【消化器癌のサーベイランス】胆道、胆嚢. *The GI Forefront*, 7(1) : 31-33, 2011.
- 007 小倉健, 山雄健次, 原和生, 水野伸匡, 脇岡範, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博 : 【胆道・膵疾患の

- 画像診断】膵疾患 膵嚢胞性疾患(IPMN). 消化器外科, 34(8) : 1213-1222, 2011.
- 008 羽場真, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博 : 【消化器癌の予防とサーベイランス】胆管・胆嚢癌の予防とサーベイランス. G. I. リサーチ, 19(4) : 342-347, 2011.
- 009 原和生, 山雄健次, 肱岡範, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秀秋, 長谷川俊之, 田中努, 近藤真也, 田近正洋, 越川卓, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正 : 【EUS-FNA Now】EUS-FNA穿刺材料の取り扱い. 消化器内視鏡, 23(8) : 1321-1326, 2011.
- 010 長谷川俊之, 肱岡範, 水野伸匡, 原和生, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次 : 【膵神経内分泌腫瘍-Up date 2011】膵神経内分泌腫瘍の生検診断. 肝・胆・膵, 63(2) : 293-300, 2011.
- 011 田近正洋, 丹羽康正 : 質疑応答 EMR, ESD施行時の色素・拡大・分光観察による術前診断の意義. 日本医事新報, 4557 : 54-57, 2011.
- 012 今岡大, 原和生, 水野伸匡, 肱岡範, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次, 田中努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博 : 外科手術手技の実際 コツと工夫 EUS-BD(超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ)の実際. 膵・胆道癌Frontier, 1(1) : 32-35, 2011.
- 013 肱岡範, 水野伸匡, 原和生, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 長谷川俊之, 大林友彦, 玉木恒男, 山雄健次, 品川秋秀 : 【自己免疫性膵炎と膵癌の鑑別】FDG-PETによる自己免疫性膵炎と膵癌の早期鑑別法. 消化器内科, 53(6) : 701-706, 2011.
- 014 小倉健, 山雄健次, 原和生, 水野伸匡, 肱岡範, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭 : 【嚢胞性膵腫瘍の新知見-膵臓学会嚢胞性膵腫瘍委員会全国調査の結果を踏まえて-】膵嚢胞性腫瘍の全国調査で明らかにされた新知見の要点 MCNは悪性度が高く原則切除は妥当か?. 肝・胆・膵, 63(5) : 765-770, 2011.
- 015 水野伸匡, 原和生, 肱岡範, 今岡大, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 【膵炎-診断と治療の最前線】各論 自己免疫性膵炎 自己免疫性膵炎と膵癌との鑑別. 肝胆膵画像, 13(7) : 735-741, 2011.

〔分担執筆〕

- 001 肱岡範, 近藤真也, 丹羽康正, 山雄健次 : PNETの診断. NET T診断治療 実践マニュアル, 2011.

呼吸器内科部

〔原著〕

- 001 Murakami H, Mizuno T, Taniguchi T, Fujii M, Ishiguro F, Fukui T, Akatsuka S, Horio Y, Hida T, Kondo Y, Toyokuni S, Osada H, Sekido Y : LATS2 is a

tumor suppressor gene of malignant mesothelima. Cancer Res, 71 : 873-883, 2011.

- 002 Hida T, Tamiya M, Nishio M, Yamamoto N, Hirashima T, Horai T, Tani H, Shi MM, Kobayashi K, Horio Y : Phase I study of intravenous ASA404 (vadimezan) administered in combination with paclitaxel and carboplatin in Japanese patients with non-small cell lung cancer. Cancer Sci, 102 : 845-851, 2011.
- 003 Ogawa S, Horio Y, Yatabe Y, Fukui T, Ito S, Hasegawa Y, Mitsudomi T, Hida T : Patterns of recurrence and outcome in patients with surgically resected small cell lung cancer. Int J Clin Oncol, online 30, 2011.
- 004 Daga H, Hida T, Ishikawa S, Shimizu J, Tokunaga S, Horio Y, Kobayashi K, Takeda K : The safety and tolerability of intravenous ASA404 when administered in combination with docetaxel(60 or 75 mg/m²)in Japanese patients with advanced or recurrent solid tumors. Jpn J Clin Oncol, 41 : 1067-1073, 2011.
- 005 Tamura M, Kondo M, Horio M, Ando M, Saito H, Yamamoto M, Horio Y, Hasegawa Y : Genetic polymorphisms of the adenosine triphosphate-binding cassette transporters (ABCG2, ABCB1) and gefitinib toxicity. Nagoya J Med Sci, 74 : 133-140, 2012.
- 006 樋田豊明, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀 : 個別化治療の適応により著効を示した肺がん症例-長期生存中の進行非小細胞肺癌症例-. 臨床腫瘍プラクティス, 7 : 110-113, 2011.

〔総説、その他〕

- 001 樋田豊明 : 非小細胞肺がんの抗がん剤治療について教えてください. がん診療サポートガイド, 962-964, 2011.
- 002 清水淳市, 光富徹哉 : 臨床講座-32 肺がんの分子の治療. Pharma Tribune, 3(8) : 43-54, 2011.
- 003 朴 将哲, 光富徹哉 : 分子標的治療薬. インフォームドコンセントのための図説シリーズ 抗悪性腫瘍薬 肺がん改訂版, 14-19, 2011.

血液・細胞療法部

- 001 小野田浩, 木下朝博, 谷田部恭 : 二次性形質細胞性白血病の1例 2011. vol. 21 No. 10 血液フロンティア
- 002 島田和之, 木下朝博 : 血管内大細胞型B細胞リンパ腫の治療. 白血病リンパ腫 骨髄腫 今日の診断と治療 第4版 : 413-418, 2011
- 003 木下朝博 : 悪性リンパ腫-最近の診断と治療の進展、総合臨床第60巻3号 : 459-460, 2011
- 004 Watanabe T, Tobinai K, Shibata T, Tsukasaki K, Morishima Y, Maseki N, Kinoshita T, Suzuki T, Yamaguchi M, Ando K, Ogura M, Taniwaki M, Uike N, Takeuchi K, Nawano S, Terauchi T, Hotta T. : Phase II/III Study of R-CHOP-21 Versus R-CHOP-14 for Untreated Indolent B-Cell Non-Hodgkin's Lymphoma : JCOG 0203 Trial. J Clin Oncol. 29 : 3990-3998, 2011.

- 005 **Tanaka T, Shimada K, Yamamoto K, Hirooka Y, Niwa Y, Sugiura I, Kitamura K, Kosugi H, Kinoshita T, Goto H, Nakamura S.** : Retrospective analysis of primary gastric diffuse large B cell lymphoma in the rituximab era : a multicenter study of 95 patients in Japan. *Ann Hematol.* 2012 ; 91(3) : 383-90. PMID : 21822617
- 006 **Nagai H, Ogura M, Kusumoto S, Takahashi N, Yamaguchi M, Takayama N, Kinoshita T, Motoji T, Ohyashiki K, Kosugi H, Matsuda S, Ohnishi K, Omachi K, Hotta T.** : Cladribine combined with rituximab (R-2-CdA) therapy is an effective salvage therapy in relapsed or refractory indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma. *Eur J Haematol.* 86 : 117-123, 2011.
- 007 **Miyazaki K, Yamaguchi M, Suzuki R, Kobayashi Y, Maeshima AM, Niitsu N, Ennishi D, Tamaru JI, Ishizawa K, Kashimura M, Kagami Y, Sunami K, Yamane H, Nishikori M, Kosugi H, Yujiri T, Hyo R, Katayama N, Kinoshita T, Nakamura S.** *CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma* : a retrospective study in 337 patients treated by chemotherapy with or without rituximab. *Ann Oncol.* 22 : 1601-1607, 2011.
- 008 **Fukuhara S, Watanabe T, Munakata O, Mori M, Maruyama D, Kim S-W, Kobayashi Y, Taniguchi H, Maeshima A, Matsuno Y, Tobinai K.** : Bulky disease has an impact on outcomes in primary diffuse large B-cell lymphoma of the breast : a retrospective analysis at a single institution. *Eur J Haematol* 2011;87 : 434-40.
- 009 **Tsukasaki K, Tobinai K, Hotta T, Shimoyama M.** : Lymphoma Study Group of JCOG. *Jpn J ClinOncol.* 42(2) : 85-95, 2012.
- 010 **Ohmachi K, Tobinai K, Kobayashi Y, Itoh K, Nakata M, Shibata T, Morishima Y, Ogura M, Suzuki T, Ueda R, Aikawa K, Nakamura S, Fukuda H, Shimoyama M, Hotta T.** : Phase III trial of CHOP-21 versus CHOP-14 for aggressive non-Hodgkin lymphoma : final results of the Japan Clinical Oncology Group Study, JCOG 9809. *Ann Oncol* 2011;22 : 1382-91.
- 011 **加藤春美, 山本一仁** : 愛知県がんセンター中央病院血液・細胞療法部、低悪性度リンパ腫に対するボルテゾミブの臨床効果、血液内科第64号5号
- 012 **Kagami Y, Sivasundaram K, Nakagawa A, Oshiro K, Kato H, Koike K, Morishima Y and Seto M.** : Establishment of an Adult T-Cell Leukemia Cell Line (HU-ATTAK) Dependent for Proliferation on Human Umbilical Cord Vein Endothelial Cells *The Open Leukemia Journal*, 4 : 1-8, 2011.
- 013 **Kato H, Kagami Y, Kodaira T, Oka S, Oki Y, Chihara D, Taji H, Yatabe Y, Nakamura T, Nakamura S, Seto M, Yamamoto K, Morishima Y.** : Nodal relapse after *Helicobacter pylori* eradication in a patient with primary localized gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma. *Am J Gastroenterol.* 2011 Mar;106(3) : 549-51.
- 014 **Kato H, Yamamoto K, Oki Y, Ine S, Taji H, Chihara D, Kagami Y, Seto M and Morishima Y.** : Clinical value of flow cytometric immunophenotypic analysis for minimal residual disease detection in autologous stem-cell products of follicular and mantle cell lymphomas. *Leukemia.* 2012 ;26(1) : 166-9.
- 015 **Kato H, Yamamoto K, Taji H, Oki Y, Chihara D, Seto M, Kagami Y and Morishima Y.** : Interstitial pneumonia after autologous hematopoietic stem cell transplantation in B-cell non-Hodgkin lymphoma *Clin Lymphoma Myeloma Leuk.* 2011 ;11(6) : 483-9.
- 016 **Chihara D., Oki Y., Onoda H., Taji H., Yamamoto K., Tamaki T., Morishima Y.** : High maximum standard uptake value (SUVmax) on PET scan is associated with shorter survival in patients with diffuse large B cell lymphoma. *Leuk Lymphoma.* 2011;52(12) : 2270-5. PMID : 21745170
- 017 **Kobayashi Y, Sakamaki H, Fujisawa S, Ando K, Yamamoto K, Okada M, Ishizawa K, Nagai T, Miyawaki S, Motoji T, Usui N, Iida S, Taniwaki M, Uoshima N, Seriu T, Ohno R.** : Lack of non-hematological cross intolerance of dasatinib to imatinib in imatinib-intolerant patients with Philadelphia chromosome positive chronic myeloid leukemia or acute lymphatic leukemia : a retrospective safety analysis. *Int J Hematol.* 2011;93(6) : 745-9. PMID : 21594763
- 018 **Chihara D, Oki Y, Matsuo K, Onoda H, Taji H, Yamamoto K, Morishima Y.** : Incidence and risk factors for central nervous system relapse in patients with diffuse large B-cell lymphoma : analyses with competing risk regression model. *Leuk Lymphoma.* 2011;52(12) : 2270-5. PMID : 21745170
- 019 **Ishida I, Joh T., Uike N., Yamamoto K., Utsunomiya A., Yoshida S., Saburi Y., Miyamoto T., Takemoto S., Suzushima H., Tsukasaki K., Nosaka K., Fujiwara H., Ishitsuka K., Inagaki H., Ogura M., Akinaga S., Tomonaga M., Tobinai K., Ueda R.** : Defucosylated Anti-CCR4 Monoclonal Antibody (KW-0761) for Relapsed Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma : A Multicenter Phase II Study. *J ClinOncol.* 2012;30(8) : 837-42. PMID : 22312108
- 020 **Tokunaga T., Shimada K., Yamamoto K., Chihara D., Ichihashi T., Oshima R., Tanimoto M., Iwasaki T., Isoda A., Sakai A., Kobayashi H., Kitamura K., Matsue K., Taniwaki M., Tamashima S., Saburi Y., Masunari T., Naoe T., Nakamura S., Kinoshita T.** : Retrospective analysis of prognostic factors for angioimmunoblastic T-cell lymphoma : a multicenter cooperative study in Japan *Blood.* 2012;119(12) : 2837-43. PMID : 22308294
- 021 **山本一仁** : 高リスクびまん性大細胞型B細胞リンパ腫 : R-CHOPを越える治療の動向. 特集「B細胞リンパ腫治療のパラダイムシフト」*血液フロンティア* 21(10) : 77(1457)-86(1466), 2011.

- 022 稲垣裕一郎、山本一仁：白血病に対する個別化治療。特集「標準治療となった個別化治療」腫瘍内科9(1)：50-58, 2012.
- 023 山本一仁：Upfront自家移植の評価。特集「造血器腫瘍における高用量治療の評価」腫瘍内科9(2)：137-145, 2012.
- 024 山本一仁、櫻井香世：各施設におけるダザチニブの実臨床・院内整備・副作用対策編。白血病治療におけるダザチニブのすべて (メディカルレビュー社)：pp34-43, 2011.
- 025 山本一仁：悪性リンパ腫の病期診断、予後予測因子。白血病リンパ腫骨髄腫今日の診断と治療 (中外医学社)：pp338-351, 2011.

薬物療法部

- 001 *Tanai C, Nakajima E T, Nagashima K, Kato K, Hamaguchi T, Yamada Y, Muro K, Shirao K, Kunitoh H, Matsumura Y, Yamamoto S, Shimada Y* : Characteristics and Outcomes of Patients With Advanced Gastric Cancer Who Declined to Participate in a Randomized Clinical Chemotherapy Trial. *Journal of Oncology Practice*. 7(3), 148-154, 2011.
- 002 *Uehara K, Ishiguro S, Hiramatsu K, Nishio H, Takeuchi E, Daisuke T, Yoshioka Y, Takahashi Y, Ebata T, Yoshimura K, Muro K and Nagino, M* : Conversion Chemotherapy Using Cetuximab plus FOLFIRI Followed by Bevacizumab plus mFOLFOX6 in Patients with Unresectable Liver Metastases from Colorectal Cancer. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 2011.
- 003 *Kato T, Muro K, Yamaguchi K, Bando H, Hazama S, Amagai K, Baba H, Denda T, Shi X, Fukase K, Saakmaoto J, Mishima H* : Cediranib in combination with mFOLFOX6 in Japanese patients with metastatic colorectal cancer : results from the randomized phase II part of a Phase I/II study. *Annals of Oncology*, 10. 1093 : mdr359, 2011.
- 004 *Sato T, Yamada Y, Muro K, Hayashi H, Shimada Y, Takahari D, Taku K, Nakajima ET, Shi X, Brown K, Boku N* : Phase I study of cediranib in combination with cisplatin plus fluoropyrimidines (S-1 or capecitabine) in Japanese patients with previously untreated advanced gastric cancer. *Cancer Chemother Pharmacol, J Clin Oncol* 29 : suppl 4; abstr 111, 2011.
- 005 *Kato K, Tahara M, Hironaka S, Muro K, Takiuchi H, Hamamoto Y, Imamoto H, Amano N, Seriu T* : A phase II study of paclitaxel by weekly 1-h infusion for advanced or recurrent esophageal cancer in patients who had previously received platinum-based chemotherapy. *Cancer Chemother Pharmacol*, 67 : 1265-1272, 2011.
- 006 *Shitara K, Matsuo K, Yokota T, Takahari D, Shibata T, Ura T, Inaba Y, Ymaura H, Sato Y, Najima M, Muro K* : Prognostic Factors for Metastatic Colorectal Cancer Patients Undergoing Irinotecan-Based Second-Line Chemotherapy. *Gastrointestinal Cancer Reserch*,

Volume 4 Issue 5-6 : 168-172, 2011.

- 007 *Shitara K, Mizota A, Matsuo K, Sato Y, Kondoh C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Muro K* : Fluoropyrimidine plus cisplatin for patients with advanced or recurrent gastric cancer with peritoneal metastasis. *Gastric Cancer*, 2012.
- 008 *Shitara K, Morita S, Fujitani K, Kadowaki S, Takiguchi N, Hirabayashi N, Takahashi M, Takagi M, Tokunaga Y, Fukushima R, Munakata Y, Nishikawa K, Takagane A, Tanaka T, Sekishita Y, Sakamoto J, Tsuburaya A* : Combination chemotherapy with S-1 plus cisplatin for gastric cancer that recurs after adjuvant chemotherapy with S-1 : multi-institutional retrospective analysis. *Gastric Cancer*, 2012.
- 009 溝田綾子：最新・消化器がん化学療法と有害事象へのかかわり方 胃がん。消化器肝胆膵ケア, Vol. 16 No. 1, 日総研：4-8, 2011.
- 010 近藤千紘、室 圭：抗がん剤による消化管障害。がん救急マニュアル, メジカルビュー社：217-223, 2011.
- 011 宇良 敬、室 圭：外来化学療法における有害事象とその対策。外科治療4, Vol. 104 No. 4, 永井書店：369-374, 2011.
- 012 佐藤温、土井俊彦、朴成和、加藤健、小松嘉人、山口研成、室 圭、浜本康夫、小泉和三郎、水沼信之、瀧内比呂也：国内第 I / II 相臨床試験 (JO19380) - XELOX+BEV 併用療法の成績と長期治療例の検討 -。癌と化学療法, vol. 38 第 4号, 癌と化学療法社：561-569, 2011年
- 013 室 圭：進行・再発大腸癌に対する化学療法の目的と実際。コンセンサス癌治療, Vol. 10 No. 1, へるす出版：16-20, 2011.
- 014 室 圭：がん薬物療法の現状と今後の展望 - 大腸がん、胃がんに関して -。成人病と生活習慣病, 41巻5号, 東京医学社：499-504, 2011.
- 015 室 圭：大腸癌治療ガイドラインの功罪。大腸癌 FRONT IER, Vol. 4 No. 2, メディカルレビュー社：44-45, 2011.
- 016 室 圭：化学療法。日本臨牀増刊号 食道癌, 日本臨牀社：342-347, 2011.
- 017 室 圭 他：大腸癌 X E L O X 療法。癌化学療法と制吐薬使用マニュアル [消化器癌編], メディカルレビュー社：38-39, 2011.
- 018 日比聡、立松三千子、西尾里美、宮谷美智子、戸崎加奈江、小原真紀子、前田剛司、富田敦和、河合優、伊奈研次、大石和明、室 圭：oxaliplatinの末梢静脈投与における血管通様症状の発現およびその対策に関する調査-第1報-。癌と化学療法, vol. 38 第9号, 癌と化学療法社, 2011.
- 019 編集：大村健二、瀧内比呂也 執筆：室 圭 他：FIRI S. 消化器癌化学療法, 南山堂：133-138, 2011.
- 020 室 圭：抗がん剤と支持療法薬剤の基礎知識 がん医療に伴う倦怠感の病態の対策。Cross Cancer Research, Vol. 2 No. 10, オーエムシー：12-13, 2011.
- 021 室 圭 編：がん化学療法レジメンごとの看護シート & 患者ダイアリー集。メディカ出版, 2011.
- 022 佐藤由美子, 立松三千子, 石川和宏, 岡本浩一, 室 圭, 野間

秀一：進行・再発大腸がん患者のmFOLFOX6及びFOLFIRI療法における悪心・嘔吐発現状況に関する後ろ向き調査. YAKUGAKU ZASSHI, 131(11) : 1661-1666, 2011.

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 **Ennishi D, Shitara K, Ito H, Hosono S, Watanabe M, Ito S, Sawaki A, Yatabe Y, Yamao K, Tajima K, Tanimoto M, Tanaka H, Hamajima N, Matsuo K.**: Association between Insulin-Like Growth Factor-1 Polymorphisms and Stomach Cancer Risk in a Japanese Population. *Cancer Sci.* 2011.
- 002 **Harada T, Yatabe Y, Takeshita M, Koga T, Yano T, Wang Y, Giaccone G.**: Role and Relevance of Trkb Mutations and Expression in Non-Small Cell Lung Cancer. *Clin Cancer Res.* 2011;17 : 2638-45.
- 003 **Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Mekky MA, Bhatia V, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Tamada K, Yamao K.**: Diagnostic Yield of Endoscopic Retrograde Cholangiography and of Eus-Guided Fine Needle Aspiration Sampling in Gallbladder Carcinomas. *J HepatobiliaryPancreat Sci.* 2011.
- 004 **Hijioka S, Matsuo K, Mizuno N, Hara K, Mekky MA, Vikram B, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Kondo S, Tajika M, Niwa Y, Tamada K, Yamao K.**: Role of Endoscopic Ultrasound and Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration in Diagnosing Metastasis to the Pancreas : A Tertiary Center Experience. *Pancreatology.* 2011;11 : 390-8.
- 005 **Horio A, Fujita T, Hayashi H, Hattori M, Kondou N, Yamada M, Adachi E, Ushio A, Gondou N, Sueta A, Yatabe Y, Iwata H.**: High Recurrence Risk and Use of Adjuvant Trastuzumab in Patients with Small, Her2-Positive, Node-Negative Breast Cancers. *Int J ClinOncol.* 2011.
- 006 **Kato H, Kagami Y, Kodaira T, Oka S, Oki Y, Chihara D, Taji H, Yatabe Y, Nakamura T, Nakamura S, Seto M, Yamamoto K, Morishima Y.**: Nodal Relapse after Helicobacter Pylori Eradication in a Patient with Primary Localized Gastric Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma. *Am J Gastroenterol.* 2011;106 : 549-51.
- 007 **Kawakita D, Matsuo K, Sato F, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Tajima K, Murakami S, Tanaka H.**: Association between Dietary Folate Intake and Clinical Outcome in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. *Ann Oncol.* 2011.
- 008 **Matsuo K, Rossi M, Negri E, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hasegawa Y, Tanaka H, Tajima K, La Vecchia C.**: Folate, Alcohol, and Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism and the Risk of Oral and Pharyngeal Cancer in Japanese. *Eur J Cancer Prev.* 2011.
- 009 **Matsuyama Y, Suzuki M, Arima C, Huang QM, Tomida S, Takeuchi T, Sugiyama R, Itoh Y, Yatabe Y, Goto H, Takahashi T.**: Proteasomal Non-Catalytic Subunit Psm2 as a Potential Therapeutic Target in Association with Various Clinicopathologic Features in Lung Adenocarcinomas. *MolCarcinog.* 2011;50 : 301-9.
- 010 **Mizuno M, Nawa A, Nakanishi T, Yatabe Y.**: Clinical Benefit of Endocrine Therapy for Benign Metastasizing Leiomyoma. *Int J ClinOncol.* 2011;16 : 587-91.
- 011 **Mizuno M, Yatabe Y, Nawa A, Nakanishi T.**: Long-Term Medroxyprogesterone Acetate Therapy for Low-Grade Endometrial Stromal Sarcoma. *Int J ClinOncol.* 2011.
- 012 **Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Bhatia V, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K.**: Current Concept of Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration for Pancreatic Cancer. *Pancreatology.* 2011;11 Suppl 2 : 40-6.
- 013 **Nakao M, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K.**: Interaction between Igf-1 Polymorphisms and Overweight for the Risk of Pancreatic Cancer in Japanese. *Int J MolEpidemiol Genet.* 2011;2 : 354-66.
- 014 **Nakao M, Matsuo K, Hosono S, Ogata S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Iida S, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H.**: Abo Blood Group Alleles and the Risk of Pancreatic Cancer in a Japanese Population. *Cancer Sci.* 2011;102 : 1076-80.
- 015 **Nakao M, Matsuo K, Ito H, Shitara K, Hosono S, Watanabe M, Ito S, Sawaki A, Iida S, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Hamajima N, Tanaka H.**: Abo Genotype and the Risk of Gastric Cancer, Atrophic Gastritis, and Helicobacter Pylori Infection. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 2011;20 : 1665-72.
- 016 **Nishikawa E, Osada H, Okazaki Y, Arima C, Tomida S, Tatematsu Y, Taguchi A, Shimada Y, Yanagisawa K, Yatabe Y, Toyokuni S, Sekido Y, Takahashi T.**: Mir-375 Is Activated by Ash1 and Inhibits Yap1 in a Lineage Dependent Manner in Lung Cancer. *Cancer Res.* 2011.
- 017 **Nishikawa E, Osada H, Okazaki Y, Arima C, Tomida S, Tatematsu Y, Taguchi A, Shimada Y, Yanagisawa K, Yatabe Y, Toyokuni S, Sekido Y, Takahashi T.**: Mir-375 Is Activated by Ash1 and Inhibits Yap1 in a Lineage-Dependent Manner in Lung Cancer. *Cancer Res.* 2011;71 : 6165-73.
- 018 **Ogawa S, Horio Y, Yatabe Y, Fukui T, Ito S, Hasegawa Y, Mitsudomi T, Hida T.**: Patterns of Recurrence and Outcome in Patients with Surgically Resected Small Cell Lung Cancer. *Int J ClinOncol.* 2011.
- 019 **Oka K, Nagayama R, Iijima S, Yonekawa N, Hirose K, Yatabe Y, Mori N.**: Epstein-Barr Virus-Associated Lymphoproliferative Disorder Presenting with Classical

- Hodgkin Lymphoma and Developing as Peripheral T-Cell Lymphoma 9 Years Later : A Case Report of Composite Lymphoma. *Pathol Int.* 2011;61 : 752-5.
- 020 **Oka K, Nagayama R, Yonekawa N, Nihei T, Sando N, Yatabe Y, Mori N.**: Concurrent Gastric Malt and Hodgkin Lymphoma : A Case Report. *Int J SurgPathol.* 2011.
- 021 **Oka K, Sarashina G, Yonekawa N, Watanabe O, Miyao Y, Hashimoto T, Yatabe Y.**: G-Csf-Producing Malignant Pleural Mesothelioma : An Autopsy Case Report with Literature Review. *Int J SurgPathol.* 2011.
- 022 **Sakurai A, Sakai Y, Yatabe Y.**: Thyroid Transcription Factor-1 Expression in Rare Cases of Mammary Ductal Carcinoma. *Histopathology.* 2011;59 : 145-8.
- 023 **Sato F, Oze I, Kawakita D, Yamamoto N, Ito H, Hosono S, Suzuki T, Kawase T, Furue H, Watanabe M, Hatoooka S, Yatabe Y, Hasegawa Y, Shinoda M, Ueda M, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K.**: Inverse Association between Toothbrushing and Upper Aerodigestive Tract Cancer Risk in a Japanese Population. *Head Neck.* 2011;33 : 1628-37.
- 024 **Shitara K, Mizota A, Yatabe Y, Kondo C, Nomura M, Yokota T, Takahari D, Ura T, Muro K.**: Lapatinib Plus Trastuzumab for a Patient with Heavily Pre-Treated Gastric Cancer That Progressed after Trastuzumab. *Jpn J ClinOncol.* 2011;41 : 663-5.
- 025 **Shitara K, Yatabe Y, Mizota A, Sano T, Nimura Y, Muro K.**: Dramatic Tumor Response to Everolimus for Malignant EpithelioidAngiomyolipoma. *Jpn J Clin Oncol.* 2011;41 : 814-6.
- 026 **Shitara K, Yokota T, Takahari D, Shibata T, Ura T, Utsunomiya S, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Najima M, Kawai H, Tajika M, Sawaki A, Yatabe Y, Muro K.**: Phase Ii Study of Combination Chemotherapy with Irinotecan and Cetuximab for Pretreated Metastatic Colorectal Cancer Harboring Wild-Type Kras. *Invest New Drugs.* 2011;29 : 688-93.
- 027 **Suda K, Tomizawa K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Maehara Y, Yatabe Y, Sekido Y, Mitsudomi T.**: Epithelial to Mesenchymal Transition in an Epidermal Growth Factor Receptor-Mutant Lung Cancer Cell Line with Acquired Resistance to Erlotinib. *J ThoracOncol.* 2011;6 : 1152-61.
- 028 **Suda K, Tomizawa K, Osada H, Maehara Y, Yatabe Y, Sekido Y, Mitsudomi T.**: Conversion from the "Oncogene Addiction" to "Drug Addiction" by Intensive Inhibition of the Egfr and Met in Lung Cancer with Activating Egfr Mutation. *Lung Cancer.* 2011.
- 029 **Suda K, Tomizawa K, Yatabe Y, Mitsudomi T.**: Lung Cancers Unrelated to Smoking : Characterized by Single Oncogene Addiction? *Int J ClinOncol.* 2011;16 : 294-305.
- 030 **Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Haba S, Ogura T, Hirai T, Yamao K, Yatabe Y.**: A First Report of Tumor Cell Implantation after Emr in a Patient with Rectosigmoid Cancer. *GastrointestEndosc.* 2011.
- 031 **Terada A, Hasegawa Y, Yatabe Y, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Maruo T, Kawakita D, Mikami S, Suzuki A, Miyazaki T, Nakashima T.**: Follow-up after Intraoperative Sentinel Node Biopsy of N0 Neck Oral Cancer Patients. *Eur Arch Otorhinolaryngol.* 2011;268 : 429-35.
- 032 **Tomizawa K, Suda K, Onozato R, Kosaka T, Endoh H, Sekido Y, Shigematsu H, Kuwano H, Yatabe Y, Mitsudomi T.**: Prognostic and Predictive Implications of Her2/ErbB2/Neu Gene Mutations in Lung Cancers. *Lung Cancer.* 2011;74 : 139-44.
- 033 **Travis WD, Brambilla E, Noguchi M, Nicholson AG, Geisinger K, Yatabe Y, Powell CA, Beer D, Riely G, Garg K, Austin JH, Rusch VW, Hirsch FR, Jett J, Yang PC, Gould M.**: International Association for the Study of Lung Cancer/American Thoracic Society/European Respiratory Society : International Multidisciplinary Classification of Lung Adenocarcinoma : Executive Summary. *Proc Am Thorac Soc.* 2011;8 : 381-5.
- 034 **Travis WD, Brambilla E, Noguchi M, Nicholson AG, Geisinger KR, Yatabe Y, Beer DG, Powell CA, Riely GJ, Van Schil PE, Garg K, Austin JH, Asamura H, Rusch VW, Hirsch FR, Scagliotti G, Mitsudomi T, Huber RM, Ishikawa Y, Jett J, Sanchez-Cespedes M, Sculier JP, Takahashi T, Tsuboi M, Vansteenkiste J, Wistuba I, Yang PC, Aberle D, Brambilla C, Flieder D, Franklin W, Gazdar A, Gould M, Hasleton P, Henderson D, Johnson B, Johnson D, Kerr K, Kuriyama K, Lee JS, Miller VA, Petersen I, Roggli V, Rosell R, Saijo N, Thunnissen E, Tsao M, Yankelewitz D.**: International Association for the Study of Lung Cancer/American Thoracic Society/European Respiratory Society International Multidisciplinary Classification of Lung Adenocarcinoma. *J ThoracOncol.* 2011;6 : 244-85.
- 035 **Yano S, Yamada T, Takeuchi S, Tachibana K, Minami Y, Yatabe Y, Mitsudomi T, Tanaka H, Kimura T, Kudoh S, Nokihara H, Ohe Y, Yokota J, Uramoto H, Yasumoto K, Kiura K, Higashiyama M, Oda M, Saito H, Yoshida J, Kondoh K, Noguchi M.**: Hepatocyte Growth Factor Expression in Egfr Mutant Lung Cancer with Intrinsic and Acquired Resistance to Tyrosine Kinase Inhibitors in a Japanese Cohort. *J ThoracOncol.* 2011;6 : 2011-7.
- 036 **Yatabe Y, Borczuk AC, Powell CA.**: Do All Lung Adenocarcinomas Follow a Stepwise Progression? *Lung Cancer.* 2011;74 : 7-11.
- 037 **Yatabe Y, Matsuo K, Mitsudomi T.**: Heterogeneous Distribution of Egfr Mutations Is Extremely Rare in Lung Adenocarcinoma. *J ClinOncol.* 2011;29 : 2972-7.
- 038 **Yokota T, Hatoooka S, Ura T, Abe T, Takahari D,**

- Shitara K, Nomura M, Kondo C, Mizota A, Yatabe Y, Shinoda M, Muro K.*: Docetaxel Plus 5-Fluorouracil and Cisplatin (Dcf) Induction Chemotherapy for Locally Advanced Borderline-Resectable T4 Esophageal Cancer. *Anticancer Res.* 2011;31 : 3535-41.
- 039 *Yokota T, Ura T, Shibata N, Takahari D, Shitara K, Nomura M, Kondo C, Mizota A, Utsunomiya S, Muro K, Yatabe Y.*: Braf Mutation Is a Powerful Prognostic Factor in Advanced and Recurrent Colorectal Cancer. *Br J Cancer.* 2011;104 : 856-62.
- 040 *Murakami Y, Shimada K, Kosugi H, et al.*: A case report of angioimmunoblastic T cell lymphoma (AITL) with localization of neoplastic clear cells in the outer zone of germinal centers. *Pathol Int.* 2011;61 : 322-325.
- 041 *Murakami Y, Mitsudomi T, Yatabe Y.*: A Screening Method for the ALK Fusion Gene in NSCLC. *Front Oncol.* 2012;2 : 24.
- 042 小井手佳代子, 柴田典子, 山田智恵子, 小池考一, 桑原正喜, 水谷和子, 谷田部恭 : 大腸癌における血清p53抗体の有有用性の検討. *医学検査*, 60巻7号 1043-1049, 2011.
- 043 小倉健, 山雄健次, 原和生, 水野伸匡, 脇岡範, 今岡大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 永塩美邦, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊彦, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭 : 【嚢胞性膵腫瘍の新知見-膵臓学会嚢胞性膵腫瘍委員会全国調査の結果を踏まえて-】膵嚢胞性腫瘍の全国調査で明らかにされた新知見の要点 MCNは悪性例が多く原則切除は妥当か?. *肝・胆・膵*, 63巻5号 765-770, 2011.
- 044 小野田浩, 木下朝博, 谷田部恭 : 私のこの一枚 二次性形質細胞性白血病の1例. *血液フロンティア*, 21巻10号 1385-1390, 2011.
- 045 梶本和義, 大林千穂, 出射由香, 伊藤雅文, 谷田部恭 : 骨髄増殖性腫瘍の病理標本を用いたJAK2V617F定量解析. *神緑会学術誌*, 27巻 81-83, 2011.
- 046 原和生, 山雄健次, 脇岡範, 水野伸匡, 今岡大, 小倉健, 羽場真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 田中努, 近藤真也, 田近正洋, 越川卓, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正 : 【EUS-FNA Now】 EUS-FNA穿刺材料の取り扱い. *消化器内視鏡*, 23巻8号1321-1326, 2011.
- 047 長谷川俊之, 脇岡範, 水野伸匡, 原和生, 今岡大, 永塩美邦, 小倉健, 羽場真, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中努, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次 : 【膵神経内分泌腫瘍-Up date 2011】膵神経内分泌腫瘍の生検診断. *肝・胆・膵*, 63巻2号293-300, 2011.
- 048 宮崎千絵子, 山田舞, 波戸ゆかり, 堀尾章代, 林裕倫, 藤田崇史, 安藤由明, 谷田部恭, 岩田広治 : 19歳で診断された若年者早期乳癌の1例. *乳癌の臨床*, 26巻3号361-36, 2011.
- 049 谷田部恭 : 【病理診断に役立つ分子生物学】(第2部)病理診断医になじみのある疾患関連分子 EGFR(epidermal growth factor receptor)診断編. *病理と臨床*, 29巻臨増23 7-243, 2011.
- 050 谷田部恭 : 【病理診断に役立つ分子生物学】(第2部)病理診断医になじみのある疾患関連分子 EGFR(epidermal growth factor receptor)解説編. *病理と臨床*, 29巻臨増23 1-236, 2011.
- 051 村上善子, 太田裕子, 山田智恵子, 谷田部恭 : Laboratory Practice 病理免疫組織化学 En Vision FLEX(Dako, Denmark)を使用した高感度検出, 検査と技術, 39巻7号536-539, 2011.
- 052 小倉健, 山雄健次, 脇岡範, 原和生, 澤木明, 水野伸匡, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯哲, 赤羽麻奈, 羽場真, 友野輝子, 清水怜, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭 : 転移性腓骨滑筋肉腫の1例 EUS-FNAの有用性と問題点. *日本消化器病学会雑誌*, 108巻6号987-996, 2011.
- 053 脇岡範, 原和生, 水野伸匡, 高木忠之, 小倉健, 羽場真, 千田嘉毅, 佐野力, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次 : EUS-FNAが診断に有用であった非露出腫瘍型乳頭癌の1例. *胆道*, 25巻2号 196-202, 2011.
- 054 谷田部恭 : がん研究における病理組織標本の利用 利点とその限界. *血液内科*, 62巻5号656-662, 2011.
- 055 細田和貴, 谷田部恭 : マクロクイズ第23回. *病理と臨床*, 29 : 177-80, 2011.
- 056 村上善子, 谷田部恭 : マクロクイズ第25回. *病理と臨床*, 29 : 385-388, 2011.
- 057 菅野雅人, 谷田部恭 : マクロクイズ「唾液腺腫瘍」. *病理と臨床*, 29(6) : 623-626, 2011.
- 058 吉野聡, 板倉英二, 所嘉朗 : D) 解剖組織学 1、臓器の肉眼及び組織学的特徴 1-5) 消化管. *基礎病理技術学*, (投稿済み)
- 059 所嘉朗, 他 : 「平成22年度検査室の管理運営に関するアンケート調査」報告. *社団法人愛知県臨床衛生検査技師会誌らば*, 第62巻第2号 : p3-p8, 2011.

頭頸部外科部

- 001 *Terada A, Hasegawa Y, Yatabe Y, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Maruo T, Kawakita D, Mikami S, Suzuki A, Miyazaki T, Nakashima T* : Follow-up after intraoperative sentinel node biopsy of N0 neckoral cancer patients. *Eur Arch Otorhinolaryngol*, 268 : 429-435, 2011.
- 002 *Kimura Y, Suzuki D, Tokunaga T, Takabayashi T, Yamada T, Wakisaka N, Yoshizaki T, Murata H, Miwa K, Shoujaku H, Watanabe Y, Yamada N, Ito Y, Yuta A, Takeuchi K, Hosokawa S, Mineta H, Hasegawa Y, Fujimoto Y, Nakashima T, Fujieda S* : Epidemiological analysis of nasopharyngeal carcinoma in the central region of Japan during the period from 1996 to 2005. *AurisNasus Larynx*, 38(2) : 244-9, 2011.
- 003 *Tahara M, Minami H, Hasegawa Y, Tomita K, Watanabe A, Nibu K, Onozawa Y, Kurono Y, Sagae D, Tsukuda M* : Weekly paclitaxel in patients with recurrent or metastatic head and neck cancer. *Cancer ChemotherPharmacol*, 68 : 769-776, 2011.
- 004 *Yoshimoto S, Hasegawa Y, Matsuzuka T, Shiotani A, Takahashi K, Kohno N, Yoshida T, Kitano H* : Sentinel node biopsy for oral and laryngopharyngeal squamous cell carcinoma : Aretrospective study of 177 patients in

- Japan. *AurisNasus Larynx*, 39 : 65-70, 2012.
- 005 **Murata S, Adachi M, Kioi M, Torigoe S, Ijichi K, Hasegawa Y, Ogawa T, Bhayani MK, Lai SY, Mitsudo K, Tohnai I** : Etodolac improves 5-FU sensitivity of head and neck cancer cells through inhibition of thymidylate synthase. *Anticancer Res*, 31(9) : 2983-8, 2011.
- 006 **長谷川泰久, 大杉治司** : ビデオシンポジウム「頭頸部・食道・肺悪性腫瘍の頸部・上縦隔郭清」司会のまとめ. *J. JPN. Bronchoesophagol. Sol*, 62(2) : 126, 2011.
- 007 **花井信広, 長谷川泰久** : 甲状腺手術における喉頭気管の処理. *JOHNS*, 27(7) : 1047-1051, 2011
- 008 **平川仁, 花井信広, 小澤泰次郎, 兵藤伊久夫, 神山圭史, 鈴木淳志, 宮崎拓也, 原田生功磨, 水上高秀, 岡本啓希, 長谷川泰久** : 当科における鼻副鼻腔悪性腫瘍の頭蓋底進展例に対する手術療法の検討. *頭頸部外科*, 21(2) : 151-155, 2011
- 009 **平川仁, 長谷川泰久** : 舌のすべて早期舌癌の診断. *ENTONI*, 134 : 45-50, 2011
- 010 **小澤泰次郎, 長谷川泰久** : 【患者・家族の相談に応えるがん診療サポートガイド】治療, 93増刊 : 1000-1001, 2011.

形成外科

- 001 **神山圭史, 鳥山和宏, 八木俊路朗, 高成啓介, 亀井讓** : 埋没耳手術時に環軸椎回旋位固定(AARF)を生じた成人の1例. *日本形成外科学会誌*, 31、5、318-21, 2011. 5月
- 002 **兵藤伊久夫, 神山圭史, 水上高秀, 長谷川泰久, 亀井讓** : 【下咽頭・頸部食道再建の標準化に向けて】下咽頭・頸部食道再建後の合併症対、形成外科、54、8、883-90、2011. 8月
- 003 **兵藤伊久夫, 中山敏, 亀井讓** : 【悪性腫瘍切除後の頭頸部再建のコツ】舌垂全摘・全摘後の再建、Pepars、60、39-44、2011. 12月

呼吸器外科

- 001 **光富徹哉** : 脳神経外科医に必要な肺がんの知識. *脳神経外科速報*, 21(895-901), 2011.
- 002 **Yatabe Y, Matsuo K, Mitsudomi T** : Heterogeneous distribution of EGFR mutations is extremely rare in lung adenocarcinoma. *J ClinOncol*, 29(2972-7), 2011.
- 003 **Yano S, Yamada T, Takeuchi S, Tachibana K, Minami Y, Yatabe Y, Mitsudomi T, Tanaka H, Kimura T, Kudoh S, Nokihara H, Ohe Y, Yokota J, Uramoto H, Yasumoto K, Kiura K, Higashiyama M, Oda M, Saito H, Yoshida J, Kondoh K, Noguchi M** : Hepatocyte Growth Factor Expression in EGFR Mutant Lung Cancer with Intrinsic and Acquired Resistance to Tyrosine Kinase Inhibitors in a Japanese Cohort. *J ThoracOncol*, in press, 2011.
- 004 **Travis WD, Brambilla E, Noguchi M, Nicholson AG,**

- Geisinger KR, Yatabe Y, Beer DG, Powell CA, Riely GJ, Van Schil PE, Garg K, Austin JH, Asamura H, Rusch VW, Hirsch FR, Scagliotti G, Mitsudomi T, Huber RM, Ishikawa Y, Jett J, Sanchez-Cespedes M, Sculier JP, Takahashi T, Tsuboi M, Vansteenkiste J, Wistuba I, Yang PC, Aberle D, Brambilla C, Flieder D, Franklin W, Gazdar A, Gould M, Hasleton P, Henderson D, Johnson B, Johnson D, Kerr K, Kuriyama K, Lee JS, Miller VA, Petersen I, Roggli V, Rosell R, Saijo N, Thunnissen E, Tsao M, Yankelewitz D** : International association for the study of lung cancer/american thoracic society/european respiratory society international multidisciplinary classification of lung adenocarcinoma. *J ThoracOncol*, 6(244-85), 2011.
- 005 **Toyooka S, Mitsudomi T, Soh J, Aokage K, Yamane M, Oto T, Kiura K, Miyoshi S** : Molecular oncology of lung cancer. *Gen ThoracCardiovascSurg*, 59(527-37), 2011.
- 006 **Tomizawa K, Suda K, Onozato R, Kosaka T, Endoh H, Sekido Y, Shigematsu H, Kuwano H, Yatabe Y, Mitsudomi T** : Prognostic and predictive implications of HER2/ERBB2/neu gene mutations in lung cancers. *Lung Cancer*, 74(139-44), 2011.
- 007 **Suzuki K, Koike T, Asakawa T, Kusumoto M, Asamura H, Nagai K, Tada H, Mitsudomi T, TsuboiM, Shibata T, Fukuda H, Kato H** : A Prospective Radiological Study of Thin-Section Computed Tomography to Predict Pathological Noninvasiveness in Peripheral Clinical IA Lung Cancer (Japan Clinical Oncology Group 0201). *J ThoracOncol*, 6(751-6), 2011.
- 008 **Suda K, Tomizawa K, Yatabe Y, Mitsudomi T** : Lung cancers unrelated to smoking : characterized by single oncogene addiction?. *Int J ClinOncol*, 16(294-305), 2011.
- 009 **Suda K, Tomizawa K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Maehara Y, Yatabe Y, Sekido Y, Mitsudomi T** : Epithelial to Mesenchymal Transition in an Epidermal Growth Factor Receptor-Mutant Lung Cancer Cell Line with Acquired Resistance to Erlotinib. *J ThoracOncol*, 6(1152-61), 2011.
- 010 **Ogawa S, Horio Y, Yatabe Y, Fukui T, Ito S, Hasegawa Y, Mitsudomi T, Hida T** : Patterns of recurrence and outcome in patients with surgically resected small cell lung cancer. *Int J ClinOncol*, Epub ahead of print, 2011.
- 011 **Mitsudomi T** : EGFR-targeted drugs. In Saijo N, editor. *Advances in Personalized Therapy for Lung Cancer*, Future Science Group(London) : 18-37, 2011.
- 012 **Mitsudomi T** : Erlotinib, gefitinib, or chemotherapy for EGFR mutation-positive lung cancer?. *Lancet Oncol*, 12(710-1), 2011.
- 013 **Li-Wan-Po A, Farndon PA, Kobayashi S, Mitsudomi T, Potter VA** : The Pharmacogenetic Rescue of Side-Lined Anticancer Drugs to the Front-Line : Gefitinib as a Case Example (February). *Ann Pharmacother*, Epub ahead of pprint, 2011.

- 014 **Lee YJ, Kim JH, Kim SK, Ha SJ, Mok TS, Mitsudomi T, Cho BC** : Lung cancer in never smokers : change of a mindset in the molecular era. *Lung Cancer*, 72(9-15), 2011.
- 015 小林祥久, 福井高幸, 伊藤志門, 波戸岡俊三, 光富徹哉 : 肺癌術後に肺塞栓症を発症した3例. *日本呼吸器外科学会雑誌*, 25(4), 日本呼吸器外科学会, 373-378, 2011.

乳腺科部

- 001 **Masuda N, Iwata H, Rai Y, Anan K, Takeuchi T, Kohno N, Takei H, Yanagita Y, Noguchi S** : Monthly versus 3-monthly goserelin acetate treatment in premenopausal patients with estrogen receptor-positive early breast cancer. *Breast Cancer research and Treatment*, 126 : 443-451, 2011
- 002 **Toi M, Saji S, Masuda N, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Takada M, Ueno T, Chanplakorn N, Suzuki T, Sasano H** : Ki67 index changes, pathological response and clinical benefits in primary breast cancer patients treated with 24 weeks of aromatase inhibition. *Cancer Science* 2011, 102 : 858-865, 2011
- 003 **Iwata H** : Neoadjuvant endocrine therapy for postmenopausal patients with hormone receptor -positive early breast cancer : a new concept. *Breast Cancer*, 18 : 92-97, 2011
- 004 **Yamashita T, Fujita T, Ando Y, Hato Y, Horio A, Toyoshima C, Yamada M, Iwata H** : Detection of parasternal metastatic lymph nodes by sentinel lymph node methods in a patients with recurrence in the conserved breast. *Breast Cancer Published Online*, 07 January, 2011
- 005 **Iwata H** : Future treatment strategies for metastatic breast cancer : curable or incurable?. *Breast Cancer Published Online*, 14 April, 2011
- 006 **Iwata H, Sato N, Masuda N, Nakamura S, Yamamoto N, Kuroi K, Kurosumi M, Tsuda H, Akiyama F, Ohhashi Y, Toi M** : Docetaxel followed by fluorouracil / epirubicin / cyclophosphamide as neoadjuvant chemotherapy for patients with primary breast cancer. *Japanese Journal Clinical Oncology*, 41 : 867-875, 2011
- 007 **Aogi K, Masuda N, Ohno S, Oda T, Iwata H, Kashiwaba M, Fujiwara Y, Kamigaki S, Ito Y, Ueno T, Takashima S** : First-Line bevacizumab in combination with weekly paclitaxel for metastatic breast cancer : efficacy and safety results from a large, open-label, single-arm Japanese study, *Breast Cancer Research and Treatment*, DOI10. 1007/s10549-011-1685-x, 2011
- 008 **Kawaguchi K, Ishiguro H, Morita S, Nakamura S, Ohno S, Masuda N, Iwata H, Aogi K, Kuroi K, Toi M** : Correlation between docetaxel-induced skin toxicity and the use of steroids and H2 blockers : a multi-institution

- survey. *Breast Cancer Research and Treatment*, 103 : 627-634, 2011
- 009 **Fujiwara Y, Takatsuka Y, Imoto S, Inaji H, Ikeda T, Akiyama F, Tamura M, Miyoshi K, Iwata H, Mitsuyama S, Noguchi S** : Outcomes of Japanese breast cancer patients treated with pre-and post-operative anastorazole or tamoxifen : subgroup analysis of PROACT trial. *Cancer Science*, 2011
- 010 **Sueta A, Ito H, Kawase T, Hirose K, Hosono S, Yatabe Y, Tajima K, Tanaka H, Iwata H, Iwase H, Matsuo K** : A genetic risk predictor for breast cancer using a combination of low-penetrance polymorphisms in a Japanese population. *Breast Cancer Research and Treatment*, DOI10. 1007/s10549-011-1904-5, 2011
- 011 **Nakamura S, Ando M, Masuda N, Aogi K, Ino H, Iwata H, Tokuda Y, Yamamoto N, Kasai H, Takeuchi M, Tsuda H, Akiyama F, Kurisumi M, Fujiwara Y** : Randomized Phase II study of primary systemic Chemotherapy and Trastuzumab for operable HER2 positive breast cancer. *Clinical of Breast Cancer*, Dec 6, 2011
- 012 **Iwata H** : The transition of breast cancer and Japan clinical oncology group research over two decades. *Japanese Journal Clinical Oncology* 2012, January42 (1) 14-20, 2012
- 013 **Aogi K, Iwata H, Masuda N, Mukai H, Yoshida M, Rai Y, Taguchi K, Sasaki Y, Takashima S** : A Phase II study of eribulin in Japanese patients with heavily pre-treated metastatic breast cancer. *Annual of Oncology*, October 11, 2011
- 014 **Cai Q, Long J, Lu W, Qu S, Wen W, Kang D, Lee JY, Chen K, Shen H, Shen CY, Sung H, Matsuo K, Haiman CA, Khoo US, Ren Z, Iwasaki M, Gu K, Xiang YB, Choi JY, Park SK, Zhang L, Hu Z, Wu PE, Noh DY, Tajima K, Henderson BE, Chan KY, Su F, Kasuga Y, Wang W, Chend JR, Yoo KY, Lee JY, Zheng H, Liu Y, Shien YL, Kim SW, Lee JW, Iwata H, Le ML, Chan SY, Xie X, Tsugane S, Lee MH, Wang S, Li G, Levy S, Huang B, Shi J, Dalahanty R, Zheng Y, Li C, Gao Yt, Shu XO, Zheng W** : Genome-wide association study identifies breast cancer risk variant at 10 q 21. 2 : results from the Asia breast cancer consortium. *Hum Mol Genet*, Dec 15 : 20(24)4991-9, 2011
- 015 **Takada M, Saji S, Masuda N, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Ueno T, Sasano H, Toi M** : Relationship between body mass index and preoperative treatment response to aromatase inhibitor exemestane in post menopausal patients with primary breast cancer. *Breast*. Aug 18, 2011
- 016 **Sawaki M, Tokudome N, Mizuno T, Nakayama T, Taira N, Bando H, Murakami S, Yamamoto Y, Kashiwaba M, Iwata H, Uemura Y, Ohashi Y** : *Japan Journal of Clinical Oncology*, May41(5)709-712, 2011
- 017 **Cai Q, Wen W, Qu S, Li G, Egan KM, Chen K, Deming**

- SL, Shen H, Shn CY, Gammon MD, Blot WJ, Matsuo K, Hiaman CA, Khoo US, Iwasaki M, Santella RM, Zhang L, Fair AM, Hu Z, WU PE, Signorello LB, Titus-Ernstoff L, Tajima K, Henderson BE, Chan KY, Kasuga Y, Newcomb PA, Zheng H, Cui Y, Wang F, Shien YL, Iwata H, LeMarchand L, Chan SY, Shrubsole MJ, Trentham-Dietz A, Tsugane S, Garcia-Clasas M, Long J, Li C, Shi J, Huang B, Xiang YB, Gao YT, Lu W, Shu XO, Zheng W* : Replication and functional genomic analyses of the breast cancer susceptibility locus at 6 q 25. 1 generalize its importance in women of Chinese, Japanese and European ancestry. *Cancer Research*, Feb 15(71)(4)1344-1355, 2011
- 018 *Sawaki M, Wada M, Sato Y, Mizuno Y, Kobayashi H, Yokoi K, Yoshihara M, Kamei K, Ohno M, Imai T* : High-dose Toremifeme as first line treatment of metastatic breast cancer in patients with adjuvant aromatase inhibitor-resistance : A multi-institutional phase II study. *Oncology Letters* 3 : 61-65, 2012
- 019 *Sawaki M, Sato S, Noda S, Idota A, Uchida H, Tsunoda N, Kikumori T, Ishihara S, Aoyama Y, Itoh Y, Imai T* : Phase I/II study of intraoperative radiotherapy for early breast cancer in Japan. *Breast Cancer* 2011 Jul 16, [Epub ahead of print], 2011
- 020 *Sawaki M, Mukai H, Tokudome N, Nakayama T, Taira N, Mizuno T, Yamamoto Y, Horio A, Watanabe T, Uemura Y, Ohashi Y* : Safety of Adjuvant Trastuzumab for HER2-overexpressing Elderly Breast Cancer Patients : A multicenter cohort study. *Breast Cancer*, 2011 Apr 28. [Epub ahead of print], 2011
- 021 *Sawaki M, Tokudome N, Mizuno T, Nakayama T, Taira N, Bando H, Murakami S, Yamamoto Y, Kashiwaba M, Iwata H, Uemura Y, Ohashi Y* : Evaluation of Trastuzumab Without Chemotherapy as a Postoperative Adjuvant Therapy in HER2 Positive Elderly Breast Cancer Patients : N-SAS BC 07 (RESPECT study). *Jpn J Clin Oncol* , 41 : 709-12, 2011
- 022 *Sawaki M, Idota A, Uchida H, Noda S, Sato S, Kikumori T, Imai T* : The effect of Toremifene on lipid metabolism compared with that of Tamoxifen in vitro. *Gynecologic and Obstetric Investigation* , 71 : 213-216, 2011
- 023 *Mitsuma A, Sawaki M, Shibata T, Morita S, Inada M, Shimokata T, Sugishita M, Kitagawa K, Sawada M, Nawa A, Yuichi Ando Y* : Extravasation of pegylated-liposomal doxorubicin : favorable outcome after immediate subcutaneous administration of corticosteroids. *Nagoya J Med Sci* 74, 189-192, 2011
- 024 *Morita S, Oizumi S, Minami H, Kitagawa K, Komatsu Y, Fujiwara Y, Inada M, Yuki S, Kiyota N, Mitsuma A, Sawaki M, Tani H, Kimura J, Ando Y* : Phase I dose-escalating study of panobinostat (LBH589) Administered intravenously to Japanese patients with advanced solid tumors. *Invest New Drugs*, 2011 Oct 1. [Epub ahead of print], 2011
- 025 *Kawamura M, Satake H, Ishigaki S, Nishio A, Sawaki M, Naganawa S* : Early prediction of response to neoadjuvant chemotherapy for locally advanced breast cancer using MRI. *Nagoya J Med Sci* , 73 : 147-156, 2011
- 026 *Kitagawa K, Kawada K, Morita S, Inada M, Mitsuma A, Sawaki M, Iino S, Inden Y, Murohara T, Imai T, Ando Y* : Prospective evaluation of corrected QT intervals and arrhythmias after exposure to epirubicin, cyclophosphamide, and 5-fluorouracil in women with breast cancer. *Ann Oncol* 23, 743-747, 2012
- 027 *Takada H, Kikumori T, Imai T, Sawaki M, Shibata A, Kiuchi T* : Patterns of Lymph Node Metastases in Papillary Thyroid Carcinoma : Results from Consecutive Bilateral Cervical Lymph Node Dissection. *World J Surg* 35, 1560-1566, 2011
- 028 *Sawaki M* : Intraoperative Radiotherapy for Early Breast Cancer. Book title : Modern Practices in Radiation Therapy. InTech publisher, ISBN 978-953-51-0427-8, Book edited by Gopishankar Natanasabapathi. pp169-178, 2012
- 029 *Sawaki M* : Evaluation of Trastuzumab Without Chemotherapy as a Postoperative Adjuvant Therapy in HER2 Positive Elderly Breast Cancer Patients : N-SAS BC 07 (RESPECT study). *Cancer Board 乳癌 vol 4. No 1, メディカルレビュー社* : 98-99, 2011
- 030 *岩田広治* : ハイリスク前立腺癌のヒントになるか? -Molecular subtypeで考える乳癌治療戦略, 第37回尿路悪性腫瘍研究会記録-ハイリスク前立腺癌に対する治療戦略と挑戦-, 13-18, 2011
- 031 *岩田広治* : わが国における国際共同臨床試験(企業治験および研究者主導試験)の現状と問題点 5) 乳がん, 腫瘍内科 Vol. 7 No. 3 269-274, 2011
- 032 *戸井雅和, 大野真司, 岩田広治, 川端英孝* : 乳癌治療の動向. *カレントセラピー別冊* 29(5), 96-105, 2011
- 033 *宮崎千絵子, 山田舞, 波戸ゆかり, 堀尾章代, 林裕倫, 藤田崇史, 安藤由明, 谷田部恭, 岩田広治* : 19歳で診断された若年者早期乳癌の1例. *乳癌の臨床* 26(3), 篠原出版新社 : 361-365, 2011
- 034 *末田愛子, 藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 牛尾文, 足立恵理, 権藤なおみ, 岩田広治* : Luminalタイプ乳癌(T1/2N0)の予後と術後治療の検討. *乳癌の臨床* vol. 26 No. 6, 篠原出版新社 : 699-705, 2011
- 035 *岩田広治* : Synthetic lethalityとその応用. *腫瘍内科* 8 (5), 科学評論社 : 523-528, 2011
- 036 *藤田崇史, 岩田広治* : 骨転移治療においてB P治療を実施するメリットは何か?. *がん骨転移治療*, 先端医学社 : 36-42, 2012
- 037 *澤木正孝, 岩田広治* : 乳がんに対する抗血管新生療法. *血管医学* 第13巻第1号, メディカルレビュー社 : 35-41, 2012
- 038 *澤木正孝, 岩田広治* : 乳がんの個別化治療. *がん分子標的治療* 第10巻第1号, メディカルレビュー社 : 26-34, 2012
- 039 *澤木正孝* : 高齢者乳がんに対するがん治療戦略. *腫瘍内科*

第8巻第3号, 科学評論社: 200-206, 2011

- 040 澤木正孝: 術前化学療法 手術可能乳癌例~乳房温存手術を望む乳癌症例~. 症例から学ぶメディカルオンコロジー, 医薬ジャーナル社: 86-93, 2011
- 041 澤木正孝, 安藤雄一: 支持・緩和薬物療法マスター がん治療の副作用対策. 薬剤性肝障害, メディカルビュー社: 66-67, 2011
- 042 服部正也: CAF/AC療法におけるB型肝炎の劇症化. がん化学療法における有害事象管理の実例, 日本医学館: 88-89, 2011
- 043 服部正也: タキサンによるアレルギー. がん化学療法における有害事象管理の実例, 日本医学館: 96-97, 2011
- 044 瀬古志桜, 服部正也: 乳がん. がん化学療法-レジメンごとの看護シート&患者ダイアリー集, メディカ出版: 51-74, 2011
- 045 牛尾文, 澤木正孝, 藤田崇史, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 山田舞, 権藤なおみ, 足立恵理, 海瀬博史, 河野範男, 岩田広治: 早期の診断, 治療によりQOLの改善がみられた乳癌脊髄内転移の1例. 乳癌の臨床27 (2), 篠原出版新社: 185-190, 2012

消化器外科部

[原著]

- 001 Komori K, Hirai T, Kanemitsu Y, Shimizu Y, Sano T, Ito S, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Kato T: Is "depth of submucosal invasion $> \text{ or } = 1,000 \text{ microm}$ " an important predictive factor for lymph node metastases in early invasive colorectal cancer (pT1)? Hepato-Gastroenterology, 57, 1123-1127, 2011.
- 002 Komori K, Hirai T, Kanemitsu Y, Shimizu Y, Sano T, Ito S, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Kato T: Pathology Studies of Combined Radical Resection of Seminal Vesicle in the Treatment of Rectal Cancer. International Surgery, 96, 51-55, 2011.
- 003 Komori K, Kanemitsu Y, Ishiguro S, Shimizu Y, Sano T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Kato T: Clinicopathological Study of Poorly Differentiated Colorectal Adenocarcinomas: Comparison between Solid-type and Non-solid-type Adenocarcinomas. ANTICANCER RESEARCH, 31, 3643-3648, 2011.
- 004 Komori K, Kanemitsu Y, Ishiguro S, Shimizu Y, Sano T, Kato T: Analysis of Lymph Node Metastatic Pattern according to the Depth of In-Growth in the Muscularis Propria in T2 Rectal Cancer for Lateral Lymph Node. Digestive Surgery, 28, 352-359, 2011.
- 005 Sakamoto Y, Yamamoto Y, Hata S, Nara S, Esaki M, Sano T, Shimada K, Kosuge T: Analysis of risk factors for delayed gastric emptying (DGE) after 387 pancreaticoduodenectomies including 70 stapled reconstructions. J Gastrointest Surg, 15, 1789-97, 2011.
- 006 Ju HX, An B, Okamoto Y, Shinjo K, Kanemitsu Y, Hirai T, Shimizu Y, Sano T, Sawaki A, Tajika M, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Ito H, Takeuchi I, Sekido Y, Kondo Y: Distinct profiles of epigenetic evolution between colorectal cancers with and without metastasis. American Journal of Pathology, 178, 1835-1846, 2011.
- 007 Shirouzu K, Akagi Y, Fujita S, Ueno H, Takii Y, Komori K, Ito M, Sugihara K; Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) on Clinical Significance of the Mesorectal Extension of Rectal Cancer.: Clinical significance of the mesorectal extension of rectal cancer: a Japanese multi-institutional study. Annals of Surgery, 253, 704-710, 2011.
- 008 Kanemitsu Y, Komori K, Ishiguro S: Impact of lymph node evaluation and prognosis in patients with colorectal cancer. Nihon Rinsho, 69(Suppl 3), 202-211, 2011.
- 009 Shitara K, Matsuo K, Kondo C, Takahari D, Ura T, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Kanemitsu Y, Komori K, Ishiguro S, Sano T, Shimizu Y, Muro K: Prolonged Survival of Patients with Metastatic Colorectal Cancer following First-Line Oxaliplatin-Based Chemotherapy with Molecular Targeting Agents and Curative Surgery. Oncology, 81, 167-174, 2011.
- 010 Yokota T, Sano T, Shimizu Y, Takahari D, Senda Y, Shimura M, Ura T, Shitara K, Nimura Y, Yatabe Y, Muro K: Pathological complete response of colorectal liver metastases following chemotherapy with S-1 and oxaliplatin (SOX) in combination with bevacizumab: A case report. ONCOLOGY LETTERS, 21, 201-205, 2011.
- 011 Hara K, Yamao K, Niwa Y, Sawaki A, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Kobayashi Y, Matsumoto K, Bhatia V, Shimizu Y, Ito A, Hirooka Y, Goto H: Prospective Clinical Study of EUS-Guided Choledochoduodenostomy for Malignant Lower Biliary Tract Obstruction. The American Journal of Gastroenterology, 106, 1239-1245, 2011.
- 012 Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Bhatia V, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K: Current Concept of Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration for Pancreatic Cancer. Pancreatology, 11, 40-46, 2011.
- 013 Yamaguchi K, Kanemitsu S, Hatori T, Maguchi H, Shimizu Y, Tada M, Nakagohri T, Furukawa T, Ban S, Nobukawa B, Kato Y, Tanaka M: Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Derived From IPMN and Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Concomitant With IPMN. Pancreas, 40, 571-580, 2011.
- 014 Hijioka S, Matsuo K, Mizuno N, Hara K, Mekky MA, Vikram B, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Kondo S, Tajika M, Niwa Y, Tamada K, Yamao K: Role of endoscopic ultrasound and endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration in diagnosing metastasis to the pancreas: A tertiary centre experience. Pancreatology, 1, 390-398, 2011.
- 015 Hara K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Sawaki A, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Shimizu Y, Niwa Y:

- Interventional endoscopic ultrasonography for pancreatic cancer. *World J Clin Oncol.*, 10, 108-114, 2011.
- 016 **Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Mekky MA, Bhatia V, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Tamada K, Yamao K:** Diagnostic yield of endoscopic retrograde cholangiography and of EUS-guided fine needle aspiration sampling in gallbladder carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2012 Nov; 19(6): 650-5.
- 017 **Yokota T, Hatooka S, Ura T, Abe T, Takahari D, Shitara K, Nomura M, Kondo C, Mizota A, Yatabe Y, Shinoda M, Muro K:** Docetaxel plus 5-fluorouracil and cisplatin (DCF) induction chemotherapy for locally advanced borderline-resectable T4 esophageal cancer. *Anticancer Reseach*, 31, 3535-3541, 2011.
- 018 **Shitara K, Matsuo K, Hatooka S, Ura T, Takahari D, Yokota T, Abe T, Kawai H, Tajika M, Kodaira T, Shinoda M, Tajima K, Muro K, Tanaka H:** Heavy smoking history interacts with chemoradiotherapy for esophageal cancer prognosis: a retrospective study. *Cancer Science*, 101, 1001-1006, 2011.
- 019 **Senda Y, Nishio H, Ebata T, Yokoyama Y, Igami T, Sugawara G, Nagino M:** Hepatolithiasis in the hepatic hilum mimicking hilar cholangiocarcinoma: report of a case. *Surgery Today*, 41, 1243-1246, 2011.
- 020 **Young AL, Igami T, Senda Y, Adair R, Farid S, Toogood GJ, Prasad KR, Lodge JP:** Evolution of the surgical management of perihilar cholangiocarcinoma in a Western centre demonstrates improved survival with endoscopic biliary drainage and reduced use of blood transfusion. *HPB*, 13, 483-493, 2011.
- 021 **Sakamoto Y, Yamamoto Y, Hata S, Nara S, Esaki M, Sano T, Shimada K, Kosuge T:** Analysis of risk factors for delayed gastric emptying (DGE) after 387 pancreaticoduodenectomies with usage 70 stapled reconstructions. *Journal of Gastrointestinal Surgery*, 15, 1789-1797, 2011.
- 022 **Shitara K, Yatabe Y, Mizota A, Sano T, Nimura Y, Muro K:** Dramatic tumor response to everolimus for malignant epithelioid angiomyolipoma. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 41, 814-816, 2011.
- 023 **Kodera Y, Ito Y, Ohashi N, Nakayama G, Koike M, Fujiwara M, Nakao A:** Impact of clinical response to first-line chemotherapy on gastric cancer patients treated with second-line and third-line chemotherapy. *Hepatogastroenterology*, 58, 1041-5, 2011.
- 024 **Takahari D, Hamaguchi T, Yoshimura K, Katai H, Ito S, Fuse N, Kinoshita T, Yasui H, Terashima M, Goto M, Tanigawa N, Shirao K, Sano T, Sasako M:** Feasibility study of adjuvant chemotherapy with S-1 plus cisplatin for gastric cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*, 67(6), 1423-8, 2011.
- 025 **Ishigami S, Natsugoe S, Hokita S, Aoki T, Kashiwagi H, Hirakawa K, Sawada T, Yamamura Y, Itoh S, Hirata K, Ohta K, Mafune K, Nakane Y, Furukawa H, Sasaki I, Kubota T, Kitajima M, Aikou T:** Postoperative long-term evaluation of interposition reconstruction compared with Roux-en-Y after total gastrectomy in gastric cancer: prospective randomized controlled trial. *Am J Surg*, 202(3), 247-53, 2011.
- 026 **Shitara K, Ito S, Misawa K, Ito Y, Ito H, Hosono S, Watanabe M, Tajima K, Tanaka H, Muro K, Matsuo K:** Genetic polymorphism of IGF-I predicts recurrence in patients with gastric cancer who have undergone curative gastrectomy. *Ann Oncol*, 23(3), 659-64, 2011.
- 027 **Yoshikawa T, Taguri M, Sakuramoto S, Kunisaki C, Fukunaga T, Ito S, Cho H, Tanabe K, Nishikawa K, Matsui T, Morita S, Tsuburaya A:** A Comparison of multimodality treatment: two and four courses of neoadjuvant chemotherapy using S-1/CDDP or S-1/CDDP/docetaxel followed by surgery and S-1 adjuvant chemotherapy for macroscopically resectable serosa-positive gastric cancer: a randomized phase II trial (COMPASS-D-trial). *Jpn J Clin Oncol.*, 42(1), 74-7, 2011.
- 028 **Watanabe T, Itabashi M, Shimada Y, Tanaka S, Ito Y, Ajio Y, Hamaguchi T, Hyodo I, Igarashi M, Ishida H, Ishiguro M, Kanemitsu Y, Kokudo N, Muro K, Ochiai A, Oguchi M, Ohkura Y, Saito Y, Sakai Y, Ueno H, Yoshino T, Fujimori T, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Takahashi K, Takiuchi H, Tsuruta O, Yamaguchi T, Yoshida M, Yanaguchi N, Kotake K, Sugihara K, Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum(JSCCR)guidelines 2010 for the treatment of colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*, 17, 1-29, 2012.**
- 029 **Nakanishi H, Ito S, Matsui M, Iro Y, Misawa K, Kodera Y:** Noninvasive and real-time fluorescence imaging of peritoneal metastasis in nude mice. *Methods Mol Biol*, 872, 85-95, 2012.
- 030 **Mochizuki Y, Kodera Y, Fujiwara M, Ito Y, Misawa K, Kanemitsu Y, Ito S:** Single-institute prospective trial of laparoscopy-assisted distal gastrectomy with systemic lymph node dissection for early gastric carcinoma. *Gastric Cancer*, 15(2), 124-30, 2012.
- 031 **Murakami H, Nakanishi H, Tanaka H, Ito S, Misawa K, Ito Y, Ikehara Y, Kondo E, Kodera Y:** Establishment and characterization of novel gastric signet-ring cell and non signet-ring cell poorly differentiated adenocarcinoma cell lines with low and high malignant potential. *Gastric Cancer*, 16(1), 74-83, 2012.
- 032 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 原 和生, 山雄健次, 二村雄次: 肝門部胆管癌に対する肝左3区域切除時の右肝動脈再建に左肝動脈を用いた1例. *胆道*, 24, 672-679, 2011.
- 033 清水泰博, 金光幸秀, 佐野 力, 千田嘉毅, 安藤公隆, 水野伸匡, 原和生, 脇岡範, 山雄健次, 二村雄次: 【膵IPMNの手術

- 適応の見直し】膵管内乳頭腫瘍(IPMN)癌予測ノモグラムの作成. 消化器内科, 52(6), 660-665, 2011.
- 034 羽場 真, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡大, 永塩美邦, 小倉 健, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 清水泰博: 消化器癌のサーベイランス胆道, 胆嚢. THE GI FOREFRONT, 1, 31-33, 2011.
- 035 小倉 健, 山雄健次, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡大, 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 羽場 真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博: 膵嚢胞性疾患 (IPMN). 消化器外科, 34, 1213-1222, 2011.
- 036 向井未年子, 新田都子, 藤田恵, 永田智子, 佐野 力, 清水泰博: 写真イラストでわかる消化器外科術前後ケアのDo & Donot 緩和ケア. 消化器外科NURSING, 春季増刊, 205-222, 2011.
- 037 伊藤誠二: DIF 胃癌とDIF. コンセンサス癌治療, 10(2), 100-101, 2011.

〔症例検討〕

- 001 服部憲史, 金光幸秀, 小森康司, 清水泰博, 佐野力, 千田嘉毅, 光富徹也, 福井隆幸, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二: 【結腸・直腸癌の肺・肝転移に対する治療戦略】大腸癌肝・肺転移切除症例の検討 肺転移単独と肝肺臓器転移との比較. 癌の臨床, 56, 789-796, 2011.
- 002 小倉 健, 山雄健次, 脇岡 範, 原 和生, 澤木 明, 水野伸匡, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯 哲, 赤羽麻奈, 羽場 真, 友野輝子, 清水 怜, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭: 転移性膵平滑筋肉腫の1例 -EUS-FNAの有用性と問題点-. 日消誌, 108, 987-996, 2011.
- 003 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 澤木 明, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯 哲, 小倉 健, 羽場 真, 清水泰博, 山雄健次: EUS-FNAが診断に有用であった非露出腫瘍型乳頭癌の1例. 総合臨床, 60, 756-761, 2011.
- 004 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 高木忠之, 小倉 健, 羽場 真, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 丹羽康正, 山雄健次: EUS-FNAが診断に有用であった非露出腫瘍型乳頭癌の1例. 胆道, 25, 196-202, 2011.

〔総説〕

- 001 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治: 【がん患者の周術期管理のすべて】周術期管理の実際 骨盤内臓器全摘術. 外科治療, 104, 643-653, 2011.
- 002 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治: 【次期改訂に向けて?大腸癌治療ガイドラインの問題点と今後の方向性】術後サーベイランスおよび再発に対する治療. 大腸癌Frontier, 4, 144-151, 2011.
- 003 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治: 【大腸癌 最新の研究動向】大腸癌の予後因子 リンパ節検索個数の大腸癌予後因子としての評価. 日本臨床, 69, 202-211, 2011.
- 004 友野輝子, 山雄健次, 澤木 明, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 佐伯 哲, 赤羽麻奈, 小倉 健, 羽場 真, 清水 怜, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 清水泰博, 谷田部 恭, 細田和貴: 膵腫瘍に対する最新の超音波内視鏡検査. 外科, 73, 179-186, 2011.

- 005 脇岡 範, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 丹羽康正, 田近正洋, 河合宏紀, 近藤真也, 佐伯 哲, 赤羽麻奈, 小倉 健, 羽場 真, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博: 胆嚢の超音波内視鏡検査. 外科, 73, 484-490, 2011.
- 006 佐野 力, 清水泰博, 伊藤誠二, 金光幸秀, 二村雄次: 膵頭十二指腸切除術-空腸を最後に切離して切除終了-. 手術, 65, 1649-1656, 2011.
- 007 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡大, 近藤真也, 田近正洋, 田中 努, 小倉 健, 羽場 真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 自己免疫性膵炎と膵癌との鑑別. 肝胆膵画像, 13, 735-741, 2011.
- 008 篠田雅幸, 波戸岡俊三, 安部哲也: 食道癌-基礎-臨床研究の進歩- 食道癌の再発とその治療 食道癌根治術後の再発. 日本臨床, 69, 414-419, 2011.

〔分担執筆〕

- 001 水野伸匡, 清水泰博: 膵胆道癌に対する化学療法. 消化器Book05, 197-201, 2011

整形外科部

- 001 Nishida Y, Kamada T, Imai R, Tsukushi S, Yamada Y, Sugiura H, Shido Y, Wasa J, Ishiguro N: Clinical Outcome of Sacral Chordoma with Carbon Ion Radiotherapy Compared with Surgery. Int J Radiation Oncology Biol Phys, 79(1): 110-116, 2011.
- 002 Sugiura H: Encounter of cancer cells with bone. Therapy for bone metastasis from lung cancer. Clin Calcium, 21(3): 439-45, 2011.
- 003 Wasa J, Sugiura H, Kozawa E, Kohyama K, Yamada K, Taguchi O: The tumor suppressive effect of angiotensin II type 1 receptor antagonist in a murine osteosarcoma model. Anticancer Res, 31(1): 123-7, 2011.
- 004 Nishida Y, Kamada T, Imai R, Tsukushi S, Yamada Y, Sugiura H, Shido Y, Wasa J, Ishiguro N: Clinical outcome of sacral chordoma with carbon ion radiotherapy compared with surgery. Int J Radiat Oncol Biol Phys, 79(1): 110-6, 2011.
- 005 Yamada K, Sugiura H: Protocols of chemotherapy-current progress of treatment for pelvic sarcoma (including MFH), ewing sarcoma and undifferentiated soft tissue sarcoma. Gan To Kagaku Ryoho, 38(3): 372-7, 2011.
- 006 杉浦英志: 理解を助けるトレーニング問題. CLINICAL CALCIUM, 21: 472, 2011.
- 007 杉浦英志, 濱田俊介, 中島浩敦: 大腿骨近位病的骨折に対する人工骨頭置換術後の生命予後と術後歩行能力について. 中部整災誌, 54: 913-914, 2011.
- 008 濱田俊介, 杉浦英志: 脛骨遠位端骨内ガングリオン2症例の治療経験. 中部整災誌, 54: 1205-1206, 2011.
- 009 山田健志, 杉浦英志, 長坂 暢, 谷田部 恭, 宮坂和良: 第4腰椎腫瘍. 東海骨軟部腫瘍, 23: 1-2, 2011.

- 010 濱田俊介, 杉浦英志, 山田健志, 長坂 暢, 谷田部 恭, 市橋正嘉, 大久保雄一郎: 右肩部軟部腫瘍の1例. 東海骨軟部腫瘍, 23 : 15-16, 2011.
- 011 山田健志, 濱田俊介, 杉浦英志, 細田和貴, 谷田部 恭: 右大腿軟部腫瘍. 東海骨軟部腫瘍, 23 : 25-26, 2011.

泌尿器科部

〔原 著〕

- 001 曾我倫久人, 山田泰司, 長谷川嘉弘, 有馬公伸, 杉村芳樹: ミニマム創内視鏡下根治的腎摘除術 (MIES-RN) における満足度、QOL評価 特に術後創部痛と各種因子との関わりについて。日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌: 2011 : 3 : 119-123。
- 002 曾我倫久人, 山門亨一郎, 内田克典, 高木治行, 有馬公伸, 白石泰三, 杉村芳樹: 腎腫瘍に対するCTガイド下針生検組織の病理診断におけるラジオ波焼灼術 (RFA) もしくは動脈塞栓術 (TAE) の影響。Japanese Journal of Endourology : 2011 : 24 : 370-374。
- 003 杉村芳樹, 曾我倫久人: 前立腺癌の治療 術後合併症とその対策 尿禁制改善の工夫。日本臨床, 2011 : 691 : 374-378。
- 004 有馬公伸, 山門亨一郎, 曾我倫久人, 竹田 寛, 杉村芳樹: 副腎腫瘍のradiofrequency ablation。Japanese Journal of Endourology : 2011 : 24 : 188-193。
- 005 *Soga N., Yamada Y., Hasegawa Y., Kise H., Arima K. and Sugimura Y.*: The impact of body mass index and subcutaneous fat volume on the need for extended incision during minimum incision endoscopic surgery for radical nephrectomy. Nishinohon Journal of Urology 73 : 647-653, 2011
- 006 *Iwamoto Y., Kanda H., Yamakado K., Soga N., Arima K. and Sugimura Y.*: Management of renal tumors in Von Hippel-Lindau disease by percutaneous CT fluoroscopic guided radiofrequency ablation : preliminary results. Familial Cancer 10 : 529-534, 2011
- 007 *Yamada Y., Soga N., Miki M., Masui S., Yosio Y., Kise H., Arima K. and Sugimura Y.*: Combination chemotherapy comprising Docetaxel and zoledronic acid plus dexamethasone for hormone-refractory prostate cancer patients. Nishinohon Journal of Urology 73 : 605-610, 2011

婦人科部

- 001 *Mizuno M, Nawa A, Nakanishi T, Yatabe Y* : Clinical benefit of endocrine therapy for benign metastasizing leiomyoma. Int J Clin Oncol, 16(5) : 587-91, 2011.
- 002 *Watanabe Y, Hoshiai H, Nakanishi T, Kawamura N, Tanaka N, Isaka K, Kamiura S, Ohmichi M, Hatae M, Ochiai K* : Evaluation of oral etoposide in combination with cisplatin for patients with recurrent cervical

cancer : long-term follow-up results of a Japanese multicenter study. Anticancer Res, 31(9) : 3063-7, 2011.

- 003 *Higashi M, Kajiyama H, Shibata K, Mizuno M, Mizuno K, Hosono S, Kawai M, Nakanishi T, Nagasaka T, Kikkawa F* : Survival impact of capsule rupture in stage I clear cell carcinoma of the ovary in comparison with other histological types. Gynecol Oncol, 123(3) : 474-8, 2011.
- 004 *Hosono S, Matsuo K, Hirose K, Ito H, Suzuki T, Kawase T, Watanabe M, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H* : Weight gain during adulthood and body weight at age 20 are associated with the risk of endometrial cancer in Japanese women. J Epidemiol, 21(6) : 466-73, 2011.
- 005 *Hosono S, Matsuo K, Ito H, Watanabe M, Hirose K, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H* : Interaction between CYP19A1 polymorphisms and body mass index in the risk of endometrial cancer in postmenopausal Japanese women. Asian Pac J Cancer Prev, 12(10) : 2747-52, 2011.
- 006 河合要介, 廣澤友也, 吉田憲生, 中西透: 再発卵巣癌に対する pegylated liposomal doxorubicin(PLD)の臨床効果. 東海産科婦人科学会雑誌, 48 : 139-144, 2012.
- 007 中西透: 【子宮体癌の生物学的特性から診断・治療まで】 Surveillanceと再発時のManagement. 産科と婦人科, 79 : 197-202, 2012.
- 008 宮城悦子, 沼崎令子, 中西透, 片岡史夫, 猿木信裕, 井畑 穰, 伊藤則雄, 吉田憲生, 新原温子, 村松孝彦, 今泉明, 山本浩史, 高須万里子, 光島徹, 朽久保修, 山門實, 青木大輔, 平原史樹: 「アミノインデックス技術」を用いた新規婦人科がんスクリーニング法の有用性. 人間ドック, 5 : 749-755, 2012.

麻酔科部

- 001 細田蓮子: 在宅緩和医療普及のための地域連携プロジェクト、愛知県がん研究振興会 研究助成金実績報告書、2011 p82-83
- 002 細田蓮子: がん専門病院における高度緩和医療システム構築に関する研究、愛知県がん研究振興会 研究助成金実績報告書、2011 p135-137
- 003 細田蓮子: 看護に役立つ各種手術別麻酔の知識 2高齢者手術の麻酔. ゼロからはじめる麻酔&看護トレーニング。メディカ出版 竹田清編 2011 p178-181

放射線診断・I V R部

- 001 *Arai Y, Inaba Y, Sone M, Saitoh H, Takeuchi Y, Shioyama Y, Nakajima Y* : Phase I/II study of transjugular transhepatic peritoneovenous venous shunt, a new procedure to manage refractory ascites in cancer patients : Japan Interventional Radiology in

- Oncology Study Group 0201 . Am J Roentgenol 196 : 621-6 , 2011
- 002 **Tomozawa Y, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Kanamoto T, Sakane M** : Clinical value of CT-guided needle biopsy for retroperitoneal lesions. Korean J Radiol 12 : 351-7, 2011
- 003 **Nishiofuku H, Matsushima S, Taguchi O, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Tanaka T, Kichikawa K** : Cellular imaging using equivalent cross-relaxation rate technique in rabbit VX-2 tumor model. Cancer Informatics 10 : 227-32, 2011
- 004 **Katakami N, Inaba Y, Sugata S, Tsurusaki M, Itoh T, Machida T, Tanaka H, Nakayama T, Morikawa T, Breuer J, Aitoku Y** : Magnetic resonance evaluation of brain metastases from systemic malignancies with two doses of gadobutrol 1.0 M compared with gadoteridol. Invest Radiol 46: 411-8, 2011
- 005 **Inaba Y, Arai Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Saito H, Aramaki T, Sato M, Kumada T, Takeuchi Y** : Phase II clinical study on stent therapy for unresectable malignant colorectal obstruction (JIVROSG-0206). Am J Clin Oncol 35 : 73-6, 2012
- 006 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造 : がん化学療法の副作用とその対策; 血管デバイスの合併症. がん化学療法 277-82, 2011
- 007 稲葉吉隆 : 消化管ステント留置術. IVRマニュアル第2版, 医学書院 301-3, 2011
- 008 松井修, 荒井保明, 村上卓道, 宮山士朗, 稲葉吉隆, 池田公史 : 分子標的治療薬導入後の肝細胞癌治療戦略. 新薬と臨床 60 : 11-27 (1741-1757), 2011
- 009 佐藤洋造 : セレコンMPカテーテルIIを用いた肝右葉アプローチ経皮経肝的門脈塞栓術 (PTPE). IVRデバイスBOOK, Rad Fan 9 (10月臨時増刊号) : 14-5, 2011
- 010 山浦秀和, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶 : 肝癌 (塞栓術 TACE); 外科医のための最新癌薬物療法. 臨床外科 66 : 177-82, 2011
- 011 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶 : 腫瘍出血に対する止血目的の血管塞栓術に関する検討. 映像情報メディカル 44 : 102-3, 2012
- 012 佐藤洋造, 鈴木梨津子, 山浦秀和, 加藤弥菜, 金本高明, 北角淳, 栗延孝至, 佐藤健司, 稲葉吉隆 : 胃癌術後難治性腹水に対してTIPSを施行した1例. IVR学会雑誌 27 (Supplement) : 26-7, 2012
- defining clinical target volume (CTV) for primary disease in external beam radiotherapy for intact uterine cervical cancer Jpn J of Clin Oncol; 41(9), 1119-1126, 2011
- 002 **Tomita N, Toita T, Kodaira T, Shinoda A, Uno T, Numasaki H, Teshima T, Mitsumori M** : Changing trend in the patterns of pretreatment diagnostic assessment for patients with cervical cancer in Japan. Gynecol Oncol; 123(3), 577-80, 2011
- 003 **Nakamura K, Akimoto T, Mizowaki T, Hatano K, Kodaira T, Nakamura N, Kozuka T, Shikama N, Kagami Y** : Patterns of Practice in Intensity-modulated Radiation Therapy and Image-guided Radiation Therapy for Prostate Cancer in Japan. Jpn J of Clin Oncol; 42(1) : 53-57, 2011
- 004 **Tomita N, Fuwa N, Ariji Y, Kodaira T, Mizoguchi N** : Factors associated with nodal metastasis in nasopharyngeal cancer : an approach to reduce the radiation field in selected patients. Br J Radiol 84(999); 265-70, 2011
- 005 **Toita T, Kato S, Ishikura S, Tsujino K, Kodaira T, Uno T, Hatano K, Sakurai H, Niibe Y, Kazumoto T, Nishimura T, Kitagawa R, Fukutani M, Oguchi M, Umayahara K, Hirashima Y, Aoki Y, Takizawa K, and Disease Committee of Radiation Oncology, Japanese Gynecologic Oncology Group. Radiotherapy quality assurance of the Japanese Gynecologic Oncology Group study (JGOG1066)** : a cooperative phase II study of concurrent chemoradiotherapy of uterine cervical cancer. Int J Clin Oncol 16(4); 379-86, 2011
- 006 **Toita T, Kato S, Niibe Y, Ohno T, Kazumoto T, Kodaira T, Kataoka M, Shikama N, Kenjo M, Tokumaru S, Yamauchi C, Suzuki O, Sakurai H, Numasaki H, Teshima T, Oguchi M, Kagami Y, Nakano T, Hiraoka M, Mitsuhashi N** : Prospective multi-institutional study of definitive radiotherapy with high-dose rate intracavitary brachytherapy in patients with non-bulky (< 4 cm) stage I, II uterine cervical cancer (JAROG0401/JROSG04-2). Int J Radiat Oncol Biol Phys 82(1); e49-56, 2011
- 007 **Shikama N, Oguchi M, Isobe K, Nakamura K, Tamaki Y, Hasegawa M, Kodaira T, Sasaki S, Kagami Y; on behalf of the Japan Radiation Oncology Group (JAROG)** : A Long-term Follow-up Study of Prospective 80%-dose CHOP Followed by Involved-field Radiotherapy in Elderly Lymphoma Patients. Jpn J of Clin Oncol;41(6), 764-9, 2011.
- 008 **Kato H, Kagami Y, Kodaira T, Oka S, Oki Y, Chihara D, Taji H, Yatabe Y, Nakamura T, Nakamura S, Seto M, Yamamoto K, Morishima Y** : Nodal relapse after Helicobacter pylori eradication in a patient with primary localized gastric mucosa associated lymphoid tissue lymphoma. Am J Gastroenterology 106 (3); 549-51, 2011
- 009 **Tomita N, Toita T, Kodaira T, Shinoda A, Uno T,**

放射線治療部

[原著]

- 001 **Toita T, Ohno T, Kaneyasu Y, Kato T, Uno T, Hatano K, Norihisa Y, Kasamatsu T, Kodaira T, Yoshimura R, Ishikura S, Hiraoka M for the JCOG Radiation Therapy Study Group** : A consensus-based guideline

- Numasaki H, Teshima T, Mitsumori M** : Changing trend in the patterns of pretreatment diagnostic assessment for patients with cervical cancer in Japan. *Gynecol Oncol*; 123(3), 577-80, 2011
- 010 **Nakamura K, Akimoto T, Mizowaki T, Hatano K, Kodaira T, Nakamura N, Kozuka T, Shikama N, Kagami Y** : Patterns of Practice in Intensity-modulated Radiation Therapy and Image-guided Radiation Therapy for Prostate Cancer in Japan. *Jpn J of Clin Oncol*; 42(1) : 53-57, 2011
- 011 **Inokuchi H, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Tomita N, Nakahara R, Takada A, Mizoguchi N, Tamaki T, Fuwa N** : Clinical Usefulness of [(18)F] Fluoro-2-Deoxy-d-Glucose Uptake in 178 Head-and-Neck Cancer Patients with Nodal Metastasis Treated with Definitive Chemoradiotherapy : Consideration of Its Prognostic Value and Ability to Provide Guidance for Optimal Selection of Patients for Planned Neck Dissection. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 79(3) ; 747-55, 2011
- 012 **Nomura M, Kodaira T, Furutani K, Tachibana H, Tomita N, Goto Y** : Predictive factors for radiation pneumonitis in esophageal cancer patients treated with chemoradiotherapy without prophylactic nodal irradiation. *Br J Radiol*; 85, 813-818, 2012
- 013 **Shimizu H, Matsushima S, Kinosada Y, Miyamura H, Tomita N, Kubota T, Osaki H, Nakayama M, Yoshimoto, M, Kodaira T** : Evaluation of parotid gland function using equivalent cross-relaxation rate imaging applied magnetization transfer effect. *J Radiat Res* 53 (1), p138-44, 2012
- 014 **古平 毅** : 高精度放射線治療の適応と成果 —そして課題— II高精度放射線治療の適応と課題 : 疾患別の検討2頭頸部癌の最新放射線治療 強度変調放射線治療 (IMRT) . *INNERVISION* 26(3);23-26, 2011
- 015 **古平 毅** : Current topics : 頭頸部癌 頭頸部がんに対する通常放射線治療と強度変調放射線治療の比較 効果と有害事象. *癌と化学療法*38(7);1103-06, 2011
- 016 **古平 毅, 清水秀年, 古谷和久, 立花 弘之, 富田 夏夫, 後藤容子, 野村基雄, 伊藤淳二** : 要望演題1 高精度治療および短期照射治療に伴う有害事象 頭頸部癌IMRT症例の唾液腺機能評価の検討. *臨床放射線*, 56(8);935-942, 2011
- 017 **清水秀年, 立花 弘之, 久保田隆士, 今村浩史, 松島秀, 吉本学, 古平 毅** : TomoTherapy Planning Stationにおける計画パラメータの設定による前立腺がん照射時間短縮の検討. *日本放射線技術学会*, 67 (12) 1548-58, 2011
- 018 **富田 夏夫, 沼崎 穂高, 五十野 優, 手島 昭樹, 古平 毅, 戸板 孝文, 篠田充功, 宇野 隆, 光森 通英** : 日本PCS子宮頸癌小作業部会 婦人科疾患の診断と治療update 治療②放射線療法 10)放射線治療の現況PCSより 臨床放射線 56(11);1649-56 , 2011
- 019 **富田 夏夫, 立花弘之, 古平毅** : トモセラピー強度変調放射線治療専用機について. *Rad Fan*, vol. 10 No. 3;33-35, 2012

緩和ケア部

- 001 **Komori, Y.** : Remembering Dick. *J of Systemic Therapies* 30(4) : 83-84, 2011
- 002 **小森康永** : モルヒネとしてのアート、臨床描画研究 26 ; 72-81, 2011
- 003 **小森康永** : Review of Books Abroad, Michael White : Narrative Practice : Continuing the conversations. W. W. Norton, 2011, *精神療法* 37 (3) : 366-367, 2011
- 004 **小森康永** : 書評アラシエスカ『日記とはなにか』家族療法研究28(3) : 315-316, 2011
- 005 **小森康永** : ナラティブ・セラピー、現代精神医学事典、弘文堂、2011
- 006 **小森康永** : 書評『ナラティブ・メディスン』, *精神療法* 38 (1) : 128-129, 2012
- 007 **小森康永** : 自薦式ブックレビュー Marisa Silver : Night train to Frankfurt, N : ナラティブとケア、3 : 78-79, 2012
- 008 **小森康永+H. チョチノフ** : ディグニティセラピーのすすめ、金剛出版、2011年5月刊行 上記 韓国語訳、2011年5月刊行
- 009 **小森康永** 訳 : 第3章 スタートを切る—統合的スーパーヴィジョンの基本的指針、エリー、R. E. エベレット、C. A. (福山和女、石井千賀子監訳)『家族療法のスーパーヴィジョン』(金剛出版、2011年6月刊行) 収録
- 010 **R. フィッシュほか(小森康永監訳)** : 解決が問題である、金剛出版、2011年12月刊行

看護部

- 001 **川瀬洋子** : 対話・コミュニケーションから学ぶスピリチュアルケア —ことばと物語からの実践— 診断と治療社、P60-66, 2011
- 002 **久保知** : 認定看護師が教える実践的看護リーダーシップ 受け持ち看護師の心理的負担を支える実践、看護実践の科学 6月臨時増刊号、看護の科学社、2011
- 003 **小原真紀子** : 消化器外科NURSING 2011 Vol. 16 No.7 大腸がん クローズアップ FOLFOX療法, メディカ出版, P45-49, 2011
- 004 **新貝夫弥子** : 緩和ケア 睡眠障害のマネジメント、南江堂、p116~119, 2011
- 005 **瀬古志桜** : 消化器外科ナーシング・プロフェッショナルがんナーシング がん化学療法レジメンごとの看護シート & 看護ダイアリー集、メディカ出版、p51-74, 2011
- 006 **戸崎加奈江** : 消化器外科NURSING 2011 Vol. 16 No.7 大腸がん クローズアップセツキシマブ単独療法, メディカ出版, P57-65, 2011
- 007 **戸崎加奈江** : 消化器外科NURSING 2011 Vol. 16 No.7 大腸がん クローズアップイリノテカン・セツキシマブ療法, メディカ出版, P66-69, 2011
- 008 **戸崎加奈江** : 外来看護「苦痛を最小限にした安楽な外来がん化学療法」、日総研、P055-064, 2011

- 009 新田都子：消化器外科NURSING 3緩和ケア 2Do not NSAID s は一定量以上、投与する量を増やしても効果は必ずしも増強しないため、むやみに増量してはいけない、メディカ出版、p 208-209, 2011.
- 010 新田都子：Expert Nurse 誌上コンサルテーション 相談 2食道がんで嚥下時に痛みが強いとき、効果的な疼痛ケアは？, 照林社, p 40-41, 2011.
- 011 新田都子：看護実践の科学 認定看護師が教える実践的リーダーシップ スタッフの力を信じて支えるリーダーシップ, 看護の科学社, p 24-29.
- 012 新田都子：Expert Nurse 誌上コンサルテーション 相談 1がんの痛みで、病巣から離れたところで生じる「関連痛」とは？, 照林社, p 38-39, 2011.
- 013 西尾充代：消化器外科NURSING 2011 Vol. 16 No.7 大腸がん クローズアップXELOX療法, メディカ出版, P50-56
- 014 宮谷美智子：消化器外科NURSING 2011 Vol. 16 No.7 大腸がん クローズアップFOLFIRI療法, メディカ出版, P38-44
- 015 宮谷美智子：プロフェッショナルがんナーシング、2011 Vol. 2 No.1 セツキシマブ、パニシマブによる皮膚障害、メディカ出版、P42-61
- 016 向井未年子：がん看護学 臨床に活かすがん看護の基礎と実践、ヌーヴェルヒロカワ、p478-481, 2011
- 017 向井未年子：写真・イラストでわかる 消化器外科術前術後ケアのDo&Do not, 消化器ナーシング 春季増刊、メディカ出版、p205-207, 2011
- 018 村井律子：オペナーシング 特集 外回り看護の術前・術中・術後のスタンダードパターンとトラブルパターン「患者入室前～入室」メディカ出版、vol. 27 no. 2 P20-31, 2000
- に関する調査（第1報）. 癌と化学療法, VOL. 38, 第9号, 1447-1452, (2011)
- 005 佐藤由美子, 立松三千子, 石川和宏, 岡本浩一 他：進行・再発大腸がん患者のmFOLFOX6およびFOLFIRI療法における悪心嘔吐発現状況に関する後ろ向き調査. YAKUGAKU ZASSHI, 131(11), 1661-1666, (2011)
- 006 井之上浩一, 松下祥子, 野村基雄, 立松三千子, 他：液体クロマトグラフィー質量分析法によるがん患者の血清中フェンタニル濃度の測定. 日本緩和医療薬学雑誌, 4, 111-116, (2011)

薬 剤 部

- 001 *Michiko Hamatake, Noriko Miyazaki, Kaori Sudo, Motoko Matsuda, Tetsushi Sadakata, Asako Furuya, Satoshi Ichisaka, Yoshio Hata, Chiaki Nakagawa, Koh-ichi Nagata, Teichi Furuichi, and Ritsuko Katoh-Semba* : Phase Advance of the Light-Dark Cycle Perturbs Diurnal Rhythms of Brain-derived Neurotrophic Factor and Neurotrophin-3 Protein Levels, Which Reduces Synaptophysin-positive Presynaptic Terminals in the Cortex of Juvenile Rats□S. Journal of Biological Chemistry, Volume 286, Number 24, 21478-21487, (2011)
- 002 前田章光：CYP2C19 遺伝子多型別にみたクロピドグレルの薬効に対する各 PPI の影響. 医療薬学, 37(8), 481-485, (2011)
- 003 前田剛司, 立松三千子, 室圭：セツキシマブ投与によるInfusion Reactionの発現時期の検討. 癌と化学療法, VOL. 38, 第6号, 963-966, (2011)
- 004 日比聡, 立松三千子, 西尾里美 他：オキサリプラチンの末梢静脈投与における血管痛様症状の発現およびその対策

6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

所長室

〔原著〕

- 001 **Katanoda K, Sobue T, Satoh H, Tajima K, Suzuki T, Nakatsuka H, Takezaki T, Nakayama T, Nitta H, Tanabe K, Tominaga S:** An association between long-term exposure to ambient air pollution and mortality from lung cancer and respiratory diseases in Japan. *J Epidemiol*, 21: 132-143, 2011.
- 002 **Li M, Zhou Y, Chen P, Yang H, Yuan X, Tajima K, Cao J, Wang H:** Genetic variants on chromosome 8q24 and colorectal cancer risk: A case-control study in China and meta-analysis of the published literature. *Plos One J*, 6 (3): e18251, 2011.
- 003 **Katanoda K, Saika K, Yamamoto S, Tanaka S, Oshima A, Nakamura M, Satoh H, Tajima K, Suzuki T, Tamakoshi A, Tsugane S, Sobue T:** Projected cancer mortality among Japanese males under different smoking prevalence scenarios: evidence for tobacco control goal setting. *Jpn J Clin Oncol*, 41: 483-489, 2011.
- 004 **Liu YT, Gao CM, Ding JH, Li SP, Cao HX, Wu JZ, Tang JH, Qian Y, Tajima K:** Physiological, reproductive factors and breast cancer risk in Jiangsu Province of China. *Asia Pacific J Cancer Prev*, 12: 787-790, 2011.

〔総説〕

- 001 **田島和雄:** がんの疫学研究からウイルス考古学への展開. *日本がん検診・診断学会誌*, 19: 252-264, 2012

〔単行本〕

- 001 **Zhou ZY, Matsuo K, Wang WC, Yang H, Tajima K, Cao J:** Dietary risks: Folate, alcohol and gene polymorphisms. In *Colorectal Cancer from Prevention to Patient Care*, Ettarh R, ed., pp.491-508, INTECH ORG, 2012.

疫学・予防部

- 001 **Ito H, Matsuo K, Tanaka H, Koestler DC, Ombao H, Fulton J, Shibata A, Fujita M, Sugiyama H, Soda M, Sobue T, Mor V:** Nonfilter and filter cigarette consumption and the incidence of lung cancer by histological type in Japan and the United States: Analysis of 30-year data from population-based cancer registries. *Int J Cancer*, 128(8):1918-28, 2011.
- 002 **田中英夫:** 肺がんの疫学 総合臨床, 60(5):668-72, 2011.
- 003 **Hishida A, Matsuo K, Goto Y, Naito M, Wakai K, Tajima K, Hamajima N:** Combined effect of miR-146ars2910164 G/C polymorphism and Toll-like Receptor 4 +3725 G ? C polymorphism on the risk of severe

gastric atrophy in Japanese. *Digest Dis Sci*, 56(4): 1131-7, 2011.

- 004 **Nakao M, Matsuo K, Hosono S, Ogata S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Iida S, Satoh S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H:** ABO blood group alleles and the risk of pancreatic cancer in Japanese population. *Cancer Sci*, 102(5):1076-1080, 2011.
- 005 **Hanioka T, Ojima M, Tanaka K, Matsuo K, Sato F, Tanaka H:** Causal assessment of smoking and tooth loss: A systematic review of observational studies. *BMC Public Health*, 11:221, 2011.
- 006 **Nakata I, Yamashiro K, Yamada R, Gotoh N, Nakanishi H, Hayashi H, Tsujikawa A, Otani A, Saito M, Iida T, Oishi A, Matsuo K, Tajima K, Matsuda F, Yoshimura N:** Association between the SERPING1 Gene and Age-Related Macular Degeneration and Polypoidal Choroidal Vasculopathy in Japanese. *PLoS One*, 6(4):e19108, 2011.
- 007 **Oze I, Matsuo K, Wakai K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Sasazuki S, Inoue M, Tsugane S; for the Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.:** Alcohol Drinking and Esophageal Cancer Risk: An Evaluation Based on a Systematic Review of Epidemiologic Evidence Among the Japanese Population. *Jpn J Clin Oncol*, 41(5):677-692, 2011.
- 008 **Wakai K, Matsuo K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Sasazuki S, Shimazu T, Sawada N, Inoue M, Tsugane S; for the Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.:** Lung Cancer Risk and Consumption of Vegetables and Fruit: An Evaluation Based on a Systematic Review of Epidemiological Evidence from Japan. *Jpn J Clin Oncol*, 41(5):693-708, 2011.
- 009 **Hotta K, Takigawa N, Matsuo K, Kiura K.:** Cure- or Care-Oriented Regimen for Stage III Non-Small-Cell Lung Cancer? *J Clin Oncol*, 29(11):e320, 2011.
- 010 **Wakai K, Hamajima N, Okada R, Naito M, Morita E, Hishida A, Kawai S, Nishio K, Yin G, Asai Y, Matsuo K, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Kawase T, Suzuki T, Tajima K, Tanaka K, Higaki Y, Hara M, Imaizumi T, Taguchi N, Nakamura K, Nanri H, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Kita Y, Turin TC, Rumana N, Matsui K, Miura K, Ueshima H, Takashima N, Nakamura Y, Suzuki S, Ando R, Hosono A, Imaeda N, Shibata K, Goto C, Hattori N, Fukatsu M, Yamada T, Tokudome S, Takezaki T, Niimura H, Hirasada K, Nakamura A, Tatebo M, Ogawa S, Tsunematsu N, Chiba S, Mikami H, Kono S, Ohnaka K, Takayanagi R, Watanabe Y, Ozaki E, Shigeta M, Kuriyama N, Yoshikawa A, Matsui D, Watanabe I, Inoue K, Ozasa K, Mitani S, Arisawa K, Uemura H, Hiyoshi M,**

- Takami H, Yamaguchi M, Nakamoto M, Takeda H, Kubo M, Tanaka H.**: Profile of Participants and Genotype Distributions of 108 Polymorphisms in a Cross-Sectional Study of Associations of Genotypes With Lifestyle and Clinical Factors: A Project in the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *J Epidemiol*, 21(3):223-35, 2011.
- 011 **Ju HX, An B, Okamoto Y, Shinjo K, Kanemitsu Y, Komori K, Hirai T, Shimizu Y, Sano T, Sawaki A, Tajika M, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Ito H, Takeuchi I, Sekido Y, Kondo Y.**: Distinct profiles of epigenetic evolution between colorectal cancers with and without metastasis. *Am J Pathol*, 178(4):1835-46, 2011.
- 012 **Nakao M, Matsuo K, Ito H, Shitara K, Hosono S, Watanabe M, Ito S, Sawaki A, Iida S, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Hamajima N, Tanaka H.**: ABO Genotype and the Risk of Gastric Cancer, Atrophic Gastritis, and Helicobacter pylori Infection. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 20(8):1665-72, 2011.
- 013 **Boffetta P, McLerran D, Chen Y, Inoue M, Sinha R, He J, Gupta PC, Tsugane S, Irie F, Tamakoshi A, Gao YT, Shu XO, Wang R, Tsuji I, Kuriyama S, Matsuo K, Satoh H, Chen CJ, Yuan JM, Yoo KY, Ahsan H, Pan WH, Gu D, Pednekar MS, Sasazuki S, Sairenchi T, Yang G, Xiang YB, Nagai M, Tanaka H, Nishino Y, You SL, Koh WP, Park SK, Shen CY, Thornquist M, Kang D, Rolland B, Feng Z, Zheng W, Potter JD.**: Body mass index and diabetes in Asia: a cross-sectional pooled analysis of 900,000 individuals in the Asia cohort consortium. *PLoS One*, 6(6):e19930, 2011.
- 014 **Shitara K, Matsuo K, Oze I, Mizota A, Kondo C, Nomura M, Yokota T, Takahari D, Ura T, Muro K.**: Meta-analysis of neutropenia or leucopenia as a prognostic factor in patients with malignant disease undergoing chemotherapy. *Cancer Chemother Pharmacol*, 68(2):301-7, 2011.
- 015 **Shitara K, Matsuo K, Mizota A, Kondo C, Nomura M, Takahari D, Yokota T, Ura T, Ito S, Tajika M, Muro K.**: Association of Fluoropyrimidines, Platinum Agents, Taxanes, and Irinotecan in Any Line of Chemotherapy with Survival in Patients with Advanced Gastric Cancer. *Gastric Cancer*, 14(2):155-60, 2011.
- 016 **Takigawa N, Kiura K, Segawa Y, Hotta K, Tamaoki A, Touda Y, Nagata T, Watanabe K, Gemba K, Moritaka T, Horita N, Takeda H, Okimoto N, Takemoto M, Matsuo K, Shinkai T, Tabata M, Ueoka H, Knazawa S, Tanimoto M.**: Benefits and adverse events among elderly patients receiving concurrent chemoradiotherapy for locally advanced non-small cell lung cancer: Analysis of the Okayama Lung Cancer Study Group Trial 0007. *J Thorac Oncol*, 6(6):1087-91, 2011.
- 017 **Kumar V, Matsuo K, Takahashi A, Hosono N, Tsunoda T, Kamatani N, Kong SY, Nakagawa H, Cui R, Tanikawa C, Seto M, Morishima Y, Kubo M, Nakamura Y, Matsuda K.**: Common variants on 14q32 and 13q12 are associated with DLBCL susceptibility. *J Hum Genet*, 56(6):436-9., 2011.
- 018 **Sato F, Oze I, Kawakita D, Yamamoto N, Ito H, Hosono S, Suzuki T, Kawase T, Furue H, Watanabe M, Hatooka S, Yatabe Y, Hasegawa Y, Shinoda M, Ueda M, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K.**: Inverse association between toothbrushing and upper aerodigestive tract cancer risk in a Japanese population. *Head Neck*, 33(11):1628-37, 2011.
- 019 **Hosono S, Kajiyama H, Mizuno K, Sakakibara K, Matsuzawa K, Takeda A, Kawai M, Nagasaka T, Kikkawa F.**: Comparison between serous and non-serous ovarian cancer as a prognostic factor in advanced epithelial ovarian carcinoma after primary debulking surgery. *Int J Clin Oncol*, 16(5):524-32, 2011.
- 020 **Matsuo K, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Sugawara Y, Sasazuki S, Nagata C, Tamakoshi A, Wakai K, Inoue M, Tsugane S.**: Association between body mass index and the colorectal cancer risk in Japan: pooled analysis of population-based cohort studies in Japan. *Ann Oncol*, 23(2):479-490, 2012.
- 021 **Yatabe Y, Matsuo K, Mitsudomi T.**: Heterogeneous distribution of EGFR mutations is extremely rare in lung adenocarcinoma. *J Clin Oncol*, 29(22):2972-7, 2011.
- 022 **Chuang SC, Agudo A, Ahrens W, Anatharaman D, Benhamou S, Boccia S, Chen C, Conway D, Fabianova E, Hayes RB, Healy C, Holcatova I, Kjaerheim K, Lagiou P, Lazarus P, Macfarlane TV, Mahimkar M, Mates D, Matsuo K, Merletti F, Metspalu A, Mogenstern H, Muscat J, Cadoni G, Olshan AF, Purdue M, Ramroth H, Rudnai P, Schartz SM, Simonato L, Smith EM, Sturgis EM, Szeszenia-Dabrowska N, Talamini R, Thomson P, Wei Q, Zaidze D, Zhang ZF, Znaor A, Brennan P, Boffetta P, Hashibe M.**: Sequence variants and the risk of head and neck cancer: pooled analysis in the INHANCE consortium. *Front Cancer Epidemiol Prev*, 1(13):1-15, 2011.
- 023 谷口千枝、田中英夫、板倉安希、安藤晶子、杉下美保子、小暮あゆみ、松永千歳、坂秀雄。：禁煙治療終了前4週間の禁煙継続に関する要因。日本禁煙学会雑誌, 6(3):34-40, 2011.
- 024 **Taniguchi C, Hibino F, Kawaguchi E, Maruguchi M, Tokunaga N, Saka H, Oze I, Ito H, Hiraki A, Nakamura S, Tanaka H.**: Perceptions and practices of Japanese nurses regarding tobacco intervention for cancer patients. *J Epidemiol*, 5;21(5):391-7, 2011.
- 025 田頭尚士、松久哲章、尾瀬功、清藤佐知子、高橋三奈、原文堅、高島大典、高嶋成輝、青儀健二郎、大住省三、江口久恵。：乳癌患者に対するアプレピタントの有効性および安全性の検討。癌と化学療法, 38(8):1307-11, 2011.
- 026 **Matsuse M, Takahashi M, Mitsutake N, Nishihara E, Hirokawa M, Kawaguchi T, Rogounovitch T, Saenko**

- V, Bychkov A, Suzuki K, Matsuo K, Tajima K, Miyauchi A, Yamada R, Matsuda F, Yamashita S.*: The FOXE1 and NKX2-1 loci are associated with susceptibility to papillary thyroid carcinoma in the Japanese population. *J Med Genet*, 48(9):645-8, 2011.
- 027 *Hijioka S, Matsuo K, Mizuno N, Hara K, Mekky MA, Vikram B, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Kondo S, Tajika M, Niwa Y, Tamada K, Yamao K.*: Role of endoscopic ultrasound and endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration in diagnosing metastasis to the pancreas: a tertiary center experience. *Pancreatology*, 11(4):390-8, 2011.
- 028 *Nicolotti N, Chuang SC, Cadoni G, Arzani D, Petrelli L, Bosetti C, Brenner H, Hosono S, La Vecchia C, Matsuo K, M?ller H, Muscat J, Paludetti G, Ricciardi G, Boffetta P, Hashibe M, Boccia S.*: Recreational physical activity and risk of head and neck cancer: a pooled analysis within the international head and neck cancer epidemiology (INHANCE) Consortium. *Eur J Epidemiol*, 26(8):619-28, 2011.
- 029 *Hibi S, Goto Y, Ando T, Matsuo K, Wakai K, Tajima K, Goto H, Hamajima N.*: No association between angiotensin I converting enzyme (ACE) I/D polymorphism and gastric cancer risk among Japanese. *Nagoya J Med Sci*, 73(3-4):169-75, 2011.
- 030 *Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Tamakoshi A, Sasazuki S, Inoue M, Tsugane S; for the Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.*: Cigarette Smoking and Pancreas Cancer Risk: An Evaluation Based on a Systematic Review of Epidemiologic Evidence in the Japanese Population. *Jpn J Clin Oncol*, 41(11):1292-1302, 2011.
- 031 *Maeda O, Shibata K, Hosono S, Fujiwara S, Kajiyama H, Ino K, Nawa A, Tamakoshi K, Kikkawa F.*: Spectrin α II and β II tetramers contribute to platinum anticancer drug resistance in ovarian serous adenocarcinoma. *Int J Cancer*, 130(1):113-21, 2012.
- 032 *Hosono S, Matsuo K, Hirose K, Ito H, Suzuki T, Kawase T, Watanabe M, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H.*: Weight gain during adulthood and body weight at age 20 are associated with the risk of endometrial cancer in Japanese women. *J Epidemiol*, 21(6):466-73, 2011.
- 033 *Sasazuki S, Inoue M, Tsuji I, Sugawara Y, Tamakoshi A, Matsuo K, Wakai K, Nagata C, Tanaka K, Mizoue T, Tsugane S.*: Body Mass Index and Mortality From All Causes and Major Causes in Japanese: Results of a Pooled Analysis of 7 Large-Scale Cohort Studies. *J Epidemiol*, 21(6):417-30, 2011.
- 034 *Terao C, Ohmura K, Kochi Y, Ikari K, Maruya E, Katayama M, Shimada K, Murasawa A, Honjo S, Takasugi K, Matsuo K, Tajima K, Suzuki A, Yamamoto K, Momohara S, Yamanaka H, Yamada R, Saji H, Matsuda F, Mimori T.*: A large-scale association study identified multiple HLA-DRB1 alleles associated with ACPA-negative rheumatoid arthritis in Japanese subjects. *Ann Rheum Dis*, 70(12):2134-9, 2011.
- 035 *Tanaka M, Katayama F, Kato H, Tanaka H, Wang J, Qiao YL, Inoue M.*: Hepatitis B and C virus infection and hepatocellular carcinoma in china: a review of epidemiology and control measures. *J Epidemiol*, 21(6):401-16, 2011.
- 036 *Chihara D, Oki Y, Matsuo K, Onoda H, Taji H, Yamamoto K, Morishima Y.*: Incidence and risk factors for central nervous system relapse in patients with diffuse large B-cell lymphoma: analyses with competing risk regression model. *Leuk Lymphoma*, 52(12):2270-5, 2011.
- 037 *Shitara K, Ura T, Matsuo K, Takahari D, Yokota T, Yuki S, Yoshida M, Utsunomiya S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Inaba Y, Tajika M, Kawai H, Yamazaki K, Komatsu Y, Muro K.*: Sensitivity to previous irinotecan treatment does not predict the efficacy of combination chemotherapy with cetuximab plus irinotecan for wild-type KRAS metastatic colorectal cancer. *Eur J Cancer*, 47(18):2673-80, 2011.
- 038 *Kawakita D, Matsuo K, Sato F, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Tajima K, Murakami S, Tanaka H.*: Association between dietary folate intake and clinical outcome in head and neck squamous cell carcinoma. *Ann Oncol*, 23(1):186-92, 2012.
- 039 *Higashi M, Kajiyama H, Shibata K, Mizuno M, Mizuno K, Hosono S, Kawai M, Nakanishi T, Nagasaka T, Kikkawa F.*: Survival impact of capsule rupture in stage I clear cell carcinoma of the ovary in comparison with other histological types. *Gynecol Oncol*, 123(3):474-8, 2011.
- 040 *Kajiyama H, Shibata K, Mizuno M, Hosono S, Kawai M, Nagasaka T, Kikkawa F.*: Fertility-sparing surgery in patients with clear-cell carcinoma of the ovary: Is it possible? *Hum Reprod*, 26(12):3297-302, 2011.
- 041 *Ennishi D, Shitara K, Ito H, Hosono S, Watanabe M, Ito S, Sawaki A, Yatabe Y, Yamao K, Tajima K, Tanimoto M, Tanaka H, Hamajima N, Matsuo K.*: Association between insulin-like growth factor-1 polymorphisms and stomach cancer risk in a Japanese population. *Cancer Sci*, 102(12):2231-2235, 2011.
- 042 *Shitara K, Matsuo K, Kondo C, Takahari D, Ura T, Inaba Y, Yamamura H, Sato Y, Kato M, Kanemitsu Y, Sano T, Shimizu Y, Muro K.*: Prolonged survival of patients with metastatic colorectal cancer following first-line oxaliplatin-based chemotherapy with molecular targeting agents and curative surgery. *Oncology*, 81(3-4):167-74, 2011.
- 043 *Cai Q, Long J, Lu W, Qu S, Wen W, Kang D, Lee JY, Chen K, Shen H, Shen CY, Sung H, Matsuo K, Haiman*

- CA, Khoo US, Ren Z, Iwasaki M, Gu K, Xiang YB, Choi JY, Park SK, Zhang L, Hu Z, Wu PE, Noh DY, Tajima K, Henderson BE, Chan KY, Su F, Kasuga Y, Wang W, Cheng JR, Yoo KY, Lee JY, Zheng H, Liu Y, Shieh YL, Kim SW, Lee JW, Iwata H, Le Marchand L, Chan SY, Xie X, Tsugane S, Lee MH, Wang S, Li G, Levy S, Huang B, Shi J, Delahanty R, Zheng Y, Li C, Gao YT, Shu XO, Zheng W*: Genome-wide association study identifies breast cancer risk variant at 10q21.2: results from the Asia Breast Cancer Consortium. *Hum Mol Genet*, 20(24):4991-9, 2011.
- 044 *Pham NM, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Tamakoshi A, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nagata C, Sasazuki S, Inoue M, Tsugane S*: Physical Activity and Colorectal Cancer Risk: An Evaluation Based on a Systematic Review of Epidemiologic Evidence Among the Japanese Population. *Jpn J Clin Oncol*, 42(1):2-13, 2012.
- 045 *Oze I, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Tamakoshi A, Sasazuki S, Inoue M, Tsugane S; for the Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan*: Cigarette Smoking and Esophageal Cancer Risk: An Evaluation Based on a Systematic Review of Epidemiologic Evidence Among the Japanese Population. *Jpn J Clin Oncol*, 42(1):63-73, 2012.
- 046 *Nakao M, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K*: Interaction between IGF-1 polymorphisms and overweight for the risk of pancreatic cancer in Japanese. *Int J Mol Epidemiol Genet*, 2(4):354-66, 2011.
- 047 *Tanaka M, Ma E, Tanaka H, Ioka A, Nakahara T, Takahashi H*: Trends of stomach cancer mortality in eastern Asia in 1950-2004: Comparative study of Japan, Hong Kong and Singapore using age, period and cohort analysis. *Int J Cancer*, 130(4):930-6, 2012.
- 048 *Kawakita D, Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Hanai N, Hasegawa Y, Tajima K, Murakami S, Tanaka H, Matsuo K*: Impact of smoking status on clinical outcome in oral cavity cancer patients. *Oral Oncol*, 48(2):186-91, 2012.
- 049 *Matsuo K, Rossi M, Negri E, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hasegawa Y, Tanaka H, Tajima K, La Vecchia C*: Folate, alcohol, and aldehyde dehydrogenase 2 polymorphism and the risk of oral and pharyngeal cancer in Japanese. *Eur J Cancer Prev*, 21(2):193-8, 2012.
- 050 *Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Tamakoshi A, Wakai K, Matsuo K, Ito H, Sasazuki S, Inoue M, Tsugane S; for the Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan*: Breastfeeding and Breast Cancer Risk: An Evaluation Based on a Systematic Review of Epidemiologic Evidence Among the Japanese Population. *Jpn J Clin Oncol*, 42(2):124-130, 2012.
- 051 *Ojima M, Hanioka T, Tanaka H*: Necessity and readiness for smoking cessation intervention in dental clinics in Japan. *J Epidemiol*, 5;22(1):57-63, 2012.
- 052 天貝賢二、中村好一、吉井千春、加濃正人、稲垣幸司、北田雅子、大谷哲也、原田正平、栗岡成人、田中政宏、田中英夫。：地域がんセンター職員の喫煙状況と喫煙に関する意識調査（加濃式社会的ニコチン依存度調査票）。*日本禁煙学会雑誌*, 6(5):71-84, 2011.
- 053 細野覚代。：運動によるがん予防のメカニズム。 *体育の科学*, 62;2:97-102, 2012.
- 054 *Okamoto Y, Sawaki A, Ito S, Nishida T, Takahashi T, Toyota M, Suzuki H, Shinomura Y, Takeuchi I, Shinjo K, An B, Ito H, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Kataoka H, Joh T, Sekido Y, Kondo Y*: Aberrant DNA methylation associated with aggressiveness of gastrointestinal stromal tumour. *Gut*, 61(3):392-401, 2012.
- 055 *Shitara K, Ito S, Misawa K, Ito Y, Ito H, Hosono S, Watanabe M, Tajima K, Tanaka H, Muro K, Matsuo K*: Genetic polymorphism of IGF-I predicts recurrence in patients with gastric cancer who have undergone curative gastrectomy. *Ann Oncol*, 23(3):659-64, 2012.
- 056 *Okada R, Wakai K, Naito M, Morita E, Kawai S, Hamajima N, Hara M, Takashima N, Suzuki S, Takezaki T, Ohnaka K, Arisawa K, Hirohata H, Matsuo K, Mikami H, Kubo M, Tanaka H*: Pro/anti-inflammatory cytokine gene polymorphisms and chronic kidney disease: a cross-sectional study. *BMC Nephrol*, 13(1):2, 2012.
- 057 *Hosono S, Matsuo K, Ito H, Watanabe M, Hirose K, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H*: Interaction Between CYP19A1 Polymorphisms and Body Mass Index in the Risk of Endometrial Cancer in Postmenopausal Japanese Women. *Asian Pac J Cancer Prev*, 12(10):2747-52, 2012.
- 058 *"Chuang SC, Jenab M, Heck JE, Bosetti C, Talamini R, Matsuo K, Castellsague X, Franceschi S, Herrero R, Winn DM, La Vecchia C, Morgenstern H, Zhang ZF, Levi F, Dal Maso L, Kelsey K, McClean MD, Vaughan T, Lazarus P, Muscat J, Ramroth H, Chen C, Schwartz SM, Eluf-Neto J, Hayes RB, Purdue M, Boccia S, Cadoni G, Zaridze D, Koifman S, Curado MP, Ahrens W, Benhamou S, Matos E, Lagiou P, Szeszenia-Dabrowska N, Olshan AF, Fernandez L, Menezes A, Agudo A, Daudt AW, Merletti F, Macfarlane GJ, Kjaerheim K, Mates D, Holcatova I, Schantz S, Yu GP, Simonato L, Brenner H, Mueller H, Conway DI, Thomson P, Fabianova E, Znaor A, Rudnai P, Healy CM, Ferro G, Brennan P, Boffetta P, Hashibe M*: Diet and the risk of head and neck cancer: a pooled analysis in the INHANCE consortium. *Cancer Causes Control*, 23(1):69-88, 2012.

- 001 **Hagiwara M, Niimi M, Kawahara T, Yamanishi Y, Nakanishi H, Arai F.**: On-Chip Particle Sorting into Multiple Channels by Magnetically Driven Microtools. *Journal of Robotics and Mechatronics*, 23: 370-377, 2011.
- 002 **Kamiyama S, Ichimiya T, Ikehara Y, Takase T, Fujimoto I, Suda T, Nakamori S, Nakamura M, Nakayama F, Irimura T, Nakanishi H, Watanabe M, Narimatsu H, Nishihara S.**: Expression and the role of 3'-phosphoadenosine 5'-phosphosulfate transporters in human colorectal carcinoma. *Glycobiology*, 21: 235-346, 2011.
- 003 **Inoue T, Tashiro Y, Takeuchi M, Otani T, Tsuji-Takayama K, Okochi A, Mukae Y, Koreishi M, Yamasaki F, Kumon H, Nakamura S, Kibata M, and Kondo E.**: Potent anti-tumor killing activity of the multifunctional Treg cell line HOZOT against human tumors with diverse origins. *Int J Oncol*, 38: 1299-1306, 2011.
- 004 **Yamamoto M, Kondo E, Takeuchi M, Harashima A, Otani T, Tsuji-Takayama K, Yamasaki F, Kumon H, Kibata M, Nakamura S.**: miR-155, a Modulator of FOXO3a Protein Expression, Is Underexpressed and Cannot Be Upregulated by Stimulation of HOZOT, a Line of Multifunctional Treg. *PLoS One*, 6: e16841, 2011.
- 005 **Bhattacharyya S, Deb J, Patra AK, Thuy Pham DA, Chen W, Vaeth M, Berberich-Siebelt F, Klein-Hessling S, Lamperti ED, Reifenberg K, Jellusova J, Schweizer A, Nitschke L, Leich E, Rosenwald A, Brunner C, Engelmann S, Bommhardt U, Avots A, Muller MR, Kondo E and Serfling E.**: NFATc1 affects mouse splenic B cell function by controlling the calcineurin-NFAT signaling network. *J Exp Med*, 208: 823-839, 2011.
- 006 **Saito K, Kondo E and Matsushita M.**: MicroRNA 130 family regulates the hypoxia response signal through the P-body protein DDX6. *Nucleic Acids Res*, 39: 6086-6099, 2011.
- 007 **Renault-Mihara F, Katoh H, Ikegami T, Iwanami A, Mukaino M, Yasuda A, Nori S, Mabuchi Y, Tada H, Shibata S, Saito K, Matsushita M, Kaibuchi K, Okada S, Toyama Y, Nakamura M, Okano H.**: Beneficial compaction of spinal cord lesion by migrating astrocytes through glycogen synthase kinase-3 inhibition. *EMBO Mol Med*, 3: 682-696, 2011.
- 008 **Fukagawa T, Sasako M, Ito S, Nakanishi H, Inuma H, Natsugoe S, Katai H, Shimoda T.**: The prognostic significance of isolated tumor cells in the lymph nodes of gastric cancer patients. *Gastric Cancer*, 13: 191-196, 2011.
- 009 **Ernst A, Aigner M, Nakata S, Engel F, Schlotter M, Kloor M, Brand K, Schmitt S, Steinert G, Rahbari N, Koch M, Radlwimmer B, Weitz J, Lichter P.**: A gene

signature distinguishing CD133hi from CD133- colorectal cancer cells: essential role for EGR1 and downstream factors. *Pathology*, 43: 220-227, 2011.

- 010 **Fujii M, Toyoda T, Nakanishi H, Yatabe Y, Sato A, Matsudaira Y, Ito H, Murakami H, Kondo Y, Kondo E, Hida T, Tsujimura T, Osada H, Sekido Y.**: TGF- β synergizes with defects in the Hippo pathway to stimulate human malignant mesothelioma growth. *J Exp Med*. Mar 12;209(3):479-94, 2012.
- 011 **Maseki S, Ijichi K, Tanaka H, Fujii M, Hasegawa Y, Ogawa T, Murakami S, Kondo E, Nakanishi H.**: Acquisition of EMT phenotype in the gefitinib-resistant cells of a head and neck squamous cell carcinoma cell line through Akt/GSK-3 β /snail signaling pathway. *Br. J. Cancer*, Mar 13;106(6):1196-204, 2012.
- 012 **Horinaka M, Yoshida T, Nakata S, Shiraishi T, Tomosugi M, Yoshikawa S, Wakada M, Sakai T.**: Aclarubicin enhances tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand-induced apoptosis through death receptor 5 upregulation. *Cancer Sci.*, 103(2): 282-287, 2012.

分子腫瘍学部

- 001 **Hwang JH, Takagi M, Murakami H, Sekido Y, Shin-Ya K.**: Induction of tubulin polymerization and apoptosis in malignant mesothelioma cells by a new compound JBIR-23. *Cancer Lett*, 300: 189-196, 2011.
- 002 **Murakami H, Mizuno T, Taniguchi T, Fujii M, Ishiguro F, Fukui T, Akatsuka S, Horio Y, Hida T, Kondo Y, Toyokuni S, Osada H, Sekido Y.**: LATS2 Is a Tumor Suppressor Gene of Malignant Mesothelioma. *Cancer Res*, 71: 873-883, 2011.
- 003 **Suda K, Tomizawa K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Maehara Y, Yatabe Y, Sekido Y, Mitsudomi T.**: Epithelial to mesenchymal transition in an EGFR-mutant lung cancer cell line with acquired resistance to erlotinib. *J Thorac Oncol*, 6: 1152-1161, 2011.
- 004 **Tomizawa K, Suda K, Onozato R, Kosaka T, Endoh H, Sekido Y, Shigematsu H, Kuwano H, Yatabe Y, Mitsudomi T.**: Prognostic and predictive implications of HER2/ERBB2/neu gene mutations in lung cancers. *Lung Cancer*, 74: 139-144, 2011.
- 005 **Ali AH, Takizawa H, Kondo K, Matsuoka H, Toba H, Nakagawa Y, Kenzaki K, Sakiyama S, Kakiuchi S, Sekido Y, Sone S, Tangoku A.**: 5-Aminolevulinic acid-induced fluorescence diagnosis of pleural malignant tumor. *Lung Cancer*, 74: 48-54, 2011.
- 006 **Hase T, Sato M, Yoshida K, Girard L, Takeyama Y, Horio M, Elshazley M, Oguri T, Sekido Y, Shames DS, Gazdar AF, Minna JD, Kondo M, Hasegawa Y.**: Pivotal role of epithelial cell adhesion molecule in the survival of lung cancer cells. *Cancer Sci*, 102: 1493-1500, 2011.

- 007 **Nishikawa E, Osada H, Okazaki Y, Arima C, Tomida S, Tatematsu Y, Taguchi A, Shimada Y, Yanagisawa K, Yatabe Y, Toyokuni S, Sekido Y, Takahashi T.**: miR-375 is activated by ASH1 and inhibits YAP1 in a lineage-dependent manner in lung cancer. *Cancer Res*, 71: 6165-6173, 2011.
- 008 **Motomura K, Natsume A, Kishida Y, Higashi H, Kondo Y, Nakasu Y, Abe T, Namba H, Wakai K, Wakabayashi T.**: Benefits of interferon- β and temozolomide combination therapy for newly diagnosed primary glioblastoma with the unmethylated MGMT promoter: a multicenter study. *Cancer*, 117: 1721-1730, 2011.
- 009 **Nagashio R, Arai E, Ojima H, Kosuge T, Kondo Y, Kanai Y.**: Carcinogenetic risk estimation based on quantification of DNA methylation levels in liver tissue at the precancerous stage. *Int J Cancer*, 129: 1170-1179, 2011.
- 010 **Ju HX, An B, Okamoto Y, Shinjo K, Kanemitsu Y, Komori K, Hirai T, Shimizu Y, Sano T, Sawaki A, Tajika M, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Ito H, Takeuchi I, Sekido Y, Kondo Y.**: Distinct profiles of epigenetic evolution between colorectal cancers with and without metastasis. *Am J Pathol*, 178: 1835-1846, 2011.
- 011 **Cheng AS, Lau SS, Chen Y, Kondo Y, Li MS, Feng H, Ching AK, Cheung KF, Wong HK, Tong JH, Jin H, Choy KW, Yu J, To KF, Wong N, Huang TH, Sung JJ.**: EZH2-mediated concordant repression of Wnt antagonists promotes β -catenin-dependent hepatocarcinogenesis. *Cancer Res*, 71: 4028-4039, 2011.
- 012 **Ohka F, Natsume A, Motomura K, Kishida Y, Kondo Y, Abe T, Nakasu Y, Namba H, Wakai K, Fukui T, Momota H, Iwami K, Kinjo S, Ito M, Fujii M, Wakabayashi T.**: The global DNA methylation surrogate LINE-1 methylation is correlated with MGMT promoter methylation and is a better prognostic factor for glioma. *PLoS One*, 6: e23332, 2011.
- 013 **Konishi K, Watanabe Y, Shen L, Guo Y, Castoro RJ, Kondo K, Chung W, Ahmed S, Jelinek J, Bumber YA, Estecio MR, Maegawa S, Kondo Y, Itoh F, Imawari M, Hamilton SR, Issa JP.**: DNA methylation profiles of primary colorectal carcinoma and matched liver metastasis. *PLoS One*, 6: e27889, 2011.
- 014 **Osada H, Takahashi T.**: let-7 and miR-17-92: small-sized major players in lung cancer development. *Cancer Sci*, 102: 9-17, 2011.
- 015 **Sekido Y.**: Inactivation of Merlin in malignant mesothelioma cells and the Hippo signaling cascade dysregulation. *Pathol Int*, 61: 331-344, 2011.
- 016 **Okamoto Y, Sawaki A, Ito S, Nishida T, Takahashi T, Toyota M, Suzuki H, Shinomura Y, Takeuchi I, Shinjo K, An B, Ito H, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Kataoka H, Joh T, Sekido Y, Kondo Y**: Aberrant DNA methylation associated with aggressiveness of gastrointestinal stromal tumour. *Gut*, 61, 392-401, 2011.
- 017 **Kishida Y, Natsume A, Kondo Y, Takeuchi I, An B, Okamoto Y, Shinjo K, Saito K, Ando H, Ohka F, Sekido Y, Wakabayashi T**: Epigenetic subclassification of meningiomas based on genome-wide DNA methylation analyses. *Carcinogenesis*, 33, 436-441, 2012.
- 018 **Kishida Y, Natsume A, Toda H, Toi Y, Motomura K, Koyama H, Matsuda K, Nakayama O, Sato M, Suzuki M, Kondo Y, Wakabayashi T**: Correlation between quantified promoter methylation and enzymatic activity of O6-methylguanine-DNA methyltransferase in glioblastomas. *Tumour Biol*, 33, 373-381, 2012.

遺伝子医療研究部

〔原著〕

- 001 **Sung CO, Kim SC, Karnan S, Karube K, Shin HJ, Nam DH, Suh YL, Kim SH, Kim, JY, Kim SJ, Kim WS, Seto M, Ko YH.**: Genomic profiling combined with gene expression profiling in primary central nervous system lymphoma. *Blood*, 117: 1291-1300, 2011.
- 002 **Kato H, Kagami Y, Kodaira T, Oka S, Oki Y, Chihara D, Taji H, Yatabe Y, Nakamura T, Nakamura S, Seto M, Yamamoto K, Morishima Y.**: Nodal relapse after *Helicobacter pylori* eradication in a patient with primary localized gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma. *Am J Gastroenterol*, 106: 549-551, 2011.
- 003 **Umino A, Nakagawa M, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Taira N, Katayama N, Seto M.**: Clonal evolution of adult T-cell leukemia/lymphoma takes place in lymph node. *Blood*, 117: 5473-5478, 2011.
- 004 **Nakada C, Tsukamoto Y, Matsuura K, Nguyen TL, Hijiya N, Uchida T, Sato F, Mimata H, Seto M, Morigama M.**: Overexpression of miR-210, a downstream target of HIF1 α , causes centrosome amplification in renal carcinoma cells. *J Pathol*, 224: 280-288, 2011.
- 005 **Tsuzuki S, Taguchi O, Seto M.**: Promotion and maintenance of leukemia by ERG. *Blood*, 117: 3758-3868, 2011.
- 006 **Iqbal J, Weisenburger DD, Chowdhury A, Tsai MY, Srivastava G, Greiner TC, Kucuk C, Deffenbacher K, Vose J, Smith L, Au WY, Nakamura S, Seto M, Delabie J, Berger F, Loong F, Ko YH, Sng I, Liu X, Loughran TP, Armitage J, Chan WC.**: International Peripheral T-cell Lymphoma Project. Natural killer cell lymphoma shares strikingly similar molecular features with a group of non-hepatosplenic γ δ T-cell lymphoma and is highly sensitive to a novel aurora kinase A inhibitor in vitro. *Leukemia*, 25: 348-358, 2011.
- 007 **Kuroda A, Tsukamoto Y, Nguyen LT, Noguchi T, Takeuchi I, Uchida M, Uchida T, Hijiya N, Nakada C,**

- Okimoto T, Kodama M, Murakami K, Matsuura K, Seto M, Ito H, Fujioka T, Moriyama M.**: Genomic profiling of submucosal-invasive gastric cancer by array-based comparative genomic hybridization. *PLoS One*, 6: e22313, 2011.
- 008 **Nakagawa M, Tsuzuki S, Honma K, Taguchi O, Seto M.**: Synergistic effect of *Bel2*, *Myc* and *Ccnd1* transforms mouse primary B-cells into malignant cells. *Haematologica*, 96: 1318-1326, 2011.
- 009 **Karube K, Nakagawa M, Tsuzuki S, Takeuchi I, Honma K, Nakashima Y, Shimizu N, Ko YH, Morishima Y, Ohshima K, Nakamura S, Seto M.**: Identification of *FOXO3* and *PRDM1* as tumor suppressor gene candidates in NK cell neoplasms by genomic and functional analyses. *Blood*, 118: 3195-3204, 2011.
- 010 **Kato H, Yamamoto K, Taji H, Oki Y, Chihara D, Seto M, Kagami Y, Morishima Y.**: Interstitial pneumonia after autologous hematopoietic stem cell transplantation in B-cell non-hodgkin lymphoma. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk*, 11: 483-489, 2011.
- 011 **Tsuzuki S, Seto M.**: Expansion of functionally defined mouse hematopoietic stem/progenitor cells by a short isoform of *RUNX1/AML1*. *Blood*, 119: 727-735, 2012.
- 012 **Kato H, Yamamoto K, Oki Y, Ine S, Taji H, Chihara D, Kagami Y, Seto M, Morishima Y.**: Clinical value of flow cytometric immunophenotypic analysis for minimal residual disease detection in autologous stem-cell products of follicular and mantle cell lymphomas. *Leukemia*, 26: 166-169, 2012.
- 013 **Chihara D, Matsuo K, Kanda J, Hosono S, Ito H, Nakamura S, Seto M, Morishima Y, Tajima K, Tanaka, H.**: Inverse association between soy intake and non-Hodgkin lymphoma risk among women: a case-control study in Japan. *Ann Oncol.*, 23: 1061-1066, 2012.
- 014 **Liu F, Karube K, Kato H, Arita K, Yoshida N, Yamamoto K, Tsuzuki S, Kim W, Ko Y-H, Seto M.**: Mutation analysis of *NF- κ B* signal pathway-related genes in ocular MALT lymphoma. *Int J Clin Exp.*, 5: 436-441, 2012.
- 015 瀬戸加太: 悪性リンパ腫のゲノム異常. *臨床血液*, 52: 322-327, 2011.
- 016 加留部謙之輔, 瀬戸加太: NK細胞リンパ腫におけるがん抑制遺伝子FOXO3, PRDM1. *血液内科(科学評論社)*, 64:461-466, 2012.
- 2674, 2011.
- 002 **Kitawaki T, Kadowaki N, Fukunaga K, Kasai Y, Maekawa T, Ohmori K, Itoh T, Shimizu A, Kuzushima K, Kondo T, Ishikawa T, Uchiyama T.**: Cross-priming of CD8(+) T cells in vivo by dendritic cells pulsed with autologous apoptotic leukemic cells in immunotherapy for elderly patients with acute myeloid leukemia. *Exp Hematol*, 39: 424-433, 2011.
- 003 **Cheng Z, Ito S, Nishio N, Xiao H, Zhang R, Suzuki H, Okawa Y, Murohara T, Isobe K.** *Establishment of induced pluripotent stem cells from aged mice using bone marrow-derived myeloid cells.* *J Mol Cell Biol.* 3 :91-98, 2011.
- 004 **Sato K, Misawa N, Nie C, Satou Y, Iwakiri D, Matsuoka M, Takahashi R, Kuzushima K, Ito M, Takada K, Koyanagi Y.**: A novel animal model of Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in humanized mice. *Blood*, 117: 5663-5673, 2011.
- 005 **Kitawaki T, Kadowaki N, Fukunaga K, Kasai Y, Maekawa T, Ohmori K, Kondo T, Maekawa R, Takahara M, Nieda M, Kuzushima K, Ishikawa T, Uchiyama T.**: A phase I/IIa clinical trial of immunotherapy for elderly patients with acute myeloid leukaemia using dendritic cells co-pulsed with WT1 peptide and zoledronate. *Brit J Haematol*, 153: 796-799, 2011.
- 006 **Yamahira A, Narita M, Nakamura T, Watanabe N, Kaji M, Taniguchi T, Hashimoto S, Furukawa T, Toba K, Aizawa Y, Kuzushima K, Takahashi M.**: Generation of antigen-specific cytotoxic T lymphocytes using a leukemic plasmacytoid dendritic cell line as antigen presenting cells. *Leukemia Res*, 35: 793-799, 2011.
- 007 **Zhang R, Ito S, Nishio N, Cheng Z, Suzuki H, Isobe KI.**: Dextran sulfate sodium increases splenic Gr1+CD11b+ cells which accelerate recover from colitis following intravenous transplantation. *Clin Exp Immunol.* 164:417-427, 2011.
- 008 **Hirosawa T, Torikai H, Yanagisawa M, Kamei M, Imahashi N, Demachi-Okamura A, Tanimoto M, Shiraishi K, Ito M, Miyamura K, Shibata K, Kikkawa F, Morishima Y, Takahashi T, Emi N, Kuzushima K, Akatsuka Y.**: Mismatched human leukocyte antigen class II-restricted CD8⁺ cytotoxic T cells may mediate selective graft-versus-leukemia effects following allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Cancer Sci*, 102: 1281-1286, 2011.
- 009 **Zhu X, Fujita M, Snyder LA, Okada H.**: Systemic delivery of neutralizing antibody targeting CCL2 for glioma therapy. *J Neurooncol*, 104: 83-92, 2011.
- 010 **Ochi T, Fujiwara H, Okamoto S, An J, Nagai K, Shirakata T, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Yasukawa M.**: Novel adoptive T-cell immunotherapy using a WT1-specific TCR vector encoding silencers for

腫瘍免疫学部

〔原著〕

- 001 **Fujita M, Kohanbash G, Fellows-Mayle W, Hamilton RL, Komohara Y, Decker SA, Ohlfest JR, Okada H.**: COX-2 blockade suppresses gliomagenesis by inhibiting myeloid-derived suppressor cells. *Cancer Res*, 71: 2664-

endogenous TCRs shows marked antileukemia reactivity and safety. *Blood*, 118: 1495-1503, 2011.

- 011 **Matsuoka Y, Sasaki Y, Nakatsuka R, Takahashi M, Iwaki R, Uemura Y, Sonoda Y.**: The low level of c-kit expression marks deeply quiescent murine hematopoietic stem cells. *Stem Cells*, 29: 1783-1791, 2011.
- 012 **Nagai K, Ochi T, Fujiwara H, An J, Shirakata T, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Melenhorst JJ, Gostick E, Price DA, Ishii E, Yasukawa M.**: Aurora kinase A-specific T-cell receptor gene transfer redirects T lymphocytes to display effective antileukemia reactivity. *Blood*. 119:368-376, 2012.
- 013 **Imataki O, Ansén S, Tanaka M, Butler MO, Berezovskaya A, Milstein MI, Kuzushima K, Nadler LM, Hirano N.**: IL-21 can supplement suboptimal Lck-independent MAPK activation in a STAT-3-dependent manner in human CD8(+) T cells. *J Immunol*. 188:1609-1619, 2012.

〔総説・単行本〕

- 001 **Fujita M, Okada H.**: Immunotherapeutic Strategies for Brain Tumors. In: Ana Lucia Abujamra (eds), *Brain Tumors - Current and Emerging Therapeutic Strategies*, InTech, pp. 331-354, 2011.

腫瘍ウイルス学部

- 001 **Isomura H, Stinski MS, Murata T, Yamashita Y, Kanda T, Toyokuni S, Tsurumi T.**: Human cytomegalovirus gene products essential for late viral gene expression assemble into pre-replication complexes before viral DNA replication. *J Virol*, 85: 6629-6644, 2011.
- 002 **Sugimoto A, Kanda T, Yamashita Y, Murata T, Saito S, Kawashima D, Isomura H, Nishiyama Y, Tsurumi T.**: Spatiotemporally different DNA repair systems participate during Epstein-Barr virus genome maturation. *J Virol*, 85: 6127-6135, 2011.
- 003 **Murata T, Noda C, Saito S, Kawashima D, Sugimoto A, Isomura H, Kanda T, Yokoyama K, Tsurumi T.**: Involvement of Jun dimerization protein 2 (JDP2) in the maintenance of Epstein-Barr virus latency. *J Biol Chem*, 286: 22007-22016, 2011.
- 004 **Kanda T, Shibata S, Saito S, Murata T, Isomura H, Yoshiyama H, Takada K, Tsurumi T.**: Unexpected instability of Family of Repeats (FR), the critical cis-acting sequence required for EBV latent infection, in EBV-BAC systems. *PLoS One*, 6: e27758, 2011.
- 005 **Noda C, Murata T, Kanda T, Yoshiyama H, Sugimoto A, Kawashima D, Saito S, Isomura H, Tsurumi T.**: Identification and characterization of CCAAT enhancer-binding protein (C/EBP) as a transcriptional activator for Epstein-Barr virus oncogene latent membrane protein 1. *J Biol Chem*, 286: 42524-42533, 2011.

- 006 **Yasuda A, Noguchi K, Minoshima M, Kashiwazaki G, Kanda T, Katayama K, Mitsuhashi J, Bando T, Sugiyama H, Sugimoto Y.**: DNA ligand designed to antagonize EBNA1 represses Epstein-Barr virus-induced immortalization. *Cancer Sci*, 102: 2221-2230, 2011.
- 007 **Murata T, Kondo Y, Sugimoto A, Kawashima D, Saito S, Isomura H, Kanda T, Tsurumi T.**: Epigenetic histone modification of Epstein-Barr virus BZLF1 promoter during latency and reactivation in Raji cells. *J Virol*, 86 : 4752-4761, 2012.
- 008 **Tanaka K, Tamiya-Koizumi K, Hagiwara K, Ito H, Takagi A, Kojima T, Suzuki M, Iwaki S, Fujii S, Nakamura M, Banno Y, Kannagi R, Tsurumi T, Kyogashima M, Murate T.**: Role of down-regulated neutral ceramidase during all-trans retinoic acid-induced neuronal differentiation in SH-SY5Y neuroblastoma cells. *J Biochem*, 151: 611-620, 2012.
- 009 **Kanda T, Ochi T, Fujiwara H, Yasukawa M, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Tsurumi T.**: HLA-restricted presentation of WT1 tumor antigen in B-lymphoblastoid cell lines established using a maxi-EBV system. *Cancer Gene Ther*, in press.

分子病態学部

- 001 **Sonoshita M, Aoki M, Fuwa H, Aoki K, Hosogi H, Sakai Y, Hashida H, Takabayashi A, Sasaki M, Robine S, Itoh K, Yoshioka K, Kakizaki F, Kitamura T, Oshima M, and Taketo MM.**: Suppression of colon cancer metastasis by Aes through inhibition of Notch signaling. *Cancer Cell*, 19: 125-137, 2011.
- 002 **Aoki K, Kakizaki F, Sakashita H, Manabe T, Aoki M, Taketo MM.**: Suppression of colonic polyposis by homeoprotein CDX2 through its nontranscriptional function that stabilizes p27Kip1. *Cancer Res*, 71: 593-602, 2011.
- 003 **Fujishita T, Aoki M, Taketo MM.**: JNK signaling promotes intestinal tumorigenesis through activation of mTOR complex 1 in Apc⁷⁷¹⁶ mice. *Gastroenterology*, 140: 1556-1563, 2011.
- 004 **Tanaka K, Yamada M, Tamiya-Koizumi K, Kannagi R, Aoyama T, Hara A, Kyogashima M.**: Systematic analyses of free ceramide species and ceramide species comprising neutral glycosphingolipids by MALDI-TOF MS with high-energy CID. *Glycoconj J*, 28: 67-87, 2011.
- 005 **Sakuma K, Chen GY, Aoki M, Kannagi R.**: Induction of 6-sulfated glycans with cell adhesion activity via T-bet and GATA-3 in human helper T cells. *Biochem Biophys Acta*, [Epub ahead of print] 2012

発がん制御研究部誌上発表

【欧文原著論文】

- 001 **Matsuyama M, Goto H, Kasahara K, Kawakami Y, Nakanishi M, Kiyono T, Goshima N, Inagaki M.**: Nuclear Chk1 prevents premature mitotic entry. *J Cell Sci*, 124: 2113-2119, 2011.
- 002 **Ibi M, Zou P, Inoko A, Shiromizu T, Matsuyama M, Hayashi Y, Enomoto M, Mori D, Hirotsune S, Kiyono T, Tsukita S, Goto H, Inagaki M.**: Trichoplein controls microtubule anchoring at the centrosome by binding to Odf2 and ninein. *J Cell Sci*, 124: 857-864, 2011.
- 003 **Helfand BT, Mendez MG, Murthy SN, Shumaker DK, Grin B, Mahammad S, Aebi U, Wedig T, Wu YI, Hahn KM, Inagaki M, Herrmann H, Goldman RD.**: Vimentin organization modulates the formation of lamellipodia. *Mol Biol Cell*, 22: 1274-1289, 2011.
- 004 **Inoko A, Matsuyama M, Goto H, Ohmuro-Matsuyama Y, Hayashi Y, Enomoto M, Ibi M, Urano T, Yonemura S, Kiyono T, Izawa I, Inagaki M.**: Trichoplein and Aurora A block aberrant primary cilia assembly in proliferating cells. *J Cell Biol*, 197: 391-405, 2012.
- 005 **Li P, Goto H, Kasahara K, Matsuyama M, Wang Z, Yatabe Y, Kiyono T, Inagaki M.**: P90 RSK arranges Chk1 in the nucleus for monitoring of genomic integrity during cell proliferation. *Mol Biol Cell*, 23: 1582-1592, 2012.
- 006 **Toda M, Kuo CH, Borman SK, Richardson RM, Inoko A, Inagaki M, Collins A, Schneider K, Ono SJ.**: Evidence that formation of Vimentin/Mitogen-activated Protein Kinase (MAPK) complex mediates mast cell activation following Fc(epsilon)RI/CC chemokine receptor 1 cross-talk. *J Biol Chem*, 287: 24516-24524, 2012.
- 007 **Jeong H-J, Ohmuro-Matsuyama Y, Ohashi H, Ohsawa F, Tatsu Y, Inagaki M, Ueda H.**: Detection of vimentin serine phosphorylation by multicolor Quenchbodies. *Biosens Bioelectron*, in press.

【欧文総説、単行本等】

- 001 **Ohmuro-Matsuyama Y, Inagaki M, Ueda H.**: Detection of Protein Phosphorylation by Open-Sandwich Immunoassay. *Integrative Proteomics*. ed. Leung, H.-C.E. InTech, 197-214, 2012. (ISBN 978-953-51-0070-6)
- 002 **Goto H, Izawa I, Li P, Inagaki, M.**: Novel regulation of checkpoint kinase 1: Is checkpoint kinase 1 a good candidate for anti-cancer therapy? *Cancer Sci*, 103: 1195-1200, 2012.

【和文総説、単行本等】

- 001 後藤英仁, 稲垣昌樹: 「チェックポイントキナーゼ1 (Chk1) の新規制御機構とがん」 シグナル伝達研究最前線2012 実験医学増刊 Vol.30-N0.5 106-110 (2012) 井

統 計 編

第1部 事業会計関係

第1表 比較損益計算書

科目	23年度 (A)	22年度 (B)	増減(△) (A)-(B)	収益費用構成対比		前年度比 (A/B×100)	部門別		研究 所	
				23年度 %	22年度 %		運 用 部	院		
								金 額		構 成 対 比
病院事業収益	16,429,887,319	16,184,062,188	245,825,131	100.0	101.5	392,745,023	14,931,470,851	100.0	1,105,671,445	
医療収益	14,251,277,724	14,062,271,332	189,006,392	86.7	101.3	281,016,000	12,966,387,724	86.8	1,003,874,000	
入院収益	7,700,006,742	7,805,576,518	△ 105,569,776	46.9	98.6	0	7,700,006,742	51.6	0	
外来収益	4,427,625,995	4,130,728,855	296,897,140	26.9	107.2	0	4,427,625,995	29.7	0	
一般会計負担金	1,301,742,000	1,255,359,000	46,383,000	7.9	103.7	281,016,000	16,852,000	0.1	1,003,874,000	
その他医療収益	821,902,987	870,606,959	△ 48,703,972	5.0	94.4	0	821,902,987	5.5	0	
医療外収益	2,087,641,543	1,926,914,046	160,727,497	12.7	108.3	110,892,023	1,876,698,075	12.6	100,051,445	
受取利息配当金	365,860	323,110	42,750	0.0	113.2	365,860	0	0.0	0	
一般会計負担金	1,459,522,000	1,445,707,000	13,815,000	8.9	101.0	38,728,000	1,420,794,000	9.5	0	
一般会計補助金	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0	0	
国庫補助金	21,932,000	21,195,000	737,000	0.1	103.5	0	21,932,000	0.1	0	
その他医療外収益	605,821,683	459,688,936	146,132,747	3.7	131.8	71,798,163	433,972,075	2.9	100,051,445	
特別利益	90,968,052	194,876,810	△ 103,908,758	0.6	46.7	837,000	88,385,052	0.6	1,746,000	
過年度損益修正益	90,968,052	194,876,810	△ 103,908,758	0.6	46.7	837,000	88,385,052	0.6	1,746,000	
病院事業費	15,420,224,449	15,114,356,725	305,867,724	93.9	102.0	632,039,651	13,679,138,039	91.6	1,109,046,759	
医療費用	14,961,424,903	14,512,371,828	449,053,075	91.1	103.1	608,331,399	13,283,907,679	89.0	1,069,185,825	
給与	7,434,894,294	7,131,720,338	303,173,956	45.3	104.3	527,731,712	6,257,559,194	41.9	649,603,388	
給料	2,839,883,861	2,696,761,094	143,122,767	17.3	105.3	222,264,810	2,373,772,418	15.9	243,846,633	
手当	2,622,520,098	2,515,903,310	106,616,788	16.0	104.2	156,540,913	2,269,135,695	15.2	196,843,490	
賃金	134,640,583	128,657,943	5,982,640	0.8	104.7	14,932,791	118,620,183	0.8	1,087,609	
報酬	431,031,322	416,323,855	14,707,467	2.6	103.5	26,972,512	333,738,629	2.2	70,320,181	
法定福利費	1,157,557,267	1,060,515,586	97,041,681	7.1	109.2	88,577,124	967,895,817	6.5	101,084,326	
退職給与	249,261,163	313,558,550	△ 64,297,387	1.5	79.5	18,443,562	194,396,452	1.3	36,421,149	

科 目	23 年 度 (A)	22 年 度 (B)	増 減 (△) (A) - (B)	収益費用構成対比		前年度比 (A/B×100)	部 門 別		院 内 構成対比	研 究 所
				23年度	22年度		運 用 部	金 額		
材 料 費	4,660,576,169	4,576,232,333	84,343,836	28.4	28.3	101.8	0	4,660,576,169	31.2	0
薬 品 費	3,668,174,463	3,571,631,027	96,543,436	22.3	22.1	102.7	0	3,668,174,463	24.6	0
診 療 材 料 費	896,956,206	908,133,408	△ 11,177,202	5.5	5.6	98.8	0	896,956,206	6.0	0
給 食 材 料 費	82,029,080	79,818,938	2,210,142	0.5	0.5	102.8	0	82,029,080	0.5	0
医 療 消 耗 備 品 費	13,416,420	16,648,960	△ 3,232,540	0.1	0.1	80.6	0	13,416,420	0.1	0
経 費	1,743,775,012	1,670,324,270	73,450,742	10.6	10.3	104.4	64,060,005	1,504,154,768	10.1	175,560,239
旅 費 交 通 費	4,936,591	6,912,780	△ 1,976,189	0.0	0.0	71.4	1,820,673	2,620,128	0.0	495,790
修 繕 費	102,958,415	85,806,291	17,152,124	0.6	0.5	120.0	28,751,368	71,713,298	0.5	2,493,749
需 用 費	384,079,879	370,019,932	14,059,947	2.4	2.3	103.8	3,349,245	296,626,570	2.0	84,104,064
(消 耗 品 費)	56,366,074	63,030,769	△ 6,664,695				2,969,001	45,527,747		7,869,326
(光 熱 水 費)	294,344,426	278,006,764	16,337,662				0	225,122,811		69,221,615
(燃 料 費)	24,751,060	20,903,420	3,847,640				0	18,930,300		5,820,760
(食 糧 費)	147,331	75,276	72,055				0	147,331		0
(印 刷 製 本 費)	8,470,988	8,003,703	467,285				380,244	6,898,381		1,192,363
役 務 費	35,662,191	36,120,506	△ 458,315	0.2	0.2	98.7	12,222,152	19,353,058	0.1	4,086,981
(保 險 料)	14,578,522	14,603,612	△ 25,090				4,561	14,415,388		158,573
(通 信 運 搬 費)	21,083,669	21,516,894	△ 433,225				12,217,591	4,937,670		3,928,408
そ の 他 経 費	1,216,137,936	1,171,464,761	44,673,175	7.4	7.3	103.8	17,916,567	1,113,841,714	7.5	84,379,655
(厚 生 福 利 費)	4,666,284	1,788,453	2,877,831				143,136	4,407,189		115,959
(報 償 費)	2,122,954	2,150,518	△ 27,564				70,841	1,759,477		292,636
(職 員 被 服 費)	7,895,010	7,065,850	829,160				460,600	7,255,600		178,810
(消 耗 備 品 費)	11,482,767	10,064,991	1,417,776				260,829	9,568,119		1,653,819
(賃 借 料)	162,052,412	144,089,336	17,963,076				5,516,979	156,130,836		404,597
(委 託 費)	1,006,377,691	957,244,055	49,133,636				10,107,072	916,951,493		79,319,126
(交 際 費)	5,713	0	5,713				5,713	0		0

科 目	23 年 度 (A)	22 年 度 (B)	增 減 (△) (A) - (B)	収益費用構成対比		前年度比 (A/B×100)	部 門 別		院 構成対比	研 究 所
				23年度 %	22年度 %		運 用 部	金 額		
(諸 会 費)	1,761,561	1,795,979					255,000	1,506,561		0
(雑 費)	19,773,544	47,265,579					1,096,397	16,262,439		2,414,708
減 価 償 却 費	722,766,030	744,192,617	△ 21,426,587	4.4	4.6	97.1	14,689,506	526,227,132	3.5	181,849,392
資 産 減 耗 費	95,673,444	39,308,189	56,365,255	0.6	0.2	243.4	1,585,526	83,676,703	0.6	10,411,215
研 究 研 修 費	303,739,954	350,594,081	△ 46,854,127	1.8	2.2	86.6	264,650	251,713,713	1.7	51,761,591
医 業 外 費 用	458,799,546	471,640,417	△ 12,840,871	2.8	2.9	97.3	23,708,252	395,230,360	2.6	39,860,934
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	113,497,636	123,087,993	△ 9,590,357	0.7	0.8	92.2	0	113,497,636	0.8	0
繰 延 勘 定 償 却	31,226,716	32,027,711	△ 800,995	0.2	0.2	97.5	334,409	16,475,918	0.1	14,416,389
雑 損 失	314,075,194	316,524,713	△ 2,449,519	1.9	2.0	99.2	23,373,843	265,256,806	1.8	25,444,545
経 常 利 益 (△ 損 失)	918,694,818	1,005,173,133	△ 86,478,315	5.6	6.2	91.4	△ 240,131,628	1,163,947,760	7.8	△ 5,121,314
特 別 損 失	0	130,344,480	△ 130,344,480	0.0	0.8	0.0	0	0	0.0	0
過 年 度 損 益 修 正 損	0	130,344,480	△ 130,344,480	0.0	0.8	0.0	0	0	0.0	0
当 年 度 純 利 益 (△ 純 損 失)	1,009,662,870	1,069,705,463	△ 60,042,593	6.1	6.6	0.0	△ 239,294,628	1,252,332,812	8.4	△ 3,375,314

第2表 比較貸借対照表

科 目	23年度末		22年度末		対前年度比較		門 別 内 訳	
	金額(A)	構成比	金額(B)	構成比	(A)-(B)	(A/B×100)	運 用 部	研 究 所
	円	%	円	%	円	%	円	円
(資 産 の 部)								
土 地	328,607,824	1.7	328,607,824	1.7	0	100.0	315,888,471	9,552,511
建 物	28,783,965,027	59.0	28,760,405,027	61.5	23,560,000	96.4	56,784,347	21,611,521,405
建 物 減 価 償 却 累 計 額	17,255,589,654		16,799,800,610		455,789,044		13,997,474,079	
構 築 物	459,724,884	0.8	459,724,884	0.9	0	96.1	96,192,320	344,338,299
構 築 物 減 価 償 却 累 計 額	299,957,351		293,446,990		6,510,361		225,574,179	
器 械 備 品	9,253,478,155	18.6	10,419,133,007	16.9	△ 1,165,654,852	111.7	103,873,800	7,661,125,661
器 械 備 品 減 価 償 却 累 計 額	5,598,116,613		7,147,471,974		△ 1,549,355,361		4,690,199,207	
車 両	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0
車 両 減 価 償 却 累 計 額	0		0		0		0	
放 射 性 同 位 素	4,916,000	0.0	4,916,000	0.0	0	100.0	0	4,916,000
放 射 性 同 位 素 減 価 償 却 累 計 額	4,670,200		4,670,200		0		4,670,200	
建 設 仮 勘 定	164,067,638	0.8	90,682,280	0.5	73,385,358	180.9	0	164,067,638
そ の 他 有 形 固 定 資 産	15,080,000	0.1	15,080,000	0.1	0	-	15,080,000	0
そ の 他 有 形 固 定 資 産 減 価 償 却 累 計 額	0		0		0		0	
有 形 固 定 資 産 合 計	15,851,505,710	81.0	15,833,159,248	81.6	18,346,462	100.1	406,245,551	10,877,603,849
電 話 加 入 権	172,700	0.0	172,700	0.0	0	100.0	172,700	0
そ の 他 無 形 固 定 資 産	1,070,261	0.1	10,702,539	0.1	△ 9,632,278	10.0	0	1,070,261
無 形 固 定 資 産 合 計	1,242,961	0.1	10,875,239	0.1	△ 9,632,278	11.4	172,700	1,070,261
固 定 資 産 合 計	15,852,748,671	81.1	15,844,034,487	81.7	8,714,184	100.1	406,418,251	10,878,674,110
現 金 ・ 預 金	1,336,763,870	6.8	1,134,850,190	5.8	201,913,680	117.8	1,336,763,870	0
未 収 金	2,031,756,983	10.4	2,143,629,966	11.0	△ 111,872,983	94.8	1,447,975	2,030,309,008
貯 蔵 品	56,385,613	0.3	84,982,133	0.4	△ 28,596,520	66.3	0	56,385,613
そ の 他 流 動 資 産	48,981,574	0.3	0	0.0	48,981,574	-	0	48,981,574
流 動 資 産 合 計	3,473,888,040	17.8	3,363,462,289	17.2	110,425,751	103.3	1,338,211,845	2,135,676,195
控 除 対 象 外 消 費 税	213,616,821	1.1	204,818,435	1.1	8,798,386	104.3	4,033,306	111,399,518
開 発 費	0	0.0	0	0.0	0	-	0	0
繰 延 勘 定 合 計	213,616,821	1.1	204,818,435	1.1	8,798,386	104.3	4,033,306	111,399,518
資 産 合 計	19,540,253,532	100.0	19,412,315,211	100.0	127,938,321	100.7	1,748,663,402	13,125,749,823
								4,665,840,307
								98,183,997
								98,183,997

科 目	23年度末		22年度末		対前年度比較		部 門 別 内 訳	
	金額(A)	構成比 %	金額(B)	構成比 %	(A)-(B)	(A/B×100)	運 用 部	門 別 院 研 究 所
	円	%	円	%	円	%	円	円
(負 債 の 部)								
固 定 負 債	0	0.0	0	0.0	0	-	0	0
固 定 負 債 合 計	0	0.0	0	0.0	0	-	0	0
未 払 金	1,847,046,676	9.5	1,246,962,351	6.4	600,084,325	148.1	50,076,350	1,765,983,102
そ の 他 流 動 負 債	129,812,574	0.7	125,776,294	0.7	4,036,280	103.2	366,474	128,803,044
流 動 負 債 合 計	1,976,859,250	10.2	1,372,738,645	7.1	604,120,605	144.0	50,442,824	1,894,786,146
負 債 合 計	1,976,859,250	10.2	1,372,738,645	7.1	604,120,605	144.0	50,442,824	1,894,786,146
(資 本 の 部)								
自 己 資 本 金	24,284,359,565	124.3	24,284,359,565	125.1	0	100.0	1,820,334,748	20,568,470,963
借 入 資 本 金	5,704,091,417	29.2	5,669,011,839	29.2	35,079,578	100.6	0	5,704,091,417
企 業 債	5,704,091,417	29.2	5,669,011,839	29.2	35,079,578	100.6	0	5,704,091,417
資 本 金 合 計	29,988,450,982	153.5	29,953,371,404	154.3	35,079,578	100.1	1,820,334,748	26,272,562,380
資 本 剩 余 金	8,623,413,360	44.1	8,294,338,092	42.7	329,075,268	104.0	16,955,720	6,027,840,479
受 贈 財 産 評 価 額	856,900,102	4.4	823,527,181	4.2	33,372,921	104.1	16,955,720	314,883,221
国 庫 補 助 金	958,881,500	4.9	958,881,500	4.9	0	100.0	0	909,956,500
他 会 計 負 担 金	6,641,733,027	34.0	6,346,060,680	32.7	295,672,347	104.7	0	4,637,102,027
そ の 他 資 本 剩 余 金	165,898,731	0.8	165,868,731	0.9	30,000	100.0	0	165,898,731
剩 余 金 合 計	8,623,413,360	44.1	8,294,338,092	42.7	329,075,268	104.0	16,955,720	6,027,840,479
当 年 度 未 処 理 欠 損 金	△7,698,470,060	△39.5	△8,708,132,930	△44.9	1,009,662,870	88.4	△10,630,952,410	3,290,414,366
前 年 度 繰 越 欠 損 金	△8,708,132,930	△44.6	△9,777,838,393	△50.4	1,069,705,463	89.1	△10,391,657,782	2,038,081,554
当 年 度 純 利 益 (△ 純 損 失)	1,009,662,870	5.1	1,069,705,463	5.5	△60,042,593	94.4	△239,294,628	1,252,332,812
欠 損 金 合 計	△7,698,470,060	△39.5	△8,708,132,930	△44.9	1,009,662,870	88.4	△10,630,952,410	3,290,414,366
病 院 間 調 整 勘 定	△13,350,000,000	△68.3	△11,500,000,000	△59.2	△1,850,000,000	116.1	0	△11,500,000,000
資 本 合 計	17,563,394,282	89.8	18,039,576,566	92.9	△476,182,284	97.4	△8,793,661,942	24,090,817,225
負 債 資 本 合 計	19,540,253,532	100.0	19,412,315,211	100.0	127,938,321	100.7	△8,743,219,118	25,985,603,371

第3表 予算の執行状況（病院事業庁分を除く）
1. 収入状況調

(単位：円)

科	目	予算配分額	決算額	差引	科	目	予算配分額	決算額	差引
病院事業	収益	13,818,335,000	13,230,544,848	587,790,152					
医療	収益	13,625,082,000	12,998,469,526	626,612,474	医療	外収益	193,253,000	232,075,322	△ 38,822,322
入院	収益	8,232,847,000	7,701,660,670	531,186,330		受取利息配当金	0	0	0
一人1日平均単価		51,123	51,332	△ 209		預金利息	0	0	0
延患者数(人)		161,040	150,036	11,004		その他医療外収益	193,253,000	232,075,322	△ 38,822,322
1日平均患者数(人)		440.0	409.9	30.1		不用品売却収益	10,000	5,000	5,000
利用率(%)		88.0	82.0	6.0		その他医療外収益	193,243,000	232,070,322	△ 38,827,322
外来収益		4,457,880,000	4,453,813,119	24,066,881	資本	的収入	15,000,000	30,000	14,970,000
一人1日平均単価		29,000	29,633	△ 633	雑	収入	15,000,000	30,000	14,970,000
延患者数(人)		153,720	149,626	4,094	雑	収入	15,000,000	30,000	14,970,000
1日平均患者数(人)		630.0	613.2	16.8	合	計	13,833,355,000	13,230,574,848	602,760,152
その他医療収益		934,355,000	862,995,737	71,359,263					
室料差額収益		353,556,000	340,861,000	12,695,000					
公衆衛生活動収益		2,341,000	2,170,103	170,897					
医療相談収益		1,000	0	1,000					
受託検査施設利用収益		6,875,000	9,679,600	△ 2,804,600					
その他医療収益		571,582,000	510,285,034	61,296,966					

2 支出状況調

(単位：円)

科 目	予 算 配 分 額	決 算 額	差 引	科 目	予 算 配 分 額	決 算 額	差 引
病 院 業 務 費 用	8,719,338,000	8,441,617,801	277,720,199	減 価 償 却 費	735,907,000	713,092,963	22,814,037
医 業 費	8,719,336,000	8,441,285,461	278,050,539	建 物 減 価 償 却 費	455,790,000	455,789,044	956
給 与 費	674,690,000	664,156,424	10,533,576	構 築 物 減 価 償 却 費	6,510,000	6,510,361	639
手 当 等 金	39,297,000	39,247,000	50,000	器 械 備 品 減 価 償 却 費	273,606,000	250,793,558	22,812,442
賃 金	139,758,000	134,038,155	5,719,845	車 両 減 価 償 却 費	0	0	0
報 酬	432,201,000	429,135,006	3,065,994	放 射 性 同 位 元 素 減 価 償 却 費	0	0	0
法 定 福 利 費	63,434,000	61,736,263	1,697,737	資 産 減 耗 費	50,566,000	73,540,157	△ 22,974,157
材 料 費	5,009,722,000	4,889,381,846	120,340,154	た な 卸 資 産 減 耗 費	1,000	0	1,000
薬 品 費	3,934,724,000	3,847,386,950	87,337,050	固 定 資 産 除 却 費	50,565,000	73,540,157	△ 22,975,157
診 療 材 料 費	955,486,000	941,802,890	13,683,110	研 究 研 修 費	435,763,000	313,978,171	121,784,829
給 食 材 料 費	101,672,000	86,108,567	15,563,433	研 究 材 料 費	48,311,000	17,543,555	30,767,445
医 療 消 耗 備 品 費	17,840,000	14,083,439	3,756,561	謝 金 費	46,064,000	32,495,000	13,569,000
経 費	1,812,688,000	1,787,135,900	25,552,100	図 書 費	25,547,000	19,517,671	6,029,329
厚 生 福 利 費	4,808,000	2,997,152	1,810,848	旅 費	56,421,000	46,868,838	9,552,162
報 償 費	5,031,000	1,954,040	3,076,960	研 究 費	259,420,000	197,553,107	61,866,893
旅 費	5,319,000	4,524,735	794,265	医 業 外 費 用	2,000	332,340	△ 330,340
職 員 被 服 費	10,946,000	8,289,757	2,656,243	雑 損 失	2,000	332,340	△ 330,340
消 耗 品 費	59,092,000	56,977,064	2,114,936	不 用 品 売 却 原 価	1,000	0	1,000
消 耗 品 費	12,367,000	11,974,348	392,652	そ の 他 雑 損 失	1,000	332,340	△ 331,340
消 耗 品 費	309,514,000	309,061,616	452,384	資 本 的 支 出	100,284,000	98,561,505	1,722,495
光 熱 水 費	26,042,000	25,988,613	53,387	建 設 改 良 費	24,990,000	24,738,000	252,000
燃 料 費	209,000	154,687	54,313	建 設 費	0	0	0
食 糧 費	13,090,000	8,633,214	4,456,786	改 良 費	24,990,000	24,738,000	252,000
印 刷 製 本 費	108,107,000	108,106,295	705	資 産 購 入 費	75,294,000	73,823,505	1,470,495
修 繕 費	0	0	0	医 療 器 械 購 入 費	75,294,000	73,823,505	1,470,495
保 険 料	166,297,000	164,898,211	1,398,789	備 品 購 入 費	0	0	0
賃 借 料	11,852,000	10,954,002	897,998	合 計	8,819,622,000	8,540,179,306	279,442,694
通 信 運 搬 費	1,059,324,000	1,055,907,549	3,416,451	た な 卸 資 産 購 入 限 度 額	4,977,255,000	4,777,896,353	199,358,647
委 託 費	2,138,000	1,648,900	489,100				
諸 会 社 費	18,552,000	15,065,717	3,486,283				

第4表 固定資産（有形固定資産）

（単位：円）

資産の種類	平成23年度 年度当初現在高		平成23年度 年度末現在高		減価償却累計額			平成23年度 年度末 却未済額	備考
	増加額		減少額		減価償却累計額	当年度増加額	当年度減少額		
	円	円	円	円					
土地建物	328,607,824	0	0	328,607,824	-	-	-	328,607,824	
鉄筋コンクリート造	28,760,405,027	0	0	28,760,405,027	16,799,467,043	455,789,044	0	11,505,148,940	
コンクリートブロック造	14,808,626,021	0	0	14,808,626,021	5,281,950,191	400,611,898	0	9,126,063,932	
鉄骨造	106,122	0	0	106,122	91,595	2,578	0	11,949	
付帯設備	286,427,597	0	0	286,427,597	104,064,219	7,765,808	0	174,597,570	
構築物	13,665,245,287	0	0	13,665,245,287	11,413,361,038	47,408,760	0	2,204,475,489	
機械	459,724,884	0	0	459,724,884	293,446,990	6,510,361	0	159,767,533	
器具	10,419,133,007	823,907,493	1,989,562,345	9,253,478,155	7,147,471,974	250,834,347	1,800,189,708	3,655,361,542	
医療用器械	10,242,547,435	823,337,493	1,974,118,345	9,091,766,583	6,984,421,253	249,912,562	1,785,517,908	3,642,950,676	
一般備品	64,622,572	0	0	64,622,572	60,933,844	0	0	3,688,728	
炊事用品	111,963,000	570,000	15,444,000	97,089,000	102,116,877	921,785	14,671,800	8,722,138	
車両	0	0	0	0	0	0	0	0	
放射性同位元素	4,916,000	0	0	4,916,000	4,670,200	0	0	245,800	
その他の有形固定資産	15,080,000	0	0	15,080,000	0	0	0	15,080,000	
建設仮勘定	90,682,280	73,385,385	0	164,067,665	-	-	-	164,067,665	
合計	40,078,549,022	897,292,878	1,989,562,345	38,986,279,555	24,245,056,207	713,133,752	1,800,189,708	15,828,279,304	
病院棟	5,899,978,088	0	0	5,899,978,088	2,395,611,052	138,059,487	0	3,366,307,549	
特放棟・診療棟	2,484,698,192	0	0	2,484,698,192	1,010,775,213	58,141,937	0	1,415,781,042	
国際医学交流センター・外来棟	2,377,351,003	0	0	2,377,351,003	875,497,189	55,505,514	0	1,446,348,300	
立体駐車場	949,887,367	0	0	949,887,367	285,792,687	19,634,612	0	644,460,068	
研究所棟本館	1,833,598,327	0	0	1,833,598,327	198,111,060	22,012,340	0	1,613,474,927	
生物工学総合実験棟	381,566,830	0	0	381,566,830	140,798,144	6,868,202	0	233,900,484	
研究所棟北館	570,518,075	0	0	570,518,075	292,271,623	13,115,116	0	265,131,336	
その他の	597,561,858	0	0	597,561,858	278,939,659	95,043,076	0	315,269,745	
付帯設備	13,665,245,287	0	0	13,665,245,287	11,413,361,038	47,408,760	0	2,204,475,489	
合計	28,760,405,027	0	0	28,760,405,027	16,891,157,665	455,789,044	0	11,505,148,940	

第5表 固定資産（無形固定資産）

(単位：円)

資産の種類	年度 現在	年度 当初	23年度中の増減		年度 末 現在	備 考
			増加額	減少額		
電話加入権	172,700		0	0	172,700	
その他無形固定資産	10,702,539		0	9,632,278	1,070,261	
合計	10,875,239		0	9,632,278	1,242,961	

第6表 企業債

(単位：円)

種類	発行年月日	発行総額	償還		未償還残高	発行価額	利率	償還終期	備 考
			当年度償還高	償還高累計					
資金運用部資金	平成 1. 3.27	260,000,000	12,458,510	153,878,180	106,121,820	260,000,000	年 4.85	平成 31. 3.25	がんセンター施設整備費
〃	平成 5. 5. 7	180,000,000	7,162,300	76,733,040	103,266,960	180,000,000	4.40	平成 35. 3.25	がんセンター施設整備費
〃	平成 6. 4.20	740,000,000	28,251,612	288,147,363	451,852,637	740,000,000	4.30	平成 36. 3.25	がんセンター施設整備費
財政融資資金	平成 23. 3.25	40,000,000	0	0	40,000,000	40,000,000	1.90	平成 53. 3. 1	がんセンター施設整備費
〃	平成 24. 3.26	23,000,000	0	0	23,000,000	23,000,000	1.70	平成 54. 3. 1	がんセンター施設整備費
縁故資金	平成 19. 3.30	150,000,000	37,500,000	150,000,000	0	150,000,000	1.44	平成 24. 3.30	がんセンター中央病院備品整備費
〃	平成 20. 3.31	354,000,000	88,500,000	265,500,000	88,500,000	354,000,000	1.30	平成 25. 3.29	がんセンター中央病院備品整備費
〃	平成 20. 3.31	40,400,000	8,358,000	32,042,000	8,358,000	40,400,000	1.35	平成 25. 3.29	がんセンター整備事業(借換債)
〃	平成 20. 3.31	131,000,000	22,534,000	85,932,000	45,068,000	131,000,000	1.38	平成 26. 3.31	がんセンター整備事業(借換債)
〃	平成 21. 3.25	393,700,000	35,790,000	107,370,000	286,330,000	393,700,000	1.84	平成 32. 3.25	がんセンター整備事業(借換債)
〃	平成 21. 3.25	991,000,000	82,582,000	247,746,000	743,254,000	991,000,000	1.88	平成 33. 3.25	がんセンター整備事業(借換債)
〃	平成 21. 3.30	305,000,000	76,250,000	152,500,000	152,500,000	305,000,000	1.58	平成 26. 3.28	がんセンター中央病院備品整備費
〃	平成 22. 3.25	390,000,000	97,500,000	97,500,000	292,500,000	390,000,000	1.05	平成 27. 3.25	がんセンター整備事業(借換債)
〃	平成 22. 3.25	2,784,410,000	232,034,000	464,070,000	2,320,340,000	2,784,410,000	1.89	平成 34. 3.25	がんセンター施設整備費(借換債)
〃	平成 23. 3.25	42,000,000	0	0	42,000,000	42,000,000	0.97	平成 28. 3.25	がんセンター施設整備費
〃	平成 23. 3.25	260,000,000	0	0	260,000,000	260,000,000	0.87	平成 28. 3.25	がんセンター中央病院備品整備費
〃	平成 24. 3.26	50,000,000	0	0	50,000,000	50,000,000	0.90	平成 29. 3.27	がんセンター施設整備費
〃	平成 24. 3.26	440,000,000	0	0	440,000,000	440,000,000	0.90	平成 29. 3.27	がんセンター中央病院備品整備費
〃	平成 24. 3.26	251,000,000	0	0	251,000,000	251,000,000	0.90	平成 29. 3.27	がんセンター中央病院備品整備費
合計		7,825,510,000	728,920,422	2,121,418,583	5,704,091,417	7,825,510,000			

第7表 医業収益(100)対要素別比率

(単位：%)

区分	給与費			薬品等医療材料費			給食材料費			減価償却費			その他経費			医業費用																										
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	30.8	32.3	33.2	33.2	32.0	32.1	34.8	36.2	36.3	36.0	34.4	34.6	9.3	8.6	6.3	6.0	5.3	5.1	7.9	7.3	5.0	4.6	4.1	4.1	15.4	14.9	15.2	13.8	14.7	15.0	105.6	106.8	105.5	102.6	103.2	105.0
医業収益対要素別比率	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	30.8	32.3	33.2	33.2	32.0	32.1	34.8	36.2	36.3	36.0	34.4	34.6	9.3	8.6	6.3	6.0	5.3	5.1	7.9	7.3	5.0	4.6	4.1	4.1	15.4	14.9	15.2	13.8	14.7	15.0	105.6	106.8	105.5	102.6	103.2	105.0
院別比率	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	30.8	32.3	33.2	33.2	32.0	32.1	34.8	36.2	36.3	36.0	34.4	34.6	9.3	8.6	6.3	6.0	5.3	5.1	7.9	7.3	5.0	4.6	4.1	4.1	15.4	14.9	15.2	13.8	14.7	15.0	105.6	106.8	105.5	102.6	103.2	105.0

第2部 病院業務関係

第1表 外来患者数(初診患者数)

区 分	同 左 内 訳														
	平成21年度 総 数	平成22年度 総 数	平成23年度 総 数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
初診患者実数	6,193	5,557	5,481	439	399	443	429	519	467	486	525	442	395	471	466
外来患者延数	154,001	149,769	149,626	12,565	11,809	13,280	12,079	13,003	12,191	12,474	12,640	12,196	11,679	12,678	13,032
1日平均患者数	636.4	616.3	613.2	628.3	621.5	603.6	604.0	551.8	609.6	623.7	632.0	641.9	614.7	603.7	620.6
平均通院患者数	24.9	27.0	27.3	28.6	29.6	30.0	28.2	25.1	26.1	25.7	24.1	27.6	29.6	26.9	28.0

第2表 外来患者数(診療別患者延数)

区 分	同 左 内 訳														
	平成21年度 総 数	平成22年度 総 数	平成23年度 総 数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
総 数	211,939	207,914	209,270	17,478	16,427	18,454	16,681	18,069	17,083	17,493	17,704	17,076	16,507	17,735	18,563
消化器内科	21,500	20,385	20,180	1,513	1,448	1,826	1,641	1,709	1,654	1,618	1,876	1,698	1,639	1,736	1,822
呼吸器内科	8,751	10,382	11,125	865	798	908	890	965	922	914	968	953	895	1,008	1,039
循環器科	3,137	3,281	3,708	293	270	333	301	302	302	332	309	310	325	307	324
血液・細胞療法科	7,367	6,274	6,546	578	550	531	517	539	565	556	559	487	548	545	571
薬物療法科	10,380	11,342	11,496	986	1,004	997	930	1,031	929	898	1,012	897	877	976	959
頭頸部外科	14,069	13,590	14,287	1,145	1,138	1,228	1,195	1,244	1,140	1,196	1,165	1,127	1,107	1,325	1,277
形成外科	1,224	1,618	1,944	146	154	141	155	176	168	149	148	190	169	171	177
呼吸器外科	9,152	9,573	8,017	759	625	675	647	691	649	658	636	682	647	641	707
乳腺科	23,621	22,650	22,410	1,974	1,742	1,923	1,829	1,961	1,829	2,076	1,914	1,768	1,801	1,711	1,882
消化器外科	15,594	15,205	16,760	1,428	1,314	1,504	1,304	1,398	1,385	1,449	1,434	1,413	1,335	1,422	1,374
整形外科	3,299	3,519	3,573	281	275	327	272	308	276	296	269	330	286	281	372
脳神経外科	683	737	727	62	52	72	39	56	50	66	76	83	51	66	54
泌尿器科	8,887	9,464	9,308	815	867	854	753	1,016	719	667	730	728	641	770	748
婦人科	11,164	10,009	9,361	805	711	805	675	805	810	904	760	822	688	747	829
皮膚科	479	475	373	37	25	42	33	27	30	32	26	31	33	34	23
眼科	127	124	111	6	8	14	11	8	11	8	4	11	9	10	11
放射線診断科	3,764	3,398	2,913	274	220	266	310	219	277	230	240	225	203	199	250
放射線治療科	15,253	15,513	15,641	1,311	1,256	1,534	1,200	1,279	1,215	1,100	1,237	1,200	1,233	1,583	1,493
放射線科	43,650	40,354	40,383	3,356	3,154	3,533	3,074	3,422	3,290	3,519	3,409	3,286	3,248	3,374	3,718
内視鏡科	6,956	6,868	7,062	568	528	659	596	554	576	545	662	588	552	560	674
歯科	2,870	3,146	3,340	274	288	282	309	359	285	280	270	246	220	269	258
麻酔科	12	7	5	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1

第3表 入院患者数（入院・退院患者数）

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		状況											
	総数	数	総数	数	総数	数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	10,175	10,020	9,920		1,201	1,117	1,185	1,115	1,247	1,238	1,171	1,188	1,132	1,096	1,181	1,155		
繰越患者数	375	396	402		416	336	368	352	352	399	382	382	421	229	386	387		
患者実数	9,800	9,624	9,518		785	781	747	786	895	805	772	806	711	867	795	768		
（総数）	9,789	9,594	9,611		866	719	763	817	814	839	789	767	903	710	794	830		
（死亡）	442	455	470		36	29	35	46	46	52	38	36	44	48	34	41		
退院患者数	9,347	9,139	9,141		830	690	728	786	768	787	751	731	859	662	760	789		
（その他）	386	416	325		336	399	352	368	433	399	382	421	229	386	387	325		
月末患者数	154,884	154,352	150,036		13,022	12,003	12,183	12,89	13,471	13,107	12,860	12,594	12,756	11,353	11,849	11,946		
患者延べ数	424.0	423.0	410		434	387	416	406	435	437	415	420	411	366	409	385		
1日平均患者数	89.7	89.4	86.7%		91.8%	81.9%	85.9%	87.9%	91.9%	92.4%	87.7%	88.8%	87.0%	77.4%	86.4%	81.5%		
病床利用率																		

第4表 外来患者数（性・年齢階級・住所別）

区分	総数	%	男												女											
			総数	%	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	総数	%	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～				
総数	5,481	100	2,621	100	1	21	42	145	210	459	973	770	2,860	100	1	19	104	361	612	586	691	486				
%	100	•	100	•	0.0	0.8	1.6	5.5	8.0	17.5	37.1	29.4	100	•	0.0	0.7	3.6	12.6	21.4	20.5	24.2	17.0				
総数	4,135	75.4	1,912	72.9	1	14	25	104	160	322	694	592	2,223	77.7	1	14	85	283	490	450	523	377				
愛知県	2,145	39.1	944	36.0	1	7	11	56	79	149	325	316	1,201	42.0	1	12	46	142	277	239	265	219				
（名古屋市）	1,990	36.3	968	36.9	0	7	14	48	81	173	369	276	1,022	35.7	0	2	39	141	213	211	258	158				
（その他）	525	9.6	258	9.8	0	5	8	8	16	47	100	74	267	9.3	0	1	6	30	50	61	77	42				
岐阜県	534	9.7	300	11.4	0	2	4	17	21	55	128	73	234	8.2	0	3	10	22	44	50	63	42				
三重県	34	0.6	13	0.5	0	0	0	0	0	4	6	3	21	0.7	0	0	1	4	4	2	8	2				
静岡県	8	0.1	5	0.2	0	0	0	1	1	2	0	1	3	0.1	0	0	0	1	0	2	0	0				
福井県	59	1.1	26	1.0	0	0	0	3	4	10	6	3	33	1.2	0	0	1	5	7	5	6	9				
長野県	2	0.0	2	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0				
石川県	29	0.5	18	0.7	0	0	0	1	0	2	7	8	11	0.4	0	0	0	0	3	2	4	2				
滋賀県	153	2.8	87	3.3	0	0	5	11	8	17	30	16	68	2.4	0	1	1	16	14	14	10	12				
その他																										

第5表 外来（初診）患者数（性・年齢階級・住所別別）

（昭和39年12月～平成24年3月）

区分	総数	%	男										女									
			総数	%	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	総数	%	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
					1,469	2,823	10,131	22,518	30,396	33,824	33,241	19,164			254,540	1,361	3,733	22,637	55,920	69,796	52,664	32,981
総数	408,106	100	153,566	100	1,469	2,823	10,131	22,518	30,396	33,824	33,241	19,164	254,540	100	1,361	3,733	22,637	55,920	69,796	52,664	32,981	15,448
%	100	•	100	•	1.0	1.8	6.6	14.7	19.8	22.0	21.6	12.5	100	•	0.5	1.5	8.9	22.0	27.4	20.7	13.0	6.1
総数	330,317	80.9	121,798	79.3	1,194	2,331	8,556	19,054	24,786	26,227	25,121	14,529	208,519	81.9	1,148	3,179	19,306	47,300	57,633	41,749	25,912	12,292
愛知県 名古屋市中区	178,357	43.7	65,928	42.9	705	1,377	4,909	10,335	13,249	13,557	13,317	8,479	112,429	44.2	642	1,929	11,335	25,210	30,002	21,395	14,235	7,681
その他	151,960	37.2	55,870	36.4	489	954	3,647	8,719	11,537	12,670	11,804	6,050	96,090	37.8	506	1,250	7,971	22,090	27,631	20,354	11,677	4,611
岐阜県	37,275	9.1	14,880	9.7	136	224	651	1,587	2,639	3,596	3,819	2,228	22,395	8.8	87	256	1,531	4,167	6,025	5,386	3,464	1,479
三重県	26,121	6.4	10,603	6.9	71	165	465	1,149	1,884	2,523	2,789	1,557	15,518	6.1	73	187	994	2,917	4,357	3,739	2,270	981
静岡県	3,981	1.0	1,803	1.2	25	35	90	208	346	434	440	225	2,178	0.9	12	31	201	405	543	487	350	149
兵庫県	669	0.2	304	0.2	3	2	15	27	65	72	77	43	365	0.1	2	7	24	50	90	102	58	32
長野県	2,096	0.5	983	0.6	7	17	37	74	170	248	274	156	1,113	0.4	6	15	52	161	259	300	214	106
石川県	244	0.1	121	0.1	0	0	4	13	18	36	23	27	123	0.0	0	2	9	18	26	28	23	17
滋賀県	1,118	0.3	462	0.3	0	5	28	60	70	113	122	64	656	0.3	5	11	40	115	175	154	100	56
その他	6,285	1.5	2,612	1.7	33	44	285	346	418	575	576	385	3,673	1.4	28	45	480	787	688	719	590	336

第6表 新入院患者数（性・年齢階級・住所別別）

（平成23年度）

区分	総数	%	男										女									
			総数	%	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	総数	%	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
					5,465	100	0	14	79	201	341	887			2,417	1,576	4,053	100	0	11	73	304
総数	9,518	100	5,465	100	0 <td>14 <td>79 <td>201 <td>341 <td>887 <td>2,417 <td>1,576 <td>4,053</td> <td>100</td> <td>0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	14 <td>79 <td>201 <td>341 <td>887 <td>2,417 <td>1,576 <td>4,053</td> <td>100</td> <td>0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	79 <td>201 <td>341 <td>887 <td>2,417 <td>1,576 <td>4,053</td> <td>100</td> <td>0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	201 <td>341 <td>887 <td>2,417 <td>1,576 <td>4,053</td> <td>100</td> <td>0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	341 <td>887 <td>2,417 <td>1,576 <td>4,053</td> <td>100</td> <td>0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	887 <td>2,417 <td>1,576 <td>4,053</td> <td>100</td> <td>0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td>	2,417 <td>1,576 <td>4,053</td> <td>100</td> <td>0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td></td></td>	1,576 <td>4,053</td> <td>100</td> <td>0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td></td>	4,053	100	0 <td>11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td></td>	11 <td>73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td></td>	73 <td>304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td></td>	304 <td>546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td></td>	546 <td>824 <td>1,326 <td>969</td> </td></td>	824 <td>1,326 <td>969</td> </td>	1,326 <td>969</td>	969
%	100	•	100	•	0.0	0.3	1.4	3.7	6.2	15.3	44.2	28.8	100	•	0.0	0.3	1.8	7.5	13.5	20.3	32.7	23.9
総数	7,025	73.8	3,957	72.4	0 <td>6 <td>37</td> <td>117</td> <td>228</td> <td>552</td> <td>1,797</td> <td>1,220</td> <td>3,068</td> <td>75.7</td> <td>0 <td>7</td> <td>46</td> <td>244</td> <td>406</td> <td>570</td> <td>1,031</td> <td>764</td> </td></td>	6 <td>37</td> <td>117</td> <td>228</td> <td>552</td> <td>1,797</td> <td>1,220</td> <td>3,068</td> <td>75.7</td> <td>0 <td>7</td> <td>46</td> <td>244</td> <td>406</td> <td>570</td> <td>1,031</td> <td>764</td> </td>	37	117	228	552	1,797	1,220	3,068	75.7	0 <td>7</td> <td>46</td> <td>244</td> <td>406</td> <td>570</td> <td>1,031</td> <td>764</td>	7	46	244	406	570	1,031	764
愛知県 名古屋市中区	3,351	35.2	1,816	33.2	0 <td>1</td> <td>13</td> <td>33</td> <td>91</td> <td>241</td> <td>813</td> <td>624</td> <td>1,535</td> <td>37.9</td> <td>0 <td>2</td> <td>22</td> <td>100</td> <td>227</td> <td>270</td> <td>497</td> <td>417</td> </td>	1	13	33	91	241	813	624	1,535	37.9	0 <td>2</td> <td>22</td> <td>100</td> <td>227</td> <td>270</td> <td>497</td> <td>417</td>	2	22	100	227	270	497	417
その他	3,674	38.6	2,141	39.2	0 <td>5</td> <td>24</td> <td>84</td> <td>137</td> <td>311</td> <td>984</td> <td>596</td> <td>1,533</td> <td>37.8</td> <td>0 <td>5</td> <td>24</td> <td>144</td> <td>179</td> <td>300</td> <td>534</td> <td>347</td> </td>	5	24	84	137	311	984	596	1,533	37.8	0 <td>5</td> <td>24</td> <td>144</td> <td>179</td> <td>300</td> <td>534</td> <td>347</td>	5	24	144	179	300	534	347
岐阜県	1,005	10.6	547	10.0	0 <td>6</td> <td>9</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>89</td> <td>231</td> <td>149</td> <td>458</td> <td>11.3</td> <td>0 <td>1</td> <td>3</td> <td>28</td> <td>70</td> <td>118</td> <td>142</td> <td>96</td> </td>	6	9	25	38	89	231	149	458	11.3	0 <td>1</td> <td>3</td> <td>28</td> <td>70</td> <td>118</td> <td>142</td> <td>96</td>	1	3	28	70	118	142	96
三重県	1,059	11.1	682	12.5	0 <td>2</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>131</td> <td>292</td> <td>153</td> <td>377</td> <td>9.3</td> <td>0 <td>3</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>49</td> <td>97</td> <td>118</td> <td>80</td> </td>	2	17	32	55	131	292	153	377	9.3	0 <td>3</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>49</td> <td>97</td> <td>118</td> <td>80</td>	3	12	18	49	97	118	80
静岡県	49	0.5	18	0.3	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>6</td> <td>11</td> <td>1</td> <td>31</td> <td>0.8</td> <td>0 <td>0 <td>10</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>2</td> </td></td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>6</td> <td>11</td> <td>1</td> <td>31</td> <td>0.8</td> <td>0 <td>0 <td>10</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>2</td> </td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>6</td> <td>11</td> <td>1</td> <td>31</td> <td>0.8</td> <td>0 <td>0 <td>10</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>2</td> </td></td></td></td>	0 <td>0 <td>6</td> <td>11</td> <td>1</td> <td>31</td> <td>0.8</td> <td>0 <td>0 <td>10</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>2</td> </td></td></td>	0 <td>6</td> <td>11</td> <td>1</td> <td>31</td> <td>0.8</td> <td>0 <td>0 <td>10</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>2</td> </td></td>	6	11	1	31	0.8	0 <td>0 <td>10</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>2</td> </td>	0 <td>10</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>2</td>	10	3	6	6	4	2
兵庫県	10	0.1	6	0.1	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>4</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>0.1</td> <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </td></td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>4</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>0.1</td> <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>4</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>0.1</td> <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </td></td></td></td>	0 <td>0 <td>4</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>0.1</td> <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </td></td></td>	0 <td>4</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>0.1</td> <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </td></td>	4	0	2	4	0.1	0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </td>	0 <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td>	2	1	1	1	0	0
長野県	115	1.2	80	1.5	0 <td>0 <td>3</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>22</td> <td>27</td> <td>18</td> <td>35</td> <td>0.9</td> <td>0 <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>5</td> <td>10</td> </td></td>	0 <td>3</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>22</td> <td>27</td> <td>18</td> <td>35</td> <td>0.9</td> <td>0 <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>5</td> <td>10</td> </td>	3	2	8	22	27	18	35	0.9	0 <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>5</td> <td>10</td>	1	2	2	2	15	5	10
石川県	3	0.0	3	0.1	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0.0</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0.0</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0.0</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0.0</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td></td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0.0</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td></td></td></td></td>	0 <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0.0</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td></td></td></td>	2	1	0	0.0	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>0</td> </td></td>	0 <td>0 <td>0</td> </td>	0 <td>0</td>	0
滋賀県	58	0.6	38	0.7	0 <td>0 <td>0 <td>10</td> <td>0 <td>8</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>20</td> <td>0.5</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> </td></td></td></td></td></td></td>	0 <td>0 <td>10</td> <td>0 <td>8</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>20</td> <td>0.5</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> </td></td></td></td></td></td>	0 <td>10</td> <td>0 <td>8</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>20</td> <td>0.5</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> </td></td></td></td></td>	10	0 <td>8</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>20</td> <td>0.5</td> <td>0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> </td></td></td></td>	8	12	8	20	0.5	0 <td>0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> </td></td></td>	0 <td>0 <td>0 <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> </td></td>	0 <td>0 <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> </td>	0 <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td>	2	6	7	5
その他	194	2.0	134	2.5	0 <td>0 <td>13</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>25</td> <td>45</td> <td>24</td> <td>60</td> <td>1.5</td> <td>0 <td>0 <td>1</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>19</td> <td>12</td> </td></td></td>	0 <td>13</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>25</td> <td>45</td> <td>24</td> <td>60</td> <td>1.5</td> <td>0 <td>0 <td>1</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>19</td> <td>12</td> </td></td>	13	15	12	25	45	24	60	1.5	0 <td>0 <td>1</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>19</td> <td>12</td> </td>	0 <td>1</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>19</td> <td>12</td>	1	7	10	11	19	12

第7表 新入院患者数（性・年齢階級・住所別別）

（昭和39年12月～平成24年3月）

区分	総数	%	男										女																					
			0～9		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～		0～9		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～	
			総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%		
総数	187,456	100	96,780	100	169	578	1,916	4,184	9,185	22,855	34,592	23,301	90,676	100	130	577	2,471	8,113	16,753	24,781	24,781	23,572	14,279	2,471	8,113	16,753	24,781	24,781	23,572	14,279				
%	100	•	100	•	0.2	0.6	2.0	4.3	9.5	23.6	35.7	24.1	100	•	0.1	0.6	2.7	8.9	18.5	27.3	26.0	15.7	2.7	8.9	18.5	27.3	26.0	15.7						
（総数）	143,689	76.7	73,430	75.9	111	418	1,347	3,124	6,979	17,217	26,206	18,028	70,259	77.5	95	403	1,887	6,325	13,134	18,736	18,297	11,382	1,887	6,325	13,134	18,736	18,297	11,382						
愛知県名古屋市	73,064	39.0	36,842	38.1	53	154	599	1,393	3,394	8,209	12,925	10,115	36,222	39.9	41	164	923	2,987	6,729	9,082	9,470	6,826	923	2,987	6,729	9,082	9,470	6,826						
その他	70,625	37.7	36,588	37.8	58	264	748	1,731	3,585	9,008	13,281	7,913	34,037	37.5	54	239	964	3,338	6,405	9,654	8,827	4,556	964	3,338	6,405	9,654	8,827	4,556						
岐阜県	19,823	10.6	10,135	10.5	22	76	160	401	978	2,481	3,697	2,320	9,688	10.7	20	97	201	858	1,607	2,961	2,508	1,436	201	858	1,607	2,961	2,508	1,436						
三重県	15,416	8.2	8,561	8.8	12	51	143	322	686	2,101	3,189	2,057	6,855	7.6	7	23	158	474	1,382	2,111	1,857	843	158	474	1,382	2,111	1,857	843						
静岡県	1,742	0.9	946	1.0	11	12	45	110	128	224	309	107	796	0.9	5	24	63	109	142	230	151	72	63	109	142	230	151	72						
福井県	252	0.1	123	0.1	0	1	5	4	25	33	38	17	129	0.1	0	0	4	8	18	54	32	13	4	8	18	54	32	13						
長野県	2,248	1.2	1,303	1.3	4	6	45	63	123	282	415	365	945	1.0	2	24	52	71	123	215	263	195	52	71	123	215	263	195						
石川県	114	0.1	53	0.1	0	0	12	0	5	5	21	10	61	0.1	0	1	1	6	19	13	14	7	1	6	19	13	14	7						
滋賀県	570	0.3	295	0.3	0	2	8	27	21	76	93	68	275	0.3	0	1	4	27	66	75	61	41	4	27	66	75	61	41						
その他	3,602	1.9	1,934	2.0	9	12	151	133	240	436	624	329	1,668	1.8	1	4	101	235	262	386	389	290	4	101	235	262	386	389	290					

第8表 放射線照射回数（診断一取扱件数）

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同左内訳											
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総数	46,299	191.3	45,001	185.2	44,232	181.3	3,738	3,530	3,756	3,461	3,974	3,776	3,928	3,665	3,550	3,440	3,490
呼吸器	28,683	118.5	24,582	101.2	23,446	96.1	2,020	1,852	1,991	1,794	2,001	1,965	2,059	1,960	1,933	1,870	1,872	2,129
消化器	1,473	6.1	1,521	6.3	1,424	5.8	111	106	144	121	141	125	117	104	108	111	128	108
泌尿・性器	65	0.3	48	0.2	38	0.2	2	1	6	2	5	6	2	3	4	3	1	3
心臓・血管	1,388	5.7	1,465	6.0	1,261	5.2	116	107	125	115	126	98	110	109	69	92	90	104
骨	3,638	15.0	3,271	13.5	3,643	14.9	303	317	319	299	352	300	304	298	302	298	248	303
その他	11,052	45.7	14,114	58.1	14,420	59.1	1,186	1,147	1,171	1,130	1,349	1,282	1,336	1,191	1,134	1,066	1,151	1,277
単方	40,378	166.9	39,035	160.6	38,309	157.0	3,282	3,075	3,233	2,955	3,393	3,241	3,398	3,166	3,106	3,010	3,051	3,399
造影	4,979	20.6	4,988	20.5	4,787	19.6	384	366	446	407	465	431	406	408	363	351	338	422
特殊	942	3.9	978	4.0	1,136	4.7	72	89	77	99	116	104	124	91	81	79	101	103

第9表 放射線照射回数（診断－撮影枚数）

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同左内訳											
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総数	101,336	418.7	100,980	415.6	98,755	404.7	8,230	7,760	8,708	7,606	9,011	8,378	8,695	8,067	7,956	7,745	8,151
呼吸器	56,378	233.0	47,291	194.6	44,321	181.6	3,865	3,440	3,800	3,340	3,870	3,647	3,941	3,765	3,619	3,495	3,483	4,056
消化器	17,506	72.3	19,182	78.9	20,035	82.1	1,441	1,409	1,946	1,583	1,985	1,858	1,662	1,455	1,702	1,694	1,846	1,454
泌尿・性器	394	1.6	290	1.2	237	1.0	15	6	37	12	33	36	13	18	25	18	6	18
心臓・血管	4,486	18.5	4,466	18.4	3,564	14.6	285	365	383	310	321	227	342	301	181	254	280	315
骨	6,196	25.6	5,613	23.1	6,355	26.0	522	551	582	527	636	517	524	482	543	514	432	525
その他	16,376	67.7	24,138	99.3	24,243	99.4	2,102	1,989	1,960	1,834	2,166	2,093	2,213	2,046	1,886	1,770	2,104	2,080
単方	74,689	308.7	73,078	300.7	70,938	290.7	6,105	5,663	6,014	5,390	6,312	5,876	6,380	5,945	5,712	5,534	5,672	6,335
造影	26,111	107.9	27,328	112.5	27,128	111.2	2,083	2,044	2,643	2,163	2,628	2,436	2,243	2,059	2,200	2,151	2,423	2,055
特別	526	2.2	574	2.4	689	2.8	42	53	51	53	71	66	72	63	44	60	56	58

第10表 超音波断層撮影件数

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同左内訳											
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総数	5,009	20.7	3,595	14.8	3,621	14.8	326	272	304	309	271	303	296	313	305	285	336
甲状腺	948	3.9	588	2.4	659	2.7	42	30	61	40	68	61	63	57	61	53	72	51
乳腺	836	3.5	775	3.2	682	2.8	53	49	59	53	58	66	65	63	59	52	46	59
腹部	1,721	7.1	1,681	6.9	1,886	7.7	160	129	164	163	127	149	164	166	157	150	195	162
その他	1,504	6.2	551	2.3	394	1.6	71	64	20	53	18	27	4	27	28	30	23	29

第11表 アイソトープ検査件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳											
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総	1,234	5.1	1,157	4.8	1,052	4.3	69	84	95	68	110	89	88	81	87	97	105	79
脳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
液	34	0.1	11	0.0	1	0.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
線	8	0.0	2	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腺	6	0.0	8	0.0	11	0.0	4	0	0	2	0	0	0	2	0	1	2	0
肺	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腎	26	0.1	18	0.1	8	0.0	0	2	2	0	0	2	0	0	2	0	0	0
副	853	3.5	796	3.3	693	2.8	45	59	64	42	83	57	58	49	52	62	70	52
骨	0	0.0	1	0.0	1	0.0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
腫	6	0.0	2	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
瘍	285	1.2	308	1.3	327	1.3	17	23	29	24	26	29	29	28	33	32	32	25
探	0	0.0	0	0.0	3	0.0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
索	15	0.1	11	0.0	1	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
他	1	0.0	0	0.0	7	0.0	2	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1
その他																		

第12表 放射線照射回数(治療-取扱件数)

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳											
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総	62,784	259.4	63,188	260.0	59,532	244.0	5,116	4,619	5,479	4,708	4,826	4,590	4,859	5,387	5,440	4,052	5,919	4,537
放射線物質	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小線源	85	0.4	95	0.4	58	0.2	4	3	6	0	0	0	4	14	8	9	3	7
遠隔大量照射	23	0.1	19	0.1	26	0.1	3	2	2	2	3	2	1	2	3	2	2	2
リニアック	58,039	239.8	58,320	240.0	54,732	224.3	4,730	4,252	5,060	4,344	4,391	4,186	4,457	4,970	5,050	3,644	5,525	4,123
C T	1,067	4.4	981	4.0	902	3.7	61	85	71	69	73	73	75	76	69	95	75	80
M R I	3,377	14.0	3,577	14.7	3,610	14.8	306	265	321	276	341	305	303	300	295	281	301	316
その他	193	0.8	196	0.8	204	0.8	12	12	19	17	18	24	19	25	15	21	13	9

第13表 臨床検査状況（一般検査件数）

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳											
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総数	2,923,804	12,081.8	2,807,313	11,552.7	2,834,104	11,615.2	217,735	231,513	241,039	229,177	254,799	240,744	240,668	237,884	227,046	226,216	236,788
尿検査	27,821	115.0	27,733	114.1	27,479	112.6	2,341	2,487	2,290	2,267	2,847	2,142	2,082	2,108	2,078	2,009	2,273	2,555
粪便検査	720	3.0	747	3.1	672	2.8	41	74	92	37	37	52	59	44	47	55	63	71
血液学的検査	1,021,237	4,220.0	919,789	3,785.1	900,539	3,690.7	56,383	75,239	77,928	73,916	82,455	77,652	77,160	76,281	73,210	72,949	76,074	81,292
生化学的検査	1,470,775	6,077.6	1,453,125	5,979.9	1,487,296	6,095.5	124,172	120,439	125,265	119,500	132,436	125,625	125,955	124,266	118,202	117,986	123,215	130,235
細菌学検査	15,065	62.3	16,309	67.1	16,115	66.0	1,198	1,419	1,419	1,333	1,641	1,740	1,162	1,025	1,211	1,245	1,295	1,427
(再掲：監視培養検査)	792	3.3	905	3.7	1,003	4.1	83	82	94	68	103	99	85	77	69	73	84	86
血清学的検査	190,445	787.0	193,101	794.7	203,517	834.1	17,082	16,402	17,042	16,228	17,720	16,936	17,417	17,060	16,449	16,476	17,176	17,529
(再掲：アイトープ使用)	1,745	7.2	1,740	7.2	892	3.7	174	151	147	160	101	0	0	0	0	0	0	159
病理学検査	7,897	32.6	7,853	32.3	8,047	33.0	682	586	703	651	729	667	658	679	672	601	684	735
依頼検査	482	2.0	450	1.9	479	2.0	35	52	58	33	33	40	41	34	30	31	53	39
遺伝子検査	1,547	6.4	1,580	6.5	1,877	7.7	160	138	177	132	171	160	176	142	150	130	176	165
細胞学的検査	7,568	31.3	7,345	30.2	7,253	29.7	673	520	669	596	690	596	656	593	573	505	528	654
採血業務	176,977	731.3	173,633	714.5	177,633	728.0	14,712	13,902	15,112	14,262	15,723	14,831	15,012	15,344	14,192	13,975	14,985	15,583
その他(治験処理等)	3,270	13.5	3,003	12.4	3,197	13.1	256	255	284	222	317	303	290	308	232	254	266	210

第14表 臨床検査状況（機能検査件数）

区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳											
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総数	22,089	91.3	22,076	90.8	23,630	96.8	1,700	1,808	1,896	1,932	2,365	2,205	2,089	1,966	1,825	1,884	1,920
心電図検査	5,593	23.1	5,735	23.6	6,244	25.6	439	458	505	516	588	578	532	568	512	508	506	534
負荷心電図	1,908	7.9	1,864	7.7	1,891	7.8	153	154	152	141	181	163	132	162	152	157	161	183
トレットミルテスト	696	2.9	705	2.9	836	3.4	68	50	69	64	88	85	82	61	62	70	64	73
ホルター心電図検査	359	1.5	381	1.6	411	1.7	32	28	36	34	44	39	54	26	27	33	22	36
心臓超音波検査	1,951	8.1	2,221	9.1	2,430	10.0	183	186	190	209	232	223	200	203	198	207	196	203
肺機能検査	6,645	27.5	6,569	27.0	6,893	28.3	503	541	575	565	673	590	581	580	562	537	562	624
ピロリ菌呼吸試験	84	0.3	81	0.3	90	0.4	5	10	5	11	5	13	5	9	6	8	5	8
聴力純音検査	119	0.5	102	0.4	156	0.6	17	17	11	12	14	14	24	8	9	11	8	11
乳腺超音波検査	796	3.3	719	3.0	664	2.7	53	43	56	50	56	60	75	58	60	50	45	58
骨塩定量検査	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の検査	5	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液ガス検査	3,933	16.3	3,699	15.2	4,015	16.5	247	321	297	330	484	440	404	291	237	303	351	310

(注) その他の検査：ペクトル心電図検査、心音図検査、心拍出量検査、脳波検査を含む

第15表 臨床検査状況（内視鏡検査件数）

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳											
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総数	8,740	36.1	8,515	35.0	8,514	34.9	698	638	767	742	703	717	656	783	709	689	668
上部消化管	4,779	19.7	4,820	19.8	4,894	20.1	396	383	442	418	399	429	361	465	406	400	370	425
下部消化管	2,717	11.2	2,540	10.5	2,274	9.3	192	180	231	203	199	167	184	201	197	165	178	177
気管支	151	0.6	159	0.7	177	0.7	15	5	15	21	12	11	10	11	21	20	14	22
膽管造影(ERCP)	157	0.6	90	0.4	136	0.6	10	10	6	12	13	15	12	6	9	13	9	21
超音波内視鏡(EUS)	664	2.7	640	2.6	694	2.8	55	40	48	66	52	69	55	65	52	59	64	69
超音波内視鏡下穿刺生検(EUS-FNBAB)	272	1.1	266	1.1	339	1.4	30	20	25	22	28	26	34	35	24	32	33	30

第16表 薬剤業務状況

区 分	同 左 内 訳												平成23年度		平成22年度		平成21年度								
	処 方	枚 数	外 来 入 院	総 数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総 数	1日平均	総 数	1日平均	総 数	1日平均		
																								総数	1日平均
処 方	総 数	75,118	310.4	75,173	309.4	76,266	312.6	76,266	312.6	76,266	312.6	76,266	312.6	76,266	312.6	76,266	312.6	76,266	312.6	76,266	312.6	76,266	312.6	76,266	312.6
	外 来 入 院	9,211	38.1	8,574	35.3	9,358	38.4	9,358	38.4	9,358	38.4	9,358	38.4	9,358	38.4	9,358	38.4	9,358	38.4	9,358	38.4	9,358	38.4	9,358	38.4
	入 院	65,907	272.3	66,599	274.1	66,908	274.2	66,908	274.2	66,908	274.2	66,908	274.2	66,908	274.2	66,908	274.2	66,908	274.2	66,908	274.2	66,908	274.2	66,908	274.2
方	総 数	135,593	560.3	137,542	566.0	140,961	577.7	140,961	577.7	140,961	577.7	140,961	577.7	140,961	577.7	140,961	577.7	140,961	577.7	140,961	577.7	140,961	577.7	140,961	577.7
	外 来 入 院	21,882	90.4	19,499	80.2	21,893	89.7	21,893	89.7	21,893	89.7	21,893	89.7	21,893	89.7	21,893	89.7	21,893	89.7	21,893	89.7	21,893	89.7	21,893	89.7
	入 院	113,711	469.9	118,043	485.8	119,068	488.0	119,068	488.0	119,068	488.0	119,068	488.0	119,068	488.0	119,068	488.0	119,068	488.0	119,068	488.0	119,068	488.0	119,068	488.0
延 剤	総 数	1,374,632	5,680.3	1,086,309	4,470.4	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6	1,134,997	4,651.6
	外 来 入 院	399,375	1,650.3	292,969	1,205.6	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8	343,264	1,406.8
	入 院	975,257	4,030.0	793,340	3,264.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8	791,733	3,244.8
治 験 処 方 枚	総 数	886	3.5	1,002	4.1	846	3.5	846	3.5	846	3.5	846	3.5	846	3.5	846	3.5	846	3.5	846	3.5	846	3.5	846	3.5
	外 来 入 院	779	3.2	859	3.5	810	3.3	810	3.3	810	3.3	810	3.3	810	3.3	810	3.3	810	3.3	810	3.3	810	3.3	810	3.3
	入 院	57	0.2	143	0.6	36	0.1	36	0.1	36	0.1	36	0.1	36	0.1	36	0.1	36	0.1	36	0.1	36	0.1	36	0.1
枚 注 射 剤	総 数	110,407	456.2	104,899	431.7	106,884	438.0	106,884	438.0	106,884	438.0	106,884	438.0	106,884	438.0	106,884	438.0	106,884	438.0	106,884	438.0	106,884	438.0	106,884	438.0
	外 来 入 院	22,239	91.9	22,330	91.9	24,094	98.7	24,094	98.7	24,094	98.7	24,094	98.7	24,094	98.7	24,094	98.7	24,094	98.7	24,094	98.7	24,094	98.7	24,094	98.7
	入 院	88,168	364.3	82,569	339.8	82,770	339.2	82,770	339.2	82,770	339.2	82,770	339.2	82,770	339.2	82,770	339.2	82,770	339.2	82,770	339.2	82,770	339.2	82,770	339.2
射 剤	総 数	519,211	2,145.5	478,858	1,970.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6	502,783	2,060.6
	外 来 入 院	68,023	281.1	64,344	264.8	70,652	289.6	70,652	289.6	70,652	289.6	70,652	289.6	70,652	289.6	70,652	289.6	70,652	289.6	70,652	289.6	70,652	289.6	70,652	289.6
	入 院	451,188	1,864.4	414,514	1,705.8	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0	432,131	1,771.0
薬 指 導	人 数	1,912	7.9	2,397	9.9	2,805	11.5	2,805	11.5	2,805	11.5	2,805	11.5	2,805	11.5	2,805	11.5	2,805	11.5	2,805	11.5	2,805	11.5	2,805	11.5
	算 定 件 数	2,018	8.3	2,640	10.9	3,142	12.9	3,142	12.9	3,142	12.9	3,142	12.9	3,142	12.9	3,142	12.9	3,142	12.9	3,142	12.9	3,142	12.9	3,142	12.9
外 来 調 製	調 製 件 数 (患 者 数)	14,475	59.8	14,453	59.5	15,510	63.6	15,510	63.6	15,510	63.6	15,510	63.6	15,510	63.6	15,510	63.6	15,510	63.6	15,510	63.6	15,510	63.6	15,510	63.6
	調 製 本 数 (剤 数)	22,766	94.1	21,888	90.1	24,058	98.6	24,058	98.6	24,058	98.6	24,058	98.6	24,058	98.6	24,058	98.6	24,058	98.6	24,058	98.6	24,058	98.6	24,058	98.6
外 来 調 製	調 製 件 数 (患 者 数)	1,315	5.4	685	2.8	1,220	5.0	1,220	5.0	1,220	5.0	1,220	5.0	1,220	5.0	1,220	5.0	1,220	5.0	1,220	5.0	1,220	5.0	1,220	5.0
	調 製 本 数 (剤 数)	1,706	7.0	888	3.7	1,695	6.9	1,695	6.9	1,695	6.9	1,695	6.9	1,695	6.9	1,695	6.9	1,695	6.9	1,695	6.9	1,695	6.9	1,695	6.9
入 院 調 製	調 製 件 数 (患 者 数)	2,351	9.7	8,844	36.4	9,189	37.7	9,189	37.7	9,189	37.7	9,189	37.7	9,189	37.7	9,189	37.7	9,189	37.7	9,189	37.7	9,189	37.7	9,189	37.7
	調 製 本 数 (剤 数)	3,286	13.6	11,866	48.8	12,536	51.4	12,536	51.4	12,536	51.4	12,536	51.4	12,536	51.4	12,536	51.4	12,536	51.4	12,536	51.4	12,536	51.4	12,536	51.4
麻 薬 処 方	人 数	6,916	28.6	8,257	33.9	7,590	31.1	7,590	31.1	7,590	31.1	7,590	31.1	7,590	31.1	7,590	31.1	7,590	31.1	7,590	31.1	7,590	31.1	7,590	31.1
	せ ん 枚 数	13,232	54.7	16,107	66.3	19,086	78.2	19,086	78.2	19,086	78.2	19,086	78.2	19,086	78.2	19,086	78.2	19,086	78.2	19,086	78.2	19,086	78.2	19,086	78.2
T D M	実 施 件 数	59	0.2	62	0.3	89	0.4	89	0.4	89	0.4	89	0.4	89	0.4	89	0.4	89	0.4	89	0.4	89	0.4	89	0.4

* 1 外来抗がん剤調製数は、薬剤師が調製した分のみを計上

* 2 外来抗がん剤調製数(治験)は、薬剤師が調製した分のみを計上

* 3 入院抗がん剤調製数(治験を含む)は、薬剤師が調製した分のみを計上

第17表 輸血状況
1 血液使用量

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳												
	総数	1月平均	総数	1月平均	総数	1月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	自己血液	385	32.1	325	27.1	288	24.0	10	12	32	20	26	30	24	36	28	22	24	24
全血	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
赤血球製剤	2	0.17	16	1.3	58	4.8	2	2	2	4	2	24	4	4	2	6	4	2	2
赤血球濃厚液	5,578	464.8	5,396	449.7	5,590	465.8	516	572	426	550	602	500	480	358	428	344	402	412	412
凍結血漿	934	77.8	684	57.0	1,259	104.9	60	94	128	235	170	140	126	70	30	85	72	49	49
血小 板	16,565	1,380.4	15,395	1282.9	13,100	1091.7	1,530	1,440	990	1,260	1,055	1,070	1,025	1,255	990	695	965	825	825

2 検査件数

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳												
	総数	1月平均	総数	1月平均	総数	1月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	クロスマッチ血液型	3,425	285.4	3,195	266.3	3,299	274.9	287	326	248	323	344	322	300	213	245	245	235	211
RH因子	3,314	276.2	3,554	296.2	3,656	304.7	313	275	282	299	339	332	286	314	321	281	303	311	311
間接クームス検査	3,314	276.2	3,554	296.2	3,656	304.7	313	275	282	299	339	332	286	314	321	281	303	311	311
抗体スクリーニング	9,616	801.3	9,198	766.5	9,576	798.0	836	846	744	834	958	888	788	732	741	738	756	715	715
直接クームス試験	6,181	515.1	5,981	498.4	6,259	521.6	548	519	495	510	613	561	488	516	495	491	520	503	503
	17	1.4	27	2.3	19	1.6	1	1	2	1	1	5	0	3	1	2	1	1	1

第18表 患者給食数(配膳延人数)

区	分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳											
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総	数	115,668	100.0	121,252	100.0	116,994	100.0	10,358	9,286	9,459	9,835	10,463	10,075	9,727	9,830	10,075	8,842	9,576	9,468
	常食	67,065	58.1	69,042	57.0	64,195	54.9	5,604	4,908	5,348	5,394	5,768	5,379	5,314	5,690	5,768	4,940	5,142	4,940
	全粥	16,455	14.2	17,584	14.5	15,427	13.2	1,561	1,112	1,043	1,454	1,407	1,513	1,275	1,199	1,217	1,059	1,236	1,351
	軟食	2,779	2.4	2,703	2.2	2,528	2.2	188	212	189	231	218	216	271	232	195	169	203	204
	7分粥	2,946	2.5	1,878	1.5	1,861	1.6	132	147	134	235	189	100	106	137	255	128	158	140
	5分粥	3,659	3.2	4,299	3.5	3,827	3.3	471	341	381	249	254	298	280	323	350	355	283	242
	3分粥	3,810	3.3	3,876	3.2	3,571	3.0	201	214	282	338	306	304	393	357	296	248	358	274
	流動食	1,907	1.6	1,881	1.6	2,019	1.7	204	140	201	150	194	168	146	158	135	137	183	203
	加算食	7,335	6.3	7,733	6.4	8,718	7.4	742	875	657	650	805	697	764	627	630	675	723	873
	非加算食	9,712	8.4	12,256	10.1	14,848	12.7	1,255	1,337	1,224	1,134	1,322	1,400	1,178	1,107	1,229	1,131	1,290	1,241

第19表 患者給食1人1日平均栄養量(常食)

区	分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳											
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
熱	総数	1,856	100.0	1,914	100.0	1,887	100.0	1,835	1,845	2,142	1,841	1,842	2,142	1,829	1,817	1,838	1,845	1,840	1,831
	穀類	922	49.7	952	49.7	937	49.6	907	909	1,064	912	914	1,064	917	910	910	909	914	909
	動物性食品	472	25.4	486	25.4	480	25.5	467	478	545	467	459	545	466	461	468	478	467	463
	その他	462	24.9	476	24.9	470	24.9	461	459	533	462	469	533	446	445	460	458	460	459
蛋白質	総数	73.4	100.0	75.7	100.0	74.8	100.0	72.6	73.8	84.7	73.0	72.5	84.7	72.3	71.5	72.9	73.7	73.0	72.4
	穀類	18.0	24.6	18.6	24.6	18.4	24.5	17.7	17.8	20.8	17.9	17.9	20.8	17.9	17.8	17.8	17.8	17.9	17.8
	動物性食品	40.2	54.8	41.4	54.7	40.9	54.8	39.8	40.7	46.4	40.0	38.9	46.4	40.0	39.1	40.1	40.7	40.0	39.5
	その他	15.2	20.6	15.7	20.7	15.5	20.7	15.1	15.3	17.5	15.1	15.7	17.5	14.4	14.6	15.1	15.3	15.2	15.1

第20表 患者給食1人1日平均材料費(常食)

区	分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		同 左 内 訳											
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
材料費	総数	747.66	100.0	774.11	100.0	804.66	100.0	735.80	789.42	760.84	746.53	725.66	745.01	846.75	811.27	795.50	954.16	842.17	902.84
	穀類	94.47	12.6	97.43	12.6	96.10	11.9	93.68	93.68	109.10	93.78	93.99	109.10	91.68	93.54	93.66	93.68	93.43	93.87
	動物性食品	270.52	36.2	279.42	36.1	275.16	34.2	264.08	269.15	312.71	268.74	267.98	312.71	270.55	263.43	265.85	269.15	269.70	267.88
	その他	382.68	51.2	397.26	51.3	433.40	53.9	378.04	426.59	339.03	384.01	363.69	323.20	484.52	454.30	435.99	591.33	479.04	541.09
1円当たり熱量(Kcal)	総数	2	-	2	-	2	-	2	2	3	2	3	3	2	2	2	2	2	2

第3部 研究所業務関係

第1表 解剖件数

区分	同左内訳														
	平成21年度 総数	平成22年度 総数	平成23年度 総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
死亡患者数	442	455	470	35	29	31	35	46	52	39	36	44	48	34	41
解剖数	11	5	17	2	1	3	2	1	1	0	1	2	1	2	1
解剖率	2.5	1.1	3.6	5.7	3.4	9.7	5.7	2.2	1.9	0.0	2.8	4.5	2.1	5.9	2.4

第2表 放射性同位元素 (RI) 使用状況 (単位 MBq)

区分	同左内訳														
	平成21年度 総数	平成22年度 総数	平成23年度 総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	733.34	871.56	888.05	151.92	110.12	179.87	33.52	40.60	51.85	82.29	39.41	35.55	65.77	29.97	47.18
3H (水素)	47.29	0.00	13.69	0.00	0.37	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	9.62	0.00	3.70
14C (炭素)	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
32P (リン)	174.23	146.55	242.11	82.76	47.79	49.58	5.33	0.00	0.00	44.62	12.03	0.00	0.00	0.00	0.00
33P (リン)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
35S (硫黄)	33.53	18.50	55.50	18.50	0.00	37.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
51Cr (クロム)	478.29	706.50	556.74	50.66	61.96	93.29	28.19	40.60	51.85	37.67	27.38	35.55	56.15	29.96	43.48
125I (ヨウ素)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
90Y (イットリウム)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
111In (インジウム)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

第3表 主な共同利用機器使用件数

区分	同左内訳														
	平成21年度 総数	平成22年度 総数	平成23年度 総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
蛍光顕微鏡	27	21	11	0	0	0	0	0	0	1	3	1	2	2	1
共焦点レーザー顕微鏡	412	494	324	21	23	23	27	36	19	23	23	27	27	20	40
細胞解析装置 FACS Calibur	1,079	1,031	1,204	62	66	89	97	116	137	96	111	128	85	112	105
遺伝子発現定量装置 ライトサイクラー	312	521	329	31	28	41	36	17	24	15	19	35	37	21	25
CCD写真撮影装置	2,163	1,745	1,828	229	169	148	128	181	134	127	187	128	86	146	165
超遠心機	156	173	108	10	11	7	12	10	4	7	10	5	10	17	5
超遠心機(卓上型)	23	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
X線フィルム自動現像機	1,602	1,638	1,828	109	128	150	134	182	166	161	151	154	180	156	157
DNAシーケンサ	13,748	13,506	8,682	860	627	530	548	996	881	1,054	970	776	501	521	418
RI画像解析装置 BAS-2500	61	106	73	21	15	14	4	2	3	1	2	3	2	2	4
RI画像解析装置 ションカウンター	57	9	5	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
液体シンチレーションカウンタ	101	91	20	4	1	1	1	1	1	2	1	4	2	1	1
オートガンマー	523	561	585	36	50	60	60	58	54	33	44	44	51	46	49
実験用X線照射装置	21	28	20	2	1	0	0	2	3	3	2	3	1	1	2
化学発光画像解析装置 Image Master-CL	26	35	17	2	4	0	1	2	2	0	0	2	1	1	2
蛍光画像解析装置 Fluor Imager 595	265	290	176	13	16	30	15	21	15	6	11	16	9	15	9
旋回培養器	12	12	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
走査電子顕微鏡	23	27	24	1	2	2	2	2	3	1	2	3	2	2	2
Biacor X	105	95	111	3	7	7	4	18	20	12	13	13	6	8	8
大型プリンター	40	59	47	3	4	2	4	4	4	2	4	6	4	4	6
スライド作製装置															

第4表 実験動物管理状況（月別動物飼育数）（平成23年度）

区分	（各月第1週における動物数）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	1,139	1,096	1,090	1,117	1,263	1,164	1,164	1,188	1,206	1,217	1,232	1,299
マウス	1,139	1,096	1,089	1,116	1,263	1,164	1,164	1,188	1,202	1,207	1,222	1,289
ラット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スナネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ	0	0	1	1	0	0	0	0	4	10	10	10

第5表 実験動物管理状況（系統保存動物）

マウス：CHST-2.4-DKO, FUT4.7-DKO, Cmah-KO（分子病態学部）
 C57BL/6トランスジェニック miR-146a, C57BL/6トランスジェニック miR-193b（腫瘍病理学部）
 C57/BL6.1CR, ノックアウトマウス（Vimentin^{SAS/SA}, Trichoplein^{LacZ/LacZ}）（発がん制御研究部）
 B6-Ly5.1（遺伝子医療研究部）
 Ballb/c-Rag2^{-/-}/JAK3^{-/-}, C57BL/b（腫瘍免疫学部）

第4部 がん患者登録・追跡調査関係

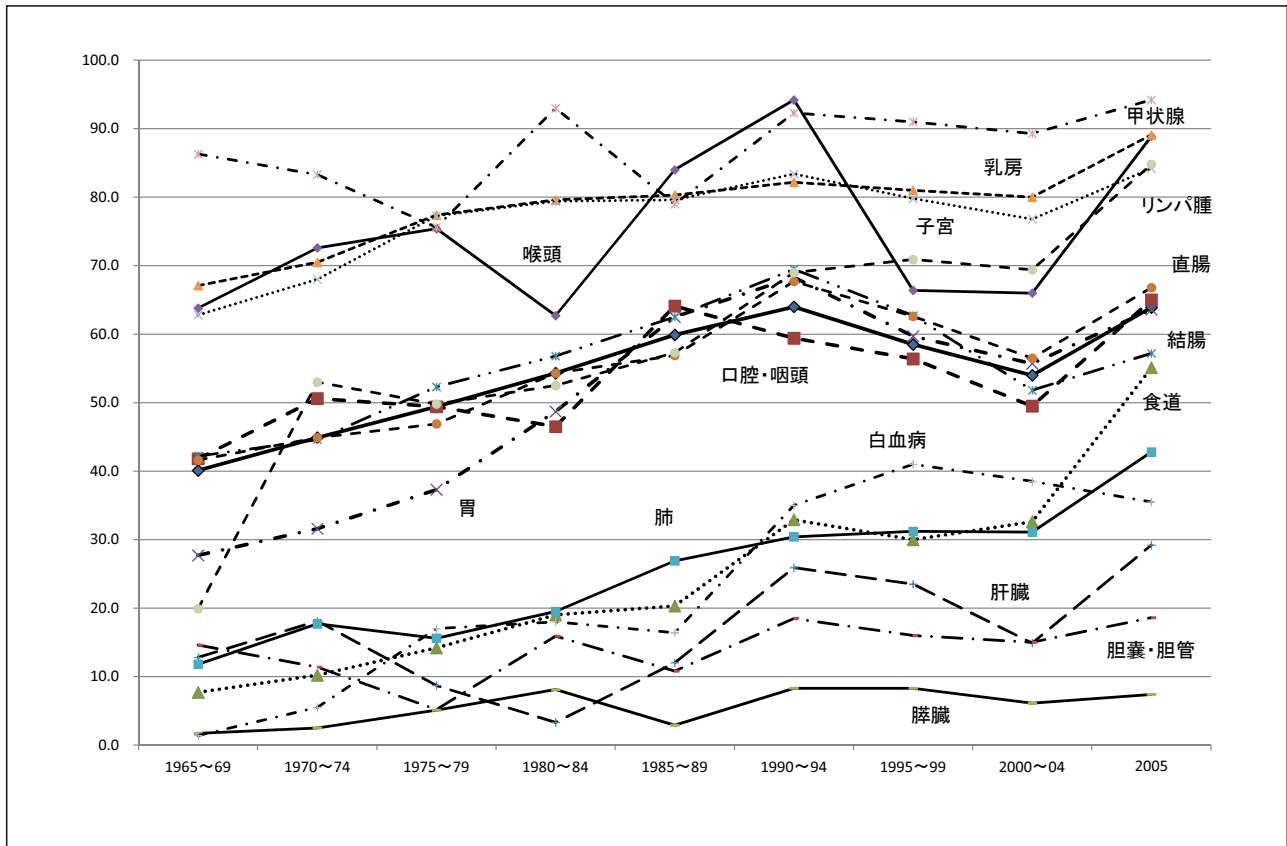
主要部位別・性別 がん患者相対生存率

診断年		5年生存率								
		1965～69	1970～74	1975～79	1980～84	1985～89	1990～94	1995～99	2000～04	2005
症例数		7,624	7,726	6,788	6,839	6,944	6,819	8,017	10,746	2571
全部位	男	29.5	32.6	34.8	39.8	47.3	52.1	47.5	44.1	56.5
	女	49.3	54.5	60.6	65.1	68.9	73.2	69.0	64.2	71.3
	計	40.1	44.9	49.4	54.3	59.9	64.0	58.5	54.0	63.9
症例数		288	290	224	207	285	340	535	780	199
口腔・咽頭	男	38.3	48.0	44.5	42.5	60.4	52.7	55.3	47.9	63.4
	女	49.1	54.4	58.8	56.0	70.8	76.8	59.1	53.3	69.3
	計	41.8	50.6	49.4	46.5	64.1	59.4	56.4	49.5	65.0
症例数		212	234	203	212	177	234	290	574	163
食道	男	6.4	8.6	14.0	18.4	20.0	30.7	27.0	33.0	55.8
	女	12.6	16.9	15.2	21.2	22.9	47.7	50.0	30.0	52.4
	計	7.7	10.2	14.2	19.0	20.3	32.9	30.0	32.6	55.1
症例数		2,516	2,040	1,735	1,558	1,423	1,212	1,260	1,369	325
胃	男	29.7	33.7	38.2	51.0	64.1	67.5	59.4	56.3	65.5
	女	23.7	27.6	35.9	44.9	59.6	70.0	60.4	54.3	59.3
	計	27.7	31.6	37.3	48.7	62.5	68.3	59.7	55.7	63.6
症例数		125	176	218	300	368	490	574	730	169
結腸	男	44.4	43.5	51.3	56.1	62.5	71.1	63.1	53.1	62.7
	女	38.7	45.9	53.6	57.7	62.5	67.6	62.2	50.3	53.0
	計	42.2	44.6	52.3	56.8	62.5	69.5	62.7	51.8	57.2
症例数		305	325	365	365	336	362	377	513	168
直腸	男	41.3	43.0	45.2	50.2	55.5	68.8	58.3	55.4	62.6
	女	42.1	47.0	50.0	60.5	59.3	65.8	69.1	58.4	72.4
	計	41.6	44.9	46.9	54.3	56.9	67.7	62.6	56.5	66.8
症例数		105	131	95	133	174	220	311	309	79
肝臓	男	10.1	16.6	7.3	4.0	12.0	25.1	21.3	16.1	30.2
	女	21.5	24.4	13.3	0.0	12.2	28.3	30.6	10.4	26.7
	計	12.8	18.1	8.7	3.3	12.0	25.9	23.5	14.9	29.2
症例数		45	74	41	76	76	68	25	60	29
胆嚢・胆管	男	5.4	11.4	7.2	21.9	16.5	23.6	33.3	7.4	25.4
	女	22.5	11.5	4.1	11.8	7.0	12.9	6.3	21.2	13.2
	計	14.6	11.4	5.2	15.9	10.8	18.5	16.0	15.0	18.6
症例数		59	90	97	93	92	105	157	313	101
膵臓	男	0.0	4.0	5.4	7.6	2.7	10.0	8.6	5.4	3.2
	女	4.5	0.0	4.8	9.7	3.1	5.6	7.7	7.3	15.5
	計	1.7	2.5	5.1	8.1	2.9	8.3	8.3	6.1	7.4
症例数		198	210	117	92	87	91	116	141	22
喉頭	男	63.6	71.4	78.9	65.1	83.6	93.8	67.0	65.4	88.9
	女	64.9	88.1	28.1	20.8	91.3	100.0	50.0	72.7	-
	計	63.8	72.6	75.4	62.7	84.0	94.2	66.4	66.0	88.9
症例数		549	654	628	723	765	792	1,164	1,548	343
肺	男	10.6	18.2	13.4	19.9	24.5	28.7	27.4	24.9	39.1
	女	15.1	16.0	21.2	18.3	33.7	35.1	40.7	44.3	50.5
	計	11.8	17.7	15.6	19.5	26.9	30.4	31.2	31.1	42.8
症例数		924	1,107	1,089	1,538	1,644	1,392	1,616	1,659	355
乳房	男	94.6	90.1	100.0	72.8	96.6	99.8	50.0	100.0	-
	女	67.0	70.4	77.3	79.6	80.3	82.1	81.0	79.9	89.1
	計	67.1	70.5	77.4	79.6	80.3	82.2	81.0	80.0	89.1
症例数		1,342	1,393	1,103	791	716	789	615	768	189
子宮	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	62.8	68.0	77.3	79.4	79.6	83.4	79.8	76.8	84.2
	計	62.8	68.0	77.3	79.4	79.6	83.4	79.8	76.8	84.2
症例数		88	120	111	96	107	139	145	224	45
甲状腺	男	92.3	71.1	62.3	80.9	63.3	92.4	83.3	77.5	96.2
	女	84.2	87.0	80.4	96.4	84.2	92.3	93.6	91.8	93.1
	計	86.3	83.3	75.6	93.0	79.0	92.3	91.0	89.3	94.2
症例数		32	43	65	150	212	187	289	458	97
リンパ腫	男	16.7	52.6	51.1	56.2	55.9	63.4	66.1	61.5	83.0
	女	25.4	53.8	47.6	46.0	55.9	76.8	78.3	78.5	86.5
	計	19.9	53.0	49.8	52.5	57.3	69.0	70.9	69.4	84.8
症例数		78	74	54	68	40	33	61	52	24
白血病	男	2.2	4.9	13.5	21.4	19.1	36.9	37.1	34.6	13.6
	女	0.0	6.2	21.4	13.6	12.7	32.2	46.2	42.3	76.4
	計	1.4	5.5	17.0	18.0	16.4	35.0	41.0	38.5	35.5

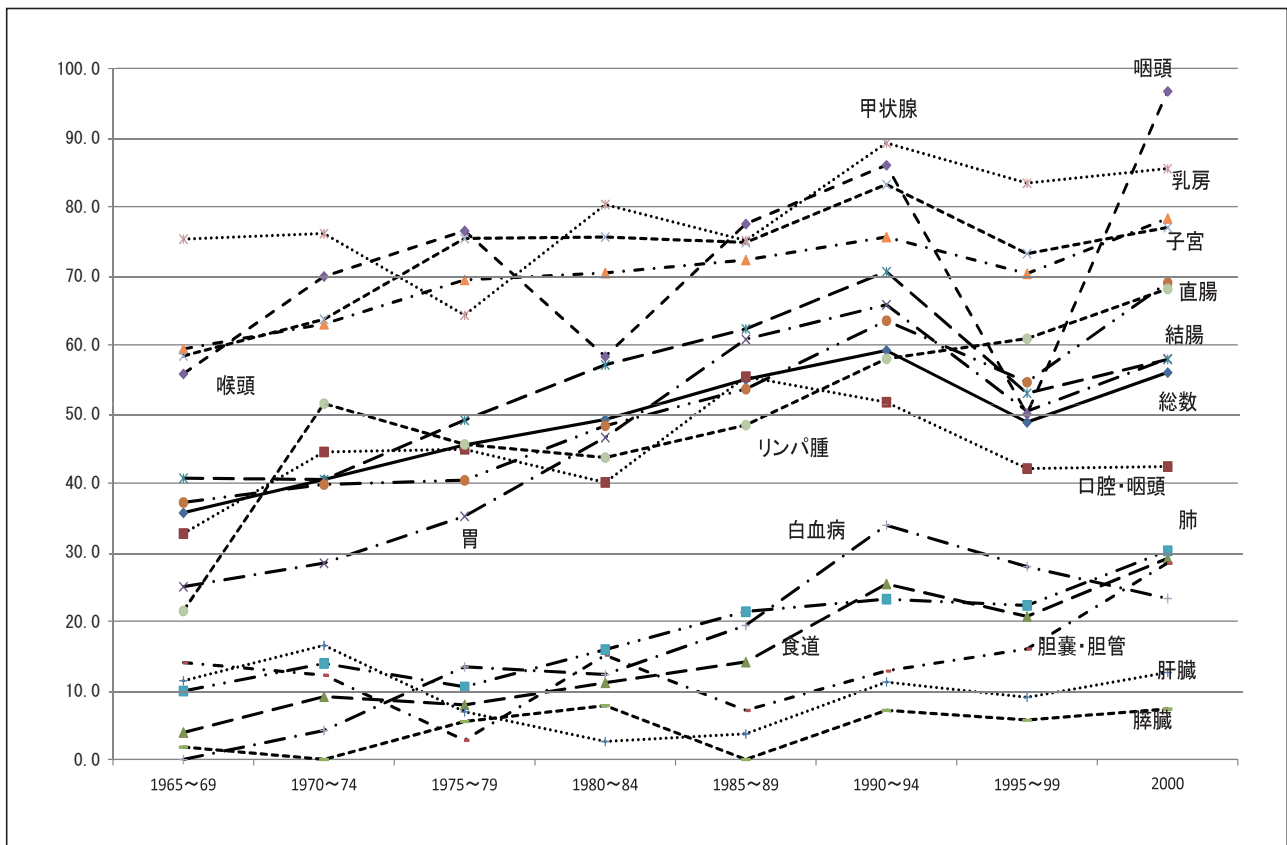
診断年		10年生存率							
		1965~69	1970~74	1975~79	1980~84	1985~89	1990~94	1995~99	2000
症例数		7,624	7,726	6,788	6,839	6,944	6,819	8,017	1,819
全部位	男	25.8	28.7	31.2	36.4	43.7	46.5	36.3	45.1
	女	44.3	49.7	56.4	58.8	63.1	69.0	60.4	64.6
	計	35.7	40.5	45.5	49.2	55.0	59.2	48.8	56.0
症例数		288	290	224	207	285	340	535	143
口腔・咽頭	男	28.0	39.8	39.4	40.1	51.5	47.3	40.4	39.1
	女	42.2	51.3	55.2	40.6	62.6	63.3	45.7	50.3
	計	32.7	44.5	44.9	40.1	55.4	51.7	42.1	42.4
症例数		212	234	203	212	177	234	290	71
食道	男	3.3	8.2	7.2	11.1	12.5	22.5	17.9	32.0
	女	6.3	12.9	12.2	11.4	24.5	43.7	39.5	11.9
	計	3.9	9.1	7.9	11.1	14.1	25.4	20.7	29.1
症例数		2,516	2,040	1,735	1,558	1,423	1,212	1,260	261
胃	男	27.3	30.2	36.5	48.9	63.4	64.9	48.4	58.7
	女	20.6	25.1	33.0	42.7	56.4	67.4	54.8	56.8
	計	25.0	28.4	35.2	46.6	60.8	65.8	50.4	58.0
症例数		125	176	218	300	368	490	574	123
結腸	男	41.9	39.1	46.1	57.3	62.9	73.3	52.1	66.0
	女	38.9	42.4	53.2	56.9	61.4	67.3	54.2	50.8
	計	40.7	40.5	49.1	57.1	62.3	70.6	53.0	57.9
症例数		305	325	365	365	336	362	377	64
直腸	男	37.2	39.1	38.6	45.2	54.7	63.5	52.0	56.0
	女	37.1	40.6	43.6	53.0	52.1	63.0	58.8	86.1
	計	37.2	39.8	40.4	48.3	53.6	63.5	54.6	69.0
症例数		105	131	95	133	174	220	311	60
肝臓	男	7.2	13.9	6.1	3.2	3.6	9.8	7.9	11.9
	女	24.1	26.7	9.2	0.0	4.5	15.4	12.5	14.3
	計	11.4	16.5	6.9	2.6	3.7	11.2	9.0	12.6
症例数		45	74	41	76	76	68	25	24
胆嚢・胆管	男	6.5	11.9	0.0	22.9	5.2	18.4	33.3	22.4
	女	20.6	12.6	4.4	9.9	7.2	6.6	6.3	34.7
	計	14.0	12.2	2.8	15.1	7.1	12.8	16.0	28.4
症例数		59	90	97	93	92	105	157	48
膵臓	男	0.0	0.0	4.3	6.6	0.0	7.8	4.8	4.1
	女	4.6	0.0	10.6	11.7	0.0	5.9	7.7	12.0
	計	1.8	0.0	5.5	7.8	0.0	7.1	5.7	7.3
症例数		198	210	117	92	87	91	116	27
喉頭	男	56.0	69.0	80.8	60.4	78.0	84.9	50.0	96.7
	女	54.6	82.9	15.6	21.7	64.2	100.0	50.0	-
	計	55.8	69.9	76.5	58.3	77.5	86.0	50.0	96.7
症例数		549	654	628	723	765	792	1,164	272
肺	男	8.9	14.5	8.1	16.5	19.3	21.4	19.1	22.2
	女	12.9	12.1	16.8	14.2	27.3	28.1	30.4	44.5
	計	9.9	13.9	10.5	15.9	21.4	23.2	22.3	30.2
症例数		924	1,107	1,089	1,538	1,644	1,392	1,616	338
乳房	男	87.4	100.0	74.4	57.6	95.2	99.8	0.0	-
	女	59.4	62.8	69.4	70.4	72.2	75.5	70.4	78.3
	計	59.4	63.0	69.4	70.4	72.3	75.6	70.3	78.3
症例数		1,342	1,393	1,103	791	716	789	615	135
子宮	男	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	58.4	63.7	75.4	75.6	74.8	83.2	73.2	77.0
	計	58.4	63.7	75.4	75.6	74.8	83.2	73.2	77.0
症例数		88	120	111	96	107	139	145	29
甲状腺	男	73.9	54.1	47.5	54.1	51.0	79.4	71.4	100.0
	女	75.7	82.8	70.3	87.3	82.8	91.1	87.3	82.5
	計	75.3	76.1	64.3	80.3	75.1	89.2	83.4	85.5
症例数		32	43	65	150	212	187	289	86
リンパ腫	男	19.2	51.0	46.3	48.3	45.9	51.3	54.6	61.1
	女	25.8	52.3	44.3	35.5	52.3	67.5	70.4	76.4
	計	21.5	51.5	45.6	43.7	48.4	58.0	60.9	68.1
症例数		78	74	54	68	40	33	61	19
白血病	男	0.0	5.0	10.1	11.0	23.4	33.0	25.7	11.8
	女	0.0	3.2	17.5	14.1	12.7	35.2	30.8	34.6
	計	0.0	4.2	13.4	12.3	19.4	33.9	27.9	23.3

※このグラフは、169、170ページのデータをもとに作成しています。

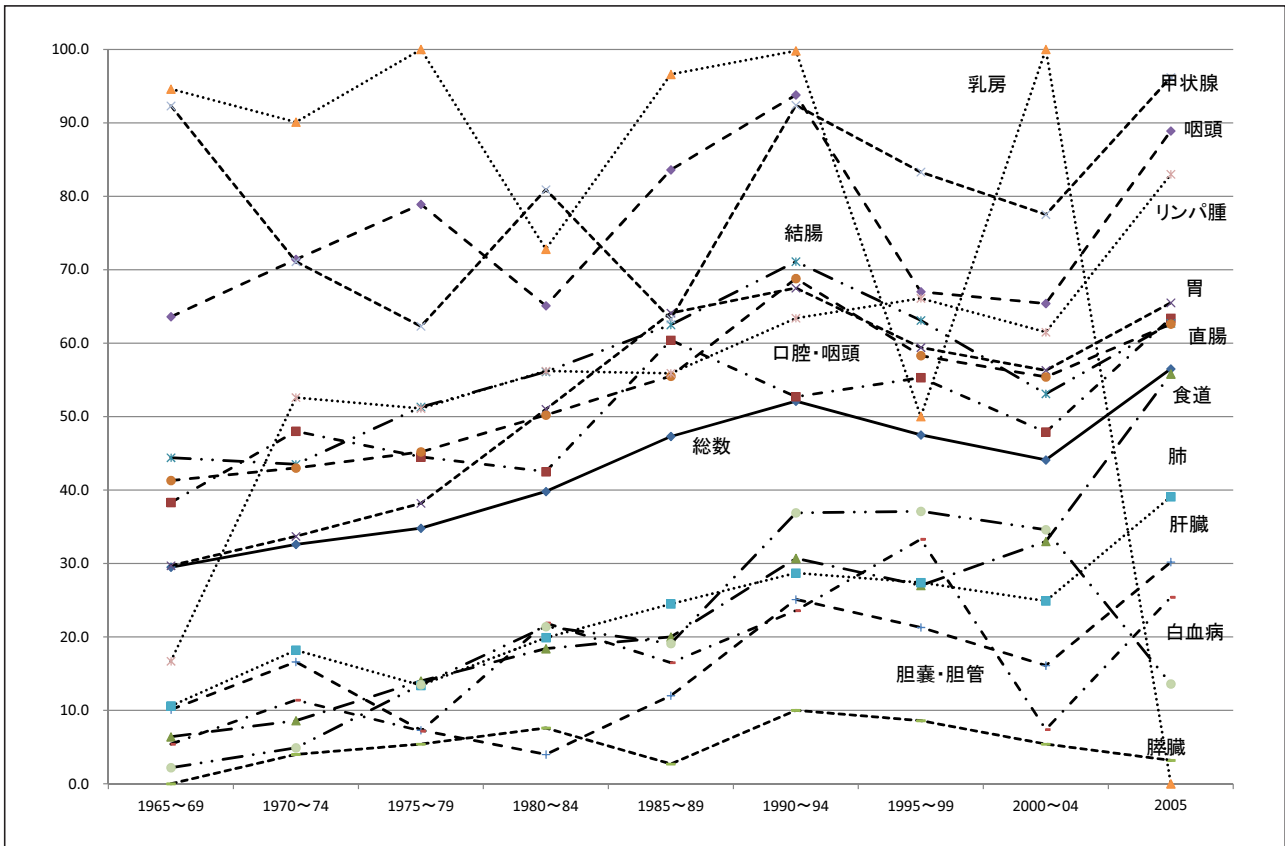
主要部位別 5年生存率（統計）



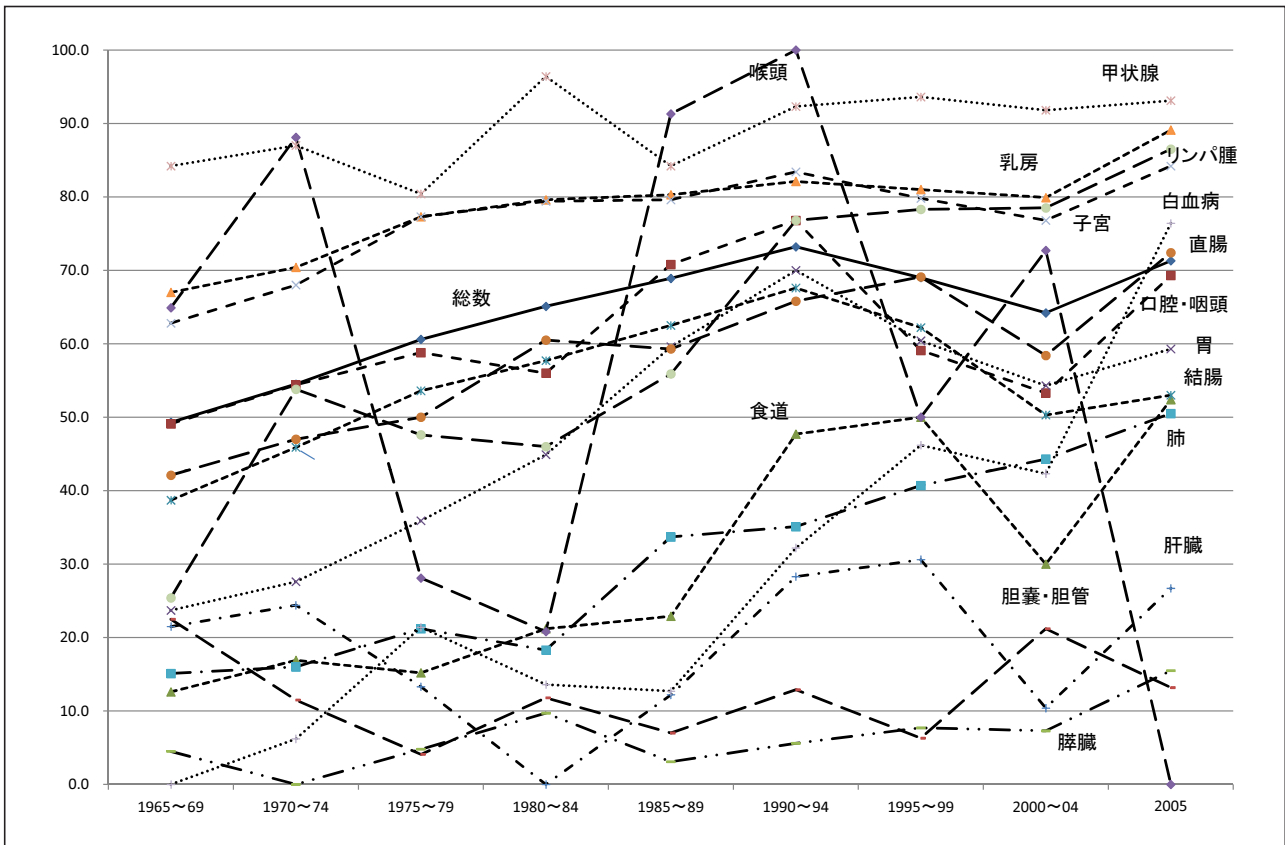
主要部位別 10年生存率（統計）



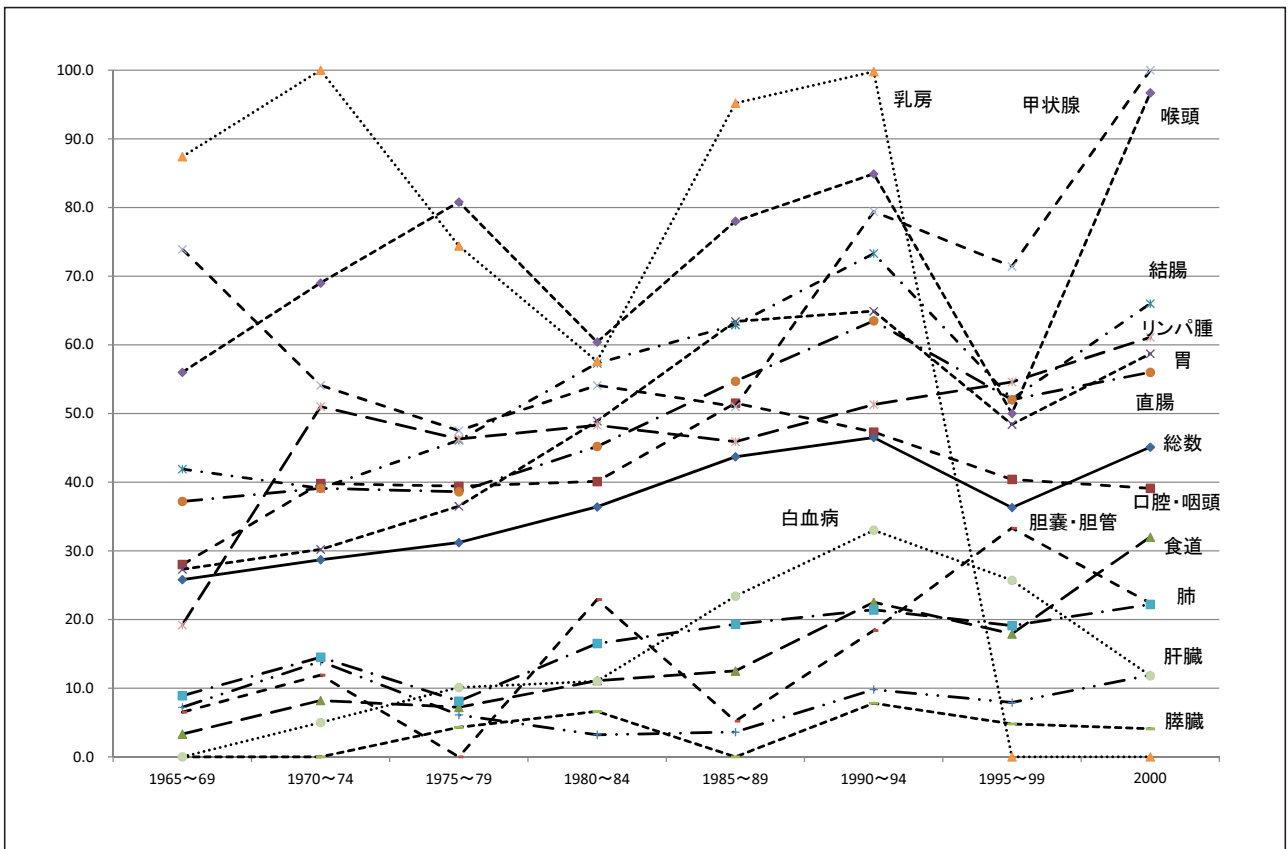
主要部位別 5年生存率（男計）



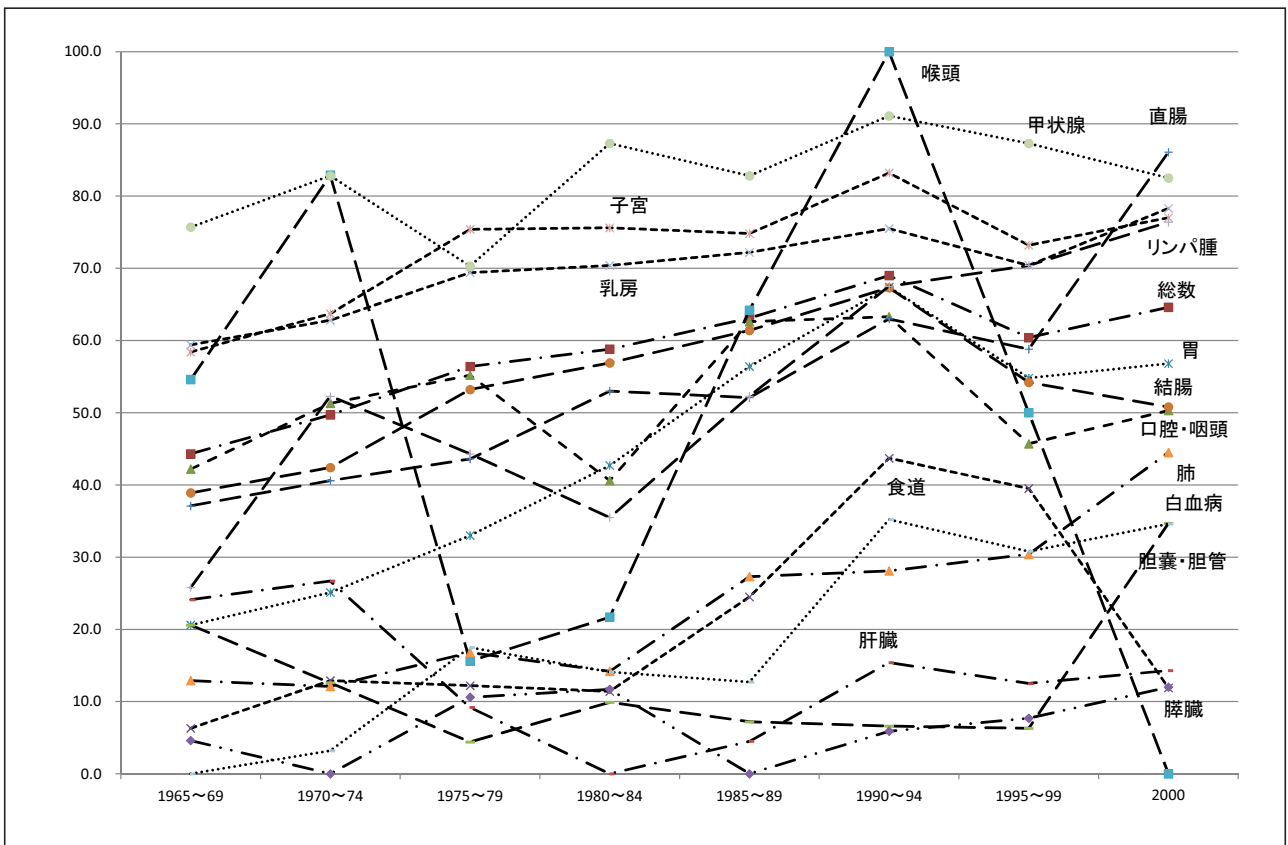
主要部位別 5年生存率（女計）



主要部位別 10年生存率（男計）



主要部位別 10年生存率（女計）



(参考) 23年度決算及び22年度類似病院比較(平成22年度地方公営企業年鑑より)

項 目	平成23年度					平成22年度				
	愛知県・がん	順位	宮城・がん	埼玉・がん	千葉・がん	神奈川・がん	静岡・がん	兵庫・がん	兵庫・がん	
稼動状況										
病床利用率	(%)	84.6	4	75.5	89.3	82.5	76.0	88.3	85.9	
平均在院日数(一般)	(日)	15.1	4	18.0	15.2	13.6	14.9	13.1	16.4	
1日平均外来患者数	(人)	616	4	296	790	453	702	927	598	
外来入院患者比率	(%)	99.7	—	68.1	147.2	129.7	148.1	122.8	115.8	
収益状況										
入院患者1人1日当たり診療収入	(円)	50,570	6	45,326	52,882	55,073	56,728	56,074	51,193	
外来患者1人1日当たり診療収入	(円)	27,581	4	23,117	21,697	31,422	22,513	29,171	32,157	
医師1人1日当たり診療収入	(円)	317,548	2	281,819	637,011	296,084	265,226	259,981	267,770	
看護職員1人1日当たり診療収入	(円)	71,270	6	65,165	99,067	94,833	90,330	80,345	84,705	
検査技師年間1人当たり検査収入	(千円)	27,671	4	22,635	45,188	23,163	23,833	33,168	28,056	
放射線技師年間1人当たり放射線検査収入	(千円)	49,504	2	28,135	83,856	38,912	39,210	48,849	39,137	
繰入金の状況	(千円)	5,402	4	3,875	5,044	7,633	5,557	11,567	2,639	
一般会計繰入金対総収入	(%)	16.7	3	18.2	14.8	20.3	17.7	26.1	8.3	
一般会計繰入金対経常収益	(%)	16.9	3	18.4	14.8	20.3	17.7	26.1	8.3	
経営状況										
経常収支比率	(%)	106.7	2	102.6	104.1	109.5	104.0	104.0	105.1	
医業収支比率	(%)	96.9	3	87.9	91.2	88.0	103.8	82.1	98.7	
修正医業収支比率	(%)	88.3	3	87.9	91.0	88.0	85.7	81.7	98.6	
職員給与対医業収益	(%)	46.1	3	58.4	50.6	54.2	44.3	43.4	47.0	
減価償却費対医業収益	(%)	5.3	4	3.4	6.7	6.4	5.1	12.6	2.4	
病床100床当たり実質損益	(千円)	△326,272	3	△314,497	△369,351	△435,762	△437,459	△1,049,915	△1,111,682	
病床100床当たり純利益(△) 純損益	(千円)	213,941	2	72,982	135,075	327,531	118,192	106,783	152,239	
病床100床当たり概算キャッシュフロー	(千円)	377,047	3	145,036	349,518	520,567	277,453	518,994	233,249	
支払利息対医業収益	(%)	0.9	5	3.5	0.7	0.5	0.5	5.4	0.7	
職員状況										
病床100床当たり医師数	(人)	21.2	4	18.8	19.0	26.7	20.0	34.1	27.2	
病床100床当たり看護部門職員数	(人)	85.8	4	70.2	89.8	82.1	75.2	105.0	90.0	
病床100床当たり事務部門職員数	(人)	9.2	4	6.0	9.5	5.3	6.8	15.3	9.4	
病床100床当たり放射線部門職員数	(人)	4.8	2	4.2	5.8	6.5	7.2	7.4	6.7	
病床100床当たり臨床検査部門職員数	(人)	5.0	2	5.0	9.8	8.5	7.2	6.6	7.3	
病床100床当たり全職員数	(人)	138.0	3	110.7	144.5	147.5	132.1	188.4	155.0	
職員平均年齢	(歳)	37	5	38	40	39	36	36	43	
医師1人当たり平均給与月額	(円)	1,452,173	2	1,261,804	1,280,526	1,515,579	1,178,042	1,435,109	1,125,447	
看護師1人当たり平均給与月額	(円)	436,518	5	431,572	517,899	454,011	498,680	464,490	434,745	
その他医療技術員1人当たり給与月額	(円)	533,916	5	532,161	655,138	573,643	570,931	495,408	587,102	
事務職員1人当たり平均給与月額	(円)	603,326	4	553,059	645,878	614,394	524,158	626,121	567,453	
施設設備	(千円)	30,828	3	33,264	20,729	19,488	—	66,803	16,311	

注：類似病院の計数は「平成21年度地方公営企業決算の状況」報告値を愛知県が独自に集計・分析したものの。

注：左枠外に★印のある項目は、順位が小さい順となっている。

※：キャッシュフロー：純利益(損失) + 減価償却費 + 資産減耗費 + 繰延勘定償却

愛知県がんセンター年報第47号

愛知県がんセンター

名古屋市千種区鹿子殿 1 番 1 号
電話〈052〉762-6111番(〒464-8681)
Home Page: <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>
